

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成19年6月

東京工業高等専門学校



## 目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	5
	基準2 教育組織（実施体制）	5 1
	基準3 教員及び教育支援者	1 1 1
	基準4 学生の受入	1 4 7
	基準5 教育内容及び方法	1 7 7
	基準6 教育の成果	2 9 7
	基準7 学生支援等	3 2 9
	基準8 施設・設備	4 2 7
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	4 6 9
	基準10 財務	5 5 5
	基準11 管理運営	5 8 9



## I 高等専門学校の現況及び特徴

### 1 現況

#### (1) 高等専門学校名

東京工業高等専門学校

#### (2) 所在地

東京都八王子市

#### (3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，電気工学科，電子工学科，情報工学科，物質工学科

専攻科：機械情報システム工学専攻，

電気電子工学専攻，物質工学専攻

#### (4) 学生数及び教員数

(平成19年5月1日現在)

学生数：学 科 1018人

専攻科 58人

専任教員数：80人

助手数：4人（専任教員数に含む）

### 2 特徴

東京工業高等専門学校（以下本校という）は、1965年4月に機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科で発足した。その後、1970年4月には電子工学科、1988年4月には情報工学科が設置され、1993年4月には工業化学科が物質工学科に改組され、現在の5学科体制となった。ものづくり技術者の育成を使命とする本校は、設立当初から、実験実習を重視した教育により、優れたものづくり技術者を育成し、卒業生は、製造業を中心とした産業界をはじめ、社会から高く評価されている。

大学卒業生が「知恵」のみを持ったいわゆる T 型人間であるといわれているのに対し、本校卒業生は「知恵と技」の両方を持ったいわゆる II 型人間である。企業側では、5年間一貫教育を受けて、若くて「知恵と技」の両方を持った実践型のものづくり技術者となる本校卒業生に大きな期待を寄せており、近年の不況にもかかわらず高い求人倍率を維持する要因となっている。

2003年4月には、生産技術・技術開発の場における技術の高度化、多様化、複合化に対応できる人材の育成に対応するため、準学士課程の5年間の上に、専攻科が設置された。以来、より高度な専門の科学技術を身につけた優れたものづくり技術者を育成し、専攻科における特別研究は多くの賞を受賞し、専攻科修了生は、製造業を

中心とした産業界をはじめ社会から高く評価されている。

本校は、国際交流にも力を入れている。1983年には外国人留学生の受け入れを開始し、1984年には大韓民国専門大学研修生の受け入れを開始し、1985年には外国人受託研修員の受け入れを開始した。

さらに、国際交流の一環として学生交流にも力を入れている。本校では、1984年からオーストラリアの大学（Monash University College）と学生交流を実施している。この交流は20名程度の学生が1年おきに互いの学校を訪問しあい、10日間から2週間の日程でホームステイを中心に滞在し、授業や各種行事に参加しながら学生相互の親睦を図るというものである。1999年には、釜山情報大学との国際交流協定が締結され、10名程度の学生が相互訪問し、ホームステイをしながら数日間にわたって交流をし、渡韓の際は研究成果を発表している。さらに、2000年からは、フィンランドの大学（Helsinki Polytechnic）と学術交流をしている。この交流では、毎年数名の学生が来校し、3ヶ月間にわたり卒業研究と同様の研究を行っている。

近年、ゆとり教育の影響から、新入生の学力の低下が顕著になってきた。同時に、中学校を卒業した時点では、自分の適性にあつた志望学科を決めることが難しい状況が生まれてきた。このため、本校では、2005年度からくり相当入試を実施し、2年進級時に学科を選ぶことができる制度を発足させた。1年次は基礎学力の充実を図るための共通教育と共に、各学科の実施するものづくり実験を経験させる。このものづくり実験を経験することにより、学生は、広範な工学分野の基礎実験を経験すると同時に、自分の適性にあつた学科を選択するための情報を得ることができる。さらに、1年生の時期は「自学」「自立」「協同」の態度を養成する為に、授業前の毎日のショートHRなどきめ細かく担任指導を行っている。ショートHRの時間を利用した朝シャド（英語のシャドウイング）も、専攻科修了時のTOEIC550点を目指した取り組みのひとつとして実施されている。

一方、地域社会との連携を図るため、1982年にはソフトエネルギー教育研究施設（現在は2004年に地域連携テクノセンターに改名）が設置され、1993年に技術懇談会を発足させた。本校は研究活動も活発であり、全教員の63.8%が博士号を取得している。

## II 目的

### 1. 東京工業高等専門学校の使命(学則に定められた「目的」)

本校の使命は、学則第1章第1条に「本校は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、かつ、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定められており、専攻科の使命は、学則第10章第43条に「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。」と定められている。

### 2. 教育研究活動を実施する上での基本方針（「本校の教育方針」）

本校では、学則に定められた使命に沿って、豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的のものづくり技術者の育成を目指している。技術者、つまり、エンジニアの語源は、古代ラテン語の「ingenium」であって、これは「天才、創造者」を意味した。中世に「ingeniare」となって、これが英語の「engineer」、ドイツ語の「Ingenieur」、フランス語の「ingenieur」の共通語源となった。英語の「engineer」は英和辞典によると（事の）巧みな処理者、動詞的用法では、事を巧みに処理するとある。したがって、「エンジニア」とは「天才であり、物を創造することのできる人であり、どんな困難なことでも最大の工夫を凝らして巧みに問題を処理できる人となる。そして、そのためには常に自分で生涯学習を続ける人である。」といわれている。

本校では、このような人物を育成するための「教育方針」として、次のことをあげている。「どのような局面にも対応できる柔軟な心といかなる困難も乗り越えうる強固な意志とあらゆる試練に耐えうる健全な身体とを持ちしかも人間として好ましい味と深みのある人柄であり 必要な学問と技術との基礎を充分身につけていて いつでもどこでも自由に应用できる能力があり 長い一生を通じて限りなく伸び続けて行くことのできる潜在力のある人物を育成する」これが、本校の教育研究活動を実施する上での基本方針である。

### 3. 養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等（「学習・教育目標」）

#### 3-1 準学士課程の学習・教育目標

本校準学士課程における教育では、2に掲げた本校の教育方針に基づいて、ものづくりのできる技術者の育成を目的とし、大枠として、次に掲げる特徴を持つ技術者の育成を目標とする。

- (A) 自律的な行動規範を身につけた技術者
- (B) 異文化理解とコミュニケーション能力（国際性と語学力）をもつ技術者
- (C) 基礎学力と専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）を修得し、グループ活動における協調性とリーダーシップを身につけた技術者
- (D) 継続的な自己啓発能力（学び続ける力）を持ち、社会の変化に対応できる力を身につけた技術者

#### 3-2 専攻科課程の学習・教育目標

本校の専攻科は、5年間の準学士課程での教育の基礎の上に立ち、より高度な専門知識および技術を教授し、もって地域社会はもとより国際社会においても活躍できる実践的かつ創造的な技術者の育成を目指し、次の4項目を達成すべき基本的な成果とする。

- (A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機管理・安全確保に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者
- (B) 日本語及び英語によるコミュニケーション力を身につけ、国際的に活躍しうる能力を持った技術者
- (C) 基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者
- (D) 生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者

尚、各専攻ではこれらの学習・教育目標を達成するための、より具体的な目標をかかげている。

## 4. 学科、専攻の教育目標

## 4-1 準学士課程共通教育（一般科目）の教育目標

- (A) 技術者と人や社会との関わり、自国および世界各国の歴史・文化を理解し、地域社会から人類の福祉まで幅広く考える能力を育成する。
- (B) 日本語による論理的な記述力、討議・発表力などのコミュニケーション能力、ならびに英語によるコミュニケーション基礎力を育成する。
- (C) コンピュータ利用技術、応用数学、応用物理、専門領域に関する基礎知識を身につけ、それらを応用する能力を育成する。
- (D) 自主的・継続的に学習し、将来にわたって自己のレベルを絶えず向上させることのできる能力を育成する。
- (E) 健康管理ができる能力を育成する。
- (F) 与えられた課題に対し、与えられた制約のもとに、計画的に実験、研究などの作業を進め、期限までにまとめる能力を育成する。

## 4-2 機械工学科の教育目標

- (A) 機械工学に関わる基礎学力を備え、現実の問題に応用することができる能力を育成する。
- (B) 機械システムの発案から設計および製作までを行うことができる能力を育成する。
- (C) 機械工学と電子・情報工学の両者に関わる基礎学力にもとづいて、メカトロニクスを体現した機械システムを設計・製作できる能力を育成する。

## 4-3 電気工学科の教育目標

- (A) 電磁気学、電気回路、デジタル回路、情報・通信、電子物性・デバイス、エネルギー・制御とそれらの応用分野に関する専門知識を習得し、それらを問題解決に応用できる能力を育成する。
- (B) 電気工学とそれを利用したシステムに関する専門知識を習得し、システムの経済性、信頼性、社会および環境への影響を配慮しながらシステムの課題に取り組む能力を育成する。
- (C) 「ものづくり」の視点から、効果的に、電気工学に必要な実験技術を習得させる。

## 4-4 電子工学科の教育目標

- (A) 「読み・書き・計算」の基本的スキルの育成を重視し、講義や演習、実験・実習での反復練習を通して基礎学力を養い、自然科学や電子工学の基礎を修得できる。
- (B) 「ものづくり」という視点をとり入れ、自ら設計・製作に必要な電子工学の基礎知識を調査し、根気強く学習に取り組む姿勢を身につけ、基本的な実験技術を修得できる。
- (C) 「材料・デバイス」、「回路・通信」、「情報・制御」の基礎知識を習得できる。

## 4-5 情報工学科の教育目標

- (A) コンピュータ・ネットワーク利用に関する幅広い知識を身に付け、様々な機器・ソフトに柔軟に対応できる技術者を育成する。
- (B) 情報通信技術の細部にわたる基本動作原理の習得により、最先端技術の本質的原理をより深い専門的立場で理解できる能力を身に付けた技術者を育成する。
- (C) 基礎数学を基盤とした制御理論の役割を理解し、それらを様々な開発機器に応用できる技術者を育成する。
- (D) 情報工学における知識情報分野の重要性と社会に与える影響力を理解し、それらの基礎技術を様々な開発分野に応用できる技術者を育成する。

## 4-6 物質工学科の教育目標

- (A) 化学及び化学技術に関する基礎学力及び応用能力を身につける。
- (B) 洞察力と研究心に裏打ちされた優れた実験技術を身につける。
- (C) 化学技術や化学物質が地球環境や社会に及ぼす影響を理解し、技術者としての責任を自覚できる。





### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点到に係る状況)

開校(1965年)以来、本校の使命は学則に定められ、学生便覧にも記載されている(資料1-1-①-1)。ものづくり技術者の育成を使命とする本校は、設立当初から、実験実習を重視した教育により、優れたものづくり技術者を育成し、卒業生は、製造業を中心とした産業界をはじめ、社会から高く評価されている。

専攻科設立時(2003年)に専攻科の使命も学則に定められ、学生便覧にも記載されている(資料1-1-①-1)。この使命に基づき、5年間の準学士課程における教育の基礎の上に、より高度な専門の科学技術を身につけた優れたものづくり技術者を育成し、修了生は、製造業を中心とした産業界をはじめ、社会から高く評価されている。

教育研究活動を実施する上での基本方針については、「本校の教育方針」として、初代校長直筆の書を学生便覧に掲載している(資料1-1-①-2)。「本校の教育方針」の内容に対する解説は、本校の自己点検・評価報告書である「明日を拓く指標」(現地閲覧資料6)のp2に記載されているが、一言で言うと、「豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的ものづくり技術者の育成」である。「本校の教育方針」の内容を若い学生にわかりやすく書いたものが、学生便覧に記載されている「本校の目的」と「養成する人材」である。

養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等については、学生が理解しうるような明確なものとする目的で、「創成型工学教育プログラムの学習・教育目標」(資料1-1-①-3)として成文化され(2004年)学生に周知されている。これは専攻科の学習・教育目標である。準学士課程の学習・教育目標は、2006年成文化され、2007年度以降のシラバスに掲載されている(資料1-1-①-4)。準学士課程の学習・教育目標と専攻科課程の学習・教育目標を比較すると、共に本校の基本方針に沿ったものであるが、専攻科課程の学習・教育目標は、準学士課程の学習・教育目標で達成した成果を踏まえ、更に精深なものとすると同時に、境界領域への関心をはぐくむものとなっている(資料1-1-①-5)。これらの学習・教育目標は伝統と建学の精神を考慮しさらに発展させたものである。

以上のような全学的な目的を達成するために、1年生(混合学級)の教育目標、各学科の教育目標、各専攻の教育目標が定められ、教育便覧および専攻科履修要覧に記載されている(資料1-1-①-6)。また、一般科目、および専攻科の専門共通科目が担う学習・教育目標は、準学士課程の学習・教育目標の(A)、(B)、C-1、C-2、C-4、C-5、D-1、D-2、D-3と準学士課程の学習・教育目標の(A)、(B)、C-1、C-2、C-4、C-5、D-1、D-2、D-3、D-4であり、各学科・各専攻の教育目標は、これら共通の教育目標は当然のこととして記載していないことがある。なお、各学科と一般科目の教育理念についての詳細な解説は、「明日を拓く指標第2号」(現地閲覧資料7)のp10~p35に記載されている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の使命は、開校以来、学則に明確に定められている。専攻科の使命も、専攻科設置以来、学則に明確に定められている。また、本校の教育研究活動を実施する上での基本方針は、初代校長により「本校の教育方針」として定められ、学生便覧に記載されている。さらに、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等は「学習・教育目標」として明確に定められ、シラバスに記載されている。準学士課程の学習・教育目標と専攻科課程の学習・教育目標は共に本校の基本方針に沿ったものであるが、専攻科課程の学習・教育目標は、準学士課程の学習・教育目標で達成した成果を踏まえ、更に精深なものとすると同時に、境界領域への関心をはぐくむものとなっている。

以上により、目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められている。

資料 1-1-①-1

## 東京工業高等専門学校学則

制 定 平成 4 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 19 年 4 月 1 日

## 第 1 章 目的及び自己評価等

(目的)

第 1 条 本校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、かつ学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(自己点検評価等)

第 1 条の 2 本校はその教育水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制等については、別に定める。

## 第 2 章 修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻

(修業年限)

第 2 条 修業年限は、5 年とする。

(学年)

第 3 条 学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(学期)

第 4 条 学年を分けて、次の 2 学期とする。

前期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで

後期 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

(休業日)

第 5 条 休業日は、次のとおりとする。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることがある。

(1) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

(2) 土曜日及び日曜日

(3) 開校記念日 4 月 26 日

(4) 春季休業

(5) 夏季休業

(6) 冬季休業

(7) 学年末休業

2 前項第 4 号から第 7 号に規定する休業日の終始及び臨時の休業日は、校長がその都度定める。

(授業の終始時刻)

第 6 条 授業終始の時刻は、校長が定める。

## 第 3 章 学科、学級数、入学定員及び教職員組織

(学科、学級数、入学定員)

第 7 条 学科、学級数、入学定員は次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40 人
電気工学科	1	40 人
電子工学科	1	40 人
情報工学科	1	40 人
物質工学科	1	40 人

## 資料 1-1-①-1

長は教育研究に支障がないと認められる場合には、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関する事項は、別に定める。

(聴講生)

第40条 本校の授業科目のうち、特定の科目について聴講を志願する者がいるときは、校長は教育研究に支障がないと認められる場合には、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生に関する事項は、別に定める。

(特別聴講生)

第40条の2 学校間における単位互換協定に基づいて、本校が開設する授業科目について聴講を志願する者がいる場合には、本校の教育に支障がない場合に限り、選考の上、特別聴講生として入学を許可することがある。

2 特別聴講生に関する事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第41条 本校の授業科目のうち、特定の科目について履修を志願する者がいるときは、校長は教育研究に支障がないと認められる場合には、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 校長は、科目等履修生に対し、単位の修得を認定することができる。

3 科目等履修生に関する事項は、別に定める。

## 第10章 専攻科

(設置)

第42条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

第43条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。

(専攻と入学定員)

第44条 専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員
機械情報システム工学専攻	8人
電気電子工学専攻	8人
物質工学専攻	4人

(出典 東京工業高等専門学校学生便覧)

資料 1-1-①-2

## 本校の教育方針

どのような局面に対処できる柔軟な心と  
いかなる困難も乗り越える強固な意志と  
あらゆる試練に耐える健全な身体とを持ち  
しかも人間として好ましい味と深みのある  
人柄であり 必要な学問と技術との  
基礎を充分身につけていて いつでもどこでも  
自由に応用できる能力があり 長い一生  
を通じて限りなく伸び続け行くことのできる  
潜在力のある人物を育成する

初代校長 岡 俊 平

この教育方針は、本校初代校長岡俊平先生が、技術者に教養が重要であるとして、掲げられたものです。本校では、その先駆的な教えを現在でも大切にしています。

(出典 学生便覧)

## 東京高専の学習・教育目標と教育プログラムについて

### 1. はじめに

今日、産業技術のあらゆる分野において国際化、融合化・複合化が急ピッチで進展しています。そのために、境界領域に関心を持ち、独創的なシステムをデザインできる、国際感覚豊かな、ものづくりを志向する技術者が求められています。本校専攻科設立時のコンセプトが、まさに国際性をもち、複合・融合分野に対応できる、ものづくり志向の技術者の育成でした。そこで本校では、主として本科4年次から専攻科2年次までの4年間に相当する学習・教育に対し、一貫した教育プログラムとして創成型工学教育プログラム(The Program of Creative Engineering Education)を設定し、国際化・複合化に対応できるものづくり技術者教育を行っています。

### 2. 学習・教育目標

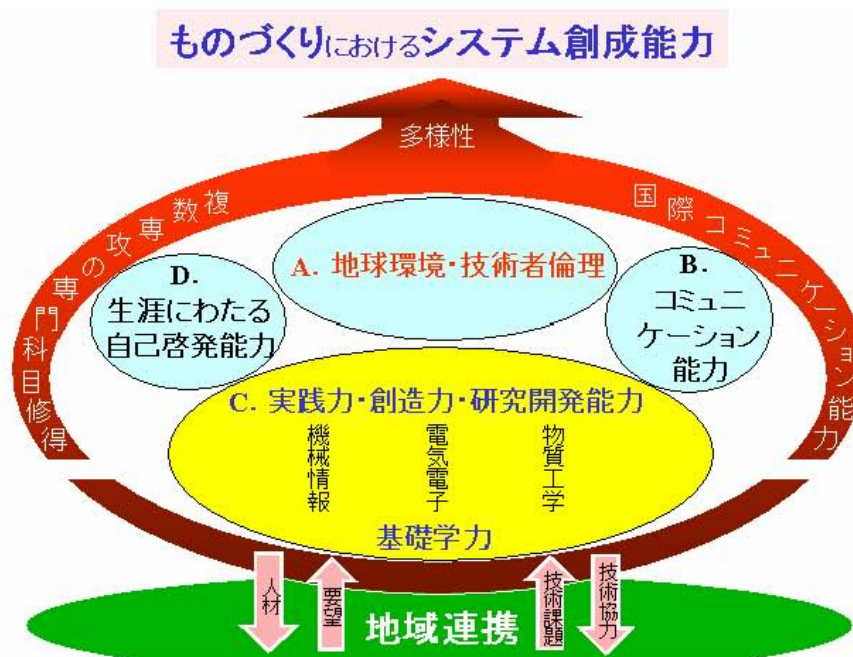
本教育プログラムの教育目標の大枠は次の(A)~(D)に示された国際化・複合化に対応できるものづくり技術者の育成です。

- (A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機管理・安全確保に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者
- (B) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際的に活躍しうる素養を持った技術者
- (C) 基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者
- (D) 生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者

これらに専攻科設立時のコンセプトを合わせ模式的に表すと、次のようになります。

(出典 専攻科履修要覧)

資料1-1-①-3



具体的には、次の (A) A-1~A-4, (B) B-1~B-6, (C) C-1~C-14, (D) D-1~D-5, に示された能力を身に付けた技術者の育成が本教育プログラムの教育目標です。創成型工学教育プログラムの学生は (A) A-1~A-4, (B) B-1~B-6, (C) C-1~C-14, (D) D-1~D-5 に示された能力を身につけた技術者となることを目標として日々の学習に励んでください。

(A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機管理・安全確保に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者

A-1 技術が地球環境や社会に与える影響を理解することができる。また、安全確保への具体的方法を理解することができる。

A-2 関連する法令の基礎を理解し、法令を遵守することの重要性を説明することができる。

A-3 技術者に求められる倫理の重要性および倫理上の問題を解決する手段を具体的に理解し、説明することができる。

A-4 組織として活動するために必要な基本的な知識を持ち、組織で働く時の使命、責任および倫理に関する問題を理解することができる。

(B) 日本語及び英語によるコミュニケーション力を身につけ、国際的に活躍しうる能力を持った技術者

(出典 専攻科履修要覧)

## 資料1-1-①-3

- B-1 共通の目標達成のために協調することができる。
- B-2 文章や口頭発表等により、社会や文化等に関する事象や考え方を論理的に提示することができる。その際、相手の状況を理解し、適切な内容とすることができる。
- B-3 業務を遂行する上で必要な基礎的英語力を持っている。(注)TOEICの点数は表に記載
- B-4 英語で書かれたマニュアルを読むことができる。
- B-5 専門技術について、英語で説明することができる。

## (C) 基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者

- C-1 基本的な数学を理解し、自然科学へ応用することができる。
- C-2 基本的なシステムの設計手法を理解し、必要な仕様を満足する設計をすることができる。
- C-3 グラフ作成やプレゼンテーションに必要なソフトウェアを使いこなすことができ、必要な情報を得るための情報源を見つけ出すことができる。
- C-4 バイオや化学についての基礎知識を身につけ、応用することができる。
- C-5 力学など物理学の基本法則を理解し種々の問題に応用できる。
- C-6 各専攻において必要とする専門工学の基礎知識を身につけ、応用することができる。なお、専門工学の基礎知識は各専攻ごとに以下のように定められている。
  - C-6-AS 機械情報システム工学専攻の場合：  
次のうち4項目以上の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。  
力学系科目、設計科目、メカトロニクス、加工製作、  
情報通信工学、知識工学、信号処理、制御工学、
  - C-6-AE 電気電子工学専攻の場合：  
次の2項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。  
電磁気学、電気回路
  - C-6-AC 物質工学専攻の場合：  
次の項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。  
無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学、量子化学、  
材料化学、高分子化学、生物学
- C-7 必要なデータを得るための実験・計測を計画することができる。
- C-8 データ分析のための統計的処理を行い、データの信頼性を評価し、得られたデータから合理的な結論を導き出すことができる。
- C-9 指定されたコストで必要な仕様を満足するための設計をすることができる。
- C-10 問題を抽出し解決策を提案することができる。提案された解決策を合理的に評価することができる。

(出典 専攻科履修要覧)



資料1-1-①-3

C-11 チームで問題解決を行うとき、チームにおける責任と義務を自覚し、状況に応じてさまざまな役割を果たすことができる。指定された期間内に課題を解決するための計画を立てることができる。

C-12 計画の進行状況に応じた適切な対応を行うことができる。

C-13 実際に物に触れることを通して、ものづくりの喜びを感じることができる。

C-14 専門分野以外の工学の基礎を身に付け応用することができる、

(D) 生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者

D-1 健全な心身を維持するための自己管理能力を備え、健康的な生活を送ることができる。

D-2 思いやりと公正さをもって、競争に参加することができる。

D-3 政治、経済、社会についての基礎的知識を持ち、社会の変化に対応した情報収集能力を示すことができる。

D-4 能力向上や資格取得等に向けた自己啓発を継続することができる。

D-5 社会状況を把握し、現代の技術的課題に関心を持ち、自分なりの解決策をデザインすることができる。

(出典 専攻科履修要覧)

## 資料1-1-①-4

## 準学士課程 学習・教育目標

本稿の教育目標の大枠は、次の(A)～(D)に示された創造力・実践力・応用力をもつ技術者の育成である。

- (A) 自律的な行動規範を身につけた技術者
- (B) 異文化理解とコミュニケーション能力（国際性と語学力）をもつ技術者
- (C) 基礎学力と専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）を修得し、グループ活動における協調性とリーダーシップを身につけた技術者
- (D) 継続的な自己啓発能力（学び続ける力）を持ち、社会の変化に対応できる力を身につけた技術者

この教育目標を達成するため、次の(A)A-1～A-4, (B)B-1～B-3, (C)C-1～C-13, (D)D-1～D-4 に示された能力を身に付けた技術者の育成を目指している。本校の準学士課程学生は、これらの能力を身につけた技術者になるよう、日々の学習に励んでください。

## (A) 自律的な行動規範を身につけた技術者

- A-1
- A-2 関連する基礎的な法令の重要性を理解することができる。
- A-3 技術者に求められる倫理を理解することができる。
- A-4 組織としての活動をするために必要な基本的な知識を理解し、組織で働く時の使命および責任について理解することができる。

## (B) 異文化理解とコミュニケーション能力（国際性と語学力）をもつ技術者

- B-1 共通の目標達成のために協調することができる。
- B-2 現象や考え方を理論的にプレゼンテーションすることができる。
- B-3 基礎的な英語力を持っている。
- B-4
- B-5

## (C) 基礎学力と専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）を修得し、グループ活動における協調性とリーダーシップを身につけた技術者

- C-1 基本的な数学を理解し、自然科学へ応用することができる。
- C-2 基本的なシステムの設計手法を理解し、仕様に基づく設計ができる。
- C-3 グラフ作成やプレゼンテーションに必要なソフトウェアを使いこなすことができる。
- C-4 化学についての基礎知識を身につけ、応用することができる。
- C-5 基礎的な物理学の基本法則を理解し、種々の問題に応用できる。
- C-6 各学科において必要とする専門工学の基礎知識を身につけ応用することができる。なお、専門工学の基礎知識は各学科ごとに以下のように定められている。
  - C-6-M 機械工学科の場合：
    - 次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。
    - 力学系科目、設計科目、メカトロニクス、加工製作
  - C-6-E 電気工学科の場合：
    - 次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。

(出典 東京工業高等専門学校学生集会資料)

## 資料1-1-①-4

- 電磁気学, 電気回路"
- C-6-D 電子工学科の場合:  
次の工学基礎知識を身につけ, 応用することができる.  
電磁気学, 電気回路"
- C-6-J 情報工学科の場合:  
次の工学基礎知識を身につけ, 応用することができる.  
制御情報, 情報通信, 知識情報
- C-6-C 物質工学科の場合:  
次の工学基礎知識を身につけ, 応用することができる.  
無機化学, 有機化学, 物理化学, 分析化学, 化学工学,  
量子化学, 材料化学, 高分子化学, 生物化学
- C-7 必要なデータをえるための実験・計測を実施することができる.
- C-8 初歩的な統計処理によってデータ解析を行い, 得られた結果の分析と考察ができる
- C-9 あらかじめ指定されたコストを考慮にいて, 要求仕様を満たすための設計ができる.
- C-10 問題を抽出し, 解決策を提案することができる.
- C-11 チームで問題解決を行うとき, チームにおける役割を自覚し, 与えられた任務を指定された期間内に計画を立てて遂行することができる.
- C-12 計画な進行状況に応じて臨機応変に対応することができる.
- C-13 実際に物に触れることを通して, ものづくりの喜びを感じることができる.
- C-14
- (D) 継続的な自己啓発能力 (学び続ける力) を持ち, 社会の変化に対応できる力を身につけた技術者
- D-1 健全な心身を維持するため, 健康的な生活を送ることができる.
- D-2 思いやりの心をもって, 競争に参加することができる.
- D-3 政治・経済, 社会について常識的な知識をもち, 社会の変化に対応した情報収集ができる.
- D-4
- D-5 社会状況を把握し, 技術的課題に関心を持ち, 自分の意見を示すことができる.

(出典 東京工業高等専門学校学生集会資料)

学習教育目標

JABEE目標		進学士課程	
本校の教育目標は次の(A)～(D)に示された国際化・複合化に対応できるものづくり技術者の育成です。		本校の教育目標の大半は、次の(A)～(D)に示された創造力・実践力・応用力をもつ技術者の育成である。	
(A)	技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機・安全に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者	(A)	自律的な行動規範を身につけた技術者
(B)	日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際的に活躍しうる素養を持った技術者	(B)	異文化理解とコミュニケーション能力（国際性と語学力）をもつ技術者
(C)	基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者	(C)	基礎学力と専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）を修得し、グループ活動における協調性とリーダーシップを身につけた技術者
(D)	生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者	(D)	継続的な自己啓発能力（学び続ける力）を持ち、社会の変化に対応できる力を身につけた技術者
この教育目標に従い、本教育プログラムでは、次の(A) A-1～A-5、(B) B-1～B-5、(C) C-1～C-14、(D) D-1～D-5に示された能力を身に付けた技術者の育成を目指しています。創成型工学教育プログラムの学生は(A) A-1～A-5、(B) B-1～B-5、(C) C-1～C-14、(D) D-1～D-5に示された能力を身につけた技術者となることを目標として日々の学習に励んでください。		この教育目標を達成するため、次の(A) A-1～A-5、(B) B-1～B-5、(C) C-1～C-14、(D) D-1～D-5に示された能力を身に付けた技術者の育成を目指している。本校の進学士課程学生は、これらの能力を身に付けた技術者になるよう、日々の学習に励んでください。	
JABEE目標		進学士課程	
(A)	技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機・安全に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者	(A)	自律的な行動規範を身につけた技術者
A-1	技術が地球環境や社会に与える影響を理解することができる。また、安全確保への具体的方法を理解することができる。	A-1	カット
A-2	関連する法令の基礎を理解し、法令を遵守することの重要性を説明することができる。	A-2	関連する基礎的な法令の重要性を理解することができる。
A-3	技術者に求められる倫理の重要性および倫理上の問題を解決する手段を具体的に理解し、説明することができる。	A-3	技術者に求められる倫理を理解することができる。
A-4	組織として活動するために必要な基本的な知識を持ち、組織で働く時の使命、責任および倫理に関する問題を理解することができる。	A-4	組織としての活動をするために必要な基本的な知識を理解し、組織で働く時の使命および責任について理解することができる。

(注) 編 号 詳 細 参 照

JABEE目標		進学士課程
(B)	日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身に付け、国際的に活躍しうる素養を持った技術者	異文化理解とコミュニケーション能力（国際性と語学力）をもつ技術者
	B-1 共通の目標達成のために協調することができる。	B-1 共通の目標達成のために協調することができる。
	B-2 現象や考え方を論理的にプレゼンテーションすることができる。その際、相手の状況を理解し、適切な内容とすることができる。	B-2 現象や考え方を論理的にプレゼンテーションすることができる。
	B-3 業務を遂行する上で必要な基礎的英語力を持っている。	B-3 基礎的な英語力を持っている。
	B-4 英語で書かれたマニュアルを読むことができる。	B-4 カット
	B-5 専門技術について、英語で説明することができる。	B-5 カット
JABEE目標		進学士課程
(C)	基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者	基礎学力と専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）を修得し、グループ活動における協調性とリーダーシップを身につけた技術者
	C-1 基本的な数学を理解し、自然科学へ応用することができる。	C-1 基本的な数学を理解し、自然科学へ応用することができる。
	C-2 基本的なシステムの設計手法を理解し、必要な仕様を満足する設計をすることができる。	C-2 基本的なシステムの設計手法を理解し、仕様に基づく設計ができる。
	C-3 グラフ作成やプレゼンテーションに必要なソフトウェアを使いこなすことができ、必要な情報を見つけ出すことができる。	C-3 グラフ作成やプレゼンテーションに必要なソフトウェアを使いこなすことができる。
	C-4 バイオや化学についての基礎知識を身に付け、応用することができる。	C-4 化学についての基礎知識を身に付け、応用することができる。
	C-5 力学など物理学の基本法則を理解し種々の問題に活用できる。	C-5 基礎的な物理学の基本法則を理解し、種々の問題に活用できる。
	C-6 各専攻において必要とする専門工学の基礎知識を身に付け、応用することができる。なお、専門工学の基礎知識は各専攻ごとに以下のように定められている。	C-6 各学科において必要とする専門工学の基礎知識を身に付け応用することができる。なお、専門工学の基礎知識は各学科ごとに以下のように定められている。

(注) 編訂時改訂前

C-6-M	<p>機械工学科の場合： 次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。 力学系科目、設計科目、メカトロニクス、加工製作</p>
C-6-E	<p>電気工学科の場合： 次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。 電磁気学、電気回路</p>
C-6-D	<p>電子工学科の場合： 次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。 電磁気学、電気回路</p>
C-6-J	<p>情報工学科の場合： 次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。 制御情報・情報通信・知識情報</p>
C-6-C	<p>物質工学科の場合： 次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。 無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学、量子化学、材料化学、高分子化学、生物化学</p>
C-7	<p>必要なデータをえるための実験・計測を実施することができる。</p>
C-8	<p>初歩的な統計処理によってデータ解析を行い、得られた結果の分析と考察ができる</p>
C-9	<p>あらかじめ指定されたコストを考慮にいれて、要求仕様を満たすための設計ができる。</p>
C-10	<p>問題を抽出し、解決策を提案することができる。</p>

C-6-AS	<p>機械情報システム工学専攻の場合： 次のうち4項目以上の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。 力学系科目、設計科目、メカトロニクス、加工製作、情報通信工学、知識工学、信号処理、制御工学</p>
C-6-AE	<p>電気工学専攻の場合： 次の2項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。 電磁気学、電気回路</p>
C-6-AC	<p>物質工学科の場合： 次の項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。 無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学、量子化学、材料化学、高分子化学、生物学</p>
C-7	<p>必要なデータを得るための実験・計測を計画することができる。</p>
C-8	<p>データ分析のための統計的処理を行い、データの信頼性を評価し、得られたデータから合理的な結論を導き出すことができる。</p>
C-9	<p>指定されたコストで必要な仕様を満足するための設計をすることができる。</p>
C-10	<p>問題を抽出し解決策を提案することができる。提案された解決策を合理的に評価することができる。</p>

(出典 運営協議資料)

C-11	チームで問題解決を行うとき、チームにおける責任と義務を自覚し、状況に応じてさまざまな役割を果たすことができる。指定された期間内に課題を解決するための計画を立てることができる。	C-11	チームで問題解決を行うとき、チームにおける役割を自覚し、与えられた任務を指定された期間内に計画を立てて遂行することができる。
C-12	計画の進行状況に応じた適切な対応を行うことができる。	C-12	計画な進行状況に応じて臨機応変に対応することができる。
C-13	実際に物に触れることを通して、ものづくりの喜びを感じることができる。	C-13	実際に物に触れることを通して、ものづくりの喜びを感じることができる。
C-14	専門分野以外の工学の基礎を身に付け応用することができる。	C-14	カット

JABEE目標		進学士課程	
(D)	生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者	(D)	継続的な自己啓発能力（学び続ける力）を持ち、社会の変化に対応できる力を身につけた技術者
D-1	健全な心身を維持するための自己管理能力を備え、健康的な生活を送ることができる。	D-1	健全な心身を維持するため、健康的な生活を送ることができる。
D-2	思いやりと公正さをもって、競争に参加することができる。	D-2	思いやりの心をもって、競争に参加することができる。
D-3	政治、経済、社会についての基礎的知識を持ち、社会の変化に対応した情報収集能力を示すことができる。	D-3	政治・経済、社会について常識的な知識をもち、社会の変化に対応した情報収集ができる。
D-4	自主的、継続的に各種資格取得を目指すし、自己啓発を続けることができる。	D-4	カット
D-5	社会状況を把握し、現代の技術的課題に関心をもち、自分なりの解決策をデザインすることができる。	D-5	社会状況を把握し、技術的課題に関心をもち、自分の意見を示すことができる。

資料 1 - 1 - ① - 5

(出典 運営会議資料)







資料 1-1-①-6

## 1. 機械情報システム工学専攻

## (1) 学習・教育目標

機械工学と情報工学の融合専攻として、次の項目から複数の分野に精通する。

- ・ 電気電子分野の知識を総合してメカトロニクス・制御工学分野に応用できる。
- ・ 材料・熱・流体・機械の力学を理解し、応用できる。
- ・ 材料の加工と機械の製作について理解し、応用できる。
- ・ 力学及び加工方法と関連付けを理解し、機械の設計方法を習得する。
- ・ コンピュータを駆使した信号処理・制御工学分野の技術を理解し応用できる。
- ・ 情報通信分野の技術を理解し応用できる。
- ・ コンピュータを駆使した知識工学分野の技術を理解し応用できる。

## 2. 電気電子工学専攻

## (1) 学習・教育目標

- ・ 電磁気学、電気回路、物性物理、工業数学などの専門基礎能力を修得する。
- ・ 材料・デバイスから、回路、信号処理、システムまで体系的な電気電子技術を修得する。
- ・ デバイス試作、機能回路設計、集積回路によるシステム実現など、各レベルでのものづくりを経験する。
- ・ 計算機を用いた電気電子工学の応用技術（LSI 設計、通信システム、制御システム、マルチメディア信号処理など）を修得する。
- ・ 研究発表、実習報告、学会発表などを通して、論理的表現力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を修得する。

## 3. 物質工学専攻

## (1) 学習・教育目標

- ・ 物理化学、量子論、量子化学、高分子化学、化学工学の知識を修得し、応用することができる。
- ・ 材料の開発、環境の保全、生物機能の有効利用等に係わる高度な研究開発能力を修得する。
- ・ 物質工学分野の先端的領域における知識や技術を理解できる能力を身に付ける。

(出典 専攻科履修要覧)

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の使命は、学校教育法第 70 条の 2 「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」を意識して定められている。次に、本校の基本方針(「本校の教育方針」と学校教育法第 70 条の 2 との対応を資料 1-1-②-1 に示す。基本方針は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された「深く専門の学芸を教授し」に対応する部分と「職業に必要な能力を育成する」に対応する部分から構成されている。更に、学習・教育目標と学校教育法との対応表を資料 1-1-②-2 に示す。学習・教育目標も学校教育法第 70 条の 2 の趣旨に沿ったものであることがわかる。

(分析結果とその根拠理由)

本校の使命は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された高等専門学校の目的を意識して定められており、本校の基本方針(「本校の教育方針」)も学校教育法第 70 条の 2 に規定された高等専門学校の目的に沿ったものである。更に、学習・教育目標も学校教育法第 70 条の 2 に規定された高等専門学校の目的を実現する内容である。

以上により、本校の目的は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでない。

資料1-1-②-1

## 本校の教育方針と学校教育法との対応

「深く専門の学芸を教授し」に関する項目	「職業に必要な能力を育成」に関する項目
必要な学問と技術との基礎を十分身に付けている  いつでもどこでも自由に応用できる能力がある	どのような局面にも対処できる柔軟な心といかなる困難も乗り越えうる強固な意志とあらゆる試練に耐えうる健全な身体とをもつ  人間として好ましい味と深みとのある人柄である  長い一生を通じて限りなく伸び続けて行くことのできる潜在力のある人物を育成する

(出典 本校の教育方針に基づく分類)

## 資料 1 - 1 - ② - 2

## 本校の教育目標と学校教育法との対応

	「深く専門の学芸を教授し」に関する項目	「職業に必要な能力を育成」に関する項目
准学士課程	(C) 基礎学力と専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）を修得し、グループ活動における協調性とリーダーシップを身につけた技術者 (D) 継続的な自己啓発能力（学び続ける力）を持ち、社会の変化に対応できる力を身につけた技術者	(A) 自律的な行動規範を身につけた技術者 (B) 異文化理解とコミュニケーション能力（国際性と語学力）をもつ技術者
専攻科	基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者  生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者	技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機・安全に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者  日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際的に活躍しうる素養を持った技術者
低学年共通教育	(C) コンピュータ利用技術、応用数学、応用物理、専門領域に関する基礎知識を身につけ、それらに応用する能力を育成する。 (D) 自主的・継続的に学習し、将来にわたって自己のレベルを絶えず向上させることのできる能力を育成する。 (F) 与えられた課題に対し、与えられた制約のもとに、計画的に実験、研究などの作業を進め、期限までにまとめる能力を育成する。	(A) 技術者と人や社会との関わり、自国および世界各国の歴史・文化を理解し、地域社会から人類の福祉まで幅広く考える能力を育成する。 (B) 日本語による論理的な記述力、討議・発表力などのコミュニケーション能力、ならびに英語によるコミュニケーション基礎力を育成する。 (E) 健康管理ができる能力を育成する。
機械工学科	(A) 機械工学に関わる基礎学力を備え、現実の問題に応用することができる能力を育成する。 (C) 機械工学と電子・情報工学の両者に関わる基礎学力にもとづいて、メカトロニクスを体現した機械システムを設計・製作できる能力を育成する。	(B) 機械システムの発案から設計および製作までを行うことができる能力を育成する。
電気工学科	(A) 電磁気学、電気回路、デジタル回路、情報・通信、電子物性・デバイス、エネルギー・制御とそれらの応用分野に関する専門知識を習得し、それらに問題解決に応用できる能力を育成する。 (C) 「ものづくり」の視点から、効果的に、電気工学に必要な実験技術を習得させる。	(B) 電気工学とそれを利用したシステムに関する専門知識を習得し、システムの経済性、信頼性、社会および環境への影響を配慮しながらシステムの課題に取り組む能力を育成する。
電子工学科	(A) 「読み・書き・計算」の基本的スキルの育成を重視し、講義や演習、実験・実習での反復練習を通して基礎学力を養い、自然科学や電子工学の基礎を修得する。 (C) 「材料・デバイス」、「回路・通信」、「情報・制御」の基礎知識を習得できる。	(B) 「ものづくり」という視点をとり入れ、自ら設計・製作に必要な電子工学の基礎知識を調査し、根気強く学習に取り組む姿勢を身につけ、基本的な実験技術を習得できる。
情報工学科	(A) コンピュータ・ネットワーク利用に関する幅広い知識を身に付け、様々な機器・ソフトに柔軟に対応できる技術者を育成する。 (B) 情報通信技術の細部にわたる基本動作原理の習得により、最先端技術の本質的原理をより深い専門的立場で理解できる能力を身に付けた技術者を育成する。 (C) 基礎数学を基盤とした制御理論の役割を理解し、それらを様々な開発機器に応用できる技術者を育成する。	(D) 情報工学における知識情報分野の重要性と社会に与える影響力を理解し、それらの基礎技術を様々な開発分野に応用できる技術者を育成する。
物質工学科	(A) 化学及び化学技術に関する基礎学力及び応用能力を身につける。 (B) 洞察力と研究心に裏打ちされた優れた実験技術を身につける。	(C) 化学技術や化学物質が地球環境や社会に及ぼす影響を理解し、技術者としての責任を自覚できる。
機械情報システム工学専攻	・ 電気電子分野の知識を総合してメカトロニクス・制御工学分野に応用できる。 ・ 材料・熱・流体・機械の力学を理解し、応用で材料の加工と機械の製作について理解し、応用力学及び加工方法と関連付けを理解し、機械の設計方法を習得する。 ・ コンピュータを駆使した信号処理・制御工学分野の技術を理解し応用できる。 ・ 情報通信分野の技術を理解し応用できる。 ・ コンピュータを駆使した知識工学分野の技術を理解し応用できる。	左記分野の理解を実際の場に応用することができる。
電気電子工学専攻	・ 電磁気学、電気回路、物性物理、工業数学などの専門基礎能力を修得する。 ・ 材料・デバイスから、回路、信号処理、システムまで体系的な電気電子技術を修得する。 ・ デバイス試作、機能回路設計、集積回路によるシステム実現など、各レベルでのものづくりを経験 ・ 計算機を用いた電気電子工学の応用技術（LSI設計、通信システム、制御システム、マルチメディア信号処理など）を修得する。	・ 研究発表、実習報告、学会発表などを通して、論理的表現力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を修得する。
物質工学専攻	・ 物理化学、量子論、量子化学、高分子化学、化学工学の知識を修得し、応用することができる。 ・ 材料の開発、環境の保全、生物機能の有効利用等に依る高度な研究開発能力を修得する。	左記分野の理解を実際の場に応用することができる。  ・ 物質工学分野の先端領域における知識や技術を理解できる能力を身に付ける。

(出典 学習教育目標に基づく分類)

**観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。**

（観点に係る状況）

本校の使命と基本方針（「本校の教育方針」）は学生便覧に記載され（資料 1-1-①-1、資料 1-1-①-2）、学生便覧は、非常勤講師を含む全教職員に配布されている。養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等（学習・教育目標）は、シラバスに記載され（資料 1-1-①-3、資料 1-1-①-6）、全教員と技術室に配布されている。教育研究会においても周知が図られ（資料 1-2-①-1）、さらに、全教職員に学習・教育目標の「しおり」（資料 1-2-①-3）が配布されている。このように、非常勤講師を含む全教職員に対して、目標を周知する取り組みが行われている。

学生に対しても、学生便覧、シラバス、学習・教育目標の「しおり」を配布すると共に、学習・教育目標を説明する機会を設け（資料 1-2-①-2）、教育方針と学習・教育目標の周知を図っている。このように、学生に対しても、目標を周知する取り組みが行われている。

教職員、および、学生に対して実施した、目標の周知の程度を調べるためのアンケート結果を資料 1-2-①-4、資料 1-2-①-5、資料 1-2-①-6、資料 1-2-①-7 に示す。この結果から判断して、目的が本校の教職員に周知されている。また、学生に対しては、周知度が十分とはいえないが、おおむね周知されているといえる。

（分析結果とその根拠理由）

全教職員、学生に対し印刷物（学生便覧、シラバス、学習・教育目標など）を配布するなどして目的の周知を図っており、アンケート結果からも、周知を図る取り組みが成果を挙げていることがわかる。以上により、目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されている。

資料 1-2-①-1

## 平成 18 年度第 9 回 教 育 研 究 会

平成 19 年 1 月 18 日 (木) 16 時 10 分  
1 棟 3 階 会議室

### ・ テーマ

- (1) 校長発言  
「出前授業や公開講座について」
  - (2) 機関別認証評価について
  - (3) 来年度シラバスについて
  - (4) 講演  
推薦入試面接技術に関する講演
  - (5) 都市型 KOSEN 創成 WG 答申
  - (6) 建物改修等について
- 水谷 校長  
津田副校長
- 鈴木認証評価専門委員
- 浅野教務主事補
- 大澤 先生
- 三谷 WG 主査
- 山本会計課長

次回開催予定日

平成 19 年 2 月 8 日 (木) 16:10

(出典 教育研究会資料)

## 認証評価について

2007年1月18日  
認証評価専門委員会

## 目次

1. 認証評価スケジュール
2. 準学士課程の学習・教育目標
3. 認証評価専門委員会
4. 皆様へのお願い

### 1. 認証評価スケジュール

2006年9月	認証評価申請
2006年11月	研修会(自己評価担当者対象)
2007年6月29日	自己評価書提出
2007年9～10月	追加資料等の収集・作成 面談対象者の選定
2007年10～11月	訪問調査

※以降、評価結果の確定作業が年度末まで続く

### 2. 準学士課程の学習・教育目標

#### 【ポイント】

1. 目的に照らしての妥当性を自己評価
2. 達成度が客観的に評価しやすい目標
3. JABEE認定プログラムとの差別化
4. JABEE認定プログラムとの連続性

### 教育便覧掲載の教育目標・教育方針

#### 1. 本校の目的

早期体験重視の教育を通して、創造力・実践力・応用力の備わった技術者を育成する。

#### 2. 養成する人材像

- (1) 技術者としての行動規範(自律的な行動)を身に付け、グループ活動における協働性とリーダーシップを持つ技術者。
- (2) 異文化理解とコミュニケーション能力(国際性と語学力)を持つ技術者。
- (3) 基礎学力と専門分野学力(他分野への応用、問題力、読取力)を修得し、継続的な自己開発の能力(学び続ける力)を持つ技術者。

#### 3. 建学時初代校長の教育方針

興先生の「本校の教育方針」

「どのようなる者にも対応する柔軟な心と、いかなる困難も乗り越え得る力と、あらゆる状況に耐える健全な身体を持つ。しかも人間として時と場合により適切な行動がとれる。必要に応じて責任を果敢と果たすことについて、いつでもどこでも責任を負得る能力があり、素いそいで進んで行く(律)の持たせて行くことのできる確立のある人間を養成する」  
この教育方針は、本校初代校長興俊平先生が、技術者に必要であるとして、掲げられたものです。本校では、その先駆的な教えを現在でも大切にしています。

### 学生便覧掲載の教育目標・教育方針

#### 4. 教務関係

##### (1) 学習上の事情について

##### 1. 教育目標

高専制度は、5年間の一貫教育によって、豊かな教養と高度の専門技術を身につけた技術者を養成することを目標としている。一方、産業界においては、あらゆる分野において、国際化、融合化、複合化が急ピッチで進展している状況から、融合・複合領域に得心を執る、独創的なシステムをデザインできる国際感覚豊かなものづくりを志向とする技術者が求められている。本校では産業界の要望に応えるため、本専攻の教育方針に照らし、次に示す技術者を養成することを教育目標としている。

- (A) モデルを持った技術者
- (B) コミュニケーション能力を持った技術者
- (C) 学力と実践力を修得し、学び続ける技術者
- (D) グループから信頼される技術者

さらに、本校では専攻科が設置され、主に本科4年生、5年生、専攻科1年生、2年生の教育プログラムとして、創成型工学教育プログラム(The Program of Creative Engineering Education)が設定されている。このプログラムについては各学科の授業案内に詳細が掲載されているので、学生諸君には、さらに細分化された教育目標、プログラム修了要件をよく理解し、履修計画を立てて勉学に臨んでいただきたい。



資料 1-2-①-1

学生便覧掲載の教育目標・教育方針

本校の教育方針

どのような局面に対しても柔軟な心で  
いかなる困難も乗り越える強固な意志と  
あらゆる試練に負けない健全な身体と持ち  
しかも人間性に好ましい興味・深さのある  
人柄とあり、必要と学問と技術との  
基礎を充分身につけていて、いつでもどこでも  
自由に応用する能力があり、長い一生  
を通じて限りなく伸び続けたいという  
潜在力のある人物を育成する

初代校長 國 俊 平

この教育方針は、本校初代校長國俊平先生が、技術者に教育が重要であるとして掲げられたものです。本校では、その先駆的な教養を現在でも大切にしています。

J A B E E 認定プログラムの

学習教育目標

- (A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機・安全に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者
- (B) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際的に活躍しうる素養を持った技術者
- (C) 基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者
- (D) 生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者

準学士課程の学習教育目標

- (A) 自律的な行動規範を身につけた技術者
- (B) 異文化理解とコミュニケーション能力（国際性と語学力）をもつ技術者
- (C) 基礎学力と専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）を修得し、グループ活動における協調性とリーダーシップを身につけた技術者
- (D) 継続的な自己啓発能力（学び続ける力）を持ち、社会の変化に対応できる力を身につけた技術者

準学士課程の学習教育目標

EXCELファイル

3. 認証評価専門委員会

委員長 潮先生  
副委員長 鈴木雅  
委員  
一般科目 鈴木(智)先生、清藤先生  
専門科目 森下先生、須原先生、永吉先生、  
（鈴木雅）、中川先生  
基礎教育委員会 竹田先生  
事務組織 庶務課・会計課・学生課

4. 皆様へのお願い

- 13の評価基準ごとに担当委員を決め、取りまとめを行います。
- 根拠資料を揃えるために委員会から作業をお願いすることが多々あります。その際は宜しくお願ひします。

(出典 教育研究会資料)

## 平成19年度 第1回4・5年生、専攻科生学生集会

日 時：平成19年4月19日（木） 13:00～

場 所：第1体育館

13:00～13:05 校歌斉唱

13:05～13:25 校長賞等表彰

13:25～13:50 校長スピーチ

13:50～14:00 認証評価関係説明（鈴木雅人教員）

※ 校長賞等受賞対象者は12:40第1体育館に集合

## 平成19年度 第1回1～3年生学生集会

日 時：平成19年4月12日（木） 13:35～

場 所：第1体育館

13:35～13:40 校歌斉唱

13:40～14:00 校長賞等表彰

14:00～14:20 校長スピーチ

14:20～14:30 認証評価関係説明（鈴木雅人教員）

14:30～14:50 学生会企画

※ 校長賞等受賞対象者は12:40第1体育館に集合

(出典 平成19年度学生集会資料)



(A) 自律的な行動規範を身につけた技術者

A-1 関連する基礎的な法令の重要性を理解することができる。

A-2 関連する基礎的な法令の重要性を理解することができる。

A-3 技術者に求められる倫理を理解することができる。

A-4 組織としての活動をするために必要な基本的な知識を理解し、組織で働く際の使命および責任について理解することができる。

(B) 異文化理解とコミュニケーション能力(国際性と語学力)をもつ技術者

B-1 共通の目標達成のために協調することができる。

B-2 現象や考え方を理論的にプレゼンテーションすることができる。

B-3 基礎的な英語力を持っている。

B-4

B-5

(C) 基礎学力と専門分野学力(ものづくりの知恵、類推力、段取り力)を修得し、グループ活動における協調性とリーダーシップを身につけた技術者

C-1 基本的な数学を理解し、自然科学へ応用することができる。

C-2 基本的なシステムの設計手法を理解し、仕様に基づく設計ができる。

C-3 グラフ作成やプレゼンテーションに必要なソフトウェアを使いこなすことができる。

C-4 化学についての基礎知識を身につけ、応用することができる。

C-5 基礎的な物理学の基本法則を理解し、種々の問題に適用できる。

C-6 各学科において必要とする専門工学の基礎知識を身につけ応用することができる。なお、専門工学の基礎知識は各学科ごとに以下のように定められている。

C-6-M 機械工学科の場合:  
次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。  
力学系科目、設計科目、メカトロニクス、加工製作

C-6-E 電気工学科の場合:  
次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。  
電磁気学、電気回路

C-6-D 電子工学科の場合:  
次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。  
電磁気学、電気回路

C-6-J 情報工学科の場合:  
次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。  
制御情報・情報通信・知識情報

C-6-C 物質工学科の場合:  
次の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。  
無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学、量子化学、材料化学、高分子化学、生物化学

C-7 必要なデータをえるための実験・計測を実施することができる。

C-8 初歩的な統計処理によってデータ解析を行い、得られた結果の分析と考察ができる。

C-9 あらかじめ指定されたコストを考慮にいれて、要求仕様を満たすための設計ができる。

C-10 問題を抽出し、解決策を提案することができる。

C-11 チームで問題解決を行うとき、チームにおける役割を自覚し、与えられた任務を指定された期間内に計画を立てて遂行することができる。

C-12 計画な進行状況に応じて臨機応変に対応することができる。

C-13 実際に物に触れることを通して、ものづくりの喜びを感じるができる。

C-14

(D) 継続的な自己啓発能力(学び続ける力)を持ち、社会の変化に対応できる力を身につけた技術者

D-1 健全な心身を維持するため、健康的な生活を送ることができる。

D-2 思いやりの心をもって、競争に参加することができる。

D-3 政治・経済、社会について常識的な知識をもち、社会の変化に対応した情報収集ができる。

D-4

D-5 社会状況を把握し、技術的課題に関心をもち、自分の意見を示すことができる。

(E) 基礎的な物理学的な問題の解決能力(基礎的な物理学の知識と応用能力)をもつ技術者

E-1 基礎的な物理学の知識を身につけ、応用することができる。

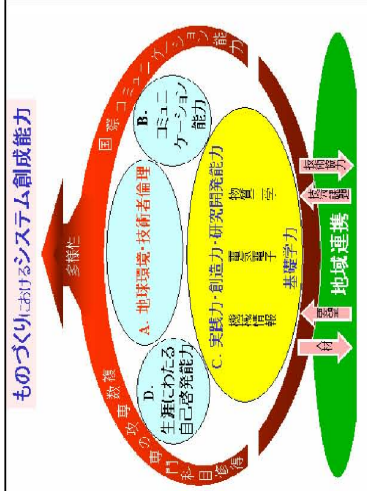
E-2 基礎的な物理学の知識を身につけ、応用することができる。

E-3 基礎的な物理学の知識を身につけ、応用することができる。

E-4

E-5

(注) 説明略記(略)



(B) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身に付け、国際的に活躍しうる素養を持った技術者  
 B-1 共通の目標達成のために協働することができる。  
 B-2 文章や口頭発表等により、社会や文化等に関する事象や考え方を論理的に提示することができる。その際、相手の状況を理解し、適切な内容とすることができる。  
 B-3 業務を遂行する上で必要な基礎的英語力を持っている。(注)TOEICの点数は表に記載  
 B-4 英語で書かれたマニュアルを読むことができる。  
 B-5 専門技術について、英語で説明することができる。

(A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機管理・安全確保に関する倫理的・的確な行動規範を身につけた技術者  
 A-1 技術が地球環境や社会に与える影響を理解することができる。また、安全確保への具体的方法を理解することができる。  
 A-2 関連する法令の基礎を理解し、法令を遵守することの重要性を説明することができる。  
 A-3 技術者に求められる倫理の重要性および倫理上の問題を解決する手段を具体的に理解し、説明することができる。  
 A-4 組織として活動するために必要な基本的な知識を持ち、組織で働く時の使命、責任および倫理に関する問題を理解することができる。

C-7 必要なデータを得るための実験・計測方法を選択し計画することができる。  
 C-8 データ分析のための統計的処理を行い、データの信頼性を評価し、得られたデータから合理的な結論を導き出すことができる。  
 C-9 指定されたコストで必要な仕様を満足するための設計をすることができる。  
 C-10 問題を抽出し解決策を提案することができる。提案された解決策を合理的に評価することができる。  
 C-11 チームで問題解決を行うとき、チームにおける責任と義務を自覚し、状況に応じてさまざまな役割を果たすことができる。指定された期間内に課題を解決するための計画を立てることができる。

C-6 各専攻において必要とする専門工学の基礎知識を身につけ、応用することができる。なお、専門工学の基礎知識は各専攻ごとに以下のように定められている。  
 C-6-AS 機械情報システム工学専攻の場合：次のうち4項目以上の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。力学系科目、設計科目、マイクロメクス、加工製作、情報通信工学、知識工学、信号処理、制御工学、  
 C-6-AE 電気電子工学専攻の場合：次の2項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。電磁気学、電気回路  
 C-6-AC 物質工学専攻の場合：次の項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学、量子化学、材料化学、高分子化学、生物学

(D) 生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者  
 D-1 健全な心身を維持するための自己管理能力を備え、健康的な生活を送ることができる。  
 D-2 思いやりと公正さをもって、競争に参加することができる。  
 D-3 政治、経済、社会についての基礎的知識を持ち、社会の変化に対応した情報収集能力を示すことができる。  
 D-4 能力向上や資格取得等に向けた自己啓発を継続することができる。  
 D-5 社会状況を把握し、現代の技術的課題に関心をもち、自分なりの解決策をデザインすることができる。

(C) 基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者  
 C-1 基本的な数学を理解し、自然科学へ応用することができる。  
 C-2 基本的なシステムの設計手法を理解し、必要な仕様を満足する設計をすることができる。  
 C-3 グラフ作成やプレゼンテーションに必要なソフトウェアを使いこなすことができ、必要な情報を得るための情報源を引っ出すことができる。  
 C-4 バイオや化学についての基礎知識を身につけ、応用することができる。  
 C-5 力学など物理学の基本法則を理解し種々の問題に応用できる。

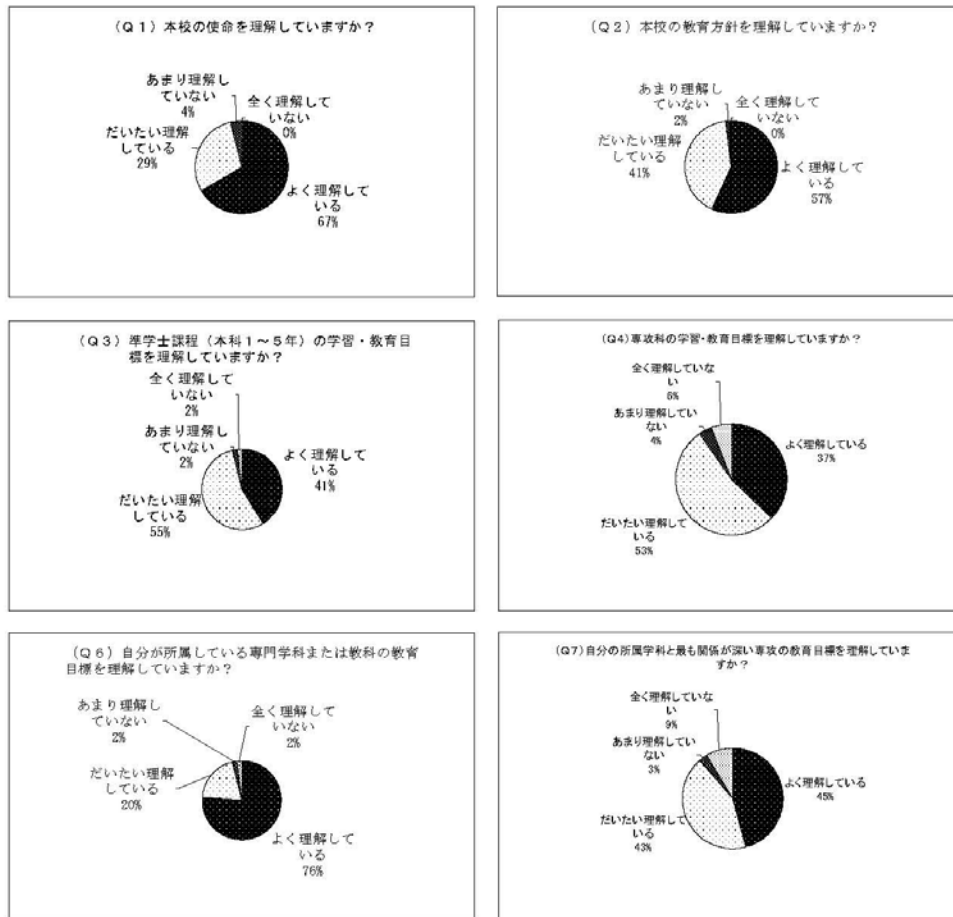
C-12 計画の進行状況に応じた適切な対応を行うことができる。  
 C-13 実際に物に触れることを通して、ものづくりの喜びを感じることができる。  
 C-14 専門分野以外の工学の基礎を身に付け応用することができる。

(注) 説明略(野井賢志)

資料1-2-①-4

教員に対する教育目標の周知度に関するアンケート結果  
(有効回答数：51)

実施日 平成19年6月11日

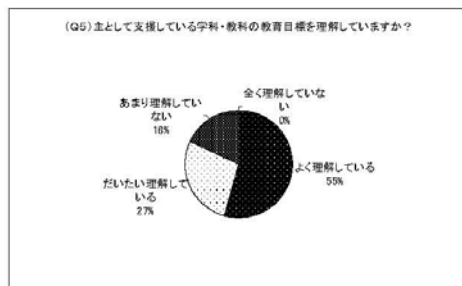
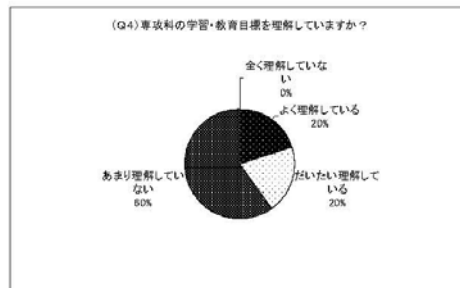
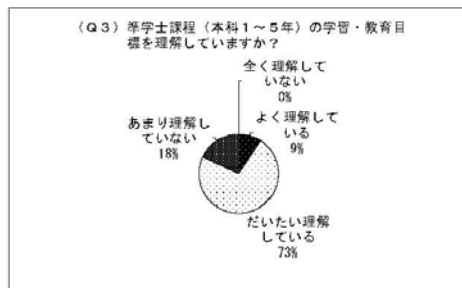
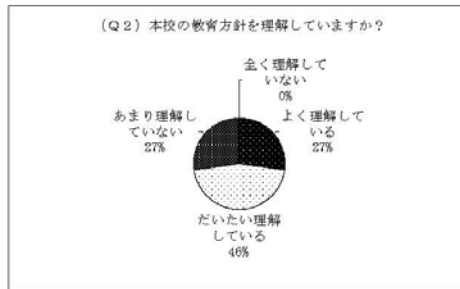
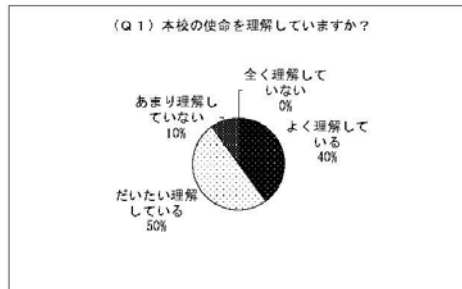


(出典 認証評価専門委員会アンケート調査結果)

資料1-2-①-5

技術職員に対する教育目標の周知度に関するアンケート結果  
(有効回答数：10)

実施日 平成19年6月11日

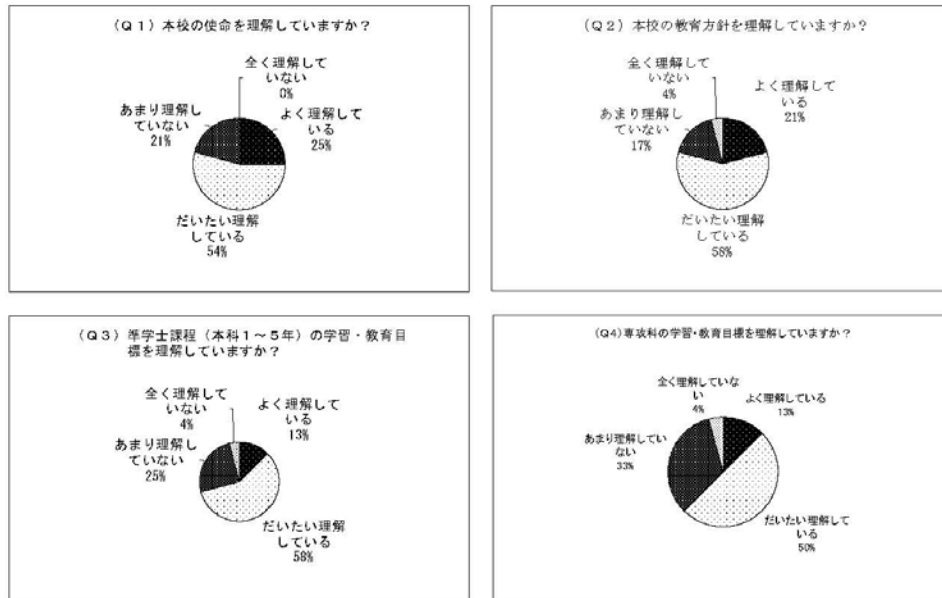


(出典 認証評価専門委員会アンケート調査結果)

資料1-2-①-6

事務職員に対する教育目標の周知度に関するアンケート結果  
(有効回答数：24)

実施日 平成19年6月11日

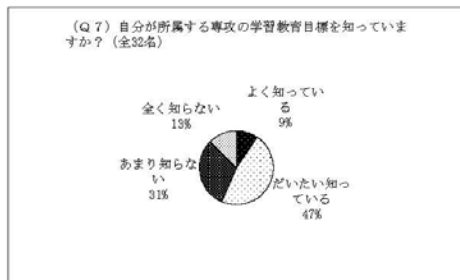
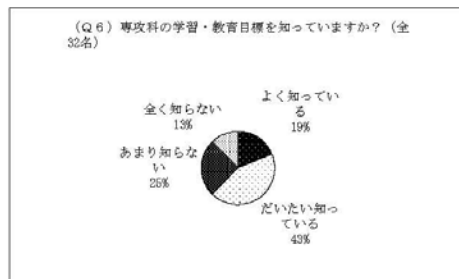
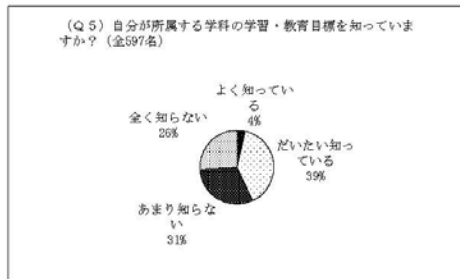
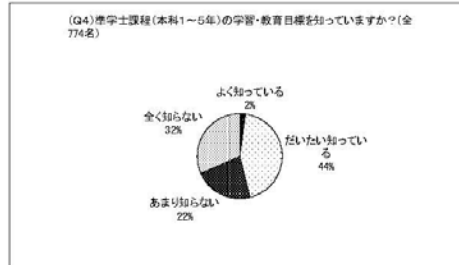
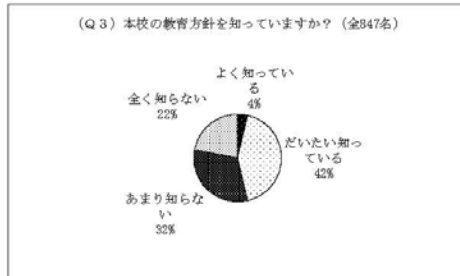


(出典 認証評価専門委員会アンケート調査結果)

資料 1-2-①-7

学生に対する教育目標等の周知に関するアンケート

実施日 平成19年6月11日



(出典 認証評価専門委員会アンケート集計結果)



**観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。**

(観点に係る状況)

本校の教育方針、学習・教育目標、各学科の教育方針は、ウェブサイトに掲載することにより、社会に広く公開されている(資料1-2-②-1)。また、学校概要(現地閲覧資料3)には本校の教育方針(資料1-2-②-2)と各学科の教育方針が掲載され、学校案内(集え好奇心、東京工業高等専門学校専攻科、現地閲覧資料5)には各学科と各専攻の教育方針が掲載されている。また、専攻科募集要項(現地閲覧資料4)には学習・教育目標が掲載されている。

以上のほか、中学校訪問、入試説明会、体験入学などの機会を捉え、本校の目的を噛み砕いて説明している。また、技術懇談会に参加される企業関係者に対して、本校の目的の概要を説明したり、求人のため面談に来る企業関係者に対しても本校の宣伝をかねて本校の目的が記載された上記資料を配る場合もある(資料1-2-②-7)。

学校概要などの配布先と配布部数の一覧は資料1-2-②-3のとおりである。また、学校説明会の開催状況・参加者数および配布資料は資料1-2-②-4のとおりである。中学校訪問記録(資料1-2-②-5)、求人面談企業と技術懇談会参加企業一覧(資料1-2-②-6)などからわかるように、社会に対して積極的に目的を公表している。

(分析結果とその根拠理由)

目的をウェブサイトに掲載して、広く社会に公表すると共に、中学生、保護者、就職先を含む企業関係者などに対して積極的に目的の公表を図っている。

以上により、目的が、社会に広く公表されている。

資料 1-2-②-1

Tokyo National College of Technology >> EN


**国立東京工業高等専門学校**

 MAIL
  ACCESS
  INDEX

---

**INDEX**

- 概要
- 受験生の皆さんへ
- 社会人の皆さんへ (社会人入学・聴講生)
- 卒業生の皆さんへ
- 国際交流
- 地域及び産業界の皆さんへ
- トピックス

---

- 過去の NEWS
- 各種施設
- 学科紹介
- リンク集
- サイトマップ
- 情報公開
- 明田の風 (広報誌)
- トップページへ戻る

概要

▶ 1. 創成型工学教育プログラムについて

1. 創成型工学教育プログラムについて

今日、産業技術のあらゆる分野において国際化、融合化・複合化が急ピッチで進んでいます。そのために、境界領域に関心を持ち、独創的なシステムをデザインできる、1 感覚豊かな、ものづくりを志向する技術者が求められています。本校専攻科設立時のコンセプトが、まさに国際性をもち、複合・融合分野に対応できる、ものづくり志向の技術者育成でした。そこで本校では、主として本科4年次から専攻科2年次までの4年間に相当学習・教育に対し、一貫した教育プログラムとして創成型工学教育プログラム(The Program of Creative Engineering Education)を設定し、国際化・複合化に対応できるづくり技術者教育を行っています。

◀◀ 前のページへ戻る | ▲ ページのトップ

▶ 2. 学習・教育目標

2. 学習・教育目標

ものづくりにおけるシステム創成能力



図1. 学習・教育目標の概念図

本校の教育目標の大枠は次の(A)～(D)に示された国際化・複合化に対応できるもの技術者の育成です。

- (A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機・安全に関する理観と的確な行動規範を身につけた技術者
- (B) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際的に活躍しうる力を持った技術者
- (C) 基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者
- (D) 生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者

(出典 本校ホームページ)

## 資料 1 - 2 - ② - 1

これらに専攻科設立時のコンセプトを合わせ模式的に表すと、図1の概念図になり、この教育目標に従い、本教育プログラムでは、次の(A)A-1～A-5、(B)B-1～B-5、1～C-14、(D)D-1～D-5に示された能力を身に付けた技術者の育成を目指している。創成型工学教育プログラムの学生は(A)A-1～A-5、(B)B-1～B-5、(C)C-1～C-14、D-1～D-5に示された能力を身につけた技術者となることを目標として日々の学習にしてください。

(A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機・安全に関する理観と的確な行動規範を身につけた技術者

A-1 技術が地球環境や社会に与える影響を理解することができる。また、安全確保具体的方法を理解することができる。

A-2 関連する法令の基礎を理解し、法令を遵守することの重要性を説明することができる。

A-3 技術者に求められる倫理を理解し、具体的な例を挙げて説明することができる

A-4 技術者として、倫理上の問題を解決するための手段を理解することができる。

A-5 組織としての活動するために必要な基本的な知識を持ち、組織で働く時の使命および倫理に関する問題を理解することができる。

(B) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際的に活躍しうる者を持った技術者

B-1 共通の目標達成のために協調することができる。

B-2 現象や考え方を論理的にプレゼンテーションすることができる。その際、相手の理解し、適切な内容とすることができる。

B-3 業務を遂行する上で必要な基礎的英語力を持っている。

B-4 英語で書かれたマニュアルを読むことができる。

B-5 専門技術について、英語で説明することができる。

(C) 基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者

C-1 基本的な数学を理解し、自然科学へ応用することができる。

C-2 基本的なシステムの設計手法を理解し、必要な仕様を満足する設計をすることができる。

C-3 グラフ作成やプレゼンテーションに必要なソフトウェアを使いこなすことができる。必要な情報を得るための情報源を見つけ出すことができる。

C-4 バイオや化学についての基礎知識を身につけ、応用することができる。

C-5 力学など物理学の基本法則を理解し種々の問題に応用できる。

C-6 各専攻において必要とする専門工学の基礎知識を身につけ、応用することができる。

なお、専門工学の基礎知識は各専攻ごとに以下のように定められている。

C-6-AS 機械情報システム工学専攻の場合：

次のうち4項目以上の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。

力学系科目、設計科目、メカトロニクス、加工制作、情報通信工学、工学、信号処理、制御工学

C-6-AE 電気電子工学専攻の場合：

(出典 本校ホームページ)

## 資料 1 - 2 - ② - 1

次の2項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。

電磁気学、電気回路

C-6-AC 物質工学専攻の場合：

次の5項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる。

物理化学、化学工学、量子論、高分子化学、量子化学

- C-7 必要なデータを得るための実験・計測を計画することができる。
- C-8 データ分析のための統計的処理を行い、データの信頼性を評価し、得られたから合理的な結論を導き出すことができる。
- C-9 指定されたコストで必要な仕様を満足するための設計をすることができる。
- C-10 問題を抽出し解決策を提案することができる。提案された解決策を合理的に評価することができる。
- C-11 チームで問題解決を行うとき、チームにおける責任と義務を自覚し、状況に応さまざまな役割を果たすことができる。指定された期間内に課題を解決する計画を立てることができる。
- C-12 計画の進行状況に応じた適切な対応を行うことができる。
- C-13 実際に物に触れることを通して、ものづくりの喜びを感じることができる。
- C-14 専門分野以外の工学の基礎を身に付け応用することができる。

(D) 生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者

- D-1 健全な心身を維持するための自己管理能力を備え、健康的な生活を送ることができる。
- D-2 思いやりと公正さをもって、競争に参加することができる。
- D-3 政治、経済、社会についての基礎的知識を持ち、社会の変化に対応した情報処理能力を示すことができる。
- D-4 自主的、継続的に各種資格取得を目指し、自己啓発を続けることができる。
- D-5 社会状況を把握し、現代の技術的課題に関心を持ち、自分なりの解決策を提示することができる。

◀ 前のページへ戻る | ▶ ページのトップ

■ アドミッションポリシー (入学者受入方針) / Admission Policy

ものづくり、基礎学力、技術者としての倫理観、コミュニケーション能力、グループ活動を大切に考えることを基本としたエンジニアを育てる本校では、次のような受験生を求めています。

- (1) 理教養科目が好きであり、それらの科目の成績が優秀である。
- (2) 科学や技術の分野で新しいことを学びたいという学習意欲がある。
- (3) 英語でのコミュニケーション能力取得に熱意がある。
- (4) ものづくりに興味があり、新しいものを作りたいたいと考えている。
- (5) 仲間とともにグループで作業が出来る。
- (6) 自覚的な行動が出来る。
- (7) 規則正しい生活と、毎日の自覚的学習が出来る。

TCT aims to develop students into engineers who make much of creating things themselves, acquiring basic academic abilities, a moral philosophy as engineers, communication skills and behaving positively in group activities.

The college wants such candidates as follows:

- (1) Those who are interested in and have high grades in science and mathematics.
- (2) Those who are eager to acquire further knowledge in the fields of science and technology.
- (3) Those who are enthusiastic about improving communicative competence in English.
- (4) Those who are interested in making things and creating new products.
- (5) Those who can cooperate with colleagues in group activities.
- (6) Those who can act positively and autonomously.
- (7) Those who can have a regular life-style, and study various subjects on their own accord.

本校の教育方針

ものづくりに対する柔軟な心と、  
いかなる困難・変化に対しても強固な意志と、  
あらゆる試練・耐えに耐え、全身を投入して持つ  
心と人間性、好む興味・深めたい  
人材(もの) 必至の専門・技術の  
基礎を充分身につけていって、いつか自己  
自由に活躍する能力があり、長い一生  
を通じて限りの時間を精進して、  
習得能力のある人物を育成する。

副校長 岡 俊平

The Educational Policy of the College

The Tokyo National College of Technology aims at developing each student into a person who has a mind flexible enough to cope with any situation, a will strong enough to get over any difficulty, and a body sound enough to bear the trials of life.

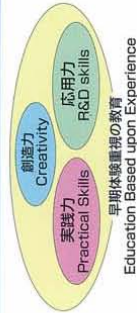
Each graduate is required to have a desirable character, to be well versed in fundamental knowledge and techniques necessary for him or her to apply to any problem, and to have potential which can further develop all through his or her life.

この教育方針は、本校副校長岡俊平先生が、技術者に教養が重要であるとして、掲げられたものです。本校では、その先駆的な教えを現在でも大切にしています。

本校の目的

The Objective of Tokyo National College of Technology (TCT)

早期体験重視の教育を通して、創造力・実践力・応用力の備わった技術者を育成する。  
The Objective of TCT is to develop students into engineers with creativity, practical skills and research and development knowledge through education based upon experience.



養成する人材像

The Educational Aims of TCT

- (1) 技術者としての行動規範 (自律的な行動) を身につけ、グループ活動における協調性とリーダーシップを持つ技術者。
- (2) 異文化理解とコミュニケーション能力 (国際性と語学力) を持つ技術者。
- (3) 基礎学力と専門分野学力 (ものづくりの知恵、類推力、段取り力) を修得し、継続的な自己啓発の能力 (学び続ける力) を持つ技術者。

The following educational aims have been set up in order to realize the objective of TCT.

- (1) To get students to acquire a behavioral standard as engineers' autonomous behavior and to exercise leadership and cooperativeness in group activities.
- (2) To get students to acquire intercultural understanding and communication skills by cultivating an international way of thinking and language acquisition.
- (3) To get students to acquire both basic academic and specific technical abilities creating things themselves, reasoning by analogy and making plans and to get them to nourish ability of developing their intellectual competence and continuous self-development.



平成19年度学校概要規格

資料1-2-②-3

1. 版	.....	A4版
2. 製本	.....	無線とじ
3. 組	.....	横組
4. 表紙	.....	トップコート/93.5kg
5. 本文	.....	トップコート/76.5kg
6. ページ数	.....	36ページ程度(表紙・裏表紙含む)
7. 作成部数	.....	2,000部+CD-R1枚
8. その他	.....	教職員については、 <del>希望者</del> にのみ配布 全員に

学校概要配布先

独立行政法人国立高等専門学校機構物品管理規則第27条により配布

1. 文部科学省他高専等	.....	60部
2. 来訪その他	.....国際学生交流.....	40部
	.....外国人来訪等.....	50部
3. 中学校広報等	.....	300部
4. 地域連携テクノセンター	.....	400部
5. その他の他	.....	650部

合	計	1,500部
---	---	--------

※昨年度実績：3,000部作成

平成19年度学校概要作成日程予定

学内校正原稿配布(加筆・訂正依頼)	.....	平成19年4月上旬
業者への原稿渡し予定	.....	平成19年5月上旬
[ 2回校正を実施 ]		
納品	.....	平成19年6月中旬

(出典 総務課資料)

資料 1-2-②-3

参与会報告書配布先

1. 参与会参与	6
2. 参与代理	2
3. オブザーバー	1
4. 文部科学省高等専門学校係	1
5. 機構本部	1
6. 国立高専	5 4
7. 大学評価・学位授与機構	1
8. 本校	
(1) 校長	1
(2) 全教員	7 9
(3) 部長、課長	4

計 150冊





# 集え！好奇心！

## 国立 東京高専

機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報工学科、建設工学科

### 平成18年度学校行事

**【学校説明会】**

7月23日(日) エンジニア・ハンドホール

9月24日(日) 香化学・21世紀化学実習

10月15日(日) 香化学の楽しみ

11月4日(土) 卒業祭

12月28日(土) <ゆきだるま>

26日(火)

**【入学情報】**

1月21日(日) 推薦入試

2月18日(日) 学力入試

2005年EDU-大賞 建設工学科・電気工学科

**【公開講座】**

6月10日(土) エンジニア・ハンドホール

7月28日(金) 香化学の楽しみ

7月下旬 情報工学科公開講座

8月1日(火) モノの科学体験教室

8月4日(月) 電子工作入門

8月4日(月) 機械工学科メカトロニクス体験講座

8月28日(月) 電子工学科ロボット教室

9月30日(土) 電子工学科ロボット教室

11月5日(日) 香化学の楽しみ

11月5日(日) 香化学の楽しみ

11月5日(日) 香化学の楽しみ



国立東京工業高等専門学校  
東京都八王子市御前町1-220-2  
TEL 042-66815127  
http://www.tokyo-ti.ac.jp/

**【学校説明会】**

日 時	開始時間	内 容	場 所	備 考
7月1日(土)	13:30~	説明会	情報学部講義棟	
	18:30~	説明会	大目黒西公園	
7月23日(日)	10:00~	英語科向け説明会	専攻棟材料実習室	
	13:00~	説明会及び遊覧見学会	第1体育館	各学科の体験入学
8月24日(水)	13:30~	高等専門学校施設説明会	東京市教育会館	
9月24日(水)	13:00~	説明会及び遊覧見学会	第1体育館	各学科の体験入学
10月15日(日)	13:00~	説明会及び入試説明会	第1体育館	新法の入試要項の解説
11月4日(土)	10:00~	2日間とも説明会と卒業祭	専攻棟2AV教室	くぬぎだ公開中の解説
5日(日)	16:00~			説明会
12月28日(土)	13:00~	説明会	香化学201教室	各学科の体験入学
			第2棟501教室	最終の説明会

※説明会に参加し遊覧見学会に参加する場合は、体育館の両側には工業実習室を併設いたします。  
※閉校後の入校はできません。042-66815127

**【公開講座・体験教室】**

講座・教室名	日 時	場 所	対 象	定 員	内 容
エンジニア・ハンドホール	①7月10日(土) ②7月11日(日) ③7月24日(日)	会場	小学生 一般	100名	半日体験ワークショップとしてのハンドホールがゲームを楽しむ
英文専攻の楽しみ	7月24日(日)	16:00~	小学生 一般	15名	英語で記念品を楽しむための各品法の紹介と英語の記念品作り
香化学・21	①7月28日(金) ②7月29日(土)		中学生	各講 30名	化学の不思議と香化学の体験しよう
情報工学科公開講座	①7月31日(日) ②7月31日(日)	9:30~	中学生	各講 30名	ハードウェアソフトウェアの基本を体験してみよう
電子工作入門	8月1日(水)	16:00~	小学生	8名	電子工作を通してものづくしの楽しさを体験しよう (小学5年生)
9の作り体験教室(心の香のため)	8月1日(水) 8月2日(木)	9:00~	中学生	12名	心と香の不思議な体験を体験し、CADソフトを使ってスターとスランプの下ディを制作しよう
機械工学科 メカトロニクス体験講座	①7月1日(日) ②7月25日(日)	会場	小学生	各講 30名	・メカトロニクスとは何か ・パソコンによるロボット制御 ・パソコンによるロボット制御 ・パソコンによるロボット制御
中学生のための 電子工学科体験教室	①7月28日(金) ②7月29日(土)	会場	中学生	各講 40名	ロータリー工作の体験を体験しよう
電気工学科 ロボット教室	9月18日(日) 9月19日(日)	9:30~	中学生	20名	LEGO TechnicのLEGO MINDSTORMSを利用してロボットの組み立てとプログラミングの体験を体験しよう
香化学の楽しみ	11月5日(日)	16:00~ 17:30~	中学生	前日 各講 30名	開校の歴史とガラス

※お問い合わせ先 庶務課庶務係 電話 042-66815127

(出典 学生課資料)

八王子市中学校 訪問担当者

1班	相沢 松林	6/7⑧藤川中学校3年担任、須田先生(遠藤担当)が新卒、3年担任は2クラスのこと、毎年受験しているのも、今年も受けました。本校のことを知っている親戚がすばらしい。平年、某の賞もよいこと、小中一貫制になる予定、向名かを担任です。ようとのこと、制服は全く短縮で学校生活を送っている。⑨打撃中3年担任、清水先生が知派、構造的な質問通りに質問したが、授業があるからと前置き説明だけで終わった。アホを散る際、授業時間の制限を厳密にする必要がある。⑩由井中3年担任、田中先生が知派、好意が得る卒業生、3クラスから4クラスに増えた。⑪、部活が授業で学区から1年生が毎年、3クラスから4クラスに増えた。⑫、中学校の先生から、「なかがか入れない学校」という言葉を伺いました。また、中学校の先生から「うちの中学校からでも卒業生が行ってますよ。」と在校生への活躍が上がりました。今年の入学生の名簿(通商中学校卒業生)はありましたが、現職では、夏が近づくともなほになってしまっています。
2班	石井 一戸	深川中学校 奥野先生と面会、奥川中では中学生2クラスで80名程度の生徒がいるとのこと。奥野先生は、新しいシステムに慣れたことについて話して、送迎の準備はしては、教員については、クラスを分けては、原簿を準備して、この教員が揃っている。教員は受験するかどうかとの見直しをわかってもらえ
3班	筒井 森下	⑬入試要項等の送付の際には、ワークシート(2部) + 教員用(1部) 合計 3部を送ってもらえないかとワークシートを頂戴しました。 ⑭原簿中: 3年生は修学旅行中で副校長が役割の予定だったので、当日は3年担当の教員が担当本校のシステム、説明会、休職入学を説明して報告を渡す。質疑応答無し 4年生2クラス 5年生2クラス 訪問日時:6月6日(水)15:00~17:00 訪問経路 *第7中:3年教員が全員不在のため、応接室に資料・ホスターを手渡し *第6中:教員室で説明した点名表は頂けず *由木中(伊田先生、連絡指導員&3年4組担任):前年、教員研修(?)で本校に来られたことがあり、学生本校受験生あり ※中3:3年担任が2人 藤川中学校で3年担任指導員の前生には社会系さんで、副校長にお会いし、資料を渡して話をした。別所中3:3年生がクラス学年主任の先生とお会いしました。資料を渡して話をした。資料の簡潔な説明のみで終わりました。4. 内田先生の質問(浮遊方法)が良くわからないというので、メールから45分程度という事で返しています。45分で全容80%を見て、「オールドで落とすようではどうですかね」と1分程度聞いていました。
4班	阿久沢 鹿毛	すてに毎年募集する生徒のいる中学校がほとんどだったので、高専の認知度は低くはなかった。 教員は少く、少くはなかったが、共通に知っている生徒について話が出た。(卒業生が少くはなかった) 都立高校を奨励する年が高いため、都立高校の教員を強いて説明会を開催する 7月くらいから進路指導が本格化するようだ。 -名刺1~10枚の資料を入れたパケットは扱いやすいやつだった。 -ホスターも一応要項を説明するのに便利だった。
5班	伊藤彰 吉本	6/7⑧(水)訪問した。丁寧な対応を受け、十分アポイントすることができた。
6班	竹田 鈴木智	八王子市立藤川中学校 遠藤担当(江森生 (7名)も来たので、名前が不正確になってしまっています)本校に近いので、本校の様子を良く知っています。入試制度がかわって、1年後に卒業証書に引っかかっています。大学編入のことはあまり知らなかったようで、説明に引っかかっています。(200名中50名近くが国立大学へ)ロボコンが好きで中学生がいます。八王子市立藤川中学校卒業生 本校の様子をよく知っているようでした。入試制度がかわって、1年後に卒業証書が欲することはなかったようでした。しかし、この情報はよいですと評価されました。
7班	齋藤 土井	
主事	小坂	

(出典 学生課資料)

資料 1-2-②-5

八王子市内中学校 訪問担当者

1班	相沢	松林	(市内5校)				
2班	石井	一戸	(市内5校)				
3班	筒井	森下	(市内5校)				
4班	阿久沢	鹿毛	(市内5校)				
5班	伊藤彰	吉本	(市内5校)				
6班	竹田	鈴木智	(市内5校)				
7班	齋藤	土井	(市内5校)				
主事	小坂		(市内2校)				

(出典 学生課資料)

資料 1-2-②-6

平成18年度求人訪問企業数

機械工学科	156社
電気工学科	131社
電子工学科	107社
情報工学科	111社
物質工学科	61社
合計	566社

平成18年度技術懇談会主催事業参加状況

平成18年6月29日	総会及び第1回懇談会	15名
平成18年11月7日	企業見学会	19名
平成19年2月3日	東京高専専攻科特別研究最終発表会	17名
平成19年3月8日	異業者交流会及び研究資源の紹介	20名
平成19年3月23日	セミナー「表面、表目粗さの評価」	29名
合計		100名

(出典 総務課資料等より集計)

資料 1-2-②-7



### 基準1：学習・教育目標の設定と公開

- JABEEの要求を網羅した**学習・教育目標**
  - ➡ 一部カリキュラムの変更
- 達成したエビデンスが必要
  - ➡ エビデンスを残しやすい**学習・教育目標**
- 社会の要求や学生の要望を考慮していること
  - ➡ 学生アンケート、企業アンケート、技術懇談会

### 学習・教育目標 1

- 創立当初の教育方針(学生便覧表紙)
- ➡
- 平成15年度の東京高専の学習・教育目標
  - (A) 技術と**地球環境**保全との関係を理解し、**技術者**に求められる危機・安全に関する**倫理観**と的確な行動規範を身につけた技術者
  - (B) 日本語及び英語による**コミュニケーション能力**を身につけ、国際的に活躍しうる素養を持った技術者
  - (C) 基礎学力の上に、**実践力、創造力、研究開発能力**を身につけた技術者
  - (D) **生涯にわたる自己啓発能力**や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者

### 学習・教育目標 2

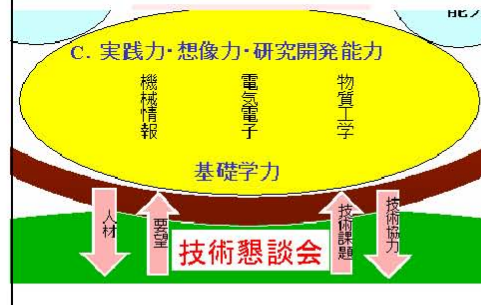
- 創立当初の教育方針(学生便覧表紙)
- ➡
- 平成15年度の東京高専の学習・教育目標
  - シラバスを参考にして細分化、JABEE目標を網羅
  - ➡
  - C13 **ものづくり**
  - C14 **専門分野以外の工学の基礎**を追加
- 平成16年度の東京高専の学習・教育目標
  - 詳細はホームページまたは専攻科履修要覧を参照
  - 変更する理由を示すことができる場合は変更できる(スパイラルアップ)

### 学習・教育目標 3

ものづくりにおけるシステム創成能力



### 企業の皆様との関係



(出典 参与会説明資料)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

- ・ 開校以来の教育方針により培われた豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的ものづくり技術者の育成という伝統に、社会の要請を取り入れて、具体的な学習・教育目標を策定している。
- ・ 教職員および学生への目的周知度が高く、様々な機会を利用して本校の目的を学外にも広く周知している。

### (改善を要する点)

本校の目的および教育目標の学生への周知について、更に周知の度合いを高めるための工夫が必要である。

## (3) 基準 1 の自己評価の概要

本校の使命は、専攻科の使命と共に、学則に定められ、学生便覧にも記載されている。ものづくり技術者の育成を使命とする本校は、設立当初から、実験実習を重視した教育により、優れたものづくり技術者を育成し、卒業生は、製造業を中心とした産業界をはじめ、社会から高く評価されている。教育研究活動を実施する上での基本方針については、「本校の教育方針」として、初代校長直筆の書を学生便覧に掲載している。要点は、豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的ものづくり技術者の育成ということであり、「人間性」、「教養」、「基礎と応用力」、「成長力」の重要性を唱っている。実践的ものづくり技術者の育成という伝統に、社会の変革による新たな要請を取り入れ、具体的で検証可能な学習・教育目標を定めている。このように、本校の目的は明確に定められている。

また、本校の使命、教育方針、学習・教育目標は学校教育法第 70 条の 2 に規定された高等専門学校の目的を意識して定められており、本校の目的は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでない。

目的の周知に関しては、冊子の配布、しおりの配布などの方法が工夫されている。アンケートによる結果から、おおむね構成員（教職員および学生）に周知されている。

また、ウェブサイトによる公表のほか、中学校訪問、入試説明会、体験入学、技術懇談会等の機会を捉え、目的を社会に公表する取り組みがなされている。

## 基準 2 教育組織（実施体制）

### （1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到係る状況）

本校には、学校教育法第70条の3に適合するように、機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報工学科、物質工学科の5学科が設置されている（資料 2-1-①-1）。各科の特徴は次のとおりである。

機械工学科は、ものづくり工学系科目群、機械の力学系科目群、およびメカトロニクス制御系科目群の3本柱でカリキュラムが構成され、これらの基本的知識を核として、実践的で、かつ創造性を備え、直面する技術的な問題を自ら解決できる機械技術者を養成することを目的としている。

電気工学科は、電気に関する総合学科として、情報・通信、電子物性・デバイス、エネルギー・制御の3分野にわたる教育課程を編成し、これらの基礎力と応用力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目標としている。

電子工学科では電子デバイス、電子回路、コンピュータ応用の分野を軸として教育課程を編成している。基礎学力、ものづくり実体験を重視した教育を通じて幅広い視野、豊かな人間性を備え、かつ創造力にあふれた技術者を育成することを目標としている。

情報工学科は、情報基盤、知識情報、情報通信、制御情報の4つの柱を軸として教育課程を編成し、基礎学力を基盤とした情報工学の学問を通して、人間力、学びとる力、創造力を備えた技術者を育成することを目標としている。

物質工学科は、材料、バイオ、環境を三本柱とし、化学のみならず他の学問分野を取り入れた学際的な学問体系になっている。3年生までは化学を主体に、生物学、物理学、コンピュータ等の基礎を学び、また、実験・実習を行う。4年生後期からは卒業研究に打ち込む。

学則には各学科の定員が適切に定められ（資料 2-1-①-1）、規模内容は学科として適当であり、高等専門学校設置基準（第4条）（第5条）に適合している。また、各学科の名称は、本校の教育研究上の目的にふさわしいものであり、高等専門学校設置基準（第27条の3）に適合している。

次に、準学士過程の学習・教育目標と各学科の教育目標を資料 2-1-①-2 に示す。この教育目標は、前掲の資料 1-1-①-4 に示した準学士課程の教育目標のうち、（C）の専門分野に関する目標を中心に学科ごとに具体化して記述したものであり、準学士課程の学習・教育目標の（A）（B）（D）は全学科共通の目標である。このため、本校の学習・教育目標と各学科の教育目標は整合性が取れている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の各学科は、専攻分野を教育するために組織され、その規模内容は学科として適当と認められ、名称は教育研究上の目的にふさわしい。また、学生定員は、学科ごとに学則で定められ、その定員は適正に管理されている。さらに、本校の学習・教育目標と各学科の教育目標は整合性が取れている。

以上により、本校の学科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

**第3章 学科、学級数、入学定員及び教職員組織**

資料 2-1-①-1

(学科、学級数、入学定員)

第7条 学科、学級数、入学定員は次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40人
電気工学科	1	40人
電子工学科	1	40人
情報工学科	1	40人
物質工学科	1	40人

2 前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときは、異なる学科の学生をもって学級を編成することができる。

(出典 東京工業高等専門学校学則)



資料 2-1-①-2

## 機械工学科の教育（専門科目）

### 機械工学科の養成する技術者像

機械工学科では、創造性豊かな発想で機械を設計製作できる技術者を育てることを目標としている。機械工学科でイメージしている創造性のある技術者とは下に示すとおりである。

基礎的な専門的知識を身につけつつ、常に社会の動向に対してアンテナを広げ、得られた情報を自分なりに消化・吸収・発展させ、新しいものを作り出すのに生かしたり、すでにあるものに応用したりすることができる技術者。

### 教育・学習目標

- (A) 機械工学に関わる基礎学力を備え、現実の問題に応用することができる。
- (B) 機械システムの発案から設計および製作までを行うことができる。
- (C) 機械工学と電子・情報工学の両者に関わる基礎学力にもとづいて、メカトロニクスを体現した機械システムを設計・製作できる。

### 教育課程編成方針

機械工学やものづくり（機械製作法、製図基礎）に関する知識を実践的に身につけられるように、実習科目を 2, 3 学年に配置する。実習科目で実践的に学んだ事項について理論的な知識を補強するために、関連する講義科目を主に 3 年生以上に配置する。

講義科目については、機械工学分野で必要かつ重要と考えられる科目（力学系科目、材料・加工関係科目、電気電子系科目）を精選しバランス良く学習できるように配置する。講義科目で履修した内容の特徴的な部分について現象を検証できるように実験科目を 4, 5 学年に配置する。

近年では、ロボットに代表されるように機械工学分野においてもメカトロニクスの重要度が高くなっている。当該分野の技術進歩は急速である。本学科では社会の要請に応えることができる教育課程を編成するために、科目配置や科目内容を恒常的に見直し、編成の更新を行う。

### 教育方法の特徴

- ①「ものづくり工学系」科目では、機械を作るための設計製図の基礎知識から 2 次元 CAD や最新の 3 次元 CAD のような設計ツールの使用方法を学ぶとともに、機械を製作する機械加工技術までを、付属の実習工場で実際に機械に触れて実践的に学ぶことができる。機械製作実習では、また、安全性を重視した行動を学生に求めているため、規律ある行動を学生が身につけられる効果がある。
- ②「機械の力学系」科目では、機械工学の基礎理論を構成する材料力学、流体力学、熱力学、機械力学等を中心とした力学理論を学び、機械を形作っている構造および動作原理の基本を把握することができる。
- ③「メカトロ制御系」科目では、機械の動きを制御する頭脳に相当する部分に関する知識を習得することにより機械に知能を付与する高度な技術を学ぶことができる。

**電気工学科の教育目標・教育課程**

## ○ 教育目標

幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、電気工学とその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者に育成する。

## ○ 教育・学習目標

- (A) 電気技術と人や社会とのかかわりを理解し、地域社会から人類の福祉まで幅広く考える能力を育成する。
- (B) 電気技術が自然や地球全体あるいは社会に及ぼす影響や効果を理解し、技術者としての責任を自覚するとともに、自主的に行動できる能力を育成する。
- (C) 日本語による論理的な記述力、討議・発表力などのコミュニケーション能力、ならびに英語によるコミュニケーション基礎力を育成する。
- (D) 応用数学、応用物理、電気・電子工学に関する基礎知識を身につけ、それらを応用する能力を育成する。
- (E) 自主的・継続的に学習し、将来にわたって自己のレベルを絶えず向上させることのできる能力を育成する。
- (F) 与えられた課題に対し、与えられた制約のもとに計画的に実験、研究などの作業を進め、期限までにまとめる能力を育成する。
- (G) 電磁気学、電気回路、デジタル回路、情報・通信、電子物性・デバイス、エネルギー・制御とそれらの応用分野に関する専門知識を習得し、それらを問題解決に応用できる能力を育成する。
- (H) 電気工学とそれを利用したシステムに関する専門知識を習得し、システムの経済性、信頼性、社会および環境への影響を配慮しながらシステムの課題に取り組む能力を育成する。
- (I) 「ものづくり」の視点から、効果的に、電気工学に必要な実験技術を修得させる。

### 電子工学科の教育目標・教育課程 資料 2-1-①-2

#### ○ 教育理念

将来も自ら様々な問題を解決していくため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、電子工学とその応用分野に関する基礎知識と技術を身につけ、記述・表現・発表・コミュニケーションする力をそなえた技術者を育成する。

#### ○ 教育・学習目標

高専入学前の初等中等教育の新学習指導要領は、基礎・基本を確実に身につけ、それを基に、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力や豊かな人間性、健康と体力などの「生きる力」を育成することを主眼としている。この様な新学習指導要領を経てきた入学生に対し、本校電子工学科では、新学習指導要領に対応した導入教育に配慮し、さらに授業を受ける心構えや予習・復習の取組みの大切さを学ぶとともに、学ぶ楽しさ、そして努力すると実力が伸びて自信がつくことを体験から学び、その後の高専生活において、自ら様々な原理を理解して問題解決能力を養えることを目標としている。

一方、社会では、創造性が豊かで応用力をもつ優れた研究者、技術者が必要視されていることから、卒業時の実力を重視した教育も望まれている。こうした要望に応えるため、電子工学科では、学ぶ楽しさを教えながら、ものごとの基本原理を根底から理解して学んでいく方法を修得させ、専門基礎学力を育成して、将来も自ら様々な問題を解決していける能力を養い、創造性を高めることを本科教育の基本方針としている。以下に、7項目の教育・学習目標を挙げる。

- (A) 技術が社会に及ぼす影響や効果を理解し、技術者としての責任を自覚するとともに、自主的に行動できる能力を育成する。
- (B) 自主的・継続的に学習する能力を育成する。
- (C) 「ものづくり」という視点をとり入れ、効果的に必要な実験技術を修得させる。
- (D) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力、ならびに英語によるコミュニケーション基礎力を育成する。
- (E) 与えられた課題に対し、与えられた制約のもとに計画的に実験、研究などの作業を進め、期限までにまとめる能力を育成する。
- (F) 応用数学、応用物理、電気・電子に関する基礎知識を身につけ、それらを応用する能力を育成する。
- (G) 専門基礎、材料・デバイス、回路・通信、情報・制御とそれらの関連分野の知識を修得し、それらを問題解決に応用できる能力を育成する。

#### ○ カリキュラム編成方針

電子工学科の専門科目のカリキュラムは①専門基礎、②材料・デバイス、③回路・通信、④情報・制御の4つの分野を柱として構成されている。基礎科目（回路や電磁気学の基礎、工業数学、応用物理など）の十分な理解のため、講義とともに演習や実験も講義内容にリンクして配置している。特に3年次では、2～3年次の実験科目ともリンクし、電子工学全体を概観するための科目である基礎電子工学Ⅰ、

IIを配置している。そして、これらを基礎として高学年において材料・デバイス<sup>資料2</sup>、回路<sup>①</sup>・通信、情報・制御に関する科目をバランス良く配置している。

また、技術が社会に及ぼす影響や効果を理解し、技術者としての責任を自覚するため、各学年とも年1回の工場・事業所などの企業訪問を実施し、現場の技術に直接触れさせる機会を設けている。さらに、4年次では、長期間社会で実習を行うインターンシップを実施し、実習報告書作成や実習発表会を通じて成果をまとめる機会も設けている。最終学年では、卒業研究で先端科学・技術の研究、実験体験を入れた研究活動、技術開発の内容に触れる機会を設けている。

さらに、役立つ技術者資格取得のため、総務省の第二級陸上特殊無線技士ならびに第二級海上特殊無線技士の長期養成課程の認定を取得し、また、シスコ・システムズ社やマイクロソフト社の技術者資格公式認定されたIT系集中講義も配置している。さらに、各種IT系技術者資格試験を実施しているアール・プロメトリック社とも提携し、学科内にアール・プロメトリック公認テストセンターを設置し、いつでも学生がマイクロソフト社やシスコシステムズ社などのIT系技術者資格を受験できる環境を準備している。

以下に電子工学科の専門科目カリキュラム設計の7つの指針、ならびに学年ごとの科目配置表を示す。

1) 新入生の専門導入科目：

1年次混合学級導入に合わせ、全学生向け共通教育との位置づけで、電子計測技術、直流回路、通信技術の基礎を演習実験により体験学習する科目（ものづくり基礎工学）を配置している。

2) 専門基礎科目：

1年次の科目のみならず専門基礎科目においても、近年の社会環境の変化や小中学校の教育環境の変化、学力観の変化に対応した教育内容、教授方法を実現する必要が生じている。そこで、電子工学科では、専門基礎教育として、2～3年次に掛けて、専門導入科目の講義（基礎的な電気回路や電磁気学、工業数学、応用物理など）、講義と演習実験をとり入れた実験実習を配置し、授業と実験実習が相互にリンクさせ、徹底的に学生の理解を深めるためしくみを設けている。特に3年次では、電子工学全体を概観するための基礎電子工学I、IIを配置し、本学科の教育目標達成のための十分な専門基礎力を育成している。

3) 材料・デバイスに関する科目：

抵抗、コンデンサ、コイルなどの電子材料、半導体の基礎理論、ダイオードやトランジスタなどの電子デバイス、集積回路プロセス技術、発光ダイオードやレーザなどの光エレクトロニクスなど、材料の性質やデバイスのしくみについて学ぶ。2～4年次の実験科目には、これらの科目とリンクする実験テーマが配置され、学んだ知識を実験を通じて一層深く理解できるようしくみとなっている。特に4年次の実験では、実際に半導体デバイスを製作し、半導体の性質から集積回路プロセス技術までを実験から学べるしくみを設けている。

4) 回路・通信に関する科目：

電気・電子回路、回路網理論、通信工学、電波や無線機器の基礎、高周波回路、電波法など、回路や通信技術を学ぶ。また、オプションとして設定されている指定の選択科目を修得することで、総務省第2級陸上特殊無線技士、ならびに海上2級特殊無線技士が認定され、学生の技術者資格取得への道も開かれている。

(出典 シラバスより抜粋)

資料 2-1-①-2

5) 情報・制御に関する科目：

コンピュータのハードウェアやソフトウェア、コンピュータの応用、信号処理工学、制御工学、エネルギー変換工学など、情報処理技術や制御工学の基礎を学ぶ。特に、3～4年次に配置されるデジタル回路、コンピュータ工学、プロジェクト演習では、科目間で連携してデジタル回路の基礎からマイコン設計までの一連の流れを講義と実験を一体化して教授し、学んだその場で実験して一層深い理解を得られるよう工夫がなされている。

6) 卒業研究関連科目：

卒業研究や電子工学輪講を通じて、研究テーマの背景、実験手法の特徴や意味、実験装置の原理、得られるデータの意味、理論的解釈などを総合的に調査・判断・検討する能力を育成する。また、同時に関連した分野の文献調査を行い、その研究分野の動向を把握する等の主体的な研究姿勢を身につける。

7) 時間割授業時間外の科目：

電子工学科カリキュラムでは、技術が社会に及ぼす影響や効果を理解し、技術者としての責任を自覚するため、必修科目として企業訪問・見学や実習を行うインターンシップを実施している。また、本学科カリキュラムのオプションとして、学科で認定する多様形態授業(課外ものづくり活動、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、集中講義、課外勉強会など)や学科で認定する技術者資格(第3種電気主任技術者以上、第2級以上の無線関連国家資格、基本情報処理技術者以上の情報処理資格、シスコ・システムズ CCNA やマイクロソフト MCA 以上の IT 系ベンダー資格など学科で認定する資格)取得者に対して認定する科目を配置している。余力のある学生に対し、時間割内の授業や実験実習では学べない高度な内容も修得できるよう配慮されている。

資料 2-1-①-2

### 情報工学科の教育目標・教育課程

#### ○ 情報工学科の教育理念

近年、高度情報化社会の飛躍的發展により、情報関連分野の技術者はコンピュータ・通信ネットワークに留まらず、産業界のあらゆる分野でニーズが高まっている。しかし一方において、我々を取り巻く社会情勢は目まぐるしい勢いで変化しており、本学科卒業生が期待されている業種も、製造業からシステムエンジニアへと変化しつつある。このような先が不透明な時代を情報工学科卒業生が生き抜くためには、創造力ある技術者を育成する以前に、「人間力」と「学ぶ力」の育成が最重要課題である。情報工学科では、このような技術者を育てて世に送り出すため、下記の3つの教育理念のもとにカリキュラムを構成する。

##### 1. 人間力ある技術者を育成するために…

人間としての広い意味での規律正しい信頼ある技術者を育成するために、実験・演習を伴う専門科目では、積極的にグループごとの共同実験・共同演習を取り入れ、互いに話し合い協力しながら課題に取り込むための指導をする他、日頃の授業や学校生活指導・課外活動・研究旅行等の各種行事を通して、基本的な生活習慣や人間としてモラルある技術者・信頼できる技術者を育成できるよう地道な指導を行う。

##### 2. 学ぶ力を備えた技術者を育成するために…

一年次の基礎数学科目・基礎工学演習および、ものづくり基礎工学を受け、二年次からのカリキュラムでは、専門基礎理論の精選と授業に密着したものづくり実験との連携を柱として、「学ぶ力」としての学力を身に付けられる授業を実践する。このことにより、基礎学力をしっかりと身に付け、社会に出てからも新しい技術・知識を吸収できる能力を身に付けた技術者を育成する。

##### 3. 智慧(creativity)のある技術者を育成するために…

広い意味での「もの作り」のできる創造力ある技術者を育成する。そのために、社会の要求・問題に対して、与えられた制約の中での実現方法を検討できる能力、他の意見を考慮に入れながら論理的・建設的かつ簡潔に意見をまとめて討論できる能力、自ら行った作業成果を論理的かつ簡潔に文書にまとめたり説明できる能力、などを各授業を通して地道に指導する。

#### ○ 情報工学科の教育目標

本校の教育目標および情報工学科の教育理念に基づき、情報工学科では制御情報・情報通信・知識情報の3つの柱を主軸として、下記の教育目標が到達できるよう授業内容を構成する。

- A) コンピュータ・ネットワーク利用に関する幅広い知識を身に付け、様々な機器・ソフトに柔軟に対応できる技術者
- B) 情報工学の基礎となる科目を演習を通して体得し、それらを情報工学分野に応用できる力を身につけた技術者

## 資料 2-1-①-2

- C) 共同開発を行う上で必要な討論・計画立案・文書作成能力や開発能力など、技術者としての必修の素養を身に付けた技術者
- D) 問題の本質を的確にまとめ、それらを解決するために自ら調査・学習ができる技術者
- E) 情報通信技術の細部にわたる基本動作原理の習得により、最先端技術の本質的原理をより深い専門的立場で理解できる能力を身に付けた技術者
- F) 基礎数学を基盤とした制御理論の役割を理解し、それらを様々な開発機器に応用できる技術者
- G) 情報工学における知識情報分野の重要性と社会に与える影響力を理解し、それらの基礎技術を様々な開発分野に応用できる技術者

## ○ 各科目の授業内容・到達目標・単位の認定について

- (1) 科目ごとにシラバスに記載された授業内容について、到達目標が達成されている場合に単位が認定される。
- (2) 科目は、内容によって(1)演習付き授業、(2)実験付き授業、(3)実験・演習型授業の3種類に分類され、それぞれ以下のような方法で評価がおこなわれる。

## (1) 演習付き授業

講義中心の授業であり、内容の理解を深めるために演習を盛り込んだ授業。日頃の実験・演習レポート等の評価に比べて定期試験に重点を置いて評価する。

## (2) 実験付き授業

講義と実験・演習の2本立てで構成される授業。実験・演習を重視するため、定期試験と日頃の実験・演習レポートにより評価する。

## (3) 実験・演習型授業

実験・演習主体の授業。原則として定期試験は行わず、日頃の実験・演習への取り組み状況とレポート等により評価を行う。

尚、各科目の形態および詳細な評価方法は各科目の評価法の項を参照のこと。

- (3) シラバスの中に記載された授業内容のうち、\*印がついている項目は発展課題である。これは該当授業の到達目標を超える内容であるが、授業の進度や個々の学生の習熟度に合わせて実施されるものである。

(出典 シラバスより抜粋)

## 物質工学科の教育目標・教育課程

### ○教育目標

近年の科学技術の進歩に伴い、あるべき技術者像が大きく変化しています。従来の専門知識、専門技術に加え、『環境保全意識』、『安全意識』、『国際性』、『多様性』といったものが、21世紀を担う技術者には求められます。言い換えれば、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を明確に認識し、自然科学、人文科学の幅広い素養を身につけた発想力、創造力、問題発見能力に富んだ技術者の育成が急務となっています。

物質工学科では化学という学問を基盤に、各分野でリーダーになれる『理想の技術者』の育成に下記の具体的な目標を掲げて取り組んでいきます。

### ○学習・教育目標

- A) 化学及び化学技術に関する基礎学力及び応用能力を身につける。
- B) 洞察力と研究心に裏打ちされた優れた実験技術を身につける。
- C) 化学技術や化学物質が地球環境や社会に及ぼす影響を理解し、技術者としての責任を自覚できる。
- D) 数学、物理学、コンピュータ利用技術に関する知識を身につけ、それらを問題解決に応用できる。
- E) 日本語及び英語による論理的な思考、記述、発表、コミュニケーション能力を身につける。
- F) 人文科学の学習を通じて、自国および世界各国の文化、歴史を学び、日本と他国の架け橋になれる素養を身につける。

### ○カリキュラム編成方針

- 1) 5年間で物質工学の基礎から応用まで有機的に学べるように各科目を配置する。
- 2) 基礎理論の確認、実験技術の習得・向上を図るため、全学年に実験科目を配置する。特に3学年では課題設定、実験計画作成、実験遂行、報告書作成までを学生主導で行う『創造実験』を配置して、課題発掘能力及び創造性を涵養する。
- 3) 4年生後期にゼミナール2単位、5年生通年で卒業研究10単位を配置し、学生に対するマンツーマン指導、学生同士の自主的学習を通して、物質工学に必要な基礎学力の補強と応用能力の育成を図る。



観点2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校の専攻科は、高等専門学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として設置されており、その修業年限は、2年である。学校教育法（第70条の6）に適合している。専攻科には、機械情報システム工学専攻、電気電子工学専攻、物質工学専攻の3専攻が設置されている（資料2-1-②-1）。各専攻の概要は次のとおりである。

機械情報システム工学専攻は、機械工学と情報工学の融合専攻であり、例えばコンピュータ制御やメカトロニクス分野のような融合分野において、広い基礎学力と深い専門に関する学力を修得すること目的とする専攻である。

電気電子工学専攻は、複雑化、多様化、融合化する電気電子技術を修得するために、電磁気学、電気回路の専門基礎科目から、材料・デバイス、回路、信号処理、システムまでトータルな電気電子科目を修得することを目的とする専攻である。

物質工学専攻、原子・分子の領域から実装置に至るまでの幅広い知識と技術が修得できるように、化学における5つの柱、すなわち、物理化学、有機化学、無機化学、化学工学および分析化学の幅広い分野の科目を修得することを目的とする専攻である。

以上のように、各専攻の構成とその内容や目的は学校教育法の規定に適合している。

また、各専攻の学習教育目標は資料2-1-②-2のように定められている。これは、専攻科の学習・教育目標（前掲の資料1-1-①-3）のうち専門に関する（C）の部分について各専攻ごとに目標を具体化したものであり、それ以外の（A）（B）（D）は全専攻で共通の目標である。このため、本校の学習・教育目標と各専攻の教育目標は整合性が取れている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の専攻科の構成とその内容や目的は、学校教育法の規定に適合している。また、学習・教育目標と各専攻の教育目標は整合性が取れている。

以上により、本校の専攻科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

資料2-1-②-1

**第10章 専攻科**

(設置)

第42条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

第43条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。

(専攻と入学定員)

第44条 専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員
機械情報システム工学専攻	8人
電気電子工学専攻	8人
物質工学専攻	4人

(出典 東京工業高等専門学校学則)

資料2-1-②-2

## 各専攻の学習・教育目標及び教育課程

各専攻の学習・教育目標、教育課程の編成方針、教育方法の特徴、全開講科目名、単位数、必修・選択の別、科目担当者、修得すべき単位数等が記されています。学習計画を立てる際に重要な情報ですので熟知しておいてください。

機械情報システム工学専攻

電気電子工学専攻

物質工学専攻

(出典 専攻科説明資料)

## 機械情報システム工学専攻

### (1) 学習・教育目標

機械工学と情報工学の融合専攻として、次の項目から複数の分野に精通する。

- ・ 電気電子分野の知識を総合してメカトロニクス・制御工学分野に応用できる。
- ・ 材料・熱・流体・機械の力学を理解し、応用できる。
- ・ 材料の加工と機械の製作について理解し、応用できる。
- ・ 力学及び加工方法と関連付けを理解し、機械の設計方法を習得する。
- ・ コンピュータを駆使した信号処理・制御工学分野の技術を理解し応用できる。
- ・ 情報通信分野の技術を理解し応用できる。
- ・ コンピュータを駆使した知識工学分野の技術を理解し応用できる。

### (2) 教育課程の編成方針

学習・教育目標を達成するための科目を配置し、広い基礎学力と深い専門に関する学力を修得できるようにする。特に、機械工学と情報工学とが融合しているコンピュータ制御やメカトロニクスの分野において、幅広い、しかもより深い知識、知見を修得できるような講義内容を有する科目を配置する。なお、融合専攻として、準学士課程の機械工学科卒業生が、学位授与機構から機械工学分野で学士号を取得でき、また準学士課程の情報工学科卒業生が、学位授与機構から情報工学分野で学士号を取得できるように配置する。

### (3) 教育方法の特徴

- ・ 演習・実験を重視し、ものづくりに直結するように配置された専門科目を設置している。
- ・ 本科授業との連携を重視した専門科目座学により基礎学力の充実に図る。
- ・ 学会、学内外発表会などで、多くのプレゼンテーションを主体的に行う。
- ・ 英語の学力を外部評価法である TOEIC を導入して測定する。
- ・ 1ヶ月にわたるインターンシップを実施する。

(出典 専攻科説明資料)

## 電気電子工学専攻

### (1) 学習・教育目標

- ・ 電磁気学、電気回路、物性物理、工業数学などの専門基礎能力を修得する。
- ・ 材料・デバイスから、回路、信号処理、システムまで体系的な電気電子技術を修得する。
- ・ デバイス試作、機能回路設計、集積回路によるシステム実現など、各レベルでのものづくりを経験する。
- ・ 計算機を用いた電気電子工学の応用技術（LSI 設計、通信システム、制御システム、マルチメディア信号処理など）を修得する。
- ・ 研究発表、実習報告、学会発表などを通して、論理的表現力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を修得する。

### (2) 教育課程の編成方針

複雑化、多様化、融合化する電気電子技術を修得するため、電磁気学、電気回路の専門基礎科目から、材料・デバイス、回路、信号処理、システムまでトータルな電気電子科目を設置する。また、これらの科目の実用的な技術を身につけるため、電気電子工学特別実験、電気電子工学特別演習を配置し、かつインターンシップを体験する。さらに電気電子工学の技術者として実践的な研究開発を体得するため、1 年次より電気電子工学特別研究を配置する。これらの過程において、研究発表、実習報告、学会発表などを行い、論理的表現力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力の育成を図る。

### (3) 教育方法の特徴

- ・ 演習・実験を重視し、ものづくりに直結するように配置された専門科目を設置している。
- ・ 本科授業との連携を重視した専門科目座学により基礎学力の充実を図る。
- ・ 学会、学内外発表会などで、多くのプレゼンテーションを主体的に行う。
- ・ 英語の学力を外部評価法である TOEIC を導入して測定する。
- ・ 1 ヶ月にわたるインターンシップを実施する。

(出典 専攻科説明資料)

## 物質工学専攻

### (1) 学習・教育目標

- ・ 物理化学、量子論、量子化学、高分子化学、化学工学の知識を修得し、応用することができる。
- ・ 材料の開発、環境の保全、生物機能の有効利用等に係わる高度な研究開発能力を修得する。
- ・ 物質工学分野の先端的領域における知識や技術を理解できる能力を身に付ける。

### (2) 教育課程の編成方針

原子・分子の領域から実装置に至るまでの幅広い知識と技術が修得できるように、化学における5つの柱、すなわち、物理化学、有機化学、無機化学、化学工学及び分析化学に関する教科目を配置している。これらの知識と技術をより確実なものにするための演習や実験を、必修の物質工学特別演習及び特別実験として課している。本専攻における教育課程の集大成として、物質工学特別研究を1年生から配置し、これにより高度の研究開発能力の養成に努める。

### (3) 教育方法の特徴

- ・ 演習・実験を重視し、ものづくりに直結するように配置された専門科目を設置している。
- ・ 本科授業との連携を重視した専門科目座学により基礎学力の充実を図る。
- ・ 学会、学内外発表会などで、多くのプレゼンテーションを主体的に行う。
- ・ 英語の学力を外部評価法である TOEIC を導入して測定する。
- ・ 1ヶ月にわたるインターンシップを実施する。

観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校では、教育の目的を達成することを主たる目的とした全学的なセンターとして、情報・メディア教育センターと実習工場が設置されている。その概要を次に示す。

情報・メディア教育センターは、コンピュータ演習室(2室)、LL教室、AV教室(4室)からなり、授業にコンピュータ演習やAV機器を用いた授業、英語の授業などで活用されている。また、コンピュータ演習室は空き時間や放課後なども学生に開放し、課題等のために利用することも可能である。また、AV教室は授業のほか、卒業研究等の発表や地域連携・公開講座等の各種事業でも活用される。

実習工場は、授業実習をはじめ、機械工作技術の指導や実験装置の試作などを目的としており、関係する授業をはじめ、卒業研究のための実験装置製作や、ロボコンなどの課外活動等に活用されている。

情報・メディア教育センターの組織と教育上の役割は、資料2-1-③-1に示されたとおりである。また、授業でどのように利用されているかを示す資料2-1-③-2より、全学的に利用されていることがわかる。情報・メディア教育センターは、準学士過程の学習・教育目標のC-3を達成するための授業で多く使われており、本校の教育目的と整合性が取れている。

実習工場の組織と教育上の役割は、資料2-1-③-3に示されたとおりである。また、授業でどのように利用されているかを示す資料2-1-③-2より、全学的に利用されていることがわかる。実習工場は、準学士課程の学習・教育目標の大項目(C)を達成するための授業で多く使われており、また、本校の教育方針に含まれる「実践的ものづくり技術者の育成」に大きく係わっており、本校の教育目的と整合性が取れている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育の目的を達成することを主たる目的とした全学的なセンターとして、情報・メディア教育センターと実習工場が設置されている。活動状況を見ると、全学で共通的に利用されており、構成や役割も本校の教育の目的と整合性が取れている

以上により、全学的なセンター(情報・メディア教育センターと実習工場)が設置されており、それらは教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

資料 2-1-③-1

東京工業高等専門学校情報・メディア教育センター規則

制定 平成 14 年 4 月 4 日

改正 平成 17 年 12 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第 8 条第 2 項の規定に基づき、東京工業高等専門学校情報・メディア教育センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、コンピュータ演習室及びマルチメディア室を所掌し、東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）における共同利用施設として IT を活用した多角的授業を推進し、本校における教育の充実発展に資することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは次に掲げる業務を行う。

- (1) センターの管理・運営に関すること。
- (2) マルチメディアを活用した教育の企画・立案に関すること。
- (3) その他センターに関し必要な事項。

(センター長)

第 4 条 センター長は、専任の教授又は助教授のうちから校長が任命する。

(事務)

第 5 条 センターの事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第 6 条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 14 年 4 月 4 日から施行し、平成 14 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 電子計算室、視聴覚室、LL 室等の管理運営等に関する申し合わせ（平成 11 年 4 月 1 日実施）は、平成 14 年 3 月 31 日限り、これを廃止する。

附 則

この規則は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。

(出典 東京工業高等専門学校規則集)







資料 2-1-③-3

## 東京工業高等専門学校実習工場規則

制定 平成 17 年 12 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第 8 条第 2 項の規定に基づき、東京工業高等専門学校実習工場（以下「実習工場」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 実習工場は、本校の教職員及び学生に対し、機械加工に関連する実習及び教育・研究に関連する機械加工製作を行うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 実習工場は次に掲げる業務を行う。

- (1) 機械工作技術の実技指導に関すること。
- (2) 実験装置の試作に関すること。
- (3) その他実習工場の管理運営に関すること。

(工場長)

第 4 条 工場長は、専任の教授又は助教授のうちから校長が任命する。

(雑則)

第 5 条 この規則に定めるもののほか、実習工場に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。

(出典 実習工場規則)

観点2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

本校では、教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制として、運営会議が設置されている。また、教育課程を有効に展開するための検討・運営体制として、教務委員会が設置されている。委員会間の連携については、組織図(資料2-2-①-1)に記されたとおりである。

運営会議の構成、役割、意思決定プロセスなどは規則により整備されている(資料2-2-①-2)。また、教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制として実際に活動している状況を示す資料として、運営会議開催状況(資料2-2-①-2)および議事録の抜粋を示す(資料2-2-①-3)。

教務委員会の構成、役割、意思決定プロセスなどは規則により整備されており、おおむね月に一回の割合で開催されている(資料2-2-①-4)。また、教育課程を有効に展開するための検討・運営体制として実際に活動している状況を示す資料として、教務委員会議事録の抜粋を示す(資料2-2-①-5)。

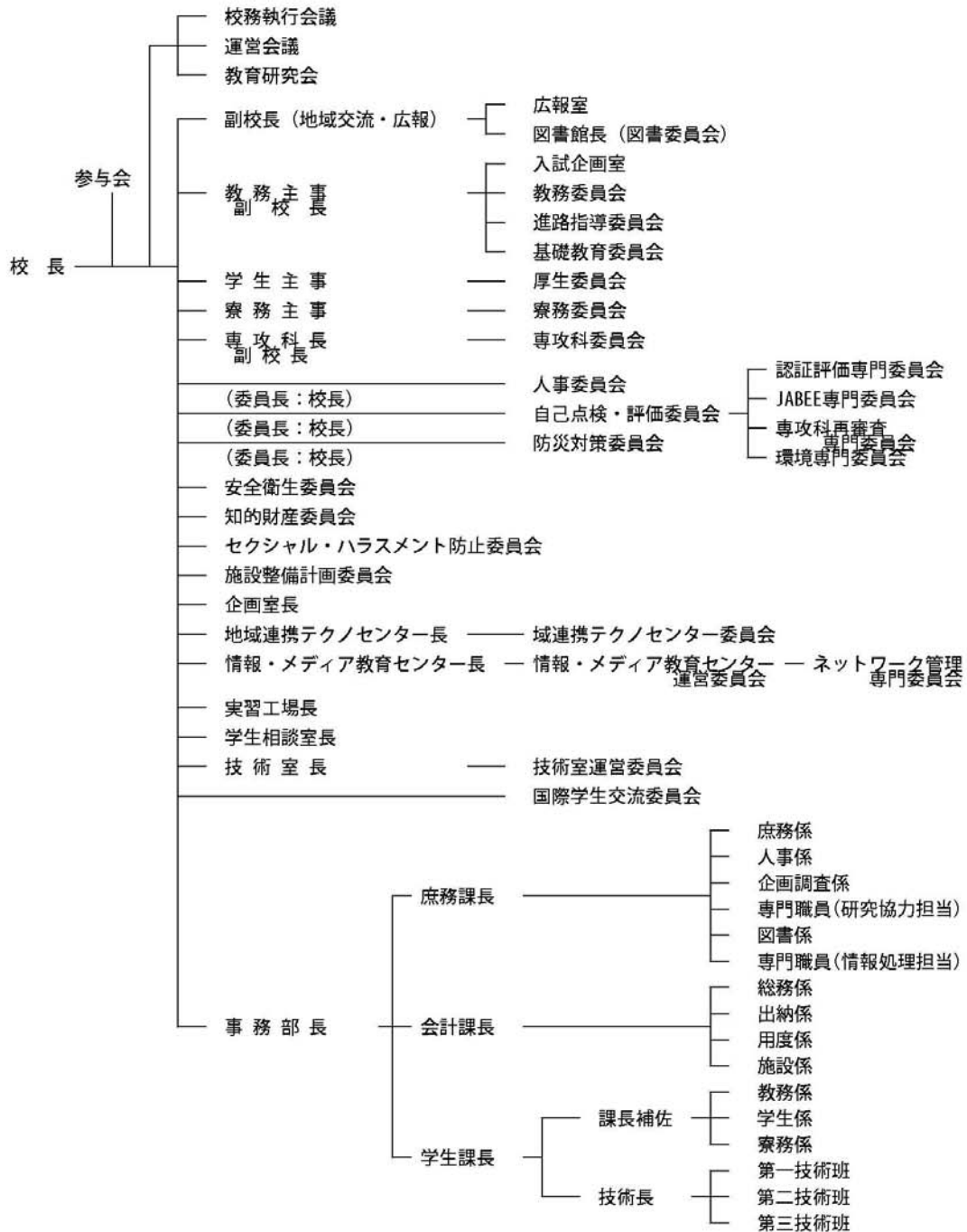
(分析結果とその根拠理由)

教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制として、運営会議と教務委員会が設置されている。これら委員会等の構成、役割、意思決定プロセスなどは規則により整備されている。また、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っている。

以上により、教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っている。

資料 2-2-①-1

東京高専運営体制図（平成18年度）



(出典 総務課資料)

9. 前条第6号、第8号、第9号に定める事項のうち専攻科に関することについては、それぞれ前条第6号については運営会議（専攻科入試関係）、第8号については運営会議（専攻科修了判定）、第9号については運営会議（専攻科特別指導関係）とする。  
 なお、運営会議（専攻科入試関係）及び運営会議（専攻科修了判定）については、第1項第1号から第7号及び学生選考をもって組織し、運営会議（専攻科特別指導関係）については第1項第1号、学生選考、第4号、第6号、第7号、学生選考、学生主幹及び専攻科修了判定の専攻科主任又は指導教員をもって組織する。

10. 校長が必要と認めた場合は、その他の委員を出席させ意見を聴取することができる。  
 （附則）  
 第5条 運営会議は、定例日を定め開催する。ただし、必要のある場合は随時に開催することができる。

第6条 運営会議の事務は、高務課及び学生課において処理する。

附 則

この規則は、平成17年12月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年11月9日から施行する。

東京工業高等専門学校運営会議規則

制定 平成18年11月9日

（趣旨）  
 第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内成組織運営規則第5条第2項の規定に基づき、東京工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。  
 （目的）

第2条 運営会議は、審議機関として管理運営に関する事項を審議し、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

（審議事項）

第3条 運営会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 校務運営及び施設調整に関すること。
- (2) 教員の組織に関すること。
- (3) 学則その他重要な規則の制定、改廃に関すること。
- (4) 学則解釈の基本に関すること。
- (5) 国際交流及び留学生交流協定等に関する基本的な事項に関すること。
- (6) 入学試験に関すること。
- (7) 学生選考の決定に関すること。
- (8) 卒業（修了）の決定に関すること。
- (9) 学生の身分及び処分（退学又は停学）の決定に関すること。
- (10) その他校長が必要と認めた事項。

第4条 運営会議は、次の名号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 主事
- (4) 専攻科長
- (5) 学務長
- (6) 教科代表
- (7) 事務部長
- (8) 監査

2. 校長は、前条第1号から第5号に定める事項について、より多くの意見を聴取する必要があると認めたとときは、拡大運営会議を招集する。

3. 拡大運営会議は前項各号、図書館長、地域連携テクニクセンター長、情報・メディア教育センター長、校務基盤及び専攻主任をもって組織する。

4. 前条第6号に定める事項のうち本科入学試験に関することについては、運営会議（入試関係）とする。

5. 前条第7号に定める事項については、運営会議（学生選考修了判定）とする。

6. 前条第8号に定める事項のうち本科卒業判定に関することについては、運営会議（卒業判定）とする。

7. 第4項から第6項については、第1項第1号から第7号、学生選考及び専攻科主任をもって組織する。

8. 前条第9号に定める事項のうち本科学生に関することについては、運営会議（特別指導関係）とし、第1項第1号、学生主事、第5号から第7号、学生選考、学生主幹及び専攻科修了判定の専攻科主任・学務指導教員をもって組織する。

（出典 東京工業高等専門学校規則集および総務課資料）

資料2-2-①-2

(参考)

	本 科						専 攻 科				
	運営会議	協 大 運営会議	入試関係	学年課程 修了認定	卒業判定	特別指導 関係	運営会議	協 大 運営会議	入試関係	修了判定	特別指導 関係
校 長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副 校 長	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
主 事	○	○	○	○	○	学生主事 のみ	○	○	○	○	学生主事 のみ
専攻科長	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
学 科 長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
教科代表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
図書館長		○						○			
地域連携センター長		○						○			
情報メディア教育センター長		○						○			
技術室長		○						○			
専攻主任		○						○	○	○	○
事務部長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
課 長	○	○	学生課長 のみ	学生課長 のみ	学生課長 のみ	学生課長 のみ	○	○	学生課長 のみ	学生課長 のみ	学生課長 のみ
そ の 他			注1	注1	注1	注2					注3

※ 注1:教務主事補

注2:学生主事補、懲戒対象学生の学級担任又は学級指導教員

注3:学生主事補、懲戒対象学生の指導教員

(出典 東京工業高等専門学校規則集および総務課資料)

資料 2-2-①-2

## 運営会議(専攻科・本科)開催状況

	開催日	主な審議事項
第1回	平成18年4月4日	新構成員の紹介、専攻科報告、教育研究会の開催、教務主事報告、学生主事報告、寮務主事報告 学内規則の制定改廃、学内予算追加配分、広報活動等、JABEE申請、人事委員会報告、名誉教授
第2回	平成18年5月11日	専攻科報告、教育研究会の開催、客員研究員受入要項、高専間教員交流制度実施要項 名誉教授称号授与、学生名簿の取扱、ゲストルーム使用規則、奨学寄附金、共同研究受入 携帯サイトによる入試関連情報、教務、学生主事報告、後援会総会、技術懇談会等
第3回	平成18年6月1日	教育研究会の開催、自家用自動車の業務使用取扱要項、平成19年度入試関連行事日程 学習到達度試験実施要項、奨学寄附金受入、学内予算配分、教室空調機の運用、クラブ顧問の決め方 法律教室、校長メモ、春季関東信越地区校長会議、教務主事、寮務委員会、広報委員会報告 平成18年度後援会役員一覧及び平成18年度予算、高専・中小企業連携プログラム策定検討会報告
第4回	平成18年7月6日	学生の身分異動、教育研究会の開催、在外研究員制度による研究員派遣に関する申合、 高専設置基準の一部改正、JABEE自己点検等、工学(融合複合・新領域)関連分野審査員養成研修会 入学試験の追跡調査、学寮における現状と課題、奨学寄附金、共同研究、受託研究受入 学内掲示板の取扱、クラブ顧問の決め方、教科、学科報告、図書館・センター、国際学生交流委員会報告
第5回	平成18年9月7日	専攻科報告、JABEE受信、学生の身分異動、教育研究会の開催、校長関係(高専が直面している課題) 教職員常勤人件費5%削減対応、高専教員間交流、教職員再雇用規則の一部改正 学校運営の安全管理、共同研究、奨学寄附金の受入、2年生アンケート、寮生の身分異動、憩いの場の設置 学生教移動状況月報、平成18年度関東信越地区教員研究集会
第6回	平成18年10月12日	専攻科報告、JABEE関係報告、教育研究会の開催、非常勤職員等の予算額抑制の対応、学内予算追加 配分、校内分煙、クラブ活動等課外活動の活性化に向けて、運営会議の運営方法の変更等 本校の新しい教育体系を構築するための準備組織の設置、環境関係報告、後援会、教員顕彰の実施 チャレンジウォークの実施、文部省審議官等の視察、秋季関東信越地区校長会議
第7回	平成18年11月9日	運営会議規則、教育研究会の開催、HPの刷新、平成19年度内部組織委員等、オーストラリアTAFE への派遣、ヘルシンキ・ポリテクニクとの協定書の改訂、学生移動状況月報、学校説明会来場者教 校長提案、後援会関係、関東工学協会高専部会、平成19年度入学者選抜試験日程
第8回	平成18年12月14日	教育研究会の開催、フィッシングアシスタント実施要項、教職員表彰規則、学内予算追加配分、 元東工大附属高校中村豊久副校長の本校参観、教科、学科報告
第9回	平成19年1月11日	教育研究会の開催、校長発言、人事委員会報告、都市型KOSEN創成に関する答申、専攻科委員会報告 平成19年度推薦による入学者選抜実施要項、広報室報告、学科等報告、
第10回	平成19年2月1日	教育研究会の開催、教員の教育活動申告等実施要項(案)、校長報告、学科希望調査集計一覧 自学自習室のオープン、学科等報告、平成19年度学力による入学者選抜実施要項(案) 実習工場の役割と今後の改修目標計画
第11回	平成19年3月1日	専攻科報告、学則の一部改正、内部組織運営規則の一部改正、第38回卒業証書授与式・第3回専攻科 修了証書授与式実施要項(案)、平成19年度本科・専攻科入学式実施要領(案) 事務組織2課体制移行、平成19年度2年次学科配属名簿、校長発言、教科、学科、施設等報告 卒業生による学校評価アンケート

\* 第7回運営会議にて、拡大運営会議の組織について、規則改正。

## 運営会議(入試関係)開催状況

	開催日	主な審議事項
第1回	平成18年5月29日	平成19年度専攻科推薦による入学者選考について
第2回	平成19年1月23日	平成19年度推薦入学試験による入学者の選考について
第3回	平成19年2月20日	平成19年度学力試験による入学者の選考について

(出典 東京工業高等専門学校規則集および総務課資料)



## 平成16年度第3回運営会議議事要録

日 時 平成16年6月3日(木) 16時45分～20時10分  
 場 所 第1棟3階会議室  
 構 成 員 20名中欠席者1名(入学主幹)

配布資料 資料 1-1 教員候補者選考委員会の設置申請資料  
 資料 3-1 教員業績のデータベース化と公表について  
 資料 5-1 仮配属混合学級方式について  
 資料 5-2 学生の問題行動の措置について  
 資料 10-1 モバイル活用の情報伝達システムについて  
 資料 11-1 参与会について  
 資料 11-2 委員会等の整理のためのアンケート実施について  
 資料 12-1 教務委員会報告  
 資料 12-2 学寮運営会報告  
 資料 12-3 国際学生交流委員会報告  
 資料 13-1 平成17年度概算要求について  
 資料 14-1 市内中学校教諭パワーアップ研修会への支援

### 5-1 仮配属混合学級方式について

教育委員会委員長から、資料5-1に基づき仮配属混合学級方式導入について、拡大教育系3委員会(教育委員会・教務委員会・外部評価調査検討委員会)での審議結果について報告があった。引き続き、教務主事から、拡大教育系3委員会での審議結果を踏まえて修正案を作成したこと、5月26日開催の校務執行会議で修正案が了承された旨、報告があり、審議の結果、本修正案に基づき、平成17年度から仮配属混合学級方式を導入することが了承された。

校長から、少子化の中で入試倍率2倍以上の維持、高い資質の学生確保などの目標の実現を目指すには、教育改善活動への不断の取り組みが不可欠であり、本提案が有効に機能できるよう実施に向けて全学的に取り組んでいただきたいこと、また、中学生や保護者などへ本案をPRする際は、誤解や思い違いを招かないよう、正確で分かりやすい情報提供が重要である旨、説明と協力依頼があった。

教務主事から、中学生、保護者向けの広報・説明資料の作成に当たっては、中学生が希望を持って進路選択できるような内容とするため、表現に注意して慎重に検討したい旨、説明があり、了承された。

(出典 運営会議議事録抜粋)

資料 2-2-①-4

## 東京工業高等専門学校教務委員会規則

制定 平成17年12月1日

## (趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第7条第3項の規定に基づき、東京工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

## (審議事項)

第2条 委員会は、本科に係る次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育計画の立案及び教務の連絡調整に関する事。
  - (2) 教育課程に関する事。
  - (3) 学生の身分異動及び学籍に関する事。
  - (4) 定期試験に関する事。
  - (5) 学生の学習指導に関する事。
  - (6) その他教務一般に関する事。
- 2 審議結果は、運営会議に報告し、必要に応じ議を経なければならない。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 学科長及び教科代表
- (4) 学生課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

## (任期)

第4条 前条第5号の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

- 2 委員長は委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

## (委員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

## (事務)

第7条 委員会の事務は、学生課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

## 附 則

- 1 この規則は、平成17年12月1日から施行する。
- 2 この規則施行後最初の第3条第5号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日までとする。



資料2-2-①-4

平成18年度 第9回教務委員会記録

日 時： 1月15日（月）16：20～18：50

場 所： 学生課会議室

出席者：小坂、浅野、大野、鈴木（雅）、相澤、古屋、栞田（代理）、黒崎、須原（代理）、鹿毛  
青野、石井、金澤学生課長

- 資料：1. 19年度学年暦（案）
2. 耐震工事に向けてのアイデア集
  3. 学則改正について（情報工学科）
  4. 冬期学校実施に伴い授業ができない科目の取り扱いについて
  5. 学生の身分異動について（回収資料）
  6. 一般科目からの進級基準改正（案）の提案
  7. 振替授業調査結果
  8. 「モノ作り・人作り全国フォーラム in 東京」の参加について

（中略）

教務委員会は月1回を予定している。

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| 第 1 回は 4 月 17 日（月曜日）  | 済 |
| 第 2 回は 5 月 15 日（月曜日）  | 済 |
| 第 3 回は 6 月 12 日（月曜日）  | 済 |
| 第 4 回は 7 月 10 日（月曜日）  | 済 |
| 第 5 回は 9 月 11 日（月曜日）  | 済 |
| 第 6 回は 10 月 16 日（月曜日） | 済 |
| 第 7 回は 11 月 13 日（月曜日） | 済 |
| 第 8 回は 12 月 11 日（月曜日） | 済 |
| 第 9 回は 1 月 15 日（月曜日）  | 済 |
| 第 10 回は 2 月 5 日（月曜日）  |   |

（出典 教務委員会資料）

資料2-2-①-5

## 平成18年度 第5回教務委員会記録

日 時：9月11日(月)16:20～ 20:15

## 1. 審議事項

## (1) 本校FDの開始について

## ① 学科での議論の結果集約

第4回教務委員会において教務主事より提案のあったFDの実際として、「すぐできること」「検討して実施すること」について学科での議論の結果が報告された。

全体的にFDの必要性については概ね理解が示されたが、イコール個人の評価に繋がるのではとの懸念が報告された。これについて、事前配布資料に基づき、個人評価そのものが目的とされていないことを教務主事が明言した。

また授業アンケート結果の公開については、選択項目だけのアンケートでは意見が汲み上げられないし、記述式は信憑性の問題がでてきそうである。授業改善に役立つアンケートの問い方にも工夫が必要ではないかとの意見があった。一般科目からは、授業の公開を始める前に教科ごとのFDの必要性とのための研修機会の確保の依頼があった。

## ② 授業方法改善の課題として教務主事より下記の提案があり、意見交換が行われた。取りあえず後期から着手できるところから実行してみるということで、ロ)、ハ)、ニ)、ホ)に取り組むこととした。

なお、ニ)については記述式の部分の取り扱いについては後日議論することとし、選択項目の部分を開示することとした。

また、イ)については、実施の具体案を基にした議論を継続することとした。

## イ) 授業公開について

授業を校長、教務主事が採点するわけではない。他の教員の授業を参観しながら、よりよい授業を目指せるように実施する。

- ・授業方針、授業シラバス、公開日の授業内容のまとめを配布する。
- ・授業公開(熟意、授業準備、授業態度、学生の授業参加状態)のチェックポイント。
- ・授業参観のまとめ(授業方針、シラバス、授業の流れ、授業内容など)を見学者もまとめる。
- ・1週間に1回は1公開授業を実施すると年間20人が公開できる。4年間で全教員が1回は公開授業ができる。

## ロ) 試験問題・模範解答(配点)の教員間公開について

自分以外の教員の試験問題や配点を見ながら、よりよい授業を目指せるように実施する。学生への公開は議論の後で行う。

## ハ) 科目成績評価分布(教科ごと)、学生成績分布の教員間公開(D評価単位数、GPA)する。すでに1年生ではクラス単位および1学年で学生保護者に科目成績評価分布(教科ごと)を開示している。

## ニ) 学生の授業評価結果の教員・学生への公開について

## ホ) 中間評価(記述式4項目ほど、集計は各自、すぐフィードバック)を行う。

短いもので「私がこの科目担当教員だったら次のように内容を改善します」の後ろに各学生が記述のような形式にし、雛形を紹介することとした。

## ヘ) 授業改善の継続的な努力の発表・共有(教育研究会、研究報告書)について

## 平成18年度 第6回教務委員会記録

日 時：10月16日(月)16:40～19:10

## 1. 審議事項

## (1) 本校FDの開始について(継続)

このことについて教務主事より前回からの継続審議事項として、授業公開の具体案が提案され、意見交換を行い、下記のように進めることとした。

## イ) 授業公開について

FD・授業改善のための方法として位置づける。公開する側は授業改善のヒントを得、見学者はよいところを自分の授業に生かすことができる。教員を執行部が評価するわけではない。

(出典 教務委員会議事録)

資料 2-2-①-5

3つの性格の授業公開を行う。①、②については取りあえず手を挙げていただいた方から実施していただく。③については、11月よりすぐ実施するので、該当学科での準備依頼があった。

- ①授業の工夫を行ったのでぜひ見学していただいて意見が欲しい。
- ②授業を行っているが、うまくいっていないような気がする。ご意見をいただいて、授業改善に心がけたい。
- ③新任の助手、助教の研修として、専門科目・一般科目を見学し、レポートを提出する。見学者本人のFD履歴とされる。

(具体案)

- ・公開教員は授業方針、授業シラバス、公開日の授業内容のまとめを配布する。
- ・見学教員は、授業改善に向けての意見、自分の授業に生かしたいところをレポートとしてまとめる。
- ・授業参観のまとめ(公開教員・見学教員の提出したもの)を公開し、蓄積する。  
(ファイルサーバへ)

- ロ) 試験問題・模範解答(配点)の教員間公開について  
学生への公開は議論の後で行うこととして、教員間公開を行う。ファイルサーバへの蓄積方法、場所等については、シラバス等の一連の作業となるので、JABEE専門部会の提案を待つこととした。
- ハ) 科目成績評価分布(教科ごと)、学生成績分布の教員間公開(D評価単位数、GPA)をする。  
ファイルサーバへ蓄積し公開することとした。
- ニ) 学生の授業評価結果の教員公開を試行することとした。学生への公開については試行結果を見て議論することとした。
- ホ) 中間評価(記述式4項目ほど、集計は各自、すぐフィードバック)については、中間試験の頃に行い、その後の授業に反映させていくこととした。質問事項等は各科目教員が工夫する。生データを残す必要はないが、改善の履歴を残すようにすることとした。
- ヘ) 授業改善の継続的な努力の発表・共有(教育研究会、研究報告書)について  
今年度より試行している新単位の科目の授業の結果を11月の教育研究会で報告することとした。

平成18年度 第7回教務委員会記録

日 時： 11月13日(月) 16:20~18:20

### 3. 報告事項

#### (1) 本校FDの進捗状況について(継続)(資料5)

このことについて資料5(前回の資料を一部修正した)が教務主事より提示され、順次結果を下記のディレクトリにおいて公開することとした。

- ①授業公開について(公開した側、見学側)・・・file/授業記録/2006年度/授業公開
- ②試験問題・模範解答の公開について・・・file/授業記録/2006年度/学科/学年/科目
- ③科目成績評価分布の公開について・・・file/授業記録/2006年度/成績集計
- ④学生の授業評価結果の公開について・・・file/授業記録/2006年度/授業アンケート
- ⑤授業の改善(中間評価アンケート)履歴について  
・・・file/授業記録/2006年/学科/学年/科目

中間試験頃に学生に対して授業アンケートを実施し、生データを残す必要はないが、改善の履歴を残すこととした。

- ⑥教育改善の発表については、教育研究会等で発表することを前回の委員会において確認している。

(出典 教務委員会議事録)

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

一般科目を担当する教員と専門科目を担当する教員の連携は、一般科目の教科担当教員グループと専門学科教員の話し合いを通して連携が図られてきた(資料2-2-②-1、資料2-2-②-2、資料2-2-②-3、資料2-2-②-4、資料2-2-②-5)。現在では、一般科目教員を各専門学科に分属させることにより(現地閲覧資料を参照)、一般科目を担当する教員と専門科目を担当する教員の連携が日常的に行われている。

授業の内容や進度についての連携が機能的に行われている状況を分析するために、一般科目担当教員グループと専門学科教員の話し合いの結果がシラバスに反映されている例を資料としてあげる(資料2-2-②-7)。この例では、「電磁気学をもっと早い時期に教えてほしい。」という専門学科からの要請を受けて、電磁気学の講義を、2年生の後半から2年生の最初に移動している。

(分析結果とその根拠理由)

必要に応じて開催される一般科目の教科担当教員グループと専門学科教員の話し合い、及び、一般科目教員の専門学科への分属によって、一般科目及び専門科目の連携が図られる体制が整備されている。また、相互に関連を持つ一般科目及び専門科目の授業の内容や進度について、教育課程全体から見た調整等が、担当する教員間の連携等により、必要に応じて行われている。

以上により、一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われている。

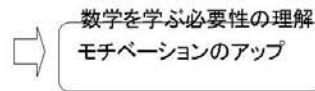
資料 2-2-②-1

### 数学科FD報告

1. 3年到達度試験について
2. 数学総合演習について
3. 物質工学科との連携について

### 3. 物質工学科との連携について

- ・物質工学のどのような場面で数学が使われるか、専門学科の先生より学生に話をしてもらう。



- ・「積分の利用」「微分方程式」について、石井先生、三谷先生にそれぞれ話をさせていただきました。

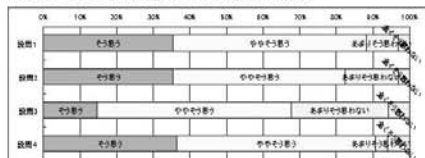
### アンケート

設問1・専門の先生の話聞いて、微分積分が今後必要なことがわかった。

設問2・専門の先生の話聞いて、微分方程式が今後必要なことがわかった。

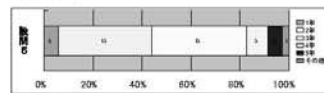
設問3・専門の先生を数学の授業で聞くのは興味深かった。

設問4・このような話を聞くことは意味がある。



### アンケート

設問5:このような話を聞くのは何年が適当だと思いますか。



自由記述欄より:

- ・微分の話聞くのは、微分を習っている2年がよい
- ・ほかの教科とリンクしていることがわかると数学もやるう！という気になる。

(出典 教育研究会資料)



以下の内容で、専門学科教官と物理教官の話し合いがもたれた。  
(大野先生は外地留学中)

\*\*\*\*\*

「応用物理」新カリキュラムについての話し合いの御案内

一般科目 物理科 潮 秀樹  
前段真治

現在、教育課程等検討ワーキング・グループで全校的な新カリキュラムの検討が行われております。物理科が提案しております「応用物理」新カリキュラムについて、専門学科の先生方と物理科とで、話し合いの場をもちたいと考えております。

日時:2001年 5月 21日(月) 16時30分 - 17時30分  
場所:一般科目 会議室(1棟2階トイレ左)

新カリキュラムは、潮先生が教育研究会で報告をしましたが、より多くの先生方のご意見を伺いたいと思います。新カリキュラムの内容は、「明日を拓く指標」p20に掲載しております。

なお、資料の準備等のため、参加される方は、前段までメールにて6月7日(月)までに連絡願います。

以下の内容で、専門学科教官と物理教官の話し合いがもたれた。  
(大野先生は外地留学中)

\*\*\*\*\*

M 科 および C 科 教官各位

「応用物理」新カリキュラムについての話し合いの御案内

一般科目 物理科 潮 秀樹  
前段真治

現在、教育課程等検討ワーキング・グループで全校的な新カリキュラムの検討が行われております。物理科が提案しております「応用物理」新カリキュラムについて、専門学科の先生方と物理科とで、話し合いの場をもちたいと考えております。

日時:2001年 5月 10日(木) 16時30分 - 17時30分  
場所:一般科目 会議室(1棟2階トイレ左)

新カリキュラムは、潮先生が教育研究会で報告をしましたが、より多くの先生方のご意見を伺いたいと思います。新カリキュラムの内容は、「明日を拓く指標」p20に掲載しております。

なお、資料の準備等のため、参加される方は、前段までメールにて5月7日(月)までに連絡願います。

皆様の参加をお待ちしています。

(出典 教科研究案内資料)

平成17年度 第3回専攻科英語教育プロジェクト打ち合せ記録

文責：三谷

日時：平成17年10月4日（火）10:00-11:40

場所：学生課小会議室

出席者：村井、青木、鈴木理、小嶋、ガイツ、三谷

1. 専攻科2年生のTOEICスコアの状況

本年7月24日のTOEICテストまでの状況では、400点未満が5名（1期生はこの時期7名）となっている。修了目標の550以上に達した学生は留学生を除くと1名で、1期生の同時期と比べると、高スコアの割合が増減している。修了要件という強制力が無くなると、高スコア側の伸びが抑えられることがわかった。

2. 400点未満の学生に対する指導

400点未満の学生5名に対しては、引き続き個別の対応や特別指導指導教員の協力を得て修了までに400点を突破するよう指導する。

3. 来年度の体制

(1) e-learning

現2年生、1年生、入学予定者に対するe-learningのトレーニング状況から、平均スコア80以上のレベルに達すれば、ほぼTOEIC400以上になることが明らかになった。

今後はe-learningの効果をより明確にするため、専攻科入学前後で次のような対応をすることにし、専攻科委員会に諮ることとした。

- ①専攻科出陣時に過去2年以内に受けたTOEICテストのスコア（TOEIC-IPを含む）のコピーを提出することを義務づける。ただし、選考には使わないことを明記する。
- ②毎年12月に行われるTOEIC-IPを受験するよう1年生全員に義務づけ、受験費用は入学時に徴収するものとする。

③1年生の間にTOEIC公開テストを受験することを義務づけ、受験費用の半額は後援会から補助して頂くよう、今後後援会に検討を依頼する。

④②、③で述べた1年次におけるTOEIC-IP及びTOEIC公開テストの受験は、英語演習Ⅰ及び英語演習Ⅱの履修要件とする。来年度のシラバスにもその旨記載する。

(2) 重点配分

重点配分で申請中の自学自習支援プロジェクトについては、予算が通った後実施方法を早急に検討する。

(3) 実際に英語を使う機会の確保

英語能力の定着には、出来る限り多くの場面で英語に触れることが大切である。特別研究の中間発表において、10分の発表のうち2～3分程度をpptを使って英語で話すようにする。全専攻一斉にこの方式を導入するのは難しいので、可能な専攻、研究室、あるいは学生から始めるよう専攻科委員会に提案する。なお、発表原稿は必ず指導教員がチェックした後、学生がガイッツ先生とのman-to-manでの最終チェックを受けるようにする。

4. 2年後のレビュー審査に向けての準備

(1) 本校専攻科としての英語教育の到達目標

(2) 到達目標を達成するためのカリキュラム設計

19年度受審に向けて、今年度から上記(1)、(2)についての検討を開始するため、プロジェクトメンバー各自で意見をまとめておくこととした。

5. その他

後期からは出来る限り毎月1回打合せを行うこととした。

2004年7月7日

科目ワーキンググループ（国語）答申【要旨】

科目ワーキンググループ（国語）  
細戸、西村、吉本、中川

本校では、平成17年度から第1年生に総合学習制が実施されることに伴い、低学年の基礎教育の見直しが適時的に図られることになりました。そこで、当ワーキンググループでは、教養委員より依頼を受け、低学年における国語教育についての現状のあり方を検討すべく「書讀を重ね、その結果についてご報告し、答申いたします。

なお、ここでは要旨のみを記すこととし、詳細については別紙答申（本文）に述べることといたします。

はじめに、当ワーキンググループに課せられた問題は、次の三点に なります。

- (1) 「文章を書く、読む」といった基本的能力を養うために、読書の習慣を身に付けさせるにはどうしたらよいか。
- (2) 新聞の論理や科学的な読み物のような論議文をいかに多く扱うか。
- (3) 現行の国語・古典の科目内容は適切か。

これらについて具体的な検討に入る前に、まず本校で行われている国語教育での現状を分析し、今後の低学年教育を考えるにあたり、次のような手戻を踏んで書讀することといたしました。

1. 本校における国語教育の動機づけ
2. 5年間の教育目標
3. 2を踏まえた低学年教育の具体的な方策

1. については、次の三点に要約できます。

- 国語教育の動機づけ
- A. 日本語コミュニケーション（文書力・発表力）を身につける。
  - B. 読解力・思考力を通して、パラソルのよれた人間形成をめざす。
  - C. 国際舞台でのコミュニケーションに必要な日本語文化への理解を深める。

2. 5年間の教育目標

これらの動機づけに基づいて、高専5年間で専門教育との関連から3段階に分け、以下のよる教育目標を掲げました。

- 低学年 読解中心の教育
- 3年 読解力に基づいた自己表現力への展開
- 4・5年 専門科目に即した自己表現力の実践

以上の国語教育の枠組みを踏まえ、前述のワーキングに課せられた課題を検討した結果、次のよ

りな教育方針に至りました。

3. 低学年教育の具体的な方策

3-1. 読解力

・教科書で扱う教材を精選する。

教材は、論議もなるべく多く扱うが、人間としてどうあるべきかを考えさせる教材(文学等)も能率通り取り入れ、パラソルのよれた教材選びを行う。

そのため、内容については基本的に従来の通りでかまわないという結論に至った。(議題②)。(3)

・読書の習慣を身につけさせる。(議題①)

まずは、読書するきっかけをいかに与えるかが大事。

最終的には読書ノート等に記録させ、レポートとして提出。評価の対象に加えるといった方法も検討する必要がある。

案1) 全学的な読書週間を設け、その間に行われる読家の中で各先生に「学生に薦めたい本」を紹介してもらう。

案2) 国際科でお薦めの本を一覧にして、年間を通して、年間を通して多くの書物を読むことにチャレンジする。

案3) 夏休みなどに各課毎の読書に挑戦させ、読破することで達成感を味わわせる。

3-2. 文章表現力

低学年では、文章の書き方の基礎を習得する必要があります。そのためには、

- ・ 多くの文章を読む、基礎的な文章力を体で吸収する。(3-1参照)
- ・ 国語の授業内で、文の書き方を基本から教える、標準的な文章の書き方を習得させる。
- ・ 国語以外の時間(他の科目、学校行事、私的な場)でも、文章を書く機会をできるだけ多く持ち、自分の文章がきちんと相手に伝わっているかを常に確かめながら学習する。

3-3. 読書力

まずは、人間に立って自分の考えを持っていることを表現できるようにする。

3-4. 日本語・日本文化への理解(主として「古文」「漢文」)

- ・ 動機づけが大事。OBや先輩方から、海外で日本についてどんなことを聞かれたかなどを話題を通してもらう。または、留学生、交流の学生に日本文化を説明する等の機会を設ける。
- ・ 読書だけでなく、八王子の軍人財団の読書など古典賞品に触れたり、自分たちで調査、発表することによって、興味を持たせる。

3-5. 「基礎学力演習」の展開案

- ・ 情報リテラシーと読解、文章表現力を養い、情報収集の仕方、ネット等を使う。総合学習の授業の一環として、情報機器の活用習得が前提にあるが、そのような機器習得をめざす一方で、ネット上で自己表現する際の必要事項、注意事項などを同時に学ぶ場として、各教科教員の協力の下に担当する。
- ・ 作文習熟度別授業

資料 2-2-②-4

- 3-6. 授業時間の形態についての提案  
 全科目を二時間制にするという案を差入れると、次のような形態が考えられます。  
 現国1 2単位 現行 週1時間×2 ⇒ 改定案 週2時間 2学年  
 古典1 1単位 現行 週1時間 ⇒ 改定案 週2時間 半期終了

しかしながら、低学年の国語教育では、50分(45分)授業の方が望ましいと考えます。  
 <理由>

- ・ 低学年ではまだ100分(90分)授業では集中力が持続せず、全教科を2時間制にするこ  
 とは、かえって学生の学習意欲をそぐ結果になりかねない。
- ・ 1時間ものの授業を組み入れることによって、時間制に変化を持たせることができ、  
 学習効果を高めることができる。
- ・ 時間制を構成する際に、1時間ものの教科の組み合わせを考慮すれば、支障になると  
 は考えにくい。

### 3-7. 全学的な能力体制の必要性

日本語による表現力は、国際活躍の授業以外でも常に試されているといっても過言では  
 ありません。そこで、最後に次のような提案を掲げ、全学的な取り組みとしてご審力を仰  
 ぎたいと思います。

- ・ 工務見守などの学校行事によるレポートのチェック。
- ・ 国語以外で課せられるレポート帳での日本語表現力のチェック。

以上。

(出典 国語ワーキング答申)



- 3-6. 授業時間の形態についての提案  
 全科目を二時間履修にするという案を受け入れると、次のような形態が考えられます。  
 現国1 2単位 現行 週1時間×2 ⇒ 改定案 週2時間 課外  
 古典1 1単位 現行 週1時間 ⇒ 改定案 週2時間 半期修了
- しかしながら、低学年の国語教育では、50分(45分)授業の方が望ましいと考えます。  
 <理由>  
 ・ 低学年ではまだ100分(90分)授業では集中力が持たず、全教科を2時間履修にするこ  
 とは、かえって学生の学習態度をそぐ結果になりかねない。  
 ・ 1 期間もの授業を組み入れることによって、時間間に変化を持たせることができ、  
 学習効果を高めることができる。  
 ・ 時間を構成する際に、1 期間もの教科の組み合わせを考慮すれば、互換になると  
 は考えにくい。
- 3-7. 全学的な能力体制の必要性
- 日本語による表現力は、国際標準の授業以外でも常に賦与されているといっても過言では  
 ありません。そこで、最後に次のような提案を掲げ、全学的な取り組みとしてご協力を仰  
 ぎたいと思います。
- ・ 工学見学などの学校行事によるレポートのチェック。
  - ・ 国際以外で履修されるレポート類での日本語表現力のチェック。

以上。

(出典 国語ワーキング答申)

技術者倫理科研究費検討会第2回記録

日時：2005年5月24日16時30分～18時35分  
 場所：川北教員室  
 出席者：河村、本村、浅野、庄司、川北  
 (欠席：川北)

テーマと経緯

1. 日本学術会議によるアンケート制について  
 6月19日付で日本学術会議から全国の関係各機関代表者あてに、「科学者の行動規範」および「科学者の倫理綱領・行動規範の設置状況等」に関するアンケートが発送された。
2. 今後のわれわれのアンケートのあり方について  
 川北がHPからダウンロードした文書が出席者に参考資料として配布された。  
 ・ アンケート質問文についてのアイデアを各自これから練る。  
 ・ 浅野先生にそれ用のフォルダをxFileoon.上にお作りいただく。  
 ・ 各自そこにアイデアを書き込んでいく。  
 ・ 浅野先生をコーディネーターとして全員で真にまとめあげる。  
 ・ 発送は9～10月を予定。

3. アルバイトの方へ仕事内容・報酬・報酬・権利・権利等  
 ・ アンケート発送予定先(金高専、近畿工科大学、長岡、豊橋科学技術大学)のデータベース作成(郵便番号、郵便局、住所、電話番号、HPアドレス)  
 ・ 北海道大学による調査研究報告書のPDF化  
 ・ 東京高専等のうち技術者倫理関係分のデータベース作成(自次の裏立ても含む)  
 ・ 東京高専等以外の技術者倫理関係図書の後装(とくに新刊を中心に)  
 ・ 秋以降には、全国各校における技術者倫理関係授業のシラバスをデータベース化  
 ・ 早ければ6月第一週(第二週)の金曜日から週3時間お願いできないか、川北が中村さんに打動する。  
 ・ パソコンは河村先生のもを当座お借りする。  
 ・ プリンターはどうするか未定だが、パソコンともいわず新規購入を予定する  
 ・ データベースの書き込みはアクセス等を利用した枠組みを、浅野先生にお願いいただく  
 ・ 初回までに、河村先生と川北で中村さんに面接する。
4. その他  
 ・ 北九州での日程は、7月28(金)10:30 河村先生発表  
 29(土)午前(技術者倫理フォーゲータイズトセッション)  
 30(日)9:00 本村先生発表  
 (録音は科研費から支出する。6月半ばに河村先生と浅野先生を予約)

- ・ 7月18日の教育研究会では、科学技術者の不正行為に関する調査を話し、あわせて技術者倫理授業への参加協力、およびアンケートへの調査協力を各教員にお願ひしたい。調査会のための内部もしくは外部部会を予定。調査会には既に1回開催したい。

以上

(出典 社会科教科研究資料)

技術者倫理科研究費検討会第3回記録

日時：2006年7月12日17時30分～18時45分  
 場所：川北教員室  
 出席者：河村、本村、浅野、庄司、川北  
 (欠席：川北)

5. アンケートのあり方について  
 ・ 浅野先生にそれ用のフォルダをサイトに作りいただく。  
 ・ 各自そこにアイデアを書き込んでいく。  
 ・ 9月に全員でまとめあげる。  
 ・ 発送は10～11月。
6. その他  
 ・ アルバイトの方の夏休み中の勤務予定については、河村先生に確認いただく。  
 ・ 北海道大学による調査研究報告書を回覧する。本村先生→浅野先生→庄司先生→川北→河村先生の順。  
 ・ 夏が配分経費にて、新規パソコン、プリンター、スキャナー購入を見込む。  
 ・ 技術者倫理関係図書で、購入を急ぎたいものについては、7月半ばまでに、浅野先生がサイトに作成下さるフォルダに各自、書き込む。  
 以上

技術者倫理科研究費検討会第5回記録

日時：2006年10月20日12時00分～12時40分  
 場所：一般科目事務室  
 出席者：河村、本村、浅野、庄司、川北

(欠席：川北)

アンケート第1案(浅野先生作)にもとづき、おもに出下のような意見の交換がなされた。

- ・ 設問は第1案でのⅢ、Ⅳの順とし、記入者名は最後に任意で書いてもらう。  
 最初に匿名の知識、理解のきっかけ、その後の詳細などを聞いてもらう。
- ・ 選択肢にいくつでも○や◎を付したり、自由記述を取り入れたりして、書きやすくしたい。
- ・ 所属学会について記入してもらう。
- ・ たとえば「倫理学講習員」、「研究費管理」を選択肢に追加する。
- ・ 回答者の「知識」、「意識」、「意見」を聞きたい。

.....

次回は来週中の星休みの予定。

以上

資料 2 - 2 - ② - 5

2006年2月5日 経済者倫理教育研究チーム打ち合わせ会議記録

場所 : 多目的室1

時間 : 12:00~13:05

出席 : 阿村、木村、徳野、庄司、川北

## 議題及び経緯

## 1. 本校でのアンケート実施準備について

- ・ 2月13日(火) 16時30分から本校学業部・玉川講師の研究発表会があり、その終了後に所要の作業を行う。→阿村先生には場所の予約・連絡をお願いいたします。
- ・ 翌14日(水)には金専任教員メールアドレスに送付予定。
- ・ 提出が即ち23日(金)とする。

## 2. 木村先生ご提案の日工協賛表

- ・ 8月3、4、5の日工協賛期間中に日本理工学部キャンパスにて、計3本理協の発表を行う。参加・交通費用は重名配分予算から支出する。→発表手続きに際するお知らせ等、木村先生にお願いいたします。

## 3. 阿村先生ご提案の3月の見学旅行

- ・ 3月12日(月) (または3月26日(金)、午朝JAL見学のみ、2泊3日で本県にて調査・見学・研修をおこなう。費用は経研費から支出する。→出張手続きに際するお知らせ等、阿村先生にお願いいたします。

## 4. 再来年度の教科書

- ・ 再来年度の専攻体「技術者倫理」教科書は、松島隆祐編『技術者倫理』(学術図書出版、2000円+税)を採用する。

以上

(出典 社会科教科研究資料)



（編者） 教科目名 物理	
<b>教科書</b>	小澤謙三(編)『産業の物理(第5版)』, 森北出版
<b>追加教科書</b>	物理実験テキスト: 東京理科大学株式会社 実験レポートを必ず提出すること。
<b>参考上の図書</b>	教科書と実験レポートにより、物理界の基礎である電磁気、熱力学、波動、原子核物理学の4分野について 懇話していることを基準とする。 定評のある、レポートなど25%
<b>評価基準</b>	JABEE (D) (D)
<b>評価項目</b>	高度教育 10%

教科目名 物理	
<b>担当教員</b>	河 秀樹
<b>学年、学修等</b>	2年 一般科目 (自然系)
<b>単位数、期間</b>	2 単位 2週間 (合計 80 時間)
<b>授業の目標と概要</b>	本科目では、電磁気、熱力学、波動、原子核物理学の4分野について関連ある興味を取り入れながら体系的な講義を行う。この学習することのいくつかは、後々日常生活で何気なく使っているものもある。これらの基本的事項を学び、「目的別に学習する」態度を養って欲しい。
<b>カリキュラムにおける位置づけ</b>	2年次の物理、化学、強化学習とする。 応用物理、電磁気学、電磁気学、熱力学、物性化学、基礎電子素子光学、量子化学などの基礎につながる。
<b>授業の内容</b>	7 7
1 電磁気	7
1-1 静電気	
1-2 電磁誘起	
2 波動	0.5
2-1 波動の上を走る波	0
2-2 平面・球面波に伝わる波	0
2-3 光波	0
3 原子核	0.5
3-1 原子核の構造、放射線、核反応	0.5
3-2 放射線と生物	0
3-3 放射線と原子核	0
3-4 エネルギー保存則	0
4 原子核と物質	0.5
4-1 原子核と物質	0.5
4-2 原子と物質	0
4-3 原子と物質	0
4-4 エネルギー保存則	0
5 放射線と物質	0.5
5-1 放射線と物質	0.5
5-2 放射線と物質	0
5-3 放射線と物質	0
5-4 エネルギー保存則	0
6 放射線と物質	0.5
6-1 放射線と物質	0.5
6-2 放射線と物質	0
6-3 放射線と物質	0
6-4 エネルギー保存則	0
7 放射線と物質	0.5
7-1 放射線と物質	0.5
7-2 放射線と物質	0
7-3 放射線と物質	0
7-4 エネルギー保存則	0

**観点 2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。**

(観点に係る状況)

人間の素養の涵養に関する教育として、担任・学級指導教員や課外活動の指導教員が行う教育活動が挙げられる。これらの活動を円滑に実施するための物的ならびに人的支援体制が機能しているかどうかについて最初に分析する。担任・学級指導教員を人的に支援するシステムとしては、副担任制(2年生以上)と二人担任制(1年生)が挙げられる(資料2-2-③-1)。専門学科によるこの支援は、工場見学の企画(資料2-2-③-2)、クラス運営における問題の解決のための支援、個別の学生の指導に関する支援などである。そのほか、学生相談室による支援もあり、実際に機能している(資料2-2-③-3)。課外活動の指導教員(クラブ顧問)に対する人的支援としては、学外コーチの制度が上げられる(資料2-2-③-4)。財政的な支援としては、担任・学級指導教員に対してはクラス運営費(現地閲覧資料を参照)、クラブ顧問に対しては旅費などを支給する制度(資料2-2-③-6)があり、実際に機能している。

次に、担任・学級指導教員の活動そのものが教育活動を円滑に実施するための支援体制として機能しているかどうかについて分析する。担任・学級指導教員は、成績が良くない学生との個別面談や保護者との面談を行い、奮起を促している(資料2-2-③-7)。これらの活動は、教育活動を円滑に実施するために機能している。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、副担任制度と二人担任制度があり機能している。また、学生相談室による支援の制度もあり機能している。財政的な支援としては、クラブ顧問に対する旅費の支給などの制度があり機能している。

以上により、教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能している。

資料2-2-③-1

1年生担任一覧(平成17年度～19年度)

H17年度		H18年度		H19年度	
1年1組	清水、松戸	1年1組	清水、松戸	1年1組	村井、清水
1年2組	玉田、川北	1年2組	玉田、川北	1年2組	竹田、伊藤浩
1年3組	加藤、潮	1年3組	加藤、潮	1年3組	堀、大塚
1年4組	吉本、竹田	1年4組	吉本、竹田	1年4組	関根、鈴木孝
1年5組	町田、相澤	1年5組	町田、相澤	1年5組	黒田、町田

(出典 学生課資料より作成)

資料2-2-③-1

H19年度校務分担(2007/2/8)

黒崎	専攻科長	
福田	教務主事補	実習工場長
木村	⑦安全衛生委員	3M副担任
斉藤	学科長	
清水	1年担任	
前段	3M担任	
小中澤	2M担任	
筒井	4M担任	
下井	5M担任	
多羅尾	⑤JABEE・認証評価委員	⑥シラバスWG委員
堤	2M副担任	
竹田	1年担任	
川北	学生主事補	
黒田	1年担任	

(出典 機械工学科内資料)

資料2-2-③-1

平成18年度 電気工学科案内

13. 教員及び校務分担

(1) 電気工学科教員

職名氏名	居室(室番号)	担当科目(単位数)	担当業務
教授 大貫 繁雄	教員室(3409)	電磁気学Ⅰ (2)	4 E学級指導教員
	実験室(3410)	電磁波基礎 (1) 回路網理論 (2) 電磁波工学 (1) ものづくり基礎工学 (5) 創造電気実験Ⅳ (3) 卒業研究 応用電磁工学* (2)	
教授 伊藤 彰	教員室(3301-1)	プログラミング言語Ⅱ (2)	学科学長 教務委員 4,5E副学級指導教員(進路指導委員兼) 2~3 E副学級担任 学科学長関係各種委員
	実験室(3301-2)	アナログ回路Ⅰ (1) アナログ回路Ⅱ (1) 情報通信工学 (1) 創造電気実験Ⅱ (4) 創造電気実験Ⅳ (3) 卒業研究 信号処理特論* (2)	
教授 土井 淳	教員室(3303-2)	電磁気学Ⅱ (2)	3 E学級担任 副学科学長 教職員懇親会幹事 教職員懇親会幹事 ( <u>厚生連関係指導教員</u> ) ( <u>くぬぎだ発学科企画指導(副)</u> ) ( <u>学生会幹事</u> )
	実験室(3311)	電磁エネルギー変換Ⅱ (1) 電気電子計測Ⅰ (1) 電気電子計測Ⅱ (1) 電力システム工学 (1) 新エネルギー工学 (1) ものづくり基礎工学 (5) 創造電気実験Ⅳ (3) 卒業研究	
教授 松井 義弘	教員室(3412)	デジタル回路 (2)	国際学生交流委員会委員長 専攻科委員、AEコース副主任 自己点検評価委員 高専コンテスト指導専門委員 ( <u>学科実験検討委員会 主表</u> )
	実験室(3413)	制御工学Ⅰ (1) 制御工学Ⅱ (1) 制御現代制御 (1) 創造電気実験Ⅲ (4) 創造電気実験Ⅳ (3) 卒業研究 制御工学特論* (2) 電磁エネルギー変換特論* (2)	
助教授 須原 啓一	教員室(3411)	電気回路Ⅱ (2)	(実務教務委員) (自己点検評価委員補佐) ( <u>学科実験検討委員会(副主表)</u> ) ( <u>くぬぎだ発学科企画指導(主)</u> )
	実験室(3414)	電磁エネルギー変換Ⅰ (1) 遠隔現象論 (1) 工業実用英語 (2) 創造電気実験Ⅰ (4) 創造電気実験Ⅳ (3) 卒業研究	
助教授 館泉 雄治	教員室(3303-1)	プログラミング言語Ⅰ (1)	5 E学級指導教員(進路指導委員兼) ネットワーク管理委員会委員長 学科ホームページ管理委員 モバイルキャンパス管理委員 ( <u>学科広報委員</u> )
	実験室(3302-2) (3312)	電子計算機Ⅰ (1) 電子計算機Ⅱ (1) オペレーティングシステムⅠ (1) オペレーティングシステムⅡ (1) デジタル信号処理 (1) 創造電気実験Ⅱ (4) 創造電気実験Ⅳ (3) 卒業研究 情報システム工学* (2) 計算機工学特論* (2)	
助教授 玉田 耕治	教員室(3305)	工学基礎演習Ⅰ (2)	1年担任(2組) 基礎教育委員 安全衛生委員(正) 国際学生交流委員会委員
	実験室(3308)	基礎電気回路 (2) 電気回路Ⅰ (1) 電子物性工学 (1) 創造電気実験Ⅰ (4) 創造電気実験Ⅳ (3) 卒業研究	
助教授 伊藤 浩	教員室(3408)	基礎電子量子工学 (2)	業務主事補 障害保安推進室 地域連携テクノセンター運営委員 情報・メディア教育センター運営委員 ( <u>学科内ホームページ管理委員</u> ) ( <u>国際交流担当</u> )
	実験室(3415) 電子材料物性室 (3112)	電子物性Ⅰ (1) 電子物性Ⅱ (1) 半導体物性 (1) 創造電気実験Ⅲ (4) 創造電気実験Ⅳ (3) 卒業研究	
助手 山内 峯生	教員室(3302-1)	電子材料プロセス工学* (2)	産学連携等 安全衛生委員(副) ( <u>レクレーション委員</u> ) ( <u>書記(前期)</u> )
		ものづくり基礎工学 (5) 創造電気実験Ⅲ (4) 創造電気実験Ⅳ (3) 卒業研究	
助手 木村 知彦	教員室(3111)	ものづくり基礎工学 (5)	(書記(後期)) (印刷・事務関係) ( <u>くぬぎだ発学科企画指導(補佐)</u> )
		創造電気実験Ⅰ (4) 創造電気実験Ⅱ (4) 卒業研究	

\*: 専攻科科目 ( ) は学科内校務分担

(出典 電気工学科内資料)

資料 2-2-③-1

平成 19 年度電子工学科校務分担

柚賀 正光	5 年担任
青木 宏之	学生主事
小池 清之	4 年担任
鹿毛 哲郎	学科長、各学年副担任
大塚 友彦	1 年担任、企画室委員、
谷田部 喜久雄	3 年担任
加藤 格	1 年担任、基礎教育委員会委員
永吉 浩	自己評価委員会委員、推薦入試問題作成委員会委員、専攻科 AE 副主任
一戸 隆久	寮務主事補、JABEE 委員会委員
阿津 勝博	安全衛生委員会委員
潮 秀樹	基礎教育委員会委員
大野 秀樹	教務主事補

(出典 電子工学科内資料)

## 情報工学科の体制(2)

### • 学科業務分担

－ 学科長	(正)青野	(副)中里
－ 2J担任	(正)鈴木孝	(副)中里
－ 3J担任	(正)村井	(正)拜田
－ 4J学級指導委員	(正)小嶋	(副)青野
－ 5J学級指導委員	(正)横山	(副)青野
－ 教務実務担当	鈴木雅人	
－ 総務担当	松林	

他に校務として教務主事 教務主事補 学生主事補 寮務主事補 1年担任 など

資料2-2-③-1

(出典 情報工学科内資料)

資料2-2-③-1

rev.1 H19.1.11  
H18.12.19 H. Ishii

平成19年度 物質工学科 業務分担(案)

	校務	学科	担任	WG	WG
齋藤			4年		
工藤	セクハラ防止委員	安全衛生委員(副)	2年		認証評価
阿久沢	副学科長		(副3年)	教務リーダー	地域理科教育
三谷	副校長				外部資金
高橋	副学科長		副5年	2棟改修リーダー	教務
北折	テクノセンター長		副2年	外部資金リーダー	
石井	学科長	5年就職担当	副(2~5年)	認証評価リーダー	地域理科教育
町田	基礎教育副委員長	専攻科主任	1年		外部資金
菊地		安全衛生委員(正)、 5年進学担当	5年	地域理科教育リーダー	
土屋	学内連絡網委員、情報・メディア教育 センター運営委員、シラバスWG		3年		
堀	国際学生交流委員会委員		1年		
中川	学生主事補、安全衛生委員			教務	認証評価
庄司	企画室員、図書委員		副4年	教務、地域理科教育	認証評価
浅野	教務主事補、企画室員				認証評価
城石	寮務主事補、JABEE委員	ホームページ		教務	地域理科教育
中野	高専間交流				
高専間交流の教員		テクノセンター補佐	副3年		
飯田		庶務		地域理科教育、外部資金	
雑賀		庶務		地域理科教育、外部資金	
長井		庶務		地域理科教育、外部資金	

(出典 物質工学科内資料)



学年	学科	9月27日(水)	9月28日(木)	9月29日(金)	指導教員	学生数 学年要員数	欠席者
1年	機	8:30 八王子校→ 清水校 → 八王子校(35名) 13:00~15:00 清水校 → 八王子校(35名) 15:30 清水校 → 八王子校 → 八王子校(35名) 17:30 清水校 → 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 清水校 → 八王子校 → 八王子校(35名)	9:00 八王子校 → 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	8:00 八王子校 → 八王子校 → 八王子校(35名) 10:00~12:00 八王子校 → 八王子校(35名) 13:00~15:00 八王子校 → 八王子校(35名) 17:30 八王子校 → 八王子校(35名)	担任 米村清 副担任 岡井健太郎	39名 (欠席2名) 37名	
	電	8:30 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	9:00 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	8:00 八王子校 → 八王子校(35名) 10:00~12:00 八王子校 → 八王子校(35名) 13:00~15:00 八王子校 → 八王子校(35名) 17:30 八王子校 → 八王子校(35名)	担任 土井博 副担任 市川裕子	42名 (欠席1名) 41名 37名	
2年	機	8:30 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	9:00 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	8:00 八王子校 → 八王子校(35名) 10:00~12:00 八王子校 → 八王子校(35名) 13:00~15:00 八王子校 → 八王子校(35名) 17:30 八王子校 → 八王子校(35名)	担任 小池清之 副担任 藤田謙	40名 (欠席2名) 38名 38名	
	電	8:30 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	9:00 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	8:00 八王子校 → 八王子校(35名) 10:00~12:00 八王子校 → 八王子校(35名) 13:00~15:00 八王子校 → 八王子校(35名) 17:30 八王子校 → 八王子校(35名)	担任 高木智之 副担任 西村花	40名 (欠席なし) 39名 39名	
3年	機	8:30 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	9:00 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	8:00 八王子校 → 八王子校(35名) 10:00~12:00 八王子校 → 八王子校(35名) 13:00~15:00 八王子校 → 八王子校(35名) 17:30 八王子校 → 八王子校(35名)	担任 遠藤五郎 副担任 工藤新子	37名 (欠席なし) 36名 36名	
	電	8:30 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	9:00 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	8:00 八王子校 → 八王子校(35名) 10:00~12:00 八王子校 → 八王子校(35名) 13:00~15:00 八王子校 → 八王子校(35名) 17:30 八王子校 → 八王子校(35名)	担任 宇野浩典 副担任 下井道隆 兼木智之	36名 (欠席2名) 34名 34名	
4年	機	8:30 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	9:00 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	8:00 八王子校 → 八王子校(35名) 10:00~12:00 八王子校 → 八王子校(35名) 13:00~15:00 八王子校 → 八王子校(35名) 17:30 八王子校 → 八王子校(35名)	担任 大貫賢隆 副担任 原村豊	33名 (欠席なし) 32名 32名	
	電	8:30 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	9:00 八王子校 → 八王子校(35名) 11:30~13:30 八王子校 → 八王子校(35名) 15:30~17:30 八王子校 → 八王子校(35名) 19:00 八王子校 → 八王子校(35名)	8:00 八王子校 → 八王子校(35名) 10:00~12:00 八王子校 → 八王子校(35名) 13:00~15:00 八王子校 → 八王子校(35名) 17:30 八王子校 → 八王子校(35名)	担任 藤田謙 副担任 吉澤正敏	33名 (欠席2名) 31名 31名	

(出典 学生課資料)

資料2-2-③-2

**平成18年度全校工場見学先一覧**  
【平成18年6月20日(火)実施】

2007/5/15

クラス	状況	見学先	引率者
1	1	済 日野自動車工業株式会社本社日野工場、コニカミノルタ東京サイト日野	[*清水]、*船戸、森下
	2	済 (株)フジテレビジョン	[*玉田]、津田、*川北、羽鳥、福井
	3	済 株式会社テルム、東芝科学館	[*加藤]、*潮
	4	済 東京コカ・コーラボトリング株式会社 国立科学博物館	[*吉本]、*竹田、鈴木、中村
	5	済 東芝科学館、味の素川崎工場	[*町田]、*相澤
2	M	済 日産自動車株式会社横浜工場、三菱みなと未来技術館	[筒井]、*黒田
	E	済 (財)鉄道総合技術研究所(国分寺市)→午前 (株)ブリヂストン(小平市)→午後	[*清藤]、松井、須原
	D	済 朝日新聞東京本社→午前 造幣局東京支局→午後	[*大塚]、前段、ゲイツ、海津
	J	済 電子航法研究所、海上技術研究所	[*鈴木(孝)]、松林、西村
	C	済 東京ガス 環境エネルギー館(横浜鶴見区)	[*齋藤(四)]、工藤、中野
3	M	済 大和製缶東京工場(相模原市)、権田金属工業	[*木村]、佐藤
	E	済 セコム(株)SCセンター(IS研究所)、同開発センター(三鷹市)	[*土井]、木村(知)、古屋
	D	済 権田金属工業(株)、三菱重工(相模原事業所)	[*小池]、市川、白石、黒澤
	J	済 セコム株式会社 開発センター、セコム株式会社 SCセンター	[松本]、*村井、*拜田、中里、鈴木(智)
	C	済 関西ペイント(平塚)	[*城石]、庄司、河村、松岡、飯田
4	M	済 三菱重工(本牧工場)→午前、三菱重工(金沢工場)→午後	[*下井]、堤
	E	済 オリンパスメディカルシステムズ(株)日の出工場 (株)東芝青梅事業所	[*大貫]、伊藤(浩)、山内
	D	済 リオン(株)、(独)情報通信研究機構	[*谷田部]、一戸、大野
	J	済 NHK放送技術研究所、NHK放送センター	[*小嶋]、鈴木(雅)、平尾
	C	済 日本触媒	[*堀]、中川、浅野
5	M	済 宇宙航空研究開発機構(JAXA)総合技術研究本部	[*斎藤(純)]、福田、学生課長
	E	— 進路指導	
	D	— 電子工学実験Ⅳ(但し部品調達第2回目として秋葉原電気街へ行く)	[永吉]、阿津
	J	— 実施せず(卒業研究)	
	C	— 進路指導、卒業研究	

- 注 ① [ ]印は引率責任者を、\*印は学級担任、学級指導教員を示す。  
② 引率責任者は、当日見学終了後に教務係へ電話連絡(042-668-5127)  
(終了報告及び欠席者数報告)してください。

(出典 学生課資料)

## 資料2-2-③-3

## (4) カウンセリングルームについて

学習、学校生活、寮生活、家庭、交友、異性、将来の進路、人生観等のさまざまな問題に直面し悩んでいる学生諸君のために、くぬぎだ会館の1階に、カウンセリングルームが設置されている。カウンセリングルームは説教や訓戒をする場所ではなく、又、新聞雑誌などの身の上相談のように「こうしなさい」という指示を与える場所でもない。上記のような問題の解決は、本当に自分の納得できる道を自分自身で選ぶこと以外にはない。来談者自身が、自ら自己を観察し、解決の方法を考え、決断実行しなければならない。カウンセリングルームは、対話を通じて来談者に援助を与える場所である。具体的な相談内容についての秘密を守ることはいうまでもない。

開室時間や休室日はカウンセリングルームの入口に掲示する。担当者は時間の許す限り在室しているから、休み時間、休講時間、放課後等気軽にカウンセリングルームの戸をたたいてくれればよい。開室時間は通常、月～金 12:00～17:00

(出典 学生便覧)

資料2-2-③-3

## 平成18年度の学生相談室の利用状況(18年4月～19年3月まで)

表1 平成18年度の月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
談話室利用者数(延人数)	415	453	496	325	305	483	470	299	319	303	35	3,903
ケース面接(延人数)	49	131	72	45	32	34	22	23	40	21	14	483
相談室利用者総数	464	584	568	370	337	517	492	322	359	324	49	4,386

表2 曜日別の年間利用者数(ケース面接延べ人数)

曜日	人数
月・金	183
火・水	229
木	71
ケース面接(延人数)	483

表3 ケース面接の利用者数・延人数内訳(18年4月～19年3月)

内訳	延人数	実数
1年	158	143
2年	23	14
3年	39	14
4年	33	9
5年	24	13
専攻科生	7	2
卒業生	9	5
教職員	131	28
家族	51	19
外部機関	9	8
計	483	255

表4 内容別利用件数(18年4月～19年3月)

	件数
A:修学・進路	109
B:心理・人間関係	84
C:精神衛生	35
D:コンサルテーション	106
E:その他(生活、経済、寮関係等)	149
計	483

(出典 学生相談室資料まとめ)

資料2-2-③-4

## 平成18年度 学生会所属団体顧問教員等一覧

	団体名	顧問教員名	部長名	部員数	校外コーチ	
運 動 系 部	陸上競技部	菊地 章	5C	16		
	硬式テニス部	黒田 一寿	齋藤 四郎	5D	23	
		市川 裕子				
	ソフトテニス部	齋藤 四郎	城石 英伸	3E	19	
		清水 昭博	加藤 格			
	バスケットボール部	拝田 稔	山内 峯生	4E	25	
	バレーボール部	竹田 恒美	川北 晃司	2J	12	
	硬式野球部	鈴木 智之	石井 宏幸	3M	30	
		三谷 知世	高見 昭康			
	ハンドボール部	古屋 正俊		4D	11	
	バドミントン部	西村 亮	城石 英伸	5J	8	
	サッカー部	玉田 耕治	舘 泉雄治	3D	38	
		浅野 敬一				
	水泳部	大塚 友彦	加藤 格	4E	23	
	卓球部	河村 豊	相澤 俊行	4E	13	
		鈴木 孝	高見 昭康			
剣道部	横山 繁盛	土井 淳	3E	11		
柔道部	松井 義弘	黒崎 茂	4C	6		
空手道部	谷田 部	喜久雄	3E	6		
少林寺拳法部	筒井 健太郎	一戸 隆久	3J	12		

文 化 部	吹奏楽部	須原 啓一	中野 雅之	4D	23	
		津田 潔				
	軽音楽部	中川 修		4J	50	
	茶道・華道部	市川 裕子	北折 典之	4D	10	
	写真部	鹿毛 哲郎	中川 修	4J	9	

同 好 会	ESS同好会	村井 三千男	ゲイツ ジョン	5C	5	
	環境研究同好会	三谷 知世	加藤 格	5C	8	
		庄司 良				
	手話同好会	齋藤 四郎	菊地 章	4C	5	
		城石 秀伸				
	将棋同好会	阿久沢 昇	竹田 恒美	4C	7	
		ゲイツ ジョン				
	まんが研究同好会	船戸 美智子		4C	7	
	SPC同好会	鈴木 雅人	小嶋 徹也	4E	8	
		松本 章代				
	女子バスケットボール同好会	黒田 一寿	堀 智子	3C	9	
		森下 達哉				
軟式野球同好会	福田 勝己		5M	12		
フットサル同好会	拝田 稔		2M	13		
工作同好会	木村 南		5M	5		

出典: 学生課

資料2-2-③-4

## 平成18年度高専コンテスト指導委員会

団体名	指導教員名		学生代表名	学生数	学外協力者
ロボコンゼミ	小坂 敏文	松林 勝志		40	
	福田 勝己	松井 義弘			
	※清水 昭博	※平尾 友一			
	羽鳥 広範(技術職員)				
	鈴木 塔二(技術職員)				
プロコンゼミ	鈴木 雅人	小嶋 徹也		8	
	松本 章代				

※がついている教員は準委員

出典: 学生課学生係

## 資料 2-2-③-4

## 2-5-3 コーチ

## (1) 職務及び委嘱方法等

- ① コーチは、学校長の委嘱に基づき、部又は同好会の日常の活動や対外試合等に対する技術指導を行う。従って、コーチは学外者であってもよい。
- ② コーチを必要とする部又は同好会は、年度当初に「学生会所属団体活動計画書」により、学生係に申し出る。年度途中でコーチの委嘱を追加する場合は、その都度学生係に申し出る。
- ③ コーチの委嘱は、学校長が年度当初に「顧問教員等一覧表」により、口頭で一括委嘱する。年度途中で追加委嘱する場合は、学生主事が委嘱する。
- ④ 任期は、1年とするが継続は差し支えない。
- ⑤ コーチの謝金は、学生係よりコーチに対し「コーチ依頼状」、「コーチ承諾書」及び「銀行振込依頼書」を送付し、コーチより戻ってきた「コーチ承諾書」、「銀行振込依頼書」及び顧問より提出された「コーチ指導実績書」に基づき、所定の方法により支給する。ただし、コーチへの謝金の総額は、年度当初の予算の枠を超えることはない。

## (2) 日常活動における技術指導

コーチは、部・同好会の技術指導をする上で、学生の生命、身体の安全のために特に留意するよう顧問を通じて事前に十分依頼しておく。

出典：教育便覧

資料 2-2-③-6

## 2-9 教員の課外活動の指導に伴う諸手続等

## 2-9-1 出張手続

課外活動の指導のために、学生を引率して出張する場合は、出張手続をとる必要があるため、財務会計旅費システムによって各自入力する。経費負担区分の校費、委任経理金（教育振興費）のいずれの場合も必要である。

## 2-9-2 諸手当等の金額

交通費、宿泊費、指導費を予算の範囲内で支給する。

## 2-9-3 諸手当等の請求手続

## (1) 教員特殊業務従事手当

## ① 教員特殊業務従事手当について

## ア. 対象者

専任講師及び助手

## イ. 教員特殊業務の意味

学校の管理下において行われる部活動（部・同好会）の指導業務に従事する場合で、所定労働日でない日に引続き4時間以上指導業務を行うこと。

## ② 手続

事前に「教員特殊業務従事計画書」を、指導後「教員特殊業務従事報告書」を、それぞれ学生係に提出する。

## (2) 校内合宿を指導したとき

「合宿日誌」に必要事項を記入する。

※8-3-2①参照。

## (3) 地区体育大会及び全国体育大会において指導したとき。

財務会計旅費システムにより各人が旅費の請求を行う。

(出典 教育便覧)



資料2-2-③-7

2006年11月5日開催1年4組保護者面談報告

担任：吉本、竹田

資料：学生アンケート結果

クラス懇親会出席者数：27名

面談数：23名（うち2名は別の日に実施）

話題に出たこと

- ・ 成績について・・・前期中間よりアップしているのに、この調子を保つようアドバイスしたケースと、下がっているのに、注意を喚起したケースとに分れた。下がったケースでは、GPAが2.5を下回る場合、卒業が困難であることを説明し、奮起を促した。成績上位者も下位者も、自分のいる位置からあと一段階上を目指すよう励ました。
- ・ 友人関係について・・・クラスで孤立していると思われていた学生が、クラス行事などに積極的に関わるようになり、親も知って安心した。
- ・ 家庭内のことについて
  - ・ 最近特に親を敬遠するようになっている。
  - ・ パソコン、ゲームに時間を使いすぎている。（複数）
  - ・ 部屋に入ってしまうと様子が分からない。
  - ・ クラブ・課外活動をやっていないため、時間的には余裕があるが、放課後を有効に活用していない。（複数）
- ・ クラブ・課外活動について
  - ・ 活動が負担になり過ぎたり、人間関係などの理由で辞めた者、参加をためらっている者がいる。（複数）
  - ・ 運動系クラブでは、帰宅後の学習時間が全く確保されていない。（複数）
- ・ 寮生活について
  - ・ 自律的に生活できている場合と、寮の環境に過剰適応してしまい、夜遅くまで友人と話したり、勉強時間を確保していない例が見受けられる。いわゆる孤立型の不適応者はいないようだ。

(出典 保護者懇談会記録)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 本校では、教員、事務職員、技術職員、後援会が一体となって担任・学級指導教員やクラブ顧問を支援することにより、教育活動が円滑に実施されている。

(改善を要する点)

特になし

## (3) 基準2の自己評価の概要

本校の各学科は、専攻分野を教育するために組織され、内容は教育研究上の目的にふさわしい適切なものとなっている。また、学生定員は、学科ごとに学則で定められ、その定員は適正に管理されている。また、本校の専攻科の構成とその内容や目的は、学習・教育目標を達成するために適切なものとなっている。この結果、本校の卒業生、修了生は、企業から非常に高い評価を得ている。

本校では、教育の目的を達成することを主たる目的とした全学的なセンターとして、情報・メディア教育センターと実習工場が設置されている。全学で共通的に利用されており、本校の教育の目的を達成するために機能している。

教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制として、運営会議と教務委員会が設置されている。これらの委員会等は教育活動等に係る重要事項を審議するなどして、目的に沿った教育課程を企画し、目的に沿って教育活動を有効に展開するための活動を行っている。

一般科目の教科担当教員と専門学科教員の話し合いが日常的になされており、一般科目及び専門科目の連携が図られ、相互に関連を持つ一般科目及び専門科目の授業の内容や進度について、教育課程全体から見た調整等が、必要に応じて行われている。

本校では、副担任制度(2年生以上)と二人担任制度(1年生)があり、教育活動を円滑にするために機能している。また、学生相談室による担任・学級指導教員の支援体制もよく機能している。後援会費による、担任・学級指導教員やクラブ顧問に対する財政的な支援も機能している。

### 基準3 教員及び教育支援者

#### (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到係る状況)

本校において一般科目を担当する専任教員は、29名である。この人数は、高等専門学校設置基準(第6条)に定められた人数(本校に適用すると22人である)の基準を満たしており、高等専門学校設置基準に適合している。

それぞれの分野ごとに実際に授業科目を担当している教員数は資料3-1-①-1の通りである。ものづくり技術者の育成という本校の教育方針を達成するため、工学の基礎である数学、化学、物理は、準学士課程の学習・教育目標のC-1, C-4, C-5を担っている。このため、数学、化学、物理には、15名の専任教員と3名の非常勤教員が配置されている。また、15名の専任教員のうち、11名が博士号を取得している。

主として準学士課程の学習・教育目標(B)(コミュニケーション能力)を担う国語と英語には、8名の専任教員と8名の非常勤教員が配置されている。特に、準学士課程の学習・教育目標B-3, B-4を達成するために、工学の専門性を持つ英語専任教員を1名とネイティブスピーカーの外国人英語非常勤教員を配置している。

主として、準学士課程の学習・教育目標(A)とD-3を担う社会科の科目には、3名の専任教員と5名の非常勤教員が配置されている。また、主として、準学士課程の学習・教育目標D-1, D-2を担う体育の科目には、3名の専任教員と2名の非常勤教員が配置されている。

いずれも担当科目を講義するのに適した専門性を持っており、また、専任教員29名のうち、博士号を持つ教員は13名に上っている。

(分析結果とその根拠理由)

一般科目を担当している専任教員の数は、設置基準を満たしており、工学の基礎である数学、化学、物理には、15名の専任教員が配置され、国際コミュニケーション能力を担う英語には、工学の専門性を持つ専任教員を1名とネイティブスピーカーの外国人非常勤教員1名を配置している。また、一般科目を担当しているすべての専任教員と非常勤教員は、担当科目を講義するのに適した専門性を持っている。また、一般科目を担当する教員29名のうち13名が博士号取得者である。

以上により、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

資料3-1-①-1

## 一般科目担当教員の配置状況

平成19年4月1日現在

分野	常勤・非常勤の別	教員数	学位取得者数	職位					専門分野等
				教授	准教授	講師	助教	助手	
国語	常勤	2	0	1	1				日中比較文学、日本文学
	非常勤	5	2						
英語	常勤	6	0	3	3				英語教育学、アメリカ文学
	非常勤	3	0						
社会	常勤	3	2	1	2				科学技術史、経済史、倫理学
	非常勤	5	1						
体育	常勤	3	0	1	2				体育学、スポーツ心理学、体育原理
	非常勤	2	0						
音楽・美術	常勤	0	0						音楽、美術
	非常勤	2	0						
数学	常勤	7	3	3	4				解析学、応用解析学、数学教育、代数学、整数論、エルゴード理論、位相幾何学、偏微分方程式論
	非常勤	1	1						
物理	常勤	3	3	1	2				物性物理、固体物理、表面物理学、薄膜、イオンビーム工学、ハドロン物理学
	非常勤	0	0						
化学	常勤	5	5	2	4				物理化学、液晶の分子間力、活性酸素、合成高分子化学、電気化学、分析化学、光化学、触媒化学、分離工学、錯体化学、無機材料化学
	非常勤	2	1						

(出典 総務課人事関係資料より集計)

**観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

高等専門学校設置基準(第6条)との適合性を分析するため、本観点では専任教員数に助手を含まないこととする。高等専門学校設置基準(第6条)によれば、本校の場合、36名の専門科目を担当する専任教員を置かねばならない。本校において、専門科目を担当する専任教員数は52名(うち助教・助手が6名)と基準を大幅に上回っており、高等専門学校設置基準(第6条)に適合している。尚、一般科目および専門科目の両方を担当する教員がいるため、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数の合計は、必ずしも本校の専任教員数とは一致しない。

各専門学科の科目を担当する教員配置は資料3-1-②-1に示した通りである。専門科目は、主として、準学士課程の学習・教育目標(C)「基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者」を担っている。この目標を達成するため、各学科では、各科目を講義するために適した専門性を持つ専任教員、及び、非常勤教員を適切に配置していると言える。博士号取得者は専任教員42名、非常勤教員17名であり、企業経験者は専任教員20名である。この教員配置は、本校の教育方針「ものづくり技術者の育成」を達成するために適切な配置である。

(分析結果とその根拠理由)

専門科目を担当している専任教員数は、設置基準を上回る数であり、専門科目を講義するのに適した専門性を持っている。また、多くの博士号取得者と多数の企業経験者を擁している。

以上により、教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されている。

資料3-1-②-1

## 専門科目担当教員の配置状況

平成19年4月1日現在

学科	勤務形態	教員数	学位取得者数	企業経験者数	職位別					専門分野
					教授	准教授	講師	助教	助手	
機械工学科	常勤	9	8	5	4	4		1		材料力学、流体工学、材料加工学、精密機械、トライボロジー、計測工学、熱工学、メカトロニクス、制御工学、精密工学
	非常勤	8	3							
電気工学科	常勤	9	6	3	4	4		1		電波工学、電磁波工学、電力システム工学、制御工学、高電圧工学、計算機工学、電子材料工学、半導体デバイス工学、半導体表面
	非常勤	4	2							
電子工学科	常勤	10	9	4	5	4			1	電子材料工学、数理情報工学、電子通信工学、集積回路工学、集積システム工学、電子材料工学、材料物性工学、固体電子工学、電子通信工学
	非常勤	8	6							
情報工学科	常勤	11	7	4	5	3	1		2	制御工学、能動制御、情報通信、計算機工学、パターン認識工学、計算機工学、適応信号処理、スベクトル拡散通信、計算機科学、信号処理工学、自然言語処理
	非常勤	8	2							
物質工学科	常勤	13	12	4	7	5			1	無機材料化学、化学工学、環境工学、物理化学、エネルギー工学、有機化学、高分子化学、無機化学、固体物性、薄膜、材料科学、生物工学、高分子化学、分析化学、電気化学、材料化学
	非常勤	4	4							

(出典 総務課人事関係資料より集計)

**観点3-1-③：** 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

資料3-1-③-1に示すように、専攻科においては、融合複合という専攻科共通の目標、学習・教育目標のC-14を達成するために、専門共通科目に13名の専任教員が配置されている。また、学習・教育目標(A)(D)を達成するために、8名の専任教員が配置されている。さらに、学習・教育目標(C)を達成するために、専門科目に35名の専任教員が配置されている。

専攻科を担当する専任教員は、学位授与機構による審査を受け、担当科目を講義する適性があることを認定された教員である。専攻科を担当する全教員56名のうち、47名が博士号を取得している。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の科目はすべて専任教員が担当し、担当教員は学位授与機構により担当科目に対する適性があることを認定された教員であり、そのほとんどは博士の学位を有している。また、融合複合という専攻科共通の目標を達成するために、専門共通科目に多くの専任教員が配置されている。

以上により、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されている。

資料3-1-③-1

専攻科科目担当教員の配置状況

平成19年4月1日現在

学科	教員数	学位取得者数	企業経験者数	職位別					専門分野
				教授	准教授	講師	助教	助手	
共通一般科目	8	3	3	5	3	0	0	0	科学技術史、経営学、英語学、体育学、日本文学、アメリカ文化、倫理学
共通専門科目担当	13	11	3	7	6	0	0	0	素粒子物理学、解析学、制御工学、能動制御、解析学、離散数学、計算機工学、集積回路学、電子材料工学、環境工学、化学工学、高分子化学、固体物理、物理化学、表面物理学
機械情報システム工学専攻	15 (注)	13	7	7	7	0	0	0	精密機械、トライボロジー、材料力学、流体力学、計測工学、熱工学、メカトロニクス、ロボティクス、パタン認識工学、計算機工学、情報通信、制御工学、信号処理工学、スペクトル拡散通信
電気電子工学専攻	12	11	6	7	5	0	0	0	電波工学、制御工学、電磁波工学、半導体デバイス工学、計算機工学、集積回路工学、数理情報工学、電子通信工学、集積システム工学、材料物性工学、固体電子工学
物質工学専攻	9	9	3	7	2	0	0	0	無機化学、電気化学、分析化学、無機材料化学、環境工学、化学工学、有機化学、高分子化学、エネルギー工学、薄膜・材料科学、生物工学、物理化学

(注) 非常勤講師1名含む

(出典 総務課人事関係資料より集計)



観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校では、公募に当たっては、均衡ある年齢構成を実現するために年齢制限を設けたり（資料3-1-④-1）、教育能力を要求したり（資料3-1-④-2）、実務経験を求めたりしている（資料3-1-④-3）。これらは、ものづくり技術者を育てるという目的に沿ったものである。これらの処置の結果、教育経験を持つ教員、実務経験を持つ教員の人数は資料3-1-④-4の表に示したようになっている。また、年齢構成は資料3-1-④-5の一覧表に示したように均衡の取れたものとなっており、高等専門学校設置基準（第6条第5項）に適合している。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、公募に当たって年齢制限を設けており、その結果、年齢構成は一覧表に示したように均衡の取れたものとなっている。また、教育経験を持つ教員数や実務経験を持つ教員数も適切な割合である。

以上によって、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

資料3-1-④-1

東高専人第 140 号  
平成19年 1月22日

各 関係機関の長 殿

東京工業高等専門学校長  
水 谷 惟 恭  
(公印省略)

教員の公募について (依頼)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
さて、このたび本校では下記により教員公募を行うことになりました。  
つきましては、貴機関関係者へご周知くださいますとともに、適任者のご推薦をいただければ幸いです。  
ご多用中誠に恐縮に存じますが、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 職種及び人員 准教授又は助教 (機械工学科及び機械情報システム工学専攻) 1名
2. 教育担当 本科における機械工学 (機械設計法、機械設計製図、CAD/CAE、計算力学等) 分野の講義および実験実習、卒業研究並びに専攻科における機械設計分野の講義と実験・実習、特別研究を担当する。
3. 応募資格 (1)博士の学位を有し、年齢は着任時30～45歳であること。  
(2)高専学生の教育に熱意を持ち、本科生 (低学年から卒業研究生まで)・専攻科生の教育研究の指導ができること。  
(3)クラス担任、課外活動、学寮などにおける学生の生活指導ができること。  
(4)本校の運営に積極的に貢献できること。  
(5)本校の社会貢献活動 (産学連携、地域協力、国際交流) に協力できること。
4. 着任時期 平成19年 4月 1日以降のできるだけ早い時期
5. 応募締切 平成19年 2月 21日 (水) (必着)
6. 提出書類 次の(1)～(6)全てをご提出下さい。  
(1)履歴書 (氏名自筆・捺印、写真貼付)  
(2)着任後の高専教育・研究についての具体的抱負 (2000字以内)  
(3)教育研究業績一覧 (教育活動、研究論文 (査読付論文を明示すること)、著書、学会活動など)  
(4)主要論文 (3編) の別刷り (コピー可) および各編100字以内要約を添付  
(5)推薦書 (1通) (自薦の場合は、問い合わせ可能な人を明記してください。)  
(6)連絡先票 (連絡に使えるe-メールアドレス、電話番号を記載のこと。)  
(審査結果の連絡はe-メールにて行います。)
7. 選考方法 書類による一次選考の後、面接による二次選考を行います。  
(面接は3月4日 (日) を予定しています)
8. 提出先 〒193-0997  
東京都八王子市栢田町1220-2  
東京工業高等専門学校 庶務課人事係  
電話 042-668-5115 FAX 042-668-5090  
(応募書類は、封筒に「機械工学科教員応募書類」と朱書き、簡易書留郵便で送付してください。応募書類は、原則として返却しませんが、特に返却を希望する場合は、返信封筒を同封してください。)  
本校のホームページ (HP) : <http://www.tokyo-ct.ac.jp/>  
本校の概要、本科・専攻科の教育課程等については上記HPをご覧ください。

(出典 総務課資料)

## 資料3-1-④-2

東高専人第 52 号  
平成18年7月27日

各関係機関の長 殿

東京工業高等専門学校長  
水谷 惟恭  
(公印省略)

## 教員の公募について (依頼)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
さて、このたび本校では下記により教員公募を行うことになりました。  
つきましては、貴機関関係者へご周知くださいますとともに、適任者のご推薦をいただければ幸いです。ご多用中誠に恐縮に存じますが、よろしく願い申し上げます。

敬 具

## 記

1. 職種及び人員 助教授 1名
2. 教育担当 本科および専攻科における機械工学、電気・電子工学、情報工学、物質工学のいずれかの分野の講義、実験・実習、卒業研究、特別研究などを担当でき、かつESP(English for Specific Purposes)の授業や英語教育 (TOEIC対策を含む) を担当できること。
3. 応募資格 (1) 英語を母語とすること。  
(2) 博士の学位を有し、年齢は35歳前後が望ましい。  
(3) 過去5年間に当該専門分野に関する査読付き論文を3編以上発表していること。  
(4) 高専の教育・学生指導に熱意を持ち、本科生・専攻科生の教育研究の指導ができること。  
(5) 本校の校務 (担任、学寮の宿直、課外活動顧問、各種委員会委員等) を担当できること。  
(6) 本校の社会貢献活動 (産学連携、地域協力、国際交流) に協力できること。
4. 着任時期 平成19年 4月 1日
5. 応募締切 平成18年 8月 31日 (木) (必着)
6. 提出書類 次の(1)～(7)全てをご提出下さい。  
(1) 日本語による履歴書 (氏名自筆・捺印、写真貼付)  
(2) 勤務していた教育機関等における教育経験と業務内容 (日本語で500字程度)  
(3) 着任後の高専教育・研究についての具体的抱負 (日本語で1000字以内)  
(4) 教育研究業績一覧 (論文・著書・学会活動など。論文は査読付きか否かを明記すること)  
(5) 主要論文 (3編) の別刷り (コピー可) および各編100字以内の要約を添付すること  
(6) 推薦書 (1通) (自薦の場合は、問い合わせ可能な人を明記すること)  
(7) 連絡先取 (連絡に使えるeメールアドレス、電話番号を記載すること)  
(面接日の連絡、審査結果の連絡はeメールにて行います。)
7. 選考方法 書類による一次選考の後、面接による二次選考 (9月下旬の予定) を行います。
8. 提出先 〒193-0997  
東京都八王子市栢田町1220-2  
東京工業高等専門学校 庶務課人事係  
電話 042-668-5115  
FAX 042-668-5090  
(応募書類は、封筒に「助教授教員応募書類」と朱書き、簡易書留郵便で送付してください。応募書類は、原則として返却しませんが、特に返却を希望する場合は、返信封筒を同封してください。)  
本校のホームページ (HP) : <http://www.tokyo-ct.ac.jp/>  
本校の概要、本科・専攻科の教育課程等については上記HPをご覧ください。
9. 問い合わせ先 [tsuda@tokyo-ct.ac.jp](mailto:tsuda@tokyo-ct.ac.jp) (副校長 津田 深)

(出典 総務課資料)

資料3-1-④-3

東高専人第 99 号  
平成17年11月4日

各 関 係 機 関 の 長 殿

東京工業高等専門学校長  
松 本 浩 之  
(公印省略)

## 教員の公募について (依頼)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
さて、このたび本校では下記により教員公募を行うことになりました。  
つきましては、貴機関関係者へご周知くださいますとともに、適任者のご推薦をいただければ幸いです。  
ご多用中誠に恐縮に存じますが、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

## 記

- |           |  |
|-----------|--|
| 1. 職種及び人員 | 教授 (電子工学科及び電気電子工学専攻) 1名  |
| 2. 教育担当   | 本科における電子工学分野の講義、実験・実習並びに専攻科における電気電子融合分野の講義と実験・実習を直接的に担当できること。  |
| 3. 応募資格   | (1) 本校の管理運営に参画できること。<br>(2) 本校の社会貢献活動 (産学連携、地域協力、国際交流) に協力できること。<br>(3) 電気電子工学分野の教育課程・カリキュラム設計に識見を有すること。<br>(4) 教育・学生指導に熱意を持ち、本科生・専攻科生の研究指導ができること。<br>(5) 博士の学位を有すること。<br>(6) 年齢は、着任時に40歳前後が望ましい。  |
| 4. 着任時期   | 平成18年4月1日  |
| 5. 応募締切   | 平成17年12月5日 (月) (必着)  |
| 6. 提出書類   | 次の(1)～(6)全てをご提出下さい。<br>(1) 履歴書 (氏名自筆・捺印、写真貼付)<br>(2) 着任後の高専教育・研究についての具体的抱負 (2000字以内)<br>(3) 教育研究業績一覧 (教育活動、研究論文・著書・学会活動など)<br>(4) 主要論文 (3編) の別刷り (コピー可)<br>(5) 推薦書 (1通) (自薦の場合は、問い合わせ可能な人を明記してください。)<br>(6) 連絡先票 (連絡に使えるe-メールアドレス、電話番号を記載のこと。)<br>(面接日の連絡、審査結果の連絡はe-メールにて行います。)  |
| 7. 選考方法   | 書類による一次選考の後、面接による二次選考を行います。<br>なお、面接は12月11日を予定しています。   |
| 8. 提出先    | 〒193-0997<br>東京都八王子市桐田町1220-2<br>東京工業高等専門学校 庶務課人事係<br>電話 0426-68-5115<br>FAX 0426-68-5090<br>(応募書類は、封筒に「電子工学科教員応募書類」と朱書き、簡易書留郵便で送付してください。応募書類は、原則として返却しませんが、特に返却を希望する場合は、返信封筒を同封してください。)<br>本校のホームページ (HP) : <a href="http://www.tokyo-ct.ac.jp/">http://www.tokyo-ct.ac.jp/</a><br>本校の概要、本科・専攻科の教育課程等については上記HPをご覧下さい。 |

(出典 総務課資料)

平成19年1月1日現在

教員の経歴の多様性

	採用された高専以外に勤務経験		採用された高専以外に勤務経験あり					
	あり	なし	大学	高校以下、専修・各種教員	官公庁	民間企業	自営業	
教授	23	12	8	3	2	17	0	
助教授	18	17	6		5	8	0	
講師	2	0	1			1	0	
助手	3	4		1		2	0	
合計	x	y	a	b	c	d	e	f
			4	14	4	7	28	0

(人)

$a+b+c+d+e+f \geq x$  (例えば「採用された高専以外の高専」と「民間企業」の両方に勤務経験があればそれぞれに記入)

$x+y=19.1.1$  現員  
常勤同定数2人を含む

(注) 1. 大学院終了後直ちに採用された者や、大学の非常勤講師として勤務し常勤の職を有しなかった者は、「採用された高専以外に勤務経験なし」に分類。

(出典 総務課資料)

資料3-1-④-5

年齢構成表(教員)

H18.10.1

		P	AP	L	A	P								
		教授	助教授	講師	助手	博士								
生年月日	定年	一般教科	機械工学科	電気工学科	電子工学科	情報工学科	物質工学科							
S18. 4. 2~19. 4. 1	H19. 3.31													
S19. 4. 2~20. 4. 1	H20. 3.31													
S20. 4. 2~21. 4. 1	H21. 3.31								AP					
S21. 4. 2~22. 4. 1	H22. 3.31													AP
S22. 4. 2~23. 4. 1	H23. 3.31													
S23. 4. 2~24. 4. 1	H24. 3.31													
S24. 4. 2~25. 4. 1	H25. 3.31								AP					
S25. 4. 2~26. 4. 1	H26. 3.31													
S26. 4. 2~27. 4. 1	H27. 3.31													
S27. 4. 2~28. 4. 1	H28. 3.31													
S28. 4. 2~29. 4. 1	H29. 3.31													
S29. 4. 2~30. 4. 1	H30. 3.31													
S30. 4. 2~31. 4. 1	H31. 3.31													
S31. 4. 2~32. 4. 1	H32. 3.31													
S32. 4. 2~33. 4. 1	H33. 3.31													
S33. 4. 2~34. 4. 1	H34. 3.31													
S34. 4. 2~35. 4. 1	H35. 3.31													
S35. 4. 2~36. 4. 1	H36. 3.31													
S36. 4. 2~37. 4. 1	H37. 3.31													
S37. 4. 2~38. 4. 1	H38. 3.31													
S38. 4. 2~39. 4. 1	H39. 3.31													
S39. 4. 2~40. 4. 1	H40. 3.31													
S40. 4. 2~41. 4. 1	H41. 3.31													
S41. 4. 2~42. 4. 1	H42. 3.31													
S42. 4. 2~43. 4. 1	H43. 3.31													
S43. 4. 2~44. 4. 1	H44. 3.31													
S44. 4. 2~45. 4. 1	H45. 3.31													
S45. 4. 2~46. 4. 1	H46. 3.31													
S46. 4. 2~47. 4. 1	H47. 3.31													
S47. 4. 2~48. 4. 1	H48. 3.31													
S48. 4. 2~49. 4. 1	H49. 3.31													
S49. 4. 2~50. 4. 1	H50. 3.31													
S50. 4. 2~51. 4. 1	H51. 3.31													

区分	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
教授	36	35	11	11	5	5	4	4	5	5	5	4	6	6
助教授	35	34+交1	11	10	7	6	4	4	4	4	4	5	5	5
講師	0	1+交1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助手	8	7	0	0	1	1	2	2	2	1欠1	2	2	1	1
計	79	77+交2	22	22	13	12	10	10	11	10欠1	11	11	12	12
専・専攻科	名				専 助教授1 (助手△1)				専 教授1, 助教授1 (助教授△1)		専 教授1		専 教授1 (助手定削1)	
備考			交流 助教授1						助手欠員1 交流 講師1					

高専間教員交流	派遣1名	機械工学科 助教授	木更津高専へ	18. 4. 1~19. 3. 31	18. 10. 1現員 校長1 教員79 (交流含む)
	受入2名	一般教科数学 助教授	松江高専から	18. 4. 1~19. 3. 31	
		電子工学科 講師	詫間電波高専から	18. 4. 1~19. 3. 31	

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の採用については、資料3-2-①-1のように定められている。この規定は、教育上の能力なども含んでおり、すべての点で高等専門学校設置基準(第11条)(第12条)(第13条)(第14条)に適合している。非常勤教員の採用については、資料3-2-①-2のように定められており、教育上の能力を含んだ内容である。これらの規定が適切に運用されていることは、各科目に配置された教員が適切な能力を持っていることから判断される(資料3-1-①-1から資料3-1-③-1の教員配置状況一覧、及び、現地閲覧資料13の教員一覧表)。

教員選考は公募を原則としているため、内部の教員が上位の職位に昇格する場合であっても、教員の採用規定(資料3-2-①-1)に従って行われる。

(分析結果とその根拠理由)

常勤教員の採用に関する規定は高等専門学校設置基準に適合している。非常勤教員を含め、教員の採用においては、教育上の能力を適切に考慮・評価している。

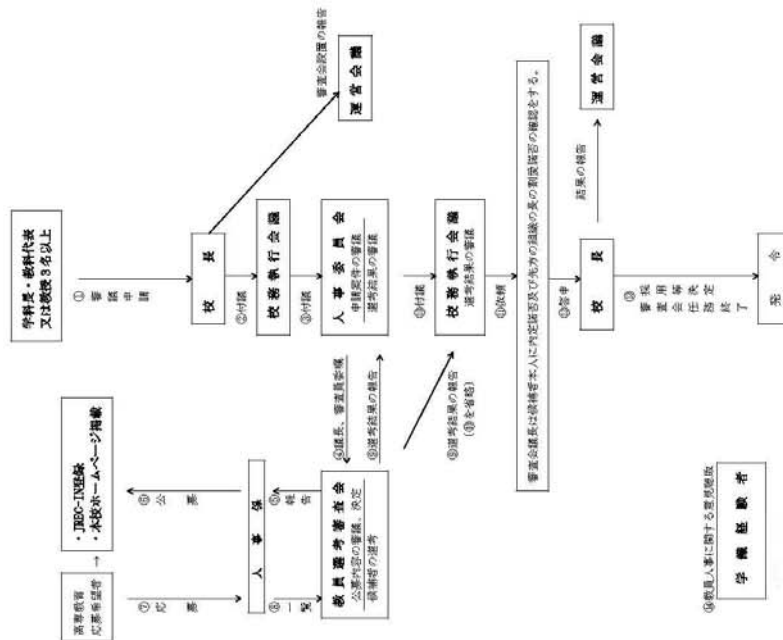
以上により、教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされている。

教員選考審査の業務プロセス

- ① 学科長・教科代表又は教授3名以上は、校長へ教員採用の審議申請をする。
- ② 校長は、校務執行会議に付議する。
- ③ 校務執行会議は、人事委員会に付議する。  
校長は、運営会議に、教員選考審査会（以下「審査会」という。）設置を報告する。
- ④ 人事委員会は、申請条件を審議する。  
審査会議長及び審査員を委嘱する。
- ⑤ 審査会は、公募内容を審議、決定し、人事係へ報告する。
- ⑥ 人事係は、教員公募を周知する。（JREC-IN登録、本校ホームページ掲載 他）
- ⑦ 人事係は、応募書類を受領し、保管する。
- ⑧ 人事係は、応募者データ一覧を作成し、選考に必要な書類を用意し、応募書類と一緒に審査会議長へ送す。
- ⑨ 審査会は、書類選考及び面接選考により候補者を決定する。  
選考結果を人事委員会へ又は校務執行会議へ報告する。  
\* 校長、審査会議長の協議により人事委員会を略して校務執行会議へ報告することができるものとする。  
教員選考審査会報告書を作成する。
- ⑩ 人事委員会は、選考結果報告書に基づき審議し、審議結果を校務執行会議に報告する。
- ⑪ 校務執行会議は選考結果について審議し、問題がない場合は、審査会議長に、候補者本人の内定誘返及び組織の長に対し制受可否を確認するより依頼する。審査会議長は、その結果を校務執行会議に報告し、校務執行会議は採用内定者を決定する。
- ⑫ 校務執行会議は、候補者決定について校長へ答申する。
- ⑬ 審査会は、不採用者へ結果を通知する。  
教員選考審査会報告書が受理されたとして、審査会の任務終了とする。  
人事係において採用に関わる事務手続きを進める
- ⑭ 学業経験者に教員人事に関する意見聴取をする。（校長から依頼する。）

— 完 —

教員の選考について（業務の流れ）



(出典 総務課資料)



資料3-2-①-1

教員書類選考の評価表(ガイドライン)

2005.11. 人事委員会策定

応募者 氏名	東京高専の教員(教授、助教授、助手)としての適格性 (点数 5:特に優、4:優、3:普通、2:やや劣、1:劣)							合計 点数	備考 (特記事項)
	年齢 適合性	分野 適合性 (学位)	教育研究 業績(最近5 年間)	教育活動歴 (教員資格・ 英検スコア 等)	学会 活動歴 (受賞歴)	社会貢献歴 (特許) (表彰)	高専教育 への抱負		

教員面接選考の評価表(ガイドライン)

2005. 12. 人事委員会策定

応募者 氏名	東京高専の教員(教授、助教授、助手)としての適格性 (点数 5:特に優、4:優、3:普通、2:やや劣、1:劣)						合計点	総合コメント	
	授業担当 のビジョン (助手を除く)	学生指導 のビジョン	研究指導 のビジョン (助手を除く)	学校運営 (校務分担、 管理・運営) のビジョン (助手を除く)	模擬授業 の評価	英会話力 の評価		プラス面	マイナス面

(出典 総務課資料)

資料3-2-①-2

## 東京工業高等専門学校非常勤講師任用基準

(趣旨)

第1条 この基準は、東京工業高等専門学校における非常勤講師の資格及び任用手続き等に関し必要な事項を定めるものとする。

(資格)

第2条 非常勤講師として任用できる者は、優れた識見を持ち、本校の教育方針に沿った教育指導ができる者で、次の各号に該当する者とする。

- 一 高等専門学校設置基準第13条に定める講師以上の資格を有すること。
- 二 任用予定年度前5年間に教育・研究業績があること。
- 三 任用年度末において63歳以内であること。
- 四 心身ともに健全であること。

(任期)

第3条 非常勤講師の任用は、年度毎に更新するものとし、再任を妨げない。ただし、連続任用期間は6年間で限度とする。

(資格審査)

第4条 非常勤講師候補者の資格審査は、校務執行会議構成員のうちから校長が指名した者で構成する非常勤講師資格審査委員会がこれを行う。

2 資格審査は、審査後3年間で有効とする。ただし、任用が継続していない場合は、新規に資格審査を行うものとする。

(任用手続き)

第5条 非常勤講師を任用しようとするときは、各学科長及び教科代表（以下「学科長等」という。）は、「非常勤講師記録書」（別紙様式1）及び「非常勤講師採用理由書」（別紙様式2）を校長に提出するものとする。

2 校長は、学科長等から「非常勤講師記録書」及び「非常勤講師採用理由書」が提出されたときは、非常勤講師資格審査委員会を設置し、任用に係る非常勤講師の資格審査を行うものとする。

3 校長は、前項の結果を基に校務執行会議の議を経て、任用を決定する。

(特例)

第6条 次の各号に該当する場合で、校長が特に必要があると認めるときは、本基準にかかわらず、校務執行会議の議を経て、非常勤講師を任用することができる。

- 一 特定な分野について、特に優れた知識、経験及び技術を必要とする授業を行う場合
- 二 重点基礎科目の補講を行う場合
- 三 その他特に必要があると認められる場合

(事務)

第7条 非常勤講師の資格審査並びに任用手続きに関する事務は、庶務課人事係において処理する。

附 則

1. この基準は、平成16年10月1日から施行する。
2. 東京工業高等専門学校非常勤講師の任用に関する内規（平成13年4月1日施行）及び非常勤講師任用に係わる申合せ（平成13年6月7日施行）は廃止する。

(出典 総務課資料)

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の教育活動に関する定期的な評価としては、教員顕彰の制度があり、資料3-2-②-1のように規定されている。教員顕彰においては、自己評価(資料3-2-②-2)の結果や学生アンケート(資料3-2-②-3)の結果が反映され、教育上の指導能力や指導実績が評価されていることになる。これらが評価に反映されていることを示す資料は、現地閲覧資料とする(現地閲覧資料204、現地閲覧資料205)。

また、把握された教育上の指導能力や指導実績は給与等の査定に反映されている(現地閲覧資料203)。

(分析結果とその根拠理由)

自己評価や、学生アンケートにより教員の教育能力や教育実績などについて定期的な評価がなされており、その結果は、教員顕彰に反映されている。

以上により、教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われている。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされている。

(別紙様式 1)

平成 年 月 日

東京工業高等専門学校校長 殿

推薦者所属氏名 〇

東京工業高等専門学校「教職員表彰規程」の推薦について

欄記のことについて、下記の者を東京工業高等専門学校教職員被表彰者の候補者として推薦いたします。

氏名	所 属				
	職 名				
欄記 2 条の	一	二	三	四	五
該当項目					
推薦理由					

東京工業高等専門学校教職員表彰規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員で、教育、研究、学校運営及び社会貢献等に關して、特に顕著な功績を挙げた者を被表彰（以下「表彰」という。）するたため定めるものとする。

(表彰を受ける者)

第 2 条 表彰は、次に掲げる各号の一に該当する者について行う。

- 一 教育又は研究活動に顕著な功績があった者
- 二 学生指導に顕著な功績があった者
- 三 本校の管理運営、業務改善等の推進に顕著な功績があった者
- 四 社会貢献に關して顕著な功績があった者
- 五 その他、特に他の教職員の模範と認められる行為があった者

(被表彰者の選考)

第 3 条 理事、専攻部長、学科長、教科代表、各種委員会委員長、共同教育研究施設及び事務部長は、別紙様式により、前条に該当する表彰候補者を校長に推薦するものとする。

2 表彰を受ける者は、人事委員会の議を経て、校長がこれを決定する。

(表彰の方法等)

第 4 条 表彰は、表彰状を授与することにより行う。ただし、記念品を付与することがある。

附 則

この規則は、平成 18 年 11 月 22 日から施行する。

1.7. 6. 2.9 校務執行会議決定  
1.7. 7. 7 運営会議了承

教員の教育研究活動等に係る自己申告及びその運用について

第 1. 趣旨

本校の目的・目標に照らし、教員が主体的で断続的な教育研究活動を自己申告(ポイント制)することにより、本校の教育研究活動の一層の活性化を図るとともに、自己申告を基に、若手教員、公平性を加味した総合評価により教員を表彰し、教員の質向上と業績の向上を図るとともに、教員・研究機関としての質の向上が自律的かつ継続的に図られる体制を構築するため。

第 2. 対象

本校の教員、助教、講師及び助手

第 3. 自己申告する項目及び配点

1. 項目は次のとおりとし、あらかじめ明示された各項目の事項・配点による。

- 1) 各教員が行う次の各項目
- ① 教育研究活動
- ② 学生指導
- ③ 教育研究活動(総務法第 12 条第 1 項第 3 号)
- ④ 教育研究活動活動
- ⑤ 社会貢献活動
- ⑥ 外国語能力向上活動
- ⑦ 組織的 F/D 活動への参加
- ⑧ 書 架 取 扱 等
- ⑨ その他

2. 各項目は定額見直し、配点が必要と認められるもの。

第 4. 自己申告結果の運用

1. 各教員は、自己申告結果を自己の教育・研究活動等の質の向上と活性化のために活用する。  
2. 自己申告結果は、教育関係者の継続的な見直し・改善のための資料として、教育研究会(F/D委員会)等の各種委員会の参考資料に活用する。

第 5. 自己申告結果の公表

自己申告の個別内容は個人情報として扱い、原則として本人以外には公表しない。ただし、自己申告に示される共通性・顕著な教育活動の歩みについては全学的に活用することともに、他の教員等から各々の自己検証の参考資料に活用することを目的として関係資料がある場合、請求のある教員等に対し開示するよう努める。

第 6. その他

- 1.) 自己申告結果は、校長が行う次の各項目に係る運用の資料の一つとして活用する。
  - ① 昇任及び特別昇格
  - ② 職階昇進の加算
  - ③ 業績配分
  - ④ 職務本部長等外務顧問が行う教員表彰等の推薦
  - ⑤ 各学系個人人事評価等への推薦
  - ⑥ その他、校長が必要と認めるもの
- 2) 前記各項目の運用に当たっては、若手性、公平性の観点から、ヒアリング、学生の授業評価、教員の相互評価を加えて総合的に判断する。
- 3) 必要に応じて、事項(前点を各々の見直し等を検討するための検討組織を置く。
- 4) 評価組織は、校長、初任部長、専任部長、専任部長、専任部長で構成する。
- 5) 評価組織の事務は庶務課が行う。

(参考)

1. 国立立法法人国立高専専門学校機関別認証評価基準 1.2 条関係

- 第 1.2 条第 1 項  
(一) 二号は劣
- 三 関係以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の機関以外の者との連携による教育研究を行うこと。  
(四、五号は劣)

2. 大学評価・学位授与機構が行う高等専門学校機関別認証評価基準 (案)

○基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム  
9-1-1 教育の状態について 成績・評価し、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備され、取組が行われており、機能していること。  
9-2 教員の質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

基本的な観点

- 9-1-1-① 教員の共勉について、教育活動の現場を示すデータや資料が適切に収集・整理され、関係者(関係部署)に提供される体制が整備されていること。
- 9-1-1-② 学生等の教育の質の向上を図るための取組が適切に行われており、教育の状態に関する自己点検・評価に適切に活用されていること。
- 9-1-1-③ 学外関係者の意見が、教育の現状に関する自己点検・評価に適切に活用されていること。
- 9-1-1-④ 各種の評価(例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上、改善に結びつけられるようシステムが整備され、教育関係の職員など関係者(関係部署)が適切に活用されていること。
- 9-1-1-⑤ 関係者(関係部署)が適切に活用されていること。
- 9-1-1-⑥ 研究活動が教育の質の改善に寄与していること。
- 9-2-1 学外関係者の意見が、教育の現状に関する自己点検・評価に適切に活用されていること。
- 9-2-2 アカカクティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されていること。
- 9-2-3 アカカクティ・ディベロップメントが、教育の質や授業の改善に結びついていること。

3. 日本技術者教育認定基準

○基準 3. 3. 3 教育組織

- (1) (経) 教員の質の向上を図る仕組み(アカカクティ・ディベロップメント)があり、当該プログラムに関する教員に開示されていること。また、それに関する活動が実施されていること。
- (2) 教員の教育に関する取組の評価方法が定められ、当該プログラムに関する教員に開示されていること。また、それに基づいて評価が実施されていること。
- (3) 教員の教育に関する取組の評価方法が定められ、当該プログラムに関する教員に開示されていること。
- (4) (経)

資料3-2-②-3

平成19年1月17日

〔平成18年度集中・通年・後期〕授業担当者 各位

教務主事  
企画室長

授業アンケート実施について（依頼）

このことについて、下記のとおり実施しますので、ご協力をお願いします。座学・実験の判断が難しい場合には、それぞれの該当する項目に回答させてください。

また、複数の教員で実施している授業については、成績報告担当者へ配布しておりますので、実施する際には各担当者への振り分け、及び実施後の取りまとめ等よろしくをお願いします。

記

- 対 象 : 平成18年度の集中授業（除く前期終了授業）、通年及び後期授業
- 実 施 期 限 : 平成19年2月15日（木）まで
- 実 施 時 期 : 実施期限までの間の適当な授業時間内（20分程度）
- 従来からの変更点 : ・シラバス通りであったかについての項目を追加。  
 ・マークシート裏面に自由記述欄を追加。  
 ・上記に伴ってアンケート対象授業の拡大。（基本的に全授業が対象となる）  
 ・技術室でのデータ読取後、アンケート用紙を授業担当者へ回付。
- 実 施 方 法 : ・学生へアンケート用紙に記載してある【記入上の注意】を説明する。  
 ・封筒表紙に添付されている数字5桁の科目コードを板書して学生に示す。  
 ・アンケート用紙の回収後、科目コードが正しくマークされているか確認する。  
 ・裏面の自由記述を授業担当者として確認した後、非常勤講師は学生課へ、常勤教員は庶務課提出する。

\*\*\*授業に関するアンケート\*\*\*

東京工業高等専門学校

科目名	教員名	学年	クラス	科目コード				
		[1]	[1] [2]	[01]	[02]	[03]	[04]	[05]
		[2]	[3] [4]	[11]	[12]	[13]	[14]	[15]
		[3]	[5] [6]	[21]	[22]	[23]	[24]	[25]
		[4]	[7] [8]	[31]	[32]	[33]	[34]	[35]
		[5]	[9] [0]	[41]	[42]	[43]	[44]	[45]
		[6]	[1] [2]	[51]	[52]	[53]	[54]	[55]
		[7]	[3] [4]	[61]	[62]	[63]	[64]	[65]
		[8]	[5] [6]	[71]	[72]	[73]	[74]	[75]
		[9]	[7] [8]	[81]	[82]	[83]	[84]	[85]
		[0]	[9] [0]	[91]	[92]	[93]	[94]	[95]

（記入上の注意）

- 「学年」「クラス」欄には、自分の学年、クラスを記入し、塗りつぶして下さい。
- 「科目名」欄に授業科目名を記入し、「科目コード」欄には、先生が明示する科目番号を記入して下さい。
- 「担当教員名」欄には、授業を担当する先生の名前を記入して下さい。
- 別紙は破損しなかり、曲げたり、汚したりしないでください。
- マークは「○」の中を自分の紙のシャープペンシルまたは鉛筆で塗りつぶして下さい。たとえ裏であってもボールペンやサインペンは絶対に使用しないでください。
- 訂正は消しゴムできれいに消して下さい。

消しマーク  塗りマーク  鉛筆マーク

座学授業について

実験・実習について

質 問	回 答 欄	質 問	回 答 欄
あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか。	<input type="radio"/> 意欲的でない <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 大層意欲的	1 あなたは実験・実習に意欲的に取り組んでいますか。	<input type="radio"/> 意欲的でない <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 大層意欲的
	[1] [2] [3] [4] [5]		[1] [2] [3] [4] [5]

（出典 総務課資料）

**観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

教育に関係している事務組織は、資料3-3-①-1の中の学生課であり（平成19年4月より総務課・学生課の2課体制となった）、教育に関係する事務分掌は、資料3-3-①-2に示すようになっている。学生課の中で本観点に係る係としては、基礎学力の養成や卒業研究などに必要な資料を提供する図書情報係や、担任および学級指導教員やクラブ顧問の支援・学生生活の支援を行う学生支援係および学生生活係、成績評価の支援などを行う教務係などがあり、教育課程を有効に展開・支援するうえで適切な配置である。

技術職員の組織は、資料3-3-①-3に示したように適切なものである。また、その活動内容は、実験実習における支援などで非常に有効に機能しており、「ものづくり技術者を育成する」という本校の教育目標に照らして適切な配置である（資料3-3-①-4）。

(分析結果とその根拠理由)

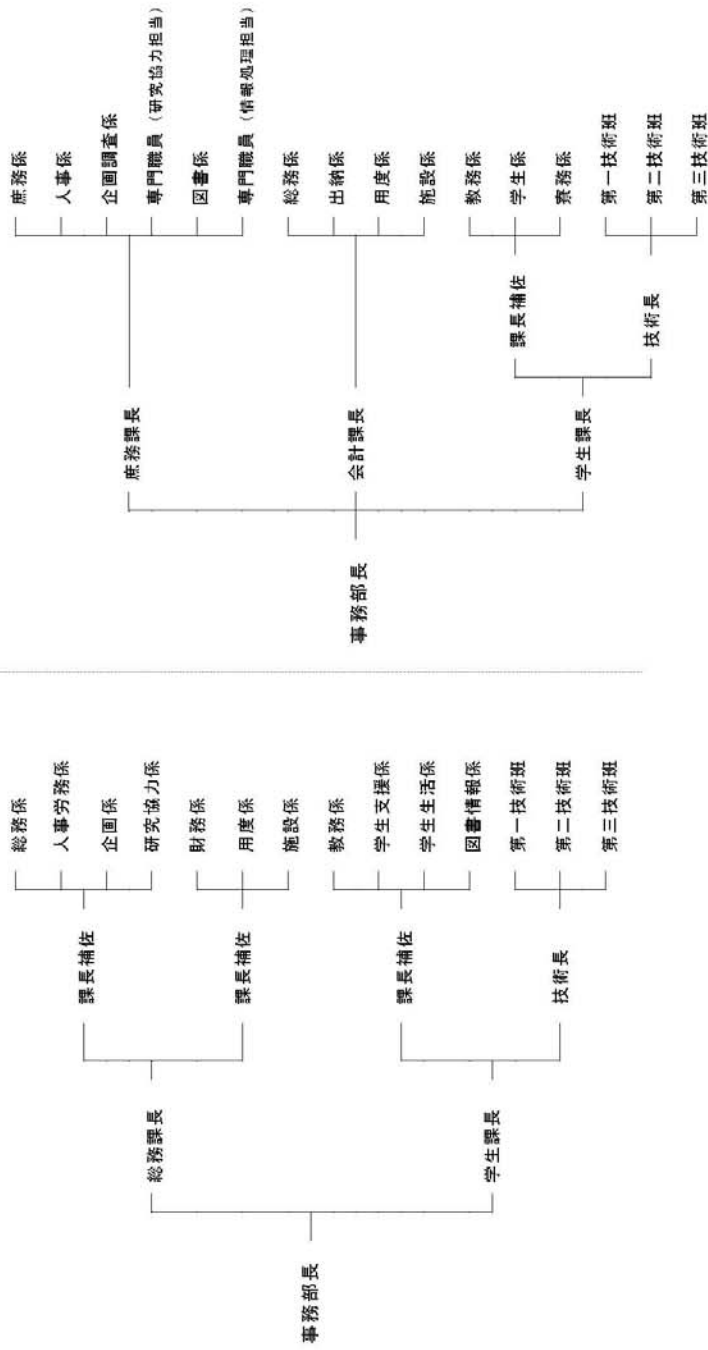
教育に関係している事務職員と技術職員は、資料の提供、担任および学級指導教員・クラブ顧問の支援、学生生活の支援、成績評価の支援、実験実習などの支援を行っており、教育課程を有効に展開・支援するうえで適切に配置されており、また機能している。

以上により、学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

東京高専事務運営組織図

平成19年度

平成18年度



基準3-3-①-1

(出典 総務課資料事務組織図)



東京工業高等専門学校事務組織及び分掌規則

制 定 昭和48年4月1日  
 業 務 改 正 平成19年4月1日

第1章 総則  
 (総旨)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年4月1日制定）第5条及び東京工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第10条に定めらるるもののほか、東京工業高等専門学校事務部の組織及び分掌を定めることを目的とする。

第2章 事務組織  
 (目)

第2条 事務部に総務課及び学生課を置く。

(係等)

第3条 総務課の事務を分掌させるため、総務係、人事労務係、企画係、研究協力係、財務係、用度係及び施設係を置く。

第4条 学生課の事務を分掌させるため、教務係、学生支援係、学生生活係及び図書館情報並びに技術室を置く。

第3章 総則  
 (事務部長)

第5条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受けて本校事務部の事務を処理する。

(副長)

第6条 総務課及び学生課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受けその課を監督し、その課に從事する

(副長補佐)

第7条 総務課及び学生課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、課長を補佐し、その課の事務を整理する。

(係長)

第8条 事務部の各係に係長を置く。

2 係長は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

(主任)

第9条 事務部の各係に主任を置くことができる。

2 主任は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

第3章 所掌事務  
 (総務課)

第10条 総務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 事務部所掌事務の連絡調整に関すること。
- 二 学則その他情報則の制定及び改廃に関すること。
- 三 様式及び他の係に属さない慣行事に関すること。
- 四 会議等に関すること。
- 五 渉外に関すること。
- 六 公文書等の授受及び発送に関すること。
- 七 公印（封務関係及び学生課の公印を除く。）の管理に関すること。
- 八 旅行命令等に関すること。
- 九 広報に関すること。
- 十 情報公開及び個人情報情報の取扱いに関すること。
- 十一 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- 十二 その他他の係の所掌に属さない事務に関すること。

2 人事労務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 教職員の仕事に関すること。
- 二 教職員の給与に関すること。
- 三 教職員の定員及び採用試験に関すること。
- 四 労働時間及び休暇等に関すること。
- 五 教職員の人事考課に関すること。
- 六 教職員の研修に関すること。
- 七 教職員の労働災害に関すること。
- 八 教職員の退職手当に関すること。
- 九 教職員の人事記録に関すること。
- 十 教職員の奨励に関すること。
- 十一 教職員の安全衛生及び福利厚生に関すること。
- 十二 非常勤教職員の任免、服務及び給与に関すること。
- 十三 労使協定に関すること。
- 十四 共済組合に関すること。
- 十五 雇用保険に関すること。
- 十六 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- 十七 その他人事に関すること。

3 企画係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 将来構想等に関すること。
- 二 自己点検・評価に関すること。
- 三 外部評価及び審査に関すること。
- 四 外国との学術交流等に関すること。
- 五 文部科学省等が行う教育研究支援事業に関すること。
- 六 内地研修費及び在外研修費に関すること。
- 七 公開講座、学校開放及び生涯学習等に関すること。

- 九 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- 九 その他企画に関すること。
- 4 研究協力係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 学務奨励助成金に関すること。
  - 二 科学研究費補助金等の申請及び報告に関すること。
  - 三 民間等との共同研究、委託研究及び委託試験の契約に関すること。
  - 四 寄附金の受け入れに関すること。
  - 五 知的財産に関すること。
  - 六 産学官連携に関すること。
  - 七 地域連携テクノセンターの事務に関すること。
  - 八 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 九 その他研究協力に関すること。
- 5 財務係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 財務担当所掌事務の進捗管理に関すること。
  - 二 予算管理及び決算に関すること。
  - 三 財務関係書類等に関すること。
  - 四 会計帳簿の公印の番守に関すること。
  - 五 監査に関すること。
  - 六 不動産に関すること。
  - 七 借入に関すること。
  - 八 債権の管理に関すること。
  - 九 収入及び支出に関すること。
  - 十 預り金及び有価証券に関すること。
  - 十一 給与、旅費及び借金の支払決済に関すること。
  - 十二 所借及び住民税等の徴収に関すること。
  - 十三 共同組合掛金の徴収に関すること。
  - 十四 計算説明に関すること。
  - 十五 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 十六 その他他の係の所掌に属さない財務関係事務に関すること。
- 6 用度係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 物品管理の総括調整に関すること。
  - 二 物件（図書資料を含む）の契約及び支払決済に関すること。
  - 三 物品の調達、出張、保管及び処分に関すること。
  - 四 物品の修理及び役務に関すること。
  - 五 電気、水道、ガス及び電話の料金に関すること。
  - 六 構内警備及び雑物等の清掃に関すること。
  - 七 自動車の維持管理及び運行に関すること。
  - 八 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。

(出典 総務課資料)

- 九 その他用度に関すること。
- 7 施設係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 施設の詳細及び設備に関すること。
  - 二 建築物の契約及び支払決済に関すること。
  - 三 各種関係の契約及び支払決済に関すること。
  - 四 工事等に係る入札参加者選定に関すること。
  - 五 土地、建物及び附属施設の維持管理に関すること。
  - 六 暖房用ボイラーの業務に関すること。
  - 七 防災に関すること。
  - 八 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 九 その他施設に関すること。
- (学生課)
- 第 11 条 教務係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 教育課程に関すること。
  - 二 学生の入学、修学及び卒業・修了に関すること。
  - 三 授業及び試験に関すること。
  - 四 学種及び指導要録に関すること。
  - 五 在学成績及び卒業等の証明に関すること。
  - 六 学生課関係の公印の番守に関すること。
  - 七 教科書及び教材に関すること。
  - 八 インターネットに関すること。
  - 九 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 十 その他学生課の他係の所掌に属さない事務に関すること。
- 2 学生支援係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 学生の厚生指導（教務係の所掌に属するものを除く。）に関すること。
  - 二 学生の精神面に関すること。
  - 三 学生の集会、行事及び掲示に関すること。
  - 四 学生の奨学金及び経済支援に関すること。
  - 五 入学料、授業料及び各種料の徴収並びに徴収調子に関すること。
  - 六 学生の健康管理及び安全保持に関すること。
  - 七 日本スポーツ振興センターに関すること。
  - 八 学生の団体活動及び課外活動等に関すること。
  - 九 学生の進路に関すること。
  - 十 学生厚生施設の管理運営に関すること。
  - 十一 学生の賞罰に関すること。
  - 十二 学生の旅費還着引証及び遊学証明書発行に関すること。
  - 十三 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 十四 その他学生の厚生指導に関すること。

資料 3-3-①-2

3. 学生生活様については、次の事務をつかさどる。
  - 一 寄宿舎の管理運営に関すること。
  - 二 寄宿舎の雑費に係る経理に関すること。
  - 三 入寮及び退寮に関すること。
  - 四 寮生の厚生補給に関すること。
  - 五 外国人留学生に関すること。
  - 六 教員の宿日面に関すること。
  - 七 国際学生交流事業に関すること。
  - 八 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 九 その他宿舎に関すること。
4. 図書情報系においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 図書館の管理運営に関すること。
  - 二 図書の分類及び整理等に関すること。
  - 三 図書の閲覧及び貸出等に関すること。
  - 四 文献の相互利用及び複写等に関すること。
  - 五 研究報告に関すること。
  - 六 著作権に関すること。
  - 七 情報・メディア教育センターの事務に関すること。
  - 八 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 九 その他図書情報に関すること。
5. 教務系の組織及び業務等は別に定める。
 

附 則

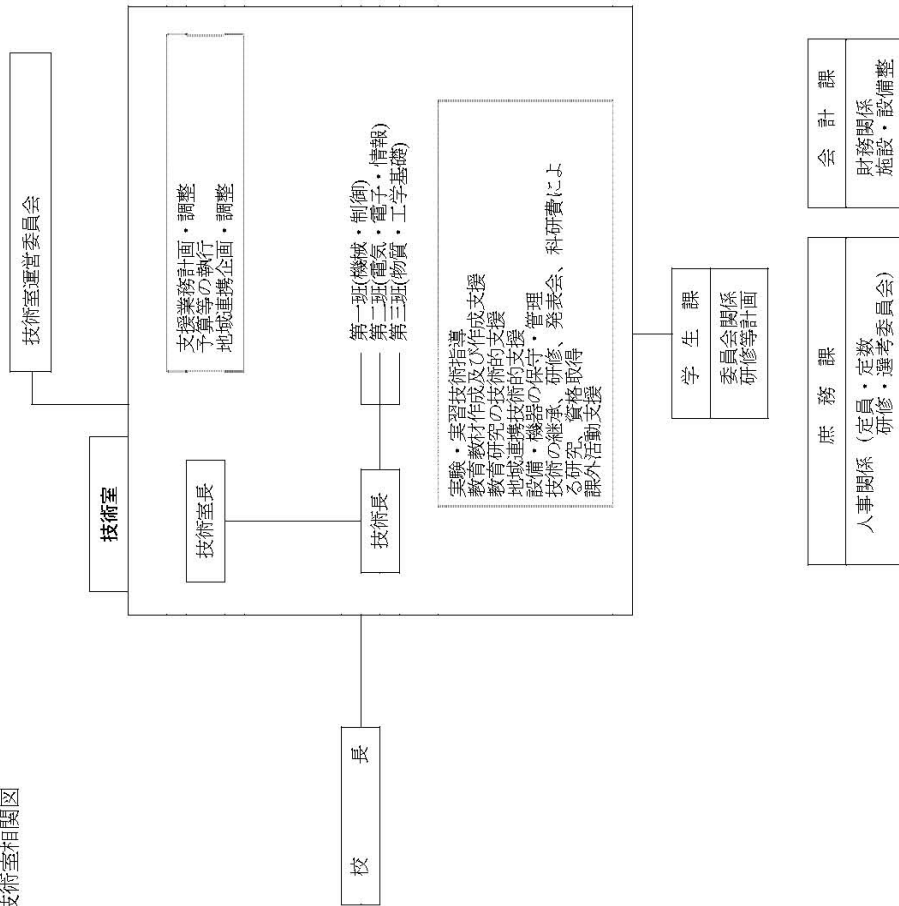
  - 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
  - 2 東京工業高等専門学校事務組織及び分掌規則（昭和48年4月1日施行）は廃止する。

- 5 -

(出典 総務課資料)

資料3-3-①-3

技術室相関図



(出典 技術室資料)

資料3-3-①-4

平成18年 3月17日

## 平成18年度 教育支援予定表

技術室運営委員会委員長 殿

技術室 第1技術班

区分	授業科目名、業務内容、時間等
1. 学生実験・実習に関する事	[機械工学科]
	◎ものづくり基礎工学 (金) 3～7時限 通年 1年生(全員) CAD、旋盤、フライス盤、ボール盤、手仕上げ、鋳造、木工 教員 前期 福田、清水、堤 後期 黒崎、清水、森下 第1技術班 5名
	◎機械製作実習Ⅰ (水) 7, 8時限 通年 2年生 旋盤、フライス、CAD/CAM、手仕上げ 教員 通年 木村 第1技術班 5名
	◎応用機械製作実習 (火) 5～8時限 後期 3年生 スターリングエンジンの設計・製作 教員 後期 筒井 第1技術班 5名
	◎メカトロ実習支援 (月) 5～8時限 通年 3年生 メカトロ部品製作の指導、CAD/CAM指導 教員 前期 下井、堤 後期 下井、堤 第1技術班 鈴木班長、藤野技術職員 計2名
	◎機械・電気工学実験ⅠA (火) 5～8時限 通年 4年生 内燃機関の性能試験 教員 筒井 第1技術班 1名
	◎機械・電気工学実験Ⅱ (木) 1～4時限 前期 5年生 鋼の表面粗さ測定 教員 福田 第1技術班 1名
◎機械工学特別講義Ⅰ 夏期集中講義 5年生 30時間 バイクの分解・組立の指導 教員 筒井 第1技術班 5名	
[地域連携テクノセンター] 18年度は未定ですが、19年度からは光造形機を用いた専攻科を対象としたものづくり実習を計画しております。そのための準備を18年度に行いたいと思います。その際は、ご協力をお願い致します。	

- 1 -

(出典 技術室資料)

資料3-3-①-4

区分	授業科目名、業務内容、時間等
2. 製作・試作依頼に関する事	<p>[機械工学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎実験・研究機器の試作</li> </ul> <p>[機械工学科以外]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・研究機器等の製作及び試作</li> </ul> <p>[地域連携テクノセンター]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの光造形依頼</li> <li>・地域の企業、技術懇談会加盟企業および共同研究企業からの造形依頼に対応（不定期）</li> <li>・学内試作研究用造形依頼</li> <li>・学内の依頼に対応（不定期）</li> </ul>
3. 卒業研究に関する事	<p>[機械工学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎研究機器の試作</li> <li>◎研究機器の試作のための卒研生の実習指導</li> </ul> <p>[地域連携テクノセンター]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内試作研究用造形依頼</li> <li>・造形作業補助（不定期）</li> </ul>
4. 教員研究に関する事	<p>[機械工学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎研究用機器の試作（不定期）</li> <li>◎教員との共同研究（興味のある方）</li> </ul> <p>[地域連携テクノセンター]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形作業補助（不定期）</li> </ul>
5. 課外活動に関する事	<p>[機械工学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ソーラーカー活動</li> <li>◎メカ工房活動支援</li> <li>◎その他 活動支援(工作同好会活動など)</li> </ul>
6. その他	<p>[地域連携テクノセンター]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域連携テクノセンター運営委員としての業務（藤野技術職員） <ul style="list-style-type: none"> <li>・光造形装置の保守管理（藤野技術職員）</li> <li>・造形受託（藤野技術職員）</li> </ul> </li> </ol>

資料3-3-①-4

平成18年 3月17日

## 平成18年度 教育支援予定表

技術室運営委員会委員長 殿

技術室 第2技術班

区分	授業科目名、業務内容、時間等
1. 学生実験・実習に関する事	<p>[電気工学科] ものづくり基礎工学、創造電気実験Ⅰ、創造電気実験Ⅱ、創造電気実験Ⅲの支援 (内容、時期) 実験室・実験準備室の事前準備と確認(装置・器具の確認、配置、調整等) 実験用消耗品の確認と確保 実験報告書の整理 実験室・実験準備室の事後確認と整理 以上、実験実施期間中、毎回</p> <p>実験指導書作成支援 実験装置及び実験用測定機器の保守点検、修理等 実験室及び準備室に関する事(清掃、備品確認、消耗品確認等) 実験用消耗品の管理(部品、材料、工具等の不足品の確認) 以上、随時</p> <p>実験教材作成支援(作製、実験等)      区分2に記載 実験指導書印刷、製本の支援      9月、10月、2月、3月</p> <p>[電子工学科] ・電子工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(2～4年)、ものづくり基礎工学(1年) デジタル回路(3年)、プロジェクト演習(4年) OS・ネットワーク特講(4、5年集中講義、7月20日～7月31日の平日の午前、または午後(半日))、電子応用特講(4、5年)でのオンラインテスト実施時の支援(年間3～4日程度) (1) 実験の指導 (2) ものづくり教育の技術指導 (3) 学生実験の前準備(実験器具、計算機等の準備、調整、点検など) (4) 電子工学実験室(1～4階)、電子工学特別教室の整理整頓支援 (5) 実験報告書の管理支援 (6) 実験テキストの保管・整理、演習テキストの印刷・保管・整理 (7) 新規教材の開発 (8) 新規実験テーマの予備実験 (9) 実験・ものづくり教育消耗品の管理支援 (10) 電子応用特講のためアール・プロメトリック認定テストセンターの管理支援</p> <p>・実験室特殊装置の管理/保守の支援 (1) 情報系実験室のPCとネットワークの保守(ハードとソフトの設定、動作確認)</p> <p>・その他 (1) 実験器具の返納/管理換え手続き支援 (2) 実験器具購入に関する支援(性能調査、価格調査など) (3) 実験消耗品購入に関する支援(特性調査、価格調査など)</p>

- 3 -

(出典 技術室資料)

資料3-3-①-4

区分	授業科目名、業務内容、時間等
1. 学生実験・実習に関する事	<p>[情報工学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生実験の援助</li> <li>・実験の準備・実験指導書の印刷等</li> <li>・実験室、コンピュータ室等の管理、運用</li> <li>・実験用機器・パソコンの保守等</li> </ul> <p>[情報・メディア教育センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 電算機演習室の開閉管理（授業毎）</li> <li>(2) 電算機演習室パソコン及び周辺機器管理（保守点検、復元）</li> <li>(3) 電算機演習の指導助言</li> <li>(4) パソコン利用指導書作成支援（原稿・印刷・製本）</li> <li>(5) 電算機演習室の消耗品管理</li> <li>(6) 電算機演習室利用ユーザ登録</li> <li>(7) 電算機演習室トラブル対応（電算室常時待機）</li> </ul>
2. 製作・試作依頼に関する事	<p>[電気工学科]</p> <p>新規実験テーマ開発の支援として、装置の試作及び製作  （内容、時期）</p> <p>創造電気実験Ⅲ 平成18年度新規テーマに関する打ち合わせと製作  打ち合わせ・製作 半日/週、夏休み</p> <p>創造電気実験Ⅱ 平成18年度新規テーマに関する打ち合わせと製作  打ち合わせ・製作 半日/週、夏休み</p> <p>創造電気実験Ⅰ 平成18年度新規テーマに関する打ち合わせと製作  打ち合わせ・製作 半日/週、夏休み</p> <p>[電子工学科]</p> <p>学生実験用製作・試作、研究用製作・試作、課外活動用製作・試作</p> <p>[情報工学科]</p> <p>実験/実習用装置製作補助（基板加工機による製作、基板組立、ケーブル製作、保守等）</p>
3. 卒業研究に関する事	<p>[情報工学科]</p> <p>希望に応じて、共同研究を行う。（技術職員の自己研修の一部）</p>
4. 教員研究に関する事	<p>[電子工学科]</p> <p>教官研究・共同研究の支援（興味のある方が自主的に行う）</p> <p>[情報工学科]</p> <p>希望に応じて、共同研究を行う。（技術職員の自己研修の一部）</p>
5. 課外活動に関する事	<p>[電子工学科]</p> <p>学園祭企画の支援</p> <p>[情報工学科]</p> <p>学園祭企画の援助</p>
6. その他	<p>[電気工学科]</p> <p>「ものづくり基礎工学」および創造電気実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにつきましては技術職員2名の支援をお願い致します。</p>

- 4 -

(出典 技術室資料)



資料3-3-①-4

区分	授業科目名、業務内容、時間等
6. その他	<p>[電子工学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業/演習等の教材作成支援（授業用の資料集や演習問題集、解答用紙の印刷）</li> <li>・体験教室/学校説明会（前日までの準備、当日の担当および資料アンケートの整理）</li> <li>・工場見学引率（本人のスケジュールがとれて、かつ本人の興味のある場合。但し、専門学科から最低1名の教官が引率者として同行する場合があります）</li> </ul> <p>[情報工学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科公開・公開講座関係(7月または8月予定) （資料作成補助、学科公開日の補助） 注）平日に実施する場合のみ</li> <li>・工場見学関係 技術職員の希望により、工場見学への参加（技術職員の自己研修の一部）</li> </ul> <p>[図書館]</p> <p>昨年と同様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) VOD 調整に関する支援</li> <li>(2) 図書館のパソコンに関する技術支援</li> </ul> <p>[情報・メディア教育センター]</p> <p>1. 電算機演習室関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 電算機第1・3演習室用サーバの管理(保守点検)</li> <li>(2) 電算機第1・3演習室用サーバおよびクライアントソフトのバージョンアップ</li> <li>(3) 電算機第1・3演習室用新規ソフトウェアのインストール(原則休業期間中)</li> <li>(4) 電算機第1演習室オープン利用対応</li> <li>(5) 電算機第1演習室オープン利用に伴う学生の指導助言</li> <li>(6) 電算機演習室の教育環境維持管理（定期的な清掃）</li> <li>(7) 電算機演習室活用公開講座支援</li> </ul>

- 5 -

(出典 技術室資料)

資料3-3-①-4

平成18年 3月17日

## 平成18年度 教育支援予定表

技術室運営委員会委員長 殿

技術室 第3技術班

区分	授業科目名、業務内容、時間等
1. 学生実験・実習に関する事	[物理]
	物理
	1組, 2組, 3組, 4組, 5組 5テーマ×5クラス×2時間
	2M, 2E, 2D, 2J, 2C 3テーマ×5クラス×1時間
	4テーマ×5クラス×2時間
	1テーマ×5クラス×4時間
	応用物理I
	3M, 3E, 3D, 3J, 3C 4時間/週×5クラス
	物理関係の専攻科目(実験物理・原子核物理など)の支援
	実験前
・実験室・実験準備室の管理(清掃、備品管理、薬品管理、廃液関係、不足品の注文・補充)	
・学生実験の準備その1(実験テキスト作成補助(印刷製本)、新規実験の予備実験)	
・学生実験の準備その2(器具の確認、配置、薬品の調整)	
実験中	
・学生実験の技術的指導、実験器具の調整	
・教官が提出された実験レポートを点検している時は、その補助	
・学生の実験結果の確認	
実験後	
・学生実験の後片づけ	
・再実験の実験補助	
・提出レポートの受付と管理	
・パソコンによる、提出レポートの計算の確認	
教員と技術職員の打ち合わせ会議	
[物質工学科]	
(前期)	
月 3C 有機化学実験の指導補助(1名で支援) 4時間/週	
3C 物質工学創造実験の指導補助(2名で支援) 1時間/週	
火 3C 無機化学実験の指導補助(1名で支援) 6時間/週	
水 2C 分析化学実験の指導補助(1名で支援) 3時間/週	
4C 物理化学・材料化学実験、化学工学生物化学実験の指導補助(2名で支援) 6時間/週	
金 1年 ものづくり基礎工学実験の指導補助(1名で支援) 5時間/週	
他学科1, 2年 化学I、化学II授業および実験指導補助(全員で支援)	
(後期)	
1年 ものづくり基礎工学実験の指導補助(1名で支援)	
2C 分析化学実験の指導補助(2名で支援)	
2C 情報処理1の指導補助(2名で支援)	

-6-

(出典 技術室資料)

資料3-3-①-4

区分	授業科目名、業務内容、時間等
1. 学生実験・実習に関する事	<p>3C 物質工学創造実験の指導補助（2名で支援）  4C セミナールの指導補助（2名で支援）  4C 機器分析Ⅱの指導補助（1名で支援）  4C 情報処理Ⅱの指導補助（1名で支援）  5C 基礎工学概論の指導補助（1名で支援）  A C 物質工学特別実験の指導補助（2名で支援）  他学科1, 2年 化学Ⅰ、化学Ⅱ授業および実験指導補助（全員で支援）</p> <p>* 実験の準備は実験日の前日および午前中に行う。  * 実験が終了するまで指導補助、実験終了後片付けを行う。  * 実験テキストの作成に対する補助  * 実験レポートの整理、追加実験の支援</p>
2. 製作・試作依頼に関する事	<p>[物理]  学生実験支援のためのソフトウェア開発（黒澤）</p> <p>[物質工学科]  (1) 外部からの委託試料の測定  SEM・EDX（飯田）NMR・FT-IR（長井）、ESCA（雑賀）、その他  (2) AC 物質工学特別実験の企画開発補助（飯田）</p>
3. 卒業研究に関する事	<p>[物質工学科]  (1) 卒業研究において分析機器の使用時、学生への指導（全員）  (2) 分析機器の使用マニュアル及び、維持管理マニュアルの作成・改訂（全員）  (3) 卒業研究発表会の要旨製本、準備・運営補助</p> <p>[地域連携テクノセンター]  ・卒業研究、ゼミナール  ESCA・オージェ装置およびX線回折装置の測定補助（不定期）</p>
4. 教員研究に関する事	<p>[物質工学科]  (1) 庄司教員との共同研究（飯田）  「環境汚染物質曝露による植物種子含有タンパクの質的・量的変化」  (2) 三谷教員との共同研究（飯田）  「ミジンコからの微量生体物質の検出」  (3) 町田教員との共同研究（長井）  「某企業の開発サンプルに対するNMR,FT-IR測定及び解析」</p> <p>[地域連携テクノセンター]  ・卒業研究、ゼミナール  ESCA・オージェ装置およびX線回折装置の測定補助（不定期）</p>
5. 課外活動に関する事	
6. その他	<p>[物理]  ・物理科関係のネットワークの管理（例；物理科ホームページの作成補助）  ・「中学生のための理科実験」2006年7月か8月を予定 於 東京高専  8：00頃から17：00頃（含 準備、片付け）  当日の運営のため支援をお願いします。  また、準備のための事前の打ち合わせにも参加をお願いします。</p>

-7-

(出典 技術室資料)

資料3-3-①-4

区分	授業科目名、業務内容、時間等
6. その他	<p>・八王子教員研修や科学博物館のイベントなど準備および当日の運営の支援</p> <p>[物質工学科]</p> <p>(1) 物質工学科実験室、会議室等の管理・整備 (全員)</p> <p>(2) 薬品管理システムサーバーの管理 (雑質)</p> <p>(3) 薬品管理 (全員)</p> <p>(4) 備品、消耗品類の管理 (全員)</p> <p>(5) ポンベ管理 (全員)</p> <p>(6) 納入物品の受領 (全員)</p> <p>(7) 分析機器の維持管理と利用者 (企業、教官、学生) に対する指導 (全員)</p> <p>(8) 公開講座、学科説明会等の準備、支援 (全員)</p> <p>(9) 地域連携テクノセンター業務支援 (雑質)</p> <p>(10) 物質工学科コンピュータ室の維持管理、整備 (飯田)</p> <p>(11) 学科講演会・中間発表等の準備、補助、支援 (全員)</p> <p>(12) 国立科学博物館での実験補助、文科省採択サイエンス・パートナーシッププログラムなどの地域連携事業の支援 (全員)</p> <p>[地域連携テクノセンター]</p> <p>1. 地域連携テクノセンター運営委員としての業務 (雑質技術職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ESCA・オージェ装置およびX線回折装置の保守管理 (雑質技術職員)</li> <li>・ESCA・オージェおよびX線回折受託試験測定 (雑質技術職員)</li> </ul> <p>2. 技術相談の受付補助 他の区分の分もふくめて、年間平均として次のような時間を考えている。 1人×0.5日 (3～4回/週) (スケジュールは学科と相談する)</p> <p>3. 検体用ミジンコの飼育と有償譲渡受付業務 (長井技術職員) (毎日: 30分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の地域還元</li> </ul>

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 専任教員の学位取得率は64%であり非常に高率である。また、企業経験をもつ教員も34%おり、年齢構成は均衡が取れている。
- ・ 技術職員の教育支援が広範囲であり、きめ細かい。

(改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準3の自己評価の概要

設置基準を満たす専任教員が一般科目を担当している。また、工学の基礎である数学、化学、物理には、15名の専任教員が配置され、国際コミュニケーション能力を担う英語には、工学の専門性を持つネイティブスピーカーの専任教員1名とネイティブスピーカーの外国人非常勤教員1名が配置されている。更に、一般科目を担当しているすべての専任教員と非常勤教員は、担当科目を講義するのに適した専門性を持っている。

専門科目についても、設置基準を上回る専任教員が担当しており、専門科目を講義するのに適した専門性を持っている。また、多数の博士号取得者と多数の企業経験者を擁している。

専攻科の科目はすべて、学位授与機構により認定された専任教員が担当し、そのほとんどは博士である。また、融合複合という専攻科共通の目標を達成するために、専門共通科目に多くの専任教員が配置されている。

以上により、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されている。

本校では、学位取得率は高く、年齢構成は均衡の取れたものとなっている。また、教員の採用に関する規定は高等専門学校設置基準に適合しており、教育上の能力を適切に考慮・評価するものである。

自己評価や、学生アンケートにより教員の教育能力や教育実績などについて定期的な評価がなされており、その結果は、教員顕彰に反映されている。

教育に関係している事務職員と技術職員は、資料の提供、担任および学級指導教員・クラブ顧問の支援、学生生活の支援、成績評価の支援、実験実習などの支援を行っており、教育課程を有効に展開・支援するうえで適切に配置されており、また機能している。



## 基準4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

#### （観点に係る状況）

本校の入学者受け入れ方針は明確に定められ、募集要項に記載されている（資料4-1-①-1、資料4-1-①-2、資料4-1-①-3、後掲の資料4-2-①-1～3）。これらは、学校教育法（第70条の5）（第72条の5）に定められた資格を持っていることを求めるとともに、本校の目的に沿って、受験生に求める能力、適性を明確に定めている。要約すると、準学士課程の場合は、「基礎学力、特に、理数系の基礎学力をもち、ものづくりに興味を持つ学生」が求める学生像であり、専攻科課程の場合は、「専門基礎学力、専門学力をもち、ものづくりに興味を持つ学生」が求める学生像である。

入学者受け入れ方針は、募集要項に記載されて受験生に配布されるとともに、本校のホームページにおいても公表され（資料4-1-①-4）、入試説明会・体験入学・中学校訪問においても説明がなされている（資料4-1-①-5）。ホームページの該当箇所へのアクセス状況および資料の配布状況（資料4-1-①-6）、受験生アンケート結果（資料4-1-①-7）より、公表のための取り組みは十分であり、またその結果、受験生に十分周知されていると結論できる。

本校教職員に対する周知の状況を調べるアンケート結果（資料4-1-①-8）によると、教員に対する周知の程度は非常に高い。

#### （分析結果とその根拠理由）

本校の入学者受け入れ方針は明確に定められ、募集要項に記載されて配布されるほか、本校ホームページにおいても公表され、入試説明会・体験入学・中学校訪問・塾訪問においても説明がなされている。受験生アンケートからも受験生への周知がなされていることが確認でき、教職員への周知の程度も高い。

以上により、教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針などが記載された入学者受入方針が明確に定められ、学校の教職員に周知されている。また、将来の学生を含め社会に公表されている。

資料4-1-①-1

平成19年度

## 国立東京工業高等専門学校入学者募集要項

### I 概要

本校では、学生が入学後1年間、学科の授業・卒業研究などの様子を見ながら、本当に自分にあった学科に所属できるような入試制度を目指しております。

入試では、志望学科を明記して受験していただき、学科ごとに合格者を発表しますが、入学の時点では学科仮配属となります。入学後、5つの学科の授業内容について調査研究する期間をもうけ、2年生進級時に再度本人の配属希望調査と適性審査（日常成績を含む）により正式な学科配属を決定します。

### II 学科構成と募集人員

本校の学科構成と募集人員は次の通りです。

機械工学科	40名	}	(推薦による入学者を含む。)
電気工学科	40名		
電子工学科	40名		
情報工学科	40名		
物質工学科	40名		

推薦による合格者は、各学科とも募集人員の40%程度を上限とします。

### III アドミッションポリシー（入学者受入方針）

ものづくり、基礎学力、技術者としての倫理観、コミュニケーション能力、グループ活動を大切に考えることを基本としたエンジニアを育てる本校では、次のような受験生を求めています。

- (1) 理数系科目が好きであり、それらの科目の成績が優秀である。
- (2) 科学や技術の分野で新しいことを学びたいという学習意欲がある。
- (3) 英語でのコミュニケーション能力習得に熱意がある。
- (4) ものづくりに興味があり、新しいものを作りたいと考えている。
- (5) 仲間とともにグループで作業が出来る。
- (6) 自覚的な行動が出来る。
- (7) 規則正しい生活と、毎日の自発的学習が出来る。

(出典 平成19年度入学者募集要項)



平成19年度 編入学生募集要項

1. 編入学生を募集する学部・募集人員及び編入学年

学 科	募 集 人 員	編 入 学 年 次
機械工学科	若干名	第4学年又は第3学年
電気工学科	〃	
電子工学科	〃	
情報工学科	〃	
物質工学科	〃	

(注) 編入学年次は、下記の「8. 選抜方法」により選抜を行った結果に基づき決定します。編入学を志願する者が、編入学年次を選択することはできません。

2. アドミッションポリシー（入学要項方針）

- ものづくり、基礎学力、技術者としての倫理観、コミュニケーション能力、グループ活動能を大いに養えることを基本としたエンジニアを育てる本校では、次のような受入れ生を求めています。
- (1) 理数系科目が好きであり、それらの科目の成績が優秀である。
  - (2) 科学や技術の分野で新しいことを学びたいという学習意欲がある。
  - (3) 英語でのコミュニケーション能力修得に熱意がある。
  - (4) ものづくりに興味があり、新しいものを作りたいと考えている。
  - (5) 仲間とともにグループで作業が出来る。
  - (6) 自覚的な行動が出来る。
  - (7) 規則正しい生活と、毎日の自発的学習が出来る。

3. 編入学生の卒業要件

- (1) 第4学年への編入学生者は、平成19年4月から本校の第4学年に編入し、第4学年及び第5学年における所定の課程を修了しなければならない。
- (2) 第3学年への編入学生者は、平成19年4月から本校の第3学年に編入し、第3学年、第4学年及び第5学年における所定の課程を修了しなければならない。

4. 出願資格

高等学校を卒業した者又は平成19年3月卒業見込みの者  
 ＊工業に強い関心があり、工業系の科目を修めている者が望ましい。

5. 願書受付

- (1) 受付期間 平成18年7月4日(火)から7月7日(金)まで  
 (郵送による出願の場合は、7月7日(金)16時までに必着のこと)
- (2) 受付時間 9時から16時まで

平成19年度

編入学生募集要項

願書受付期間 平成18年7月4日(火)～7月7日(金)  
 学力検査及び面接 平成18年7月27日(木)  
 合格発表 平成18年8月2日(水)

国立東京工業高等専門学校

## 平成19年度 専攻科学生募集要項

### I. アドミッションポリシー（入学者受入方針）

高等専門学校で修得した能力にさらに専門性を高につけ、複合・融合分野に対応できる、ものづくり志向の技術者の育成を目標とする本校では、次のような入学者を求めています。

- (1) 工学の基礎を修得している人
- (2) さまざまな専門に主体的に取り組む意欲のある人

### II. 募集人員と試験区分

専攻名	入学定員
情報情報システム工学専攻	8名
電気電子工学専攻	8名
物質工学専攻	4名

入学者の選抜は、A. 高等専門学校校長の推薦による選抜、B. 学力による選抜、C. 社会人特別選抜とします。

試験区分	募集人員
推薦による選抜	情報情報システム工学専攻 4名程度
	電気電子工学専攻 4名程度 物質工学専攻 2名程度
学力による選抜	情報情報システム工学専攻 4名程度
	電気電子工学専攻 4名程度 物質工学専攻 2名程度
社会人特別選抜	情報情報システム工学専攻 若干名
	電気電子工学専攻 若干名 物質工学専攻 若干名

## 平成19年度 専攻科学生募集要項

試験区分	募集受付期間	試験日	合格発表日
推薦による選抜	5月18日(水) ～5月19日(金)	5月27日(土)	6月2日(金)
学力による選抜	10月2日(月) ～10月4日(水)	10月14日(土)	10月20日(金)
社会人特別選抜	10月2日(月) ～10月4日(水)	10月14日(土)	10月20日(金)

国立 東京工業高等専門学校  
TOKYO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY  
HTCP://WWW.TOKYO-CT.AC.JP

〒103-0997 東京都八王子市桐田町1220-2  
電話 (042) 688-5126・5127 (学生課)

(出典 平成19年度専攻科学生募集要項)



国立東京工業高等専門学校 3/3 ページ

【専攻科・専攻科・専攻科の配布について】  
募集要項は、本校学生課窓口で配布しています。(無料です)

【配布開始時期】  
専攻科 5月上旬頃から  
専攻科 6月中旬頃から

詳しく希望される方は、必要と募集要項の種別(本科・専攻科・専攻科)、  
課程番号、住所、氏名を明記して、送料分の切手(240円)を同封し、  
申し込んでも大丈夫、送付料は不要です。

193-0937  
東京専攻科 王子市前田町 1220-2  
東京工業高等専門学校 学生課庶務係  
TEL 042-598-5127

▶ページのトップへ


---

Copyright (C) 2004 Tokyo National College of Technology All Rights Reserved.

http://www.tokyo-ct.ac.jp/b00/00000000.htm 2007/03/14


(出典 東京工業高等専門学校ホームページ)

4-1-1-3説明会日程・説明資料



**東京高専の目的**


- 早期体験重視の教育を通して、創造力・実践力・心用力の備わった技術者を育成する。



**高専専攻科**


- 機械情報システム工学専攻 定員8
- 電気電子工学専攻 定員8
- 物質工学専攻 定員4

1学年20名  
全体で40名の学生



**養成する技術者像**

技術者としての活躍と  
基礎力・実践力  
応用力の備わった技術者




**高専本科(準学士課程)**

5つの学科  
機械工学学科  
電気電子工学学科  
物質工学学科  
情報工学学科  
物質工学学科


1学科1クラス定員40名  
1学年定員200名  
全体で1000名の学生

4-1-1-3説明会日程・説明資料




**東京高専紹介目次**

- 高専制度
- 東京高専
- 高専の特徴
- 卒業後の進路
- 高専での生活
- 東京高専施設紹介



**高専の卒業生像**

- 新しい技術を吸収し発展させる学力がある
- ものづくりのセンスがある
- グループで作業できる
- プレゼンテーションが出来る
- 技術者としての行動規範を身に付けている




**新しいことを修得することを楽しむ**

授業・課題内容には次の3つがある。

(1) 全員必ずどこまで修得しなさい


(2) 習かなるスキルアップを目指してこれもやってみたらいいですね

「(2)をやったら得ると感ずる」>>>②  
「(2)をやったら得ると感ずる」>>>X




**高専教育の特徴**

- 5年間一貫技術教育(12.5人教員)
- ものづくりの愛敬実習が多い
- 卒業時の就職状況がよい
- 求人倍率 40社就職希望者
- 卒業して大学等への編入・進学も出来る(毎年75名以上)
- 寄与度がある



**東京高専紹介目次**

- 高専制度
- 東京高専
- 高専の特徴
- 卒業後の進路
- 高専での生活
- 東京高専施設紹介



**高専の卒業生像**

- 新しい技術を吸収し発展させる学力がある
- ものづくりのセンスがある
- グループで作業できる
- プレゼンテーションが出来る
- 技術者としての行動規範を身に付けている

(出典 学校説明会資料)

153

4-1-①-6

## 2006年度 募集要項等の配布部数

時期	説明会等名称	配布部数	開催場所
6月11日	関東信越地区高専合同説明会	35	大宮ソニックシティ
7月1日	学校説明会	15	大月市商工会館
7月1日	学校説明会	41	相模原市教育会館
7月23日	塾講師向け学校説明会	5	東京高専
7月23日	学校説明会	242	東京高専
8月7日	多摩市PTA主催学校説明会	20	パルテノン多摩
8月23日	関東信越地区高専合同説明会	22	横浜市教育会館
8月下旬	東京・埼玉・千葉・神奈川・山梨の 公立中学校への募集要項郵送	1970	
9月24日	学校説明会	133	東京高専
10月15日	塾主催学校合同説明会	33	首都圏大学東京
10月15日	学校説明会・入試問題解説会	224	東京高専
11月4日	学校説明会	119	東京高専
11月5日	学校説明会	84	東京高専
12月2日	学校説明会	110	東京高専
12月26日	学校説明会	71	東京高専
	合 計	3124	

(出典 学生課資料の集計)

資料4-1-①-6

## 2006年 東京高専ホームページアクセス数

## 【1】概要

本校ホームページへの年間総アクセス数	1157441
入試関係ページへの年間総アクセス数	47855

## 【2】入試関係ページのアクセス状況

## 月別集計

1月	3916	8.18%
2月	5943	12.42%
3月	2999	6.27%
4月	3060	6.39%
5月	3383	7.07%
6月	3779	7.90%
7月	4120	8.61%
8月	4567	9.54%
9月	4627	9.67%
10月	4290	8.96%
11月	3913	8.18%
12月	3258	6.81%

## 曜日別集計

日曜日	5959	12.45%
月曜日	7004	14.64%
火曜日	7764	16.22%
水曜日	7245	15.14%
木曜日	7194	15.03%
金曜日	6889	14.40%
土曜日	5800	12.12%

(出典 ウェブアクセス解析結果)

資料4-1-①-7

平成18年度学校説明会アンケート結果

※整講師向け含む

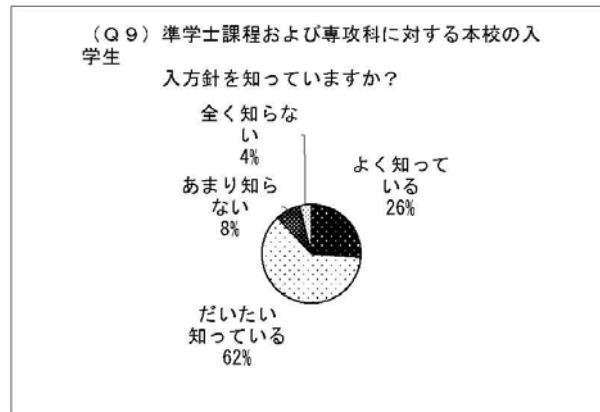
		7月23日	9月24日	10月15日	11月4日	11月5日	12月2日	12月26日	合計
来場者数		405	237	367	185	165	193	113	1665
アンケート配布数		242	133	224	119	84	110	71	983
アンケート回答数		170	118	180	76	62	85	64	755
回収率		70.2%	88.7%	80.4%	63.9%	73.8%	77.3%	90.1%	
所在地	東京	91 53.5%	60 50.8%	96 53.3%	41 53.9%	32 51.6%	43 50.6%	43 67.2%	406 53.8%
	神奈川	45 26.5%	28 23.7%	37 20.6%	13 17.1%	19 30.6%	23 27.1%	15 23.4%	180 23.8%
	埼玉	17 10.0%	15 12.7%	28 15.6%	11 14.5%	7 11.3%	7 8.2%	4 6.3%	89 11.8%
	千葉	1 0.6%	0.0%	6 3.3%	0.0%	1 1.6%	1 1.2%		9 1.2%
	山梨						3 3.5%	1 1.6%	4 0.5%
	青森、秋田、山形、宮城	2 1.2%			2 2.6%		1 1.2%		5 0.7%
	栃木			1 0.6%					1 0.1%
	静岡			1 0.6%		1 1.6%	1 1.2%		3 0.4%
	大阪、和歌山、岡山、愛媛、福岡			2 1.1%	2 2.6%		1 1.2%		5 0.7%
	海外・日本人学校	2 1.2%	0.0%	5 2.8%	1 1.3%			1 1.6%	3 0.4%
無回答		0.0%	1 0.8%	5 2.8%	6 7.9%	0.0%	2 2.4%	1 1.6%	15 2.0%
学年	3年	139 81.8%	90 76.3%	142 78.9%	51 67.1%	47 75.8%	59 69.4%	43 67.2%	571 75.6%
	2年	9 5.3%	9 7.6%	5 2.8%	18 23.7%	10 16.1%	12 14.1%	7 10.9%	70 9.3%
	1年	4 2.4%	3 2.5%	1 0.6%	1 1.3%	1 1.6%	3 3.5%	1 1.6%	14 1.9%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0 0.0%
	無回答	2 1.2%	1 0.8%	1 0.6%	0.0%	1 1.6%	0.0%	1 1.6%	6 0.8%
来校者	本人	154	103	149	70	59	74	52	661
	父	49	38	56	24	23	29	10	229
	母	121	82	114	56	51	55	42	521
	知人・その他	15	6	6	13	10	12	5	67
	無回答								
学科選択制度について	よいと思う	159 93.5%	104 88.1%	168 93.3%	73 96.1%	59 95.2%	81 95.3%	58 90.6%	702 93.0%
	よいとは思わない	6 3.5%	4 3.4%	3 1.7%	2 2.6%	2 3.2%	1 1.2%	2 3.1%	20 2.6%
	どちらともいえない	1 0.6%	9 7.6%	4 2.2%	1 1.3%	1 1.6%	3 3.5%	2 3.1%	21 2.8%
	どんなことを勉強するのか 体験してから学科を選ぶ いろいろな学科の基礎知識 を身につけられる	124	74	128	41	45	56	44	512
	友人が増える	54	43	61	38	23	35	25	279
	希望する学科に配属になる か不安	17	5	1	6	3	5	5	42
	その他	2		2		1	1	1	7
	無回答	6	4	2	2	2	1	2	19
説明会を何で知ったか	中学校の先生	37 21.8%	18 15.3%	15 8.3%	3 3.9%	0.0%	6 7.1%	6 9.4%	85 11.3%
	塾の先生	14 8.2%	11 9.3%	7 3.9%	4 5.3%	1 1.6%	3 3.5%	7 10.9%	47 6.2%
	学校案内・ポスター・チラシ	21 12.4%	15 12.7%	34 18.9%	8 10.5%	14 22.6%	12 14.1%	7 10.9%	111 14.7%
	受験案内・受験ガイド	23 13.5%	21 17.8%	23 12.8%	7 9.2%	18 29.0%	12 14.1%	10 15.6%	114 15.1%
	在校生・卒業生等	4 2.4%	8 6.8%	6 3.3%	2 2.6%	4 6.5%	4 4.7%	3 4.7%	31 4.1%
	電話・メールで問い合わせ	7 4.1%	3 2.5%	1 0.6%	0.0%	0.0%	1 1.2%	1 1.6%	13 1.7%
	本校ホームページ	104 61.2%	79 66.9%	123 68.3%	47 61.8%	33 53.2%	54 63.5%	39 60.9%	479 63.4%
	家族・友人・知人	41 24.1%	28 23.7%	39 21.7%	26 34.2%	15 24.2%	31 36.5%	20 31.3%	200 26.5%
	その他	6 3.5%	1 0.8%	4 2.2%	4 5.3%	2 3.2%	1 1.2%	0.0%	18 2.4%
	無回答								
以前から東京高専に興味を持っていたこと	技術者に必要な能力を 無駄なく修得できる	54 31.8%	28 23.7%	41 22.8%	12 15.8%	19 30.6%	23 27.1%	22 34.4%	199 26.4%
	体験を重視した教育内容	32 18.8%	24 20.3%	27 15.0%	8 10.5%	12 19.4%	16 18.8%	17 26.6%	136 18.0%
	就職に有利	52 30.6%	39 33.1%	56 31.1%	22 28.9%	8 12.9%	32 37.6%	26 40.6%	235 31.1%
	大学に編入学出来る	54 31.8%	33 28.0%	53 29.4%	16 21.1%	21 33.9%	16 18.8%	19 29.7%	212 28.1%
	受験勉強が不要	13 7.6%	9 7.6%	12 6.7%	3 3.9%	6 9.7%	6 7.1%	5 7.8%	54 7.2%
	自由な校風	12 7.1%	9 7.6%	19 10.6%	7 9.2%	6 9.7%	5 5.9%	7 10.9%	65 8.6%
	制服がない	20 11.8%	14 11.9%	25 13.9%	10 13.2%	10 16.1%	7 8.2%	7 10.9%	93 12.3%
	ロボコンに出場したい	39 22.9%	30 25.4%	35 19.4%	17 22.4%	11 17.7%	1 1.2%	14 21.9%	147 19.5%
その他	4 2.4%	3 2.5%	2 1.1%	0.0%	0.0%	0 0.0%	1 1.6%	10 1.3%	
当日の説明会を聞いて新しく興味を持ったこと	技術者に必要な能力を 無駄なく修得できる	62 36.5%	54 45.8%	83 46.1%	39 51.3%	31 50.0%	32 37.6%	20 31.3%	321 42.5%
	体験を重視した教育内容	83 48.8%	39 33.1%	80 44.4%	33 43.4%	26 41.9%	35 41.2%	25 39.1%	321 42.5%
	就職に有利	64 37.6%	37 31.4%	54 30.0%	28 36.8%	19 30.6%	29 34.1%	16 25.0%	247 32.7%
	大学に編入学出来る	40 23.5%	26 22.0%	39 21.7%	19 25.0%	10 16.1%	12 14.1%	17 26.6%	163 21.6%
	受験勉強が不要	25 14.7%	10 8.5%	9 5.0%	3 3.9%	2 3.2%	1 1.2%	9 14.1%	59 7.8%
	自由な校風	23 13.5%	14 11.9%	24 13.3%	13 17.1%	7 11.3%	7 8.2%	8 12.5%	96 12.7%
	制服がない	13 7.6%	12 10.2%	17 9.4%	12 15.8%	8 12.9%	4 4.7%	4 6.3%	70 9.3%
	ロボコンに出場したい	16 9.4%	11 9.3%	35 19.4%	9 11.8%	13 21.0%	3 3.5%	7 10.9%	94 12.5%
その他	5 2.9%	0 0.0%	3 1.7%	2 2.6%	0.0%	1 1.2%	1 1.6%	12 1.6%	
志望校を選ぶとき重視すること	就職実績	85 50.0%	54 45.8%	77 42.8%	32 42.1%	29 46.8%	45 52.9%	33 51.6%	355 47.0%
	進学実績	73 42.9%	55 46.6%	83 46.1%	37 48.7%	32 51.6%	50 58.8%	34 53.1%	364 48.2%
	教育内容	117 68.8%	80 67.8%	124 68.9%	57 75.0%	47 75.8%	57 67.1%	48 75.0%	530 70.2%
	校風	74 43.5%	43 36.4%	74 41.1%	33 43.4%	30 48.4%	42 49.4%	25 39.1%	321 42.5%
	クラブ活動・イベント	50 29.4%	30 25.4%	45 25.0%	21 27.6%	19 30.6%	24 28.2%	20 31.3%	209 27.7%
	学校の設備	42 24.7%	31 26.3%	38 21.1%	17 22.4%	15 24.2%	12 14.1%	17 26.6%	172 22.8%
	通学時間	66 38.8%	42 35.6%	64 35.6%	36 47.4%	22 35.5%	29 34.1%	29 45.3%	288 38.1%
	知名度	11 6.5%	11 9.3%	7 3.9%	8 10.5%	3 4.8%	4 4.7%	8 12.5%	52 6.9%
	寮	16 9.4%	6 5.1%	17 9.4%	6 7.9%	5 8.1%	8 9.4%	5 7.8%	63 8.3%
	学費	53 31.2%	37 31.4%	50 27.8%	18 23.7%	20 32.3%	32 37.6%	22 34.4%	232 30.7%
	偏差値	55 32.4%	42 35.6%	58 32.2%	25 32.9%	19 30.6%	22 25.9%	22 34.4%	243 32.0%
	制服の有無やデザイン	13 7.6%	7 5.9%	11 6.1%	7 9.2%	6 9.7%	7 8.2%	6 9.4%	57 7.5%
	その他	4 2.4%	1 0.8%	7 3.9%	3 3.9%	0 0.0%	2 2.4%	0.0%	17 2.3%
塾に通っていますか	はい	110 64.7%	97 82.2%	139 77.2%	48 63.2%	49 79.0%	69 81.2%	50 78.1%	562 74.4%
	いいえ	51 30.0%	21 17.8%	36 20.0%	27 35.5%	12 19.4%	13 15.3%	13 20.3%	173 22.9%
	はい	99 58.2%	90 76.3%	134 74.4%	58 76.3%	44 71.0%	64 75.3%	52 81.3%	541 71.7%
	いいえ	32 18.8%	20 16.9%	35 19.4%	12 15.8%	16 25.8%	15 17.6%	10 15.6%	140 18.5%

(出典 学生課資料)

資料4-1-①-8

入学生受入方針の周知度に関するアンケート結果  
(有効回答数：教員50名)

実施日 平成19年6月11日



(出典 認証評価専門委員会アンケート集計結果)



**観点4-2-①：** 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程においては、学力選抜と推薦選抜を併用している。「基礎学力、特に、理数系の基礎学力をもち、ものづくりに興味を持つ学生」を受け入れるため、学力入試においては、数学・理科・英語・国語の4科目の試験による選抜（資料4-2-①-1）が行われており、数学の得点を重視する傾斜配分方式を取り入れた「選考値」により合否を決めている。また、推薦選抜（資料4-2-①-1）においても、内申書と面接による点数に加え、適性試験を実施するところにより、入学者受入方針に沿った適切な学生の受入方法が採用されている（現地閲覧資料を参照）。

準学士課程3年または4年への編入学においては、学力試験と面接で選抜を行っている（資料4-2-①-2）。入学者と同様に「基礎学力、特に、理数系の基礎学力をもち、ものづくりに興味を持つ学生」を受け入れるため、学力試験では英語および数学の試験を実施している。

専攻科課程においては、学力選抜と推薦選抜を併用している。学力選抜においては、「専門基礎学力、専門学力をもち、ものづくりに興味を持つ学生」を受け入れるため、数学と専門科目の試験を実施している（資料4-2-①-3）。推薦選抜においては、出身校における成績と面接の際に実施する口頭試問により入学者受入方針に沿った適切な学生の受入方法が採用されている（資料4-2-①-5）。

また、以上のような受け入れ方針に従って、実際の入学者選抜は適切に行われている（資料4-2-①-6）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程（編入学含む）、専攻科課程ともに、入学者受入方針に沿った適切な学生の受入方法が採用され、入学者選抜基準として明文化されている。また、入学者選抜基準に従って、適切に入学者の選抜が実施されている。

以上により、入学者受入方針に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

資料4-2-①-1

## 学力入試の選抜方法

## 4. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、調査書を総合して行います。

- (1) 学力検査の教科は、国語、数学、理科及び英語の4教科とします。
- (2) 検査日時は下表のとおりです。

月 日	時 間	教 科
2月18日(日)	9:00	(受験者集合)
	9:30~10:20	理 科
	10:40~11:30	英 語
	11:50~12:40	数 学
	13:30~14:20	国 語

- (3) 学力検査場

東京工業高等専門学校（詳細については、出願手続きの際に配布する受験者心得に明示します。）

## 推薦入試の選抜方法

## 4. 選抜方法

入学者の選抜は、調査書、推薦書及び本校が実施する面接（志望学科に関する口述試問を含む。）並びに適性テストを総合して行います。

- (1) 日 時 平成19年1月21日(日) 午前9時から
- (2) 場 所 東京工業高等専門学校（詳細については、出願手続きの際に配布する受験者心得に明示します。）

(出典 準学士課程募集要項)

実施教科	出 題 範 囲		
数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ		
英 語	英語Ⅰ、英語Ⅱ		

(2) 学力検査及び面接日時

7月27日(木)	9:40	10:00~11:00	11:15~12:15	13:30~
	集合	数 学	英 語	面 接

(3) 検査場 東京工業高等専門学校

9. 合格発表

(1) 発表日 平成18年6月2日(木) 午前10時

(2) 発表方法 本人及び関係者あて文書により通知します。また、本校のホームページでも合格者の受験番号を公開します。

なお、電話等による合格の問い合わせは致しません。

10. その他

出願手續、編入学に関する事務は下記で行っています。

〒193-0997 東京都八王子市甲田町1-2-2-2  
東京工業高等専門学校 学生課 事務係

TEL 042-668-5127 【学生課直通】  
FAX 042-668-5092 【学生課直通】

(3) 受付場所 東京工業高等専門学校 学生課事務係  
〒193-0997 八王子市甲田町1-2-2-2  
TEL 042-668-5127  
FAX 042-668-5092

6. 出願方法

志願者は、次の書類を在籍(出身)学校長を経て、本校学生課事務係に提出してください。

(1) 編入学志願者名簿、写真票、受験票

本校所定の用紙に必要事項を記入したもの

(2) 願書書

在籍(出身)高等学校所定の用紙により学校長が作成したもの

(3) 卒業証書(証明書又は卒業証明書)

在籍(出身)高等学校所定の用紙により学校長が作成したもの

(4) 検定料 16,500円

本校所定の「入学検定料振込み用紙」を使用し銀行等の窓口で振込手続きをしてください。「納入済票」(履歴提出用)を「東京工業高等専門学校入学検定料振込証明書」に貼付し、必要事項を記入の上、提出してください。検定料納入期限は、6月29日(木)から7月7日(金)までとします。

(5) 返信用封筒

定形封筒に本人の宛先を明記し、350円分(返運)の切手を貼付したものを1枚同封してください。ただし、願書を直接持参する者は不要です。

(6) 身体に障害がある者及び障害者等がある者の出願

身体に障害がある者及び発達障害等がある者で、受験をする上で特別な措置及び入学後修学をする上で特別な配慮を必要とする者は、平成18年6月9日(金)までに学生課事務係へ相談してください。

7. 出願上の注意

(1) 出願書類等を郵送する場合は、必ず「書留郵便」とし、封筒の裏に「**編入学願書受付中**」と宛書してください。

(2) 出願書類を受理した後は、記載事項の変更、書留及び検定料の返還はいかなる理由があっても認めません。

(3) 出願書類に不正の書き込みがあったときは、編入学後においても入学を取り消します。

(4) 郵送で出願の手続きをした者については、受験票等を送付しますので、受験票等が7月18日(火)までに届かないときは、本校学生課事務係に照会してください。

8. 選抜方法

編入学者の選抜は、学力検査、面接の結果及び調査書を総合して行います。

(1) 学力検査の科目・出題範囲

3.検定料	19,500円 本校定額の「入学検定料返込用紙」を使用し銀行等の窓口で振込手帳もをしてください。検定料納入期間は、9月28日(水)から10月4日(水)とします。
4.入学検定料払込証明書	「納入書票」(領受書)を「東京工業高等専門学校入学検定料払込証明書」に貼付し、必要事項を記入の上、同封してください。
5.受験票送付用封筒	封筒の裏に本人の住所、氏名及び郵便番号を明記し、80円切手を貼付してください。
6.その他	現に日本国内に在住する外国人は、市区町村長の発行する「外国人登録済証明書」を提出してください。

(5) その他の注意事項

- ① 出願書料等の不備なものは受理しません。
- ② 出願書料返出後は、記載事項の変更は一切認めません。
- ③ 受理した出願書料及び検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
- ④ 提出した出願書料に算集と異なる記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。

3. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、出身学校長又は学長から提出された調査書及び面接(専門科目に関する口頭試験を含む)の結果を総合して行います。

(1) 実施教科・科目等

- ① 『英語』 本校本科での第4学年程度までの英語
- ② 『数学』 微分・積分、微分、積分
- ③ 『図像』 専門科目に関する口頭試験を含む

機械情報システム工学専攻を受験する者で、情報工学家を志望する者(編入試験・学位授与機構へ学位申請を「情報工学」で行う予定の者)については、Cプログラムの受験があります。

(2) 選抜の日時・場所

期 日	科目等	時 間	場 所
平成18年10月14日(土)	英 語	9:30~10:30	東京工業高等専門学校
	数 学	10:40~11:40	
	面 接	13:00~	

※ 試験開始時間の20分前までに本校の指定する場所に集合してください。

B. 学力による選抜

1. 出願資格

- (1) 高等学校を卒業した者又は平成19年3月卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者又は平成19年3月卒業見込みの者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者又は平成19年3月に卒業見込みの専攻のうち学校教員養成S2系の1.0の単位により大学に編入することができ、かつ、外国の学校が行う通訳課程における1.4年の課程を修了した者
- (4) 外国において、学校卒業法における1.4年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通訳課程における1.4年の課程を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における1.4年の課程を修了した者
- (6) 我が国において、外国の短期大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における1.4年の課程を修了したとされるものに限る。)を修了するものとして当該外国の学校の教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了した者
- (7) その他、専攻科において高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

※ 上記の出願資格(2)から(7)により出願しようとする者は、JABEE(日本技術者教育認定機構)の基準に対応する教育プログラム(平成18年度認定年度)での学習に資することを確認する必要があるため、かならず出願前に学生課事務係に照会してください。また、JABEE基準に対応する教育プログラムについては、17ページの「情報理工学教育プログラム」を参照してください。

2. 出願手続

- (1) 受付期間  
平成18年10月2日(月)から平成18年10月4日(水)まで  
なお、審査の場合は10月4日(水)午後4時必着です。
- (2) 受付時間  
午前9時から午後4時まで
- (3) 受付場所  
東京工業高等専門学校 学生課事務係
- (4) 出願に必要な書類等

出願書類等	備 考
1. 入学志願書・受験票・写真票	本校所定の用紙に必要な事項を記入し、平成18年7月以後に撮影した正面上半身像(横ひたして4cm、よこ3cm)の写真を貼付してください。カラー、白黒どちらでも可です。
2. 調査書	本校所定の用紙を使用し、出身学校長又は学長が作成し密封したものに限ります。ただし、出願資格(3)により出願する者は下記の書類も併せて提出してください。 ① 専修学校の発行する修業年限2年以上で、かつ、修了に必要な総授業時数が1700時間以上の専門課程を修了したことを証明する証明書 ② 専修学校の専門課程の科目の分野・内容が確認できる書類 出願資格(4)～(7)により出願する者は、出願資格にかかるとる専修学校の成績証明書をもつて代えます。

(出典 専攻科募集要項)

資料4-2-①-5

## (3) 面接基本項目

項 目	質 問 内 容
1 個人の資質等	○性格、人物、面接態度 ○友人関係、地域活動等 ○科学・技術・外国語に関する公認された資格 ○高专における特別活動等
2 志望動機 将来に対する目標	○志望専攻を選んだ理由 ○将来に対する夢と抱負 ○卒業後の進路
3 志望専攻に対する 口述試問	○専攻に関する基礎的重要事項 ○高等専門学校での卒業研究内容とその取り組み ○技術者としての倫理観 ○各専攻で必要と判断する事項

## 5. 選考資料

- (1) 専攻別志願者一覧表
- (2) 業務実績報告書の評価点
- (3) 面接の評価点
- (4) 調査書

## 6. その他

この選考基準の実施上の細部については、専攻科委員会に委ねる。

## 附 則

この選考要領は、平成16年度専攻科入学者に係る推薦による入学者選抜から適用する。

## 附 則

この選考要領は、平成18年度専攻科入学者に係る推薦による入学者選抜から適用する。(選考資料から健康診断書を削除した。面接時に取得資格による加点を削除した。)

## 附 則

この選考要領は、平成19年度専攻科入学者に係る推薦による入学者選抜から適用する。(面接の評価点の標準を10点から12点に変更した。)

平成19年度専攻科入学者選抜実施状況

高専番号	高専名
16	東京工業高等専門学校

高専番号	高専名	専攻名	入学			志願者数			合格者数			入学者数			備考
			定員	合計	推薦	学力	社会人	合計	推薦	学力	社会人	合計	推薦	学力	
合計		合計	20	36	22	14	0	28	22	6	0	27	22	5	0
	東京工業高等専門学校	機械情報システム工学専攻	8	17	11	6	0	13	11	2	0	13	11	2	0
	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	8	13	7	6	0	10	7	3	0	9	7	2	0
	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	4	6	4	2	0	5	4	1	0	5	4	1	0
		専任人員													
【内訳】		合計	10	22	22			22	22			22	22		(選抜期日)
推薦	東京工業高等専門学校	機械情報システム工学専攻	4	11	11			11	11			11	11		6月2日
	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	4	7	7			7	7			7	7		6月2日
	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	2	4	4			4	4			4	4		6月2日
学力	東京工業高等専門学校	合計	10	14		14		6		6		5		5	10月20日
	東京工業高等専門学校	機械情報システム工学専攻	4	6		6		2		2		2		2	10月20日
	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	4	6		6		3		3		2		2	10月20日
	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	2	2		2		1		1		1		1	10月20日
第1回目 (前期、 A日程等)	東京工業高等専門学校	合計	0	0		0		0		0		0		0	○月○日
	東京工業高等専門学校	機械情報システム工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
第2回目 (後期、 B日程等)	東京工業高等専門学校	合計	0	0		0		0		0		0		0	○月○日
	東京工業高等専門学校	機械情報システム工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
第3回目以降	東京工業高等専門学校	合計	0	0		0		0		0		0		0	○月○日
	東京工業高等専門学校	機械情報システム工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
社会人 特別選抜	東京工業高等専門学校	合計	3	0		0		0		0		0		0	10月20日
	東京工業高等専門学校	機械情報システム工学専攻	1	0		0		0		0		0		0	10月20日
	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	1	0		0		0		0		0		0	10月20日
	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	1	0		0		0		0		0		0	10月20日
第1回目以降	東京工業高等専門学校	合計	0	0		0		0		0		0		0	○月○日
	東京工業高等専門学校	機械情報システム工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	
	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	0	0		0		0		0		0		0	

\*黄色のセルのみ記入願います。

(出典 学生課資料)

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

入学者受け入れ方針に沿った学生の受け入れが実際に行われているかの検証は、受験生に対するアンケートと入学した学生のその後の成績などによって検証している（資料4-2-②-1）。これ等の検証結果を入学者選抜方法の改善に結びつける取り組みは入試企画室で行われる（資料4-2-②-2）。実際に実施した入学者選抜方法の改善例は、次のようなものがある。

- （1）平成7年度以降、入試科目に理科を加えた（現地閲覧資料6）
- （2）推薦選抜に適性検査を取り入れた（資料4-2-②-3）
- （3）面接方法を改善するための講習会を実施した（資料4-2-②-4）

（分析結果とその根拠理由）

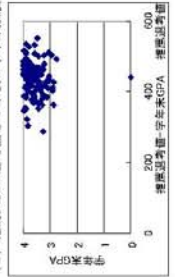
受験生に対するアンケートと入学した学生のその後の成績などによって、入学者受け入れ方針に沿った学生の受け入れが実際に行われているか検証している。入学者選抜方法の改善に結びつける取り組みは入試企画室で行われ、入試科目に理科を追加・推薦選抜に適性検査の取入・面接方法の改善などにつながっている。

以上により、入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

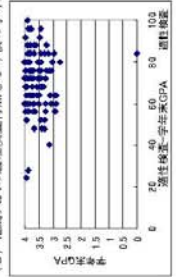
2005年4月入学者の「入試成績」と「入学1年後の成績」との関係の考察

- はじめに  
2005年4月に200名余の新入生を迎えた。入学式中、115人が推薦入試に応募し、選考試験、面接を行った。推薦入試で合格内定が得られなかった受験者を含め、125名は学力試験を受験した。また、全受験者が内申書を提出しているため、全入学者210名が内申書を提出している。
- 推薦入試受験者についての統計  
推薦入試では、面接点および、選考試験得点が1:1の重みで加算され、推薦選考値が計算されている。選考試験を受け、かつ入学した学生は115名であり、それらの学生のみについて相関の検査を行った。検査対象は2回目の試行であり、検査問題はまだ安定していない状況(平均点76点程度)であった。

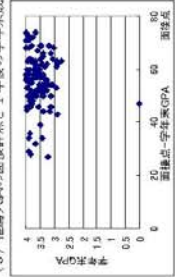
(1) 推薦入試の選考値と1年後の学年末成績の相関



(2) 推薦入試の選考試験得点と1年後の学年末成績の相関



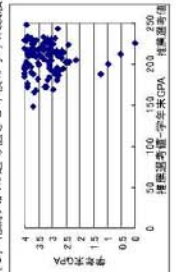
(3) 推薦入試の面接得点と1年後の学年末成績の相関



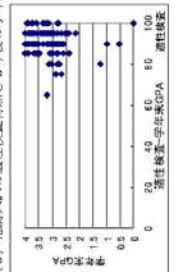
2004年4月入学者の「入試成績」と「入学2年後の成績」との関係の考察

- はじめに  
2004年4月に200名余の新入生を迎えた。2年在学中、106人が推薦入試に応募し、選考試験、面接を行った。推薦入試で合格内定が得られなかった受験者を含め、125名は学力試験を受験した。また、全受験者が内申書を提出しているため、全入学者212名が内申書を提出している。
- 相関係数は1から1までの値を持つもので、正は相関を示し、負は逆の相関を示す。絶対値が0から0.3くらいは相関なし、0.3から0.6くらいは弱い相関、0.6以上は強い相関とされている。
- 推薦入試受験者についての統計  
推薦入試では、面接点および、選考試験得点が3:4の重みで加算され、推薦選考値が計算されている。面接・選考試験を受け、かつ入学した学生は106名であり、それらの学生のみについて相関の検査を行った。検査対象は初めての試行であり、検査問題はまだ安定していない状況(平均点が90点くらい)であった。

(1) 推薦入試の選考値と2年後の学年末成績の相関



(2) 推薦入試の選考試験得点と2年後の学年末成績の相関



(出典 学生課資料)



資料4-2-②-2

東京工業高等専門学校入試企画室規則

制定 平成17年12月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第9条第3項の規定に基づき、東京工業高等専門学校入試企画室（以下「入試企画室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(業務)

第2条 入試企画室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 入学試験の基本方針に関すること。
  - (2) 入学試験の運営に関すること。
  - (3) 入試システムの管理に関すること。
  - (4) その他入試に関する必要な事項。
- 2 業務については、校務執行会議に報告し、必要に応じ議を経なければならない。

(組織)

第3条 入試企画室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- (1) 入試企画室長
- (2) 教務主事
- (3) 教務主事補
- (4) 学生課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第5号の室員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、室員に欠員が生じた場合の補欠室員の任期は、前任者の残任期間とする。

(室長)

第5条 入試企画室に室長を置き、校長が任命する。

- 2 室長は入試企画室の業務を統括する。
- 3 室長に事故あるときは、室長があらかじめ指名する室員がその職務を代行する。

(会議)

第6条 入試企画室は、年度当初に年間の計画をたてるほか、必要に応じて室長が招集する。

(室員以外の出席)

第7条 室長が必要と認めたときは、室員以外の者を入試企画室に出席させ、その意見を聴取することができる。

(事務)

第8条 入試企画室の事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、入試企画室に関し必要な事項は、入試企画室が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成17年12月1日から施行する。
- 2 この規則施行後最初の第3条第5号の室員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日までとする。

- 3) 実施方法
- a. 方式 マークシート方式(5~10からの択一)
  - b. 設問数 13題程度(1題に約2~3分)
  - c. 時間 45分
- 4) 問題の作成と審査
- a. 作成 小中野, 河村敬宜及び佐藤盛長
  - b. 審査 正木敏彦主筆, 松戸敬浩主筆掛
- 5) 今後のスケジュール
- ①草案完成: 11月20日 ②審査 ③印刷原稿完成: 12月下旬

(2) 面接による適性試験(面接試験)について  
 面接担当者の資質向上と、従来の面接方法を大幅に改良しを行う。

- 1) 測定したい項目・能力(プラス点)
- a. 協調性、積極性、安定性、利発性
  - b. 表現力、プレゼンテーション力
  - c. 高知力、想像力、言語のレスポンス力
  - d. 個人問題、夢、抱負、経験、人間(友人)関係、趣味、特技とその特徴
- 望ましくない資質(マイナス点)
- a. お定型、意欲の低い者、思考に粘りのないもの
- 上記1)の項目については、各学科の特質により各学科で異なったものとなるものもよい。
- 2) 面接担当者の養成
- ①今年度は、講師を委嘱して、面接担当学生者へ講習会を行う。(12月)面接項目(測定項目)については、面接担当学生者から講師へ取組する。
  - ②面接項目は、面接を行うものとし、面接担当者の後継養成および継続性を考慮して、経験者が一斉に交替する事がないようにする。
- 3) 面接形式および実施方法について  
 上記2)の講習会等により、再度、検討を行う。ただし、女子であること、不慣れであることにより不利となる項目は、行わないものとし、女子に対する修得能力をみるものとする。

III. 選考要領  
 従来の「推薦による入学の選考要領」(第1章「入学試験要領」)の3. 選考値算出方法を以下のとおり変更する。

旧	調査書	50点	面接	50点
新	面接	60点	選性	40点

平成16年度入試暫定

平成15年度 第5回 入試企画室会議議事録

期日 平成15年10月23日(木) 16時40分から18時まで  
 場所 学生協会の会議室  
 出席者 佐藤(幹)、正木、大塚、小坂、松戸、小中野、河村、学生部長、学務専門員、教務部長  
 配付資料1 推薦入試における適性検査および面接について(案)  
 2 本科編入学試験実施基本方針(案)

【審議事項】  
 1. 推薦入試における適性検査および面接について  
 佐藤室長から、配付資料1について説明があり、審議の結果、以下のことが承認され、11月5日校務執行会議に上申することとした。

I. 適性検査および面接の目的  
 本校の学生として、積極的に望ましくなく入学生を「ペーパーによる選考試験」及び「面接による適性試験」(ペーパーでは測れない部分)により差別化することを目的とする。(両者の特性を考え、相補し合うこと)。

- II. 実施要領
- (1) ペーパーによる適性試験について
- 1) 測定したい項目
    - a. 数式を扱う力
    - b. 表・グラフを読みとる力
    - c. 定義や概念を理解する力
    - d. 論理的な力
    - e. 処理能力
    - f. 短時間での処理能力
- 2) 適性試験問題集

S P I (Synthetic Personality Inventory) : 総合個人調査表と関連の問題

項 目	1) との対応
言葉から数式を立て、簡単な方程式を解くもの [4題]	a
表のデータを讀ませるもの [1題] (小問4問)	b
図を指して方向を求めるもの [1題]	b
図形の展開図 [1題]	b
展開図の組み立て [1題]	c
回転図形 [1題]	c
定義された演算を適用するもの [2題]	d
根拠を説明するもの [1題]	d
推論 [1題]	d

項目 f. は、出題する問題集からある程度、判断が可成である。

(出典 入試企画室議事録)

2. 編入試験実施基本方針書について  
 正木教務主事（入試専門委員会委員長）から、配付資料2について説明があり、審議の結果、以下のことを入試企画室議決案として、11月5日校務執行会議に上申することとした。

本科編入試験実施基本方針（案）

- I. 目的  
 本校の本科において、普通高校及び工業高校の卒業見込みの者、または卒業した者を対象に編入試験を実施して、高等専門学校での教育の機会を広く提供する。
- II. 募集学科  
 全学科
- III. 募集人員及び編入学年  
 募集人員は1,000名（第1学年から第4学年の学年数）～200名  
 各学科で、学生定員300名を確保することを、本相定とする。  
 採本局には、留年の上昇者を行い各学年における学校定員学生数40名を確保することとが理想であるが、選別要等やむを得ない事情により、減少した場合には、第3学年以降の学年において、学校定員学生数40名を確保する。  
 なお、学生定員（留学生を除き、1,000名）の確保が最優先事項である。
- IV. 試験日  
 7月下旬  
 高等学校の卒業見込みの者が、選別を決定する前に、実施する。  
 この選別から、7月下旬の平日において、1日で実施する。
- V. 検査科目と出題範囲  
 (1) 学力による選抜
  - a. 学科試験
 

全員受験科目	数学I、数学II、数学III（確率・統計を除く）
英 語	英語I、英語II
  - b. 面接
 

学科で指定又は選択させる	物理I、E
物 理	物理I、E
化 学	.....
専 門	各学科による

本校の第3学年、ないしは、第4学年に編入学して修学することに支障がないか検査する。入学後の履修・学習指導は、普通高校、工業高校とも同じにする。よって、工業高校及び普通高校とも問題は共通のものとする。

(2) 学校長からの推薦による選抜  
 ①対象：工業高校  
 ②推薦基準：第2学年の成績が上位10%  
 ③入学年次：第3学年

VI. 合否判定基準  
 試験、面接、評定書等を点数化して、総合点が60%～70%以上を合格と判定できる選考要領を作成する。

VII. 問題作成及び審査等  
 編入学に関する委員会規則を作成する。入試ミスを防止するために組織化する。

1. 審査部門 入試企画室及び入試専門委員会
2. 問題作成部門 当該科目専任の選考委員で構成する。
3. 問題審査部門 当該科目専任の教員（問題作成部門以外）及び他科目の教員で構成する。
4. 試験実施部門 審査部門で、各学科に依頼して構成する。

資料4-2-②-4

## 平成18年度第9回教育研究会

平成19年1月18日(木)16時10分  
1棟3階 会議室

### ・テーマ

- (1) 校長発言  
「出前授業や公開講座について」
  - (2) 機関別認証評価について
  - (3) 来年度シラバスについて
  - (4) 講演  
推薦入試面接技術に関する講演
  - (5) 都市型 KOSEN 創成 WG 答申
  - (6) 建物改修等について
- 水谷 校長  
津田副校長  
鈴木認証評価専門委員  
浅野教務主事補  
大澤 先生  
三谷 WG 主査  
山本会計課長

次回開催予定日

平成19年2月8日(木) 16:10

(出典 教育研究会)

人材を評価する項目と質問例

- 1、協働性 質問
- 1) 皆を引っ張っていくタイプ? リーダーの役をついでいくタイプ? (エピソードをきく)
  - 2) ゲームで一人勝ち、どんな気分になる? (エピソードをきく)
  - 3) いざというとき相談できる友人は何人? どのような相談をした? どのような関係を築いた? どのように役割になった?
- 2、積極性 質問
- 1) 何のために勉強している? 志望動機は? 10年後の自分について話してください
  - 2) 何もやる気がなくなってきたときある? そのとき、どう自分を奮い立たせた?
  - 3) どんなことに積極的?
  - 4) 入学したらどんなことしたい?
- 3、表現力 質問
- 1) 今までで一番思い深いことはどんなこと? 部活を通じて感動したものは? なぜその部活に熱中したの?
  - 2) 部活は? 部活を通じて学んだことは? 部活を通じて感動したものは? 修学旅行はどこへ? 修学旅行を通じて感動したものは? 修学旅行を通じて学んだことは?
- 4、柔軟性 質問
- 1) 短所は? 短所をあえて強みと見るとどう見える?
  - 2) 小学、中学で一番の失敗は? どう乗り越えた? 失敗から学んだことは?
  - 3) 苦手なタイプは? その人とどう付き合う?
- 5、安定性・信頼性 質問
- 1) イライラしたときどう対処?
  - 2) 友達と意見が合わないうち、どうする?
  - 3) 友達からなにか頼みを相談されたことは? どんな悩み? どう答えた?
- 6、断強さ・根拠強さ 質問
- 1) 友達に挨拶したら返事が返ってこなかった どう思う? どんな気持ちになる?
  - 2) 趣味は? なぜその趣味に熱中したの? 趣味を通じて感動したものは? 趣味を通じて学んだことは? 趣味を通じて学んだことは? 趣味を通じて学んだことは?
  - 3) もしも留年したとします? どう対応する? どう対応する?
- 7、発想の豊かさ・好奇心の強さ 質問
- 1) 赤黒を色でたとえたと? どうして?
  - 2) 自分を動物の動物でたとえたと? どうして?
  - 3) ロボットと喋る 二つの言葉を使って短い物語を作ってください。

面接者マイティニング

学生相談室カウンセラー 大澤 昇

<面接の目的>

- 良い人材を見つけるため
- 高専によさわしい人材、ふさわしくない人材
- 情報交換の場

本音を語らせる必要性

リラクゼーション面接と圧迫面接

<面接のポイント>

- ① リラックスさせるための声かけ
- ② どのような態度で本音を引き出す

基本 ベーシック

- 1) 多様な相対、うなずき 「うんうん」「エー」「そうなんだ」
- 2) 繰り返し 重要なキーワードをそのまま繰り返す
- 3) 明確化 「あなたの言いたいことは〜ということですか」「あなたの気持ちには〜ということですか」
- 4) 要約 学生がどくと話しているときや一度切りつけたとき
- 5) 承認 「なるほど」「それは当然だよ」「大変だったね」
- 6) リード 「もう少し詳しく話してください」

③ ボディランゲージ

面接者のボディランゲージ

学生のボディランゲージ

④ 質問技法

- 1) オープンクエッション
- 2) 3つ以上の答え
- 3) 変化球を投げる

<カウンセリングポイント=傾聴との共通性>

- ・ 受容 共感
- ・ 分かってもらえない⇒本音を語らせる⇒内容・関係 = 伝みや理解が伝達につながる
- ・ 聴けないモード 話の腰を折る 設教モード 上からものを言う 相手の気持ちを否定する 自分の話にもっていく

<判断の糸、注意するポイント>

- 1) 重大化傾向
- 2) 中心化傾向
- 3) ハロー効果
- 4) 論理的偏誤
- 5) 対比偏誤

(出典 教育研究会)

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

実入学者数と定員の関係は、資料4-3-①-1に示したとおりである。準学士課程においては定員をごくわずかに上回る実入学者数を維持しており、適切な実入学者数である。また、編入学では若干名の入学者となっている(資料4-3-①-2)ため、準学士課程の定員が大幅に増えることはなく、適切な実編入者数である。専攻科課程においては、実入学者数は定員を上回る(資料4-3-①-3)。しかしながら、学校の規模から見て専攻科の定員が非常に少ないため、現在の入学者数の場合、一部の教員に支障が出ているものの、学生が教育を受ける立場からは、特に支障は感じていない(資料4-3-①-4)。このため、専攻科においても、入学定員を大幅に超えている状況ではない。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の実入学者数は、定員から見て適正な人数である。編入学についても同様である。専攻科課程の実入学者数は、定員を上回っているが、研究教育を進める上でおおむね適正な人数を維持していると言える。

以上により、実入学者数は、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていない。

資料4-3-①-1

## 5. 平成19年度入学者状況

東京工業高等専門学校

仮配属学科	定員	入学者	内 訳
機械工学科	40	41 (1)	東京都 114 (12) 神奈川県 63 (3) 埼玉県 24 (2) 千葉県 5 (1) 山梨県 4 (1) 宮城県 1 (1) 広島県 1 栃木県 1 静岡県 1 青森県 1  計 215 (20)
電気工学科	40	45 (3)	
電子工学科	40	44 (4)	
情報工学科	40	43 (2)	
物質工学科	40	42 (10)	
合計	200	215 (20)	

表中( )は女子(内数)を示す

(出典 教育研究会資料)

合格発表時点

平成19年度 入学者選抜試験実施状況

取扱注意

学 科 名	推薦志願者 A	推薦合格者 B	推薦不合格者 C	推薦不合格者の 学力志願者 D	特学力志願者 E	志願者総計 F=A+E	各目標票 F/定員	学力非願者或推薦率 D+E/定員-B	備考
機械工学科	25 (1)	15 (0)	11 (1)	8 (1)	83 (0)	109 (1)	2.7	3.6	
電気工学科	22 (1)	16 (1)	6 (0)	6 (0)	36 (1)	58 (2)	1.5	1.8	
電子工学科	36 (5)	15 (1)	21 (4)	20 (4)	54 (3)	90 (8)	2.3	3.0	
情報工学科	27 (1)	15 (1)	12 (0)	12 (0)	55 (5)	82 (6)	2.1	2.7	
物質工学科	29 (10)	16 (5)	13 (5)	12 (5)	45 (6)	74 (16)	1.9	2.4	
計	140 (18)	77 (8)	63 (10)	58 (10)	273 (15)	413 (33)	2.1	2.7	

※機械工学科2名(男子)、電子工学科1名(男子)、物質工学科1名(男子)は推薦合格後に入学辞退したため、「推薦合格者」から外し、「推薦不合格者」に追加した。

【受験者倍率】

学 科 名	学力志願者 D+E	欠席者 G	受験者 H	受験者倍率 H/定員-B	学 科 名	推薦合格者 B	学力試験合格者 I	合格者 B+I	補欠
機械工学科	91 (1)	4 (0)	87 (1)	3.5	機械工学科	15 (0)	31 (1)	46 (1)	
電気工学科	42 (1)	2 (1)	40 (0)	1.7	電気工学科	16 (1)	32 (2)	48 (3)	
電子工学科	74 (7)	2 (0)	72 (7)	2.9	電子工学科	15 (1)	33 (3)	48 (4)	
情報工学科	67 (5)	4 (0)	63 (5)	2.5	情報工学科	15 (1)	38 (2)	53 (3)	
物質工学科	57 (11)	1 (1)	56 (10)	2.3	物質工学科	16 (5)	33 (6)	49 (11)	
計	331 (25)	13 (2)	318 (23)	2.6	計	77 (8)	167 (14)	244 (22)	40 (3)

( )は、女子を内数で表す。

(出典 教育研究会資料)



資料4-3-①-2

## 編入学試験応募者数と入学者数

	応募者数	入学者数
平成14年度	1	1
平成15年度	5	2
平成16年度	9	3
平成17年度	7	2
平成18年度	15	2
平成19年度	9	2

(出典 学生課資料)

平成19年度専攻科入学者選抜実施状況

専攻番号	専攻名
16	東京工業高等専門学校

専攻番号	専攻名	専攻名 合計	入学志願者数			合格者数			入学者数			備考			
			定員	合計	推薦	学力	社会人	合計	推薦	学力	社会人		合計	推薦	学力
合計			20	36	22	14	0	28	22	6	0	27	22	5	0
16	東京工業高等専門学校	総合情報システム工学専攻	8	17	11	6	0	13	11	2	0	13	11	2	0
16	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	8	13	7	6	0	10	7	3	0	9	7	2	0
16	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	4	6	4	2	0	5	4	1	0	5	4	1	0
【内訳】			募集人員												
推薦															(選抜期日)
16	東京工業高等専門学校	総合情報システム工学専攻	4	11	11			22	22			22	22		6月2日
16	東京工業高等専門学校	電気電子工学専攻	4	7	7			7	7			7	7		6月2日
16	東京工業高等専門学校	物質工学専攻	2	4	4			4	4			4	4		6月2日
学力															
第1回目 (前期、 A日程等)			10	14		14		6	6			5	5		10月20日
			4	6		6		2	2			2	2		10月20日
			4	6		6		3	3			2	2		10月20日
			2	2		2		1	1			1	1		10月20日
第2回目 (後期、 B日程等)			0	0		0		0	0			0	0		○月○日
			0	0		0		0	0			0	0		
			0	0		0		0	0			0	0		
第3回目以降			0	0		0		0	0			0	0		○月○日
			0	0		0		0	0			0	0		
			0	0		0		0	0			0	0		
社会人 特別選抜			3	0		0		0	0			0	0		10月20日
第1回目 (前期、 A日程等)			1	0		0		0	0			0	0		10月20日
			1	0		0		0	0			0	0		10月20日
			1	0		0		0	0			0	0		10月20日
第2回目以降			0	0		0		0	0			0	0		○月○日
			0	0		0		0	0			0	0		
			0	0		0		0	0			0	0		
			0	0		0		0	0			0	0		

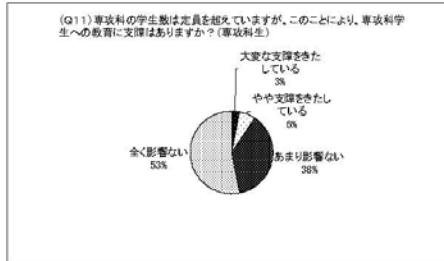
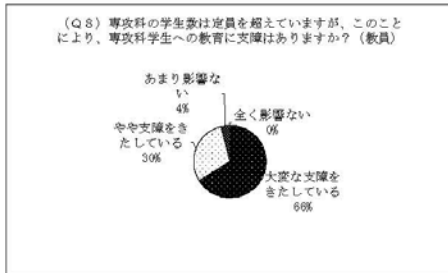
\*黄色のセルのみ記入願います。

(出典 学生課資料)

資料4-3-①-4

専攻科の学生数に関するアンケート結果

実施日 平成19年6月11日



(出典 教職員および学生に対するアンケート集計結果)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 基礎学力、特に、理数系の基礎学力を持つ学生を受け入れるため、数学を傾斜配点したり推薦選抜に適性検査を取り入れている。
- ・ 面接方法の改善のための研修を行っている。
- ・ 入学者受け入れ方針に沿った学生を受け入れるため、入試企画室において検討され、入試方法の改善が実施されている。

(改善を要する点)

特になし

## (3) 基準4の自己評価の概要

本校の入学者受け入れ方針は明確に定められ、募集要項に記載されて配布されるほか、本校のホームページにおいても公表され、入試説明会・体験入学・中学校訪問においても説明がなされている。また、受験生、および、教職員に対し十分に周知されている。

傾斜配点や適性試験など、入学者受入方針に沿った適切な学生の受入方法が採用され、適切な入学者選抜が実施されている。また、入学者受け入れ方針に沿った学生の受け入れが実際に行われているか検証し、入学者選抜方法の改善につなげている。さらに、準学士課程・専攻科課程とも、定員をやや上回る適正な人数の実入学者を確保している。

## 基準5 教育内容及び方法

### (1) 観点ごとの分析

#### <準学士課程>

観点5-1-①：教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

#### (観点に係る状況)

準学士の教育課程では、主として学習・教育目標(A)、(B)、C-1、C-4、C-5を担う一般科目と、主として学習・教育目標(C)を担う専門科目が、バランス良く配置されている（資料5-1-①-1、資料5-1-①-2、資料5-1-①-3、資料5-1-①-4、資料5-1-①-5、資料5-1-①-6）。学年ごとの配置を見ると、一般科目と専門科目が楔形に配置されており、学年を追うに従い基礎的な科目から応用的な科目へと、各科目が適切に配置されている。これ等の科目配置は、各学科の学習・教育目標を達成するために適切であり、同時に、準学士課程の学修・教育目標を達成するための体系性が確保されている（資料5-1-①-7、資料5-1-①-8、資料5-1-①-9、資料5-1-①-10、資料5-1-①-11、資料5-1-①-12）。また、これらの教育課程表は、高等専門学校設置基準(第15条)(第16条)(第17条)に適合している。

特に、1年生の混合学級において、共通基礎科目と各専門学科の実験(ものづくり基礎工学)を配置していることは、「豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的ものづくり技術者の育成」という本校の目的を達成する上で、適切なものとなっている。また、2年生の微分積分では、習熟度別授業を実施しており、学習・教育目標C-1を達成するために適切な配置となっている。

授業の内容は、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっていることがシラバスから分析できる（シラバスの例は資料5-2-②-2、シラバス全体は現地閲覧資料2）。

#### (分析結果とその根拠理由)

1年生の混合学級において、一般科目の基礎科目と各専門学科の実験(ものづくり基礎工学)を配置し、演習を多く取り入れることにより、中学校を卒業したばかりの学生がスムーズに高専生活に入れるよう工夫されている。また、一般科目と専門科目が、楔形にバランス良く配置され、準学士課程の学習・教育目標を達成するための体系性が確保されている。

以上により、教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されている。また、授業の内容は、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっている。

資料5-1-①-1

別表 第1  
一般科目 (各学科共通) 2007年度以降入学生(1~2年生用)

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
人 文 系 目 科	現代国語 I	2	2					
	古典 I	1	1					半期開講
	現代国語 II	2		2				
	古典 II	1		1				半期開講
	文章表現法	2			2			
	倫理思想	2	2					
	政治経済	2		2				
	日本史	2		2				
	科学技術史	2			2			
	実用法律学	1				1		後期開講
	工学倫理	1				1		前期開講
	現代企業論	1					1	前期開講
	Reading I	2	2					
	Basic Grammar	2	2					
	Listening I	1	1					半期開講
	Oral Communication I	1	1					半期開講
	Reading II	2		2				
	Science English	2		2				
	Listening II	1		1				半期開講
	Oral Communication II	1		1				半期開講
	Reading III	2			2			
	Listening III	1			1			半期開講
	Oral Communication III	1			1			半期開講
	TOEIC English	2				2		
	健康科学	1	1					後期開講
	体育 I	2	2					
	体育 II	2		2				
	体育 III	2			2			
	総合体育	2				2		3クラス合同と2クラス合同授業
	美術	1	1					半期開講
	音楽	1		1				半期開講
	開設単位数小計		48	15	16	10	6	1
選 択 科 目	人文ゼミ I	1				1		原則として後期開講 5講座ほど開講するうちから、 1講座選択
	選択外国語	2					2	
	アジア言語							1クラス開講予定
	TOEIC Seminar							4クラス開講予定
人文ゼミ II	1					1		原則として前期開講 7講座ほど開講するうちから、 1講座選択
開設単位数小計		4				1	3	
特別 授業	Practical English	2						隔年開講 今年度開講予定
	地域産業論	1				1		短期集中講座, 8月下旬予定
開設単位数計		55	15	16	10	8	4	
自 然 系 科 目	代数 I	2	2					前期
	代数 II	2	2					後期
	幾何	2	2					
	微分積分学 I	2		2				前期
	微分積分学 II	2		2				後期
	線形代数学 I	2		2				
	解析学 I	2			2			
	解析学 II	2			2			
	線形代数学 II	2			2			
	物理	4	2	2				
	化学 I	2	2					
	化学 II	2		2				
	工学基礎演習 I	2	2					
	工学基礎演習 II	2	2					
選択科目 数学総合演習	1						1	前期開講集中講義
開設単位数計		31	14	10	6	0	1	
開設単位数合計		86	29	26	16	8	5	
修得可能単位数		86	29	26	16	8	5	

(出典 学生便覧)

資料5-1-①-2

別表 第2

機械工学科

2005年度以降の入学者(1~3年生用)

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	ものづくり基礎工学	5	5					
	情報処理	1		1				
	機構学	1		1				
	基礎製図	4		4				
	機械製作実習A	2		2				
	応用物理I	2			2			
	工業力学A	1			1			
	工業力学B	1			1			
	工業力学演習	1			1			
	機械設計法A	1			1			
	機械設計法B	1			1			
	材料学A	1			1			
	材料学B	1			1			
	メカトロニクス	1			1			
	メカトロニクス実習	2			2			
	機械設計製図A	2			2			
	機械製作実習B	2			2			
	応用機械製作実習	2			2			
	応用数学I	2				2		
	応用数学II	2				2		
	応用物理II	1				1		
	応用物理III	1				1		
	振動工学	1				1		
	熱力学A	1				1		
	熱力学B	1				1		
	熱力学演習	1				1		
	流体力学A	1				1		
	流体力学B	1				1		
	流体力学演習	1				1		
	材料力学A	1				1		
	材料力学B	1				1		
	材料力学演習	1				1		
	機械製法A	1				1		
	機械製法B	1				1		
	電気工学A	1				1		
	電気工学B	1				1		
	電子工学	1				1		
	☆機械設計製図B	2				2		
	機械・電気工学実験A	4				4		
	インターンシップ	3				3		
	伝熱工学	1					1	
	加工学	1					1	
	計測工学	1					1	
	制御工学A	1					1	
	制御工学B	1					1	
機械の技術史	1					1		
機械・電気工学実験B	2					2		
卒業研究	10					10		
開設単位数小計	79	5	8	18	30	18		
選択科目	基礎機械要素	1				1		9 単 位 以 上 選 択
	プログラミング言語A	1					1	
	化学工学	1					1	
	ロボット機構	1					1	
	流体システム工学	1					1	
	計算力学A	1					1	
	計算力学B	1					1	
	生産工学	1					1	
	自動車工学	1					1	
	工業法規	1					1	
	応用メカトロニクス	1					1	
	機能材料	1					1	
	環境省エネ技術	1					1	
	*機械工学特別講義I	1					1	
	*機械工学特別講義II	1					1	
*機械工学特別講義III	1					1		
開設単位数小計	16				1	15		
開設単位数合計	95	5	8	18	31	33		

\*印は集中講義科目  
☆印は45時間の学修で1単位となる科目

(出典 学生便覧)

資料5-1-①-3

電気工学科		2005年度以降入学生(1~3年生用)					備考	
区分	授業科目	単位数	学年別配当					
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	電気工学専門基礎	応用物理Ⅰ	2		2			
		応用物理Ⅱ	1			1		
		応用物理Ⅲ	1			1		
		応用数学Ⅰ	2			2		
		応用数学Ⅱ	2			2		
		電磁気学Ⅰ	2		2			
		電磁気学Ⅱ	2		2			
		電磁波基礎	1			1		
		電磁エネルギー変換Ⅰ	1			1		
		電磁エネルギー変換Ⅱ	1			1		
		基礎電気回路	2	2				
		電気回路Ⅰ	1	1				
		電気回路Ⅱ	2		2			
		過渡現象論	1			1		
		回路網理論	2			2		
		基礎電子量子工学	2			2		
		デジタル回路	2			2		
		電子物性Ⅰ	1			1		
		電子物性Ⅱ	1			1		
		オペレーティングシステムⅠ	1				1	
		オペレーティングシステムⅡ	1				1	
		アナログ回路Ⅰ	1			1		
		アナログ回路Ⅱ	1			1		
		電気電子計測Ⅰ	1			1		
		電気電子計測Ⅱ	1			1		
		制御工学Ⅰ	1			1		
		制御工学Ⅱ	1			1		
		電子計算機Ⅰ	1			1		
	電子計算機Ⅱ	1			1			
	履修単位数小計	39	0	3	12	22	2	
	技術創造実験・実習	ものづくり基礎工学	5	5				
		プログラミング言語Ⅰ	1		1			
		プログラミング言語Ⅱ	2		2			
		創造電気実験Ⅰ	4		4			
		創造電気実験Ⅱ	4		4			
		創造電気実験Ⅲ	4			4		
		創造電気実験Ⅳ	3				3	
		工業実用英語	2			2		
		インターンシップ	3			3		
		卒業研究	16				16	
	履修単位数小計	44	5	5	6	9	19	
	選択科目(系専門科目)	情報・通信	デジタル信号処理	1				1
			電磁波工学	1				1
			情報通信工学	1				1
電子物性・デバイス		電子物性工学	1				1	
		半導体物性	1				1	
		集積デバイス工学	1				1	
エネルギー・制御		基礎現代制御	1				1	
		電力システム工学	1				1	
		パワーエレクトロニクス	1				1	
電気技術特講		1					3年~5年の3年間に各特講1単位まで(別途ガイダンス)	
通信技術特講		1						
情報技術特講		1						
開設単位数小計	12	0	0	0	0	9		
開設単位数合計	95	5	8	18	31	30		

(出典 学生便覧)



資料5-1-①-4

電子工学科 2005年度以降の入学者(1~3年生)用

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修	ものづくり基礎工学	5	5						
	※ 電子工学実験Ⅰ	4		4					
	電気電子序論Ⅰ	1		1					
	電気電子序論Ⅱ	1		1					
	電気回路Ⅰ	2		2					
	電子工学実験Ⅱ	4			4				
	電子工学演習Ⅰ	1			1				
	電子工学演習Ⅱ	1			1				
	電子計測	1			1				
	応用物理Ⅰ	2			2				
	基礎電子工学Ⅰ	1			1				
	基礎電子工学Ⅱ	1			1				
	デジタル回路	2			2				
	電磁気学Ⅰ	1			1				
	電磁気学Ⅱ	1			1				
	電気回路Ⅱ	1			1				
	電子回路Ⅰ	1			1				
	コンピュータ工学	1			1				
	※ 電子工学実験Ⅲ	4				4			
	電子工学演習Ⅲ	1				1			
	確率・統計	1				1			
	応用物理Ⅱ	1				1			
	応用物理Ⅲ	1				1			
	工業数学Ⅰ	1				1			
	工業数学Ⅱ	1				1			
☆ 工業数学Ⅲ	1				1				
☆ 工業数学Ⅳ	1				1				
科目	電磁気学Ⅲ	1				1			
	電子材料	1				1			
	固体電子工学Ⅰ	1				1			
	固体電子工学Ⅱ	1				1			
	過渡現象	1				1			
	電子回路Ⅱ	1				1			
	ひずみ波交流	1				1			
	パルス回路	1				1			
	回路網理論	1				1			
	電子工学演習Ⅳ	1				1			
	プロジェクト演習	2				2			
	情報処理	1				1			
	制御工学	1				1			
	コンピュータ応用	1				1			
	インターンシップ	3				3			
	※ 電子工学実験Ⅳ	4					4		
	卒業研究	12					12		
	電子工学輪講	3					3		
	エネルギー変換工学概論	1					1		
	電子物性	1					1		
	電子応用	1					1		
	開設単位数小計	83	5	8	18	30	22		
	選択科目	信号処理工学	1					1	※6単位以上選択
		産業財産権	1					1	
		量子エレクトロニクス	1					1	
LSI工学		1					1		
マイクロ波工学		1					1		
※ 通信工学		1					1		
※ 無線工学及び電波法		1					1		
※ 電波工学		1					1		
☆* OS・ネットワーク特講		1						→4,5年生対象の科目	
# 電子工学特講		1						→4,5年生対象の科目	
# 電子工学特別演習Ⅰ		1						→2,3年生対象の科目	
# 電子工学特別演習Ⅱ		1						→2,3年生対象の科目	
開設単位数小計	13	0	0	0	0	8			
開設単位数合計	96	5	8	18	30	30			

☆印は4.5時間の学修で1単位となる科目  
 \*印は集中講義科目  
 #印は特別授業科目  
 ※印は第二級海上特殊無線技士、及び第二級陸上特殊無線技士認定のための科目

(出典 学生便覧)

資料5-1-①-5

情報工学科		2005年度以降入学者(1~3年生用)						備考
授業科目	合計	学年別配当						
		1年	2年	3年	4年	5年		
	ものづくり基礎工学	5	5					
	電気回路I	1		1				
	論理回路I	1		1				
	情報基礎	2		2				
	プログラミング言語	2		2				
	情報工学実験I	2		2				
	確率・統計I	1			1			
	確率・統計II	1			1			
	情報数学I	1			1			
	応用物理I	2			2			
	電気回路II	1			1			
	電子回路	1			1			
	論理回路II	1			1			
	電子計算機I	1			1			
	実践プログラミングI	2			2			
	コンピュータ計測制御	1			1			
	知識工学I	2			2			
	情報工学実験II	4			4			
	情報数学II	1				1		
	応用数学I	1				1		
必修科目	☆ 応用数学II	1				1		
	応用数学III	1				1		
	応用物理II	1				1		
	応用物理III	1				1		
	電子計算機II	1				1		
	実践プログラミングII	1				1		
	☆ 実践プログラミングIII	1				1		
	オペレーティングシステムI	1				1		
	応用計算機設計	2				2		
	制御工学I	1				1		
制御工学II	1				1			
☆ デジタル信号処理I	1				1			
デジタル信号処理II	2				2			
情報通信工学I	1				1			
情報通信工学II	1				1			
☆ 情報通信工学III	1				1			
☆ 知識工学II	1				1			
情報工学ゼミナール	1				1			
情報工学実験III	4				4			
卒業研究I	2				2			
インターンシップ	3				3			
	符号理論	1				1		
	情報理論	1				1		
	制御工学III	1				1		
	情報通信工学IV	1				1		
	知能情報工学	1				1		
	情報処理特論I	1				1		
	情報処理特論II	1				1		
	☆ 計算機システム	1				1		
	オペレーティングシステムII	1				1		
	知的財産権	1				1		
	コンピュータグラフィックス	1				1		
	情報工学実験IV	2				2		
	卒業研究II	15				15		
	外書輪講	2				2		
	開設単位数小計	92	5	8	18	31	30	
選択科目	実践ものづくり工学I	1		1				
	実践ものづくり工学II	1			1			
	実践ものづくり工学III	1				1		
	実践ものづくり工学IV	1					1	
	実用情報通信特講I	1					1	
	実用情報通信特講II	1					1	
	実用情報通信特講III	1					1	
開設単位数小計	7	0	1	1	1	4		
開設単位数合計	99	5	9	19	32	34		

☆: この科目は45時間の学修で1単位となる科目である

※: 「実践ものづくり工学II」の履修は、「実践ものづくり工学I」の単位取得者に限る

(出典 学生便覧)

資料5-1-①-6

物質工学科		2005年度以降入学者(1~3年生用)						備考	
授業科目	単位数	学年別配当							
		1年	2年	3年	4年	5年			
必修	応用物理	2			2				
	応用数学	2				2			
	情報処理Ⅰ	1		1					
	無機化学Ⅰ	2		2					
	生物学	2		2					
	無機化学Ⅱ	1			1				
	有機化学Ⅰ	2			2				
	物理化学Ⅰ	2			2				
	分析化学	2			2				
	化学工学Ⅰ	1			1				
	生物化学	1			1				
	量子論Ⅰ	1			1				
	情報処理Ⅱ	1				1			
	有機化学Ⅱ	1				1			
	物理化学Ⅱ	1				1			
	化学工学Ⅱ	1				1			
	化学工学Ⅲ	2				2			
	微生物学	1				1			
	量子論Ⅱ	1				1			
	量子化学	1				1			
	合成化学	1				1			
	修	触媒化学	1				1		
		材料化学	1				1		
材料工学Ⅰ		1				1			
高分子化学Ⅰ		1				1			
機器分析Ⅰ		1				1			
機器分析Ⅱ		1				1			
分子生物学Ⅰ		1				1			
環境科学		1				1			
材料工学Ⅱ		1					1		
高分子化学Ⅱ		1					1		
計算化学		1					1		
分子生物学Ⅱ		1					1		
環境工学		1					1		
電気化学		1					1		
錯体化学		1					1		
材料力学		1					1		
品質管理		1					1		
設計製図		1					1		
生体高分子学		1					1		
物性物理化学		1					1		
生物工学		1					1		
基礎工学概論		1					1		
エネルギー工学		1					1		
安全工学	1					1			
☆物質工学特講	2					2			
履修単位数計	55	0	5	12	20	18			
ものづくり基礎工学	5	5							
分析化学実験	3		3						
無機化学実験	3			3					
有機化学実験	2			2					
物質工学創造実験	1			1					
物理化学・材料化学実験	3				3				
化学工学・生物化学実験	3				3				
☆ゼミナール	2				2				
インターンシップ	3				3				
物質工学実験	2					2			
卒業研究	10					10			
開設単位数計	37	5	3	6	11	12			
選択	物質工学演習Ⅰ	2		2					
	物質工学演習Ⅱ	2			2				
	物質工学演習Ⅲ	2				2			
	物質工学演習Ⅳ	2					2		
	情報処理特講	1		1	1	1	1	最大1単位	
	環境化学特講	1		1	1	1	1	最大1単位	
	安全工学特講	1		1	1	1	1	最大1単位	
	選択科目開設単位数計	11		5	5	5	5		
専門科目開設単位数合計	92	5	8	18	31	30	選択科目を除く		

☆ この科目は45時間の学習で1単位となる科目である。

(出典 学生便覧)

資料 5-1-①-7

学習・教育目標と科目との関連表

機械工学科 2006.12.26

学習・教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	
A	A 1					
	A 2	工学基礎演習 I		実用法律学	工業法規	
	A 3	工学基礎演習 I		工学倫理		
	A 4			工学倫理	現代企業論	
B	B 1	体育 I	体育 II	体育 III	総合体育	
	B 2	現代国語 I 古典 I 美術 ものづくり基礎工学 工学基礎演習 I	現代国語 II 古典 II 音楽	文章表現法	機械・電気工学実験 I A インターンシップ	
	B 3	Reading I Basic Grammar Listening I Oral Communication I	Reading II Science English Listening II Oral Communication II	Reading III Listening III Oral Communication III	TOEIC English	
	B 4					
	B 5					
C	C 1	代数 I 代数 II 幾何 工学基礎演習 II	微分積分学 I 微分積分学 II 線形代数学 I	解析学 I 解析学 II 線形代数学 II	応用数学 I 応用数学 II	
	C 2		基礎製図	機械設計製図 I A	機械設計製図 B	
	C 3		情報処理		機械・電気工学実験 I A	機械・電気工学実験 II
	C 4	化学 I ものづくり基礎工学 工学基礎演習 I	化学 II			化学工学
	C 5	物理 工学基礎演習 I	物理	応用物理 I	応用物理 II 応用物理 III	
	C 6		機械学 基礎製図 機械製作実習 A	工業力学 A 工業力学 B 工業力学演習 機械設計法 A 機械設計法 B 材料学 A 材料学 B メカトロニクス I	振動工学 熱力学 A 熱力学 B 熱力学演習 材料力学 II 流体力学 A 流体力学 B 流体力学演習 機械製作法 A 機械製作法 B 基礎機械要素	応用工学 加工学 計測工学 制御工学 A 制御工学 B ロボット機構 流体力学工学 計算法学 A 計算法学 B 生産工学 自動車工学 応用メカトロニクス 機能材料 関東省エネ技術
	C 7	ものづくり基礎工学			機械・電気工学実験 I A	機械・電気工学実験 II
	C 8	ものづくり基礎工学			機械・電気工学実験 I A	機械・電気工学実験 II
	C 9			機械設計製図 I A	機械設計製図 B	
	C 10				機械・電気工学実験 I A	機械・電気工学実験 II 卒業研究
	C 11			メカトロニクス実習	機械・電気工学実験 I A	機械・電気工学実験 II 卒業研究
	C 12			メカトロニクス実習		卒業研究
	C 13	ものづくり基礎工学	機械製作実習 A	応用機械製作実習 A メカトロニクス実習		
	C 14				電気工学 A 電気工学 B 電子工学 I	
D	D 1	健康科学 体育 I 美術	体育 II 音楽	体育 III	総合体育	
	D 2	倫理思想 体育 I	体育 II	体育 III	総合体育	
	D 3	倫理思想 健康科学 美術	政治経済 日本史 音楽		実用法律学	現代企業論
	D 4					
	D 5			科学技術史		機械の技術史
その他				人文ゼミ I 地域産業論	人文ゼミ II 選択外国語 機械工学特別講義 I 機械工学特別講義 II 機械工学特別講義 III	

(出典 自己点検評価委員会資料)



資料 5-1-①-8

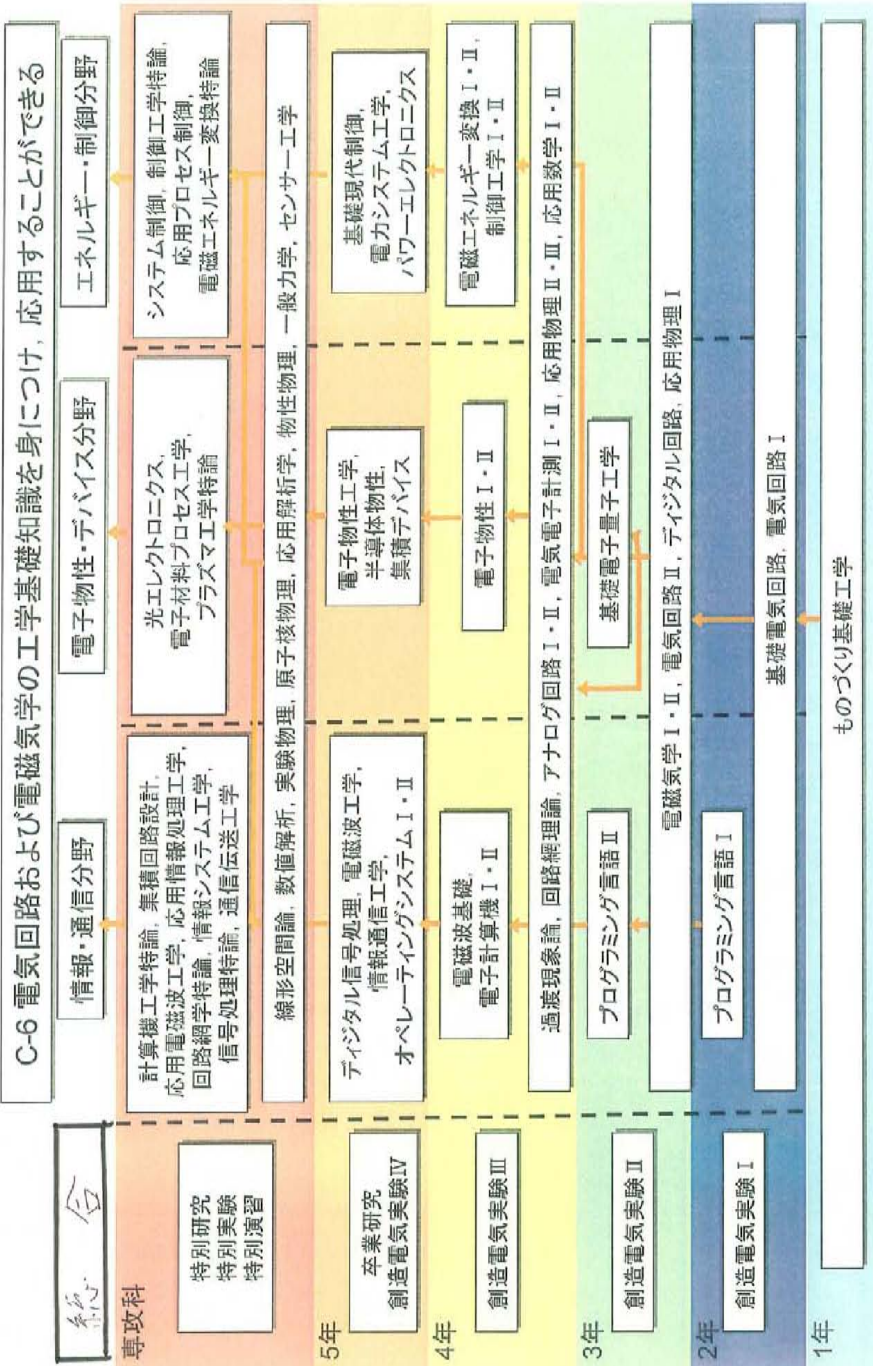
学習・教育目標と科目との関連表

電気工学科 2007.01.16

学習・教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	
A	A.1					
	A.2			実用法律学		
	A.3			工学倫理		
	A.4			工学倫理 インターンシップ	現代企業論	
B	B.1	体育Ⅰ	体育Ⅱ	体育Ⅲ	総合体育	
	B.2	現代国語Ⅰ 古典Ⅰ 翻譯	現代国語Ⅱ 古典Ⅱ 音楽	文章表現法	インターンシップ	
	B.3	ReadingⅠ Basic Grammar ListeningⅠ Oral CommunicationⅠ	ReadingⅡ Science English ListeningⅡ Oral CommunicationⅡ	ReadingⅢ ListeningⅢ Oral CommunicationⅢ	TOEIC English 工業実用英語	
	B.4					
	B.5					
C	C.1	代数Ⅰ 代数Ⅱ 幾何 工学基礎演習Ⅱ	微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ 線形代数Ⅰ	解析学Ⅰ 解析学Ⅱ 線形代数Ⅱ	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ	
	C.2		プログラミング習熟Ⅰ	プログラミング習熟Ⅱ デジタル回路	アナログ回路Ⅰ アナログ回路Ⅱ 制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ 電子計算機Ⅰ 電子計算機Ⅱ	オペレーティングシステムⅠ オペレーティングシステムⅡ
	C.3				インターンシップ 創造電気実験Ⅲ	卒業研究
	C.4	化学Ⅰ ものづくり基礎工学 工学基礎演習Ⅰ	化学Ⅱ			
	C.5	物理 工学基礎演習Ⅰ	物理	応用物理Ⅰ 電磁気学Ⅰ 電磁気学Ⅱ	応用物理Ⅱ 応用物理Ⅲ 電磁気基礎	
	C.6		基礎電気回路 電気回路Ⅰ	電気回路Ⅱ 基礎電子量子工学	演習理論 回路理論 電磁エネルギー変換Ⅰ 電磁エネルギー変換Ⅱ 電子物性Ⅰ 電子物性Ⅱ アナログ回路Ⅰ アナログ回路Ⅱ 電気電子計測Ⅰ 電気電子計測Ⅱ 制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ 電子計算機Ⅰ 電子計算機Ⅱ	オペレーティングシステムⅠ オペレーティングシステムⅡ デジタル信号処理 電磁気学 情報通信工学 電子物性工学 非線形物性 集積デバイス工学 基礎現代制御 電力システム工学 パワーエレクトロニクス
	C.7	ものづくり基礎工学	創造電気実験Ⅰ	創造電気実験実験Ⅱ	創造電気実験Ⅲ 電気電子計測Ⅰ 電気電子計測Ⅱ 創造電気実験Ⅳ	創造電気実験Ⅳ 卒業研究
	C.8	ものづくり基礎工学	創造電気実験Ⅰ	創造電気実験実験Ⅱ	電気電子計測Ⅰ 電気電子計測Ⅱ 創造電気実験Ⅲ	創造電気実験Ⅳ 卒業研究
	C.9				創造電気実験Ⅲ	卒業研究
	C.10		プログラミング習熟Ⅰ 創造電気実験Ⅰ	プログラミング習熟Ⅱ 創造電気実験Ⅱ	創造電気実験Ⅲ	卒業研究
C.11				創造電気実験Ⅲ	卒業研究	
C.12				創造電気実験Ⅲ	卒業研究	
C.13	ものづくり基礎工学	創造電気実験Ⅰ	創造電気実験Ⅱ	創造電気実験Ⅲ インターンシップ	卒業研究	
C.14						
D	D.1	健康科学 体育Ⅰ 英語	体育Ⅱ 音楽	体育Ⅲ	総合体育	
	D.2	倫理思想 体育Ⅰ	体育Ⅱ	体育Ⅲ	総合体育	
	D.3	倫理思想 健康科学 英語	実用経済 日本史 音楽		実用法律学	現代企業論
	D.4					
	D.5			科学技術史		卒業研究
その他				人文ゼミⅠ 地域産業論	人文ゼミⅡ 演習外国語 電気法律特講 通信法律特講 情報法律特講	

(出典 自己点検評価委員会資料)

# [電気]



基準5-1-①-8

(注 冊 商 標 特 許 商 標 加 入 商 標)

資料 5-1-①-9

学習・教育目標と科目との関連表

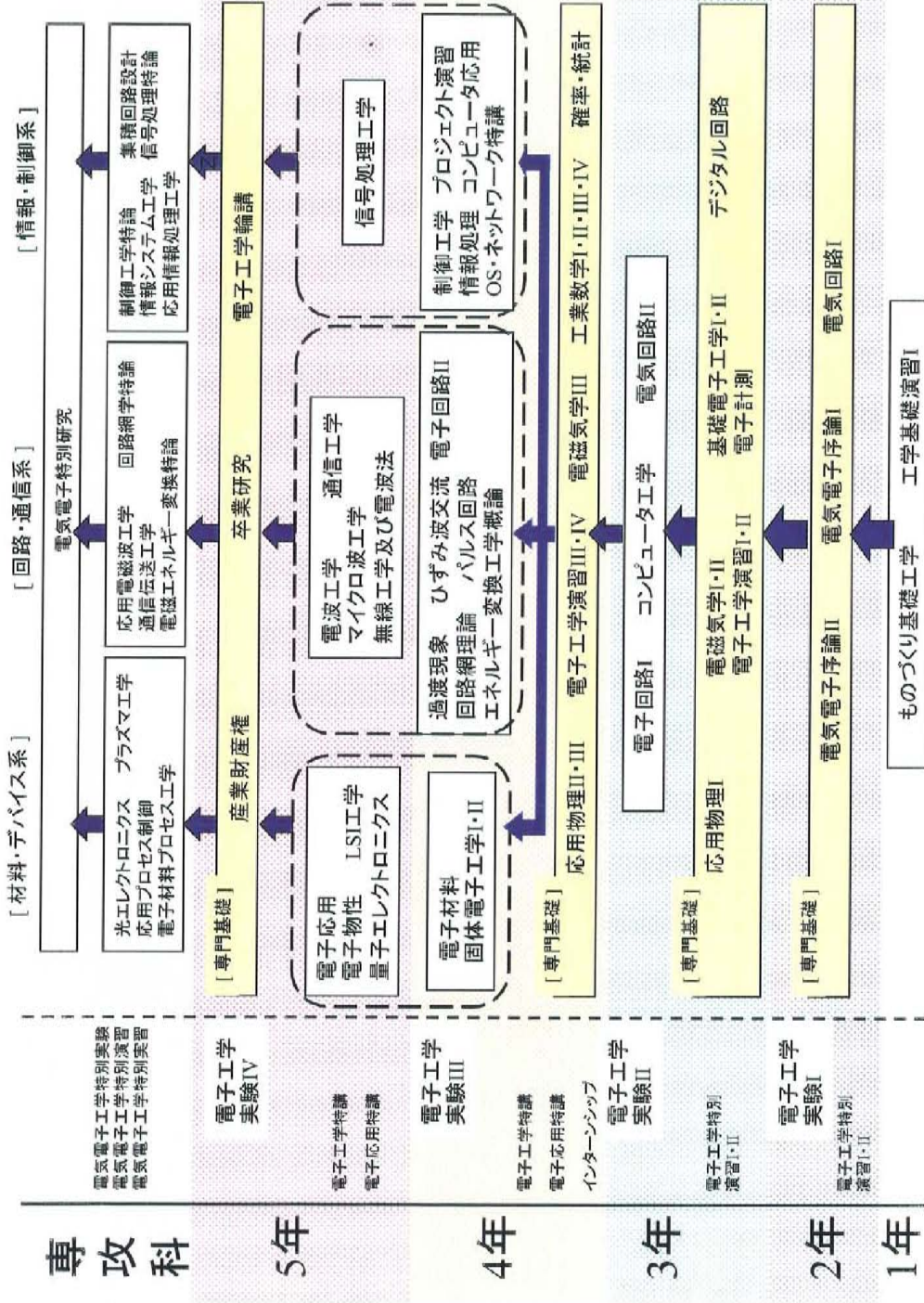
電子工学科 2007.1.22

学習・教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	
A	A 1					
	A 2			実用英検学	無線工学及び電気分	
	A 3			工学倫理	卒業研究	
	A 4			工学倫理 インターンシップ	現代企業論 卒業研究	
B	B 1	体育Ⅰ	体育Ⅱ	体育Ⅲ	総合体育	
	B 2	現代語Ⅰ 古語Ⅰ 音楽Ⅰ	現代語Ⅱ 古語Ⅱ 音楽Ⅱ	電子工学実験Ⅱ 文章表現Ⅱ	電子工学実験Ⅲ インターンシップ	卒業研究 電子工学実験Ⅳ 卒業研究 電子工学実験Ⅳ
	B 3	ReadingⅠ Basic Grammar ListeningⅠ Oral CommunicationⅠ	ReadingⅡ Science English ListeningⅡ Oral CommunicationⅡ	ReadingⅢ ListeningⅢ Oral CommunicationⅢ	TOEIC English	電子工学論議
	B 4					
	B 5					
C	C 1	代数Ⅰ 代数Ⅱ 論理 工学基礎演習Ⅱ	微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 電気電子序論Ⅰ 電気電子序論Ⅱ	解析学Ⅰ 解析学Ⅱ 線形代数Ⅲ 電子工学演習Ⅰ 電子工学演習Ⅱ 電子制御 電気力学Ⅰ 電気力学Ⅱ 電気回路Ⅰ 電子回路Ⅰ 高周波電子工学Ⅱ	確率・統計 工業数学Ⅰ 工業数学Ⅱ 工業数学Ⅲ 工業数学Ⅳ 回路演習論 電子工学演習Ⅲ 電子工学演習Ⅳ 遠成現象 ひずみ伝達論 電磁気学Ⅲ 制御工学 応用物理Ⅱ 応用物理Ⅲ 固体電子工学Ⅰ 固体電子工学Ⅱ	信号処理工学 電子物性 マイクロ波工学 電子回路
	C 2			コンピュータ工学 電子制御 デジタル回路	コンピュータ応用 制御工学 プロジェクト演習 情報処理	OSネットワーク構築 LSI工学
	C 3				インターンシップ	卒業研究
	C 4	化学Ⅰ ものづくり基礎工学 工学基礎演習Ⅰ	化学Ⅱ		固体電子工学Ⅰ 固体電子工学Ⅱ 電子材料	電子物性 電子物性 電子応用
	C 5	物理 工学基礎演習Ⅰ	物理 電気電子序論Ⅰ 電気電子序論Ⅱ	電子工学演習Ⅰ 電子工学演習Ⅱ 電磁気学Ⅰ 電磁気学Ⅱ 応用物理Ⅰ 高周波電子工学Ⅰ 高周波電子工学Ⅱ 電子制御	応用物理Ⅱ 応用物理Ⅲ 電磁気学ⅠⅠ 電子材料 固体電子工学Ⅰ 固体電子工学Ⅱ 電子工学演習Ⅳ エネルギー変換工学概論	電子物性 電子回路 電子応用 電子工学実験Ⅳ
	C 6		電気回路Ⅰ 電子工学実験Ⅰ 電気電子序論Ⅰ 電気電子序論Ⅱ	電子工学演習Ⅰ 電子工学演習Ⅱ コンピュータ工学 電子制御 高周波電子工学Ⅰ 高周波電子工学Ⅱ デジタル回路 電気回路Ⅱ 電子回路Ⅱ 電磁気学Ⅰ 電磁気学Ⅱ 電子工学実験Ⅱ	電子回路ⅠⅠ 電磁気学ⅠⅠ 固体電子工学Ⅰ 固体電子工学Ⅱ 回路演習論 電子材料 電子工学演習Ⅲ 電子工学演習Ⅳ 遠成現象 ひずみ伝達論 パルス回路 エネルギー変換工学概論 プロジェクト演習 電子工学実験Ⅲ	マイクロ波工学 LSI工学 電子物性 電磁工学 電子回路 信号処理工学 電子応用 通信工学 電子工学実験Ⅳ
	C 7	ものづくり基礎工学		電子工学実験Ⅱ	電子工学実験Ⅲ インターンシップ プロジェクト演習	電子工学実験Ⅳ 卒業研究
C 8	ものづくり基礎工学	電子工学実験Ⅰ	電子工学実験Ⅱ	演習・統計 電子工学実験Ⅲ	卒業研究 電子工学実験Ⅳ	
C 9					卒業研究 電子工学実験Ⅳ	
C 10		電子工学実験Ⅰ	電子工学実験Ⅱ	電子工学実験Ⅲ	卒業研究 電子工学実験Ⅳ	
C 11		電子工学実験Ⅰ	電子工学実験Ⅱ	インターンシップ 電子工学実験Ⅲ プロジェクト演習	卒業研究 電子工学実験Ⅳ	
C 12					卒業研究 電子工学実験Ⅳ	
C 13	ものづくり基礎工学			プロジェクト演習	電子工学実験Ⅳ	
C 14						
D	D 1	健康科学 体育Ⅰ 音楽	体育Ⅱ 音楽	体育Ⅲ	総合体育	
	D 2	倫理思想 体育Ⅰ	体育Ⅱ	体育Ⅲ	総合体育	
	D 3	倫理思想 健康科学 演習	政治経済 日本史 音楽		実用英検学	現代企業論 電線及び電線法規
	D 4					
	D 5			科学技術史		
その他				人文ゼミⅠ 地球環境論	人文ゼミⅡ 海外外国語 電子工学特選 電子工学特選 電子工学特別演習Ⅰ 電子工学特別演習Ⅱ	

(出典 自己点検評価委員会資料)



電子工学科：C-6 次の項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる（電磁気学、電気回路）



(注 進 面 已 英 漢 辞 典 自 録 画 録 料)

資料 5-1-①-10

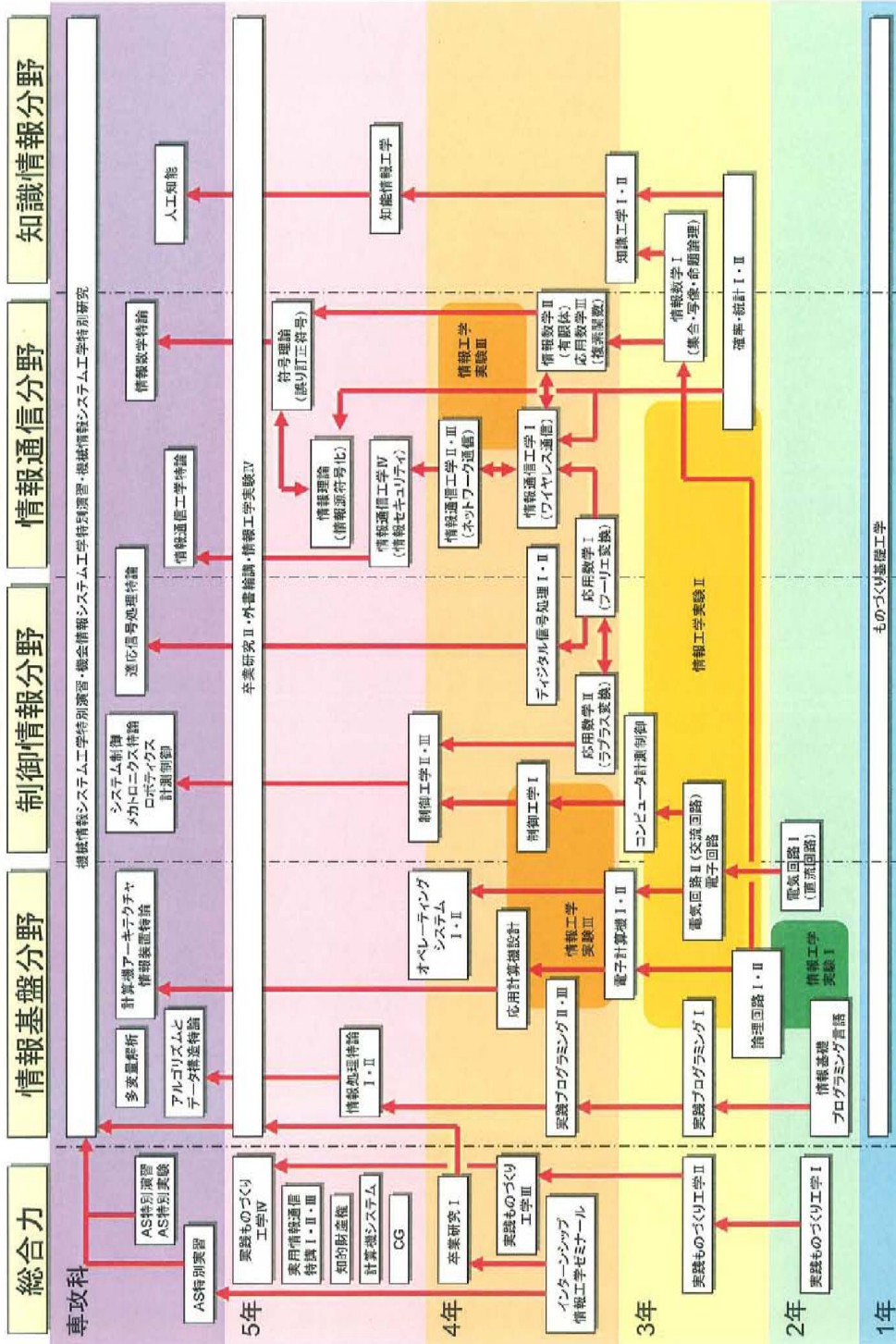
学習・教育目標と科目との関連表

情報工学科 2006.12.26

学習・教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	
A	A.1					
	A.2				実用法律学	
	A.3				工学倫理	
	A.4			知能工学 I	工学倫理 インターンシップ	現代企業論
B	B.1	体育 I	体育 II	体育 III 知能工学 I	総合体育 知能工学 II	
	B.2	現代国語 I 古典 I 英語	現代国語 II 古典 II 音楽	文章表現法 知能工学 I	オペレーティングシステム I 知能工学 II 情報工学ゼミナール インターンシップ	計算機システム
	B.3	Reading I Basic Grammar Listening I Oral Communication I	Reading II Science English Listening II Oral Communication II	Reading III Listening III Oral Communication III	TOEIC English	
	B.4				卒業研究 I	卒業研究 II 外書精読
	B.5					
C	C.1	代数 I 代数 II 線形 工学基礎演習 II	微分積分学 I 微分積分学 II 線形代数学 I 電気回路 I 論理回路 I	解析学 I 解析学 II 線形代数学 II 確率・統計 I 情報数学 I 電気回路 II 論理回路 II 電子計算機 I コンピュータ制御制御	情報数学 II 応用数学 I 応用数学 II 応用数学 III 電子計算機 II 実践プログラミング III 応用計算機設計 制御工学 I 制御工学 II デジタル信号処理 I デジタル信号処理 II 情報通信工学 I 知能工学 II	情報理論 制御工学 III
	C.2		情報基礎 プログラミング言語	電気回路 II 電子回路 コンピュータ制御制御	応用数学 II 電子計算機 II オペレーティングシステム I 応用計算機設計 制御工学 I 制御工学 II 情報通信工学 II 情報通信工学 III	符号理論 制御工学 III プログラミング言語特論 I プログラミング言語特論 II オペレーティングシステム II
	C.3				情報工学ゼミナール インターンシップ	プログラミング言語特論 I 計算機システム
	C.4	化学 I ものづくり基礎工学 工学基礎演習 I	化学 II			
	C.5	物理 工学基礎演習 I	物理	応用物理 I コンピュータ制御制御	応用数学 II 応用物理 II 応用物理 III 制御工学 I 制御工学 II	制御工学 III 情報通信工学 IV
	C.6			コンピュータ制御制御 知能工学 I	応用数学 I 応用数学 II 応用数学 III 実践プログラミング III 制御工学 I 制御工学 II デジタル信号処理 I デジタル信号処理 II 知能工学 II	制御工学 III 知能情報工学
	C.7	ものづくり基礎工学	情報工学実験 I	情報工学実験 II	情報工学実験 III 卒業研究 I インターンシップ	情報工学実験 IV 卒業研究 II
	C.8	ものづくり基礎工学	情報工学実験 I	確率・統計 I 確率・統計 II 実践プログラミング I 情報工学実験 II	実践プログラミング II 情報工学実験 III インターンシップ	情報工学実験 IV
	C.9				卒業研究 I	卒業研究 II
	C.10		情報基礎 プログラミング言語	実践プログラミング I	実践プログラミング II 卒業研究 I	卒業研究 II
C.11				卒業研究 I	卒業研究 II	
C.12				応用数学 III 卒業研究 I	卒業研究 II	
C.13	ものづくり基礎工学	情報基礎 プログラミング言語		情報工学実験 III 卒業研究 I	情報工学実験 IV 卒業研究 II	
C.14						
D	D.1	健康科学 体育 I 英語	体育 II 音楽	体育 III	総合体育	
	D.2	倫理思想 体育 I	体育 II	体育 III	総合体育	情報通信工学 IV
	D.3	倫理思想 健康科学 英語	教習経済 日本史 音楽		実用法律学 情報工学ゼミナール	現代企業論 知的財産権
	D.4					
	D.5			科学技術史	情報通信工学 II 情報通信工学 III 人文ゼミ I	計算機システム コンピュータグラフィックス 人文ゼミ II
その他		実践ものづくり工学 I	実践ものづくり工学 I 実践ものづくり工学 II	地域産業論 実践ものづくり工学 I 実践ものづくり工学 II	計算機システム 実践ものづくり工学 I 実践ものづくり工学 II 実用情報通信特論 I 実用情報通信特論 II 実用情報通信特論 III	

(出典 自己点検評価委員会資料)

C-6 次の項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる



(注冊 Ⅲ 已 点 接 評 価 効 果 分 野 資 料)

学習・教育目標と科目との関連表

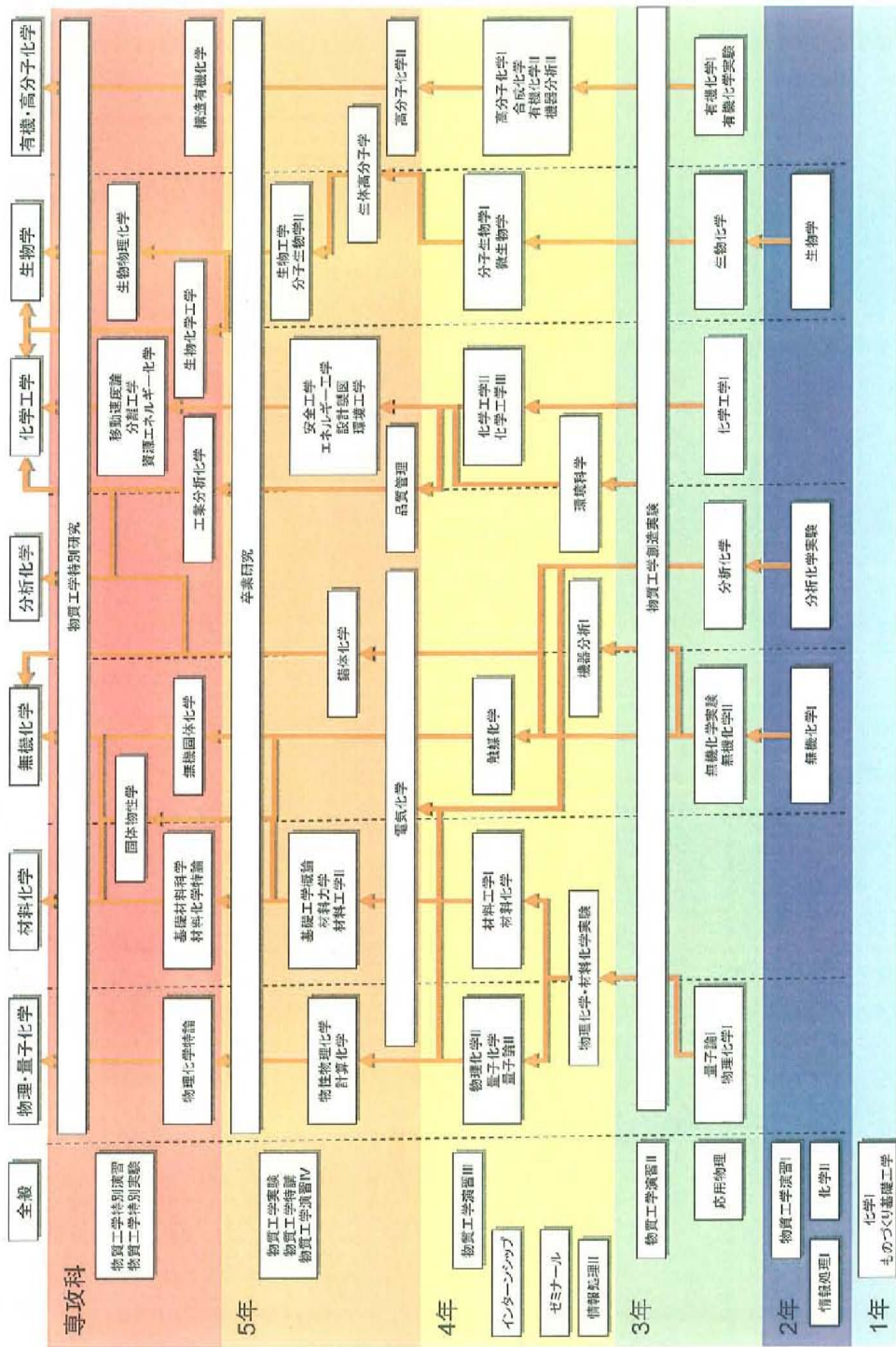
物質工学科 2006.12.26

学習・教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	
A	A1			有機化学Ⅱ 実験併修	産業工学 高分子工学 安全工学 企業経営 基礎工学	
	A2			実用英語学	高分子工学 安全工学	
	A3			工学倫理 分子生物学Ⅰ	分子生物学Ⅱ 高分子工学 安全工学	
	A4			工学倫理 インフォメーション	現代法要論	
B	B1	体育Ⅰ 体育Ⅱ 分析化学実験	体育Ⅲ 有機化学実験 物質工学創造実験	体育Ⅳ 高分子工学 安全工学	卒業研究	
	B2	現代英語Ⅰ 古典Ⅰ 英検	現代英語Ⅱ 古典Ⅱ 英検 分析化学実験	現代英語Ⅲ 有機化学実験 化学工学・生物化学実験 安全工学 インフォメーション	高分子工学 物質工学特講Ⅰ 物質工学特講Ⅱ 卒業研究	
	B3	ReadingⅠ BasicOral ListeningⅠ OralCommunicationⅠ	ReadingⅡ ScienceEnglish ListeningⅡ OralCommunicationⅡ	ReadingⅢ ListeningⅢ OralCommunicationⅢ	ReadingⅣ English ゼミナール	物質工学特講 物質工学特講Ⅱ
	B4				物質工学特講 物質工学特講Ⅱ 物質工学特講Ⅲ	
C	C1	代数Ⅰ 代数Ⅱ 微分 工学基礎演習Ⅱ	解析学Ⅰ 解析学Ⅱ 線形代数Ⅱ 微分化学Ⅰ 分析化学 分子生物学 有機化学実験	応用数学 情報処理Ⅱ 量子論Ⅱ 電子工学 有機化学 材料工学Ⅰ 化学工学・生物化学実験	材料工学 材料工学Ⅲ 材料力学 材料加工 基礎工学概論 卒業研究	
	C2		分析化学実験	化学工学Ⅰ	化学工学Ⅲ 化学工学Ⅳ 材料工学Ⅲ 材料加工 基礎工学概論	
	C3		情報処理Ⅱ 分析化学実験	情報化学実験	情報処理Ⅱ 機軸分析Ⅱ 化学工学・生物化学実験 インフォメーション	材料工学Ⅲ 計算科学 基礎工学概論 卒業研究
	C4	化学Ⅰ ものづくり基礎工学 工学基礎演習Ⅰ	化学Ⅱ 有機化学Ⅰ 生物化学 分析化学実験	有機化学Ⅱ 有機化学Ⅲ 分析化学 化学工学Ⅰ 生物化学 量子論Ⅰ 情報化学実験 有機化学実験 物質工学創造実験	有機化学Ⅳ 有機化学Ⅴ 化学工学Ⅱ 化学工学Ⅲ 電子論Ⅲ 電子工学 有機化学 材料工学Ⅰ 材料工学Ⅱ 高分子化学Ⅰ 機軸分析Ⅰ 機軸分析Ⅱ 分析化学Ⅰ 情報化学 有機化学・材料化学実験 化学工学・生物化学実験 ゼミナール	材料工学Ⅲ 計算科学 基礎工学概論 卒業研究 分子生物学Ⅱ 分子生物学Ⅲ 有機化学 電気化学 結晶化学 生体高分子学 物理有機化学 生物工学 基礎工学概論 高分子工学 物質工学実験 卒業研究
D	D1	物理科学 体育Ⅰ 英語	体育Ⅱ 音楽 体育Ⅲ	体育Ⅳ 総合体育	卒業工学	
	D2	情報処理 体育Ⅰ 英語	体育Ⅱ 体育Ⅲ 物質工学創造実験	体育Ⅳ 総合体育	現代法要論	
	D3	情報処理 体育Ⅰ 英語	総合体育Ⅰ 音楽 体育Ⅱ	実用英語学	現代法要論	
	D4				卒業工学	
D5		科学技術史				
その他	物質工学演習Ⅰ 情報処理特講 有機化学特講 安全工学特講	物質工学演習Ⅱ 情報処理特講 有機化学特講 安全工学特講	人文ゼミⅠ 地球環境特講 物質工学演習Ⅲ 情報処理特講 有機化学特講 安全工学特講	人文ゼミⅡ 遠征実習 物質工学演習Ⅳ 情報処理特講Ⅱ 有機化学特講 安全工学特講		

(出典 自己点検評価委員会資料)

# 「物質工学科」

C-6次の項目の工学基礎知識を身につけ、応用することができる



(注 冊 商 標 特 許 取 得 済 商 標)

# 「英語」

B3  
(B4, B5)

専攻科

英語演習Ⅱ  
TOEICその他の  
英語力強化  
(listening, speaking  
中心)

英語演習Ⅰ  
TOEICその他の  
英語力強化  
(listening, speaking  
中心)

5年

TOEIC Seminar  
TOEIC対象の  
総合力強化

4年

TOEIC Basics  
TOEIC対象の  
基礎力充実

TOEIC English  
TOEIC対象の  
総合基礎力養成

3年

ReadingⅢ  
高度リーディング  
教材による  
英文読解が主体

ListeningⅢ  
E-learningによる  
英文読解・聴取力養成

Oral CommunicationⅢ  
英語会話

2年

ReadingⅡ  
精読と英文多読による  
英文読解力充実

Science English  
科学技術英語の基礎力養成

ListeningⅡ  
E-learningによる  
英文読解・聴取力養成

Oral CommunicationⅡ  
英語スピーチ練習、  
英語会話

1年

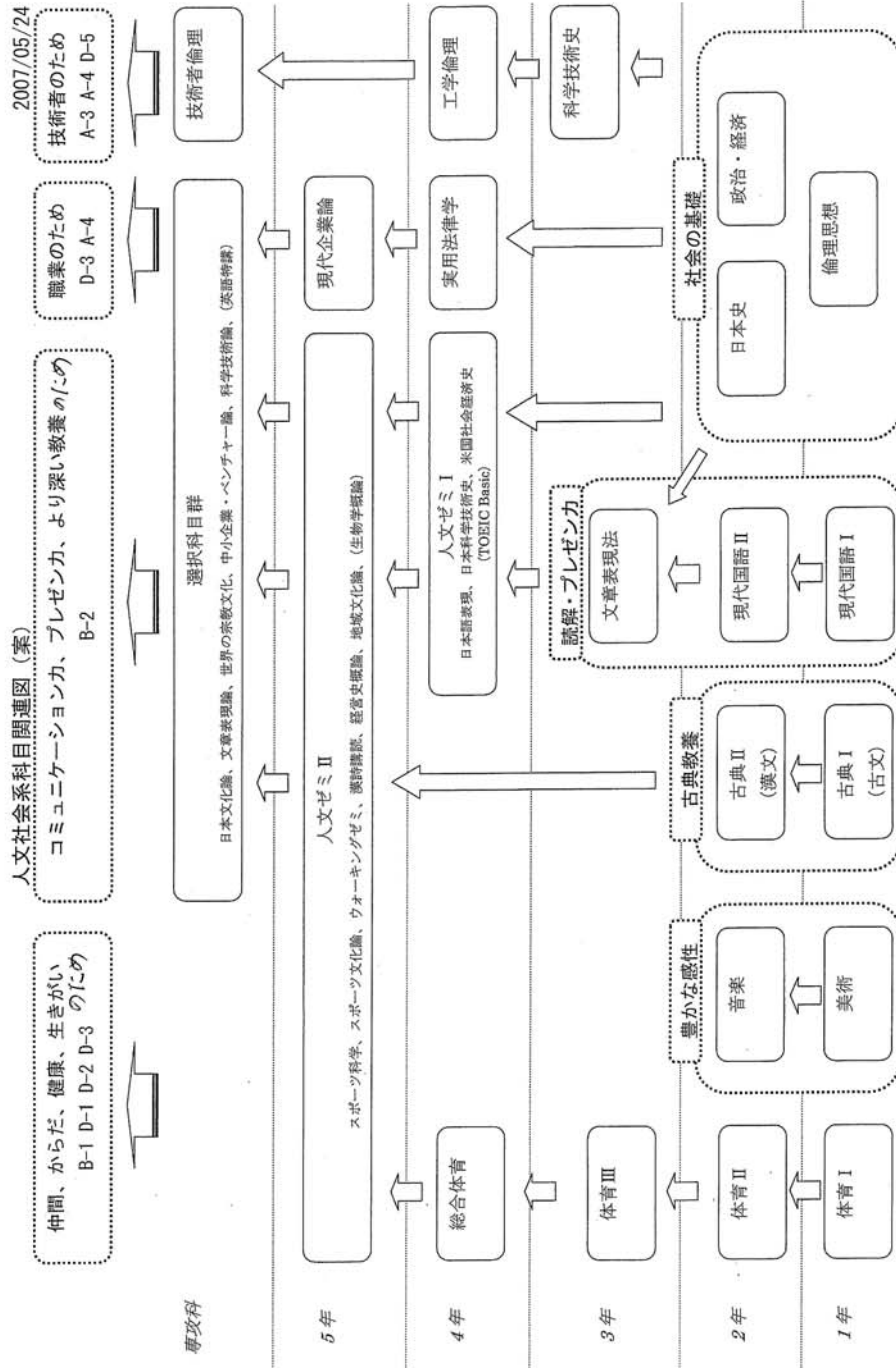
ReadingⅠ  
精読と英文多読による  
英文読解基礎力養成

Basic Grammar  
4技能(listening, speaking,  
reading, writing)  
の基礎となる文法力の充実

ListeningⅠ  
E-learningによる  
英文読解・聴取力養成

Oral CommunicationⅠ  
基本英語プレゼンテーション、  
英語会話

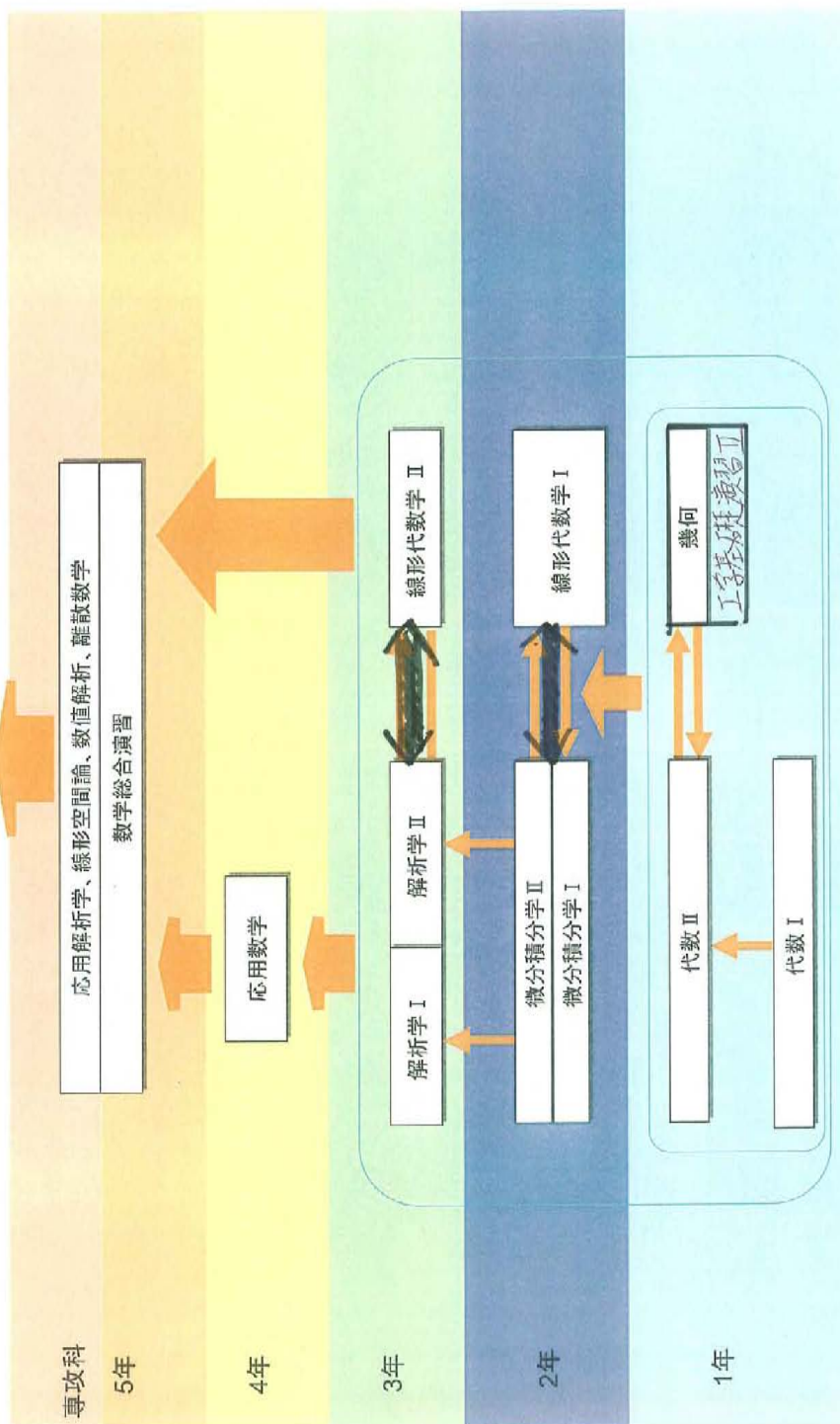
(注) 西口英彦等編『英語学習の達人』



(出典 自己点検評価委員会資料)

# [数学]

C-1 基本的な数学を理解し、自然科学へ応用することができる。

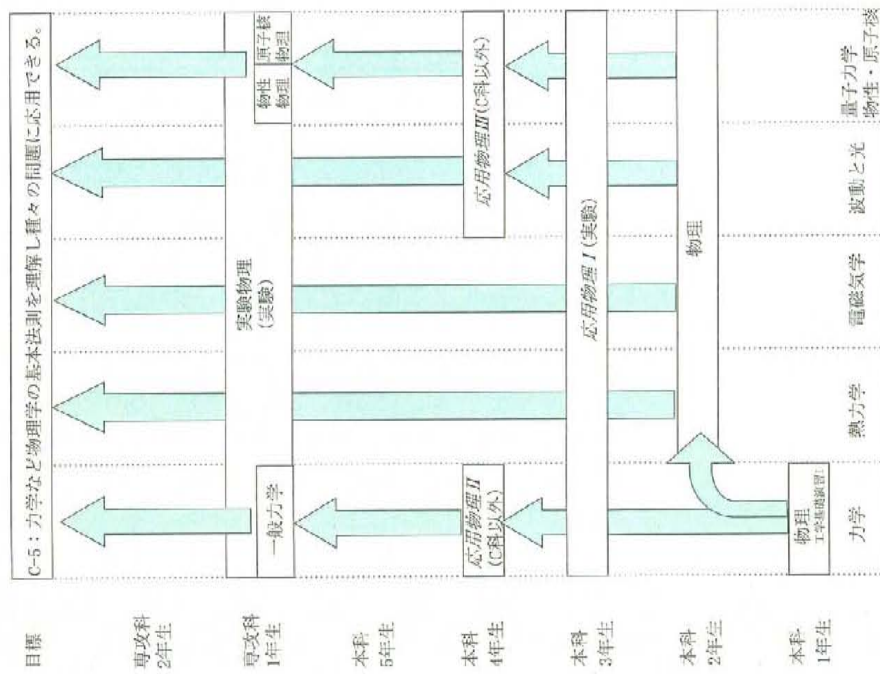
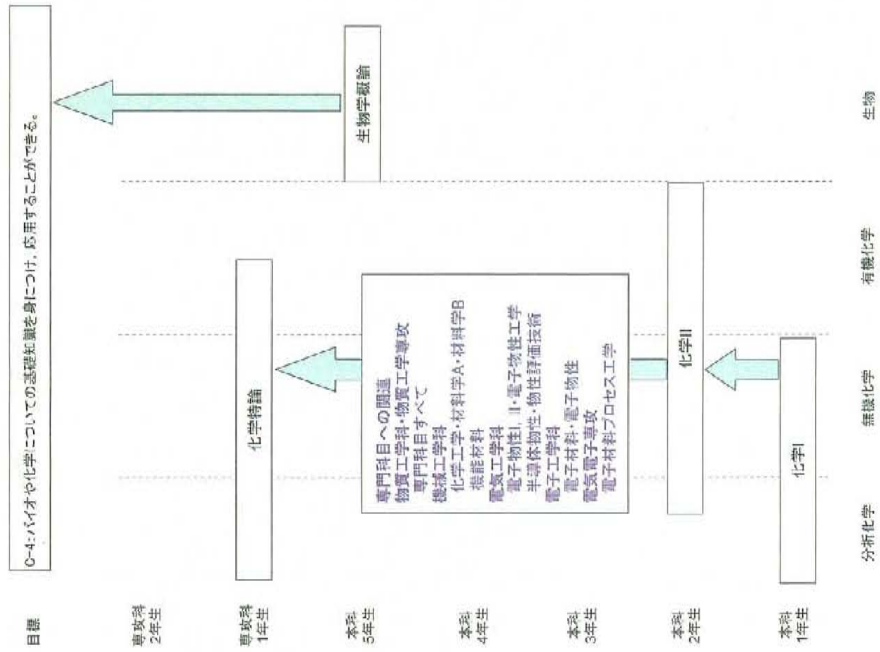


資料 5-1-①-12

(出典 自己点検評価記録簿資料)



資料5-1-①-12



(左側 専門科目 右側 専攻科)

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズ、社会からの要請等に対応するために、本校では、放送大学の単位の認定を文部科学省告示第85号（資料5-1-②-1（その1）に基づき、資料5-1-②-1（その2）のように定めている。他、工場見学による単位認定（資料5-1-②-2）、インターンシップによる単位認定（資料5-1-②-3）、英検などによる単位認定（資料5-1-②-4）などを規定している。工場見学による単位認定は、4年次までの工場見学（研究・研修旅行時の工場見学含む。また工場見学に係る事前学習および事後報告等も含む）およびインターンシップによって単位を認定するものである。また、本校では、4年次におけるインターンシップは卒業要件となっている。インターンシップの実施状況は後掲の資料に示す（資料5-2-③-3）。

補充教育としては、留学生に対して個別に特別時間割を組み（資料5-1-②-5）、日本語および日本事情の2科目の授業と、各学科における専門科目の補充授業などを行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、放送大学の単位の認定、工場見学およびインターンシップによる単位認定、英検などによる単位認定などを規定している。また、工場見学とインターンシップは卒業要件となっている。更に、補充教育として、留学生に対する日本語教育の授業や各学科における専門科目の補充授業などを実施している。

以上により、学生の多様なニーズ、社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。

[Home](#) > [技術・進路](#) > [日本・社会・進路](#) > [教育・進路](#) > [平成三年文科省告示第八十五号\(高等専門学校設置基準第二十条第一項の規定による高等専門学校が単位の修得を認定することのできる学修\)](#)

**文科科学省**  
**平成三年文科省告示第八十五号(高等専門学校設置基準第二十条第一項の規定による高等専門学校が単位の修得を認定することのできる学修)**  
 文部省告示第八十五号

**平成三年文科省告示第八十五号(高等専門学校設置基準第二十条第一項の規定による高等専門学校が単位の修得を認定することのできる学修)**

高等専門学校設置基準昭和三十六年文科省令第二十三号第二十条第一項の規定により、高等専門学校が単位の修得を認定することのできる学修を次のように定め、平成二年七月一日から施行する。

配。

平成二年六月二十八日  
 平成二年三月二九日文科省告示第四三三号 改正  
 平成二年二月二一日文科省告示第一八一号

一 大学又は短期大学の専攻科における学修  
 二 高等専門学校の専攻科における学修  
 三 単修学校の専門課程のうち修業年限が二年以上のものであるものにおける学修で、高等専門学校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認められたもの  
 四 青少年及び成人の学習活動に係る知識・技能審査事業の認定に関する規則(平成十二年文科省令第二十五号)又は技能審査の認定に関する規則(昭和四十二年文科省告示第二三三三号)による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で、高等専門学校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認められたもの

附則  
 (施行期日)  
 1 この告示は、平成十二年四月一日から施行する。

(経過措置)  
 2 この告示の施行前に、技能審査の認定に関する規則(昭和四十二年文科省令第二三三三号)により認定された技能審査については、平成十二年三月三十一日までの間、従前の例による。ただし、当該技能審査が青少年及び成人の学習活動に係る知識・技能審査事業の認定に関する規則(平成十二年文科省令第二十五号)により認定を受けた場合は、この限りではない。

附則  
 (施行期日)  
 1 この告示は、内閣法の一部を改正する法律(平成十一年法律第八十八号)の施行の日(平成十三年一月六日)から施行する。

[ページの五線へ](#) [文部科学省ホームページへ](#)

附則  
 (施行期日)  
 1 この告示は、内閣法の一部を改正する法律(平成十一年法律第八十八号)の施行の日(平成十三年一月六日)から施行する。

[ページの五線へ](#) [文部科学省ホームページへ](#)

## 資料5-1-②-1 (その2)

(高等専門学校以外の教育施設等における学修等)

第13条の4 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

2 前項により、認定することができる単位数は、前条の本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

3 前2項に関する事項は、別に定める。

(各学年の課程の修了又は卒業認定)

第14条 各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、学生の平素の成績を評価して行うものとする。

2 第1項に関し、必要な事項は別に定める。

(再履修)

第15条 前条の認定の結果、原学年にとどめられた者は、当該学年に係る別に定める授業科目を再履修するものとする。

## 第5章 入学、転科、休学、退学、転学、留学及び卒業

(入学資格)

第16条 入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 中学校を卒業した者

(2) 中等教育学校の前期課程を修了した者

(3) 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者

(4) 文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定規則(昭和41年文部省令第36号)により、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者

(7) その他相当の年齢に達し、本校が中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学者選抜と入学許可)

第17条 校長は、入学志願者について、学力検査の成績、出身中学校又は中等教育学校(以下「中学校等」という。)の長から送付された調査書その他必要な書類等を資料として、入学者の選抜を行う。

2 校長は、前項の選抜方法によるほか、別に定めるところにより、入学定員の一部について中学校等の長の推薦に基づき、学力検査を免除し、中学校等の長から送付された調査書及び面接等を主な資料として、入学者の選抜を行う。

3 校長は、前2項の選抜の結果に基づき、第27条に規定する入学料を納付した者に対して入学を許可する。ただし、入学料免除の申請書を受理された者にあつては、この限りではない。

(編入学等)

第18条 第1学年の途中又は第2学年以上に入学を希望する者があるときは、校長は、その者が相当年齢に達し、当該学年に在学する者と同等以上の学力があると認めた場合に限り、前条の規定に準じて、相当学年に入学を許可することができる。

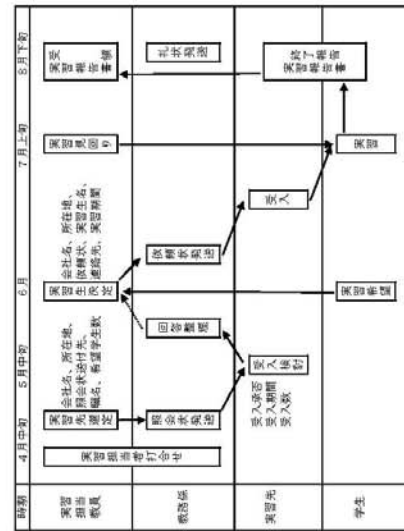
(他の高等専門学校からの転学)

第18条の2 他の高等専門学校から転学を希望する者があるときは、校長は、教育上支障がない場合には、転学を許可することができる。

2 前項に関し、必要な事項は別に定める。

(誓約書等の提出)

第19条 入学を許可された者は、所定の期日までに在学中の保証人と連署した誓約書及び校長が定めた書類を提出しなければならない。



4-4 インターンシップ保険への加入について

夏期実習を行う学生は全員インターンシップ保険に加入する。

4-5 夏期実習報告書の作成について

夏期実習終了後、報告書を学科毎にとりまとめ保存し、学内で閲覧はできるが、学外には公表しない。

4-6 工場見学について

工場見学は、各学科において授業の進捗に合わせて計画、立案し、職業観醸成のための授業の一環として実施し、1年次から4年次の見学は「インターンシップ」として他の行事を含めて4年次にまとめて単位として認定する。  
1年生から4年生については、従来どおり6月に一斉実施するが、5年生の英語の有無については、各学科に任せる。なお、5年生で実施する場合の実施時期については、その学科に任せることとし(6月の一斉でも可)。実施しない学科については、会社訪問等の進路指導にあてる。

4-6-1 工場見学の手順

- ① 見学先が決定したら、引当責任者は「工場見学部」に所要事項を記入し、学科長押印の上、教務部長を経て教務部に提出する。
- ② 教務部は教務委員会に諮議し、各学科間の調整を恐つた上で決定する。  
\*引当責任者は工場見学部を提出するに当たって、教務委員会開催日、事務処理に要する日時などを考慮に入れて早めに提出する。  
\*全校一斉の工場見学の場合、各会社への学科窓口は5-4-2に準ずる。

4-6-2 実施要領

- ① 見学先が決まったら学生に事前調査レポートを提出させ、指導する。また見学終了後、見学レポートを提出させ、指導する。見学状況を工場見学参加結果追加記録簿に記す。
- ② 引当者は1学年2名以上とする。
- ③ 引当者は見学中文は、連絡に際して学生が事故を起こすことのないよう細心の注意を払うと共に、見学先に損害を与えることのないよう十分に指導する。
- ④ 工場見学は日帰りを原則とする。

4-6-3 取組留置者の扱いについて

前年度参加してレポートも提出されている場合は参加の必要はない。しかし担任教員および学科で相談して、その学生にとって、新しい企業の見学ならプラスになると判断したら参加させる。むしろ、自宅で留置年をしないための課題学習をしたほうがよいならそのようにするのでも可能。

第4章 夏期実習及び工場見学関係

東京工業高等専門学校夏期実習実施要綱

- 第4条 夏期実習（以下「実習」という。）は、学生が工芸上の学務応用の実習を習得し、併せて産業界における技術者のあり方について学ぶことを旨とする。
- 第5条 実習は、本校の授業の一環として、第4学年に行う。ただし、特別の事情がある場合は、他の学年に行う。
- 第6条 実習は、原則として、校外で行う。
- 第7条 実習は、原則として7月10日から8月31日までの5週間とする。
- 第8条 各学科に実習担当教官を置く。実習担当教官は教育主事の企画のもとに、学科主任の指示を受け、実習先を決定し、実習の内容の選定に当たるなど、実習に関連する業務を行う。
- 第9条 実習中に、学生又は実習先に事故があった場合、実習担当教官は、学科主任と協議のうえ、直営の処置を講ずるものとする。特に必要と認められる場合は校長に報告し、その指示を受ける。
- 第10条 所定の実習を修了した学生については、学科主任は、実習修了の認定を行い、校長に報告する。
- 第11条 本規則に定めるもののほか、必要と認められる事項については、各学科で細目を定めることができる。細目は、教育主事の承認を得るものとする。

東京工業高等専門学校夏期実習学生心得

- 1. 学生は夏期実習（以下「実習」という。）に従事するに当たり、この心得を守らなければならない。
- 2. 学生はこの心得のほか、必要の事項、細目については、実習開始前に実習担当教官の指導を受けなければならない。
- 3. 学生は、実習先の監督者の指導を受けるとともに、次に掲げる事項を守り、実習の目的を十分に達成するよう心がけること。
  - A) 服装
    - イ 出退勤時間、休憩時間を守ること。無断で欠勤、遅刻、早退等は絶対に行わないこと。
    - ロ 社内規律、作業内規等の規則に従うこと。
    - ハ 学生としての良識ある行動をとり、礼節を守ること。
    - ニ その他社内秩序を乱さないよう留意すること。
  - B) 社内規律
    - イ 無断で設備、製品等社内の写真撮影をしないこと。
    - ロ 無断で指定外の場所に立ち入らないこと。
    - ハ 許可なく、貴重、研究、文庫、図書等を社外に運ばないこと。
    - ニ 安全保持
      - イ 作業上の注意事項、指導者の指示に従い、無断で作業をしないこと。
      - ロ 作業心得、安全心得をよく守り、細心の注意を払い、事故を起こさないよう心がけること。
      - ハ 万一事故又は異常事態が生じた場合は、直ちに監督者に報告するとともに学校に連絡すること。
  - D) 作業態度
    - イ 監督者の指示に従い、独自の行動はとらないこと。
    - ロ 作業員に対しては、努めて誠意な態度で接すること。
    - ハ 必要以外の設備等には手を触れたりしないこと。
    - ニ 作業の終了報告を必ず監督者にすること。
    - E) 用具の使用
      - イ 無断で社内の用具を使用しないこと。また、使用後は必ず元の場所に返しておくこと。
      - ロ 許可なく物品の搬入搬出はしないこと。

- 4. 学生は、実習期間中、常に担当教官と連絡を保持つものに必要が処置をとっておくこと。
- 5. 学生は、実習終了後、報告書と監督者の了解を得て実習担当教官に提出すること。
- 6. 学生が、実習について、実習先及び学校に対して、損害を与えた場合はその現状により弁償補修等をさせられることがある。

4-1 夏期実習の手順

- ① 各学科実習担当教官は実習先を決定し、会社名、所在地、依頼状送付先の職名、希望学生数について、4月下旬実習関係に連絡する。実習先は、各学科実習担当教官の打合せ会において回答する。
- ② 依頼状は調整の結果に基づいて会社（工場）に校長名で依頼状を送付し、受入の承諾、受入期間、受入数について回答を求める。
- ③ 会社（工場）からの受入承諾の回答はその制度、実習担当教官に回答する。
- ④ 実習担当教官は会社（工場）からの回答によって、その実習先に通ずる学生を決定し、依頼先に連絡する。
- ⑤ 依頼状は、学生名を記入した校長の依頼状を会社（工場）に送付する。
- ⑥ 依頼状は、実習終了後、会社（工場）に校長による礼状を送付する。
- ⑦ 依頼状は、実習を依頼した会社（工場）に出動日数及び勤務状況について回答を求める。
- ⑧ 会社（工場）からの出動日数及び勤務状況の回答は、その都度実習担当教官に回答する。
- ⑨ 会社（工場）への学習窓口は、その会社を担当する学習の窓口と連絡をとり、学習の進捗を確認する。
- 以上のことは、各校一斉の工場見学及び研修・研究旅行についても原則的に同様の手順とする。

4-2 単位の認定

学科長は、実習修了の認定を受けた学生については、他のインターンシップ期間行事ともあわせてインターンシップ3単位認定する。

インターンシップ4は4学年に行われる夏期実習および1年次からの工場見学など総合して4年次に単位の修得認定を行うことになっているが、4学年で修了しなかった場合は、5年間で修了してもよい。また、夏期実習を校外で修了することが不可能な場合は、学科の別開により校内でこれに代わるものを選び、これを夏期実習と認めることができる。なお単位としてのインターンシップでは、1年次からの一斉工場見学、研修旅行・研究旅行における工場見学、4年次における進路個別指導、連絡オリエンテーションも単位の対象としており、これらに関する事前レポート、事後レポートを収めるものとする。

4-3 原簿設置者の扱いについて

4年次で夏期実習を修了し、原簿設置になった者の扱いについては、重ねて履修することは困難な機会があること及び他の学生と区別することは好ましくないという指摘上の問題があるので、原則として参加させないが、事情により、学校が判断で原簿修了を認めない場合がある。また、再度修了しない場合は修了認定は前年度の認定を当該年度の認定として学年末に改めて報告する。

資料5-1-②-4

より合格を証する書類を添付し、1月末日までに教務係に提出する。

#### 7. 審査

申請された書類に基づき審査のうえ、単位の認定を行う。

#### 8. その他

ここに定めるもののほか、必要な事項については教務委員会の議を経て別に定める。

この取扱いは平成10年4月1日から適用する。

なお、それ以前の本校入学後に上記の検定試験に合格した学生については、平成10年度末に一括して認定する。

### 3-8-2 外国語技能審査合格者の単位認定要領

「外国語技能審査の合格に基づく単位認定について」の具体的な審査、単位認定等については、以下のとおりとする。

#### 1. 単位認定区分

認定された単位は、修了認定単位数に含まれるものとし、次の区分とする。

実用英語技能検定については、「一般科目」として認定する。

工業英語能力検定については、「専門科目」として認定する。

#### 2. 認定単位数

「外国語技能審査の合格に基づく単位認定について」の3. 単位認定によるものとする。

#### 3. 審査

1月末日までに、学生から提出された「外国語技能審査による単位認定申請書」を、教務係で取りまとめの上、教務主事から当該年度の英語担当代表教員に依頼し審査を行う。

#### 4. 認定

上記審査を終了したものについて、教務委員会において審議の上、単位の認定を行う。

#### 5. その他

教務係は、単位管理のために個人別の「単位認定簿」を作成する。

### 3-9 外部資格の単位認定について

高等専門学校教育に相当する水準を有する、外部資格取得の単位認定について次のとおり取り扱う。

#### 1. 目的

授業時間外の学習の目標を与え、学生の学習意欲を高めることにより、学生の授業時間外の学習時間を増やし、学生の能力向上を図ることを目的とする。

#### 2. 対象

対象となる資格は、文部科学省、経済産業省等国で認定されたものとし、学科独自の指導方針によって実施することができる。

#### 3. 単位の認定

(1) 認定単位数は1学科あたり最大3科目、3単位とする。

(2) 学年配当は4・5年とし、選択科目とする。

(3) 授業科目を設け、集中講義等に対応し、名称は「〇〇特講」とする。

資料 5-1-②-5

## 外国人留学生授業時間割 (平成19年度・前期)

留学生氏名 ( ) 情報工学科3年 指導教員:

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
月	ReadingⅢ 相澤	実践プログラミングⅠ 松本	体育Ⅲ 黒田						※日本語 教内	
火	電気回路Ⅱ 西村	解析学Ⅰ 野田	Oral Communication Ⅲ Henscheid	※論理回路特別講義 鈴木(孝)				※日本語 教内		
水	応用物理Ⅰ 大野		情報工学実験Ⅱ 鈴木(雅)・鈴木(孝)・松林・平尾							
木	知識工学Ⅰ 鈴木(雅)	解析学Ⅱ 佐藤	HR 野田							
金	確率・統計Ⅰ 鈴木(雅)	※プログラミング言語 特別講義 吉本		線形代数学Ⅱ 小中澤		論理回路Ⅱ 横山	解析学特別講義 安富			

[注] ※: 特別授業

(履修40時間)

## 外国人留学生授業時間割 (平成19年度・前期)

留学生氏名 ( ) 情報工学科4年 指導教員:

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
月	情報通信工学Ⅰ 小嶋(徹)	応用数学Ⅱ 小坂	情報工学実験Ⅲ 西村, 平尾							
火	応用数学Ⅰ 吉本	実践プロ音Ⅱ 松本	TOEIC English 加藤	制御工学Ⅰ 松林						
水	信号処理Ⅰ 吉本	知識工学Ⅱ 鈴木(雅)	情報工学ゼミナール 横山	情報通信工学Ⅱ 青野			※日本語 教内			
木	応用物理Ⅱ 瀬	情報数学Ⅱ 小嶋(徹)								
金	電子計算機Ⅱ 鈴木(孝)			オペレーティング システムⅠ 青野	総合体育 体育科					

[注] ※: 特別授業

(履修36時間)

(出典 教務委員会資料)



観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

前掲の教育課程表（資料5-1-①-1、資料5-1-①-2、資料5-1-①-3、資料5-1-①-4、資料5-1-①-5、資料5-1-①-6）に示されているとおり、実験実習の授業形態をとる授業の割合が非常に高い。このことは、「豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的ものづくり技術者の育成」という本校の目的を達成する上で適切なことである。このように、本校の目的に照らした場合、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは適切である。

各科目の授業内容に応じた適切な学習指導法の工夫は、多くの科目で行われている（現地閲覧資料18）。ここでは、例として挙げやすいもの3例を選んで分析をする。物理においては、実験を通して原理を理解させる指導方法がとられている（資料5-2-①-1）。本校の「ものづくり技術者の育成」という目的からすると、このような指導方法が良いと考えられる（資料5-2-①-2）。また、1年生の英語においては、図書館を利用した多読の授業が行われている（資料5-2-①-3）。英語の読解力を付け、準学士課程の学習・教育目標B-4などを達成するために、優れた指導方法である（資料5-2-①-4）。更に、1年生の国語においては、夏休み中の自由研究とその発表を取り入れた指導方法を実施している（資料5-2-①-5）。この指導方法は、準学士課程の学習・教育目標B-2を達成するための優れた指導方法である（資料5-2-①-6）。

（分析結果とその根拠理由）

実験実習を重視したカリキュラムは、「豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的ものづくり技術者の育成」という本校の目的を達成する上で適切であり、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは適切である。また、実験により原理を理解させる指導法、多読により読解力を付けさせる指導法、自由研究とプレゼンテーションとを取り入れた国語の指導法など、多くの科目で授業方法の工夫がなされている。

以上により、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料 5-2-①-1

## 教科目名 物理

担当 教官 : 前段 眞治

学年、学科等 : 1年 一般科目 (自然系) 通常講義

単位数 期間 : 必修 2 単位 通期 週2時間 (合計 60 時間)

## 授業の目標と概要

運動を表す方法を学び、それを用いて物体の運動を表現する。つまり、物体がどのように運動をしているかを知る。さらに、それらを律している法則を、できるだけ実験を通して求める。自然界におけるいろいろな物体に対して、この法則を適用して、その運動を予想し、実際の比較をする。

## カリキュラムにおける位置づけ

中学校で学習した理科第1分野および数学の内容を前提とする。物理全般と専門学科で学ぶ物理関連科目の基礎となる。

## 授業の内容

授業の内容	時間
1. 力と運動	12
1-1直線運動 速度、加速度、等加速度直線運動 実験：①直線的な運動 (速度と加速度)	2
<b>前期中間試験</b>	
1-2運動の法則 力、運動の第1法則 (慣性の法則)、運動の第2法則 (運動方程式)、 運動の第3法則 (作用反作用の法則)、	6
1-3いろいろな直線運動 重力とばねの力、運動方程式の作り方、自由落下運動、 真上に投げ上げたときの運動、摩擦が働くときの運動、 実験：②一定な力を受ける物体の速度変化	6
<b>前期末試験</b>	
1-4運動量 力積と運動量、運動量保存の法則 実験：③ 運動量保存則 (1次元)、④ 力の合成 ⑤デモ実験	6
1-5力学的エネルギー 仕事、運動エネルギー、仕事と運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー保存の法則	2
<b>後期中間試験</b>	
1-6平面・空間での運動 ベクトルとスカラー、力、速度、運動方程式・運動量・仕事、いろいろな運動 実験：⑥衝突の際の運動量の変化 (2次元)	12
<b>学年末試験</b>	
1	
<b>教科書</b>	小暮陽三(編):高専の物理(第5版)、森北出版
<b>補助教科書</b>	物理IBβコース:中部日本教育文化会、物理実験テキスト:島津理化器械株式会社
<b>履修上の注意</b>	提出物は、必ず全員、提出すること。
<b>評価基準</b>	物理学の重要な分野である力学の基本法則を理解し、実験レポートや課題レポートを提出し教科書レベルの問題で60点以上を取ることができる。
<b>評価法</b>	定期試験75%、レポートなど25%
<b>学習・教育目標</b>	東京高専 C-5 JABEE (c) (d)

(出典 平成19年度シラバス)

資料5-2-①-1

### 教科目名 応用物理 I

**担当教官** : 大野 秀樹

**学年、学科等** : 3年 情報工学科 実験

**単位数 期間** : 必修 2 単位 前期 週 4 時間 (合計 60 時間)

#### 授業の目標と概要

物理における熱、光、原子・原子核、量子力学等、各分野の実験を行う。各種の実験を行うことにより、実験スキルを身につけるとともに、現在の科学技術、工学分野における物理の果たす役割について学ぶ。

#### カリキュラムにおける位置づけ

1、2年生で学んだ物理の復習を兼ねており、かつ4年で学ぶ応用物理への導入となる実験である。

#### 授業の内容

ガイダンス

各実験の説明

①ジュール熱の測定

②β線の吸収実験

③簡易分光計の作成と水素スペクトルの観察

④α粒子の飛程の測定

⑤プランク・ヘルツの実験

⑥光の現象を用いた水溶液の濃度測定

⑦電子の比電荷の測定

⑧プランク定数の測定 (光電効果)

⑨ニュートンリング・繰り返し反射干渉の実験

⑩課題

<b>教科書</b>	応用物理実験テキスト (島津理化器械株式会社) やさしい基礎物理 (森北出版)
<b>補助教科書</b>	高専の物理 (森北出版)
<b>履修上の注意</b>	1、2年で学んだ「物理」と「数学」を十分に理解しておくこと。 実験ノートと電卓を用意すること。 授業時間内に実験を終了し、作業レポート、課題レポートを提出し検印を受けること。
<b>評価基準</b>	授業の欠課数が1/3以上でD評価となる。 実施した実験について理解していることを課題レポート等から確認する。
<b>評価法</b>	レポートなど75%、課題25%
<b>学習・教育目標</b>	東京高専 C-5 JABEE (c) (d)

(出典 平成19年度シラバス)



資料 5-2-①-3

## 06年度 Reading I 多読授業の受け方

2006年4月

竹田 恒美

多読の趣旨や、やり方などについては『読書記録手帳』を読んで理解しておくこと。ここでは、毎回の授業の受け方についての具体的なアドバイスや、成績・評価などについての説明を行う。このマニュアルは『読書記録手帳』に挟んで常に携帯すること。

## 多読用図書について

・どれでも読んでいいわけではなく、以下に示された色シールを参考にして読む本を選ぶこと。

## 1. 4月～6月の中間試験まで

・白ラベル（0～299語程度）を中心に読むことを勧める。

## 2. 中間試験～夏休み～前期末試験

・白ラベル＋青ラベル（300語～999語程度）に範囲を広げる。

## 3. 後期開始～後期中間試験～学年末

・白ラベル＋青ラベル＋ピンクラベル（1000語～1999語程度）に拡大。

## 多読記録手帳とインタビューについて

・インタビューは次のような機会に行う。

- ・4月～6月の中間試験までの期間は、50冊を読了する毎に
- ・5000語を読了する毎に
- ・各期に設定された標準レベルを超える語数の本を読んだ時
- ・1冊当たり2000語以上の本を読んだ時
- ・その他（定期試験でD評価を受け、補いの課題を提出した時など）

## 試験・評価について

・定期試験毎に語数を集計する。→ 回収して成績に反映させる。

・定期試験 65点（テキストから 25点、新出の読解問題 40点）、毎週の読解小テスト 25点、多読点 10点の比率で年4回の定期の成績を出す。学年成績は、4回ある定期の成績素点の平均値を使う。

## 多読授業の目標

## 1. 適切な選書ができるようになること。

「適切な選書」とは、

- ①自分が興味を持って読める分野、シリーズ、作家等を見つけられること。
- ②自分のレベルに合った本を見つけられること。

「自分のレベルに合った本」とは、読む速さが100wpm程度で、

無理せずに意味を理解しながら読み進めることができるような本を指す。

## 2. 集中力を持続して「適切に選んだ」本を45分間続けて読めること。

（出典 H18年度 Reading I シラバス抜粋）

資料5-2-①-4

## 英文多読を取り入れた1年英文読解授業の実践報告

竹田 恒美\*、堀 智子\*

## 2. 英文多読指導の概要

## 2.1 英文多読の定義

そもそも英文多読とは、Susser and Robb (1990) がまとめているように、学習者が(a)大量の英語を、(b)全体の内容理解を重視しながら、(c)楽しんで、(d)自分の読みたいものを自分のペースで読み、(e)各自が読む本についての一斉授業をしない、という授業・学習形態を指す。我々が授業で英文多読を指導した際には、そうした枠組みを取り入れつつ、具体的な指針として、(a)辞書を使わなくても読めるレベルの本から始める、(b)わからないところは飛ばして、意味をつなげて内容を理解するような読み方をする、(c)興味が湧かなかつたり、自分のレベルに合っていないと感じたら、途中でその本を読むのを止め、別の本を探す、という多読3原則(酒井2002)に従った。

## 2.2 英文多読の目標

本科1年生を対象に英文多読指導を実施するにあたり、次のような目標を設定した。

- (1) 英語に対する苦手意識の改善
- (2) 英語のインプット量の増加

## 2.4.2 授業方法

英文多読指導は2004年度の1年生5クラス、217名に対して週1回2時間(100分授業)の「英文読解I」の中で実施した。毎回の授業は前半がTOEIC対策を目的とした英単語の小テストと、『ACTIVE, Skills for Reading: Book 1』(Thomson Heinle)というリーディング用のコース・ブックを用いた一斉授業を行い、後半で英文多読を行った。前期中は、多読用テキストをかごに入れて各教室を回って授業を行っていたが、本を運ぶ労力を省くことと、図書館の蔵書も活用するために、後期からはかごに入れて持ち運んでいたテキストを図書館に置き、そこに学生を連れて来て多読を行うようになった。

## 2.4.3 成績評価

成績評価は100点満点の素点中、定期試験60%、小テスト25%、多読点15%という割合でつけた。学生のモチベーションを上げる方策として、後期は多読点を読んだ語数に応じて増えてゆき、標準で15点満点のところ、それを越えた場合でも素点の合計が100点に達するまで加算されるシステムを採用した。

## 3. 結果

## 4. まとめ

以上見てきたとおり、多読指導はその導入時に目標とした英語への苦手意識の改善に役立つことがわかった。英語のインプット量を増やすという面も、語彙や文法知識の定着にいたるほどの量に達しているかどうかは判断できないが、少なくとも通常の英文読解の授業では読むことのない語数の英語に学生たちは接したと言えそうである。

また、英文の読み方でも、これまでのように精読だけでなく、文章全体からあらすじをつかむトップダウン的な読み方にも学生は親しむようになったといえる。さらに、読解速度や読解力の点でも向上が見られた。このように1年生全学科に対する英文多読指導の試みは、当初の目標を達したといえる。

今後の課題としては、とりわけ授業運営、評価、自主学習の面で改善が必要である。授業運営面では、多読を自由時間や休み時間のように考え、読書に集中できない学生への対応が不十分であり、工夫の余地がある。また、40分間程度の多読指導内では40人の学生一人ひとりの進捗状況を把握しきれないことが多い。この点についても、対策を考え、きめ細やかな指導ができるようにしなければならない。

(出典 竹田・堀(2005)「英文多読を取り入れた1年英文読解授業の実践報告」より抜粋)

資料 5-2-①-5

## 教科目名 現代国語 I

担当 教官 : 船戸 美智子

学年、学科等 : 1年 一般科目 (人文系) 通常講義

単位数 期間 : 必修 2 単位 通期 週2時間 (合計 60 時間)

## 授業の目標と概要

- ・ 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成する。
- ・ 随筆や小説、評論などの読解を通じて、社会に対して眼を向け、自己に対する認識を深める。
- ・ 読書の楽しみを知り、読書に親しむ習慣をつける。

## カリキュラムにおける位置づけ

様々な文章に触れることによって筆者の意図を受け取り、理解し、自らの考えを深め、それを言葉にして伝えていく作業は、コミュニケーション力を培うと共に、自己啓発力を高め、生きる力につながるものである。

## 授業の内容

	時間
1. ガイダンス	1
2. 評論 1 「水の東西」 「言葉の力」	5
3. 小説 1 「羅生門」	6
漢字テスト 漢検 4 級～3 級 (年間を通じて実施)	4

## 前期中間試験

4. 小説 2 「青が消える」	3
5. 評論 2 「世界中がハンバーガー」 「洗濯ゼロを哲学する」 「仕切りの文化論」	9
6. レポート・意見文の書き方	2
7. 本を紹介する	1

## 前期末試験

8. プレゼンテーション	8
9. 小説 3 「神様」	2
10. 評論 3 「物まねが開く世界」	3

## 後期中間試験

11. 評論 4 「マルジャーナの知恵」 「言語としての文化」	7
12. 小説 4 「富岳百景」	4
手紙を書く	2

## 学年末試験

	1
--	---

教科書 「新精選 国語総合」(明治書院)

補助教科書 「高校漢字のステップ」(第一学習社)

履修上の注意 国語辞典(電子辞書も可)を常に参照できるように用意すること。  
ノートは提出を求めることもあるので、「古典」等とは分け、単独で準備すること。

評価基準 教科書の内容を8割以上理解し、漢検3級程度の漢字テストの点を6割以上とること。提出物・スピーチは必ずこなすこと。

評価法 定期試験60%, 小テスト20%, 提出物・スピーチ等20%

学習・教育目標 東京高専 B-2 JABEE (d) (f)

(出典 学生課資料シラバスから抜粋)

資料5-2-①-6

## 高専における国語表現教育

ープレゼンテーション授業の実践を通してー

On the Education of Japanese Writing in Colleges of Technology  
- A Trial of Presentation Lessons -

松戸 美智子\*1  
Michiko FUNATO

キーワード：国語表現、プレゼンテーション、コミュニケーション  
Keywords: Japanese Writing, Presentation, Communication

近年は、コミュニケーション力の脆弱さが指摘されている。それを受け、文部科学省学習指導要領においてもスピーチやディベートなどを積極的に授業に取り入れるよう改定された。高専においても国際的に活躍できるエンジニアの育成を目標とする以上、コミュニケーション力の強化は必須である。

そこで、本校では2001(平成13)年度より三年生の「国語」(通年2単位・全学科対象)でプレゼンテーションを取り入れた授業を試行的に行ってきた。ここではその実践から得た2003(平成15)年度の授業の成果について報告したい。まず、授業の概要を紹介する。

### ○プレゼンテーションの目標

自分の意見を聴衆にわかりやすく伝える。  
メモを基に目線を挙げて話す。原稿持込み厳禁。

### ○授業の進行

夏季休暇中の課題を元にワークシートを作成。  
プレゼンテーション 一人5分 + 質疑応答  
聴衆はスピーチアドバイス票を作成。  
自己採点表の提出。

この授業によって効果的だったのは、次の三点である。

- (1) プレゼンテーションの学習目標の単純化。
- (2) メモ書きによる「ワークシート」の作成。
- (3) 聴衆の「スピーチアドバイス票」による評価。

本校では5年生になれば誰もが卒業研究のプレゼンテーションを行うことになっている。しかし、それまでにスピーチの練習ができる機会はそれほど多くない。そこで本授業では、(1)のようにあえて目標を「目線を挙げて話す」ことにしぼり、それによって発表者にはコミュニケーションの基本である「話す」感覚を味あわせることに焦点をおいた。発表者にとっても目標が

はっきりしていた方が練習もしやすくなる。中には準備が不十分でメモもなく話す者もいたが、それでも「伝わる」スピーチがあった。聴衆に対して話そうとする意欲を持って説明し始めれば、聴衆は聞く耳をもつ。つまり、発表者の言葉がしっかりと聴衆に届くのである。聴衆にとっても「伝わる」とはどんなものか、顔をあげて話すことの意義はどこにあるのかを、クラスメートの発表を聞き比べる中で実感としてつかむことができた。プレゼンテーションの学習課題は他にもいろいろあるが、まずは一つの課題を設け、それを達成させることで少しずつ自信をつけさせる方がより効果的だと言えるだろう。

次に(2)の「ワークシート」とは、スピーチの構成を箇条書きしたメモのことである。この授業では発表原稿をあえて作らずにこれを利用した。自分の頭の中で話を構築させる練習としては、これは大きな効果があった。初心者にはメモ書きを基に話すことは難しいことである。しかし、ハードルが高かった分、学生たちの多くは、自分の発表までの間に自宅学習を行っていた。そのように準備期間をしっかりと確保してやれば、それなりに学生は努力し、こなす力は十分持っているのである。

さらに、その意欲に拍車をかけたのが、(3)の「スピーチアドバイス票」である。発表者にとって、評価されることはつらいことだが、クラスメートが自分の発表をどう受け止めてくれたかという、その反応を知ることができたことは、こちらの期待以上に励みになっていた。丁寧なアドバイスに喜びや感謝の気持ちを表す者もいた。また、聴衆にとっても、クラス全員分のスピーチを漫然と聞き続けるのは忍耐が必要だが、採点者という役割を与えられることで、「聞き取る」力の訓練ともなり、かつ静粛な環境が維持できたのも大きな成果だったといえよう。

今後は、評価のしかたを再考し、課題としたい。

(出典 工学論文 2004 技幹松戸)



観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

本校のシラバスの作成方針についてはワーキンググループによってその改善がなされている(資料5-2-②-1)。この改善方法により、シラバスの相互チェック体制が保障され、教育課程編成の趣旨に沿った適切なシラバスが作成される。また、各科目のシラバスをそれぞれの授業で配布して説明することによって、シラバスの活用が徹底できる。シラバスには、準学士課程の学習・教育目標が記載されている(資料5-2-②-2)。また、準学士課程では、一部の科目で、45時間の学修を1単位とする単位計算方法により学修単位科目を導入しており、シラバスに明示している。科目一覧およびシラバスの例を資料5-2-②-3に示す。

シラバスが活用されているかどうかについては、アンケート結果から判断して(資料5-2-②-4)、教員、学生の間で良く活用されている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、シラバスの作成および活用について議論がなされている。その成果として、相互チェック体制が保障され、教育課程編成の趣旨に沿った適切なシラバスが作成されるようになっている。また、シラバスには、準学士課程の学習・教育目標が記載されている。また、アンケート結果から、教員・学生の間でかなり良くシラバスが活用されている。

以上により、教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されている。

資料5-2-②-1

2006～2007年度のシラバス及び授業改善報告書改善のポイント

シラバスWG

## 【2006年度実績】シラバスの改善

1. データベース化
  - データベース化により、作業の効率化、基本事項の確実な入力、事前の相互チェックの強化及び学外への公開を実現する。また、後述のとおり、授業改善報告書をも一括管理する。
  - ホームページにおける学外への公開は、2008年度を目途とする。
2. 本科学生に対する配布方法の変更
  - シラバスの実質的活用を図るため、本科学生については、冊子による配布を廃止し、授業冒頭に担当教員自身が配布・説明することとする。なお、実際に配布したシラバスは、JABEE委員が収集し、保存する。
  - 専攻科については、従来どおり、履修要覧の一部としてシラバスを配布する。
3. 「カリキュラム中の位置付け」に関する記述の充実
  - シラバス中に記述欄を新設し、前提となる科目や知識及び今後の活用が予想される科目や分野について説明する。記述に際しては、学生が、カリキュラム全体における当該科目の位置付けを明確に意識できること、学習の方向性を理解し学習意欲を高めることに留意する。なお、従来の「関連科目」の欄は削除する。
  - 記述内容は、JABEE委員等が事前にチェックする。
4. 「評価基準」に関する記述の充実
  - 試験やレポートで評価すべき内容を明確に記述する。例) ○○ができる、××を理解している、△△についてプレゼンテーションできる、等。
  - 記述内容は、JABEE委員等が事前にチェックする。

## 【2007年度計画】授業改善報告書の改善等

1. カリキュラム概要資料の作成・配布
  - カリキュラムの全体像を平易に説明するため、科目間の関連図を含むカリキュラム概要資料を別途作成し、全学生に配布する。
2. シラバスと授業改善報告書の統合及びデータベース化
  - 従来は紙媒体で作成・保存していた授業改善報告書を前述のシラバスデータベースと統合し、シラバス(P: 計画)と授業改善報告書(C: チェック, A: 改善)を同一画面上で作成・参照できる仕組みを整備する。これにより、全教員は、全科目のシラバスと授業改善報告書を同時、かつ簡便に参照できるので、継続的な授業改善の基礎資料として活用する。
  - 授業終了時の報告のみならず、実施途上の改善点等を記述できる欄を設ける。これにより、有用なノウハウや教材等を迅速に共有することができる。

(出典 シラバスワーキンググループ資料)

資料5-2-②-2

### 教科目名 応用機械製作実習

担当教官 : 筒井 健太郎、清水 昭博  
 学年、学科等 : 3年 機械工学科 通常講義  
 単位数 期間 : 必修 2 単位 後期 週4時間 (合計 60 時間)

#### 授業の目標と概要

機械製作実習Bと連動して、溶接技術の実習を行い、内容の理解と技能を習得する。また機械製作実習の総括としてバイクの分解・整備を通じて実践的な技術と技能の習得を目標とする。

#### カリキュラムにおける位置づけ

物作り工学系の礎として機械製作実習Bで習得した内容に加え、溶接を取り扱い、機械製作技術のスキルを向上させる。また機械工学要素全般を含む機械の代表例として、自動二輪車(バイク、スターター)の分解・組み立てを通じて実用的な技術と技能の修得を目標とする

#### 授業の内容

授業の内容	時間
1. 溶接 5週 ・各種継ぎ手 ・アーク溶接 ・ガス溶接 ・スポット溶接	20
2. バイクの分解組立て 10週 ・内燃機関についての概要 ・各種工具の正しい使用法 ・分解および才数・スケッチ ・組立ておよび調整 ・始動調整 ・エンジン構造の理解	4 36

教科書	機械実習 上・中、バイク分解整備テキスト(配布)
補助教科書	
履修上の注意	作業服上下、安全靴、帽子を着用し時間厳守で集合する。作業中および清掃時には安全めがねを着用する。実習内容を理解し、機械の操作や取り扱い上の注意を守る。安全上の留意事項を厳守し、事故のないように注意する。
評価基準	機械製作に必要な基本的事項の理解の程度、安全に配慮した実習態度に関して評価する。
評価法	レポートなど50%、50%
学習・教育目標	東京高専 C-13 JABEE

(出典 平成19年度シラバス)

<b>教科目名 電磁エネルギー変換 I</b>
教科書 著者：藤原 啓一 出版社：丸善 発行年：2019年 題名：電磁エネルギー変換 I
参考書 著者：藤原 啓一 出版社：丸善 発行年：2019年 題名：電磁エネルギー変換 I
履修上の注意 電磁気学、電磁気学 II、電磁気学 III、電磁気学 IV、電磁気学 V、電磁気学 VI、電磁気学 VII、電磁気学 VIII、電磁気学 IX、電磁気学 X、電磁気学 XI、電磁気学 XII、電磁気学 XIII、電磁気学 XIV、電磁気学 XV、電磁気学 XVI、電磁気学 XVII、電磁気学 XVIII、電磁気学 XIX、電磁気学 XX、電磁気学 XXI、電磁気学 XXII、電磁気学 XXIII、電磁気学 XXIV、電磁気学 XXV、電磁気学 XXVI、電磁気学 XXVII、電磁気学 XXVIII、電磁気学 XXIX、電磁気学 XXX

<b>教科目名 電磁エネルギー変換 I</b>
担当 藤原 啓一 単元 4単元 単元 1 単元 単元 2 単元 単元 3 単元 単元 4 単元
履修上の注意 電磁気学、電磁気学 II、電磁気学 III、電磁気学 IV、電磁気学 V、電磁気学 VI、電磁気学 VII、電磁気学 VIII、電磁気学 IX、電磁気学 X、電磁気学 XI、電磁気学 XII、電磁気学 XIII、電磁気学 XIV、電磁気学 XV、電磁気学 XVI、電磁気学 XVII、電磁気学 XVIII、電磁気学 XIX、電磁気学 XX、電磁気学 XXI、電磁気学 XXII、電磁気学 XXIII、電磁気学 XXIV、電磁気学 XXV、電磁気学 XXVI、電磁気学 XXVII、電磁気学 XXVIII、電磁気学 XXIX、電磁気学 XXX
<b>カリキュラムにおける位置づけ</b> 電磁気学 I、電磁気学 II、電磁気学 III、電磁気学 IV、電磁気学 V、電磁気学 VI、電磁気学 VII、電磁気学 VIII、電磁気学 IX、電磁気学 X、電磁気学 XI、電磁気学 XII、電磁気学 XIII、電磁気学 XIV、電磁気学 XV、電磁気学 XVI、電磁気学 XVII、電磁気学 XVIII、電磁気学 XIX、電磁気学 XX、電磁気学 XXI、電磁気学 XXII、電磁気学 XXIII、電磁気学 XXIV、電磁気学 XXV、電磁気学 XXVI、電磁気学 XXVII、電磁気学 XXVIII、電磁気学 XXIX、電磁気学 XXX
<b>履修の内容</b>
1. 電圧降下 1-1 電圧降下の原理：電界中を動く荷電粒子に働く力 1-2 電圧降下の計算 1-2-1 原理と仕組み：電界中を動く荷電粒子に働く力 1-2-2 電圧降下の計算と電圧降下の関係 1-2-3 電圧降下と電圧降下の関係 1-2-4 電圧降下と電圧降下の関係 1-3 電圧降下の計算
2. 電圧降下 2-1 電圧降下の原理：ファラデーの法則と電圧降下 2-2 電圧降下の計算：電圧降下の計算と電圧降下の関係 2-3 電圧降下の計算：電圧降下の計算と電圧降下の関係 2-4 電圧降下の計算：電圧降下の計算と電圧降下の関係

(出典 平成19年度シラバス)

資料 5-2-②-2

### 教科目名 電子工学実験Ⅳ

**担当教官** : 永吉 浩、小池 清之、阿津 勝博

**学年、学科等** : 5年 電子工学科 実験

**単位数 期間** : 必修 4 単位 前期 週 8 時間 (合計 120 時間)

#### 授業の目標と概要

4年次までに習得した専門基礎知識をもとに、電子工学分野における複合的及び総合的な内容をもった実験を経験して専門知識の理解を深めるとともに、未知の問題に対する解決方策を探る素養を身に付ける。また、実験時間を利用して、電波法規の調査と演習も行い、その基礎知識を修得する。

#### カリキュラムにおける位置づけ

デジタル回路、コンピュータ工学、プロジェクト演習の授業形態が「講義+実習」の形で実施されており、それを踏まえたものづくり教育の総仕上げとして、個々の学生が自分のオリジナル機器を企画・立案し、設計・製作、動作確認・評価、発表まで行う。

#### 授業の内容

1) 電波法規調査・演習、及び電気通信事業法の概要

電波法規に関する調査と演習を行い、基本的知識を修得する。また、電気通信事業法に関して、公衆通信の取り扱いや無線局の委託など基本的な内容として、概要、用語定義、通信の検閲禁止、通信の秘密保護、重要通信の取り扱いなどの基本項目を理解する。

2) 電子装置設計

デジタル・アナログ混在回路を含んだオリジナルな電子装置を設計する。

3) 回路基板の製作

プリント基板上への部品の取り付け、配線

4) 本体加工、内部配線

本体加工、内部配線

ケース加工、部品取り付け

基板の取り付け、配線

5) 特性測定

6) 作品に関するプレゼンテーション

アイディアの概要、装置の動作原理、設計、評価結果等についてプレゼンテーションを行う。

#### 教科書

#### 補助教科書

実験ノート、関数電卓、グラフ用紙を持参すること。

#### 履修上の注意

レポート、作品、プレゼンテーションの内容から総合的に評価する。

#### 評価基準

レポートなど30%、プレゼンテーション30%、作品40%

#### 評価法

レポートなど30%、プレゼンテーション30%、作品40%

#### 学習・教育目標

東京高専 | B-1, B-2, C-6, C-7, C-8, C-9, C-10, C-12, C-13 | JABEE | (d) (e) (f) (h)

(出典 平成19年度シラバス)

（編註） 教科目名 コンピュータ計測制御

**教科書** 必要に応じてプリントを配布（演習またはオンラインダウンロード）する。  
**補修情報** 増田久登, はじめてのセンサ技術, 工務館出版  
**履修上の注意** 各種測定器を準備しておくこと, C言語によるプログラマミングができること, 情報工学基礎Ⅱの時間とリ  
**評価基準** コンピュータによる制御と制御についての理解度を評価, レポート・ノート・小試験で総合的に評価す  
**学習・実習目標** 定期試験, レポートなど2割, ノート・小試験等2割, JABEE (G) (B) (C)

教科目名 コンピュータ計測制御

担当 教 官 : 松林 新吾	所属 学部 : 情報工学科	通常講義	(合計 30 時間)
学年、学 科 等 : 3年	単位数 : 必修 1 単位	週3時間	
履修の目標と意義	<p>自動制御技術の発展により、家電製品から生産技術の現場まで自動化・省力化が進められている。制御工学に                  ついて広く学ぶ中で、コンピュータが世界の制御を担っている。またコンピュータが外部に物理的に働きかける方                  法を学習する。次に実際にマイコンコンピュータの演習を通して、ADコンバータ、ロータリエンコーダ、各種セン                  サ、モータの制御制御について学習する。</p>		
カリキュラムにおける位置づけ	<p>基盤知識の導入として位置づけられる。コンピュータによる測定や制御の基礎として、高専の制御工学を学ぶ                  前に修得する授業である。</p>		
授業の内容	時間		
ガイダンス、センサに関するレポートの説明	1		
ADコンバータ、マイリアレンジ機能	1		
センサに関する測定レポート講義	2		
オペアンプ演習（差分、非逆、逆相、逆相出力、基本動作）	2		
電源、抵抗、電圧、LSI等	2		
オペアンプの使い方（インバーティンク、イメージリニアフォー、反転・非反転回路）	2		
反転・非反転回路の動作 実験	2		
センサ出力レンジとA/D入出力レンジを含む回路（加算回路とゲインの調整）	2		
(材料)中間試験			
センサ出力レンジとA/D入出力レンジを含む回路 講義	1		
センサ出力レンジとA/D入出力レンジを含む回路 実験	2		
演習：オペアンプを使った増幅回路、ボルテージホールド回路	2		
オペアンプ増幅回路によるレンジ調整演習演習 講義	2		
オペアンプ増幅回路によるレンジ調整演習演習 実験	2		
モータの制御、HブリッジとPWM制御	2		
マイコンコンピュータのプログラム開発	2		
学年末試験	1		

(出典 平成19年度シラバス)



資料5-2-②-3

## 平成18年度 第10回教務委員会記録

日時：2月5日(月) 16:30~20:00

場所：学生課会議室

参加者：小坂、浅野、大野、鈴木、黒崎、須原(代理)、鹿毛、石井、相澤、古屋、坪田(代理)、  
金澤学生課長

- 配付資料：1. 平成19年度学年暦(案)  
2. 学則改正(案)  
3. 単位認定  
①電気工学科「情報技術特講」  
②電子工学科「電子工学特別演習Ⅰ」  
「電子工学特別演習Ⅱ」  
③情報工学科「実用情報通信特講Ⅰ」  
④物質工学科「環境科学特講」  
4. 選択科目一覧表

(中略)

## 3. 報告事項

## (3) 平成19年度学修単位科目について

このことについて、下記の科目を学修単位の科目として開講する旨、報告があった。

M科・・・4年生「機械設計製図B」2単位

E科・・・なし

D科・・・4年生「工業数学Ⅲ」、「工業数学Ⅳ」各1単位

5年生「OSネットワーク特講」(集中講義) 1単位

J科・・・4年生「応用数学Ⅱ」、「知識工学Ⅱ」、「デジタル信号処理Ⅰ」

「情報通信工学Ⅲ」、「実践プログラミングⅢ」各1単位

5年生「計算機システム」1単位

C科・・・4年生「ゼミナール」2単位

5年生「物質工学特別講義」2単位

(出典 教務委員会議事録)



資料 5-2-②-3

## 教科目名 知識工学Ⅱ

担当教官：鈴木 雅人

学年、学科等：4年 情報工学科 通常講義

単位数 期間：必修 1 単位 前期 週2時間 (合計 30 時間)

### 授業の目標と概要

知識工学Ⅰでは、直感的なコンピュータ自動認識の限界を課題演習を通して体得した。また、確率・統計に基づく認識理論が有効であることも学んだ。本講義では、こちらパターン認識理論の基礎について学び、知識工学Ⅰで実施した演習内容をまとめる。

### カリキュラムにおける位置づけ

知識工学Ⅰで行った演習から、パターン認識理論のための確率・統計や基礎数学を学習することの必要性を再認識し、これら基礎数学を土台として認識理論の展開を行うことが本講義の目的である。

### 授業の内容

授業の内容	時間
1. 知識工学Ⅰの復習 知識工学Ⅰで実施した実体験(演習)をもとに、改めてコンピュータによる自動認識について考察する。	2
2. パターン認識の概要 パターン認識の役割と概要をまとめる。	2
3. 特徴抽出 特徴抽出法(前処理・特徴抽出)とその問題点について解説する。	4
4. 学習と識別関数 学修の必要性および線形識別関数の設計(最近傍決定)について解説する。 また、線形識別関数の設計の基本となるパーセプトロンの学修規則について解説する。	6
<b>前期中間試験</b>	
5. 誤差評価に基づく学習 誤差評価に基づく学習アルゴリズムについて学習する。また、ニューラルネットワークの基本モデルを示し、その学習方法である誤差逆伝播法について解説する。具体的には下記項目について解説する。 Widrow-Hoffの学習規則 誤差評価とパーセプトロン ニューラルネットワーク 誤差逆伝播法	8
6. 識別部の設計 パターン認識における識別関数設計において、パラメータの推定方法に焦点をあてて解説する。	4
7. パターン認識の動向 近年のパターン認識技術の動向と応用について紹介する。	2
<b>前期末試験</b>	
	1

教科書 石井健一郎著「わかりやすいパターン認識」オーム社

### 補助教科書

この科目は45時間の学習で1単位となる学修単位科目である。知識工学Ⅰおよび確率・統計Ⅰ・Ⅱの内容を良く復習しておくこと。

### 履修上の注意

本科目を履修するにあたって必要な数学的基礎知識および、それらを使った理論の展開が出来るかどうかによって合否を判定する。

### 評価基準

定期試験70%、レポートなど30%

### 評価法

東京高専 |B-1, B-2, C-1, C-6

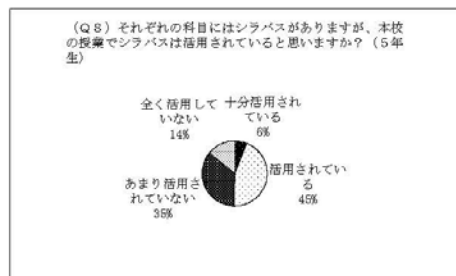
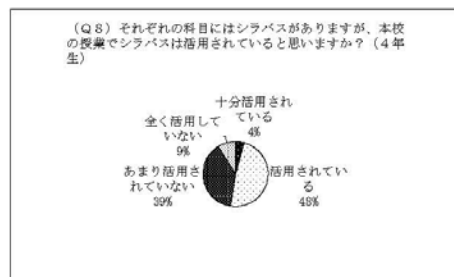
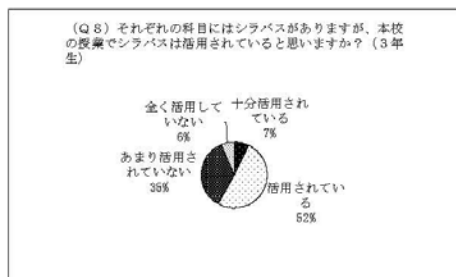
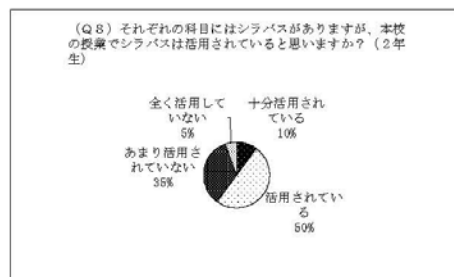
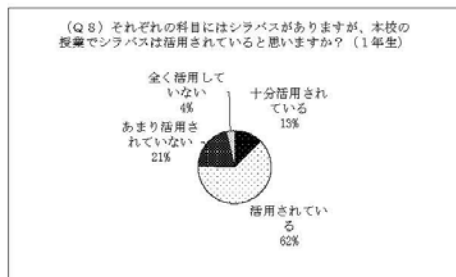
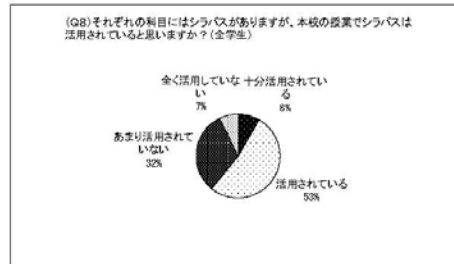
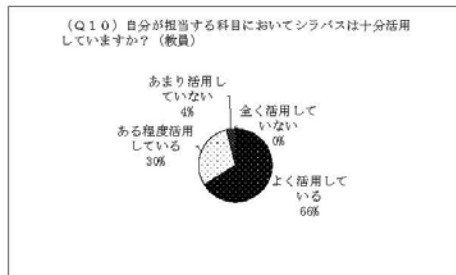
JABEE |(c) (d) (f) (h)

(出典 平成19年度シラバス)

資料5-2-②-4

シラバス活用に関するアンケート結果

実施日 平成19年6月11日



(出典 教職員および学生に対するアンケート集計結果)

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では各学科とも実験に力を入れている。実験は各学年に配置されているが、各学科とも、いずれかの学年の実験を、創造性を育むための実験と位置づけて実施している（資料5-2-③-1）。その概要は以下のとおりである。

機械工学科は、3年次のメカトロニクス実習において、いくつかに分割されたチーム単位でロボットの製作を行っている。これは、競技形式の課題とルールが設定され、明確なロボット製作の動機付けをした上で、各チーム内で協力してロボットを完成させる一連の過程を経験することにより、メカトロニクスの基礎技術を学びながら創造性を育むことを狙うものである。

電気工学科は、4年次の創造電気実験Ⅲにおいて、PLDを用いたステートマシンの設計および、ワンチップマイコンを用いた制御システムの設計を題材として実習を行っており、これらの課題を通して創造性を育むための教育を行っている。

電子工学科では4年次のプロジェクト演習においてマイクロコンピュータの仕組みについて学ぶ。入門用として最適なPICマイコンを用い、各自に与えられた課題演習を通じてマイコンの仕組み、プログラミング、ハードウェア制御回路などの理解を深め、創造性を育む内容となっている。

情報工学科は、4年次の情報工学実験3において、ライントレーサの製作やプログラミング演習、通信実験、ネットワーク構築実験などを行っている。これらの内容は制御工学、実践プログラミング、情報通信工学の授業で学んだことを発展させた課題になっており、自ら創意工夫することにより創造性を育む内容となっている。

物質工学科は、3年次の物質工学創造実験において、少人数のグループを編成し、各グループごとに教員を交えて具体的な実験テーマの決定から、実験計画策定、実験、討論、発表などの一連の作業を学生主体で実施する実験を通して、創造性を育むための教育を行っている。

これら以外にも、創造性をはぐくむ取り組みの例は多く行われている（現地閲覧資料19）。

また、本校はインターンシップに力を入れており、卒業要件として全員が経験することになっている（資料5-2-③-2）。本年度の受け入れ企業の一覧表は資料5-2-③-3に示したとおりである。

（分析結果とその根拠理由）

各学科とも、いずれかの学年の実験を、創造性を育むための実験と位置づけて、創造性を育む実験を実施している。また、そのほかにも、創造性を育むための実験等を多くの科目で実施している。更に、本校はインターンシップに力を入れており、卒業要件として全員が経験することになっている。

以上により、創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が行われている。

資料 5-2-③-1

### 教科目名 メカトロニクス実習

**担当教官** : 堀 博貴、下井 信浩

**学年、学科等** : 3年 機械工学科 通常講義

**単位数 期間** : 必修 2 単位 通期 週 2 時間 (合計 60 時間)

#### 授業の目標と概要

最近の機械工学では、急速な技術の進歩を見せている各種半導体や、様々なセンサを機械の要素の一部として取り入れ、ソフトウェアも含めて、より知的な機械の開発が可能になっている。このような機械技術と電子（半導体）技術を融合させた技術領域をメカトロニクスと呼んでいる。以下の内容で、メカトロニクスの基礎技術を学ぶ。

#### カリキュラムにおける位置づけ

クラスをいくつかの班にわけてロボット製作を行う。教科書、ノートを持参すること。工作機械やハンダごてなどを扱うので、細心の注意を払うこと。

#### 授業の内容

授業の内容	時間
1. ロボット製作の概要 (1) ロボット製作の基礎 (2) 概要説明 (3) 製作準備 (4) 製作方法と工作上的留意	8
2. ロボット設計 (1) ロボットの設計方法 (2) CAD（もしくは手書き）による図面の作成 (3) 図面作成とその方法	12
3. ロボット加工 (1) ロボット加工の方法 (2) 工作機械による加工	20
4. ロボット電装 (1) ロボットにおける電装 (2) 制御用回路の作成 (3) 電子部品（IC、エネルギー源、LED、抵抗など）の実装 (4) 配線作業	15
5. ロボット制御	5
走行試験・総合評価	

<b>教科書</b>	ロボット工作入門（相原隆文，技術評論社）
<b>補助教科書</b>	メカトロニクス（ハンドブック）
<b>履修上の注意</b>	メカトロの基礎技術を習得する。また、各種制御方法、制御機器の利用方法など基礎知識を習得する。
<b>評価基準</b>	提出物(50%)，製作作品(25%)，実習貢献度(25%)で評価。欠課1/3以上は不合格。
<b>評価法</b>	レポートなど50%，25%，25%
<b>学習・教育目標</b>	東京高専   C-11, C-12, C-13 JABEE   (d) (h)

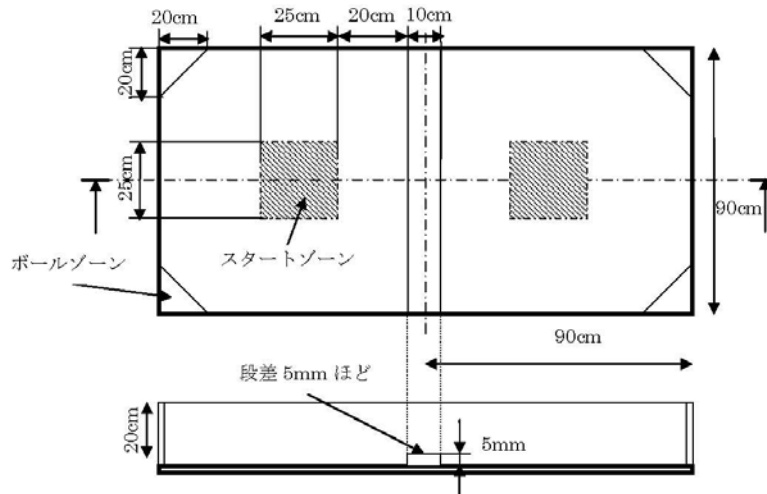
(出典 平成19年度シラバスおよび授業資料)

メカトロ実習ロボット競技 (2007年度)

Ver1.4 2007/4/8 改訂

資料5-2-③-1

## ● コートの図面



## ● 基本的なルール

- ▶ 玉を相手コートに入れたら得点が入る, ビンポン玉は1個1点, テニスボールは一個5点にカウントされる。
- ▶ 最初, 各ボールゾーンにはビンポン玉10個, テニスボール2個ずつ置かれる。
- ▶ ロボットは最初, スタートゾーンに置かれる。ロボットはスタートゾーンに収まらなければならない。
- ▶ 試合時間は前後半各2分。チェンジコートを行う。前後半の合計点を競う。
- ▶ 球がコート外に出たら, 最後に当たったロボットのコートの中央付近に, 審判が50cmくらいの高さから自由落下で投げ入れる。
- ▶ 不慮の事故でボールが壊れても, 競技はそのまま続行。
- ▶ 同点の場合は, 1分ハーフで再試合を行う。
- ▶ 失格の場合, スコアは160対0(80対0×2セット分)とする。

## ● ロボットの構造について

- ▶ サイズは幅25cm×奥行き25cm×高さ1m以内, 重量3kg以内とする。
- ▶ モーターは計三個のみ使用。これ以外のアクチュエータは使ってはならない。モーターの改造は不可。
- ▶ ロボットの分離は失格。1cm四方の小物部品の不可抗力による落下は認められる。機械的な変形は可能。

## ● コートについて

- ▶ 壁など基礎部分はベニア板で製作する。グラウンドは2mm厚のビニールシートとする。

## ● 反則事項 (ペナルティ, スタートゾーンで20秒運動停止)

- ▶ 相手陣地に入ること。空中も含めて不可。

## ● 禁止事項 (反則負け)

- ▶ 競技中に操縦者らがロボットに触れた場合。
- ▶ ボール, コートを意図的に傷つけたり, 壊すこと。また, ボール, コートに粘着, 吸着すること。
- ▶ 液体, 気体を出すこと。

## ● 配布物

- ▶ コントローラ, リレー×6, モーター×3, アルミ板300×300, ポリプロピレン丸棒φ60×100, 中実丸棒6×1000, アルミアングル1000, アルミ角パイプ2000, 工具一式, セットカラー×3個, AC電源
- ▶ 配布物以外の支給はないが, その他のものも自由に使ってよい。

## ● 注意事項

- ▶ 工作機械, はんだごてなどを扱う際は最大限の注意を払うこと。少しでも危険がある場合は回避すること。製作の際, 不明なことは失礼のない範囲で工場の技官に尋ねること。
- ▶ 物を出したら片付ける。勝手に工具や部品を部屋から持ち出さない。

(出典 平成19年度シラバスおよび授業資料)

資料 5-2-③-1

### 教科目名 創造電気実験Ⅲ

**担当教官** : 松井 義弘、須田 隆夫、伊藤 浩

**学年、学科等** : 4年 電気工学科 実験

**単位数 期間** : 必修 4 単位 通期 週4時間 (合計 120 時間)

#### 授業の目標と概要

創造電気実験の総まとめとして、これまで得た知識や技術を使って、3名程度のグループ毎に設定する独自の製作目標に挑戦し、その成果を発表する。前期はPLDを用いたステートマシンの設計製作、後期は1チップマイコンを用いたシステムの設計製作を行う。

#### カリキュラムにおける位置づけ

関連科目：デジタル回路、電子計算機、制御工学、デジタル信号処理、電気回路、パワーエレクトロニクス

#### 授業の内容

##### 【前期】

##### 1. PLDを用いたステートマシンの設計

PLD (Programmable Logic Device) によるステートマシンの設計を行う。

まず、練習課題として、4桁の暗証番号により開閉する電子ロックの設計を行う。次に、各グループでコスト・仕様を明確にした独自の製作目標（自由課題）を設定し、それを完成させる。また、その成果を発表する。

1. 1 基本回路の設計
1. 2 電子ロックの設計
1. 3 自由課題の設計・製作

##### 【後期】

##### 2. ワンチップマイコンを用いた制御システムの設計

ワンチップマイコンによる制御システムの設計・製作を行う。

まず、ワンチップマイコンのソフトウェア開発環境の使用法を習得するための練習課題として、デジタルフィルタおよびDCモータの速度制御システムのソフトウェア開発を行う。次に、各グループでコスト・仕様を明確にした独自の製作目標（自由課題）を設定し、それを完成させる。また、その成果を発表する。

2. 1 基本プログラムの作成と動作確認
2. 2 デジタルフィルタの設計と評価
2. 3 DCモータの速度制御システムの設計と評価
2. 4 自由課題の設計・製作

<b>教科書</b>	プリントを配布する。
<b>補助教科書</b>	
<b>履修上の注意</b>	①実験報告書は指定期日に提出すること。また、やむを得ず欠席する場合は速やかに担当教官に連絡すること。②実験時間だけの取り組みでは時間不足となるので、調査等の事前に準備できることは、予めしておくこと。
<b>評価基準</b>	基本的なステートマシンの設計ができる。マイコンを用いた制御システムのハードウェアおよびソフトウェアを理解し、基本的な制御システムの設計ができる。
<b>評価法</b>	レポートなど、実験態度、設計・製作作品
<b>学習・教育目標</b>	東京高専 C-3, C-7, C-8, C-9, C-10, C-11, C-12, C-13 JABEE (c) (d) (e) (h)

(出典 平成19年度シラバス)

資料 5 - 2 - ③ - 1

## 教科目名 プロジェクト演習

**担当教官** : 青木 宏之

**学年、学科等** : 4年 電子工学科 通常講義

**単位数 期間** : 必修 2 単位 前期 週4時間 (合計 60 時間)

### 授業の目標と概要

マイクロコンピュータ（略してマイコン）のしくみや動作原理、マイコンを活用した基本制御技術について学ぶ。本科目ではPICマイコンを実例として用い、PICマイコンの中身やPICマイコンを用いた基本制御回路、それらを動作させるためのプログラミング技術（アセンブラ言語による）について学習する。

### カリキュラムにおける位置づけ

本科目は3年時に学んだデジタル回路やコンピュータ工学の知識を土台とする科目である。また、後期に配置される科目「コンピュータ応用」と接続する科目である。

### 授業の内容

授業の内容	時間
1. ガイダンス 本授業の目的、授業の進め方、全体の予定、評価のし方等について説明する。	4
2. プログラミングの基本課題演習 PICマイコンによるLEDの点灯制御や7セグLEDによる数字の表示等の課題演習を行う。 基本課題演習はまずお手本となるハードウェア制御回路と基本的なプログラミング例を提示するので、それをもとに進める。 基本課題演習を通じて、 ・PICマイコンの基本構成 ・アセンブラ言語の命令体系 ・プログラミングの基礎 ・PICマイコン周辺ハードウェア制御回路 ・LEDや7セグLEDの点灯制御回路 等を学習する。	28
3. PICマイコン制御の応用課題演習 更に進んだPICマイコンの活用のし方、制御のし方を課題演習を通して学ぶ。 応用課題演習を通じて、 ・割り込み制御 ・タイマー制御 ・テーブル参照ロジック 等について学習する。  また、後期にこの科目に続いて行う自由課題演習についての準備を進める。	28

<b>教科書</b>	図解PICマイコン実習（堀桂太郎 森北出版）
<b>補助教科書</b>	電子工作のためのPIC活用ガイドブック（後閑哲也 技術評論社）
<b>履修上の注意</b>	デジタル回路、コンピュータ工学を修得していること。
<b>評価基準</b>	PICマイコンを用いた基本的な制御回路、並びにアセンブラ言語により書かれたプログラムの内容が理解できるか、基本的な問題についてプログラミングを行うことができるか。
<b>評価法</b>	定期試験50%、小テスト20%、実習課題30%
<b>学習・教育目標</b>	東京高専 C-2, C-6, C-7, C-12, C-13 JABEE (d) (h)

(出典 平成19年度シラバス)

資料 5-2-③-1

**教科目名 情報工学実験Ⅲ**

**担当教官** : 青野 正宏、小嶋 徹也、平尾 友一、西村 亮、松本 章代  
**学年、学科等** : 4年 情報工学科 実験  
**単位数 期間** : 必修 4 単位 通期 週4時間 (合計 120 時間)

**授業の目標と概要**

授業時には取り扱うことのできない規模のプロジェクト的な実験、演習、総合課題に取り組む。これを通じて、関連する各科目の理解をより深める共に、トラブルシューティングや問題解決の手法を経験する。また、得られた知識を実践の場に応用する力を養う。

**カリキュラムにおける位置づけ**

コンピュータ計測制御、実践プログラミングⅠ/Ⅱ、情報通信工学Ⅰ/Ⅱに関連した実験及び演習を行なう。

**授業の内容**

1. ライトレーサの製作 (担当: 西村, 平尾)
  - ・ アイディアの具体化
  - ・ 実装図と回路図の作成
  - ・ 回路設計と特性の測定
  - ・ マイクロコンピュータマザーボードの製作
  - ・ 実装図に基づいた回路の製作
  - ・ マイクロコンピュータプログラミング
  - ・ タイムトライアル
2. プログラミング演習 (担当: 松本, 平尾)
  - ・ オブジェクト指向を学び、自ら企画・設計してまとまったソフトウェア開発を行う。
  - ・ プログラミング言語はC#を用いる。
3. 通信実験 (担当: 小嶋, 平尾)
  - ・ 信号・データの可視化 (グラフ作成演習)
  - ・ 信号の雑音の生成
  - ・ 各種デジタル変調信号の生成と観測
4. ネットワーク構築実験 (担当: 青野, 平尾)
  - ・ プログラムによるコンピュータ同士の通信を行なえるようタスクの開発
  - ・ LANの構築とコマンド実験

<b>教科書</b>	実験指導書配布
<b>補助教科書</b>	
<b>履修上の注意</b>	課題ごとに、指定された期限内に報告書を提出する必要がある。
<b>評価基準</b>	実験の計画、データの分析ができていないこと、また、適切な成果が得られていることを基準とする。これらを、取り組みの状況及び報告書によって評価する。
<b>評価法</b>	レポートなど100%
<b>学習・教育目標</b>	東京高専 C-7, C-8, C-14 JABEE (d)

(出典 平成19年度シラバス)



資料 5 - 2 - ③ - 1

## 教科目名 物質工学創造実験

担当 教 官 : 全 員  
 学年、学科等 : 3年 物質工学科 実験  
 単位数 期間 : 必修 1 単位 通期 週1時間 (合計 30 時間)

### 授業の目標と概要

学生の創造力や工夫する力を引き出すため、学生が自由に考えたり教官がアウトラインのみを示したテーマについて実験をする。プレゼンテーション能力の涵養も目的なので、保護者、一般社会人、中学生、物質工学科1・2年生などを対象に実験結果を説明する時間を設けている。この授業を通じて、学生が自信を持って物作りの担い手である技術者を目指すようになることを期待している。

### カリキュラムにおける位置づけ

1年次、2年次の全ての科目で学んだ知識や技術を総動員し各自が創造力を発揮する。

### 授業の内容

1. グループ編成  
学生の話し合いで決める。指導教官を決める。1グループの人数は3人以下にすること。
2. 実験テーマの選定  
図書館・インターネットの活用、教官とディスカッション。
3. 実験計画書作成  
実行可能な実験計画を立てる。身の回りの資材活用など、費用を掛けない工夫をする。
4. 実験  
毎週1時間の時間割通りで実施不可能な連続実験は、指導教官と協議の上、放課後または夏期休業中に振り替えてかまわない。
5. 実験の中間まとめ  
ポスター発表に向けて実験結果を整理し、必要なら実験を追加する。
6. ポスター発表会の準備  
プレゼンテーション用ポスターの製作。
7. ポスター発表会  
学園祭行事として2日間一般公開。ポスター展示と口頭説明を行う。
8. クラス討議  
ポスター発表の反省、相互批評、感想。
9. 物質工学科2年向け発表会の準備  
プレゼンテーション用Power Pointスライド製作
10. 2年向け発表会とポスター発表表彰  
優勝グループへネオアルケミスト杯。
11. グループ討議  
最終レポート作成の方針と分担を決定する。
12. 補充実験  
最終レポート作成に必要な実験の補充を行う。
13. 最終レポート作成、提出  
あくまでも実験レポートである。実験科目で習ったレポートの書き方に準じること。目的、操作、結果、考察等をわかりやすく示し、たとえば、後輩達がそれを読んで実験ができるような書き方を心がける。

### 教科書

### 補助教科書

積極的姿勢と活発なディスカッションが必須。教官の助言は必要最小限とはいえ、教官を含めたディスカッションも有用。事故を防ぐため教官への報告・連絡・相談は怠らないこと。

評価基準 以下の方法により、創造性を評価する。

評価法 実験への取り組み姿勢40%、レポートなど30%、プレゼンテーション30%

学習・教育目標 東京高専 B-1, B-2, C-4, C-7, C-8, C-10, C-11, C-12, C- JABEE (c) (d) (f) (h)

(出典 平成19年度シラバス)

## 資料5-2-③-2

## 〔学年課程修了の認定基準表〕

学 科	課 程	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
全学科	一般科目	29	55	71	73	75
	専門科目	5	13	31	57	82
	学年修得	34	68	102	134	167

- 2 年度末退学者については、上記1の基準にかかわらず次の場合に学年課程修了を認定するものとする。
- (1) 第1、第2及び第4学年については、当該学年における修得単位数が17単位以上であること。
  - (2) 第3学年については、累積修得単位数が77単位以上であること。
- 3 卒業認定基準（全課程修了認定基準）は、次の(1)から(3)までのすべてを満たすものとする。
- (1) 修得単位数は、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上であり、かつ全課程で167単位以上であること。  
機械工学科においては、「実習」・「製図」・「実験」、そのほかの学科においては、「実験」を修得していること。
  - (2) 卒業研究が「合格」と認められていること。
  - (3) インターンシップが「修了」と認められていること。
- 4 外国人留学生については、編入学した学科の1・2年次における開設単位数を一括して認定するものとする。
- 5 編入生については、編入学した学年の前学年までの開設単位数を一括して認定する。  
また、編入学した学年に関しては、編入学した学科において当該入学生の入学前の学習記録に応じて適切な教育課程を編成する。  
なお、教育課程は教務委員会の審議を経て決定する。
- 6 本認定基準は、平成17年度（平成18年3月修了認定会議）以降適用する。

平成18年度 インターシッピング受入企業一覧

機械工学科	電工学科
出光興産株式会社千葉精油所	アシストマイトロ株式会社
株式会社イムラ封筒	株式会社OFC
株式会社内野製作所	油電気工業株式会社半導体事業グループ
独立行政法人宇宙航空研究開発機構	株式会社キクチ
株式会社NITフアシリテイズ	株式会社コスモ計器
AUTO BODY スギモト	財団法人小林理学研究所
財団法人機械振興協会	権田金属工業株式会社
権田金属工業株式会社	株式会社サンエツ
シグマ光機株式会社	JFEスチール株式会社東日本製鉄所
シチズンセイミツ株式会社	シチズン時計株式会社
蛇の目ミシン工業株式会社	蛇の目ミシン工業株式会社
株式会社多摩工業	住友金属鉱山株式会社電子事業本部
ツカサ電工株式会社	ソニーエムシステム株式会社小見川テック
TMCシステム株式会社	株式会社アイ・アイ・ディ
株式会社テージャーケー城山工場	株式会社テージャーケー
株式会社テージャーケー本社	東芝メカニカルシステムズ株式会社首都圏支社
株式会社テス	株式会社日経東京製作センター
株式会社東鋼	日本電設工業株式会社
東成エレクトロビーム株式会社	日本ピルコン株式会社
豊橋技術科学大学	日本分光株式会社
長岡技術科学大学	日本放送協会
成田国際空港株式会社	富士電機システムズ株式会社
日本ピルコン株式会社	三菱電機ピルテックノサービス株式会社
財団法人日本品質保証機構計量計測センター	株式会社録測器
福島製鋼株式会社相模工場	ユークセン株式会社
三菱重工株式会社汎用機・特車事業本部	雪印乳業株式会社
美山工業団地協同組合	
株式会社吉野工業所神奈川技術研究所	
ラテックステクノロジーズ株式会社	

資料5-2-③-3

(出典 学生課資料)

平成18年度 インターネット受入企業一覧

電子工学科	情報工学科	物質工学科
アロカ株式会社	株式会社アスキング	相田化学工業株式会社
株式会社イシカワEMC研究所	株式会社イシカワ EMC研究所	アイトリート有限公司
株式会社エリオニクス	株式会社エヌ・エス・ディ	旭化成株式会社
花玉株式会社	株式会社OEC	出光風産株式会社千葉精油所
株式会社キクチ	沖電気工業株式会社 半導体事業グループ	関西ペイント株式会社
株式会社キヤンドウコンセプト	株式会社キクチ	国土環境株式会社
クリムソンテクノロジー株式会社	株式会社キュー・テック	権田金属工業株式会社
小糸工業株式会社	們田小学校	JFEスチール株式会社
株式会社ヨーエー	財団法人小林理化学研究所	株式会社資生堂
財団法人小林理化学研究所	サイエンスドーム八王子	昭栄化学工業株式会社
権田金属工業株式会社	株式会社サイタスマネジメント	株式会社スリーポンド
サイエンスドーム八王子	株式会社サンエツ	鶴見曹達株式会社
虹の目ミシン工業株式会社	株式会社ジエイエス	東成エレクトロビーム株式会社
住友金属鉱山株式会社電子事業本部	新東電算株式会社	東燃ゼネラル石油株式会社
株式会社 ティーディーワイ	株式会社ソフビジョン	トーニック株式会社
株式会社 テーゲー	太平工業株式会社システムソリューション事業部	株式会社日本触媒
財団法人鉄道総合技術研究所	チームラボ株式会社	日本分光株式会社
東芝メテイカシステマズ株式会社東京支社	中央電子株式会社	ポーライト株式会社
長岡技術科学大学	株式会社ティ・アイ・ディ	北炭化成工業株式会社
日本分光株式会社	TMCシステム株式会社	HOVA株式会社マスク事業部八王子工場
財団法人日本品質保証機構安全電磁センター	株式会社テラス	森永乳業株式会社
日本文化精工株式会社	東芝プロセッシングシステム株式会社	森村ケミカル株式会社
富士通SCシステムズ株式会社	長岡技術科学大学	横浜ゴム株式会社
HOYA株式会社マスク事業部八王子工場	日本分光株式会社	レジノカラ工業株式会社
三菱重工株式会社横浜製作所	株式会社ベース情報科学研究所	株式会社レスカ
株式会社緑測器	富士アイティ株式会社	和光純薬工業株式会社
美山工業団地協同組合	美山工業団地協同組合	
株式会社安川電機	ラティス・テックノロジー株式会社	
横河レンタ・リース株式会社		
リオン株式会社		

(出典 学生課資料)

観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価・単位認定の基準と進級・卒業認定の基準は明確に規定され、学生便覧に記載することにより、学生に周知を図っている(資料5-3-①-1、資料5-3-①-2)。ホームルームやオリエンテーションにおいても学生への周知が図られ、アンケート結果によると、周知の程度はかなり高い(資料5-3-①-3)。なお、この規定は高等専門学校設置基準(第17条)(第18条)(第19条)(第20条)に適合している。また、追試、再試に関する規定も明確に定められ、学生便覧に記載され、学生に周知を図っている(資料5-3-①-4)。

進級と卒業の認定は、それぞれ、運営会議(学年課程修了認定)と運営会議(本科卒業判定)において、規定に従って適切に実施されている(資料5-3-①-5)。また、成績評価を適切にするため、答案は返却し、学生からの意見の申し立ての機会を設けている。期末試験においても、答案返却日を設定して返却し、学生からの意見の申し立ての機会を設けている(資料5-3-①-6)。

(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定の基準と進級・卒業認定の規定は、学生便覧に記載され、学生に周知されている。周知度はアンケート結果からも非常に高いことがわかる。進級と卒業の認定は、それぞれ、運営会議(学年課程修了認定)と運営会議(本科卒業判定)において、規定に従って適切に実施されている。また、成績評価を適切にするため、期末試験においても答案返却日を設け、学生からの意見の申し立ての機会を設けている。

以上により、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

## 資料5-3-①-1

(4) 東京工業高等専門学校学業成績の評価  
及び学年課程修了認定等に関する内規

制 定 平成6年4月1日

最終改正 平成18年4月1日

## 第1章 総 則

第1条 東京工業高等専門学校における、学業成績の評価（以下「評価」という。）  
学年課程修了の認定（以下「修了認定」という。）及び卒業の認定等について  
は、特別の定めによるもののほかは、この内規の定めるところによる。

## 第2章 学業成績の評価

第2条 評価に当たっては、平素の学習、定期試験及び出席状況等を総合的に考  
慮する。

2 評価はA・B・C・Dの4段階とする。ただし、卒業研究にあつては「合」  
又は「否」を、インターンシップにあつては「修了」又は「未修」を判定する。

A (100点～80点)……優れている。

B (79点～70点)……普通である。

C (69点～60点)……やや劣る。

D (59点～0点)……劣る。

\*原則として1/3を超える欠課時数がある場合はD評価とする。

3 評価がA・B・Cの科目及び「合格」とされた卒業研究並びに「修了」と判  
定されたインターンシップには、単位の修得を認める。

第2条の2 評価は、各科目担当教員が行う。ただし、卒業研究及びインターン  
シップの判定については、学科長が代表して行う。

第2条の3 評価は第1学年から第3学年までは前期中間、前期末、後期中間及  
び学年末にそれぞれ行い、第4学年及び第5学年については、原則として前期  
末及び学年末にそれぞれ行う。

2 前期末及び学年末の評価をそれぞれ前期及び学年の評価とする。ただし、前  
期のみで履修する科目にあつては、前期末の評価を学年の評価とする。

3 追試験による評価は、期末試験の評価に準じて、所定の期間に行う。

4 成績が一定の基準に達しない者に対し再試験等を行うことができる。

5 再試験等は、所定の期間に行う。ただし、再試験等を受験する資格は当該定  
期試験等において原則40%以上の理解力があつた者とする。なお、再試験等  
による再評価はCを上限とする。

〔学年課程修了の認定基準表〕

学 科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
一般科目	29	55	71	73	75
専門科目	5	13	31	57	82
学年修得	34	68	102	134	167

2 年度末退学者については、上記1の基準にかかわらず次の場合に学年課程修了を認定するものとする。

- (1) 第1、第2及び第4学年については、当該学年における修得単位数が17単位以上であること。
- (2) 第3学年については、累積修得単位数が77単位以上であること。
- (3) 卒業認定基準（全課程修了認定基準）は、次の(1)から(3)までのすべてを満たすものとする。

(1) 修得単位数は、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上であり、かつ全課程で167単位以上であること。

機械工学科においては、「実習」・「製図」・「実験」、そのほかの学科においては、「実験」を修得していること。

(2) 卒業研究が「合格」と認められていること。

(3) インターシッピングが「修了」と認められていること。

4 外国人留学生については、編入学した学科の1・2年次における開設単位数を一括して認定するものとする。

5 編入生については、編入学した学年の前年までの開設単位数を一括して認定する。

また、編入学した学年に関しては、編入学した学科において当該入学生の入学期の学習記録に於いて適切な教育課程を編成する。

なお、教育課程は教務委員会の審議を経て決定する。

6 本認定基準は、平成17年度（平成18年3月修了認定会議）以降適用する。

第3章 学年課程修了の認定

第3条 修了認定は学年末における運営会議（学年課程修了認定）の議を経て、校長が行う。

2 修了認定は当該年度において、次に掲げる各号のいずれにも該当しない者で、かつ別に定める学年課程等修了の認定基準を満たしている者に対して行う。

- (1) 学校行事又は特別活動への参加状況が特に悪い者
  - (2) その他審議を必要と認められる者
- 3 前項各号のいずれかに該当する者に対しては、審議の上、修了認定の可否を決定する。

第4章 進 級

第4条 修了認定をされた者は、特別の場合を除き、次学年へ進級する。

第5章 原 級 留 置

第5条 修了認定をされなかった者は、原級留置とし、その属する学年と同級に扱ふ。

第6条 同一学年において2回原級留置となった者に対しては、学則第36条第2号の規定を適用する。ただし、休学をした者については別に審議する。

第6章 卒 業

第7条 別に定める学年課程修了等の認定基準の卒業認定基準に従い、運営会議（卒業判定）において修了認定をされた者に対して、高等専門学校設置基準に基づき、校長が卒業を認定し、卒業証書を授与する。

(5) 学年課程修了等の認定基準（抄）

〔東京工業高等専門学校卒業成績の評価及び学年課程の修了等に関する内規〕  
第3条第1項及び第7条に基づき、学年課程修了の認定基準、卒業認定基準は、次のとおりとする。

1 第1学年から第4学年までにおける学年課程修了の認定基準は、次表に掲げる一般科目及び専門科目修得単位数以上で、かつ学年修得の単位数以上とする。また、当該学年における下記の科目を修得していないと認められない。

7. 機械工学科 実習、製図、実験

4. 電気工学科 実験

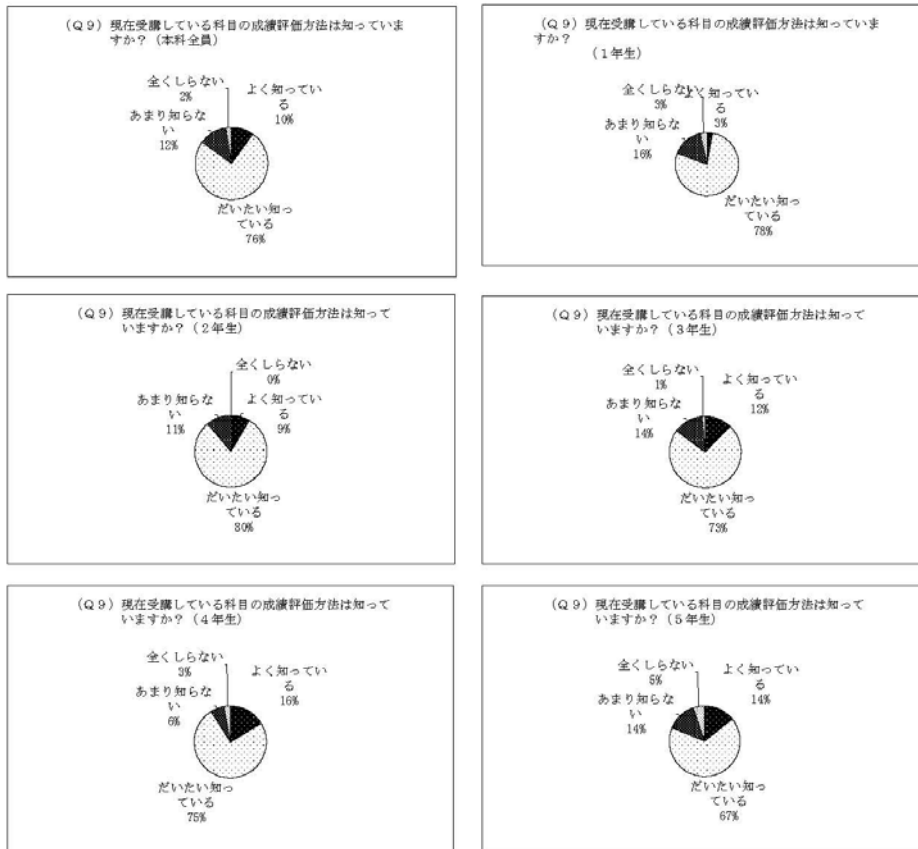
ウ. 電子工学科 実験

エ. 物質工学科 実験

資料5-3-①-3

科目成績の評価方法の周知度に対するアンケート

実施日 平成19年6月11日



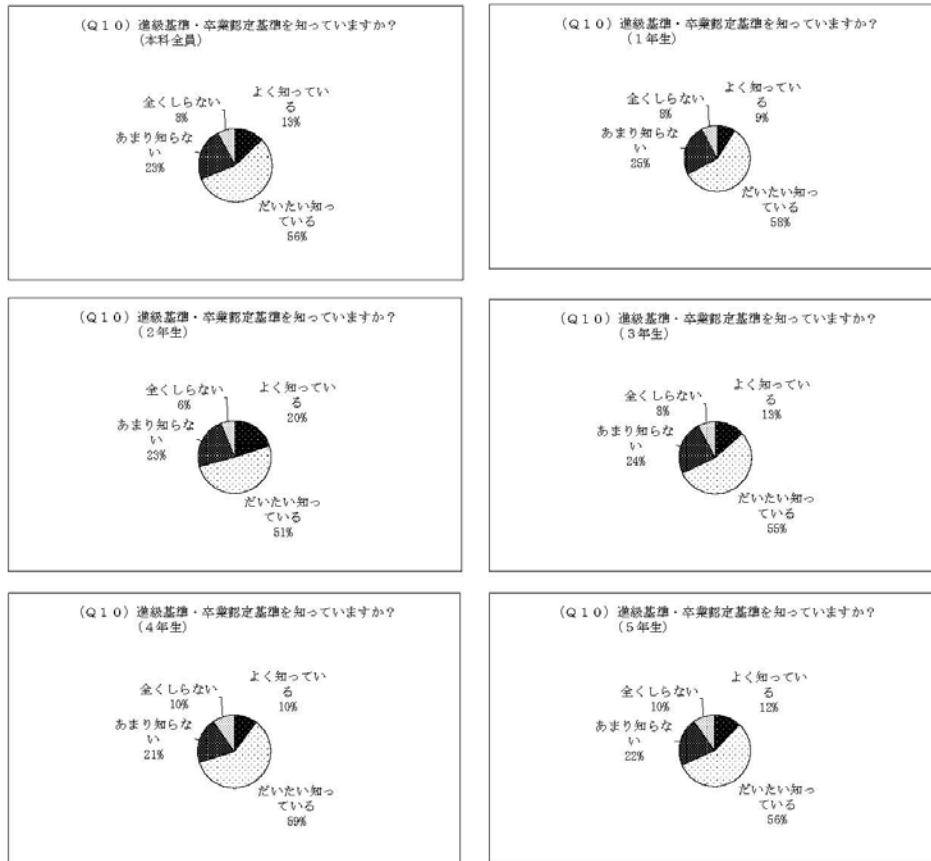
(出典 教職員および学生に対するアンケート集計結果)



資料5-3-①-3

進級基準および卒業認定基準の周知度に対するアンケート

実施日 平成19年6月11日



(出典 教職員および学生に対するアンケート集計結果)

## 資料5-3-①-4

(4) 東京工業高等専門学校学業成績の評価  
及び学年課程修了認定等に関する内規

制 定 平成6年4月1日

最終改正 平成18年4月1日

## 第1章 総 則

第1条 東京工業高等専門学校における、学業成績の評価（以下「評価」という。）  
学年課程修了の認定（以下「修了認定」という。）及び卒業の認定等については、特別の定めによるもののほかは、この内規の定めるところによる。

## 第2章 学業成績の評価

第2条 評価に当たっては、平素の学習、定期試験及び出席状況等を総合的に考慮する。

2 評価はA・B・C・Dの4段階とする。ただし、卒業研究にあつては「合」又は「否」を、インターンシップにあつては「修了」又は「末修」を判定する。

A (100点～80点) ……優れている。

B (79点～70点) ……普通である。

C (69点～60点) ……やや劣る。

D (59点～0点) ……劣る。

\*原則として1/3を超える欠課時数がある場合はD評価とする。

3 評価がA・B・Cの科目及び「合格」とされた卒業研究並びに「修了」と判定されたインターンシップには、単位の修得を認める。

第2条の2 評価は、各科目担当教員が行う。ただし、卒業研究及びインターンシップの判定については、学科長が代表して行う。

第2条の3 評価は第1学年から第3学年までは前期中間、前期末、後期中間及び学年末にそれぞれ行い、第4学年及び第5学年については、原則として前期末及び学年末にそれぞれ行う。

2、前期末及び学年末の評価をそれぞれ前期及び学年の評価とする。ただし、前期のみで履修する科目にあつては、前期末の評価を学年の評価とする。

3 追試験による評価は、期末試験の評価に準じて、所定の期間に行う。

4 成績が一定の基準に達しない者に対し再試験等を行うことができる。

5 再試験等は、所定の期間に行う。ただし、再試験等を受験する資格は当該定期試験等において原則40%以上の理解力があつた者とする。なお、再試験等による再評価はCを上限とする。

平成18年度運営会議（本科卒業判定）議事要録

日時：平成18年3月8日（木）16時00分～16時15分  
 場所：第1棟3階会議室  
 構成員：18名

- 配布資料  
 資料1：卒業成績簿  
 資料2：留学生・編入学生修得単位一覧（7名）  
 資料3：卒業認定基準未満の学生一覧  
 資料4：平成18年度分の高齢一覧（2名）  
 資料5：東京工業高等専門学校卒業成績の評定及び学年課程修了認定等に関する内規（抄）  
 資料6：学年課程修了の認定基準（抄）

○ 審議事項

- 資料の説明・確認について  
 教務主事より、配布資料1～6の説明があり、確認をした。
- 審議対象者の確認について  
 資料4に基づき、休学者を確認し、審議対象者の確認を行った。
- 卒業判定基準を満たさない学生の確認について  
 主事・主事補の事前審査の結果、資料3のとおり報告があった。  
 また、卒業成績の評定及び学年課程修了認定等に関する内規第3条2項（1）（2）について各学科より担当者などの報告があった。
- 卒業条件を満たしている学生の確認について  
 資料1に基づき、卒業条件を満たしている学生の確認が行われ、審査の結果、資料4の休学者2名を除いた卒業認定者188名の学生を卒業認定することを決定した。

在籍者数、卒業認定者等一覧 ( )内は休学者で内訳

学 科 名	現在籍者数	審議対象者数	卒業認定された者	原級留置者
機械工学科	43 (1)	42	42	0
電気工学科	37	37	37	0
電子工学科	33	33	33	0
情報工学科	38	38	38	0
物質工学科	39 (1)	38	38	0
合 計	190 (2)	188	188	0

- その他  
 休学期・退学期・進学願は3月22日（木）午後1時まで教務局に提出する。

平成18年度運営会議（学年課程修了認定）議事要録

日時：平成19年3月16日（金）9時00分～10時30分  
 場所：第1棟2階会議室  
 構成員：19名のうち、1名代理出席（川北副校長代表）  
 配布資料：1. 卒業成績簿  
 2. 留学生・編入学生修得単位一覧（12名）  
 3. 修了基準未満の学生一覧  
 4. 学務員報告一覧  
 5. 東京工業高等専門学校卒業成績の評定及び学年課程修了認定等に関する内規（抄）  
 6. 学年課程修了の認定基準  
 7. 確認・集計表

○ 審議事項

- 配布資料の説明・確認について  
 教務主事より、配布資料の説明があり、確認を行った。
- 審議対象者の確認について  
 資料1に基づいて、休学者・年度途中退学者を確認し、826名在籍のうち806名の審議対象者の確認を行った。
- 修了認定基準について  
 ①修了認定基準未満の学生について  
 資料3に基づいて、1年生は基礎特許委員会委員より、2年生から4年生については各学科より修了認定基準未満の学生48名について確認予定も含めて報告があった。  
 ②卒業科目について  
 主事・主事補の審議対象者の事前審査の結果、①の認定基準未満の者以外に、これらの科目を至差が取得している旨の報告があった。  
 ③学校行事と別行事への参加状況について  
 このことについて、主事・主事補の審議対象者の事前審査（行事等出席簿）の結果、参加状況が科目に悪い者は見あたらなかった旨の報告があった。  
 ④学校行事と別行事への参加状況について  
 加除状況が科目に悪い者を見あたらなかった旨の報告があり、主事から各学科長へ参事状況について確認があり、審議対象者はいなかった。
- 修了認定者の確認  
 ①修了認定者の確認  
 ②卒業成績簿の評定結果について  
 ③卒業成績簿の評定結果について  
 ④卒業成績簿の評定結果について  
 ⑤卒業成績簿の評定結果について  
 ⑥卒業成績簿の評定結果について  
 ⑦卒業成績簿の評定結果について  
 ⑧卒業成績簿の評定結果について  
 ⑨卒業成績簿の評定結果について  
 ⑩卒業成績簿の評定結果について  
 ⑪卒業成績簿の評定結果について  
 ⑫卒業成績簿の評定結果について  
 ⑬卒業成績簿の評定結果について  
 ⑭卒業成績簿の評定結果について  
 ⑮卒業成績簿の評定結果について  
 ⑯卒業成績簿の評定結果について  
 ⑰卒業成績簿の評定結果について  
 ⑱卒業成績簿の評定結果について  
 ⑲卒業成績簿の評定結果について  
 ⑳卒業成績簿の評定結果について  
 ㉑卒業成績簿の評定結果について  
 ㉒卒業成績簿の評定結果について  
 ㉓卒業成績簿の評定結果について  
 ㉔卒業成績簿の評定結果について  
 ㉕卒業成績簿の評定結果について  
 ㉖卒業成績簿の評定結果について  
 ㉗卒業成績簿の評定結果について  
 ㉘卒業成績簿の評定結果について  
 ㉙卒業成績簿の評定結果について  
 ㉚卒業成績簿の評定結果について  
 ㉛卒業成績簿の評定結果について  
 ㉜卒業成績簿の評定結果について  
 ㉝卒業成績簿の評定結果について  
 ㉞卒業成績簿の評定結果について  
 ㉟卒業成績簿の評定結果について  
 ㊱卒業成績簿の評定結果について  
 ㊲卒業成績簿の評定結果について  
 ㊳卒業成績簿の評定結果について  
 ㊴卒業成績簿の評定結果について  
 ㊵卒業成績簿の評定結果について  
 ㊶卒業成績簿の評定結果について  
 ㊷卒業成績簿の評定結果について  
 ㊸卒業成績簿の評定結果について  
 ㊹卒業成績簿の評定結果について  
 ㊺卒業成績簿の評定結果について  
 ㊻卒業成績簿の評定結果について  
 ㊼卒業成績簿の評定結果について  
 ㊽卒業成績簿の評定結果について  
 ㊾卒業成績簿の評定結果について  
 ㊿卒業成績簿の評定結果について

平成18年度学年暦(後期)

10月		11月		12月		1月		2月		3月				
1	火	11	水	11	金	1	火	連	1	水	連	1	木	
2	火	連	2	木	2	火	2	火	2	金	2	金	2	金
3	火	3	金	3	日	3	水	3	土	3	日	3	日	
4	木	4	土	4	月	4	木	4	日	4	木	4	日	
5	木	5	日	5	火	5	金	5	月	5	月	5	月	
6	金	6	月	6	水	6	土	6	火	6	火	6	火	
7	土	7	火	連	7	木	7	日	7	水	7	水	7	水
8	日	8	水	8	金	8	土	8	日	8	木	8	木	
9	月	9	木	9	土	9	日	9	火	9	金	9	金	
10	火	10	金	10	日	10	水	10	土	10	日	10	日	
11	水	11	土	11	月	連	11	木	11	日	11	日	11	日
12	木	12	日	12	火	12	金	12	月	12	火	12	火	
13	金	13	月	13	水	13	土	13	日	13	水	13	水	
14	土	14	火	14	木	14	日	14	木	14	土	14	土	
15	日	15	水	15	金	15	土	15	日	15	日	15	日	
16	月	16	木	16	土	16	日	16	火	16	金	16	金	
17	火	17	金	17	日	17	水	17	土	17	日	17	日	
18	水	18	土	18	月	18	木	18	日	18	日	18	日	
19	木	19	日	19	火	19	金	19	月	19	火	19	火	
20	金	20	月	20	水	20	土	20	日	20	水	20	水	
21	土	21	火	21	木	21	日	21	木	21	土	21	土	
22	日	22	水	22	金	22	土	22	日	22	日	22	日	
23	月	23	木	23	土	23	日	23	火	23	金	23	金	
24	火	24	金	24	日	24	水	24	土	24	日	24	日	
25	水	25	土	25	月	25	木	25	日	25	日	25	日	
26	木	26	日	26	火	26	金	26	月	26	火	26	火	
27	金	27	月	27	水	27	土	27	日	27	水	27	水	
28	土	28	火	28	木	28	日	28	日	28	日	28	日	
29	日	29	水	29	金	29	土	29	日	29	木	29	木	
30	月	30	木	30	土	30	日	30	火	30	金	30	金	
31	火	31	日	31	月	31	水	31	土	31	日	31	日	

選択科目追加履修申告 チャレンジウォーク プロコン本選(10/7~8) 1年薬物乱用防止講習会 ロボコン地区大会(10/22) 第1回学科希望調査(1年)	球技大会 学生会役員選挙 ハンズ・イズ・ユア・ザ ロボコン全国大会(11/28) 薬生コンクエーショ(後平大会) 1年生学科ガイダンス(11/30) 工業実検(11/19) 専攻科後期科目履修申告(11/10) (後援会理事会 11/5)	進路指導講演会 第2回学科希望調査(1年) TOEIC IP (3年~)	最終学科希望調査(1年) 学生会総会(1月又は2月) (後援会理事会 1/27)	学科講演会 校内駅伝大会 寮学生会役員選挙 寮生総会 5選会	卒業研究・特別研究発表会 学年末休業(3/20~3/31) クラブ各種 新入寮生面接 日豪学生交流(読豪)
--	---	--	--	--	---

本日(3月6日)の答案返却科目

1年	1組	Reading I	倫理思想	現代国語 I	幾何	Listening I	代数 II				
	2組	Listening I	化学 I	現代国語 I	倫理思想	幾何	Reading I	代数 II			
	3組	現代国語 I	Reading I	幾何	倫理思想	Listening I	代数 II				
	4組	代数 II	Reading I	幾何	現代国語 I	倫理思想					
	5組	化学 I	Reading I	幾何	倫理思想	代数 II	工学基礎演習				
2年	M		基礎製図	日本史	物理	機械学	線形代数学 I	Reading II	政治経済		
	E		物理	プログラミング基礎 I	Reading II	政治経済	日本史		線形代数学 I		
	D	微分積分学 II	政治経済	日本史	線形代数学 I	物理	Reading II	Listening II			
	J		日本史	線形代数学 I	物理	プログラミング基礎	政治経済	Reading II			
	C		物理	Reading II	日本史	政治経済	Listening II				
3年	M	機械設計法B	メカトロニクス	文章表現法	Reading III	工業力学B	科学技術史	材料学B	解析学 II		
	E	科学技術史	解析学 I	基礎電子量子	線形代数学 II	Reading III					
	D	線形代数学 II	科学技術史	Reading III	解析学 I	電子計測					
	J	確率統計 II	基礎プログラミング I	線形代数学 II	情報工学実験 II	Reading III	科学技術史				
	C	分析化学	文章表現法	Reading III	有機化学 I	科学技術史	解析学 II				
4年	M		機械製作法B	材料力学 II	振動工学	応用数学 I	流体力学B	応用数学 II			
	E	(選択)	電子計算機 II	応用数学 I	応用数学 II						
	D	日本語表現	回路網理論	ひずみ波交流							
	J		国際経済論	応用数学 III							
	C		情報処理 II	機器分析 II	環境科学						
5年	M										
	E	(選択)									
	D	TOEIC Seminar I									
	J										
	C		生体高分子学								

(出典 学生課資料)

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校では、高等専門学校設置基準(第17条)5項の定めるところに従い、特別活動(HR)を毎週木曜日の5時間目に年間90時間以上実施している(資料5-4-①-1)。担任の手引きにおいて、担任は、HRにおいて人間の素養の涵養に努めることが定められている(資料5-4-①-2)。また、本校に入学したばかりの1年次の担任は、特に丁寧な指導を行っている(資料5-4-①-3)。このような取り組みが実際に適切に行われていることは1年生のHR記録の例(資料5-4-①-4)と学生への配布資料の例(資料5-4-①-5、及び資料5-4-①-6)から確認できる。1年生に関しては、HR指導方法の改善の資料とするために、平成18年度より、HR活動記録を作成している(現地閲覧資料103)。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、年間90時間以上の特別活動を実施している。人間の素養の涵養に努めることが担任の手引きに明記されており、特に、本校に入学したばかりの1年次においてさまざまな取り組みが実施されている。特別活動において人間の素養の涵養が図られていることは、1年生のHR記録の例などから確認できる。

以上により、教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されている。



担任指導の連携

学校担任は、学習指導上の問題や生活指導上の問題に関して、担り学業担任だけでなく、前担任、科担任、担当教員等から情報を入手し、学科長等と密接な連携をとりながら協力して適切な指導を進めます。また、学生指導者とも連携して指導することが大切で、この手引きは、本校の教員が学級担任の業務を執行する上で必要と思われる事項を整理したものです。

内容

1. 担任の基本的な役割
2. 担任の具体的な業務
  - (1) 授業前の準備
  - (2) 授業当初の業務
  - (3) 授業当初のHRで行う業務
  - (4) 主4年間行事
  - (5) その他の業務
3. 学生事故の防止に関する指導
  - (1) スレスレスの防止等
  - (2) 交通事故の防止に関する指導
  - (3) 自己管理に関する指導
  - (4) 社会カールの遵守

4. 1年生の指導上のポイント

- (1) 新進教育への対応
- (2) 様子を見える指導
- (3) 学習様子の大切さ
- (4) 講師の徹底
- (5) 目録
- (6) 教科書の持ち帰り
- (7) 教員の巡回
- (8) 目的意識を持たせる
- (9) カンセリシタ・マインド
- (10) 健康管理
- (11) 教室への配慮
- (12) クラス間相互の交流
- (13) クラブ活動等
- (14) 夏休み以降に注意
- (15) 交際、欠席に注意
- (16) アルバイトの禁止
- (17) 成績不振の学生への対応
- (18) 進路決定
- (19) 教員兼任担当教員との連携
- (20) 災害対策
- (21) いじめ防止への呼びかけ

1. 担任の基本的な役割

担任は、クラスの学生及びその保護者に対して、学校を卒業する立場にあります。それゆえ以下のごとく権利にとらわれず公平な指導で、愛着の心をもちつつ指導すると同時に、問題によっては必要となる態度の要求も求められます。

- (1) 担任は、個々の学生の日常的な生活態度にも充分に配慮し、彼（女）らが愛着的・積極的に学習生活に取り組めるよう、さまざまな指導や励ましを行います。
  - (2) 【学生世紀】【学科祭典】などの配当枠をよく把握し、手続の仕方、学校の規則等を理解させます。
  - (3) ことに卒業不届の学生については、担任から積極的に働きかけ、学習意欲の育成、向上に努めます。
  - (4) 以上の業務を円滑に進めるための有効な手段として、①有能的なクラス集団の育成、②保護者との密接な連絡、③他の教職員、そして④クラスの優秀なリーダーの選抜等が考えられます。
  - (5) 担当クラスを有能的な集団、すなわち学生相互の健全な連帯感に変えられた集団へと育て上げる。そのための有効な手段の一つは、クラスの中心となる学生、そしていわゆるリーダー・メンバー的な学生をい早く見抜き、彼（女）らの活動を積極的に支援していくことです。
  - (6) そうした担任の役割のあり方がもたらす効果は、HR（特別活動の時）及び学校行事の際です。それゆえ、進学教育におけるHRや学校行事の重要性を改めて認識しておく必要があります。
  - (7) 保護者に対しては、定期試験の成績を前段階にて報告する際、そして保護者懇話会の際、高専教育の特徴について告知徹底することが、よりよい協力関係を形成していく上で最も有効です。また、学期とわたる欠席の時は無断のこと、欠席や欠席が生じた際に、保護者へ電話連絡することも必要です。
  - (8) 科目担当の教員や他教職員と連絡が密な体制を築き上げるには、授業の成績のみならず授業態度をも含め、個々の学生に関する情報を常に問合わせる、信頼を築いていくことが求められます。
- また、前担任に比べこれに近い指導も必要です。
- (9) もちろん以上の業務は、個々の担任が担い得るものであるものではありません。担任会を意見や経験の交流の場とし、また、精神的な励ましをしていくことも重要です。
  - (10) 「種の連続性」だけでなく、「原の連続性」を徹底するために、学科の教育理念を常に共有し、またクラスの優秀なリーダーと連携を密に保つていくことも大切です。
  - (11) こうして担任の個性や担当性を発揮しつつ、学校として学校全体として、統一性のある指導を展開していくことこそ、学生及び保護者から学校への信頼感を高め、それ以前に一人一人の学生を必要に育てることにつながると考えられます。





(資料5-4-①-4)

## 平成18年度 第1学年HR活動報告(抜粋) 1年5組

HR活動日時	平成18年 6月 1日(木) 12:50～ 14:10
HR活動場所	HR および 1号棟と2号棟にかかる敷地内
担当教員	町田 相澤
参加者	1名公欠
<b>活動内容</b> 1 来週から始まる前期中間試験への取り組みに、悔いの無い努力を傾注するように、と話す。 2 試験直前に公欠になる学生1名に対しての、サポートやフォローアップをしてくれるボランティアの学生を求めたところ、松田君が名乗りを上げてくれた。これでクラスみんなで協同して最初の定期試験を乗りきる雰囲気がかもし出されることを期待できそう。 3 外回りの清掃の段取りを説明し、担当の確認をする。 4 外回りの清掃に、みな真面目によくやった。	
<b>担任コメント</b> 比較的気温も高い日だったが、外回りの清掃をしながら、学生の真面目さを確認出来たのは良かった。座り込んで手を動かさずに話ばかりしているような学生は皆無であった。	

HR活動日時	平成18年6月 22日(木) 12:50 ～ 13:40
HR活動場所	HR
担当教員	町田、相澤
参加者	1名欠席
<b>活動内容</b> 1 前期中間試験の成績分析と改善策を学生と一緒に考える 5組全体としての成績分析を行い、危機感を持って今後学習する必要があることを認識させ、試験前の課題、レポート等の提出物を確実にこなすためのシステムとして学生からの発案で、日直が毎日ホワイトボードに記入し、全員が確認することになった。ウィークデイの学習時間調査も行いながら、学生の生活実態を浮かび上がらせることが出来た。 なお、HRの様子を学校長が終始参観した。	
<b>担任コメント</b> 危機感の共有と前向きな取り組みができそうなクラスの雰囲気は作れたか。 後は注意深く見守るのみ。	

(出典 特別活動実施記録)

資料5-4-①-5

6月6日(火)

## 他人の気持ちがり分かり思いやることができる人

他人の気持ちを理解し、他人の痛みを理解できる学生になってほしいということをお願いしてきました。次の2回については、はっきりと記憶しています。

4月20日(木)：他人の痛みを感じることができる学生になってほしい。

4月26日(木)：友達、他人の気持ちを理解しよう。

高専に入る期首の中には、変わり者としていじめられた経験をもつ人も少なくありません。しかし、高専では、ほとんどの人が、研究者、技術者を見て、人の役に立つ研究をしたいと思っている仲間です。そういう意味で、今は居心地がよいでしょう。同時に、**自分と違った個性を持つ人がいた場合、**

**その人の個性を理解して、友達になることが大切だということ**を君たちはよく知っているでしょう。

また、友達を作るのに時間がかかる人も少なくありません。そのため、入学当初は、話をする相手も見つからず、つらいと感じた学生もかなりいたようです。しかし、合宿研修を通して、友達を作り、話し相手を見つけた学生が多いようです。よかったですね。

しかし、まだ、話をする友人を見つけることができずに、さびしそうにしている学生もいます。入学当初のことを思い出せば、まだ打ち解けずにいる人の気持ちはよくわかるでしょう。クラス全体がよい友達になれるようにするにはどうしたらよいでしょう。

きっと、健康診断の日は、友人を作るのに出遅れた人を仲間に入れてくれるチャンスでしょう。一人で回ろうとしている人がいたら一緒に行くように誘ってください。相手の気持ちがわかり、相手の気持ちを尊重することができる人になってください。

他人の気持ちを理解することは難しいものです。相手の気持ちを思いやることも難しいものです。しかし、人間として、とても大切なことです。特に、技術者にとって、とても大切なことです。一人だけでできることは限られています。ですから、技術者にとって、協力して作業をする能力が必要です。そのためには他人を理解し、他人を思いやることが特に大切です。良いマニュアルを書くときにも、読む人の気持ちを推し量ることは必要です。そのような能力を身に着けるよう努力してほしいと思います。

他人の気持ちを思いやるができなかった例を挙げましょう。自分では冗談のつもりでも、言われた相手は冗談とは受け取れず心を傷つけられるという例です。同じような経験をした人もいます。心当たりがある人もいます。

A君が、B君とC君に向かって、「お前たち仲良しだからもつとくっつけ。」といったとします。B君が笑っているから、A君は悪いことをいったという自覚がありません。冗談のつもりです。冗談で済ませられますか？ C君は心を傷つけられているかもしれません。もしかしたら、笑っているB君も心を傷つけられているかもしれません。「冗談」のつもりが、相手を傷つけ、相手を死に追いやることもあります。繊細な感覚を持って、相手が心を傷つけられていないかどうかよく考えて話すよう努力してほしいと思います。同じようなことを言っても、ちょっとした話し方の違いで、または相手の状況の違いで、相手の受け取り方は違ってきます。

体力のない弱い相手に優しくすることは大切なことです。傷つきやすい心をもった相手に優しくすることも同じように大切です。

(出典 H18年度6月6日1年生特別活動配布資料)

資料5-4-①-6

## HR映画会予告

# Stand by Me

日にち: **7月13日(木)**

上映時間: 12時30分~1時55分

場所: 1L教室

注意: 1L教室で点呼を取る。

1L教室内では飲食は禁止です。事前に昼食を済ませておくこと。

映画終了後、教室に戻ってHRを行います。

少年たちの小さな冒険旅行を通して、少年期の特異な友情、そして訣別の姿をノスタルジックに描く。乞うご期待!!



(出典 H18年度7月13日1年生特別活動配布資料)

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校では教育方針の中に記載されている「どのような局面にも対応できる柔軟な心といかなる困難も乗り越えうる強固な意志とあらゆる試練に耐えうる健全な身体とを持ちしかも人間として好ましい味と深みとのある人柄」を実現するために、人間の素養の涵養に力を入れている。

生活指導面では、主として、担任・学級指導教員によって人間の素養の涵養が図られている。学生との個別面談や保護者との個別面談によって指導が行われ(資料5-4-②-1)、1年生の場合はショートHRによっても人間の素養の涵養が図られている(資料5-4-②-2)。

課外活動に関しては、各部・同好会を指導するクラブ顧問によって、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されており(資料5-4-②-3)、平成19年度からは全教員がクラブ顧問として学生の指導にあたることになっている。本校の課外活動は活発であり、成果を挙げている(資料5-4-②-4)。

また、各種学校行事(資料5-4-②-5)によっても、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。その他、湘南海岸まで歩くというチャレンジウォークの企画も実施され、人間の素養の涵養という点でも成果を上げ、学生・保護者に好評である(資料5-4-②-6、現地閲覧資料20)。また、各種行われている国際交流を通して人間の素養の涵養が図られている。(資料5-4-②-7)。

(分析結果とその根拠理由)

本校では人間の素養の涵養にも力を入れている。生活指導面では、主として、担任・学級指導教員による学生との個別面談や保護者との個別面談によって、人間の素養の涵養が図られている。課外活動に関しては、各部・同好会にクラブ顧問を任命することにより、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。また、本校の課外活動は活発であり、成果を挙げている。その他、各種学校行事や国際交流によっても、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。

以上によって、教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。

資料5-4-②-1  
2006年10月12日

1年4組の保護者の皆様

1年4組 担任  
竹田 恒美  
吉本 定伸

### クラス懇親会・個人面談のご案内

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、別紙お知らせの通り「1学年合同保護者会懇談会」が栢田祭期間中に開催されますが、この機会を利用して、1年4組の保護者の皆様・担任の懇親を図る目的で食事の席を設ける運びとなりました。どうぞ奮ってご参加下さい。会場予約の都合上、ご出欠のご返事を10月19日（木）までに担任宛てメール又は本申込書にてご回答いただければ幸いです。

また、5日（日）にはご希望の保護者の皆様には個人面談も実施したいと存じます。こちらの方もお申し込みくださるようご案内申し上げます。

記

#### 昼食懇親会

日時： 11月5日（日） 11時30分～12時半頃まで  
場所： 「金鯱」（京王線狹間駅と高専裏門との中間）  
TEL 0426-64-2028  
会費： 2000円 当日ご用意下さい。

#### 個人面談

日時： 11月5日（日）午前9時～11時、 午後3時～5時  
場所： 竹田研究室（第1棟3階）(Tel. 0426-68-5146)  
メール： [tnet14@tokyo-ct.ac.jp](mailto:tnet14@tokyo-ct.ac.jp)（竹田、吉本）

~~~~~ 申込書 ~~~~~

（不参加の場合も、10月19日（木）までにご回答下さい。）

- ◆ 11月5日（日）のクラス懇親会に、（出席します 出席しません）
  - ◆ 11月5日（日）の個人面談を、（希望します 希望しません）
- 面談希望時間帯は、（午前 午後）を希望します。

当日ご都合の悪い方で、別の日をご希望の方はその旨お書き下さい。

1年 4組 番 学生氏名  
保護者氏名 印

何かありましたら、一言どうぞ。

（出典 H18年度10月12日1年生個人面談案内）

資料5-4-②-2

2006 (H18)年度前期

ショートHRにおける生活指導記録(抜粋)

| 4月 |                                        | 5月 |                                        | 6月 |                                                   |
|----|----------------------------------------|----|----------------------------------------|----|---------------------------------------------------|
| 1  | 土                                      | 1  | 月                                      | 1  | 木 中間試験の注意、                                        |
| 2  | 日                                      | 2  | 火 連休の注意(習ったところまで、問題集を解いておく)            | 2  | 金 朝シャド                                            |
| 3  | 月                                      | 3  | 水                                      | 3  | 土                                                 |
| 4  | 火                                      | 4  | 木                                      | 4  | 日                                                 |
| 5  | 水 構内オリ、新入生への注意、保護者を通して万引きなど注意          | 5  | 金                                      | 5  | 月 朝シャド                                            |
| 6  | 木 午後構内研修、個人面談(1~16)、レポートや実験を休んだときなどの注意 | 6  | 土                                      | 6  | 火 他人の気持ちが分かり思いやることができる人(資料参照)                     |
| 7  | 金 自転車にのるときは歩行者に配慮する                    | 7  | 日                                      | 7  | 水 朝シャド                                            |
| 8  | 土                                      | 8  | 月                                      | 8  | 木 試験の注意など                                         |
| 9  | 日                                      | 9  | 火 掃除の報告の確認、携帯の注意、居眠りの注意、今日一日をどう過ごすか... | 9  | 金 試験の注意など                                         |
| 10 | 月 個人面談(17~28)                          | 10 | 水 学科ガイダンスの注意                           | 10 | 土                                                 |
| 11 | 火 個人面談(29~43)、白板の使い方、計算カトレーニングの質問は担任に  | 11 | 木 HRなし                                 | 11 | 日                                                 |
| 12 | 水 合宿研修、Information gap activityの説明、    | 12 | 金                                      | 12 | 月 試験の注意など                                         |
| 13 | 木 合宿研修(含む、クラスミーティング)                   | 13 | 土                                      | 13 | 火 試験の注意など                                         |
| 14 | 金                                      | 14 | 日                                      | 14 | 水 科目担当教官の呼び出しに注意、課題を忘れないように、                      |
| 15 | 土                                      | 15 | 月                                      | 15 | 木 工場見学の注意と見学レポートの説明                               |
| 16 | 日                                      | 16 | 火                                      | 16 | 金 朝シャド                                            |
| 17 | 月                                      | 17 | 水                                      | 17 | 土                                                 |
| 18 | 火 そろそろ本格的に始まるので、予習復習を                  | 18 | 木 13:00 特別講演会、第一体育館                    | 18 | 日                                                 |
| 19 | 水 前日に、授業の準備(何をやるのか思い出しておく)             | 19 | 金                                      | 19 | 月 見学前レポート提出、朝シャド                                  |
| 20 | 木 倫理について、健康診断の説明、モバイルキャンパスの調査          | 20 | 土 理事懇談会 5月20日(土)15時30分~                | 20 | 火 工場見学                                            |
| 21 | 金 環境委員に依頼                              | 21 | 日                                      | 21 | 水 朝シャド                                            |
| 22 | 土                                      | 22 | 月                                      | 22 | 木                                                 |
| 23 | 日                                      | 23 | 火                                      | 23 | 金 朝シャド                                            |
| 24 | 月                                      | 24 | 水                                      | 24 | 土                                                 |
| 25 | 火 授業準備、提出物について                         | 25 | 木 13:00~ 学科ガイダンス(終了後HR)                | 25 | 日                                                 |
| 26 | 水 友達、他人の気持ちを理解しよう。                     | 26 | 金                                      | 26 | 月 見学後レポート提出、朝シャド                                  |
| 27 | 木 健康診断の注意、授業準備、提出物について、宿題が出てからでは間に合わない | 27 | 土                                      | 27 | 火 居眠り遅刻の注意、成績不良者呼び出し連絡、成績注意、いじめの可能性を感じる文章の作成者を調査。 |
| 28 | 金                                      | 28 | 日                                      | 28 | 水 朝シャド                                            |
| 29 | 土                                      | 29 | 月 試験前1週間につき要勉強という注意、朝シャドの連絡、座席について、    | 29 | 木                                                 |
| 30 | 日                                      | 30 | 火                                      | 30 | 金 朝シャド                                            |
|    |                                        | 31 | 水 朝シャド                                 |    |                                                   |

(出典 H18年度ショートHR生活指導記録)

資料5-4-②-3

## 平成18年度 学生会所属団体顧問教員等一覧

|                  | 団体名          | 顧問教員名          | 部長名 | 部員数 | 校外コーチ |
|------------------|--------------|----------------|-----|-----|-------|
| 運<br>動<br>系<br>部 | 陸上競技部        | 菊地 章           | 5C  | 16  |       |
|                  | 硬式テニス部       | 黒田 一寿 齋藤 四郎    | 5D  | 23  |       |
|                  |              | 市川 裕子          |     |     |       |
|                  | ソフトテニス部      | 齋藤 四郎 城石 英伸    | 3E  | 19  |       |
|                  |              | 清水 昭博 加藤 格     |     |     |       |
|                  | バスケットボール部    | 拝田 稔 山内 峯生     | 4E  | 25  |       |
|                  | バレーボール部      | 竹田 恒美 川北 晃司    | 2J  | 12  |       |
|                  | 硬式野球部        | 鈴木 智之 石井 宏幸    | 3M  | 30  |       |
|                  |              | 三谷 知世 高見 昭康    |     |     |       |
|                  | ハンドボール部      | 古屋 正俊          | 4D  | 11  |       |
|                  | バドミントン部      | 西村 亮 城石 英伸     | 5J  | 8   |       |
|                  | サッカー部        | 玉田 耕治 舘泉 雄治    | 3D  | 38  |       |
|                  |              | 浅野 敬一          |     |     |       |
|                  | 水泳部          | 大塚 友彦 加藤 格     | 4E  | 23  |       |
|                  | 卓球部          | 河村 豊 相澤 俊行     | 4E  | 13  |       |
|                  |              | 鈴木 孝 高見 昭康     |     |     |       |
| 剣道部              | 横山 繁盛 土井 淳   | 3E             | 11  |     |       |
| 柔道部              | 松井 義弘 黒崎 茂   | 4C             | 6   |     |       |
| 空手道部             | 谷田 部 喜久雄     | 3E             | 6   |     |       |
| 少林寺拳法部           | 筒井 健太郎 一戸 隆久 | 3J             | 12  |     |       |
| 文<br>化<br>部      | 吹奏楽部         | 須原 啓一 中野 雅之    | 4D  | 23  |       |
|                  |              | 津田 潔           |     |     |       |
|                  | 軽音楽部         | 中川 修           | 4J  | 50  |       |
|                  | 茶道・華道部       | 市川 裕子 北折 典之    | 4D  | 10  |       |
| 写真部              | 鹿毛 哲郎 中川 修   | 4J             | 9   |     |       |
| 同<br>好<br>会      | ESS同好会       | 村井 三千男 ゲイツ ジョン | 5C  | 5   |       |
|                  | 環境研究同好会      | 三谷 知世 加藤 格     | 5C  | 8   |       |
|                  |              | 庄司 良           |     |     |       |
|                  | 手話同好会        | 齋藤 四郎 菊地 章     | 4C  | 5   |       |
|                  |              | 城石 秀伸          |     |     |       |
|                  | 将棋同好会        | 阿久沢 昇 竹田 恒美    | 4C  | 7   |       |
|                  |              | ゲイツ ジョン        |     |     |       |
|                  | まんが研究同好会     | 船戸 美智子         | 4C  | 7   |       |
|                  | SPC同好会       | 鈴木 雅人 小嶋 徹也    | 4E  | 8   |       |
|                  |              | 松本 章代          |     |     |       |
| 女子バスケットボール同好会    | 黒田 一寿 堀 智子   | 3C             | 9   |     |       |
|                  | 森下 達哉        |                |     |     |       |
| 軟式野球同好会          | 福田 勝己        | 5M             | 12  |     |       |
| フットサル同好会         | 拝田 稔         | 2M             | 13  |     |       |
| 工作同好会            | 木村 南         | 5M             | 5   |     |       |

※がついている教員及びコーチは平成18年5月17日以降に追加申請されました。

出典:学生課学生係

| 学年  | 科目     | 単位 | 履修上の注意 | 学期 | 履修人数 | 履修科目   |
|-----|--------|----|--------|----|------|--------|
| 1学年 | 018101 | 1  | 基礎物理学Ⅰ | 1  | 1    | 基礎物理学Ⅰ |
|     | 018102 | 2  | 基礎物理学Ⅱ | 2  | 2    | 基礎物理学Ⅱ |
|     | 018103 | 3  | 基礎物理学Ⅲ | 3  | 3    | 基礎物理学Ⅲ |
|     | 018104 | 4  | 基礎物理学Ⅳ | 4  | 4    | 基礎物理学Ⅳ |
|     | 018105 | 5  | 基礎物理学Ⅴ | 5  | 5    | 基礎物理学Ⅴ |
|     | 018106 | 6  | 基礎物理学Ⅵ | 6  | 6    | 基礎物理学Ⅵ |
|     | 018107 | 7  | 基礎物理学Ⅶ | 7  | 7    | 基礎物理学Ⅶ |
|     | 018108 | 8  | 基礎物理学Ⅷ | 8  | 8    | 基礎物理学Ⅷ |
|     | 018109 | 9  | 基礎物理学Ⅸ | 9  | 9    | 基礎物理学Ⅸ |
|     | 018110 | 10 | 基礎物理学Ⅹ | 10 | 10   | 基礎物理学Ⅹ |
|     | 018111 | 11 | 基礎物理学Ⅺ | 11 | 11   | 基礎物理学Ⅺ |
|     | 018112 | 12 | 基礎物理学Ⅻ | 12 | 12   | 基礎物理学Ⅻ |
| 2学年 | 018201 | 1  | 基礎物理学Ⅼ | 1  | 1    | 基礎物理学Ⅼ |
|     | 018202 | 2  | 基礎物理学Ⅽ | 2  | 2    | 基礎物理学Ⅽ |
|     | 018203 | 3  | 基礎物理学Ⅾ | 3  | 3    | 基礎物理学Ⅾ |
|     | 018204 | 4  | 基礎物理学Ⅿ | 4  | 4    | 基礎物理学Ⅿ |
|     | 018205 | 5  | 基礎物理学ⅰ | 5  | 5    | 基礎物理学ⅰ |
|     | 018206 | 6  | 基礎物理学ⅱ | 6  | 6    | 基礎物理学ⅱ |
|     | 018207 | 7  | 基礎物理学ⅲ | 7  | 7    | 基礎物理学ⅲ |
|     | 018208 | 8  | 基礎物理学ⅳ | 8  | 8    | 基礎物理学ⅳ |
|     | 018209 | 9  | 基礎物理学ⅴ | 9  | 9    | 基礎物理学ⅴ |
|     | 018210 | 10 | 基礎物理学ⅵ | 10 | 10   | 基礎物理学ⅵ |
|     | 018211 | 11 | 基礎物理学ⅶ | 11 | 11   | 基礎物理学ⅶ |
|     | 018212 | 12 | 基礎物理学ⅷ | 12 | 12   | 基礎物理学ⅷ |

平成10年度 地区大会特別選抜一覧

| 学年  | 科目     | 単位 | 履修上の注意 | 学期 | 履修人数 | 履修科目   |
|-----|--------|----|--------|----|------|--------|
| 1学年 | 018101 | 1  | 基礎物理学Ⅰ | 1  | 1    | 基礎物理学Ⅰ |
|     | 018102 | 2  | 基礎物理学Ⅱ | 2  | 2    | 基礎物理学Ⅱ |
|     | 018103 | 3  | 基礎物理学Ⅲ | 3  | 3    | 基礎物理学Ⅲ |
|     | 018104 | 4  | 基礎物理学Ⅳ | 4  | 4    | 基礎物理学Ⅳ |
|     | 018105 | 5  | 基礎物理学Ⅴ | 5  | 5    | 基礎物理学Ⅴ |
|     | 018106 | 6  | 基礎物理学Ⅵ | 6  | 6    | 基礎物理学Ⅵ |
|     | 018107 | 7  | 基礎物理学Ⅶ | 7  | 7    | 基礎物理学Ⅶ |
|     | 018108 | 8  | 基礎物理学Ⅷ | 8  | 8    | 基礎物理学Ⅷ |
|     | 018109 | 9  | 基礎物理学Ⅸ | 9  | 9    | 基礎物理学Ⅸ |
|     | 018110 | 10 | 基礎物理学Ⅹ | 10 | 10   | 基礎物理学Ⅹ |
|     | 018111 | 11 | 基礎物理学Ⅺ | 11 | 11   | 基礎物理学Ⅺ |
|     | 018112 | 12 | 基礎物理学Ⅻ | 12 | 12   | 基礎物理学Ⅻ |
| 2学年 | 018201 | 1  | 基礎物理学Ⅼ | 1  | 1    | 基礎物理学Ⅼ |
|     | 018202 | 2  | 基礎物理学Ⅽ | 2  | 2    | 基礎物理学Ⅽ |
|     | 018203 | 3  | 基礎物理学Ⅾ | 3  | 3    | 基礎物理学Ⅾ |
|     | 018204 | 4  | 基礎物理学Ⅿ | 4  | 4    | 基礎物理学Ⅿ |
|     | 018205 | 5  | 基礎物理学ⅰ | 5  | 5    | 基礎物理学ⅰ |
|     | 018206 | 6  | 基礎物理学ⅱ | 6  | 6    | 基礎物理学ⅱ |
|     | 018207 | 7  | 基礎物理学ⅲ | 7  | 7    | 基礎物理学ⅲ |
|     | 018208 | 8  | 基礎物理学ⅳ | 8  | 8    | 基礎物理学ⅳ |
|     | 018209 | 9  | 基礎物理学ⅴ | 9  | 9    | 基礎物理学ⅴ |
|     | 018210 | 10 | 基礎物理学ⅵ | 10 | 10   | 基礎物理学ⅵ |
|     | 018211 | 11 | 基礎物理学ⅶ | 11 | 11   | 基礎物理学ⅶ |
|     | 018212 | 12 | 基礎物理学ⅷ | 12 | 12   | 基礎物理学ⅷ |



## 資料5-4-②-5

## 1-2 学校行事等（抜粋）

## 1-2-1 学校行事等の種類

学生の厚生補導に関する学校行事等とは、次のものをいう。

## (1) 学内行事

## ① 1年校内オリエンテーション及び合宿研修

1年生に対し、入学式後校内においてオリエンテーションを行い、また、校外の施設において1泊2日の合宿研修を実施する。

## ④ スポーツ大会

主として学生会が教員の指導の下に企画し5月頃実施する。本校にとって最大の体育行事である。種目としては、全員が参加するレクリエーション的なもの、選抜された選手による記録を競うもの、教職員が参加する種目などバラエティーに富んでおり、学科対抗の形で実施される。

## ⑤ くぬぎだ祭

文化祭（学園祭）を、本校では「くぬぎだ祭」と称し、毎年10月下旬から11月上旬の間に、2日間にわたって実施される。くぬぎだ祭は、主として学生会が教員の指導の下に企画し、本校が主催して実施する最大の学校行事の1つである。

## ⑧ 冬期学校

2年生を対象に、冬季スポーツ（自然体験活動）によって、心身の健全な育成を図るとともに、スキー技術の習得・向上を目指し、併せて集団訓練によって団体生活を身につけ、参加者相互の親睦を深めることを目的として、1月下旬に2泊3日で実施される。

## (2) 対外運動競技（学年暦に掲載するもの）

## ① 沼津戦

沼津高専の運動部との対抗試合を通じて、両高専の親睦を深め、運動機能を向上させる目的のために、6月頃に行う。

競技種目は、バスケットボール・バレーボール・柔道・テニス・ソフトテニス・ハンドボール・野球・サッカー・バドミントン・水泳の10種目を実施する。

出典：教育便覧

(資料 5-4-②-6)

## くぬぎだフォーラム№30 第13回チャレンジウォーク実施要項

**サバイバル・ウォーク…その時、あなたは歩いて帰れますか？**

|       |                                                                                                                            |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目 的   | 歩く楽しさを知り、万一の震災時にも安全に徒歩帰宅するための長距離徒歩体験 (42km 又は 25km)                                                                        |
| 主 催   | 東京高専体育科・チャレンジウォーク実行委員会・東京高専学生会                                                                                             |
| 共 催   | 東京高専学生相談室                                                                                                                  |
| 協 力   | 東京高専後援会、吹奏楽部、教官スタッフ、OB スタッフ                                                                                                |
| 開催日時  | 平成18年10月21日(土) 出発時間 午前8時30分 小雨決行                                                                                           |
| 集合場所  | 東京工業高等専門学校・第1棟玄関前 (最寄り駅・京王線狭間駅より5分)                                                                                        |
| 受付時間  | 平成18年10月21日(土) <u>7時30分より8時15分まで</u> (8時15分より開会式)                                                                          |
| コ ー ス | フルコース : 東京高専から湘南・平塚高浜台海岸 (最寄り駅: 平塚) までの 42km<br>ハーフコース: 東京高専から相模三川公園 (最寄り駅: 海老名) までの 25km<br>(ハーフコース参加者のフルコースへの当日変更は認めません) |
| 参加条件  | ①長距離歩行で健康上支障がなく、自宅まで個人の責任で帰ること。<br>②小・中学生の参加は保護者、または成人の責任者が同行すること。                                                         |

(出典 H18年度チャレンジウォーク実施要領)

資料5-4-②-7

平成19年3月9日

平成18年度 国際学生交流委員会報告(抜粋)

## 1. 主な活動

## (1) 日豪学生交流 オーストラリアへの学生派遣

派遣先:ビクトリア州 East Gippsland TAFE および Central Gippsland TAFE

期間:平成19年3月20日~31日(12日間)

派遣学生:1年1名,2年8名,3年11名,4年1名,専攻科1年2名

主要行事:施設見学,授業訪問,グループ毎のリサーチ活動

引率教員:竹田恒美,一戸隆久,松井義弘

## (2) 日韓学生交流 釜山情報大学の学生受入

受入:学生8名,教員1名

期間:10月25日~28日(4日間)

主要行事:学生会主催歓迎会,校内見学,都内見学,フェアウェルパーティー

## (3) ヘルシンキ学生交流 ヘルシンキ学生の受入およびヘルシンキへの派遣

受入

受入学生:2名(小嶋研究室および庄司研究室で各1名を受入)

研究内容:

小嶋研究室:BluetoothによるLPS(Local Positioning System)の研究

庄司研究室:自動車排ガスの環境安全性評価

期間:5月12日~8月11日(3ヶ月間)

派遣

派遣学生:5C学生1名,4C学生1名

派遣先:ヘルシンキ・ポリテクニク

期間:平成19年3月21日~4月18日(約1ヶ月間)

引率教員:村井三千男(平成19年3月21日~3月28日)

以上

(出典 H18年度国際学生交流委員会活動報告)

<専攻科課程>

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

専攻科の学習・教育目標は、準学士課程の4年生・5年生の授業と専攻科の授業によって達成されることになっており、その結果、専攻科の教育は準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっている(資料5-5-①-1、資料5-5-①-2、資料5-5-①-3、資料5-5-①-4、資料5-5-①-5)。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の4・5年生と専攻科の授業科目の流れから、専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっている。

資料5-5-①-1

学習・教育目標と科目との関連表

| 学習・教育目標 |           | 機械工学科一般統括システム工学専攻 (機械コース)                                                          |                                                                |                                                                          |                                                                                                 |                                                                                                                                |                                                     |                                                 |
|---------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
|         |           | 1年                                                                                 | 2年                                                             | 3年                                                                       | 4年                                                                                              | 5年                                                                                                                             | 専・1年                                                | 専・2年                                            |
| A       | A.1       |                                                                                    |                                                                |                                                                          |                                                                                                 |                                                                                                                                |                                                     | 環境工学特論                                          |
|         | A.2       | 工学基礎演習Ⅰ                                                                            |                                                                |                                                                          | 実用法律学                                                                                           | 工業法規                                                                                                                           |                                                     | 環境工学特論                                          |
|         | A.3       | 工学基礎演習Ⅰ                                                                            |                                                                |                                                                          | 工学倫理                                                                                            |                                                                                                                                | 技術者倫理                                               | 科学技術論<br>環境工学特論                                 |
|         | A.4       | 体育Ⅰ                                                                                | 体育Ⅱ                                                            | 体育Ⅲ                                                                      | 総合体育                                                                                            | 現代企業論                                                                                                                          | 技術者倫理                                               |                                                 |
| B       | B.1       | 現代国語Ⅰ<br>古典Ⅰ<br>英研<br>ものづくり基礎工学<br>工学基礎演習Ⅰ                                         | 現代国語Ⅱ<br>古典Ⅱ<br>音楽                                             | 文章表現Ⅱ                                                                    | 機械・電気工学基礎ⅠA<br>インターンシップ                                                                         |                                                                                                                                | 文章表現Ⅱ                                               | 日本文化論<br>世界の多文化<br>科学技術論<br>中小企業・ベンチャー論<br>芸術特論 |
|         | B.2       | ReadingⅠ<br>ReadingⅡ<br>ReadingⅢ<br>ListeningⅠ<br>ListeningⅡ<br>OralCommunicationⅠ | ReadingⅡ<br>ScienceEnglish<br>ListeningⅡ<br>OralCommunicationⅡ | ReadingⅢ<br>ListeningⅢ<br>OralCommunicationⅢ                             | TW(English)                                                                                     |                                                                                                                                | 英語演習Ⅰ<br>英語演習Ⅱ                                      | 英語特論                                            |
|         | B.3       |                                                                                    |                                                                |                                                                          |                                                                                                 |                                                                                                                                | 英語演習Ⅱ                                               | 英語特論                                            |
|         | B.4       |                                                                                    |                                                                |                                                                          |                                                                                                 |                                                                                                                                | 英語演習Ⅰ                                               | 英語特論                                            |
|         | B.5       |                                                                                    |                                                                |                                                                          |                                                                                                 |                                                                                                                                |                                                     |                                                 |
|         | B.6       |                                                                                    |                                                                |                                                                          |                                                                                                 |                                                                                                                                |                                                     |                                                 |
| C       | C.1       | 代数Ⅰ<br>代数Ⅱ<br>線形<br>工学基礎演習Ⅱ                                                        | 微分積分Ⅰ<br>微分積分Ⅱ<br>線形代数学Ⅰ                                       | 解析学Ⅰ<br>解析学Ⅱ<br>線形代数学Ⅱ                                                   | 応用数学Ⅰ<br>応用数学Ⅱ                                                                                  |                                                                                                                                | 線形空間論<br>数値解析<br>応用解析学                              | 線形代数                                            |
|         | C.2       |                                                                                    | 基礎集団                                                           | 機械設計集団ⅠA                                                                 | 機械設計集団Ⅱ                                                                                         |                                                                                                                                | 計算機工学特論                                             |                                                 |
|         | C.3       |                                                                                    | 環境地理                                                           |                                                                          | 機械・電気工学実験ⅠA                                                                                     | 機械・電気工学実験Ⅱ                                                                                                                     |                                                     |                                                 |
|         | C.4       | 化学Ⅰ<br>ものづくり基礎工学<br>工学基礎演習Ⅰ                                                        | 化学Ⅱ                                                            |                                                                          |                                                                                                 | 化学工学                                                                                                                           | 化学特論                                                |                                                 |
|         | C.5       | 物理<br>工学基礎演習Ⅰ                                                                      | 物理                                                             | 応用物理Ⅰ                                                                    | 応用物理Ⅱ                                                                                           |                                                                                                                                | 実験物理<br>基礎物理学特論<br>量子物理学<br>物性物理学<br>一般力学<br>システム制御 | センサー工学                                          |
|         | C.6       |                                                                                    | 機械学<br>基礎集団<br>機械製作実習A                                         | 工業力学A<br>工業力学B<br>工業力学演習<br>機械設計ⅡA<br>機械設計ⅡB<br>材料学A<br>材料学B<br>メカトロニクスⅠ | 振動工学<br>動力学A<br>動力学B<br>動力学演習<br>材料力学Ⅰ<br>材料力学Ⅱ<br>流体力学A<br>流体力学B<br>機械製作ⅡA<br>機械製作ⅡB<br>高層機械実習 | 造形工学<br>加工学<br>計測工学<br>制御工学A<br>制御工学B<br>ロボット機構<br>高度システム工学<br>計算力学A<br>計算力学B<br>生産工学<br>自動車工学<br>応用メカトロニクス<br>機能材料<br>環境省エネ技術 |                                                     |                                                 |
|         | C.7       | ものづくり基礎工学                                                                          |                                                                |                                                                          | 機械・電気工学実験ⅠA                                                                                     | 機械・電気工学実験Ⅱ                                                                                                                     |                                                     |                                                 |
|         | C.8       | ものづくり基礎工学                                                                          |                                                                |                                                                          | 機械・電気工学実験ⅠA                                                                                     | 機械・電気工学実験Ⅱ                                                                                                                     |                                                     |                                                 |
|         | C.9       |                                                                                    |                                                                | 機械設計集団ⅠA                                                                 | 機械設計集団Ⅱ                                                                                         |                                                                                                                                |                                                     |                                                 |
|         | C.10      |                                                                                    |                                                                |                                                                          | 機械・電気工学実験ⅠA                                                                                     | 機械・電気工学実験Ⅱ                                                                                                                     |                                                     |                                                 |
| C.11    |           |                                                                                    | メカトロニクス実習                                                      | 機械・電気工学実験ⅠA                                                              | 機械・電気工学実験Ⅱ                                                                                      | 卒業研究                                                                                                                           |                                                     |                                                 |
| C.12    |           |                                                                                    | メカトロニクス実習                                                      |                                                                          |                                                                                                 | 卒業研究                                                                                                                           |                                                     |                                                 |
| C.13    | ものづくり基礎工学 | 機械製作実習A                                                                            | 応用機械製作実習A<br>メカトロニクス実習                                         |                                                                          |                                                                                                 |                                                                                                                                | 環境工学特論                                              |                                                 |
| C.14    |           |                                                                                    |                                                                | 電気工学A<br>電気工学B<br>電子工学Ⅰ                                                  |                                                                                                 |                                                                                                                                |                                                     |                                                 |
| D       | D.1       | 健康科学<br>体育Ⅰ<br>英研                                                                  | 体育Ⅱ<br>音楽                                                      | 体育Ⅲ                                                                      | 総合体育                                                                                            |                                                                                                                                |                                                     |                                                 |
|         | D.2       | 倫理思想<br>体育Ⅰ                                                                        | 体育Ⅱ                                                            | 体育Ⅲ                                                                      | 総合体育                                                                                            |                                                                                                                                |                                                     |                                                 |
|         | D.3       | 倫理思想<br>健康科学<br>英研                                                                 | 敬信経典<br>日本史<br>音楽                                              |                                                                          | 実用法律学                                                                                           | 現代企業論                                                                                                                          | 技術者倫理                                               | 中小企業・ベンチャー論<br>芸術特論                             |
|         | D.4       |                                                                                    |                                                                |                                                                          |                                                                                                 |                                                                                                                                | 英語演習Ⅰ<br>英語演習Ⅱ                                      |                                                 |
|         | D.5       |                                                                                    |                                                                | 科学技術史                                                                    |                                                                                                 |                                                                                                                                |                                                     |                                                 |
| その他     |           |                                                                                    |                                                                | 人文ゼミⅠ<br>地域連携論                                                           | 人文ゼミⅡ<br>選民外語論<br>数字総合演習<br>機械工学特別演習Ⅰ<br>機械工学特別演習Ⅱ<br>機械工学特別演習Ⅲ                                 |                                                                                                                                |                                                     |                                                 |

(出典 自己点検評価委員会資料)

資料5-5-①-2

学習・教育目標と科目との関連表

|         |           | 電気工学科-電気電子工学専攻 (電気コース)                                       |                                                                |                                              |                                                                                                                                                |                                                                                                                                   |                                                  |                     |
|---------|-----------|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------|
| 学習・教育目標 | 1年        | 2年                                                           | 3年                                                             | 4年                                           | 5年                                                                                                                                             | 専・1年                                                                                                                              | 専・2年                                             |                     |
| A       | A.1       |                                                              |                                                                |                                              |                                                                                                                                                |                                                                                                                                   | 環境工学特論                                           |                     |
|         | A.2       |                                                              |                                                                |                                              | 実用法律学                                                                                                                                          |                                                                                                                                   | 環境工学特論                                           |                     |
|         | A.3       |                                                              |                                                                |                                              | 工学倫理                                                                                                                                           | 技術者倫理                                                                                                                             | 科学技術論<br>環境工学特論                                  |                     |
|         | A.4       |                                                              |                                                                |                                              | 工学倫理<br>インターンシップ                                                                                                                               | 現代企業論                                                                                                                             | 技術者倫理                                            |                     |
| B       | B.1       | 体育Ⅰ                                                          | 体育Ⅱ                                                            | 体育Ⅲ                                          | 総合体育                                                                                                                                           |                                                                                                                                   |                                                  |                     |
|         | B.2       | 現代国語Ⅰ<br>古典Ⅰ<br>美術                                           | 現代国語Ⅱ<br>古典Ⅱ<br>音楽                                             | 文章表現法                                        | インターンシップ                                                                                                                                       | 文章表現論                                                                                                                             | 日本文化論<br>世界の宗教文化<br>科学技術論<br>中小企業・ベンチャー論<br>英語特論 |                     |
|         | B.3       | ReadingⅠ<br>BasicGrammar<br>ListeningⅠ<br>OralCommunicationⅠ | ReadingⅡ<br>ScienceEnglish<br>ListeningⅡ<br>OralCommunicationⅡ | ReadingⅢ<br>ListeningⅢ<br>OralCommunicationⅢ | TUEICEnglish<br>工業実用英語                                                                                                                         | 英語演習Ⅰ<br>英語演習Ⅱ                                                                                                                    | 英語特論                                             |                     |
|         | B.4       |                                                              |                                                                |                                              |                                                                                                                                                | 英語演習Ⅱ                                                                                                                             | 英語特論                                             |                     |
|         | B.5       |                                                              |                                                                |                                              |                                                                                                                                                | 英語演習Ⅰ                                                                                                                             | 英語特論                                             |                     |
| C       | C.1       | 代数Ⅰ<br>代数Ⅱ<br>微分<br>工学基礎演習Ⅱ                                  | 微分積分Ⅰ<br>微分積分Ⅱ<br>線形代数Ⅰ                                        | 解析学Ⅰ<br>解析学Ⅱ<br>線形代数Ⅱ                        | 応用数学Ⅰ<br>応用数学Ⅱ                                                                                                                                 |                                                                                                                                   | 線形空間論<br>数値解析<br>応用解析学                           | 離散数学                |
|         | C.2       |                                                              | プログラミング言語Ⅰ                                                     | プログラミング言語Ⅱ<br>デジタル回路                         | アナログ回路Ⅰ<br>アナログ回路Ⅱ<br>創発工学Ⅰ<br>創発工学Ⅱ<br>電子計算機Ⅰ<br>電子計算機Ⅱ                                                                                       | オペレーティングシステムⅠ<br>オペレーティングシステムⅡ                                                                                                    | 計算機工学特論                                          |                     |
|         | C.3       |                                                              |                                                                |                                              | インターンシップ<br>創発電気実験Ⅲ                                                                                                                            | 卒業研究                                                                                                                              |                                                  |                     |
|         | C.4       | 化学Ⅰ<br>ものづくり基礎工学<br>工学基礎演習Ⅰ                                  | 化学Ⅱ                                                            |                                              |                                                                                                                                                |                                                                                                                                   | 化学特論                                             |                     |
|         | C.5       | 物産<br>工学基礎演習Ⅰ                                                | 物産                                                             | 応用物理Ⅰ<br>電磁気学Ⅰ<br>電磁気学Ⅱ                      | 応用物理Ⅱ<br>応用物理Ⅲ<br>電磁気学Ⅲ                                                                                                                        |                                                                                                                                   | 実験物理<br>半導体工学特論<br>原子核物理<br>物性物理<br>一般力学         |                     |
|         | C.6       |                                                              | 基礎電気回路<br>電気回路Ⅰ                                                | 電気回路Ⅱ<br>基礎電子工学                              | 通信現象論<br>回路網理論<br>電磁エネルギー変換Ⅰ<br>電磁エネルギー変換Ⅱ<br>電子物性Ⅰ<br>電子物性Ⅱ<br>アナログ回路Ⅰ<br>アナログ回路Ⅱ<br>電気電子制御Ⅰ<br>電気電子制御Ⅱ<br>創発工学Ⅰ<br>創発工学Ⅱ<br>電子計算機Ⅰ<br>電子計算機Ⅱ | オペレーティングシステムⅠ<br>オペレーティングシステムⅡ<br>デジタル信号処理<br>電磁波工学<br>情報通信工学<br>電子物性工学<br>半導体物性<br>集積デバイス工学<br>超高現代制御<br>電力システム工学<br>パワーエレクトロニクス | システム制御                                           | センサー工学              |
|         | C.7       | ものづくり基礎工学                                                    | 創発電気実験Ⅰ                                                        | 創発電気実験Ⅱ                                      | 電気電子制御Ⅰ<br>電気電子制御Ⅱ<br>創発電気実験Ⅲ                                                                                                                  | 創発電気実験Ⅳ<br>卒業研究                                                                                                                   |                                                  |                     |
|         | C.8       | ものづくり基礎工学                                                    | 創発電気実験Ⅰ                                                        | 創発電気実験Ⅱ                                      | 電気電子制御Ⅰ<br>電気電子制御Ⅱ<br>創発電気実験Ⅲ                                                                                                                  | 創発電気実験Ⅳ<br>卒業研究                                                                                                                   |                                                  |                     |
|         | C.9       |                                                              |                                                                |                                              | 創発電気実験Ⅲ                                                                                                                                        | 卒業研究                                                                                                                              |                                                  |                     |
|         | C.10      |                                                              | プログラミング言語Ⅰ                                                     | プログラミング言語Ⅱ                                   | 創発電気実験Ⅲ                                                                                                                                        | 卒業研究                                                                                                                              |                                                  |                     |
| C.11    |           | 創発電気実験Ⅰ                                                      | 創発電気実験Ⅱ                                                        | 創発電気実験Ⅲ                                      | 卒業研究                                                                                                                                           |                                                                                                                                   |                                                  |                     |
| C.12    |           |                                                              |                                                                | 創発電気実験Ⅲ                                      | 卒業研究                                                                                                                                           |                                                                                                                                   |                                                  |                     |
| C.13    | ものづくり基礎工学 | 創発電気実験Ⅰ                                                      | 創発電気実験Ⅱ                                                        | 創発電気実験Ⅲ<br>インターンシップ                          | 卒業研究                                                                                                                                           |                                                                                                                                   |                                                  |                     |
| C.14    |           |                                                              |                                                                |                                              |                                                                                                                                                |                                                                                                                                   | 環境工学特論                                           |                     |
| D       | D.1       | 健康科学<br>体育Ⅰ<br>芸術                                            | 体育Ⅱ<br>音楽                                                      | 体育Ⅲ                                          | 総合体育                                                                                                                                           |                                                                                                                                   |                                                  |                     |
|         | D.2       | 健康思想<br>体育Ⅰ                                                  | 体育Ⅱ                                                            | 体育Ⅲ                                          | 総合体育                                                                                                                                           |                                                                                                                                   |                                                  |                     |
|         | D.3       | 健康思想<br>健康科学<br>芸術                                           | 実用経済<br>日本史<br>音楽                                              |                                              | 実用法律学                                                                                                                                          | 現代企業論                                                                                                                             | 技術者倫理                                            | 中小企業・ベンチャー論<br>英語特論 |
|         | D.4       |                                                              |                                                                |                                              |                                                                                                                                                |                                                                                                                                   | 英語演習Ⅰ<br>英語演習Ⅱ                                   |                     |
|         | D.5       |                                                              |                                                                | 科学技術史                                        |                                                                                                                                                | 卒業研究                                                                                                                              |                                                  |                     |
| その他     |           |                                                              |                                                                | 人文ゼミⅠ<br>相城定業論                               | 人文ゼミⅡ<br>漢英外国語<br>数学総合演習<br>電気技術特論<br>通信技術特論<br>情報技術特論                                                                                         |                                                                                                                                   |                                                  |                     |

(出典 自己点検評価委員会資料)

資料5-5-①-3

学習・教育目標と科目との関連表

| 学習・教育目標 | 電子工学科～電気電子工学科 (電子コース)                                             |                                                                        |                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                             |                                                                             |                                          |                                                          |
|---------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
|         | 1年                                                                | 2年                                                                     | 3年                                                                                                                                  | 4年                                                                                                                                                                          | 5年                                                                          | 専・1年                                     | 専・2年                                                     |
| A1      |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                             |                                                                             |                                          | 環境工学特論                                                   |
| A2      |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     | 実用法律学                                                                                                                                                                       | 無給工学及び電気伊<br>産業財源論                                                          |                                          | 環境工学特論                                                   |
| A3      |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     | 工学倫理                                                                                                                                                                        |                                                                             | 技術者倫理                                    | 科学技術論<br>環境工学特論                                          |
| A4      |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     | 工学倫理<br>インターンシップ                                                                                                                                                            | 現代企業論<br>卒業研究                                                               | 技術者倫理                                    | 環境工学特論                                                   |
| B1      | 作育I                                                               | 作育II<br>電子工学実験 I                                                       | 作育III<br>電子工学実験 II                                                                                                                  | 総合体育<br>電子工学実験 III                                                                                                                                                          | 電子工学実験 IV                                                                   |                                          |                                                          |
| B2      | 現代語I<br>古典I<br>美術                                                 | 現代語II<br>古典II<br>音楽                                                    | 文章表現I                                                                                                                               | インターンシップ                                                                                                                                                                    | 卒業研究<br>電子工学実験 IV                                                           | 文章表現論                                    | 日本文化論<br>世界の宗教文化<br>科学技術論<br>中小企業・ベンチャー論<br>英語特論<br>英語特論 |
| B3      | Reading I<br>Basic Grammar<br>Listening I<br>Oral Communication I | Reading II<br>Science English<br>Listening II<br>Oral Communication II | Reading III<br>Listening III<br>Oral Communication III                                                                              | TOEIC English                                                                                                                                                               | 電子工学論議                                                                      | 英語講習 I<br>英語講習 II                        |                                                          |
| B4      |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                             |                                                                             | 英語講習 II                                  | 英語特論                                                     |
| B5      |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                             |                                                                             | 英語講習 I                                   | 英語特論                                                     |
| C1      | 代表 I<br>代表 II<br>幾何<br>工学基礎講習 II                                  | 微分積分学 I<br>微分積分学 II<br>線形代数学 I<br>複素関数 I<br>電気電子特論 I<br>電気電子特論 II      | 解析学 I<br>解析学 II<br>線形代数学 II<br>電子工学講習 I<br>電子工学講習 II<br>電子計測<br>電磁気学 I<br>電磁気学 II<br>電子回路 I<br>高周波電子工学 II                           | 確率・統計<br>工業数学 I<br>工業数学 II<br>工業数学 III<br>工業数学 IV<br>回路網理論<br>電子工学講習 III<br>電子工学講習 IV<br>遠度現象<br>ひずみ伝交換<br>電磁気学 III<br>制御工学<br>応用物理 II<br>応用物理 III<br>固体電子工学 I<br>固体電子工学 II | 信号処理工学<br>電子物性<br>マイクロ波工学<br>量子回路                                           |                                          | 離散数学                                                     |
| C2      |                                                                   |                                                                        | コンピュータ工学<br>電子計測<br>デジタル回路                                                                                                          | コンピュータ応用<br>制御工学<br>プロジェクト講習<br>情報処理                                                                                                                                        |                                                                             |                                          | 計算機工学特論                                                  |
| C3      |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     | インターンシップ                                                                                                                                                                    | 卒業研究                                                                        |                                          |                                                          |
| C4      | 化学 I<br>ものづくり基礎工学<br>工学基礎講習 I                                     | 化学 II                                                                  |                                                                                                                                     | 固体電子工学 I<br>固体電子工学 II<br>電子材料                                                                                                                                               | 電子物性                                                                        | 化学特論                                     |                                                          |
| C5      | 物理<br>工学基礎講習 I                                                    | 物理<br>電気電子特論 I<br>電気電子特論 II                                            | 電子工学講習 I<br>電子工学講習 II<br>電磁気学 I<br>電磁気学 II<br>応用物理 I<br>基礎電子工学 I<br>基礎電子工学 II<br>電子計測                                               | 応用物理 II<br>応用物理 III<br>電磁気学 I I<br>電子材料<br>固体電子工学 I<br>固体電子工学 II<br>電子工学講習 IV<br>エネルギー変換工学概論                                                                                | 電子物性<br>量子回路<br>電子応用                                                        | 表層物理<br>半導体工学特論<br>原子核物理<br>物性物理<br>一般力学 |                                                          |
| C6      |                                                                   | 電気回路 I<br>電子工学実験 I<br>電気電子特論 I<br>電気電子特論 II                            | 電子工学講習 I<br>電子工学講習 II<br>コンピュータ工学<br>電子計測<br>基礎電子工学 I<br>基礎電子工学 II<br>デジタル回路<br>電気回路 II<br>電子回路 I<br>電磁気学 I<br>電磁気学 II<br>電子工学実験 II | 電子回路 I I<br>電磁気学 I I<br>固体電子工学 I<br>回路網理論<br>電子材料<br>電子工学講習 III<br>電子工学講習 IV<br>遠度現象<br>ペルス回路<br>エネルギー変換工学概論<br>プロジェクト講習<br>電子工学実験 III<br>制御工学                              | マイクロ波工学<br>LSI工学<br>電子物性<br>電波工学<br>量子回路<br>電子応用<br>通信工学<br>電子工学実験 IV       | システム概論                                   | センサー工学                                                   |
| C7      | ものづくり基礎工学                                                         |                                                                        | 電子工学実験 II                                                                                                                           | 電子工学実験 III<br>インターンシップ<br>プロジェクト講習<br>論議・統計<br>電子工学実験 III                                                                                                                   | 電子工学実験 IV<br>卒業研究                                                           |                                          |                                                          |
| C8      | ものづくり基礎工学                                                         | 電子工学実験 I                                                               | 電子工学実験 II                                                                                                                           |                                                                                                                                                                             | 卒業研究<br>電子工学実験 IV                                                           |                                          |                                                          |
| C9      |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                             | 卒業研究<br>電子工学実験 IV                                                           |                                          |                                                          |
| C10     |                                                                   | 電子工学実験 I                                                               | 電子工学実験 II                                                                                                                           | 電子工学実験 III                                                                                                                                                                  | 卒業研究<br>電子工学実験 IV                                                           |                                          |                                                          |
| C11     |                                                                   | 電子工学実験 I                                                               | 電子工学実験 II                                                                                                                           | インターンシップ<br>電子工学実験 III<br>プロジェクト講習                                                                                                                                          | 卒業研究<br>電子工学実験 IV<br>電子工学実験 IV                                              |                                          |                                                          |
| C12     |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                             | 卒業研究<br>電子工学実験 IV<br>電子工学実験 IV                                              |                                          |                                                          |
| C13     | ものづくり基礎工学                                                         |                                                                        |                                                                                                                                     | プロジェクト講習                                                                                                                                                                    |                                                                             |                                          | 環境工学特論                                                   |
| C14     |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                             |                                                                             |                                          | 環境工学特論                                                   |
| D1      | 健康科学<br>体育 I<br>風習                                                | 作育 II<br>音楽                                                            | 作育 III                                                                                                                              | 総合体育                                                                                                                                                                        |                                                                             |                                          |                                                          |
| D2      | 倫理思想<br>探究 I                                                      | 作育 II                                                                  | 作育 III                                                                                                                              | 総合体育                                                                                                                                                                        |                                                                             |                                          |                                                          |
| D3      | 倫理思想<br>探究 I<br>健康科学<br>風習                                        | 政治経済<br>日本史<br>音楽                                                      |                                                                                                                                     | 実用法律学                                                                                                                                                                       | 現代企業論<br>電波及び電気伊規                                                           | 技術者倫理                                    | 中小企業・ベンチャー論<br>英語特論                                      |
| D4      |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                             |                                                                             | 英語講習 I<br>英語講習 II                        |                                                          |
| D5      |                                                                   |                                                                        | 科学技術史                                                                                                                               |                                                                                                                                                                             |                                                                             |                                          |                                                          |
| その他     |                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                     | 人文ゼミ I<br>地域産業論                                                                                                                                                             | 人文ゼミ II<br>海外外国語<br>数学総合講習<br>電子工学特論<br>電子工学特論<br>電子工学特別講習 I<br>電子工学特別講習 II |                                          |                                                          |

(出典 自己点検評価委員会)

学習・教育目標と科目との関連表

|         |           | 情報工学科～機械情報システム工学科 専攻 (情報コース)                                   |                                                                     |                                                                                    |                                                                                                                                            |                                                                                             |                                          |                                                  |
|---------|-----------|----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 学習・教育目標 | 1年        | 2年                                                             | 3年                                                                  | 4年                                                                                 | 5年                                                                                                                                         | 専・1年                                                                                        | 専・2年                                     |                                                  |
| A       | A.1       |                                                                |                                                                     |                                                                                    |                                                                                                                                            |                                                                                             |                                          | 機設工学特長                                           |
|         | A.2       |                                                                |                                                                     |                                                                                    | 実用法律学                                                                                                                                      |                                                                                             |                                          | 機設工学特長                                           |
|         | A.3       |                                                                |                                                                     |                                                                                    | 工学倫理                                                                                                                                       |                                                                                             | 技術者倫理                                    | 科学技術倫理<br>機設工学特長                                 |
|         | A.4       |                                                                |                                                                     | 知能工学Ⅰ                                                                              | 工学倫理<br>インターンシップ                                                                                                                           | 現代企業論                                                                                       | 技術者倫理                                    |                                                  |
| B       | B.1       | 体育Ⅰ                                                            | 体育Ⅱ                                                                 | 体育Ⅲ                                                                                | 知能工学Ⅱ<br>知能工学Ⅲ                                                                                                                             | 総合体育<br>知能工学Ⅱ                                                                               |                                          |                                                  |
|         | B.2       | 現代国語Ⅰ<br>古典Ⅰ<br>英語                                             | 現代国語Ⅱ<br>古典Ⅱ<br>音楽                                                  | 知能工学Ⅰ                                                                              | オペレーティングシステムⅠ<br>知能工学Ⅱ<br>情報工学ゼミナール<br>インターンシップ                                                                                            | 計算機システム                                                                                     | 文章表現論                                    | 日本文化論<br>世界の宗教文化<br>科学技術論<br>中小企業・ベンチャー論<br>英語特長 |
| B       | B.3       | ReadingⅠ<br>Basic Grammar<br>ListeningⅠ<br>Oral CommunicationⅠ | ReadingⅡ<br>Scientific English<br>ListeningⅡ<br>Oral CommunicationⅡ | ReadingⅢ<br>ListeningⅢ<br>Oral CommunicationⅢ                                      | TOE(English)                                                                                                                               |                                                                                             | 英語演習Ⅰ<br>英語演習Ⅱ                           | 英語特長                                             |
|         | B.4       |                                                                |                                                                     |                                                                                    | 卒業研究Ⅰ                                                                                                                                      | 卒業研究Ⅱ<br>卒業論文                                                                               | 英語演習Ⅱ                                    | 英語特長                                             |
|         | B.5       |                                                                |                                                                     |                                                                                    |                                                                                                                                            |                                                                                             | 英語演習Ⅰ                                    | 英語特長                                             |
| C       | C.1       | 代数Ⅰ<br>代数Ⅱ<br>微分<br>工学基礎演習Ⅱ                                    | 微分積分学Ⅰ<br>微分積分学Ⅱ<br>線形代数Ⅰ<br>線形代数Ⅱ<br>線形代数Ⅲ                         | 解析学Ⅰ<br>解析学Ⅱ<br>線形代数Ⅲ<br>微分・積分Ⅰ<br>微分・積分Ⅱ<br>情報数学Ⅰ<br>電気回路Ⅰ<br>電子計算機Ⅰ<br>コンピュータ制御論 | 情報数学Ⅱ<br>応用数学Ⅰ<br>応用数学Ⅱ<br>応用数学Ⅲ<br>線形・統計Ⅰ<br>線形・統計Ⅱ<br>情報数学Ⅱ<br>応用計算機設計<br>制御工学Ⅰ<br>制御工学Ⅱ<br>コンピュータ符号処理Ⅰ<br>デジタル符号処理Ⅱ<br>情報通信工学Ⅰ<br>知能工学Ⅱ | 情報理論<br>制御工学Ⅱ                                                                               | 線形代数論<br>数値解析<br>応用解析学                   | 離散数学                                             |
|         | C.2       |                                                                | 情報基礎<br>プログラミング言語                                                   | 電気回路Ⅱ<br>電子回路<br>コンピュータ制御論                                                         | 応用数学Ⅲ<br>電子計算機Ⅱ<br>オペレーティングシステムⅡ<br>応用計算機設計<br>制御工学Ⅱ<br>制御工学Ⅲ<br>情報通信工学Ⅱ<br>情報通信工学Ⅲ                                                        | 行方理論<br>制御工学Ⅲ<br>プログラミング言語特長Ⅰ<br>プログラミング言語特長Ⅱ<br>オペレーティングシステムⅡ                              | 計算機工学特長                                  |                                                  |
|         | C.3       |                                                                |                                                                     |                                                                                    | 情報工学ゼミナール<br>インターンシップ                                                                                                                      | プログラミング言語特長Ⅰ<br>計算機システム                                                                     |                                          | 計算機工学特長                                          |
|         | C.4       | 化学Ⅰ<br>ものづくり基礎工学<br>工学基礎演習Ⅰ                                    | 化学Ⅱ                                                                 |                                                                                    |                                                                                                                                            |                                                                                             |                                          | 化学特長                                             |
|         | C.5       | 物理<br>工学基礎演習Ⅰ                                                  | 物理                                                                  | 応用物理Ⅰ<br>コンピュータ制御論                                                                 | 応用数学Ⅳ<br>応用物理Ⅱ<br>応用物理Ⅲ<br>制御工学Ⅳ<br>制御工学Ⅴ                                                                                                  | 制御工学Ⅳ<br>制御工学Ⅴ                                                                              | 基礎物理<br>半導体工学特長<br>原子核物理<br>物性物理<br>一般力学 |                                                  |
|         | C.6       |                                                                |                                                                     | コンピュータ制御論<br>知能工学Ⅰ                                                                 | 応用数学Ⅰ<br>応用数学Ⅱ<br>応用数学Ⅲ<br>英語プログラミングⅡ<br>制御工学Ⅰ<br>制御工学Ⅱ<br>デジタル符号処理Ⅰ<br>デジタル符号処理Ⅱ<br>知能工学Ⅱ                                                 | 制御工学Ⅱ<br>知能情報工学                                                                             | システム制御                                   | センサー工学                                           |
|         | C.7       | ものづくり基礎工学                                                      | 情報工学実験Ⅰ                                                             | 情報工学実験Ⅱ                                                                            | 情報工学実験Ⅲ<br>卒業研究Ⅰ<br>インターンシップ                                                                                                               | 情報工学実験Ⅳ<br>卒業研究Ⅱ                                                                            |                                          |                                                  |
|         | C.8       | ものづくり基礎工学                                                      | 情報工学実験Ⅰ                                                             | 線形・統計Ⅰ<br>線形・統計Ⅱ<br>英語プログラミングⅠ<br>情報工学実験Ⅰ                                          | 英語プログラミングⅡ<br>情報工学実験Ⅱ<br>インターンシップ                                                                                                          | 情報工学実験Ⅳ                                                                                     |                                          |                                                  |
|         | C.9       |                                                                |                                                                     |                                                                                    | 卒業研究Ⅰ                                                                                                                                      | 卒業研究Ⅱ                                                                                       |                                          |                                                  |
|         | C.10      |                                                                | 情報基礎<br>プログラミング言語                                                   | 英語プログラミングⅠ                                                                         | 英語プログラミングⅡ<br>卒業論文Ⅰ<br>卒業論文Ⅱ                                                                                                               | プログラミング言語特長Ⅱ<br>卒業論文Ⅲ<br>卒業論文Ⅳ                                                              |                                          |                                                  |
| C.11    |           |                                                                |                                                                     | 卒業論文Ⅲ                                                                              | 卒業論文Ⅳ                                                                                                                                      |                                                                                             |                                          |                                                  |
| C.12    |           |                                                                |                                                                     | 応用数学Ⅳ<br>卒業論文Ⅴ                                                                     | 卒業論文Ⅴ                                                                                                                                      |                                                                                             |                                          |                                                  |
| C.13    | ものづくり基礎工学 | 情報基礎<br>プログラミング言語                                              |                                                                     |                                                                                    |                                                                                                                                            |                                                                                             |                                          |                                                  |
| C.14    |           |                                                                |                                                                     | 情報工学実験Ⅴ<br>卒業論文Ⅵ<br>総合実習                                                           | 情報工学実験Ⅵ<br>卒業論文Ⅶ                                                                                                                           |                                                                                             | 機設工学特長                                   |                                                  |
| D       | D.1       | 健康科学<br>体育Ⅰ<br>英語<br>倫理思想<br>社会学<br>芸術                         | 体育Ⅱ<br>音楽                                                           | 体育Ⅲ                                                                                | 総合体育                                                                                                                                       | 情報通信工学Ⅵ                                                                                     |                                          |                                                  |
|         | D.2       |                                                                | 体育Ⅱ                                                                 | 体育Ⅲ                                                                                | 総合体育                                                                                                                                       | 情報通信工学Ⅵ                                                                                     |                                          |                                                  |
|         | D.3       | 倫理思想<br>健康科学<br>芸術                                             | 政治経済<br>社会学<br>音楽                                                   |                                                                                    | 実用法律学<br>情報工学ゼミナール                                                                                                                         | 現代企業論<br>知的財産権                                                                              | 技術者倫理                                    | 中小企業・ベンチャー論<br>英語特長                              |
|         | D.4       |                                                                |                                                                     | 科学技術史                                                                              | 情報通信工学Ⅱ<br>情報通信工学Ⅲ                                                                                                                         | 計算機システム<br>コンピュータグラフィックス                                                                    | 英語演習Ⅰ<br>英語演習Ⅱ                           |                                                  |
|         | D.5       |                                                                |                                                                     |                                                                                    | 人文文化Ⅰ<br>伝統産業論                                                                                                                             | 人文文化Ⅱ<br>海外外国語<br>数字総合演習<br>英語ものづくり工学Ⅰ<br>英語ものづくり工学Ⅱ<br>実用情報通信特長Ⅰ<br>実用情報通信特長Ⅱ<br>実用情報通信特長Ⅲ |                                          |                                                  |
| その他     |           | 英語ものづくり工学Ⅰ                                                     | 英語ものづくり工学Ⅰ<br>英語ものづくり工学Ⅱ                                            |                                                                                    |                                                                                                                                            |                                                                                             |                                          |                                                  |

(出典 自己点検評価委員会資料)



資料 5-5-①-5

学習・教育目標と科目との関連表

| 学習・教育目標 | 物質工学科-物質工学専攻 |                                                         |                                                         |                                                                                |                                                                                                                                                |                                          |                                                 |                     |
|---------|--------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------|
|         | 1年           | 2年                                                      | 3年                                                      | 4年                                                                             | 5年                                                                                                                                             | 専・1年                                     | 専・2年                                            |                     |
| A       | A.1          |                                                         |                                                         | 有機化学Ⅱ<br>環境化学                                                                  | 環境工学<br>安全工学<br>安全工学<br>安全工学<br>安全工学                                                                                                           |                                          | 環境工学特論                                          |                     |
|         | A.2          |                                                         |                                                         | 実用英語学                                                                          |                                                                                                                                                |                                          | 環境工学特論                                          |                     |
|         | A.3          |                                                         |                                                         | 工学特論<br>分子生物学Ⅰ                                                                 | 分子生物学Ⅱ<br>エネルギー工学<br>安全工学                                                                                                                      | 英語特論                                     | 科学技術論<br>環境工学特論                                 |                     |
|         | A.4          |                                                         |                                                         | 工学特論<br>インフォメーション                                                              | 現代企業論                                                                                                                                          | 英語特論                                     |                                                 |                     |
| B       | B.1          | 体育Ⅰ<br>分析化学実験                                           | 体育Ⅱ<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                               | 体育Ⅲ<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                                                      | 体育Ⅳ<br>物産化学・材料化学実験<br>化学工学・生物化学実験<br>ゼミナール<br>インフォメーション                                                                                        | 卒業研究                                     |                                                 |                     |
|         | B.2          | 現代国語Ⅰ<br>古典Ⅱ<br>英学                                      | 現代国語Ⅱ<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                             | 現代国語Ⅲ<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                                                    | 現代国語Ⅳ<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                                                                                                                    | 卒業研究                                     | 日本文化論<br>世界の宗教文化<br>科学技術論<br>科学技術・文化<br>科学技術・文化 |                     |
|         | B.3          | ReadingⅠ<br>Speaking<br>Listening<br>OralCommunicationⅠ | ReadingⅡ<br>Speaking<br>Listening<br>OralCommunicationⅡ | ReadingⅢ<br>Speaking<br>Listening<br>OralCommunicationⅢ                        | ReadingⅣ<br>Speaking<br>Listening<br>OralCommunicationⅣ                                                                                        | 物質工学特論<br>物質工学特論Ⅱ<br>物質工学特論Ⅲ<br>物質工学特論Ⅳ  | 英語特論Ⅰ<br>英語特論Ⅱ<br>英語特論Ⅲ<br>英語特論Ⅳ                |                     |
|         | B.4          |                                                         |                                                         |                                                                                |                                                                                                                                                | 物質工学特論<br>物質工学特論Ⅱ<br>物質工学特論Ⅲ<br>物質工学特論Ⅳ  | 英語特論Ⅰ<br>英語特論Ⅱ<br>英語特論Ⅲ<br>英語特論Ⅳ                |                     |
| C       | C.1          | 代教Ⅰ<br>代教Ⅱ<br>物理基礎演習Ⅱ                                   | 微分積分Ⅱ<br>線形代数Ⅱ<br>有機化学Ⅰ<br>分析化学<br>量子論Ⅰ<br>有機化学実験       | 解析学Ⅰ<br>解析学Ⅱ<br>線形代数Ⅱ<br>有機化学Ⅱ<br>物理化学Ⅰ<br>分析化学<br>量子論Ⅱ<br>有機化学実験              | 応用数学<br>情報処理Ⅱ<br>量子論Ⅲ<br>有機化学Ⅲ<br>物理化学Ⅱ<br>材料化学Ⅰ<br>化学工学・生物化学実験                                                                                |                                          | 基礎数学<br>基礎数学<br>応用解析学                           |                     |
|         | C.2          |                                                         | 分析化学実験                                                  | 化学工学Ⅰ                                                                          | 化学工学Ⅱ<br>化学工学Ⅲ                                                                                                                                 |                                          | 計算機工学特論                                         |                     |
|         | C.3          |                                                         | 情報処理Ⅰ<br>分析化学実験                                         | 情報化学実験                                                                         | 情報処理Ⅱ<br>物理化学Ⅱ<br>化学工学・生物化学実験<br>インフォメーション                                                                                                     | 材料工学Ⅱ<br>材料力学<br>設計製図<br>基礎工学概論<br>卒業研究  |                                                 |                     |
|         | C.4          | 化学Ⅰ<br>ものづくり基礎工学<br>工学基礎演習Ⅰ                             | 化学Ⅱ<br>物理化学Ⅰ<br>分析化学実験                                  | 物理化学Ⅱ<br>有機化学Ⅰ<br>物理化学Ⅱ<br>分析化学<br>化学工学Ⅰ<br>生物化学<br>量子論Ⅰ<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験 | 有機化学Ⅱ<br>物理化学Ⅱ<br>化学工学Ⅱ<br>生物化学<br>量子論Ⅱ<br>有機化学実験<br>物理化学Ⅲ<br>材料化学Ⅱ<br>材料工学Ⅰ<br>量子化学Ⅰ<br>線形代数Ⅲ<br>物理化学Ⅳ<br>物理化学・材料化学実験<br>化学工学・生物化学実験<br>ゼミナール | 材料工学Ⅱ<br>計算科学<br>材料力学<br>基礎工学概論<br>卒業研究  | 化学特論                                            |                     |
| D       | C.5          | 物理<br>工学基礎演習Ⅰ                                           | 物理<br>物理化学Ⅰ                                             | 応用物理<br>物理化学Ⅱ<br>量子論Ⅲ                                                          | 量子論Ⅳ<br>物理化学Ⅲ<br>物理化学Ⅳ<br>材料工学Ⅰ                                                                                                                | 材料工学Ⅱ<br>計算科学<br>材料力学<br>基礎工学概論          | 実験物理<br>物理化学特論<br>材料化学<br>物理化学                  |                     |
|         | C.6          |                                                         | 物理化学Ⅰ<br>生物化学                                           | 物理化学Ⅱ<br>有機化学Ⅰ<br>物理化学Ⅱ<br>分析化学<br>化学工学Ⅰ<br>生物化学<br>量子論Ⅰ                       | 有機化学Ⅱ<br>物理化学Ⅱ<br>化学工学Ⅱ<br>生物化学<br>量子論Ⅱ<br>有機化学実験<br>物理化学Ⅲ<br>材料化学Ⅱ<br>材料工学Ⅰ<br>量子化学Ⅰ<br>線形代数Ⅲ<br>物理化学Ⅳ<br>物理化学・材料化学実験<br>化学工学・生物化学実験          | 材料工学Ⅱ<br>計算科学<br>材料力学<br>基礎工学概論<br>卒業研究  | シミュレーション<br>センサー工学                              |                     |
|         | C.7          | ものづくり基礎工学                                               | 分析化学実験                                                  | 分析化学<br>物理化学実験<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                                           | 物理化学Ⅱ<br>線形代数Ⅲ<br>物理化学Ⅳ<br>物理化学・材料化学実験<br>化学工学・生物化学実験<br>ゼミナール<br>インフォメーション                                                                    | 材料力学<br>計算科学<br>基礎工学概論<br>物質工学実験<br>卒業研究 |                                                 |                     |
|         | C.8          | ものづくり基礎工学                                               | 情報処理Ⅰ<br>分析化学実験                                         | 情報化学実験                                                                         | 情報処理Ⅱ<br>物理化学Ⅱ<br>物理化学・材料化学実験<br>化学工学・生物化学実験<br>ゼミナール<br>インフォメーション                                                                             | 卒業研究<br>基礎工学概論<br>物質工学実験<br>卒業研究         |                                                 |                     |
| E       | C.9          |                                                         |                                                         | 物質工学創造実験                                                                       | ゼミナール                                                                                                                                          | 材料工学Ⅱ<br>材料力学<br>設計製図<br>卒業研究            |                                                 |                     |
|         | C.10         |                                                         |                                                         | 物質工学実験                                                                         | ゼミナール                                                                                                                                          | 卒業研究<br>卒業研究<br>卒業研究                     |                                                 |                     |
|         | C.11         | 分析化学実験                                                  | 物理化学実験<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                            | 物理化学実験<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                                                   | ゼミナール<br>インフォメーション                                                                                                                             | 卒業研究<br>卒業研究<br>卒業研究                     |                                                 |                     |
|         | C.12         |                                                         |                                                         | 物質工学創造実験                                                                       | ゼミナール                                                                                                                                          | 材料力学<br>基礎工学概論<br>卒業研究                   |                                                 |                     |
| F       | C.13         | ものづくり基礎工学                                               | 物理化学実験<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                            | 物理化学実験<br>有機化学実験<br>物質工学創造実験                                                   | ゼミナール                                                                                                                                          | 材料力学<br>基礎工学概論<br>卒業研究                   |                                                 |                     |
|         | C.14         |                                                         |                                                         | 情報処理Ⅱ                                                                          | 基礎工学概論                                                                                                                                         | 環境工学特論                                   |                                                 |                     |
|         | D.1          | 健康科学<br>応用Ⅰ<br>応用Ⅱ                                      | 体育Ⅲ<br>音楽                                               | 体育Ⅳ                                                                            | 総合体育                                                                                                                                           |                                          |                                                 |                     |
|         | D.2          | 健康科学<br>応用Ⅲ<br>健康科学<br>応用Ⅳ                              | 体育Ⅲ<br>物理工学創造実験                                         | 体育Ⅳ<br>総合体育                                                                    | 実用英語学                                                                                                                                          | 現代企業論                                    | 英語特論Ⅰ<br>英語特論Ⅱ                                  | 中小企業・ベンチャー論<br>英語特論 |
| その他     | D.3          |                                                         |                                                         |                                                                                |                                                                                                                                                |                                          |                                                 |                     |
|         | D.4          |                                                         |                                                         |                                                                                |                                                                                                                                                |                                          |                                                 |                     |
| D.5     |              |                                                         |                                                         |                                                                                |                                                                                                                                                |                                          |                                                 |                     |
| その他     |              | 物質工学演習Ⅰ<br>環境化学特論<br>環境化学特論<br>安全工学特論                   | 物質工学演習Ⅱ<br>環境化学特論<br>環境化学特論<br>安全工学特論                   | 人文ゼミⅠ<br>環境化学特論<br>物質工学演習Ⅲ<br>環境化学特論<br>環境化学特論<br>安全工学特論                       | 人文ゼミⅡ<br>環境化学特論<br>物質工学演習Ⅳ<br>環境化学特論<br>環境化学特論<br>安全工学特論                                                                                       |                                          |                                                 |                     |

(出典 自己点検評価委員会資料)

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科の教育課程の特徴のひとつは、融合複合という目標(学習・教育目標C-14)を達成するために、時間割上、他専攻の科目も履修可能となるように科目を配置し（資料5-5-②-1）、専門共通科目を多く開設（資料5-5-②-2、資料5-5-②-3、資料5-5-②-4）していることである。また、教育の目標に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されている（前掲の資料5-5-①-1、資料5-5-①-2、資料5-5-①-3、資料5-5-①-4、資料5-5-①-5）。

また、シラバスには科目ごとに達成しようとする教育目標が明記してあるため、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっていることがシラバスの例から確認できる（後掲の資料5-6-②-1、5-6-②-2、5-6-②-3）。

（分析結果とその根拠理由）

本校専攻科では、融合複合という目標を達成するために、専門共通科目を多く配置している。また、教育課程は、学習教育目標を達成するために、体系的に編成されている。更に、授業の内容は、教育の目的を達成するために適切なものになっている。

以上により、教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されている。また、授業の内容は、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっている。





資料5-5-②-2

## 3. 物質工学専攻教育課程表(19年度用)

| 種別                      | 区分                  | 科目名         | 開設<br>単位<br>数 | 必修<br>選択<br>の別 | 学年別配当単位数 |    | 担当者            | 備考                   |
|-------------------------|---------------------|-------------|---------------|----------------|----------|----|----------------|----------------------|
|                         |                     |             |               |                | 1年       | 2年 |                |                      |
| 一般科目                    | 演習                  | 英語演習Ⅰ       | 2             | 必修             | 前1、後1    |    | 堀村井<br>村・川北・浅野 | 6単位<br>必修            |
|                         | 演習                  | 英語演習Ⅱ       | 2             | 必修             | 前1、後1    |    |                |                      |
|                         | 講義                  | 技術者倫理       | 2             | 必修             | 前2       |    |                |                      |
|                         | 講義                  | 文章表現論       | 2             | 選択             | 前2       |    | 鈴木             |                      |
|                         | 講義                  | 日本文化論       | 2             | 選択             |          | 前2 | 津田             |                      |
|                         | 講義                  | 世界の宗教文化     | 2             | 選択             |          | 前2 | 川北             |                      |
|                         | 講義                  | 科学技術論       | 2             | 選択             |          | 後2 | 河村             |                      |
|                         | 講義                  | 中小企業・ベンチャー論 | 2             | 選択             |          | 後2 | 浅野             |                      |
| 講義                      | 英語特講                | 2           | 選択            |                | 前2       | 関根 |                |                      |
|                         | 一般科目 計              |             | 18            |                | 8        | 10 |                |                      |
| 専門共通科目                  | 講義                  | 線形空間論       | 2             | 選択             | 前2       |    | 小中澤            | 14<br>単位<br>以上<br>修得 |
|                         | 講義                  | 数値解析        | 2             | 選択             | 前2       |    | 佐藤             |                      |
|                         | 講義                  | 実験物理        | 2             | 選択             | 前2       |    | 大野             |                      |
|                         | 講義                  | 半導体工学特論     | 2             | 選択             | 前2       |    | 鹿毛             |                      |
|                         | 講義                  | 計算機工学特論     | 2             | 選択             | 前2       |    | 館泉             |                      |
|                         | 講義                  | 原子核物理       | 2             | 選択             | 後2       |    | 前段             |                      |
|                         | 講義                  | 応用解析学       | 2             | 選択             | 後2       |    | 揮田             |                      |
|                         | 講義                  | システム制御      | 2             | 選択             | 後2       |    | 小坂             |                      |
|                         | 講義                  | 物性物理        | 2             | 選択             | 後2       |    | 潮              |                      |
|                         | 講義                  | 一般力学        | 2             | 選択             | 後2       |    | 潮              |                      |
|                         | 講義                  | 化学特論        | 2             | 選択             | 後2       |    | 中川             |                      |
|                         | 講義                  | センサー工学      | 2             | 選択             |          | 前2 | 柚賀             |                      |
|                         | 講義                  | 離散数学        | 2             | 選択             |          | 前2 | 中里             |                      |
| 講義                      | 環境工学特論              | 2           | 選択            |                | 前2       | 三谷 |                |                      |
|                         | 専門共通科目 計            |             | 28            |                | 22       | 6  |                |                      |
| 専門科目                    | 講義                  | 構造有機化学      | 2             | 選択             | 前2       |    | 町田             | 18<br>単位<br>以上<br>修得 |
|                         | 講義                  | 物理化学特論      | 2             | 選択             | 前2       |    | 高橋             |                      |
|                         | 講義                  | 工業分析化学      | 2             | 選択             | 前2       |    | 工藤             |                      |
|                         | 講義                  | 基礎材料科学      | 2             | 選択             | 後2       |    | 菊地             |                      |
|                         | 講義                  | 固体物性学       | 2             | 選択             | 前2       |    | 阿久沢            |                      |
|                         | 講義                  | 資源エネルギー化学   | 2             | 選択             | 後2       |    | 石井             |                      |
|                         | 講義                  | 分離工学        | 2             | 選択             | 後2       |    | 三谷             |                      |
|                         | 講義                  | 生物物理化学      | 2             | 選択             | 後2       |    | 庄司             |                      |
|                         | 講義                  | 移動速度論       | 2             | 選択             | 後2       |    | 三谷             |                      |
|                         | 講義                  | 材料化学特論      | 2             | 選択             |          | 前2 | 阿久沢            |                      |
|                         | 講義                  | 生物化学工学      | 2             | 選択             |          | 前2 | 庄司             |                      |
| 講義                      | 無機固体化学              | 2           | 選択            |                | 前2       | 北折 |                |                      |
| 実験                      | 物質工学特別実験            | 2           | 必修            | 後2             |          | 全員 | 22単位<br>必修     |                      |
| 演習                      | 物質工学特別演習            | 2           | 必修            | 前1後1           |          | 全員 |                |                      |
| 演習                      | 物質工学特別実習            | 2           | 必修            | 前2             |          | 石井 |                |                      |
| 実験                      | 物質工学特別研究            | 16          | 必修            | 前2後2           | 前3後9     | 全員 |                |                      |
|                         | 専門科目 計              |             | 46            |                | 28       | 18 |                |                      |
|                         | 一般科目、専門共通科目、専門科目、合計 |             | 92            |                | 58       | 34 |                |                      |
| 修得62単位(必修28単位、選択34単位以上) |                     |             |               |                |          |    |                |                      |

(出典 専攻科履修要覧)

資料5-5-②-3

1. 機械情報システム工学専攻教育課程表(19年度用)

| 種別                        | 区分             | 科目名            | 開設<br>単位<br>数 | 必修<br>選択<br>の別 | 学年別配当単位数 |                      | 担当者                                                                                                                                                                                     | 備考                    |
|---------------------------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
|                           |                |                |               |                | 1年       | 2年                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 一般科目                      | 演習             | 英語演習Ⅰ          | 2             | 必修             | 前1、後1    |                      | 堀村井<br>附、北、野                                                                                                                                                                            | 6単位<br>必修             |
|                           | 演習             | 英語演習Ⅱ          | 2             | 必修             | 前1、後1    |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 技術者倫理          | 2             | 必修             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 文章表現論          | 2             | 選択             | 前2       |                      | 船戸<br>津田<br>川北<br>河村<br>浅野<br>関根                                                                                                                                                        | 2単位<br>以上<br>修得       |
|                           | 講義             | 日本文化論          | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 世界の宗教文化        | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 科学技術論          | 2             | 選択             |          | 後2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 中小企業・ベンチャー論    | 2             | 選択             |          | 後2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 講義                        | 英語特講           | 2              | 選択            |                | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 一般科目計                     |                |                | 18            |                | 8        | 10                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 専門共通科目                    | 講義             | 線形空間論          | 2             | 選択             | 前2       |                      | 小澤<br>中藤<br>佐野<br>大野<br>毛<br>鹿館<br>泉<br>前段<br>田<br>祥<br>坂<br>小<br>潮<br>川<br>賀<br>中<br>里<br>三<br>谷                                                                                       | 1.4<br>単位<br>以上<br>修得 |
|                           | 講義             | 数値解析           | 2             | 選択             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 実験物理           | 2             | 選択             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 半導体工学特論        | 2             | 選択             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 計算機工学特論        | 2             | 選択             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 原子核物理          | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 応用解析学          | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | システム制御         | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 物性物理           | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 一般力学           | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 化学特論           | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | センサー工学         | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 離散数学           | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 環境工学特論         | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 専門共通科目計                   |                |                | 28            |                | 22       | 6                    |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 専門科目                      | 講義             | 機械要素学          | 2             | 選択             | 後2       |                      | 森下<br>黒崎<br>木村<br>小嶋<br>木<br>吉<br>本<br>林<br>松<br>木<br>(雅)<br>鈴<br>木<br>(孝)<br>多<br>羅<br>尾<br>下<br>井<br>筒<br>井<br>齋<br>藤<br>(純)<br>小<br>嶋<br>鈴<br>木<br>(雅)<br>青<br>野<br>福<br>田<br>横<br>山 | 1.8<br>単位<br>以上<br>修得 |
|                           | 講義             | 材料強弱学          | 2             | 選択             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 塑性加工学特論        | 2             | 選択             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | アルゴリズムとデータ構造特論 | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 通信信号処理特論       | 2             | 選択             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | メカトロニクス特論      | 2             | 選択             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 人工知能           | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 情報装置特論         | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 計測制御           | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | ロボティクス         | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 熱工学特論          | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 流体力学特論         | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 情報数学特論         | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 多変量解析          | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 情報通信工学特論       | 2             | 選択             |          | 前2                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 精密機械工学特論       | 2             | 選択             | 後2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
|                           | 講義             | 計量機一キテクチャ      | 2             | 選択             | 前2       |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 実験                        | 機械情報システム工学特別実験 | 2              | 必修            | 後2             |          | 全員<br>全員<br>福田<br>全員 | 22単位<br>必修                                                                                                                                                                              |                       |
| 演習                        | 機械情報システム工学特別演習 | 2              | 必修            | 前1後1           |          |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 演習                        | 機械情報システム工学特別実習 | 2              | 必修            | 前2             |          |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 実験                        | 機械情報システム工学特別研究 | 1.6            | 必修            | 前2後2           | 前3後9     |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 専門科目計                     |                |                | 56            |                | 30       | 26                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 一般科目、専門共通科目、専門科目、合計       |                |                | 102           |                | 60       | 42                   |                                                                                                                                                                                         |                       |
| 修得62単位以上(必修28単位、選択34単位以上) |                |                |               |                |          |                      |                                                                                                                                                                                         |                       |

(出典 専攻科履修要覧)

資料5-5-②-4

## 2. 電気電子工学専攻教育課程表(19年度用)

| 種別                      | 区分         | 科目名         | 開設<br>単位<br>数 | 必修<br>選択<br>の別 | 学年別配当単位数 |    | 担当者                                                                                                                                                                                  | 備考                    |
|-------------------------|------------|-------------|---------------|----------------|----------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
|                         |            |             |               |                | 1年       | 2年 |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 一般科目                    | 演習         | 英語演習Ⅰ       | 2             | 必修             | 前1、後1    |    | 堀<br>村<br>井<br>研・北・謙                                                                                                                                                                 | 6単位<br>必修             |
|                         | 演習         | 英語演習Ⅱ       | 2             | 必修             | 前1、後1    |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 技術者倫理       | 2             | 必修             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 文章表現論       | 2             | 選択             | 前2       |    | 松<br>戸<br>津<br>田<br>川<br>北<br>河<br>村<br>浅<br>野<br>関<br>根                                                                                                                             | 2単位<br>以上<br>修得       |
|                         | 講義         | 日本文化論       | 2             | 選択             |          | 前2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 世界の宗教文化     | 2             | 選択             |          | 前2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 科学技術論       | 2             | 選択             |          | 後2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 中小企業・ベンチャー論 | 2             | 選択             |          | 後2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 講義                      | 英語特講       | 2           | 選択            |                | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 一般科目計                   |            |             | 18            |                | 8        | 10 |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 専門共通科目                  | 講義         | 線形空間論       | 2             | 選択             | 前2       |    | 小<br>中<br>澤<br>佐<br>藤<br>大<br>野<br>鹿<br>泉<br>前<br>段<br>田<br>坂<br>潮<br>中<br>川<br>柚<br>賀<br>中<br>里<br>三<br>谷                                                                           | 1.4<br>単位<br>以上<br>修得 |
|                         | 講義         | 数値解析        | 2             | 選択             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 実験物理        | 2             | 選択             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 半導体工学特論     | 2             | 選択             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 計算機工学特論     | 2             | 選択             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 原子核物理       | 2             | 選択             | 後2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 応用解析学       | 2             | 選択             | 後2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | システム制御      | 2             | 選択             | 後2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 物性物理        | 2             | 選択             | 後2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 一般力学        | 2             | 選択             | 後2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 化学特論        | 2             | 選択             | 後2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | センサー工学      | 2             | 選択             |          | 前2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 離散数学        | 2             | 選択             |          | 前2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 講義                      | 環境工学特論     | 2           | 選択            |                | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 専門共通科目計                 |            |             | 28            |                | 22       | 6  |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 専門科目                    | 講義         | 制御工学特論      | 2             | 選択             | 後2       |    | 松<br>井<br>永<br>吉<br>伊<br>藤<br>(浩)<br>大<br>塚<br>大<br>貫<br>青<br>木<br>加<br>藤<br>館<br>泉<br>伊<br>藤<br>(彰)<br>一<br>戸<br>小<br>池<br>松<br>井<br>鹿<br>毛<br>全<br>員<br>全<br>員<br>全<br>員<br>全<br>員 | 1.8<br>単位<br>以上<br>修得 |
|                         | 講義         | 光エレクトロニクス   | 2             | 選択             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 電子材料プロセス工学  | 2             | 選択             | 後2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 集積回路設計      | 2             | 選択             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 応用電磁波工学     | 2             | 選択             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 応用情報処理工学    | 2             | 選択             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 応用プロセス制御    | 2             | 選択             | 前2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 情報システム工学    | 2             | 選択             |          | 前2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 信号処理特論      | 2             | 選択             |          | 後2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | プラズマ工学      | 2             | 選択             |          | 前2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 通信伝送工学      | 2             | 選択             |          | 前2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 電磁エネルギー変換特論 | 2             | 選択             |          | 前2 |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 講義         | 回路網学特論      | 2             | 選択             | 後2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
|                         | 実験         | 電気電子工学特別実験  | 2             | 必修             | 後2       |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 演習                      | 電気電子工学特別演習 | 2           | 必修            | 前1後1           |          |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 演習                      | 電気電子工学特別演習 | 2           | 必修            | 前2             |          |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 演習                      | 電気電子工学特別演習 | 2           | 必修            | 前2             |          |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 演習                      | 電気電子工学特別演習 | 2           | 必修            | 前2             |          |    |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 専門科目計                   |            |             | 48            |                | 26       | 22 |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 一般科目、専門共通科目、専門科目、合計     |            |             | 94            |                | 56       | 38 |                                                                                                                                                                                      |                       |
| 修得62単位(必修28単位、選択34単位以上) |            |             |               |                |          |    |                                                                                                                                                                                      |                       |

(出典 専攻科履修要覧)

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズ、社会からの要請等に対応するために、本校では、放送大学を含む他の高等教育機関の単位を認定する仕組みがあり（資料5-5-③-1）、実際に認定例があり（資料5-5-③-2）機能している。インターンシップ（特別実習）による単位認定（資料5-5-③-3）、他専攻の専門科目の単位認定（資料5-5-③-4）なども規定している。また、本校専攻科では、全員に対し、長期のインターンシップを実施し、外部に開かれたインターンシップ報告会を実施し、報告書にまとめている（現地閲覧資料12）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、放送大学の単位の認定、他高等教育機関の単位認定、インターンシップによる単位認定、他専攻の専門科目の単位認定などを規定している。また、全員に対し、長期のインターンシップを実施し、外部に開かれたインターンシップ報告会を実施し、報告書にまとめている。

以上により、学生の多様なニーズ、社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。



資料5-5-③-1

**履修要覧 6 ページ (専攻科の教育及び科目履修等)**

## 5. 他の教育機関での科目履修

専攻科を修了するためには本校専攻科で開設した科目の中から62単位以上を修得すれば十分ですが、この中には他大学等で修得した科目を12単位を超えない範囲で含めることができます。

他の教育施設における単位の履修方法としては、大きく次の三通りの方法があります。

- ① 放送大学での科目履修
- ② 一般大学での科目履修
- ③ 他の高専・短大の専攻科での科目履修

いずれの場合も、次の手順で申し込みを行って下さい。

- ① 特別研究指導教員と相談の上、受講大学等および受講科目を決める。
- ② 「他大学等開設授業科目履修申請書」を学生課教務係に提出する。
- ③ 専攻科長の許可がおりたら、各大学等に各自で履修申請を行う。
- ④ 各大学等で単位を修得した学生は「修得単位認定申請書」を学生課教務係に提出する。

「放送大学学生募集要項」は、放送大学ホームページを参照してください。

(<http://www.u-air.ac.jp/index.html>)

なお、放送大学科目の履修に必要な経費は下記の通りです。

|             |   |         |
|-------------|---|---------|
| 入学料         | … | 8,000円  |
| 授業料(1科目あたり) | … | 11,000円 |

**履修要覧 125 ページ (教育プログラム)**

## 5-2 他の高等教育機関で取得した単位の認定

- (1) 他の高等教育機関の JABEE 認定教育プログラム修得単位については、その科目の内容を確認した上で、専攻科委員会が本教育プログラム修得単位と認定します。
- (2) 前項以外の修得単位については、評価 B 以上である場合、その科目についての学力が十分であることを確認した上で、専攻科委員会が本教育プログラム修得単位と認定することができます。本教育プログラム修得単位と認定するための判断は、試験・口頭試問・外部機関の評価などによります。

**履修要覧 129 ページ (東京工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則)**

(他の教育研究機関の授業科目の履修)

第12条 他の大学及び高等専門学校の専攻科等で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ指導教官の許可を受けた上で、校長に申し出なければならない。なお、その授業科目を履修のうえ修得した単位は、12単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(出典 専攻科履修要覧)

資料5-5-③-2

平成16年度 第7回 専攻科委員会議事概要

日時 平成16年10月28日(木) 16時40分から18時10分まで

場所 学生課会議室

出席者 三谷、津田、小坂、下井、青木、松井、矢野、学生課長

配付資料

1. 平成16年度専攻科学力試験問題作成及び審査過程におけるトラブルの経緯
2. 東京工業高等専門学校専攻科入学選抜学力検査に関する申し合わせ(案)
3. 東京工業高等専門学校専攻科入学選抜学力検査実施に係るスケジュール(案)
4. 東京工業高等専門学校専攻科入学選抜学力検査問題作成要項(案)
5. 英語特別演習実施状況
6. 専攻科生 TOEIC スコア
7. 教育内容の充実又は教育方法の改善についての取組に関する調べ
8. 専攻科2年生進路状況(10月28日現在)

[審議事項]

(途中省略)

4. 他大学等における修得単位の認定について  
専攻科長から、AS学生1名が放送大学での受講を申請し、「情報工学と社会」2単位を修得した旨の報告があった。(単位修得証明書回覧)また、この取り扱いとして、検討の結果、他大学での修得単位として、本校「専門共通科目」2単位として認定することが承認された。

(以下省略)

(出典 専攻科委員会議事録)

資料 5-5-③-3

### 教科目名 機械情報システム工学特別実習

**担当教官** : 各企業担当者、専攻内担当 齊藤 純夫  
**学年、学科等** : 1年 専攻科機械情報専攻 実験  
**単位数 期間** : 必修 2 単位 集中 1ヶ月以上 (合計 時間)

#### 授業の目標と概要

企業における実習を通じ、技術開発や生産技術における諸課題について認識を深める。  
 「ものづくり」に必要な「知識と経験」とは何かを学ぶ。

#### カリキュラムにおける位置づけ

技術者としての心構えなどを身につける。

#### 授業の内容

<期間、依頼、見回り等>

- 実施時期は1年次の夏期休業中を原則とし、期間は1ヶ月以上とする。
- 企業への依頼、調整ならびに学生の指導は主として特別実習担当教員が行う。ただし、特別研究で共同研究等を実施している場合は特別研究指導教員がこの任に当たることもある。
- 実習期間中は当該学生の所属する専攻あるいは関連学科の教員が見回りをを行い、勤務状況を把握するとともに、改善点があれば是正に努める。
- 企業は学生の实習状況について、評価書を学校に提出する。
- 実習の報告会には企業担当者にも出席を依頼する。

<学生のすべきこと>

- 企業から提示されたテーマで実習を行う。
- 実習終了時に報告書を作成し、企業側担当者の承諾を得て学校に提出する。
- 実習終了後、学内における報告会で実習内容についてのプレゼンテーションを行う。

#### 教科書

#### 補助教科書

#### 履修上の注意

#### 評価基準

#### 評価法

#### 学習・教育目標

専攻科履修要覧にある東京工業高等専門学校特別実習心得を遵守する。

評価書、報告書、報告会のプレゼンテーションにより総合的に修了か否かを判断する。

評価書・報告書・発表100%

東京高専 A-4, B-2, C-3, C-7, C-8

JABEE (b) (c) (d) (f)

(出典 専攻科履修要覧)

資料 5 - 5 - ③ - 3

### 教科目名 電気電子工学特別実習

担当教官 : 全員

学年、学科等 : 1年 専攻科電気電子専攻 実験

単位数 期間 : 必修 2 単位 集中 (合計 時間)

#### 授業の目標と概要

企業における実習を通じ、技術開発や生産技術における諸課題について認識を深める。「ものづくり」に必要な「知識と経験」とは何かを学ぶ。

#### カリキュラムにおける位置づけ

本実習は、本科 5 年次の卒業研究の経験を生かして、高度な実習内容に取り組み、共通の目標達成のために協調することの重要性や「ものづくり」の基本を学んで、エンジニアとしての資質を高めることを目的としている。

#### 授業の内容

〈期間、依頼、見回り等〉

実施時期は1年次の夏休み中を原則とし、期間は1ヶ月以上とする。

企業への依頼、調整ならびに学生の指導は主として特別実習担当教員が行う。ただし、特別研究で共同研究等を実施している場合は特別研究指導教員がこの任に当たることもある。

実習期間中は当該学生の所属する専攻あるいは関連学科の教員が見回りを行い、実習状況を把握するとともに、改善点があれば是正に努める。

企業は学生の実習状況について、評価書を学校に提出する。

実習の報告会には企業担当者にも出席を依頼する。

〈学生のすべきこと〉

企業から提示されたテーマで実習を行う。

実習終了後に報告書を作成し、企業側担当者の承諾を得て学校に提出する。

実習終了後、学内における報告会で実習内容についてのプレゼンテーションを行う。

#### 教科書

#### 補助教科書

専攻科履修要覧になる東京工業高等専門学校特別実習心得を遵守する。

#### 履修上の注意

#### 評価基準

企業からの評価書、ならびに本人の報告書、プレゼンテーションを総合して評価する。

#### 評価法

評価書・報告内容など100%

#### 学習・教育目標

東京高専 | B-2, C-13

JABEE | (d) (f)

(出典 専攻科履修要覧)

資料 5-5-③-3

### 教科目名 物質工学特別実習

担当教官 : 全員  
 学年、学科等 : 1年 専攻科物質専攻 通常講義  
 単位数 期間 : 必修 2 単位 集中 1ヶ月以上 (合計 時間)

#### 授業の目標と概要

企業における実習を通じ、技術開発や生産技術における諸課題について認識を深める。「ものづくり」に必要な「知識と経験」とは何かを学ぶ。

#### カリキュラムにおける位置づけ

本実習は、本科5年次の卒業研究の経験を生かして、高度な実習内容に取り組み、共通の目標達成のために協調することの重要性や「ものづくり」の基本を学んで、エンジニアとしての資質を高めることを目的としている。

#### 授業の内容

時間

<期間、依頼、見回り等>

実施時期は1年次の夏休み（7月上旬～8月31日）を原則とし、期間は1ヶ月以上とする。

企業への依頼、調整ならびに学生の指導は主として特別実習担当教官が行う。ただし、特別研究で共同研究等を実施している場合は特別研究指導教官がこの任に当たることもある。

実習期間中は当該学生の所属する専攻あるいは関連学科の教官が見回りをを行い、勤務状況を把握するとともに、改善点があれば是正に努める。

企業は学生の実習状況について、評価書を学校に提出する。

実習の報告会には企業担当者にも出席を依頼する。

<学生のすべきこと>

企業から提示されたテーマで実習を行う。

実習終了時に報告書を作成し、企業側担当者の承諾を得て学校に提出する。

実習終了後、学内における報告会で実習内容についてのプレゼンテーションを行う。

#### 教科書

#### 補助教科書

専攻科履修要覧にある東京工業高等専門学校特別実習心得を遵守する。

#### 履修上の注意

企業からの評価書、ならびに本人の報告書、プレゼンテーションを総合して評価する。

#### 評価基準

評価書・報告内容など100%

#### 評価法

評価書・報告内容など100%

#### 学習・教育目標

東京高専 B-1, B-2, C-3, C-7, D-5

JABEE (c) (d) (e) (f) (h)

(出典 専攻科履修要覧)

(教務使覧より抜粋)

- 3 成績の評価は、1.00点法で評価する。必要のある場合、次の区分のいずれかによって表わす。
- |      |             |           |           |           |
|------|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 区分/点 | 1.00点~8.00点 | 7.9点~7.0点 | 6.9点~6.0点 | 5.9点~0.0点 |
| I    | 優           | 良         | 可         | 不可        |
| II   | A           | B         | C         | D         |
- 4 特別研究及び特別実習は、「合・否」で評価する。

(単位の認定)

第8条 第3項の規定に基づき、区分Iにより優、良及び可(区分IIによりA、B及びC)に評価された授業科目については、当該科目を修得したもとして、単位を認定する。

2 特別研究及び特別実習については、「合」の評価によりその単位を修得したことを認定する。

第9条 第7条第3項の規定に基づき、区分Iにより不可(区分IIによりD)に評価された授業科目のうち、修得する必要がある授業科目は、原則として次年度に再履修するものとする。

(修了要件等)

第10条 専攻科の修了要件は、学則第51条に規定するもののほか、各専攻科に掲げる条件を満たさなければならない。

(1) 修了すべき単位数については、次表の条件を満たすものとする。

| 専攻科        | 科目 |    | 専攻科単位数 |     | 専門科目 |     | 合計  |
|------------|----|----|--------|-----|------|-----|-----|
|            | 必修 | 選択 | 必修     | 選択  | 必修   | 選択  |     |
| 機械情報システム工学 | 6  | 2  | 1.4    | 2.2 | 1.8  | 6.2 | 6.2 |
| 電気電子工学     | 6  | 2  | 1.4    | 2.2 | 1.8  | 6.2 | 6.2 |
| 物質工学       | 6  | 2  | 1.4    | 2.2 | 1.8  | 6.2 | 6.2 |

(2) 学則第53条の単位科目のうち、各専攻科により必ず修得しなければならない科目は、次表のとおりとする。

| 専攻科        | 単位科目名                                           |
|------------|-------------------------------------------------|
| 機械情報システム工学 | 化学特論、機械工学特論、一般力学(高等専門学校の機械工学科を卒業した者は修得する必要がない。) |
| 電気電子工学     | 一般力学、化学特論、機械工学特論                                |
| 物質工学       | 一般力学、機械工学特論                                     |

(他専攻の授業科目の履修)

第11条 本校の他専攻で開設されている単位科目の履修を希望する者は、指導教員及び関連専攻主任の許可を得たうえで、履修届を事前に出願し提出しなければならない。

なお、その授業科目を履修のうえ修得した単位は、8単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(他の教務研究機関の授業科目の履修)

第12条 他の大学及び高等専門学校等の専攻科等で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ指導教員の許可を得た上で、校長に申し出なければならない。なお、その授業科目を履修のうえ修得した単位は、1.2単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

専攻-6

(専攻科履修要覧より抜粋)

4. 科目履修

(1) 修了のための履修単位

専攻科を修了するためには6.2単位以上を修得しなければなりません。6.2単位の内訳は必修科目2.8単位(英語実習1、工学2単位、技術習得履修2単位、専門科目2.2単位)、選択科目3.4単位以上(一般科目2単位以上、専門共通科目1.4単位以上、専門科目1.8単位以上)となっています。なお、専門科目については8単位以内に限り、他専攻の専門科目(選択科目)の修得が認められています。また、他の習得後履修で修得した単位は1.2単位(一般科目2単位、専門共通科目1.0単位)を超えない範囲で選択科目に振り替えることができます。

英語実習1、IIについては100に5.0単位以上を取付することで履修の目標にしています。1日3時間の英語実習を履修することで目標は必ず達成できます。

履修単位の分類表

| 必修科目      | 履修単位 |       | 修得単位数計 |
|-----------|------|-------|--------|
|           | 一般科目 | 専門科目  |        |
| 必修科目      | 6    | 2.2   | 8.2    |
| 選択科目      | 12   | 2.2以上 | 14以上   |
| 専門共通科目    | 2.8  | 3.4以上 | 6.2以上  |
| 他専攻履修システム | 3.0  | 3.4以上 | 6.4以上  |
| 選択科目      | 2.4  | 3.8以上 | 6.2以上  |
| 履修科目      | 2.4  | 3.8以上 | 6.2以上  |

特別実習(インターンシップ)は、原則として1年生の7月上旬から8月31日までの間の約1ヶ月間行われます。実習先の選定や手続きについては、各専攻の特別実習担当教員の指示に基づいて下さい。特別実習規則(資料7)および特別実習心得(資料8)を必ず熟読しておいて下さい。

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

前掲の教育課程表（資料5-5-②-2、資料5-5-②-3、資料5-5-②-4）に示されているとおり、実験実習の授業形態をとる授業の割合が非常に高い。このことは、「豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的ものづくり技術者の育成」という本校の目的を達成する上で適切なことである。このように、本校の目的に照らした場合、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは適切である。

各科目の授業内容に応じた適切な学習指導法の工夫は、多くの科目で行われている（現地閲覧資料18）。ここでは、例として挙げやすいもの3例を選んで分析をする。現代企業論では、多数の企業経営者を講師として招く講義形態を取り入れることにより、学習・教育目標D-5を達成することを目指している。また、1年生の英語演習においては、TOEICの指導のため、コンピュータソフトの利用を推進している（資料5-6-①-1）。また、実験物理においては、講義科目でありながら、実際の装置で実験させながら講義内容を理解させる工夫を行っている（資料5-6-①-2）。

（分析結果とその根拠理由）

実験実習を重視したカリキュラムは、「豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的ものづくり技術者の育成」という本校の目的を達成する上で適切であり、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは適切である。また、英語演習、実験物理など多くの科目で授業方法の工夫がなされている。

以上により、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料 5-6-①-1

## 専攻科英語教育の概要

現在専攻科英語教育で導入しているオンライン教材は、「実用英語 TOEIC」、「速読」、「ライティング」、「IT エンジニア専門英語」の 4 コースから構成され、コンテンツとプラットフォームが一体化したインタラクティブな eラーニングシステムである。初回ログイン時に受けるプレテストの結果に応じて学習計画が個別にカスタマイズされる。適宜担当教員が進捗状況をリアルタイムでチェックしながら、各学生をサポートしていく。特に、本校専攻科生の学習目標である TOEIC400-500 点突破に向けて、「実用英語 TOEIC」コースを重視している。

また、近年普及している小型携帯音楽プレーヤー[MP3 プレーヤー]を活用[貸与]して、英語リスニング力およびスピーキング力の学習支援も行っている。特に取り回ししやすい小型デジタル機器を利用することで、場所や時間に制約されず、こまぎれの時間を有効活用した個別学習 [ニッチ教育] が可能となっている。



(出典 専攻科英語教育資料)



資料 5-6-①-2

### 教科目名 実験物理

担当 教官 : 大野 秀樹

学年、学科等 : 1年 専攻科一般・共通 通常講義

単位数 期間 : 選択 2 単位 前期 週2時間 (合計 30 時間)

#### 授業の目標と概要

実験物理(学)とは、物理学すべての分野の実験的研究のことを指している。最近では、物理学の領域が広くなり、実験に用いられる装置も複雑化・精密化して実験自身が重要な研究対象にもなっている。本科目では、電子線をやX線を用いた材料の結晶構造解析実験について関連分野も含めた基本的な講義を行う予定である。

#### カリキュラムにおける位置づけ

本科で学んだ物理、応用物理および数学(特に微積分、ベクトル、行列)を前提とする。

#### 授業の内容

| 授業の内容                                                  | 時間 |
|--------------------------------------------------------|----|
| ガイダンス                                                  | 1  |
| 1. 電子線・X線の基礎<br>(1) 電子と光子の粒子性と波動性<br>(2) 電子線やX線の発生の仕組み | 8  |
| 2. 結晶構造<br>(1) 主な結晶構造の種類<br>(2) 回折現象と逆格子               | 10 |
| 3. 電子線回折法・X線回折法<br>(1) 電子線回折やX線回折の具体的な実験の概略とその基本的な解析方法 | 10 |

#### 前期末試験

1

|         |                                                         |
|---------|---------------------------------------------------------|
| 教科書     | 特に指定しない                                                 |
| 補助教科書   | 高専の物理(森北出版) 高専の応用物理(森北出版)<br>講義用ノートと電卓を用意すること。          |
| 履修上の注意  |                                                         |
| 評価基準    | 物質の結晶構造の基礎知識を身につけると共に、その分析・解析方法に関する基本を確認する。<br>合格点は60点。 |
| 評価法     | 定期試験75%、レポートなど25%                                       |
| 学習・教育目標 | 東京高専  C-5 JABEE  (c) (d)                                |

(出典 平成19年度シラバス)

**観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

（観点に係る状況）

各専攻では、創造性を育むための取り組みを実施しており、その一例は資料5-6-②-1、資料5-6-②-2、資料5-6-②-3の通りである（詳細は現地閲覧資料19）。これらの例の概要は以下のとおりである。

機械情報システム工学専攻で開講されている情報通信工学特論では、最低限の基礎知識を講義した後に、教員が提示するテーマについて学生自らが調査し、結果を文書にまとめ発表することにより、創造性を育む取り組みを行っている。また、特別研究等でも創造性を育むための取り組みを実施している。

電気電子工学専攻で開講されている光エレクトロニクスでは、各種発光デバイス、ディスプレイの動作原理について学生の知識を聞き出してから、謎解きをするように授業を進めている。一般的に数式に偏りがちな科目であるが、極力光と物質の関係について物理的イメージがわくように工夫している。また、特別研究等でも創造性を育むための取り組みを実施している。

物質工学専攻で開講されている資源エネルギー化学では、資源・エネルギー問題、環境問題を考える上で多面的に物事を考えられることを狙いとして授業を行っている。また、特別研究等でも創造性を育むための取り組みを実施している。

また、本校はインターンシップ（特別実習）に力を入れており、修了要件として全員が長期のインターンシップを経験することになっている。履修要覧（資料5-6-②-4）にインターンシップ（特別実習）が修了要件とは明記されていないが、全ての専攻において特別実習を含む全22単位修得が修了の要件であるため、特別実習は修了要件である。インターンシップ報告書は現地閲覧資料12とする。

（分析結果とその根拠理由）

各専攻とも、創造性を育むための取り組みを実施している。また、本校はインターンシップに力を入れており、修了要件として全員が経験することになっている。

以上により、創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が行われている。

資料5-6-②-1

## 教科目名 情報通信工学特論

担当教官 : 青野 正宏

学年、学科等 : 2年 専攻科機械情報専攻 通常講義

単位数 期間 : 選択 2 単位 前期 週2時間 (合計 31 時間)

### 授業の目標と概要

情報通信の基礎となる技術、原理、プロトコル、ネットワークの形態などについて再確認するとともに、今後も変化が大きいと予想できる情報通信分野に将来の技術も柔軟に吸収して分析・設計できる能力を身につける。

### カリキュラムにおける位置づけ

情報通信工学を履修した経験のない学生にとっては、情報通信工学の基礎を理解するとともに最近の技術が教養として知ることができるものとする。情報通信工学を履修してきた学生にとって、情報通信工学の基礎を復習するとともに、習得住みの技術をベースに最近の情報通信工学の動向・知識が得られるものとする。

### 授業の内容

| 授業の内容                                                                                                                                               | 時間 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1. コンピュータネットワーク概論<br>コンピュータネットワーク序論、通信プロトコル体系(OSI TCP/IP)、データリンク、LAN、ネットワークプロトコル、トランスポートプロトコル、アプリケーションプロトコル、セキュリティ                                  | 8  |
| 2. テーマの提示と概説<br>最近の技術動向の概説と調査の方法、発表の方法について説明する。                                                                                                     | 2  |
| 3. テーマに関する発表と討議<br>提示されたテーマまたは学生が申告し、担当教員が適切であると認めたテーマについて文献を調査し、文章にまとめるとともにその内容について発表をおこない、質疑応答をおこなう。深掘りが必要な場合には、継続して行う。テーマのまとめとして担当教員が不備補足と解説を行う。 | 20 |

### 注

受講者に情報通信工学未受講者なしの場合は、コンピュータネットワーク概論の時間を4時間とし、テーマに関する発表と討議の時間を23時間に増やす。  
受講者が少ない場合は、教員による解説の時間を増やす。

### 試験の方法

授業で行ったテーマのうち、いくつかを提示する。提示されたテーマの内から、いくつかを選択して指定した文字数でまとめる。ただし、受講者が直接調査担当したテーマを除く。

| 前期末試験   |                                                                 | 1          |
|---------|-----------------------------------------------------------------|------------|
| 教科書     | なし、プリント配布を行う。また、必要に応じて調査資料を貸与する。                                |            |
| 補助教科書   | なし。                                                             |            |
| 履修上の注意  |                                                                 |            |
| 評価基準    | 発表資料の原稿及び発表内容がその基本を押さえていること、加えて定期試験において選択した課題の基本を押さえた解答をしていること。 |            |
| 評価法     | レポートなど60%、定期試験40%                                               |            |
| 学習・教育目標 | 東京高専  C-6, C-10                                                 | JABEE  (d) |

(出典 平成19年度シラバス)

資料 5 - 6 - ② - 2

### 教科目名 光エレクトロニクス

**担当教官** : 永吉 浩

**学年、学科等** : 1年 専攻科電気電子専攻 通常講義

**単位数 期間** : 選択 2 単位 前期 週2時間 (合計 30 時間)

#### 授業の目標と概要

光と物質の相互作用、半導体の光吸収、発光についての物性論的な理解を深める。各種発光、受光デバイスの動作原理について物性論的な視点で理解できるようにする。

#### カリキュラムにおける位置づけ

本科で学習してきた固体論の基礎をベースにして、電子論に基づいた物質の光学的性質の理解を深める。

#### 授業の内容

| 授業の内容                                                      | 時間  |
|------------------------------------------------------------|-----|
| 1. 光の透過、反射、散乱<br>ミクロな視点から物質による光の透過、散乱、反射について理解できる。         | 4   |
| 2. 誘電関数と光学定数<br>物質の誘電関数と光学定数について数学的に導くことができる。              | 4   |
| 3. クラマース・クローニッヒの法則                                         | 4   |
| 4. 誘電的性質、プラズマ振動<br>物質の誘電的性質、プラズマ振動について正確な物理的イメージを持つことができる。 | 2   |
| 5. 原子、分子内の電子遷移<br>原子、分子内の電子遷移、選択率についてミクロな視点から理解することができる。   | 2   |
| 6. 結晶内の光学的遷移<br>結晶内の光学遷移についての物理的なイメージを持つことができる。            | 4   |
| 7. 遷移確率<br>半導体の遷移確率を数学的に導くことができる。                          | 4   |
| 8. 誘導放出、自然放出<br>誘導放出、自然放出など、レーザーの基本について理解することができる。         | 2   |
| 9. 各種レーザー<br>実際の各種レーザーについて理解している。                          | 3.5 |

#### 学年末試験

0.5

**教科書** 必要に応じてプリントを配布

#### 補助教科書

**履修上の注意** 量子論、電磁気学、物理学、固体論についての基礎的な知識を必要とする。微分方程式、微分、積分等の数学的知識を必要とする。

**評価基準** 固体の光物性についてミクロな視点から理解できている。各種光デバイスの動作原理を理解している。

**評価法** 定期試験100%

**学習・教育目標** 東京高専 C-6

JABEE (d)

(出典 平成19年度シラバス)

資料5-6-②-3

## 教科目名 資源エネルギー化学

担当教官 : 石井 宏幸

学年、学科等 : 1年 専攻科物質専攻 通常講義

単位数 期間 : 選択 2 単位 後期 週2時間 (合計 30 時間)

### 授業の目標と概要

資源・エネルギー問題、環境問題を考える上で一面的でなく、総合的な課題解決の追求が必要である。即ち、新しい時代の資源エネルギー問題への取り組み方について社会システムの因子を考えたプロセス開発が要求される。この様な状況の中、多岐にわたる資源エネルギー問題の現状と今後の課題についての切り口としては総合工学的な特徴を持つ、流動層工学とする。

### カリキュラムにおける位置づけ

関連科目・知識：化学工学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、エネルギー工学、環境科学

### 授業の内容

| 授業の内容                                                                                   | 時間  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 1. 序論<br>(1) 流動層技術の歴史及び、変遷<br>(2) 流動層プロセスの現状<br><br>・技術の歴史、変遷からその時々へのニーズや克服した開発ポイントを知る。 | 6   |
| 2. 化学工業における流動層触媒反応装置<br><br>・流動層触媒反応装置の特徴、特にFCC装置を例としてプロセス開発のポイントを考える。                  | 6   |
| 3. 常圧流動層燃焼ボイラー<br><br>・流動層燃焼ボイラーの基本特性から環境対応設備までのプロセス概要を知る。                              | 4   |
| 4. 加圧流動層ボイラー及び、ガス化発電<br><br>・プロセスの概要、要素技術そして最新技術開発課題について考える。                            | 7   |
| 5. 流動層ボイラーにおける廃棄物焼却技術<br><br>・ごみ、汚泥、その他産業廃棄物の焼却技術について現状を知り、将来を考える。                      | 6.5 |
| 学年末試験                                                                                   | 0.5 |

|         |                                                                                |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 教科書     | 特になし                                                                           |
| 補助教科書   | 流動層ハンドブック、著者：堀尾正毅、森滋勝、発行所：培風館                                                  |
| 履修上の注意  | 授業にてプリント及び、OHPを使用する。このOHPが必要な場合は遠慮なく、授業後コピー願う。十分な復習と積極的姿勢を求める（環境庁の公開データの調査など）。 |
| 評価基準    | 資源・エネルギー問題、環境問題を考える上で多面的に物事を考えられること（定期試験において60点以上で合格）                          |
| 評価法     | 定期試験100%                                                                       |
| 学習・教育目標 | 東京高専  C-6 JABEE   (d)                                                          |

(出典 平成19年度シラバス)

1. 機械情報システム工学専攻教養課程表(19年度用)

| 区別 | 科目名   | 開設単位数 | 必修単位数 | 学年別配当単位数 |    | 担当教員   | 備考                                |
|----|-------|-------|-------|----------|----|--------|-----------------------------------|
|    |       |       |       | 1年       | 2年 |        |                                   |
| 選  | 英語習得Ⅰ | 2     | 必修    | 前1、後1    |    | 柳井 隆   | 6単位<br>必修<br><br>2単位<br>以上<br>修得  |
|    | 英語習得Ⅱ | 2     | 必修    | 前1、後1    |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語習得Ⅲ | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 技術演習  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 文筆表現  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 日本文化論 | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 社会文化論 | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 社会倫理論 | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 社会心理学 | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
| 専  | 数学Ⅰ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 | 1.4<br>単<br>位<br>以<br>上<br>修<br>得 |
|    | 数学Ⅱ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 |                                   |
|    | 物理Ⅰ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 |                                   |
|    | 物理Ⅱ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 |                                   |
|    | 化学Ⅰ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 |                                   |
|    | 化学Ⅱ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 |                                   |
|    | 生物Ⅰ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 |                                   |
|    | 生物Ⅱ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 |                                   |
|    | 情報Ⅰ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 |                                   |
|    | 情報Ⅱ   | 3     | 必修    | 前2       |    | 小中澤 生博 |                                   |
| 専  | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   | 1.8<br>単<br>位<br>以<br>上<br>修<br>得 |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
| 専  | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   | 2.0<br>単<br>位<br>必<br>修           |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |
|    | 英語特講  | 2     | 必修    | 前2       |    | 柳井 隆   |                                   |

(教務使覧より抜粋)

3 成績の評価は、1.00点法で評価する。必要のある場合、次の区分のいずれかによって表わす。

|      |            |           |           |           |
|------|------------|-----------|-----------|-----------|
| 区分/点 | 1.00点～8.0点 | 7.9点～7.0点 | 6.9点～6.0点 | 5.9点～0.0点 |
| I    | A          | B         | C         | D         |
| II   | 優          | 良         | 可         | 不可        |

4 特別研究及び特別実習は、「台・否」で評価する。

(単位の認定)

第8条 前条第3項の規定に基づき、区分Iにより優、良及び可(区分IによりA、B及びC)に評価された授業科目については、当該科目を修得したものと見做す。

2 特別研究及び特別実習については、「台」の評価によりその単位を修得したことを認定する。

(単位の認定)

第9条 第7条第3項の規定に基づき、区分Iにより不可(区分IによりD)に評価された授業科目のうち、修得する必要がある授業科目は、原則として次年度に再履修するものとする。

(修了要件等)

第10条 専攻科の修了要件は、学則第51条に規定するもののほか、各号に掲げる条件を満たさなければならぬ。

(1) 修得すべき単位数については、次表の条件を満たすものとする。

| 科目         | 一般科目 |    | 専門系科目 |      | 合計   |
|------------|------|----|-------|------|------|
|            | 必修   | 選択 | 必修    | 選択   |      |
| 機械情報システム工学 | 6    | 2  | 1.4   | 1.8  | 6.2  |
| 電気電子工学     |      |    | 単位以上  | 単位以上 | 単位以上 |
| 物質工学       |      |    | 以上    | 以上   | 以上   |

(2) 学則第53条の専攻科目のうち、各専攻により必ず修得しなければならない科目は、次表のとおりとする。

| 専攻         | 必修科目名                                       |
|------------|---------------------------------------------|
| 機械情報システム工学 | 化学特講、機械工学特講、一般力学(高等専門学校の機械工学科を卒業した者は必修しない。) |
| 電気電子工学     | 一般力学、化学特講、機械工学特講                            |
| 物質工学       | 一般力学、機械工学特講                                 |

(他専攻の授業科目の履修)

第11条 本校の他専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は、指導教員及び関連専攻主任の許可を得たうえで、履修届を事前に出願し提出しなければならぬ。

なお、その授業科目を履修する単位の修得した単位は、8単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(他の教育研究機関の授業科目の履修)

第12条 他の大学及び高等専門学校専攻科等で開催されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ指導教員の許可を受けた上で、校長に申し出なければならぬ。なお、その授業科目を履修する単位の修得した単位は、1.2単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

本校のシラバスの作成方針は前掲の資料5-2-②-1に示したとおりである。これにより、シラバスの相互チェック体制が保障され、教育課程編成の趣旨に沿った適切なシラバスが作成される。シラバスには、専攻科課程の学習・教育目標が記載されている(前掲の資料5-6-②-1、2、3)。

シラバスが活用されているかどうかについては、アンケート結果から判断して(資料5-6-③-1と前掲の資料5-2-②-4)、教員、学生の間でかなり良く活用されている。

(分析結果とその根拠理由)

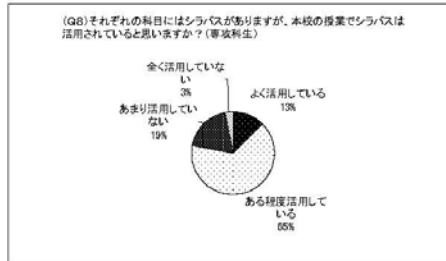
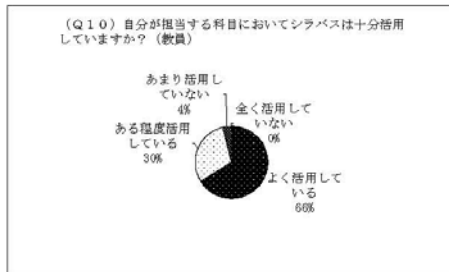
本校では、シラバスの相互チェック体制が保障され、教育課程編成の趣旨に沿った適切なシラバスが作成される手順を定めている。また、シラバスには、準学士課程の学習・教育目標が記載されている。また、アンケート結果から、教員・学生の間でかなり良くシラバスが活用されている。

以上により、教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されている。

資料5-6-③-1

シラバス活用に関するアンケート結果（専攻科）

実施日 平成19年6月11日



（出典 教職員および学生に対するアンケート集計結果）



観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科では、例えば複数教員による研究室運営（資料5-7-①-1）によって、専攻科特別研究の指導を複数教員指導体制にしたり、学修成果レポートや特別研究論文の執筆等において指導教員および専攻科主任・副主任も指導に加わったりするなどして、専攻科で就学するにふさわしい指導を複数教員により実現している。また、研究テーマは、学校の目的を達成する上で適切なテーマになっている（資料5-7-①-2）。研究指導についても、専攻科で修学するにふさわしい研究指導が行われている。なお、特別研究の指導状況の記録は現地閲覧資料とする（現地閲覧資料105）。この適切な指導の結果、本校専攻科生の特別研究は、外部の学会発表において多くの賞を受賞している（資料5-7-①-3）。

（分析結果とその根拠理由）

研究テーマは、学校の目的を達成する上で適切なテーマになっている。また、特別研究の指導体制が工夫され、特別研究指導記録に記録された研究指導は専攻科で修学するにふさわしい指導である。その成果として、本校専攻科生の特別研究は、外部の学会発表で多くの賞を受賞している。

以上により、専攻科で修学するにふさわしい研究指導が行われている。

資料5-7-①-1

## 情報工学科の体制(3)

- 研究室体制

- 知識情報研究室 鈴木雅人 松本

- 情報通信研究室 青野 小嶋

- 制御情報研究室 小坂 吉本 松林

- 情報基盤研究室 横山 鈴木孝

(出典 情報工科学科説明資料)

## 資料5-7-①-2

## 平成18年度(2006)専攻科特別研究テーマ等一覧表

## 機械情報システム工学専攻

| 氏名 | 特別研究発表テーマ名                            | 指導教員氏名 |
|----|---------------------------------------|--------|
| A  | 圧電素子を用いたホロノミックな全方向移動マイクロロボットの開発       | 松林 勝志  |
| B  | ピエゾケーブルを用いたひずみモニタリング                  | 黒崎 茂   |
| C  | 自律したブラシ推進型床磨きロボットの研究                  | 小坂 敏文  |
| D  | 炭素繊維複合材料のバルジ成形技術開発                    | 木村 南   |
| E  | 自動刺繍システムの制作                           | 小坂 敏文  |
| F  | コンテンツ多重選択放送に関する研究                     | 青野 正宏  |
| G  | 天然ゴムのトライボロジー特性                        | 福田 勝己  |
| H  | 高放熱性回路基板の開発                           | 木村 南   |
| I  | 組み込み型CPUの共有メモリ方式                      | 横山 繁盛  |
| J  | かな文字データベースに基づく文字列お手本の自動生成アルゴリズムに関する研究 | 鈴木 雅人  |
| K  | 管内振動流中の拡散                             | 清水 昭博  |

## 電気電子工学専攻

| 氏名 | 特別研究発表テーマ名                      | 指導教員氏名 |
|----|---------------------------------|--------|
| L  | ICP発光分光分析装置を用いた微量重金属の定量法に関する研究  | 加藤 格   |
| M  | 携帯電話を活用した学内コミュニケーションシステムの構築     | 館泉 雄治  |
| N  | 電磁波現象の可視化に関する研究                 | 大貫 繁雄  |
| O  | $\Delta\Sigma$ 変調器を用いたモーター制御の研究 | 松井 義弘  |
| P  | 酸化半導体薄膜についての研究 ~透明pn接合の形成~      | 正木 進   |
| Q  | 一般割当て問題の解法                      | 青木 宏之  |
| R  | 逐次輪郭検索法を用いた虹彩領域検出に関する研究         | 大塚 友彦  |
| S  | 大気浄化機能吸着剤の開発と特性評価               | 加藤 格   |

## 物質工学専攻

| 氏名 | 特別研究発表テーマ名                        | 指導教員氏名 |
|----|-----------------------------------|--------|
| T  | 巨大屈折率変化材料の開発                      | 町田 茂   |
| U  | 一般廃棄物焼却灰中の重金属の有害性評価               | 庄司 良   |
| V  | 超臨界状態を利用した新規酵素含有リボソームの開発          | 町田 茂   |
| W  | 焼成火山灰土壌を充填した実規模装置のリン酸吸着特性         | 三谷 知世  |
| X  | Born-Landé式を用いた黒鉛層間化合物の結晶構造の理論的研究 | 土屋 賢一  |

(出典 学生課資料)

## 専攻科学生表彰一覧

| 受賞年月日       | 受賞者        |    |    | 受賞内容      |                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------|------------|----|----|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | 専攻         | 学年 | 氏名 | 授与者       | 受賞概要                                                                                                                                                                                                                             |
| 平成17年11月22日 | 機械情報システム工学 | 2年 | A  | 日本非破壊検査協会 | 日本非破壊検査協会平成17年度秋季講演大会で新進賞(30歳以下の講演発表で優秀者)を受賞しました。研究課題名:「高分子圧電フィルムを用いたひずみ測定(自由形状の蒸着電極を付与する方法)」                                                                                                                                    |
| 平成18年12月 2日 | 物質工学       | 1年 | B  | 材料技術研究会   | 2006年度協会の学生論文賞を受賞し、平成18年12月1～2日に行われた材料技術研究会で講演を行いました。<br>受賞テーマ名:「電解質の添加に伴うQCMセンサへの影響」                                                                                                                                            |
| 平成18年12月 3日 | 物質工学       | 1年 | C  | A S E T   | 第13回エコテック/ロジックに関するアジア国際シンポジウム(13th Asian Symposium on Ecotechnology)においてASET Best Student Awardを受賞しました。この賞は英語で口頭発表する学生の中から選ばれました。受賞テーマ名:「Verification of Terrestrial Biotic Ligand Model (TBLM) to Copper Accumulated in Barley」 |
| 平成19年 1月11日 | 機械情報システム工学 | 1年 | D  | 日本非破壊検査協会 | 日本非破壊検査協会 第38回応力ひずみ測定と強度評価シンポジウムで新進賞(30歳以下の講演発表で優秀者)を受賞しました。<br>研究課題名:「ピエゾケルプを用いたボルトの軸力検出(引張およびせん断負荷が同時に作用した場合)」平成18年度国立高等専門学校機構博学生表彰を受賞しました。                                                                                    |
| 平成19年 3月 7日 | 機械情報システム工学 | 1年 | E  | 情報処理学会    | 第69回情報処理学会全国大会で「学生奨励賞」を受賞しました。「学生奨励賞」とは、各学生セッションで発表された中から、優秀な発表と判断された1名に対して授与される賞です。<br>発表題目:「スポットを事例とした感覚情報共有のための遠隔実時間教育システムの設計と開発」                                                                                             |

基準5-7-①-3

(出典 学生課資料)

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価・単位認定の基準と修了認定の基準は明確に規定され(資料5-8-①-1)、履修要覧に記載することにより、学生に周知を図っている(前掲の資料5-5-③-4)。また、専攻主任副主任によって学生への周知が図られている(資料5-8-①-2)。修了の認定は、それぞれ、専攻科委員会において、規定に従って適切に実施されている(資料5-8-①-3)。また、成績評価を適切にするため、答案は返却し、学生からの意見の申し立ての機会を設けていることは、準学士課程の場合と同様である。

尚、準学士課程同様、修了基準の周知度に関するアンケート結果(資料5-8-①-4)から、その周知度は高いといえる。

(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定の基準と修了認定の規定は、シラバスに記載され、学生に周知されている。修了の認定は、専攻科委員会の議を経て運営会議(専攻科修了判定)において、規定に従って適切に実施されている。また、答案返却の機会を設けて、学生からの意見の申し立ての機会を設けている。

以上により、成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、認定が適切に実施されている。

3 成績の評価は、100点法で評価する。必要のある場合、次の区分のいずれかによって表わす。

|      |          |         |         |        |
|------|----------|---------|---------|--------|
| 区分/点 | 100点～80点 | 79点～70点 | 69点～60点 | 59点～0点 |
| I    | 優        | 良       | 可       | 不可     |
| II   | A        | B       | C       | D      |

4 特別研究及び特別実習は、「合・否」で評価する。

(単位の取扱い)

第8条 前条第3項の規定に基づき、区分Iにより優、良及び可(区分IIによりA、B及びC)に評価

された授業科目については、当該科目を修得したものととして、単位を認定する。

2 特別研究及び特別実習については、「合」の評価によりその単位を修得したことを認定する、

(再履修)

第9条 第7条第3項の規定に基づき、区分Iにより不可(区分IIによりD)に評価された授業科目

のうち、修得する必要がある授業科目は、原則として次年夏に再履修するものとする。

(修了要件等)

第10条 専攻科の修了要件は、学則第51条に規定するもののほか、各号に掲げる条件を満たさな

ければならない。

(1) 修得すべき単位数については、次表の条件を満たすものとする。

| 専攻科        | 科目 |    | 専門科目 |    | 合計 |
|------------|----|----|------|----|----|
|            | 必修 | 選択 | 必修   | 選択 |    |
| 機械情報システム工学 | 6  | 2  | 14   | 22 | 18 |
| 電気電子工学     | 6  | 2  | 14   | 22 | 18 |
| 物質工学       | 6  | 2  | 14   | 22 | 18 |

(2) 学則第33の選択科目のうち、各専攻により必ず修得しなければならない科目は、次表のと

おりとする。

| 専攻科        | 選択科目名                                           |
|------------|-------------------------------------------------|
| 機械情報システム工学 | 化学特修、商業工学特修、一般力学(高等専門学校の機械工学科を卒業した者は修得する必要がない。) |
| 電気電子工学     | 一般力学(工学特修、商業工学特修)                               |
| 物質工学       | 一般力学、商業工学特修                                     |

(他専攻の授業科目の履修)

第11条 本校の他専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は、指導教員及び関連専攻主

任の許可を得たうえで、履修を事前授業長に提出しなければならない。

なお、その授業科目を履修のうえ修得した単位数は、8単位を超えない範囲で、専攻科における履修

科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(他の教育研究機関の授業科目の履修)

第12条 他の大学及び高等専門学校で開設されている授業科目の履修を希望する者は、

あらかじめ指導教員の許可を受けた上で、授業に申し出なければならない。なお、その授業科目を

履修のうえ修得した単位数は、12単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、

単位の修得を認定することができる。

### 第3章 成績評価及び修了認定関係

#### 3-1 修了等の認定基準

修了については、学則第50条(別表第3 教育課程表)及び第51条(修得単位の算)並びに3-1-1、

東京工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則第7条第4項を認定の基準とする。

#### 東京工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第50条第2項及び第51

条並びに第53条の規定に基づき、本専攻科(以下「専攻科」という。)の授業科目の履修方法及

び成績の評価並びに修了の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(1 単位当たりの授業時間)

第2条 1 単位時間は、標準 50分とする。

2 授業は、講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらの中から2つ以上を用いて行うものとする。

3 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を4 5時間の学修を必要とする内容をもって構成する

ことを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考

慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、1 5時間の授業をもって1 単位とする。

(2) 演習については、3 0時間の授業をもって1 単位とする。

(3) 実験及び実習については、4 5時間の授業をもって1 単位とする。

4 前項の規定にかかわらず、特別研究の授業科目については、その学修の結果を評価して単位の修

得を認定することが適切と認められる場合には、その学修等を考慮して、単位数を定めることがで

きる。

(履修方法)

第3条 専攻科に開設する授業科目の履修にあたっては、毎年当初に、別表第1の「専攻科授業科

目履修表」(以下「履修表」という。)を所定の期日までに、専攻科長に提出しなければならない。

(指導教員)

第4条 専攻科の学芸は、各専攻の指導教員から授業科目の履修及び特別研究の指導を受けるものと

する。

(試験)

第5条 専攻科の試験は、定期試験及び追加試験とする。

2 定期試験は、各学期末に実施し、その期間中は試験開始日の1 週間前に公示するものとする。

3 追加試験は、所定その他止むを得ない事由により、定期試験を受験できなかった者のうち別表第

2の「専攻科追加試験受験要項」を、所定の期日までに専攻科長に提出し、その許可を得た者に対し実

施するものとする。

第6条 定期試験における不正行為については、当該試験期間中の全科目の成績は、0点とする。

(成績の評価)

第7条 授業科目の成績評価は、定期試験等の成績及び平常の学習状況等を総合して行うものとする。

2 授業科目の次専攻科が当該科目の授業時数の3分の1を超えるものに対して、評価は行わない。

国立東京工業高等専門学校  
専攻科ガイダンス  
専攻科入学おめでとう

平成19年4月5日

専攻科長 藤原 謙

専攻科とは

- ◆2年間の応用課程
- ◆62単位以上を修得し、入学科目・学位授与機構の審査に通ると「学士号」が得られる(学位MS&ALL)
- ◆学位審査のための申請書について各自インターネットで確認する(<http://www.niad.ac.jp>)
- ◆4年制大学卒と同等に扱われる
- ◆大学院の入学資格が得られる
- ◆90分授業15回で2単位
- ◆成績はすべて点数で
- ◆試験は基本的に期末試験のみ
- ◆学年末に各自達成度確認表提出

本校専攻科の育成する人材

生産技術・技術開発の場における  
技術の高度化・複合化・融合化  
に対応できる

英語力と実践的技術を  
身につけた人材

4年制大学生を凌ぐ専攻科生を育てたい

本校専攻科の教育的特色

- 実務、体験を専攻科とし、理論で肉付けする教育
- 62単位のうち22単位が実験、実習、演習、研究
- TOEIC550点を修了目標とする徹底した英語教育
- 国際基準(JABEE)を満たすカリキュラム

■専攻科は1つのクラス

高専の良いところを継承し、英語力を強化する

科目履修の注意

- ・ 前期履修申告締切:5月11日(金)
  - ・ 後期履修申告締切:11月9日(金)
  - ・ 履修計画は履修申告締切日までに提出してください
  - ・ 履修計画の提出は履修申告書の提出と同時に提出してください
  - ・ 履修計画の提出は、GPAが低くなる
  - ・ GPA(AOD)専攻科×4+150の専攻科×3+150専攻科×2+150専攻科×1
  - ・ 1年で履修した科目は2年で再履修可能
- JABEE必修
- ・ TOEIC400&ALL(5年)
  - ・ 専攻科卒業(5年)
  - ・ 専攻科卒業(5年)
  - ・ 他専攻科(専攻科卒業)卒業(5年)

資料 5-8-①-3

## 平成 18 年度運営会議（専攻科修了判定）議事要録

日 時 平成 19 年 3 月 8 日（木） 15 時 50 分  
場 所 第 1 棟 3 階 会議室  
構成員 18 名

配付資料 平成 19 年度専攻科修了判定会議資料（会議終了後回収）

校長から、専攻科の修了判定の審議を行うために専攻科長が議事進行を勧める旨の紹介があった。

## 1. 専攻科修了判定について

専攻科長から、3 月 1 日に専攻科委員会で事前審議を行っていること、また、東京工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則第 10 条の修了要件について説明があり、審議の結果、下記のとおり修了を認定することとした。

| 専攻         | 学生数 | 学位申請 | 審査（可） | 修了 | 教育プログラム修了 |
|------------|-----|------|-------|----|-----------|
| 機械情報システム工学 | 11  | 10   | 9     | 11 | 9         |
| 電気電子工学     | 8   | 8    | 7     | 8  | 7         |
| 物質工学       | 5   | 5    | 5     | 5  | 5         |
| 計          | 24  | 23   | 21    | 24 | 21        |

参考【東京工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則（抜粋）】

（修了要件等）

第 10 条 専攻科の修了要件は、学則第 5 1 条に規定するもののほか、各号に掲げる条件を満たさなければならない。

(1) 修得すべき単位数については、次表の条件を満たすものとする。

| 専攻         | 科目   |      | 専門共通科目 | 専門科目 |      | 合計   |
|------------|------|------|--------|------|------|------|
|            | 必修   | 選択   |        | 必修   | 選択   |      |
| 機械情報システム工学 | 6    | 2    | 14     | 22   | 18   | 62   |
| 電気電子工学     | 単位以上 | 単位以上 | 単位以上   | 単位以上 | 単位以上 | 単位以上 |
| 物質工学       |      |      |        |      |      |      |

(2) 学則別表第 3 の選択科目のうち、各専攻により必ず修得しなければならない科目は、次表のとおりとする。

| 専攻         | 選択科目名                                           |
|------------|-------------------------------------------------|
| 機械情報システム工学 | 化学特論、環境工学特論、一般力学（高等専門学校の機械工学科を卒業した者は修得する必要がない。） |
| 電気電子工学     | 一般力学、化学特論、環境工学特論                                |
| 物質工学       | 一般力学、環境工学特論                                     |

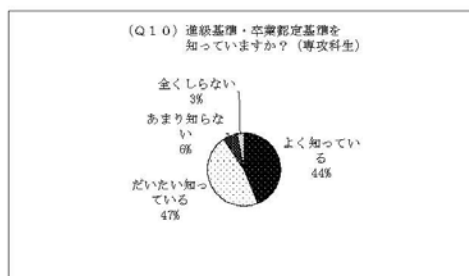
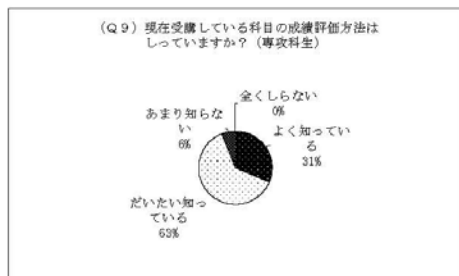
（出典 運営会議（修了判定）議事録）



資料5-8-①-4

進級基準および卒業認定基準の周知度に対するアンケート

実施日 平成19年6月11日



(出典 教職員および学生に対するアンケート集計結果)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 1年生の混合クラスで、共通教育と工学の基礎実験であるものづくり基礎工学が実施されており、教育の成果が得られている。
- ・ 2年生の微分積分の授業で習熟度別授業を実施しており、習熟度に合わせたきめ細かい指導が実現できている点が優れている。
- ・ 授業における指導方法を工夫する状況が優れている。
- ・ 創造性をはぐくむ授業の実施状況が優れている。
- ・ 低学年の担任指導がきめ細かく実現できている点が優れている。
- ・ 1年生のクラスで毎朝ショートHRを実施し、朝シャドなどの取り組みをしている状況が優れている。
- ・ チャレンジウォークなどの企画が、学生・保護者の高い評価を得ている。
- ・ 専攻科の特別研究の受賞状況が優れている。

(改善を要する点)

特になし

## (3) 基準5の自己評価の概要

### 【準学士課程】

1年生の混合学級においては、一般基礎科目と各専門学科の実験(ものづくり基礎工学)を配置し、演習を多く取り入れることにより、中学校を卒業したばかりの学生がスムーズに高専生活に入れるよう工夫されている。また、一般科目と専門科目が、楔形にバランス良く配置され、準学士課程の学習・教育目標を達成するための体系的性が確保されている。

本校では、学生の多様なニーズ、社会からの要請等に対応するため、放送大学の単位の認定、他高等教育機関の単位認定、工場見学およびインターンシップによる単位認定、英検などによる単位認定などを規定している。また、工場見学とインターンシップは卒業要件となっている。更に、補充教育として、留学生に対する日本語教育や専門教育のための授業などを実施している。

「豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的のものづくり技術者の育成」という本校の目的を達成するために実験実習を重視したカリキュラムになっており、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは適切である。また、実験により原理を理解させる指導法、多読により読解力を付けさせる指導法、自由研究とプレゼンテーションを取り入れた国語の指導法など、多くの科目で授業方法の工夫がなされている。

本校では、シラバスの相互チェック体制が保障され、教育課程編成の趣旨に沿った適切なシラバスが作成される手順を定めている。また、シラバスには、準学士課程の学習・教育目標が記載されており、教員・学生の間でかなり良くシラバスが活用されている。

各学科とも、創造性を育む実験を実施している。また、本校はインターンシップに力を入れており、卒業要件として全員がインターンシップを経験することになっている。

進級・卒業認定の規定は、学生便覧に記載され、学生に周知されている。進級と卒業の認定は、それぞれ、運営会議(学年課程修了認定)と運営会議(本科卒業判定)において、規定に従って適切に実施されている。また、答案返却などの機会を設け、学生からの意見の申し立ての機会を設けている。

本校では、高等専門学校設置基準(第17条)5項の定めるところに従い、特別活動(HR)を90時間以上実施している。担任の手引きに従って、担任は、HRにおいて人間の素養の涵養に努めている。また、本校に入学したばかりの1年生の担任は、特に丁寧な指導を行っている。

本校では、教育課程表の科目以外でも、人間の素養の涵養を図っている。担任による学生との個別面談や保護者との個別面談、1年生の朝のショートHR、課外活動、学校行事などにより人間の素養の涵養が図られている。本校の課外活動は活発であり、多くの成果を挙げている。

### 【専攻科課程】

専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっており、教育課程は、学習教育目標を達成するために、体系的に編成されている。特徴のひとつは、専攻科の「融合複合」という目標を達成するために、専門共通科目を多く配置していることである。

本校では、学生の多様なニーズ、社会からの要請等に対応するために、放送大学の単位の認定、他高等教育機関の単位認定、インターンシップによる単位認定、他専攻の専門科目の単位認定などを規定している。また、全員に対し、長期のインターンシップを実施し、外部に開かれたインターンシップ報告会を実施し、報告書にまとめている。

「豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的ものづくり技術者の育成」という本校の目的を達成するために、実験実習を重視したカリキュラムが組まれている。講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは適切である。また、英語演習、実験物理など多くの科目で授業方法の工夫がなされている。また、各専攻とも、創造性を育むための取り組みを実施している。

研究テーマは、学校の目的を達成する上で適切なテーマになっている。また、特研指導記録簿を作成して、専攻科で修学するにふさわしい研究指導が行われている。さらに、本校専攻科生の特別研究は、多くの賞を受賞している。



## 基準6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

準学士課程においては、学習・教育目標（前掲の資料1-1-①-4）を定めている。この学習・教育目標は本校の目的に沿った学生の育成を念頭に掲げられたものである。それぞれの学習・教育目標を担う科目が開設されており、それらの成績評価に関しては、60点以上を合格としている（資料6-1-①-1）。各学習・教育目標を担う科目の単位を修得することにより、当該学習・教育目標を達成していることを確認できる。進級と卒業については、基準を定めた規定（資料6-1-①-2）にしたがって、運営会議（学年課程修了認定）・運営会議（卒業判定）（資料6-1-①-3で規定されている）において、適正に進級・卒業の判定をしている（前掲の資料5-3-①-5）。なお、選択科目が配置されていない3年生までに関しても、進級基準を満たすということは全ての科目の単位を修得することである。また、4年生・5年生の選択科目は、指定された範囲内でどのように選択した場合も、準学士課程の学習教育目標を達成するようになっている（前掲の資料5-1-①-7、資料5-1-①-8、資料5-1-①-9、資料5-1-①-10、資料5-1-①-11）。この結果、進級・卒業を判定することにより、学習教育目標を十分に達成していることを把握・評価することができる。

専攻科課程においても、学習・教育目標（前掲の資料1-1-①-3）が定められており、準学士過程と同様にそれぞれの学習・教育目標を担う科目が開設されている。この場合も専攻科修了に関する規定（資料6-1-①-4）に従い、専攻科委員会（資料6-1-①-5）の審議結果に基づいて運営会議（専攻科修了判定）において適切に修了認定をしている（前掲の資料5-8-①-3）。修了認定に当たっては、個々の学生が作成したポートフォリオ（資料6-1-①-6）を検討し、当該学生が学習・教育目標を達成しているかどうか評価している。修了生全員のポートフォリオは現地閲覧資料とする（現地閲覧資料106）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程では、進級・卒業等の基準を満たしていることを確認することにより準学士課程の学習・教育目標を達成している状況の評価できる。この結果、進級判定・卒業判定が、準学士課程の学習・教育目標を達成している状況の評価する取り組みである。また、専攻科における修了判定においては、単位取得状況だけではなく、ポートフォリオによって、学習・教育目標を達成するために必要な科目の単位を取得しているかどうか評価している。専攻科における修了判定が、学習・教育目標を達成している状況の評価する取り組みである。

以上により、本校の学習・教育目標の達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

資料6-1-①-1

### 第3章 成績評価及び修了認定関係

#### 3-1 東京工業高等専門学校学業成績の評価及び学年課程修了認定等に関する内規

##### 第1章 総 則

第1条 東京工業高等専門学校における、学業成績の評価（以下「評価」という。）、学年課程修了の認定（以下「修了認定」という。）及び卒業の認定等については、特別の定めによるもののほかは、この内規に定めるところによる。

##### 第2章 学業成績の評価

第2条 評価に当たっては、平素の学習、定期試験及び出席状況等を総合的に考慮する。

2 評価はA・B・C・Dの4段階とする。ただし、卒業研究にあつては「合」又は「否」を、インターンシップにあつては、「修了」又は「未修」を判定する。

A（100点～80点）．．．．．優れている。

B（79点～70点）．．．．．普通である。

C（69点～60点）．．．．．やや劣る。

D（59点～0点）．．．．．劣る。

\*原則として1/3を超える欠課時数がある場合はD評価とする。

3 評価がA・B・Cの科目及び「合格」とされた卒業研究並びに「修了」と判定されたインターンシップには、単位の修得を認める。

第2条の2 評価は、各科目担当教員が行う。ただし、卒業研究及びインターンシップの判定については、学科長が代表して行う。

第2条の3 評価は第1学年から第3学年までは前期中間、前期末、後期中間及び学年末にそれぞれ行い、第4学年及び第5学年については、原則として前期末及び学年末にそれぞれ行う。

2 前期末及び学年末の評価をそれぞれ前期及び学年の評価とする。ただし、前期のみで履修する科目にあつては、前期末の評価を学年の評価とする。

3 追試験による評価は、期末試験の評価に準じて、所定の期間に行う。

4 成績が一定の基準に達しない者に対し再試験等を行うことができる。

5 再試験等は、所定の期間に行う。ただし、再試験等を受験する資格は当該定期試験等において原則40%以上の理解力のあつた者とする。なお、再試験等による再評価はCを上限とする。

##### 第3章 学年課程修了の認定

第3条 修了認定は学年末における運営会議（学年課程修了認定）の議を経て、校長が行う。

2 修了認定は当該年度において、次に掲げる各号のいずれにも該当しない者で、かつ別に定める学年課程修了等の認定基準を満たしている者に対して行う。

(1) 学校行事又は特別活動への参加状況が特に悪い者

(2) その他審議を必要と認められる者

3 前項各号のいずれかに該当する者に対しては、審議の上、修了認定の可否を決定する。

(出典 教育便覧)

- のほかの学科においては、「実数」を修得していること、
- (2) 卒業研究が「合格」と認められていること、
- (3) インターンシップが「修了」と認められていること、
- 4 外国人留学生については、編入した学科の1・2年次における開設単位数を一括して認定する。
- 5 編入学生については、編入した学科において当該入学生の入学期の学習記録に基づいて適切な教育課程を編成し、教務委員会の審議を経て、入学した学年次までの開設単位数を一括して認定する。

**3-3 学年課程の修了に関する学校行事及び特別活動の扱いについて**

- (1) 学校行事日数の3分の1を超えて欠席した者で、修了認定の及第線上にある者は、それへの参加状況を修了認定の判定資料にする。
- 学校行事は、次のとおりとする。
- 講演会、スポーツ大会、くぬぎ祭、防及非難訓練、1年合宿研修、冬期学校、その他教育行事が必須と認められる行事、
- (2) 特別活動（ホームルーム）への参加状況は、1から3学年までの修了認定の資料として学校行事と同等の扱いをする。
- 特別活動では、学生が自主的に活動できる能力や態度を身につけ、有意義な学校生活が送れるように学校担任の適切な助言と指導が大切となる。特別活動のために、体育施設や視聴覚機器等の利用に便宜が図られている。

**3-4 原級留置者の扱い**

**3-4-1 既修科単位の扱い**

- (1) 評価「A」等の科目  
すでに修得した単位のうち、「A評価」、「合格」および「修了」の評価（以下、「A評価等」という。）を受けた科目の単位は、そのまま修得したことを認める。従って、その後その科目を再履修する必要はない。
- (2) 上記以外の科目  
上記以外の評価を受けた科目は、再履修させる。

**3-4-2 A評価の科目を持って原級に留置された者の指導について**

- (1) A評価等科目に限り、再履修する必要はない。従ってこの科目の授業時間は、空き時間となる。
- (2) 空き時間の指導は、学校担任（学校指導教員）に委ねる。この場合、学校担任（学校指導教員）は必要に応じて、当該学生の所属する学科長等と協議することができる。
- (3) 当該学生が、A評価等科目の授業に出席を希望する場合は、授業担当教員の許可を得た上で、聴講生として出席を認める。ただし、出席確認（出席簿記入）及び定履修試験受検の対象外とする。
- (4) 当該学生が、空き時間に学級又は他学年の授業を聴講することは、原則として認めない。

**第4章 進 級**  
第4条 修了認定をされた者は、特別の場合を除き、次学年へ進級する。

**第5章 原 級 留 置**  
第5条 修了認定をされなかった者は、原級留置とし、その属する学年と同級に留置。  
第6条 同一学年において2回原級留置となった者に対しては、学則36条第2号の規程を適用する。ただし、休学をした者については別に審議する。

**第6章 卒 業**  
第7条 別に定める学年課程修了等の認定基準の卒業認定基準にない、運営会議（卒業判定）において修了認定をされた者に対して、高等専門学校設置基準に基づき、校長が卒業を認定し、卒業証書を授与する。

**3-2 学年課程修了等の認定基準**  
「東京工業高等専門学校卒業成績の評価及び学年課程の修了等に関する内規」第4条第1項及び第9条に基づき、学年課程修了の認定基準、卒業認定基準は、次のとおりとする。

- 1 第1学年から第4学年までにおける学年課程修了の認定基準は、次に掲げる一般科目及び専門科目修得単位数以上で、かつ学年修得の単位数以上とする。また、当該学年における下記の科目を修得していなければならない。

- ア. 機械工学科 実習、製図、実験
- イ. 電気工学科 実験
- ウ. 電子工学科 実験
- エ. 物質工学科 実験

【学年課程修了の認定基準表】

| 学 科 課 程 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 | 第4学年 | 第5学年 |
|---------|------|------|------|------|------|
| 一般科目    | 29   | 55   | 71   | 73   | 75   |
| 全 学 科   | 5    | 13   | 31   | 57   | 82   |
| 学年修得    | 34   | 68   | 102  | 134  | 167  |

- 2 年次未退学者については、上記1の基準にかかわらず次の場合に学年課程修了の認定するものとする。
- (1) 第1、第2及び第4学年については、当該学年における修得単位数が17単位以上であること。
- (2) 第3学年については、累積修得単位数が77単位以上であること。
- 3 卒業認定基準（全課程修了認定基準）は、次の(1)から(3)までのすべてを満たすものとする。
- (1) 修得単位数は、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上であり、かつ全課程で167単位以上であること。また、機械工学科においては、「実習」・「製図」・「実験」、そ

(出典 教育便覧)

東京工業高等専門学校運営会議規則

制定 平成18年11月9日

(趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内設置運営補助第5条第2項の規定に基づき、東京工業高等専門学校運営会議(以下「運営会議」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 運営会議は、審議機関として管理運営に関する事項を審議し、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

(審議事項)

第3条 運営会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 校務運営及び施設問題に関すること。
- (2) 教員の組織に関すること。
- (3) 学則その他の重要な規則の制定、改廃に関すること。
- (4) 学則解釈の基本に関すること。
- (5) 国際交流及び留学生交流協定等に関する基本的な事項に関すること。
- (6) 入学試験に関すること。
- (7) 学生生活に関すること。
- (8) 卒業(修了)の判定に関すること。
- (9) 卒業(修了)及び退学(退学又は停学)の決定に関すること。
- (10) その他校長が必要と認めた事項。

(運営会議)

第4条 運営会議は、次の名簿に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 主事
- (4) 専攻科長
- (5) 学部長
- (6) 教科代表
- (7) 事務部長
- (8) 監査

2 校長は、前条第1号から第5号に定める事項について、より多くの意見を聴取する必要があると認めるときは、北大運営会議を招集する。

3 北大運営会議は前項各号、図書館長、地域連携テクニクセンター長、情報・メディア教育センター長、校務基盤及び専攻主任をもって組織する。

4 前条第6号に定める事項のうち本科入学試験に関することについては、運営会議(入学関係)とする。

5 前条第7号に定める事項については、運営会議(学生生活関係)とする。

6 前条第8号に定める事項のうち本科卒業判定に関することについては、運営会議(卒業判定)とする。

7 第4項から第6項については、第1項第1号から第7号、学生課長及び教務主事補をもって組織する。

8 前条第9号に定める事項のうち本科学生に関することについては、運営会議(特別指導関係)とし、第1項第1号、学生主事、第5号から第7号、学生課長、学生主事補及び専攻科学生学生の学級主任・学級指導教員をもって組織する。

9 前条第6号、第8号、第9号に定める事項のうち専攻科に関することについては、それぞれ前条第6号については運営会議(専攻科入学関係)、第8号については運営会議(専攻科修了判定)、第9号については運営会議(専攻科特別指導関係)とする。

なお、運営会議(専攻科入学関係)及び運営会議(専攻科修了判定)については、第1項第1号から第7号及び学生課長をもって組織し、運営会議(専攻科特別指導関係)については第1項第1号、学生主事、第4号、第6号、第7号、学生課長、学生主事補及び専攻科学生学生の専攻科主任又は指導教員をもって組織する。

10 校長が必要と認めた場合は、その他の議員を出席させ意見を聴取することができる。

第5条 運営会議は、定例日を定め開催する。ただし、必要のある場合は随時に開催することができる。

(事務)

第6条 運営会議の事務は、庶務課及び学生課において処理する。

附 則

この規則は、平成17年12月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年11月9日から施行する。



(参考)

|           | 専攻科  |      |      | 本科   |      |      | 専攻科  |      |      | 特別指導 |      |      |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|           | 選考実施 | 入学試験 | 卒業認定 | 選考実施 | 入学試験 | 卒業認定 | 選考実施 | 入学試験 | 卒業認定 | 選考実施 | 入学試験 | 卒業認定 |
| 校長        | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 副校長       | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 主事        | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 専攻科長      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 学長        | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 専攻科代表     | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 図書館長      | ○    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 地域連携課長/学長 | ○    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 電子行政課長/学長 | ○    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 技術課長      | ○    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 専攻主任      | ○    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 審議部長      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 課長        | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| その他       |      | 注1   | 注1   |      | 注1   | 注1   |      |      |      |      |      | 注2   |

※ 注1 専攻主事補  
 注2 学生主事補、庶務科係学生の学級主任又は学級指導員  
 注3 学生主事補、庶務科係学生の指導員

(出典 東京工業高等専門学校規則集)

**資料2 東京工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則**

(略記)  
第1条 この規則は、東京工業高等専門学校(以下「学校」という。)第5.0条第2項及び第5.1条第1項に基づき、本専攻科(以下「専攻科」という。)の授業科目の履修方法及び成績の評定並びに修了の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(1)単位当たりの授業時間)  
第2条 1.単位時間は、標準5.0分とする。  
2.授業は、講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらとの併用により行うものとする。  
3.各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を4.5時間の学修を必要とする内容をもつて構成することとを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。  
(1)講義については、1.5時間の授業をもって1単位とする。  
(2)演習については、3.0時間の授業をもって1単位とする。  
(3)実験及び実習については、4.5時間の授業をもって1単位とする。  
4.前項の規定にかかわらず、特別研究の授業科目については、その修得を評価して単位の修得を認定することが適当と認められる場合には、その学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(履修方法)  
第2条 専攻科に開設する授業科目の履修にあたっては、卒業当初に、別添付表1の「専攻科授業科目履修表」(以下「履修表」という。)を所定の期日までに、専攻科長に提出しなければならない。

(指導教員)  
第3条 専攻科の学生は、各専攻の指導教員から授業科目の履修及び特別研究の指導を受けるものとする。

(試験)  
第5条 専攻科の試験は、定期試験及び留試試験とする。

第6条 定期試験は、各学期末に実施し、その時期には試験開始日の1週間前に公示するものとする。  
3.留試試験は、前号の休止を借ない事由により、定期試験を受験できなかった者のうち別添付表2の「専攻科留試試験受検票」を、所定の期日までに専攻科長に提出し、その許可を得た者に対し実施するものとする。

第6条 定期試験における不正行為については、当該試験期間中の全科目の成績は、0点とする。

(成績の評定)  
第7条 授業科目の成績評価は、定期試験等の成績及び平常の学習状況を総合して行うものとする。  
2.授業科目の次時数が当該科目の授業時数の3分の1を超えるものに對して、評価は行わない。  
3.成績の評定は、1.00点法で評価する。必要のある場合、次の区分のいずれかによって表わす。

|      |           |         |         |        |
|------|-----------|---------|---------|--------|
| 区分/点 | 1.00点~80点 | 79点~70点 | 69点~60点 | 59点~0点 |
|      | A         | B       | C       | D      |
| II   | 優         | 良       | 可       | 不可     |

4.特別研究及び特別実習は、「合・否」で評価する。

(単位の認定)  
第8条 前条第3項の規定に基づき、区分Iにより優、良及び可(区分IIによりA、B及びC)に評価された授業科目については、当該科目を修得したものと見做し、単位を認定する。  
2.特別研究及び特別実習については、「合」の評価によりその単位を修得したことを認定する。

(履修条件)  
第9条 第7条第3項の規定に基づき、区分Iにより不可(区分IIによりD)に評価された授業科目のうち、修得する必要がある授業科目は、原則として次年度に再履修するものとする。

(修了要件等)  
第10条 専攻科の修了要件は、字附第1条に規定するもののほか、各号に掲げる条件を満たさなければならない。  
(1)修得すべき単位数については、次の条件を満たすものとする。

| 科目         | 一般科目 | 専攻共通科目 | 専門科目 | 合計   |
|------------|------|--------|------|------|
| 専攻         | 6    | 2      | 2.2  | 1.8  |
| 総合情報システム工学 | 1.4  | 単位以上   | 単位以上 | 単位以上 |
| 電気電子工学     | 1.4  | 単位以上   | 単位以上 | 単位以上 |
| 物質工学       | 1.4  | 単位以上   | 単位以上 | 単位以上 |

(2)字附別表第3の選択科目のうち、各専攻により必ず修得しなければならない科目は、次の表のとおりとする。

| 専攻     | 選択科目名                                            |
|--------|--------------------------------------------------|
| 機械工学   | 化学実験、環境工学実験、一般力学(東京工業大学の履修工学科を卒業した学生は修得する必要がない。) |
| 電気電子工学 | 一般力学、化学実験、環境工学実験                                 |
| 物質工学   | 一般力学、環境工学実験                                      |

(他専攻の授業科目の履修)  
第11条 本校の他専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は、指導教員及び指導専攻主任の許可を得たうえで、履修希望の事項に校長に提出しなければならない。なお、その授業科目の履修のうえ修得した単位は、8単位を超える範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(他の教育研究機関の授業科目の履修)  
第12条 他大学の教育研究機関の専攻科等で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ東京工業大学の許可を受け、校長に申し出なければならない。なお、その授業科目の履修のうえ修得した単位は、1.2単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

**附 則**

- この規則は、平成15年4月1日から施行する。
- この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 平成16年度以前に入学した学生については、なお従前の例による。

資料 6-1-①-5

## 東京工業高等専門学校専攻科規則

## (目的)

第 1 条 この規則は、東京工業高等専門学校学則第 5 2 条の規定に基づき、専攻科の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

## (専攻科長)

第 2 条 専攻科に、専攻科長を置く。

- 2 専攻科長は、校長の命を受け、専攻科に関する事項を掌理する。
- 3 専攻科長は、専攻科を担当する教授の中から、校長が選任する。
- 4 専攻科長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、専攻科長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (専攻主任)

第 3 条 専攻毎に専攻主任を置く。

- 2 専攻主任は、専攻科長の職務を助け、専攻の運営に関することを総括する。
- 3 専攻主任は、専攻を担当する教授又は助教授の中から、専攻科長の推薦に基づき、校長が指名する。
- 4 専攻主任の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、専攻主任に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (専攻副主任)

第 4 条 専攻毎に専攻副主任を置くことができるものとする。

- 2 専攻副主任は、専攻主任の職務を助け、専攻の運営に関することを補佐する。
- 3 専攻副主任は、専攻主任の推薦に基づき、校長が指名する。
- 4 専攻副主任の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、専攻副主任に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (専攻科委員会)

第 5 条 専攻科に、校長の諮問に応じて、専攻科に関する基本的事項を審議し、その円滑な運営を図るため、東京工業高等専門学校専攻科委員会（以下「専攻科委員会」という。）を置く。

- 2 専攻科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

## (雑則)

第 6 条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、校長が別に定める。

## 附 則

この規則は、平成 15 年 4 月 3 日から施行し、平成 15 年 4 月 1 日から適用する。

(出典 専攻科委員会規定)

資料 6-1-①-6

## 達成度確認表

| 学習・教育目標 | 達成した根拠となる修得科目(学生記入欄)                                                                                                                                                                                                                                                    | その他の達成した根拠(学生記入欄)                                  | 専攻主任/副主任記入欄 |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------|
| (A)     |                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                    |             |
| A1      | 環境科学、環境化学、環境工学、環境工学特論                                                                                                                                                                                                                                                   | 環境研究同好会の調査を通して、技術が環境に与える影響を理解した。                   |             |
| A2      | 法学、環境工学特論                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                    |             |
| A3      | 技術者倫理、科学技術論、環境工学特論                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                    |             |
| A4      | 夏期実習、特別実習、技術者倫理                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                    |             |
| (B)     |                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                    |             |
| B1      | 体育、卒業研究、物質工学特別研究                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                    |             |
| B2      | 夏期実習、卒業研究、物質工学特別研究、物質工学特別実習、文章表現論、日本文化論、科学技術論、世界の宗教文化、中小企業・ベンチャー論、英語特講                                                                                                                                                                                                  |                                                    |             |
| B3      | 総合英語Ⅳ、英語演習Ⅰ・Ⅱ、英語特講                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                    |             |
| B4      | 物質工学特講、英語演習Ⅱ、英語特講                                                                                                                                                                                                                                                       | 卒研、特別研究で英語の論文を読んだ                                  |             |
| B5      | 物質工学特講、英語演習Ⅱ、英語特講                                                                                                                                                                                                                                                       | 卒業論文、学位論文のアブストラクトを英文で書いた。<br>日豪学生交流時、研究内容を英語で説明した。 |             |
| (C)     |                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                    |             |
| C1      | 応用数学、量子論、量子化学、線形空間論、離散数学、数値解析、応用解析学                                                                                                                                                                                                                                     |                                                    |             |
| C2      | 設計製図、分離工学、計算機工学特論、生物化学工学                                                                                                                                                                                                                                                | 自分の卒研のテーマはシステム的设计である。                              |             |
| C3      | 情報化学Ⅰ、情報化学Ⅱ、物質工学特別実習、夏期実習                                                                                                                                                                                                                                               |                                                    |             |
| C4      | 物理化学、化学工学Ⅰ、量子論、環境科学、物性物理化学、分子生物学、合成化学、物質工学実験Ⅰ、物質工学実験Ⅱ、化学工学Ⅱ、高分子化学、量子化学、機器分析Ⅰ、機器分析Ⅱ、基礎工学概論Ⅰ、基礎工学概論Ⅱ、電気化学、環境化学、遺伝子工学、材料工学、環境工学、固体化学、エネルギー工学、生物学プロセス、生体高分子学、食品化学、錯体化学、物質工学実験、触媒化学、半導体工学、酵素工学、物理化学特論、分離工学、環境工学特論、化学特論、固体物性学、生物物理化学、生物化学工学、構造有機化学、基礎材料化学、無機固体化学、工業分析化学、移動速度論 |                                                    |             |
| C5      | 応用物理、実験物理、原子核物理、一般力学、量子論、量子化学、物性物理                                                                                                                                                                                                                                      |                                                    |             |
| C6      | 物理化学、化学工学Ⅰ、化学工学Ⅱ、高分子化学、量子論、量子化学、物理化学特論、システム制御、センサー工学、固体物性学、基礎材料化学、材料化学特論、構造有機化学、資源エネルギー工学、無機固体化学、工業分析化学、分離工学、生物物理化学、移動速度論                                                                                                                                               |                                                    |             |
| C7      | 物質工学実験Ⅰ、物質工学実験Ⅱ、機器分析Ⅰ、ゼミナール、夏期実習、卒業研究、物質工学特別研究、物質工学特別実験、機器分析Ⅱ、品質管理、工業分析化学、物質工学特別実習                                                                                                                                                                                      |                                                    |             |
| C8      | 物質工学実験Ⅰ、物質工学実験Ⅱ、品質管理、夏期実習、ゼミナール、卒業研究、物質工学特別研究、物質工学特別演習                                                                                                                                                                                                                  |                                                    |             |
| C9      | ゼミナール、設計製図、卒業研究、物質工学特別研究、環境工学特論                                                                                                                                                                                                                                         | ロボコンゼミの活動でこの能力を身につけた。                              |             |
| C10     | ゼミナール、卒業研究、物質工学特別研究、品質管理                                                                                                                                                                                                                                                | ロボコンゼミの活動でこの能力を身につけた。                              |             |
| C11     | ゼミナール、卒業研究、物質工学特別研究、物質工学特別実験                                                                                                                                                                                                                                            | サッカー部のキャプテンとして、チームでの問題解決を実践した。                     |             |
| C12     | ゼミナール、卒業研究、物質工学特別研究、物質工学特別実験                                                                                                                                                                                                                                            |                                                    |             |
| C13     | ゼミナール、卒業研究、物質工学特別研究、物質工学特別実験                                                                                                                                                                                                                                            | ロボコンゼミの活動でこの能力を身につけた。                              |             |
| C14     | 計算機工学特論、システム制御、センサー工学                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                    |             |
| (D)     |                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                    |             |
| D1      | 体育、卒業研究、物質工学特別研究                                                                                                                                                                                                                                                        | 毎朝ジョギングしてこの能力を身に付けた。                               |             |
| D2      | 体育                                                                                                                                                                                                                                                                      | サッカー部の活動を通してこの能力を身に付けた。                            |             |
| D3      | 法学、技術者倫理、中小企業・ベンチャー論、起業プランニング、英語特講                                                                                                                                                                                                                                      |                                                    |             |
| D4      | 環境工学、起業プランニング、英語演習Ⅰ・Ⅱ、物質工学特別研究                                                                                                                                                                                                                                          | 執心修行懈怠なく、囲碁の4段の免状を取った。                             |             |
| D5      | 起業プランニング、特別実習、生物化学工学                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                    |             |

専攻主任/副主任

印

(出典 学生課資料)

観点6-1-②：各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程に関しては、各学年の単位取得状況（一例を資料6-1-②-1に示す）と各学年のGPA分布を（資料6-1-②-2）調査しており、教育の成果や効果が上がっているかを確認できる体制をとっている。なお、GPAはAを4点、Bを3点、Cを2点、Dを0点として平均値を計算したものである。

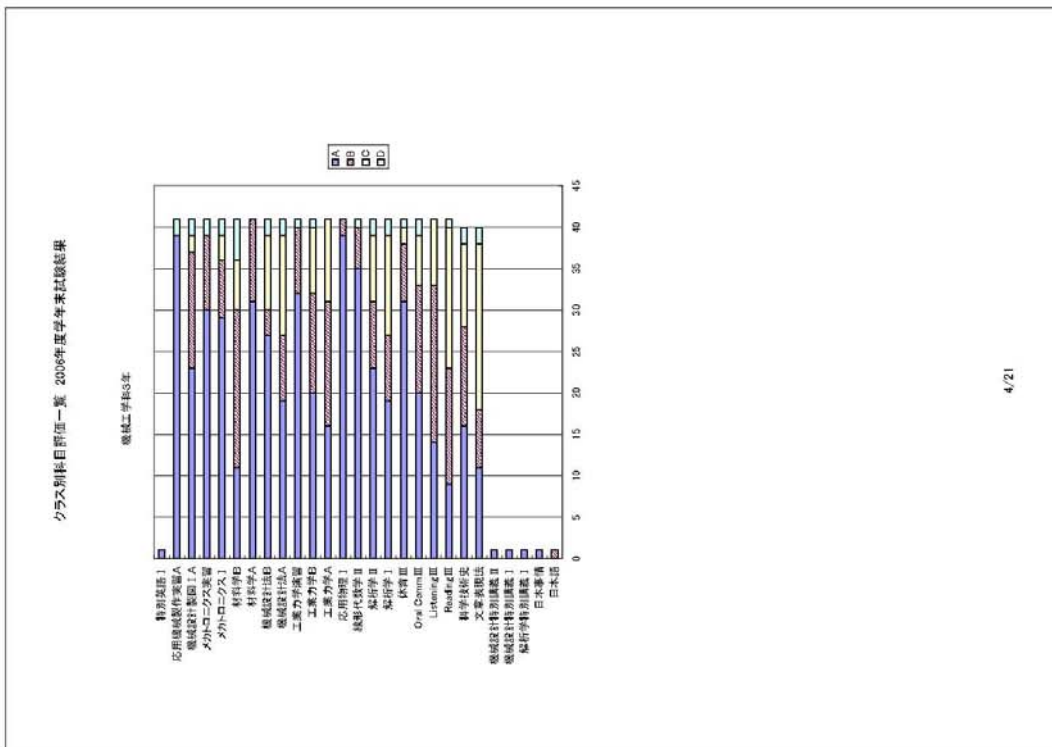
専攻科課程に関しては、修了生の学士取得状況（資料6-1-②-3）、修了生のTOEICの得点状況（資料6-1-②-4）の把握を行っている。また、特別研究の受賞一覧表（前掲の資料5-7-①-3）は研究活動の水準を知る手がかりになっている。なお、卒業研究報告書集（現地閲覧資料16）と特別研究報告集（現地閲覧資料17）は現地閲覧資料とする。

（分析結果とその根拠理由）

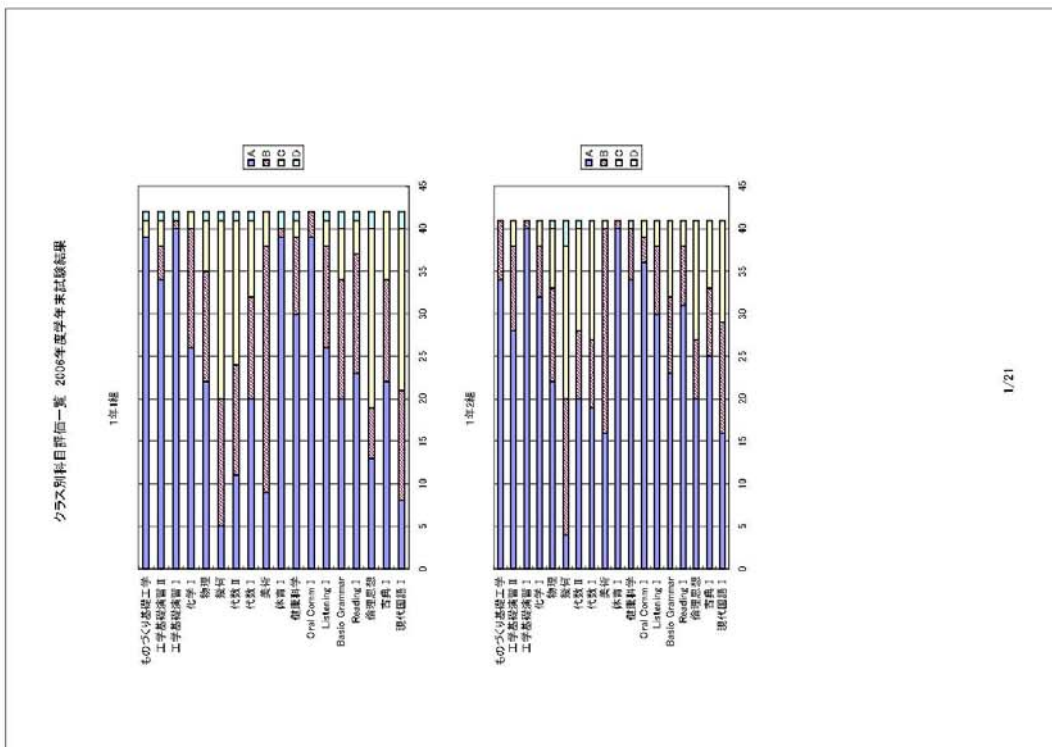
準学士課程に関しては、各学年の単位取得状況は非常に良好である。GPA分布表を分析すると、一部のクラスで半数以上がB評価（3.0）未満という状況になっているが、概ね半分以上の学生がB以上の評価を得ている。専攻科課程に関しては、修了生の学士取得状況は非常に良好であり、修了生はTOEICにおいてほぼ400点以上を得点している。また、特別研究の受賞状況は非常に優れたものである。

以上により、各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、教育の成果や効果が上がっている。

資料6-1-②-1



4/21



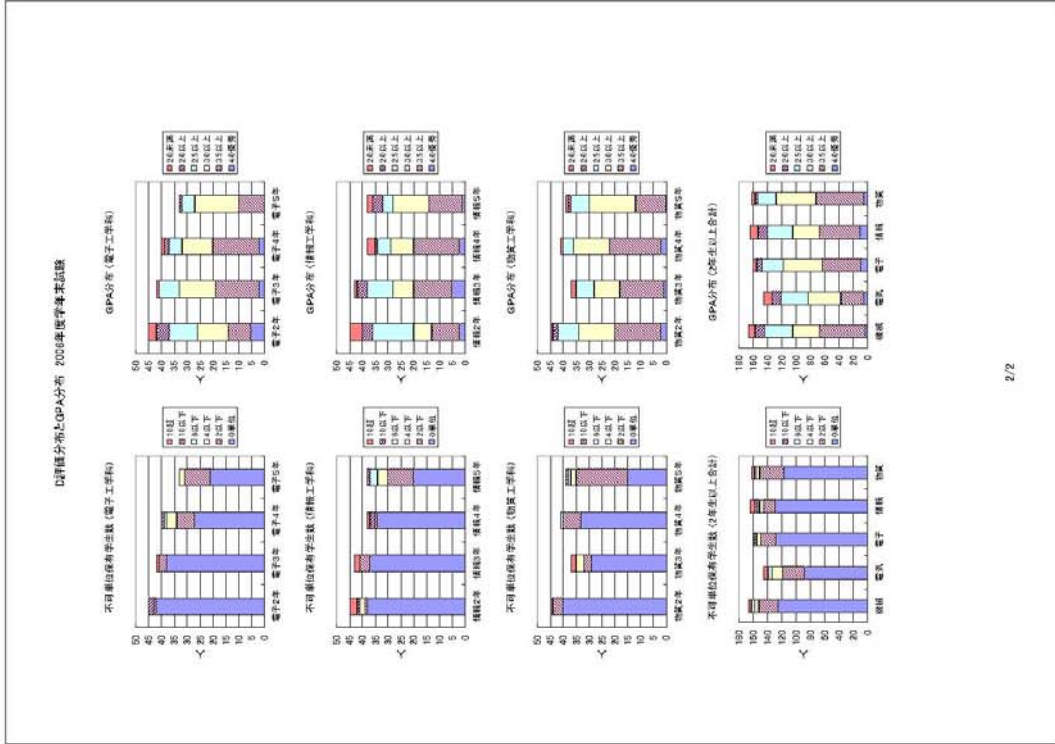
1/21

(出典 学生課資料)

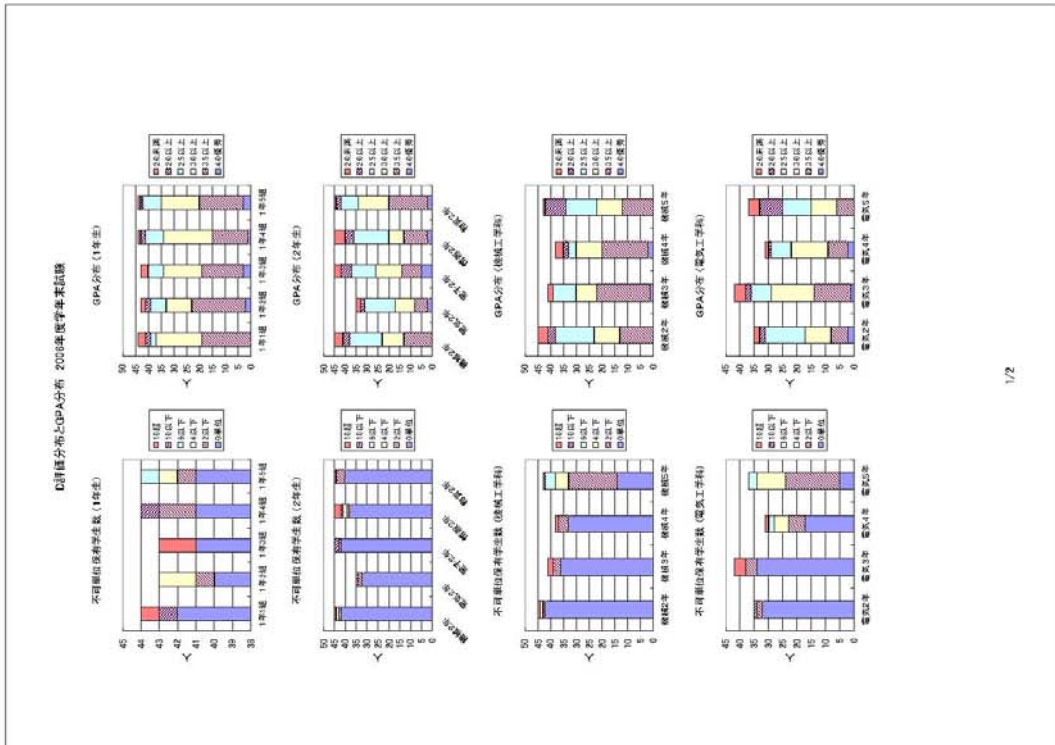








2/2



1/2

(出典 学生課資料)

## 学位取得状況

資料6-1-②-3

| 専攻         | 年度 | 平成16年度 |        |       | 平成17年度 |        |       | 平成18年度 |        |       |
|------------|----|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|
|            |    | 修了生数   | 学位取得者数 | 取得率   | 修了生数   | 学位取得者数 | 取得率   | 修了生数   | 学位取得者数 | 取得率   |
| 機械情報システム工学 |    | 10     | 9      | 90.0  | 10     | 10     | 100.0 | 11     | 9      | 81.8  |
| 電気電子工学     |    | 7      | 7      | 100.0 | 8      | 8      | 100.0 | 8      | 7      | 87.5  |
| 物質工学       |    | 6      | 6      | 100.0 | 5      | 5      | 100.0 | 5      | 5      | 100.0 |
| 全体         |    | 23     | 22     | 95.7  | 23     | 23     | 100.0 | 24     | 21     | 87.5  |

AS1名申請漏れ

| 専攻         | 通算   |        |       |
|------------|------|--------|-------|
|            | 修了生数 | 学位取得者数 | 取得率   |
| 機械情報システム工学 | 31   | 28     | 90.3  |
| 電気電子工学     | 23   | 22     | 95.7  |
| 物質工学       | 16   | 16     | 100.0 |
| 全体         | 70   | 66     | 94.3  |

(出典 学生課資料)

資料6-1-②-4

## 専攻科修了時のTOEICスコア

## 1期生(平成16年度修了)

|    | スコア |
|----|-----|
| 1  | 685 |
| 2  | 650 |
| 3  | 615 |
| 4  | 570 |
| 5  | 560 |
| 6  | 555 |
| 6  | 555 |
| 8  | 495 |
| 8  | 495 |
| 10 | 485 |
| 11 | 480 |
| 12 | 465 |
| 13 | 455 |
| 14 | 440 |
| 15 | 420 |
| 16 | 405 |
| 16 | 405 |
| 18 | 395 |
| 19 | 375 |
| 20 | 365 |
| 21 | 355 |
| 22 | 340 |
| 23 | 305 |
| 平均 | 473 |

1年生10月まで550点修了要件  
週1回フォロー会  
個別指導

## 2期生(平成17年度修了)

|    | スコア                     |
|----|-------------------------|
| 1  | 925                     |
| 2  | 880                     |
| 3  | 595                     |
| 4  | 515                     |
| 5  | 480                     |
| 5  | 480                     |
| 7  | 475                     |
| 7  | 475                     |
| 9  | 465                     |
| 10 | 460                     |
| 11 | 450                     |
| 11 | 450                     |
| 13 | 445                     |
| 13 | 445                     |
| 13 | 445                     |
| 16 | 435                     |
| 17 | 425                     |
| 18 | 420                     |
| 18 | 420                     |
| 20 | 415                     |
| 21 | 410                     |
| 22 | 405                     |
| 23 | 400                     |
| 24 | 395                     |
| 平均 | 488(留学生舎)<br>450(日本人のみ) |

400点を最低ライン  
e-ラーニング  
mp3貸与  
個別指導  
物質工学専攻で英語による特別研究中間発表

## 3期生(平成18年度修了見込)

|    | スコア |
|----|-----|
| 1  | 590 |
| 2  | 575 |
| 3  | 550 |
| 4  | 515 |
| 4  | 515 |
| 6  | 495 |
| 7  | 490 |
| 8  | 485 |
| 9  | 470 |
| 10 | 445 |
| 10 | 445 |
| 12 | 440 |
| 12 | 440 |
| 14 | 430 |
| 14 | 430 |
| 16 | 425 |
| 16 | 425 |
| 18 | 420 |
| 19 | 415 |
| 20 | 410 |
| 21 | 405 |
| 22 | 400 |
| 22 | 400 |
| 24 | 390 |
| 平均 | 459 |

400点を最低ライン  
e-ラーニング  
mp3貸与  
個別指導  
物質工学専攻で英語による特別研究中間発表  
英語プレゼン盤による英語による研究発表

(出典 専攻科委員会資料)

観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程に関しては、卒業生の就職・進学者数および求人倍率の表（資料6-1-③-1）より、就職・進学の決定率が非常に高く、求人倍率も非常に高いことがわかる。卒業生の企業別就職者数一覧表（資料6-1-③-2）に示すとおり、多くの学生が各学科の専門性が活かせる、ものづくりを実践する企業に就職している。また、卒業生の教育機関別進学者数一覧表（資料6-1-③-3）より、卒業生が各学科の専門分野についてさらに学習・研究できる大学に進学する結果となっている。

専攻科修了生の就職進学率・求人倍率の表（資料6-1-③-4）より、専攻科課程に関しても就職・進学の決定率が非常に高く、求人倍率も非常に高い結果となっている。また、修了生の企業別就職者数一覧表（資料6-1-③-5）、および、修了生の教育機関別進学者数一覧表（資料6-1-③-6）からも各専攻の専門性が発揮できる企業あるいは大学院に進んでいることがわかる。

（分析結果とその根拠理由）

卒業生・修了生の就職・進学の決定率は非常に高く、求人倍率も非常に高い。また、卒業生・修了生の就職・進学先を細かく分析すると、それぞれの学科・専攻で学んだ専門性を活かすことのできる企業あるいは大学・大学院となっている。

以上より、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、教育の成果や効果が上がっている。

資料 6-1-③-1

平成18年度(19年3月卒業予定)進路状況

平成19年3月12日現在

| 項目<br>学科 | 卒業予定者数 |     |    | 就職     |    |   |        |    |   | 進学予定者数    |          |          | その他<br>(自営を含む) |    |    |     |   |   |
|----------|--------|-----|----|--------|----|---|--------|----|---|-----------|----------|----------|----------------|----|----|-----|---|---|
|          | 計      | 男   | 女  | 就職希望者数 |    |   | 就職内定者数 |    |   | 求人<br>会社数 | 求人<br>総数 | 求人<br>倍率 | 計              | 男  | 女  | その他 |   |   |
|          |        |     |    | 計      | 男  | 女 | 計      | 男  | 女 |           |          |          |                |    |    | 計   | 男 | 女 |
| 機械工学科    | 42     | 40  | 2  | 23     | 22 | 1 | 22     | 22 | 0 | 812       | 916      | 398      | 18             | 18 | 0  | 2   | 0 | 2 |
| 電気工学科    | 37     | 36  | 1  | 26     | 26 | 0 | 26     | 26 | 0 | 750       | 943      | 363      | 10             | 9  | 1  | 1   | 1 | 0 |
| 電子工学科    | 33     | 31  | 2  | 20     | 19 | 1 | 19     | 18 | 1 | 573       | 749      | 375      | 13             | 12 | 1  | 1   | 1 | 0 |
| 情報工学科    | 38     | 35  | 3  | 17     | 17 | 0 | 16     | 16 | 0 | 477       | 709      | 41.7     | 21             | 19 | 2  | 1   | 0 | 1 |
| 物質工学科    | 38     | 27  | 11 | 18     | 13 | 5 | 18     | 13 | 5 | 321       | 431      | 239      | 19             | 13 | 6  | 1   | 1 | 0 |
| 計        | 188    | 169 | 19 | 104    | 97 | 7 | 101    | 95 | 6 | 2933      | 3748     | 360      | 81             | 71 | 10 | 6   | 3 | 3 |

(留学生を含む)

(出典 学生課資料)

資料 6-1-③-2

| 科目名        | 機械工学科 | 電気工学科 | 電子工学科 | 情報工学科 | 生産工学科 | 計 | 22 | 26 | 19 | 16 | 18 | 101 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|---|----|----|----|----|----|-----|
| アンプ・コンピュータ | 1     |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験       |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(2)    |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(3)    |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(4)    |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(5)    |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(6)    |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(7)    |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(8)    |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(9)    |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(10)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(11)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(12)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(13)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(14)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(15)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(16)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(17)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(18)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(19)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(20)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(21)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(22)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(23)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(24)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(25)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(26)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(27)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(28)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(29)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(30)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(31)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(32)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(33)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(34)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(35)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(36)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(37)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(38)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(39)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(40)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(41)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(42)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(43)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(44)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(45)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(46)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(47)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(48)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(49)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(50)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(51)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(52)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(53)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(54)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(55)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(56)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(57)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(58)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(59)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(60)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(61)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(62)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(63)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(64)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(65)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(66)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(67)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(68)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(69)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(70)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(71)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(72)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(73)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(74)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(75)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(76)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(77)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(78)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(79)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(80)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(81)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(82)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(83)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(84)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(85)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(86)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(87)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(88)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(89)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(90)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(91)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(92)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(93)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(94)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(95)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(96)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(97)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(98)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(99)   |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(100)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(101)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(102)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(103)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(104)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(105)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(106)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(107)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(108)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(109)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(110)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(111)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(112)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(113)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(114)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(115)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(116)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(117)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(118)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(119)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(120)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(121)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(122)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(123)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(124)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(125)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(126)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(127)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(128)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(129)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(130)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(131)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(132)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(133)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(134)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(135)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(136)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(137)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(138)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(139)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(140)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(141)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(142)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(143)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(144)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(145)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(146)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(147)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(148)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(149)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(150)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(151)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(152)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(153)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(154)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(155)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(156)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(157)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(158)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(159)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(160)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(161)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(162)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(163)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(164)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(165)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(166)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(167)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(168)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(169)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(170)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(171)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(172)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(173)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(174)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(175)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(176)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(177)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(178)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(179)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(180)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(181)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(182)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(183)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(184)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |
| 図説電験(185)  |       |       |       |       |       |   |    |    |    |    |    |     |

資料6-1-③-3

## 平成18年度(19年3月卒業予定)編入学等一覧

平成19年3月12日現在

| 学 科       | 機械工学科 | 電気工学科 | 電子工学科 | 情報工学科 | 物質工学科 | 合 計 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 大学名       |       |       |       |       |       |     |
| 長岡技術科学大学  | 4     |       |       |       | 1     | 5   |
| 豊橋技術科学大学  | 4     |       |       | 1     | 1     | 6   |
| 筑波大学      |       |       |       | 1     |       | 1   |
| 東京農工大学    | 2     | 3     | 2     |       | 2     | 9   |
| 電気通信大学    | 1     | 2     | 2     | 3     |       | 8   |
| 東京海洋大学    |       |       |       | 1     |       | 1   |
| 信州大学      |       |       |       |       | 2     | 2   |
| 山梨大学      | 1     |       | 1     |       | 1     | 3   |
| 茨城大学      | 1     |       |       |       |       | 1   |
| 千葉大学      |       | 1     | 1     | 2     |       | 4   |
| 東京工業大学    |       | 2     |       |       | 2     | 4   |
| 島根大学      |       |       | 1     |       |       | 1   |
| お茶の水大学    |       |       |       | 1     |       | 1   |
| 宇都宮大学     |       |       |       |       | 2     | 2   |
| 金沢大学      |       |       |       |       | 1     | 1   |
| 秋田大学      |       |       |       |       | 1     | 1   |
| 工学院大学     |       |       |       |       | 1     | 1   |
|           |       |       |       |       |       |     |
|           |       |       |       |       |       |     |
|           |       |       |       |       |       |     |
|           |       |       |       |       |       |     |
| サレジオ高等専攻科 |       |       |       | 4     |       | 4   |
|           |       |       |       |       |       |     |
| 東京高等専攻科   | 5     | 2     | 5     | 8     | 5     | 25  |
|           |       |       |       |       |       |     |
|           |       |       |       |       |       |     |
| 進学予定      |       |       | 1     |       |       | 1   |
| 合 計       | 18    | 10    | 13    | 21    | 19    | 81  |

(留学生を含む)

(出典 学生課資料)

資料6-1-③-4

## 平成18年度(19年3月修了予定)専攻科進路状況

平成19年3月1日現在

| 項目<br>専攻名    | 修了予定者数 |    |   | 就 職    |    |   |        |    |   | 進学予定者数    |          |          | その他<br>(自営を含む) |   |   |   |   |
|--------------|--------|----|---|--------|----|---|--------|----|---|-----------|----------|----------|----------------|---|---|---|---|
|              | 計      | 男  | 女 | 就職希望者数 |    |   | 就職内定者数 |    |   | 求人<br>会社数 | 求人<br>総数 | 求人<br>倍率 | 計              | 男 | 女 |   |   |
|              |        |    |   | 計      | 男  | 女 | 計      | 男  | 女 |           |          |          |                |   |   |   |   |
| 機械情報システム工学専攻 | 11     | 11 | 0 | 9      | 9  | 0 | 9      | 9  | 0 | 92        | 92       | 102      | 2              | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 電気電子工学専攻     | 8      | 7  | 1 | 5      | 5  | 0 | 4      | 4  | 0 | 88        | 88       | 17.6     | 3              | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 物質工学専攻       | 5      | 5  | 0 | 3      | 3  | 0 | 3      | 3  | 0 | 46        | 46       | 15.3     | 2              | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 計            | 24     | 23 | 1 | 17     | 17 | 0 | 16     | 16 | 0 | 226       | 226      | 133      | 7              | 6 | 1 | 0 | 0 |

(出典 学生課資料)

資料 6-1-③-5

## 平成18年度(19年3月修了予定)専攻科就職先一覧

平成19年3月1日現在

| 専攻名 | 会社名               | 機械情報システム工学専攻 | 電気電子工学専攻 | 物質工学専攻 | 合計 |
|-----|-------------------|--------------|----------|--------|----|
|     | 株OEC              | 1            |          |        | 1  |
|     | キヤノン株             |              | 1        |        | 1  |
|     | 国際ソフトウェア株         | 1            |          |        | 1  |
|     | CRCSシステムズ株        | 1            |          |        | 1  |
|     | 株JAMCO            | 1            |          |        | 1  |
|     | 新電元工業株            |              | 1        |        | 1  |
|     | 東プシ株              | 1            |          |        | 1  |
|     | トヨタテクニカルデベロップメント株 | 1            |          |        | 1  |
|     | 株ニッセー             | 1            |          |        | 1  |
|     | ニコン株              |              | 1        |        | 1  |
|     | 株日本パロン            |              |          | 1      | 1  |
|     | ネクストウェア株          | 1            |          |        | 1  |
|     | 富士電機株             | 1            |          |        | 1  |
|     | 松下電工エンジニアリング株     |              |          | 1      | 1  |
|     | ユーキャン株            |              |          | 1      | 1  |
|     |                   |              |          |        |    |
|     |                   |              |          |        |    |
|     | 国家公務員             |              | 1        |        |    |
|     | 就職予定              |              | 1        |        | 1  |
|     | 計                 | 9            | 5        | 3      | 17 |

(出典 学生課資料)



専攻科平成19年3月修了生  
大学院進学先

| 大学院名          | 修/博   | 研究科名        | 専攻名        | 備考             |
|---------------|-------|-------------|------------|----------------|
| 東京工業大学大学院     | 修士    | 総合理工学研究科    | 化学環境学専攻    | 物質工学専攻1名       |
| 北陸先端科学技術大学院大学 | 博士(前) | 知識科学研究科     |            | 電気電子専攻2名       |
| 長岡技術科学大学大学院   | 修士    | 工学研究科       | 機械創造工学専攻   | 機械情報システム工学専攻1名 |
| 九州工業大学大学院     | 博士(前) | 生命体工学研究科    | 脳情報専攻      | 物質工学専攻1名       |
| 筑波大学大学院       | 博士(前) | システム情報工学研究科 | 知能機能システム専攻 | 機械情報システム工学専攻1名 |

(注典 学生課資料)

観点6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

卒業時・修了時に達成度に関するアンケート実施している（資料6-1-④-1、2）。各学科・各専攻の学習・教育目標に共通する以下の6項目、すなわち、「1. 技術者としての自律的な行動規範」、「2. 日本語およびコミュニケーション」、「3. 基礎学力および専門分野学力」、「4. グループ活動における協調性とリーダーシップ」、「5. 継続的な自己啓発能力」、「6. ものづくり技術者」に関して身につけた能力について、「高い」「やや高い」「普通」「やや低い」「低い」の5段階で達成度を評価させている。これらの結果によると、準学士課程では、いずれの項目においても7割以上が「高い」～「普通」と答えているが、専攻科修了生の回答では、「2. 日本語およびコミュニケーション」および「4. グループ活動における協調性とリーダーシップ」の項目で、「やや低い」「低い」と答えた学生が全体のほぼ半数に上っていることがわかる。

（分析結果とその根拠理由）

卒業時・修了時に実施した達成度に関するアンケート結果によると、卒業時にはいずれの項目においても良好な結果が得られているため、教育の成果や効果が上がっていると考えることが出来るが、修了時においては、「2. 日本語およびコミュニケーション」および「4. グループ活動における協調性とリーダーシップ」の項目で、「やや低い」「低い」と答えた学生が全体のほぼ半数に上った。今後これらの能力の向上を図る必要があるが、それ以外の技術者としての本質的な能力、特に、「ものづくり技術者」という観点での資質・能力の達成度に対する評価は高くなっている。学生が行う学習達成度評価の結果から判断すると、教育の成果や効果が上がっていると考えてよい。

卒業時アンケート

2/2 ページ

卒業時における学生自身による  
学習・教育目標達成度評価アンケート

**【目的】**  
このアンケートは、学習・教育目標に関する達成度を学生が自己評価を行うもので、集計結果は、専攻士課程の教育改善に役立てるための基礎資料となります。学生諸君の貴重な意見を聞かせてください。

(1)好きなペンネームをアルファベットで入力してください。ペンネームは送付ボタンの二度押しなどのトラブルに対処するための回答者を特定するものではありません。

ペンネーム:  
機械工学科  
電気工学科  
電子工学科  
情報工学科  
物質工学科

**【Q1】**  
技術者としての自発的な行動規範を身につけているという観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか、以下の選択群から最もあてはまるものをご一つ選んでください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

**【Q2】**  
日本語およびコミュニケーション能力という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか、以下の選択群から最もあてはまるものをご一つ選んでください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

**【Q3】**  
基礎学力および専門分野学力(もの作りの知識、理解力、脱取り力)という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか、以下の選択群から最もあてはまるものをご一つ選んでください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

**【Q4】**  
グループ活動における協調性という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか、以下の選択群から最もあてはまるものをご一つ選んでください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

**【Q5】**  
継続的な自己啓発力(学び続ける力)を社会の変化に対応できるという観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか、以下の選択群から最もあてはまるものをご一つ選んでください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

**【Q6】**  
ものづくり技術者という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか、以下の選択群から最もあてはまるものをご一つ選んでください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

http://bayes.tokyo-ct.ac.jp/db/top.cgi 2007/03/19

卒業時アンケート

1/2 ページ

東京工業高等専門学校専攻士課程  
卒業時における学生自身による  
学習・教育目標達成度評価アンケート

**【目的】**  
このアンケートは、学習・教育目標に関する達成度を学生が自己評価を行うもので、集計結果は、専攻士課程の教育改善に役立てるための基礎資料となります。学生諸君の貴重な意見を聞かせてください。

(1)好きなペンネームをアルファベットで入力してください。ペンネームは送付ボタンの二度押しなどのトラブルに対処するための回答者を特定するものではありません。

ペンネーム:  
機械工学科  
電気工学科  
電子工学科  
情報工学科  
物質工学科

**【Q1】**  
技術者としての自発的な行動規範を身につけているという観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか、以下の選択群から最もあてはまるものをご一つ選んでください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

**【Q2】**  
日本語およびコミュニケーション能力という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか、以下の選択群から最もあてはまるものをご一つ選んでください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

http://bayes.tokyo-ct.ac.jp/db/top.cgi 2007/03/19

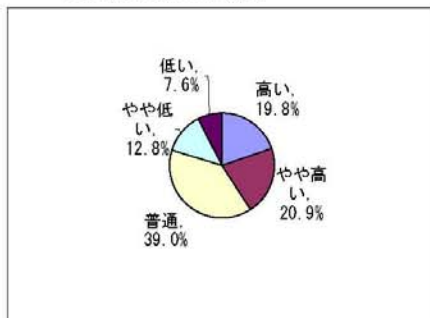
(出典 認証評価専門委員会資料)

資料 6-1-④-1

## 学習教育目標の達成度自己評価に関するアンケート

実施時期 2007年2月下旬  
 対象者 2006年度準学士課程卒業予定者  
 有効回答数 172件

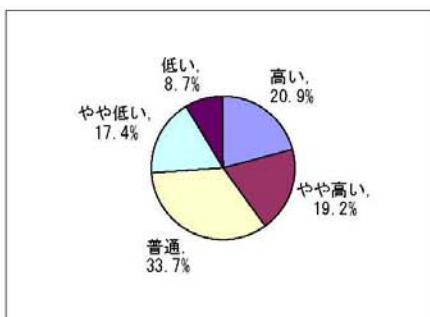
- 【1】技術者としての自立的な行動規範を身につけているという観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



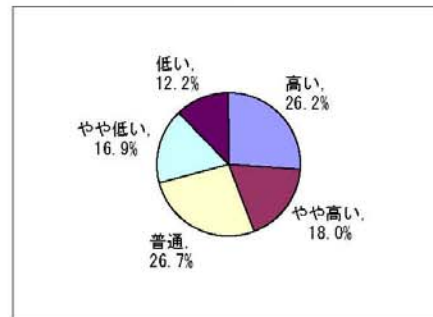
- 【2】日本語およびコミュニケーション能力という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



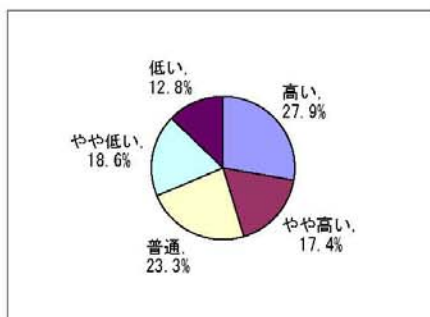
- 【3】基礎学力および専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると次のどれに該当しますか。



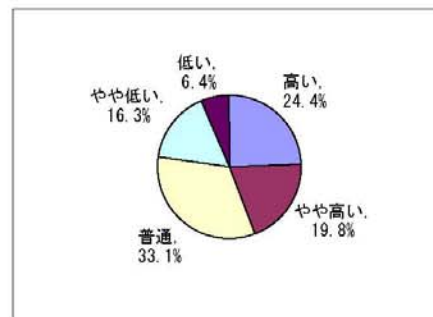
- 【4】グループ活動における協調性とリーダーシップ力という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



- 【5】継続的な自己啓発力（学び続ける力）を持ち社会の変化に対応できるという観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



- 【6】ものづくり技術者という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



(出典 認証評価専門委員会資料)

1-2 専攻科の単位に關して、各々自身に對しに對しと考へてゐるものを次の中から選び、○を付けてください。(5つまで回答可)

- 1 専門科目の基礎科
- 2 専門科目の応用科
- 3 専門科目の基本科目
- 4 人文社会科学の一般教養
- 5 自然科学の一般教養
- 6 英語科
- 7 日本語科
- 8 専門基礎科目
- 9 英語科
- 10 数学科
- 11 プレゼンテーション科
- 12 コミュニケーション科
- 13 調査科
- 14 実験科
- 15 技術習得科
- 16 専門基礎科目
- 17 その他

1-3 専攻科の単位に關して、あなた自身に對しに對しと考へてゐるものうち、特にその程度に對して、強に立つと考へてゐるものを次の中から選び、○を付けてください。(5つまで回答可)

- 1 専門科目の基礎科
- 2 専門科目の応用科
- 3 専門科目の基本科目
- 4 人文社会科学の一般教養
- 5 自然科学の一般教養
- 6 英語科
- 7 日本語科
- 8 専門基礎科目
- 9 英語科
- 10 数学科
- 11 プレゼンテーション科
- 12 コミュニケーション科
- 13 調査科
- 14 実験科
- 15 技術習得科
- 16 専門基礎科目
- 17 その他

1-4 専攻科の単位に關して、今後、専攻科の卒業を願ふべしと考へるものを次の中から選び、○を付けてください。(5つまで回答可)

- 1 専門科目の基礎科
- 2 専門科目の応用科
- 3 専門科目の基本科目
- 4 人文社会科学の一般教養
- 5 自然科学の一般教養
- 6 英語科
- 7 日本語科
- 8 専門基礎科目
- 9 英語科
- 10 数学科
- 11 プレゼンテーション科
- 12 コミュニケーション科
- 13 調査科
- 14 実験科
- 15 技術習得科
- 16 専門基礎科目
- 17 その他

1-5 採るべき科目として既に60%以上の単位があり、専攻科に出ける卒業科目では、残り目標として50%以上の卒業できることを目標としています。このことについて、意見を自由に記述してください。

1-6 社会情勢をみずけて、今後、専攻科として目指すべきと見られる新課程科目とその導入について、意見を自由に記述してください。

(次のページに続きます。)

平成19年1月

東京工業高等専門学校  
専攻科2年生 各位

東京工業高等専門学校  
専攻科長 三 谷 知 世

専攻科教育に關するアンケートのお返りについて

本校は専攻科教育のあり方、教育内容の充実・改善等について、様々な検討を進めてまいりました。本校の専攻科2科に在学中のみなさまの意見を交換し、検討を進めることが効果的であると考へ、「専攻科教育に關するアンケート」を実施することになりました。ついては、アンケートの趣旨を理解いただき、次のアンケートにご協力ください。

今後の学校のあり方、教育内容の充実・改善の検討の基礎資料としますので、次のアンケートについて(回答のうえ、2月7日(水)までに返信)をしてください。

専攻科 機械情報システム工学専攻 ・ 電気電子工学専攻 ・ 物質工学専攻  
(いずれかに○を付けてください。)

1 専攻科に關する調査等

1-1 専攻科の単位に關して、各項目に對しにその程度として選ぼうとするもの(5つまで)の中から一つを選び、○を付けてください。

|                | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|----------------|---|---|---|---|---|
| 大満足 しっかりしている   |   |   |   |   |   |
| やや満足 どちらともいえない |   |   |   |   |   |
| 満足 満足している      |   |   |   |   |   |
| 不満足 満足していない    |   |   |   |   |   |
| ア 専門科目(基礎)     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| イ 専門科目(応用)     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ウ 専門科目(基本)     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| エ 専門科目(実習)     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| オ 専門科目(実習)     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| カ 一般科目(英語)     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| キ 一般科目(英語)     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ク 英語科          | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ケ 厚生科          | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| コ 生活相談、学生相談    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ク 道徳相談、進路指導    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| サ 資格取得         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ス 総合支援         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

※ 工 専門科目(特別実習)は、1か2の を選択します。(次のページに続きます。)

(印) 学生調査資料

2-2-3 高等学校において、今後、特に入入るべきものを次の中から選び、○を付けて下さい。(複数回答可)。

|                |              |
|----------------|--------------|
| 1 教員の質の向上      | 5 学料の削減・減額   |
| 2 教育内容・教育方法の充実 | 6 国際交流       |
| 3 奨学金・奨励金・単位認定 | 7 地域連携・産学官連携 |
| 4 教育施設・設備の充実   | 8 その他( )     |

3-3 本材に関する問題等(東京高等の本科卒業生の方のみ、ご回答ください。)

3-3-1 本材で学び、卒業したことについて、その総合的な満足度として該当するものを次の中から一つ選び、○を付けてください。

|             |             |
|-------------|-------------|
| 1 大変満足している  | 4 多少満足していない |
| 2 やや満足している  | 5 全く満足していない |
| 3 どちらともいえない |             |

3-3-2 本材の教育内容、授業、施設・設備等に關して、良かった点、良くなかった点及び今後、改善を願うべき点を自由に記述してください。

[良かった点]

[良くなかった点]

[改善を願うべき点]

4-4 卒業生、修了生の能力に関する自己評価等

卒業生、修了生の能力に關して評価し公表するために、「学校の目的に沿って、あなたが、卒業、修了時に身につけた学力、態度、能力」について、下記のアンケートにお答えください。(複数回答可) (複数回答可)

4-4-1 評価者としての自覚的な行動改善を求めているという観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力、態度、能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるもの一つを選び、○を付けてください。

|         |
|---------|
| 1. 高い   |
| 2. やや高い |
| 3. 普通   |
| 4. やや低い |
| 5. 低い   |

(次のページに続きます。)

1-1-7 専攻科の教育内容、専攻科連携、施設・設備等に關して、良かった点、良くなかった点及び今後、改善を願うべき点を自由に記述してください。

[良かった点]

[良くなかった点]

[改善を願うべき点]

1-1-8 日本経済産業省 職業能力開発促進法 (JABEE) の民間教育プログラム認定制度について、あなたの感想として該当するものを次の中から一つ選び、○を付けてください。

|                                                   |
|---------------------------------------------------|
| 1 JABEE認定教育プログラム認定を受けた専攻科は、社会に貢献している              |
| 2 JABEE認定教育プログラム認定を受けた専攻科は、社会に貢献していない             |
| 3 JABEE認定教育プログラム認定を受けた専攻科は、社会に貢献している/していないが、わからない |
| 4 その他( )                                          |

2 高等学校の今後への提言等

2-1 高等学校卒業(修士課程) 卒業生に關する社会からの人材ニーズについて、今後、どうなると思いますが、次の中から一つ選び、○を付けて下さい。

|               |          |
|---------------|----------|
| 1 明らかにニーズが増える | 4 増えなくなる |
| 2 増えなくなる      | 5 その他( ) |
| 3 ニーズは次第に強くなる |          |

2-2 高等学校卒業(修士課程)で、次の職業を希望する者の方、今後、社会からの人材ニーズが最も高くなると思うものを、一つ選び、○を付けて下さい。

|                                 |
|---------------------------------|
| 1 水産(海洋工学) 造船業、漁業に就く者           |
| 2 海洋工学(船舶工学) 造船業に就く者            |
| 3 海洋工学(船舶工学) 造船業以外の業種に就く者       |
| 4 (専攻科) 船舶工学(船舶工学) 造船業に就く者      |
| 5 (専攻科) 船舶工学(船舶工学) 造船業以外の業種に就く者 |
| 6 特に関心のある業種は無い                  |
| 7 わからない                         |

(次のページに続きます。)

平成12年度 東京工業高等専門学校卒業生アンケート調査結果  
卒業生「修了生の能力に関する自己評価等」

1. 技術者としての自立的な行動経験

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 機械情報システム工専専攻 | 0  | 3    | 4  | 0    | 0  |
| 電気電子工専専攻     | 0  | 3    | 3  | 0    | 2  |
| 物質工専専攻       | 0  | 0    | 3  | 2    | 1  |
| 合計           | 0  | 6    | 9  | 2    | 3  |

2. 日本語およびコミュニケーション能力

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 機械情報システム工専専攻 | 0  | 3    | 0  | 4    | 0  |
| 電気電子工専専攻     | 0  | 0    | 3  | 3    | 2  |
| 物質工専専攻       | 0  | 0    | 3  | 0    | 2  |
| 合計           | 0  | 3    | 6  | 7    | 4  |

3. 基礎学力および専門分野学力

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 機械情報システム工専専攻 | 0  | 2    | 5  | 0    | 0  |
| 電気電子工専専攻     | 1  | 1    | 4  | 1    | 1  |
| 物質工専専攻       | 0  | 0    | 2  | 2    | 1  |
| 合計           | 1  | 3    | 11 | 3    | 2  |

4. グループ活動における協働性(リーダーシップ)

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 機械情報システム工専専攻 | 0  | 2    | 3  | 2    | 0  |
| 電気電子工専専攻     | 0  | 1    | 3  | 2    | 2  |
| 物質工専専攻       | 0  | 2    | 0  | 2    | 1  |
| 合計           | 0  | 5    | 6  | 6    | 3  |

5. 総合的な自己啓発能力

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 機械情報システム工専専攻 | 0  | 2    | 3  | 1    | 0  |
| 電気電子工専専攻     | 0  | 2    | 3  | 1    | 2  |
| 物質工専専攻       | 0  | 2    | 3  | 1    | 0  |
| 合計           | 0  | 6    | 11 | 1    | 2  |

6. ものづくり技術者

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 機械情報システム工専専攻 | 0  | 4    | 2  | 0    | 0  |
| 電気電子工専専攻     | 0  | 2    | 2  | 1    | 2  |
| 物質工専専攻       | 0  | 2    | 2  | 1    | 0  |
| 合計           | 0  | 8    | 7  | 1    | 2  |

4-2 日本語およびコミュニケーション能力という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるもの一つを選び、○を付けてください。

1. 高い
2. やや高い
3. 普通
4. やや低い
5. 低い

4-3 基礎学力および専門分野学力(ものづくりの知識、語学力、図画力)という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるもの一つを選び、○を付けてください。

1. 高い
2. やや高い
3. 普通
4. やや低い
5. 低い

4-4 グループ活動における協働性(リーダーシップ)という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるもの一つを選び、○を付けてください。

1. 高い
2. やや高い
3. 普通
4. やや低い
5. 低い

4-5 総合的な自己啓発能力(学び続ける力)を携わ社会の発展に貢献できるという観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるもの一つを選び、○を付けてください。

1. 高い
2. やや高い
3. 普通
4. やや低い
5. 低い

4-6 ものづくり技術者という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるもの一つを選び、○を付けてください。

1. 高い
2. やや高い
3. 普通
4. やや低い
5. 低い

\*ご協力ありがとうございました。

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。  
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では、在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関するアンケートを実施している。専攻科修了生に対するアンケート結果（資料6-1-⑤-1）では、学習・教育目標に関連する「2. 日本語およびコミュニケーション」、「4. グループ活動における協調性とリーダーシップ」に関して身につけた能力はやや低いが、「1. 技術者としての自律的な行動規範」、「3. 基礎学力および専門分野学力」、「6. ものづくり技術者」に関して身につけた能力については比較的高いと感じている。このように専門分野での達成度は高く、全体として教育の成果や効果は上がっている。

企業アンケートの結果（資料6-1-⑤-2）では、多くの企業が本校の学習・教育目標が社会の要請を満たす技術者の育成に適切であると評価している。このことと本校の高い求人倍率等（資料6-1-③-1、資料6-1-③-4）から、本校では学習・教育目標に合致した学生を育成できていると考えられ、全体として教育の成果や効果は上がっているといえる。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、卒業（修了）生や進路先の企業に対し、アンケートを実施している。その結果として、日本語およびコミュニケーション能力、および、グループ活動における協調性とリーダーシップに関する評価がやや低いが、それ以外の項目に関する評価は良好であり、全体として肯定的な評価である。以上より、教育の成果や効果が上がっていることがわかる。



専攻科教育に関するアンケート

実施時期 平成19年2月  
実施対象 平成16・17年専攻科修了生 47名  
回答者数 15名

| 専攻 | 1年生  | 2年生   | 計     |
|----|------|-------|-------|
| AS | 1(0) | 6(2)  | 7(2)  |
| AE | 2(0) | 2(0)  | 4(0)  |
| AC | 1(1) | 3(1)  | 4(2)  |
| 計  | 4(1) | 11(3) | 15(4) |

※ 17年度専攻科内訳：1)は理工専攻科

回答率 32%  
題目 専攻科教育のあり方、教育活動の充実・改善等に資するため

5 卒業生・修了生の能力に関する自己評価等

卒業生・修了生の能力に関して詳細に調査するために、「学校の目的に沿って、あなたが修了後に身につけた学力・力量・能力を評価する」と、次のどの項目について、どの程度身につけたかを評価してください。(専攻科修了後5年以内(現在)で思っていることでも構いません。)

回答者数14名

5-1 技術者としての自律的な行動規範を身につけているという観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・力量・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。以下の選択から最も当てはまるものを選択し、○を付けてください。

- 1. 高い 0.0%
- 2. やや高い 7 50.0%
- 3. 普通 7 50.0%
- 4. やや低い 0 0.0%
- 5. 低い 0 0.0%

5-2 日本語およびコミュニケーション能力という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・力量・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。以下の選択から最も当てはまるものを選択し、○を付けてください。

- 1. 高い 0.0%
- 2. やや高い 5 35.7%
- 3. 普通 4 28.6%
- 4. やや低い 4 28.6%
- 5. 低い 1 7.1%

5-3 基礎学力および専門的学力(もの作りの知識、算術力、図形力)という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・力量・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。以下の選択から最も当てはまるものを選択し、○を付けてください。

- 1. 高い 7 71%
- 2. やや高い 6 42.9%
- 3. 普通 7 50.0%
- 4. やや低い 0 0.0%
- 5. 低い 0 0.0%

5-4 グループ活動における協調性とリーダーシップ能力という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・力量・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。以下の選択から最も当てはまるものを選択し、○を付けてください。

- 1. 高い 2 14.3%
- 2. やや高い 1 7.1%
- 3. 普通 6 42.9%
- 4. やや低い 5 35.7%
- 5. 低い 0 0.0%

5-5 自律的な自己管理能力(自己評価力)を身につけているという観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・力量・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。以下の選択から最も当てはまるものを選択し、○を付けてください。

- 1. 高い 1 7.1%
- 2. やや高い 1 7.1%
- 3. 普通 9 64.3%
- 4. やや低い 1 7.1%
- 5. 低い 2 14.3%

5-6 ものごくり技術者という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・力量・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。以下の選択から最も当てはまるものを選択し、○を付けてください。

- 1. 高い 1 7.1%
- 2. やや高い 7 50.0%
- 3. 普通 5 35.7%
- 4. やや低い 0 0.0%
- 5. 低い 1 7.1%

(出典 庶務課アンケート資料より抜粋)

東京工業高等専門学校「創成型工学」教育プログラム  
(The Program of Creative Engineering Education)

アンケート調査表

氏名 \_\_\_\_\_ 記入担当学所属・姓字名 \_\_\_\_\_ 日  
回答日 平成16年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

【1】日本技術者教育認定機構 (JABEE) について

- 問1. 日本技術者教育認定機構 (JABEE) をご存知でしょうか。  
a) よく知っている b) ある程度知っている c) あまり知らない  
d) 全く知らない e) その他 ( )
- 問2. 日本技術者教育認定機構 (JABEE) のような高等教育機関の教育水準を認定する制度は必要だと思いますか。  
a) 非常に必要である b) ある程度必要である c) あまり必要ない  
d) 全く必要ない e) その他 ( )
- 【2】本校の「創成型工学」教育プログラムについて
- 問3. 当教育プログラムの理念は、理解できますでしょうか。  
a) よくわかる b) ある程度わかる c) あまりわからない  
d) 全くわからない e) その他 ( )
- 問4. 当教育プログラムの名称は適切と思われるかどうか。  
a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
d) 全く適切でない e) その他 ( )
- 問5. 当教育プログラムが目指す技術者は、理解できますでしょうか。  
a) よくわかる b) ある程度わかる c) あまりわからない  
d) 全くわからない e) その他 ( )
- 問6. 当教育プログラムが目指す技術者は、今後必要になると思われますか。  
a) 非常に必要になる b) ある程度必要になる c) あまり必要にならない  
d) 全く必要にならない e) その他 ( )

【3】本校の「創成型工学」教育プログラムについて

- 問7. 当教育プログラムの学習・教育目標は、理解できますでしょうか。  
a) よくわかる b) ある程度わかる c) あまりわからない  
d) 全くわからない e) その他 ( )
- 問8. 当教育プログラムにたいして、この学習・教育目標は、適切と思われるかどうか。  
a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
d) 全く適切でない e) その他 ( )
- 問9. 学習・教育目標【(A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機・安全に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者の養成】は、「社会の要請する水準」以上の学士 (技術者) を育てるという観点から適切と思われるかどうか。  
※ここでは、「社会の要請する水準」は「専任教員が期待している学士としての水準」とお考えください。  
a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
d) 全く適切でない e) その他 ( )

- 問10. 学習・教育目標【(B) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際的に活躍しうる素養を持った技術者の養成】は、「社会の要請する水準」以上の学士 (技術者) を育てるという観点から適切と思われるかどうか。  
a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
d) 全く適切でない e) その他 ( )
- 問11. 学習・教育目標【(C) 基礎学力の上に、英検2級、創造力、研究開発能力を身につけた技術者の養成】は、「社会の要請する水準」以上の学士 (技術者) を育てるという観点から適切と思われるかどうか。  
a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
d) 全く適切でない e) その他 ( )
- 問12. 学習・教育目標【(D) 生涯にわたる自己開発能力や健康増進能力及び社会の変化に対応できる柔軟性を身につけた技術者の養成】は、「社会の要請する水準」以上の学士 (技術者) を育てるという観点から適切と思われるかどうか。  
a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
d) 全く適切でない e) その他 ( )
- 問13. 学習・教育目標【(A) ~ (D) を達成した専攻科卒業生は、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と書えるでしょうか。  
a) 水準よりかなり上である b) 水準よりやや上である c) 水準程度である  
d) 水準よりやや下である e) 水準よりかなり下である
- 問14. 当教育プログラムの学習・教育目標が達成されていれば、専社の新入社員としての資質を満足していると思われますか。  
a) 十分満足である b) ある程度満足である c) あまり満足できない  
d) 全く満足できない e) その他 ( )

【4】その他

問15. 貴社では、社員の採用にあたり、JABEE プログラム終了認定の卒業生を採用の利便材料として活用したいと思われますか。

- a) 積極的に活用したい b) ある程度活用したい c) あまり活用したくない  
d) 全く活用したくない e) その他 ( )

問16. 貴社では、大卒、専攻科修了生の新入社員の英語力として、TOEICは何点以上必要と考えられますか。

- a) 300点以上 b) 400点以上 c) 500点以上  
d) 600点以上 e) その他 ( )

【5】その他ご意見がございましたら、お教えください。

＜ 〉

ご協力ありがとうございました。

東京工業高等専門学校「創成型工学」教育プログラム(The Program of Creative Engineering Education)  
アンケート調査結果

調査期間11月7日～2月10日 送付企業数284社 回答数98社(回答率34.5%)

問1. 日本技術者教育認定機構(JABEE)をご存知でしょうか。

|            |              |            |           |        |
|------------|--------------|------------|-----------|--------|
| a) よく知っている | b) ある程度知っている | c) あまり知らない | d) 全く知らない | e) その他 |
| 1          | 35           | 23         | 4         | 0      |

問2. 日本技術者教育認定機構(JABEE)のような高等教育機関の教育水準を認定する制度は必要だと思いますか。

|             |              |            |           |        |
|-------------|--------------|------------|-----------|--------|
| a) 非常に必要である | b) ある程度必要である | c) あまり必要ない | d) 全く必要ない | e) その他 |
| 27          | 50           | 8          | 1         | 6      |

問3. 当教育プログラムの理念は、理解できますでしょうか。

|          |            |             |            |        |
|----------|------------|-------------|------------|--------|
| a) よくわかる | b) ある程度わかる | c) あまりわからない | d) 全くわからない | e) その他 |
| 42       | 47         | 6           | 0          | 0      |

問4. 当教育プログラムの名称は適切だと思いますか。

|             |              |             |            |        |
|-------------|--------------|-------------|------------|--------|
| a) 非常に適当である | b) ある程度適当である | c) あまり適当でない | d) 全く適当でない | e) その他 |
| 23          | 57           | 9           | 0          | 6      |

問5. 当教育プログラムが目指す技術者は、理解できますでしょうか。

|          |            |             |            |        |
|----------|------------|-------------|------------|--------|
| a) よくわかる | b) ある程度わかる | c) あまりわからない | d) 全くわからない | e) その他 |
| 54       | 40         | 4           | 0          | 0      |

問6. 当教育プログラムが目指す技術者は、今後必要になると考えられますか。

|             |              |               |              |        |
|-------------|--------------|---------------|--------------|--------|
| a) 非常に必要になる | b) ある程度必要になる | c) あまり必要にならない | d) 全く必要にならない | e) その他 |
| 67          | 28           | 0             | 1            | 1      |

問7. 当教育プログラムの学習・教育目標は、理解できますでしょうか。

|          |            |             |            |        |
|----------|------------|-------------|------------|--------|
| a) よくわかる | b) ある程度わかる | c) あまりわからない | d) 全くわからない | e) その他 |
| 42       | 51         | 4           | 0          | 0      |

問8. 当教育プログラムにおいて、この学習・教育目標は、適切だと思いますか。

|             |              |             |            |        |
|-------------|--------------|-------------|------------|--------|
| a) 非常に適当である | b) ある程度適当である | c) あまり適当でない | d) 全く適当でない | e) その他 |
| 36          | 59           | 0           | 0          | 2      |

問9. 学習・教育目標(①)技術と生涯学習の関係を理解し、技術者に求められる危機・安全に関する倫理観と持続可能な行動規範を身につけた技術者の養成には、「社会の要請する水準以上の学士(技術者)を育てる」という観点から適切に書かれていますか。

|             |              |             |            |        |
|-------------|--------------|-------------|------------|--------|
| a) 非常に適当である | b) ある程度適当である | c) あまり適当でない | d) 全く適当でない | e) その他 |
| 41          | 54           | 0           | 0          | 1      |

問10. 学習・教育目標(②)日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際的に活躍する素養を備えた技術者の養成には、「社会の要請する水準以上の学士(技術者)を育てる」という観点から適切に書かれていますか。

|             |              |             |            |        |
|-------------|--------------|-------------|------------|--------|
| a) 非常に適当である | b) ある程度適当である | c) あまり適当でない | d) 全く適当でない | e) その他 |
| 57          | 40           | 0           | 0          | 0      |

問11. 学習・教育目標(③)基礎学力の上で、実践力・創造力・批判的思考能力を身につけた技術者の養成には、「社会の要請する水準以上の学士(技術者)を育てる」という観点から適切に書かれていますか。

|             |              |             |            |        |
|-------------|--------------|-------------|------------|--------|
| a) 非常に適当である | b) ある程度適当である | c) あまり適当でない | d) 全く適当でない | e) その他 |
| 60          | 38           | 0           | 0          | 0      |

問12. 学習・教育目標(④)生涯にわたる自己啓発能力や健康増進能力及び社会の発展に貢献し得る柔軟性を身につけた技術者の養成には、「社会の要請する水準以上の学士(技術者)を育てる」という観点から適切に書かれていますか。

|             |              |             |            |        |
|-------------|--------------|-------------|------------|--------|
| a) 非常に適当である | b) ある程度適当である | c) あまり適当でない | d) 全く適当でない | e) その他 |
| 07          | 39           | 2           | 0          | 0      |

問13. 学習・教育目標(①)～(④)を達成した卒業生は、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と書かれていますか。

|             |           |           |           |           |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| a) ほぼ必ず 그렇다 | b) ほぼ 그렇다 | c) ほぼ 그렇다 | d) ほぼ 그렇다 | e) ほぼ 그렇다 |
| 55          | 32        | 8         | 1         | 0         |

問14. 当教育プログラムの学習・教育目標が達成されているのは、貴社の新入社員としての資質を満足していると思えますか。

|             |              |             |            |        |
|-------------|--------------|-------------|------------|--------|
| a) 非常に適当である | b) ある程度適当である | c) あまり適当でない | d) 全く適当でない | e) その他 |
| 04          | 32           | 0           | 0          | 2      |

問15. 貴社では、社員の採用に際して、JABEEプログラム終了証書の掲載を採用の判断材料として活用したいと思われますか。

|              |              |               |              |        |
|--------------|--------------|---------------|--------------|--------|
| a) 積極的に活用したい | b) ある程度活用したい | c) あまり活用したくない | d) 全く活用したくない | e) その他 |
| 10           | 61           | 11            | 2            | 13     |

問16. 貴社では、大卒・単科大学終了生の新入社員の募集において、TOEICのスコアを必須と考えておられますか。

|              |              |              |              |        |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------|
| a) 3.0以上のスコア | b) 4.0以上のスコア | c) 5.0以上のスコア | d) 6.0以上のスコア | e) その他 |
| 4            | 29           | 24           | 12           | 25     |

(出典 庶務課資料)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 修了生の学位取得状況、TOEIC得点状況が優れている。
- ・ 卒業生・修了生の進学・就職状況が優れている。
- ・ 求人倍率が高い。

(改善を要する点)

- ・ 一部のクラスにおいて、GPA分布がB評価（3.0）未満の学生が半数を超える
- ・ 「日本語およびコミュニケーション」および「グループ活動における協調性とリーダーシップ」の能力の向上を図る必要がある。

## (3) 基準6の自己評価の概要

準学士課程では、運営会議（学年課程修了認定）・運営会議（卒業判定）において、進級・卒業等の基準に則って進級・卒業の判定をしており、準学士課程の学習・教育目標を達成している状況の評価する取り組みが適切に行われている。専攻科課程では、単位取得状況だけではなく、ポートフォリオによって学習・教育目標を達成するために必要な科目の単位を取得しているかどうかを評価し、修了を判定している。ここでも学習・教育目標を達成している状況の評価する取り組みが適切に行われている。なお、この学習・教育目標は本校の目的に沿った学生の育成を念頭に掲げられたものである。

準学士課程に関しては、各学年の単位取得状況はおおむね良好である。GPA分布状況は一部のクラスで改善が必要であるものの概ね良好である。専攻科課程に関しては、修了生の学士取得状況は非常に良好であり、修了生はTOEICにおいてほぼ400点以上を得点している。また、特別研究の受賞状況は非常に優れたものである。各学年修了時や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、教育の成果や効果が上がっている。

卒業生・修了生の就職・進学の決定率、および、求人倍率は非常に高い。また、各学科・各専攻の学生の進路は、それぞれの学科・専攻で学んだ専門性を活かすことのできる企業あるいは大学・大学院となっており、実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているといえる。

卒業時・修了時に実施した達成度に関するアンケート結果によると、「日本語およびコミュニケーション」および「グループ活動における協調性とリーダーシップ」の能力の向上を図る必要があるものの、技術者としての本質的な能力、特に「ものづくり技術者」という観点での資質・能力の達成度に対する評価は高くなっており、学生の学習達成度評価の結果から判断すると、教育の成果や効果が上がっている。

本校では、卒業生・修了生、進路先の企業に対しアンケートを実施している。その結果から判断して、本校の学生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等の水準は高く、本校の教育の成果や効果が上がっているといえる。

## 基準7 学生支援等

### (1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

本校では、準学士課程1年生に対し、校内研修と合宿研修(資料7-1-①-1)をあわせて計4日間のガイダンスを実施している。専攻科生に対しては、入学式当日、専攻科1年生に対してガイダンスを行っている(資料7-1-①-2)。これらのガイダンスは原則全員参加で適切に実施されており、合宿研修における作文(現地閲覧資料108)に見られるように、学生の満足度は高い。その他、学習・教育目標に関するガイダンスが、実施されている(資料7-1-①-3)。

学生に対する、相談・助言に関しては、担任(正副)、学級指導教員(正副)、専攻科主任・副主任による体制(資料7-1-①-4)と科目担当教員による体制がある。担任等は手引き(前掲の資料5-4-①-2)に従って、丁寧な指導を実施している。科目担当教員による指導体制としては、オフィスアワーが設定され、シラバスに記載(平成19年度から学生便覧に記載)することにより学生に周知されている(資料7-1-①-5)。本校の学生は、オフィスアワーに限らず、教員室に質問に行く習慣ができています。試みに作成してもらった対応記録例(現地閲覧資料を参照)を見てもこの体制はよく機能している。

その他、本校ではモバイルキャンパス(資料7-1-①-7)を導入して、メールによる連絡、指導体制も確立している。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、準学士課程1年生と専攻科1年生の全員に対して、ガイダンスを適切に実施しており、学生の満足度も高い。その他の学年に対しても、学習・教育目標に関するガイダンスが実施されている。

学生に対する、相談・助言に関しては、担任、学級指導員、専攻科主任・副主任が、手引きに従って、丁寧な指導を実施している。さらに、科目担当教員による体制として、オフィスアワーが設定されシラバスまたは学生便覧に記載されている。本校の学生は、オフィスアワーに限らず、教員室に質問に行く習慣ができており、この体制はよく機能している。その他、本校ではモバイルキャンパスによる連絡、指導体制も確立している。

以上により、学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されている。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

**新入生校内オリエンテーション実施要項**

(入学式終了後、午後から)

1. 日時 平成18年4月5日(水) 13:00~14:30
2. 場所 第5棟5201大講義室
3. 対象 新入生全員
4. 日程

司会 青下学生事務

- 13:00~13:05 学生主催挨拶 青木学生主事
- 13:05~13:20 図書館の説明 沖田図書館長
- 13:20~13:40 体育施設の説明 古原体育科教員
- 13:40~13:50 学生会の紹介 青木学生主事
- 13:50~14:30 各種申請事項説明 青下学生主事

**新入生校内研修タイムテーブル**

(入学式の翌日)

1. 表座談 平成18年4月6日(木)
2. 場所 第5棟5201大講義室
3. その他 学生便覧を持って参加

- 12:50 新入生は5201大講義室に集合  
(学級担任は出欠の確認)

司会 青下学生事務

- 校長挨拶を送り込むことを機到中
- 13:00~13:30 総務関係事項説明 小宮総務主事(30分)
- 13:30~14:00 学生生活事項説明 青木学生主事(30分)
- 14:00~14:20 学生情報室の説明 古原情報部長(20分)
- 14:20~14:40 学生課の紹介 金澤学生課長(20分)
- 14:40~14:50 ものづくり基礎工学の説明 大塚利田田島教員(10分)

**平成18年度 1年生台宿研修実施要項**

1. 目的 新入生が本校の教育方針に基づき当用済に教育を受けられるよう、団体生活を通じて教育内容及び学生の生活を把握させるとともに、学生相互、学生教職員間の親睦を図ることを目的とする。

2. 期日 平成18年 4月12日(水)~13日(木) (1泊2日)

→ 12日は、8:40 新室に集合

3. 場所 山梨県南都留郡富士河口湖町小立1168  
『富士の宿おおほし』 TEL. 0555-72-0500  
<http://www.hotelohashi.com/>

4. 対象 新入生全員
5. 輸送 貸しのバス 5台(クラス毎に1車)
6. 授業 学生1人あたり 13,500円(旅費含む) 入学手続き時に納入済
7. 日程 別紙のとおり(4・5ページ)

8. 所持品
  - (1) 運動靴(履所ができるような靴)
  - (2) バジャマ、替え用下着、セーター又は防寒着
  - (3) 洗面具、タオル、ビニール袋
  - (4) 雨具(雨合部と折りたたみ傘)
  - (5) パンフレット、学生便覧、筆記用具
  - (6) 健康保険証、漢字証明書または漢語地証明書
  - (7) 持病のある者はその薬(車酔いする者はその薬)

※ 所持品には記名を要すること。

(出典 学生課資料)

11. 同行教職員

| 番号 | 氏名      | 職名   |
|----|---------|------|
| 1  | 藤木 敏之   | 学生主事 |
| 2  | 藤戸 英智子  | 主任   |
| 3  | 川北 晃 智  | 主任   |
| 4  | 期 秀 樹   | 主任   |
| 5  | 吉 本 定 伸 | 主任   |
| 6  | 相 澤 敏 行 | 主任   |
| 7  | 佐 藤 泰 江 | 職員   |

12. バス乗車区分

| 区分 | 乗員人数                          | 区 分 | 小計        |
|----|-------------------------------|-----|-----------|
| 1  | 44名<br>(学生) 1組<br>(教職員) 駅戸、晋木 | 1組  | 42名<br>2名 |
| 2  | 43名<br>(学生) 2組<br>(教職員) 川北    | 2組  | 42名<br>1名 |
| 3  | 43名<br>(学生) 3組<br>(教職員) 理     | 3組  | 42名<br>1名 |
| 4  | 43名<br>(学生) 4組<br>(教職員) 吉本    | 4組  | 42名<br>1名 |
| 5  | 44名<br>(学生) 5組<br>(教職員) 相澤、佐藤 | 5組  | 42名<br>2名 |
| 計  |                               |     | 210名      |

9. 注意事項

- (1) 当日は服装しやまい服装をしてください
  - (2) 赤色や黄色の運動靴を履いてください
  - (3) 研修中は名札を付けること(学校で用意する)
  - (4) 日理表をよく見て時間を厳守し、5分前に次の行動の準備を完了すること
  - (5) 宿泊する各自の部屋は常に整理整頓しておくこと
  - (6) 貴重品は各自で管理すること
  - (7) 12日(水)朝食終了後に部屋の片づけをし、荷物を持って9時までにバスに乗ること
  - (8) 野鳥の観察公園での観察の際、弁当の箱は学校に持ち帰るので指定した場所へ返すこと。公園内のゴミ箱に入れたり、放置したりしないこと。
  - (9) 当日身体上の理由等で急に参加できなくなった場合や、遅刻になってしまった場合は、必ず8時40分までに学校へ連絡すること
- TEL 042-668-5128 (学生係)

10. 宝長の仕事

- ・ホテルに着いたらフロントから部屋の鍵を受け取る
- ・入室時に照会職員・警備員をチャェックし、点検票に記入して本部に報告すること
- ・部屋の扉を把握し、学級担任と緊密な連絡をとること
- ・夜の点検を行い、筆記用具持参で本部に報告すること
- ・退出時には照会職員・警備員をチャェックし、点検票に記入して本部に報告すること
- ・退出は廊下におこなうこととし、忘れ物のチャェックを行なう
- ・ルームキー等、借から閉かったものをフロントに責任を持って返却すること

(出典 学生課資料)

平成18年度 1年生合宿研修日程表

| 4月12日(水) |                                                                      |
|----------|----------------------------------------------------------------------|
| 時刻       |                                                                      |
| 8:40     | 合宿室に集合 → ホームルーム                                                      |
| 9:40     | 第一体育館前集合 → 合宿研修開校式                                                   |
| 10:00    | 合宿研修出発(バス) 小田原駅本郷駅(橋本〜小田原)一帯                                         |
| 12:30    | 権根彫刻の森美術館 到着 → 昼食 → 美術館自由見学                                          |
| 14:50    | 集合                                                                   |
| 15:00    | 権根彫刻の森美術館 出発                                                         |
| 16:30    | 『富士の宮おはし』到着                                                          |
| 17:00    | 入浴・休憩(男子=大浴場)(女子=中浴場)                                                |
| 18:30    | 夕食 食事(①、②、③)1階大広場(④、⑤)                                               |
| 19:30    | クラスミーティング(研修担任)<br>①:2階大広場 ②:2階大広場 ③:3階 第五研修室<br>④:3階 図書室 ⑤:3階 図書ホール |
| 21:50    | 点検(図書長は本部にいる担任に補助)                                                   |
| 22:30    | 消灯                                                                   |

(出典 学生課資料)

| 4月13日(木) |                                |
|----------|--------------------------------|
| 時刻       |                                |
| 6:30     | 起床 → 洗面・整理整頓                   |
| 7:10     | 朝の集い-体操(ホテル駐車場)                |
| 7:30     | 朝食 食事(①、②、③)1階大広場(④、⑤)         |
| 9:00     | 宿出発                            |
| 9:30     | 体験学習(富士山クラブ)<br>「青木ヶ原御湯と湖蓮コース」 |
| 12:30    | 昼食(野鳥の森公園)                     |
| 13:30    | 昼食終了                           |
| 14:00    | 出発 経 途 中 下 車 止 脱 め 及 び         |
| 16:00    | 学校到着                           |

クラス表記 ①=1組、②=2組、③=3組、④=4組、⑤=5組



資料7-1-①-2

### 東京高専専攻科ガイダンス

東京高専専攻科入学おめでとう

専攻科長 三谷知世(物質工学専攻・物質工学科)

### 専攻科とは

- ◆2年間の応用課程
- ◆62単位以上を修得し、大学評価・学位授与機構の審査に通ると「学士号」が得られる(合格率95%以上)  
学位審査のための申請書について各自インターネットで確認する(<http://www.niad.ac.jp>)  
4年制大学卒と同等に扱われる  
大学院の入学資格が得られる
- 90分授業15回で2単位
- 成績はすべて点数で
- 試験は基本的に期末試験のみ

### 本校専攻科の育成する人材

生産技術・技術開発の場における  
技術の高度化・複合化・融合化  
に対応できる

英語力と実践的技術を  
身につけた人材

4年制大学生を凌ぐ専攻科生を育てたい

### 専攻立て

- ◆機械情報システム工学専攻 (AS) (定員8名)
- ◆電気電子工学専攻(AE) (定員8名)
- ◆物質工学専攻 (AC) (定員4名)

### 1年生出身校

|    | 本校 | 他高専    | 専門学校等 | 合計 |
|----|----|--------|-------|----|
| AS | 9  | 1(福井)  | 0     | 10 |
| AE | 7  | 1(木更津) | 0     | 8  |
| AC | 6  | 0      | 0     | 6  |
| 合計 | 22 | 2      | 0     | 24 |

### 1、2年生出身校

|    | 本校 | 他高専                | 専門学校           | 合計 |
|----|----|--------------------|----------------|----|
| AS | 19 | 2(仙台電波、福井)         | 0              | 21 |
| AE | 14 | 4(福井、和歌山、農本電波、木更津) | 0              | 18 |
| AC | 9  | 0                  | 2(東京テクニカルカレッジ) | 11 |
| 合計 | 42 | 6                  | 2              | 50 |

(出典 学生課資料)

資料7-1-①-2

### 本校専攻科の教育的特色

- 実験、体験を骨格とし、理論で肉付けする教育
- 62単位のうち22単位が実験、実習、演習、研究
- TOEIC550点を修了目標とする徹底した英語教育
- 国際基準(JABEE)を満たすカリキュラム

高専の良いところを継承し、英語力を強化する

### 主なスケジュール(前期)

- ・ 4月8日(金) 入学式
- ・ 4月11日(月) 授業開始
- ・ 4月21日(木) 健康診断(授業なし)
- ・ 4月22日(金) 特別研究指導教員希望締切
- ・ 4月下旬-5月上旬 連休 新歓バーベキュー
- ・ 5月27日(金) 前期選択科目履修申告締切
- ・ 7月11日(月) インターンシップ開始(1ヶ月以上)
- ・ 9月上旬 インターンシップ報告会
- ・ 9月22日-30日 前期末試験
- ・ 5月、6月、7月、9月 TOEIC公開テスト
- ・ 必要な場合放送大学科目を履修(<http://www.u-air.ac.jp/hpl/>)

### 主なスケジュール(後期)

- ・ 10月7日(金) 授業開始
- ・ 11月5日-11月7日 くぬぎだ祭のため授業なし
- ・ 11月25日(金) 後期選択科目履修申告締切
- ・ 12月上旬 特別研究中間報告会(各専攻ごと)
- ・ 2月22日-3月1日 後期末試験
- ・ 10月、11月、1月、3月 TOEIC公開テスト

### 専攻科生の生活・・・1年生

夏休みに1ヶ月のインターンシップ  
1年生から研究がある・・・研究室が生活の場  
4月22日までに希望調書提出、連休明けに決定  
座学は1年生前期に集中・・・計画的に履修  
専攻ごとにJABEE必修があるので注意

### 専攻科生の生活・・・2年生

座学は数科目  
TOEIC700点、800点を目標してトレーニング・・・  
春から就職活動、大学院進学準備  
6月に特別研究中間報告会  
10月に学位審査用書類作成、提出  
12月に学位授与機構で筆記試験  
1月に特別研究最終報告会(学外)  
2月に特別研究論文提出  
2月末までに学位試験結果判明  
3月修了式

### 専攻科1期生のTOEIC最終スコア (TOEICの満点は990点)

23名の平均:472点(4年制大学生の平均430点)  
最高685点、最低305点

550点以上: 7人  
400点以上: 17人  
395点以下: 6人

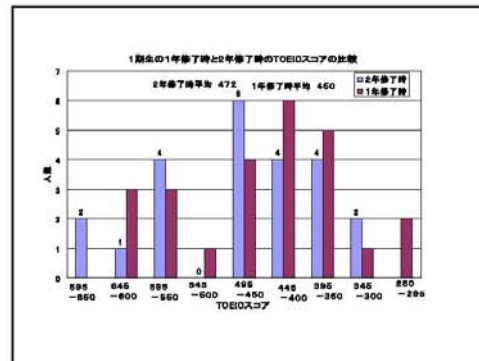
自分自身のために是非550点をクリアしてほしい  
550点以上獲得すると進路や選択の幅が広がる

(出典 学生課資料)

資料7-1-①-2

### 専攻科の英語教育

- ・ 専攻科英語教育プロジェクトチーム  
三谷、村井、相澤、鈴木雅、小嶋、関根、Gates
- ・ 英語演習Ⅰ 村井先生 週2時間通年
- ・ 英語演習Ⅱ 相澤先生 週2時間通年
- ・ フォロー会(予定) 週1時間
- ・ e-learning 自学自習システム
- ・ 550点以上獲得者・JM英語学習奨励賞



### 専攻科生の研究活動

- ・ 1期生は2年間で延33件の学会発表
- ・ うち6件が優秀賞
- ・ 教育後援会から登録費、旅費の援助
- ・ 専攻科・・・30万円/50人
- ・ 本科・・・10万円/200人
- ・ 研究時間が多いのは専攻科の特徴
- ・ 大いに研究に励もう

### 専攻科1期生の進路等

- ・ 就職:12名(1名デザイン関係に進路変更)
  - AS:7thインヴェンション(株)、ウダコム(株)
  - (株)エフコリス、(株)キチ、(株)フレ
  - (株)日産子カ、日本信号(株)
  - (株)パース情報科学研究所
  - AE:(株)アムバカ、(株)日立エーティング
  - AC:フジソフト(株)
- ・ 進学:11名(全員大学院進学)
  - AS:早稲田大学大学院(2)
  - AE:電気通信大学大学院(2)、北陸先端科学技術大学院大学大学院(2)
  - AC:九州大学大学院、東京工業大学大学院、横浜国立大学大学院
  - 長岡技術科学大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学大学院
- ・ 学位試験:23名中22名合格
- ・ 学会発表件数:延べ33件(うち6件優秀賞)
- ・ 企業等との共同研究:11件

### 専攻主任、副主任

- ・ いつでも相談にきてください。
- ・ 機械情報システム工学専攻主任  
小坂敏文教授(情報工学科)
- ・ 同副主任  
福田勝己教授(機械工学科)
- ・ 電気電子工学専攻主任  
鹿毛智郎教授(電子工学科)
- ・ 同副主任  
松井義弘助教授(電気工学科)
- ・ 物質工学専攻主任  
三谷知世教授(物質工学科)

夢を持ち、夢を実現しよう

(出典 学生課資料)

資料 7-1-①-3

## 平成19年度 第1回4・5年生、専攻科生学生集会

日 時：平成19年4月19日（木） 13：00～

場 所：第1体育館

13：00～13：05 校歌斉唱

13：05～13：25 校慶賞等表彰

13：25～13：50 校長スピーチ

13：50～14：00 副総評延野保昭氏（鈴木雅人教員）

※ 校慶賞等受賞対象者は12：40第1体育館に集合

## 平成19年度 第1回1～3年生学生集会

日 時：平成19年4月12日（木） 13：35～

場 所：第1体育館

13：35～13：40 校歌斉唱

13：40～14：00 校慶賞等表彰

14：00～14：20 校長スピーチ

14：20～14：30 副総評延野保昭氏（鈴木雅人教員）

14：30～14：50 学生記念画

※ 校慶賞等受賞対象者は12：40第1体育館に集合

(出典 学生課資料)

資料 7-1-①-3

## 東京工業高等専門学校専攻科オリエンテーション

日時：平成18年4月5日(水) 11:00～15:30

場所：マルチメディアルーム(専攻科棟1階)

### スケジュール

|             |                       |                             |
|-------------|-----------------------|-----------------------------|
| 11:00-12:00 | JABEEについて<br>専攻科ガイダンス | 浅野 外部評価調査検討委員会委員<br>三谷 専攻科長 |
| 12:00-13:00 | 昼食<br>英語テキスト購入(第2体育館) |                             |
| 13:00-15:00 | 英語教育ガイダンス             | 関根教員                        |
| 15:00-16:30 | 各専攻ごとにガイダンス           |                             |

### 配布資料

1. 専攻科生名簿
2. 専攻主任、副主任名簿
3. 専攻科履修要覧
4. 学生便覧
5. 履修届
6. 時間割
7. JABEE と学習・教育目標
8. 特別研究指導教官希望調査

(出典 学生課資料)

資料7-1-①-4

平成18年度内部組織委員等一覧(敬称略) 2006/4/1

## I 校務執行会議構成員(10名)

|                              |                     |                                                              |
|------------------------------|---------------------|--------------------------------------------------------------|
| 校長                           | 水谷                  | 校務執行会議議長、運営会議議長                                              |
| 教務主事                         | 小坂                  | 運営会議(入試、進級判定、卒業判定)座長<br>教務委員会委員長<br>安全衛生委員会委員長<br>進路指導委員会委員長 |
| 学生主事                         | 青木                  | 運営会議(特別指導)座長<br>厚生委員会委員長                                     |
| 寮務主事                         | 河村                  | 寮務委員会委員長                                                     |
| 専攻科長                         | 三谷                  | 運営会議(専攻科)座長<br>専攻科委員会委員長                                     |
| 副校長                          | 三谷<br>小坂<br>津田      | 専攻科の教育研究<br>本科の教育研究<br>地域交流・広報                               |
| 事務部長<br>庶務課長<br>会計課長<br>学生課長 | 芳竹<br>星<br>山本<br>金澤 |                                                              |

## II 運営会議構成員(23名)

|                |                      |  |
|----------------|----------------------|--|
| 校務執行会議構成員      | (前出)                 |  |
| 学科長            | (後出)                 |  |
| 教科代表           | (後出)                 |  |
| 図書館長           | 津田                   |  |
| 情報・メディア教育センター長 | 横山                   |  |
| 技術室長           | 福田                   |  |
| 地域連携テクノセンター長   | 北折                   |  |
| 専攻主任(主)        | 福田(AS)、鹿毛(AE)、町田(AC) |  |

## III 学科長・主事補・校医等

|             |                            |                 |               |
|-------------|----------------------------|-----------------|---------------|
| AS専攻主任・副主任  | (主)(前出)、(副)小坂              |                 |               |
| AE専攻主任・副主任  | (主)(前出)、(副)松井              |                 |               |
| AC専攻主任・副主任  | (主)(前出)、(副)なし              |                 |               |
| M科学科長(副学科長) | 黒崎(福田)                     |                 |               |
| E科学科長(副学科長) | 伊藤(彰)(土井)                  |                 |               |
| D科学科長(副学科長) | 鹿毛(柚寛)                     |                 |               |
| J科学科長(副学科長) | 青野(中里)                     |                 |               |
| C科学科長(副学科長) | 石井(阿久沢、高橋)                 |                 |               |
| 人社教科代表(副代表) | 古屋(川北)                     |                 |               |
| 英語教科代表(副代表) | 相澤(村井)                     |                 |               |
| 数学教科代表(副代表) | 佐藤(義)(齋藤(四))               |                 |               |
| 教務主事補       | 浅野、鈴木(雅)、大野                |                 |               |
| 学生主事補       | 中川、森下、関根                   |                 |               |
| 寮務主事補       | 市川、前段、伊藤(浩)、一戸、西村、中野、鈴木(智) |                 |               |
| M科学級担任(副担任) | 1組 清水、松戸                   | 2M 黒田(黒崎)       | 3M 木村(黒崎)     |
| E科学級担任(副担任) | 2組 玉田、川北                   | 2E 清藤(伊藤彰)      | 3E 土井(伊藤彰)    |
| D科学級担任(副担任) | 3組 加藤、潮                    | 2D 大塚(鹿毛)       | 3D 小池(鹿毛)     |
| J科学級担任(副担任) | 4組 吉本、竹田                   | 2J 鈴木(中里)       | 3J 村井、拜田(副なし) |
| C科学級担任(副担任) | 5組 町田、相澤                   | 2C 齋藤(四)(工藤、石井) | 3C 城石(庄司、石井)  |
| M科学級指導教員(副) | 4M 下井(黒崎)                  | 5M 斉藤(純)(黒崎)    | 進路指導委員        |
| E科学級指導教員(副) | 4E 大貫(伊藤彰)                 | 5E 館泉(伊藤彰)      | 進路指導委員        |
| D科学級指導教員(副) | 4D 谷田部(鹿毛)                 | 5D 柚寛(小池)       | 進路指導委員        |
| J科学級指導教員(副) | 4J 小嶋(青野)                  | 5J 横山(青野)       | 進路指導委員        |
| C科学級指導教員(副) | 4C 堀(菊地、石井)                | 5C 土屋(北折、石井)    | 進路指導委員        |
| 技術室長        | (前出)                       |                 |               |
| 技術長         | 羽鳥                         |                 |               |
| 第一班長        | 鈴木                         |                 |               |
| 第二班長        | 福井                         |                 |               |
| 第三班長        | 黒澤                         |                 |               |
| 実習工場長       | 斉藤(純)                      |                 |               |
| 看護師         | 佐藤(幸)                      |                 |               |
| 非常勤校医(内科医)  | 金井(産業医)                    |                 |               |
| (外科医)       | 菊地                         |                 |               |
| (歯科医)       | 菊田                         |                 |               |
| 非常勤薬剤師      | 小畑                         |                 |               |
| 非常勤カウンセラ    | 白崎、小杉、大澤                   |                 |               |
| 非常勤寄宿舎指導員   | 佐藤(豊)                      |                 |               |

(出典 運営会議資料)

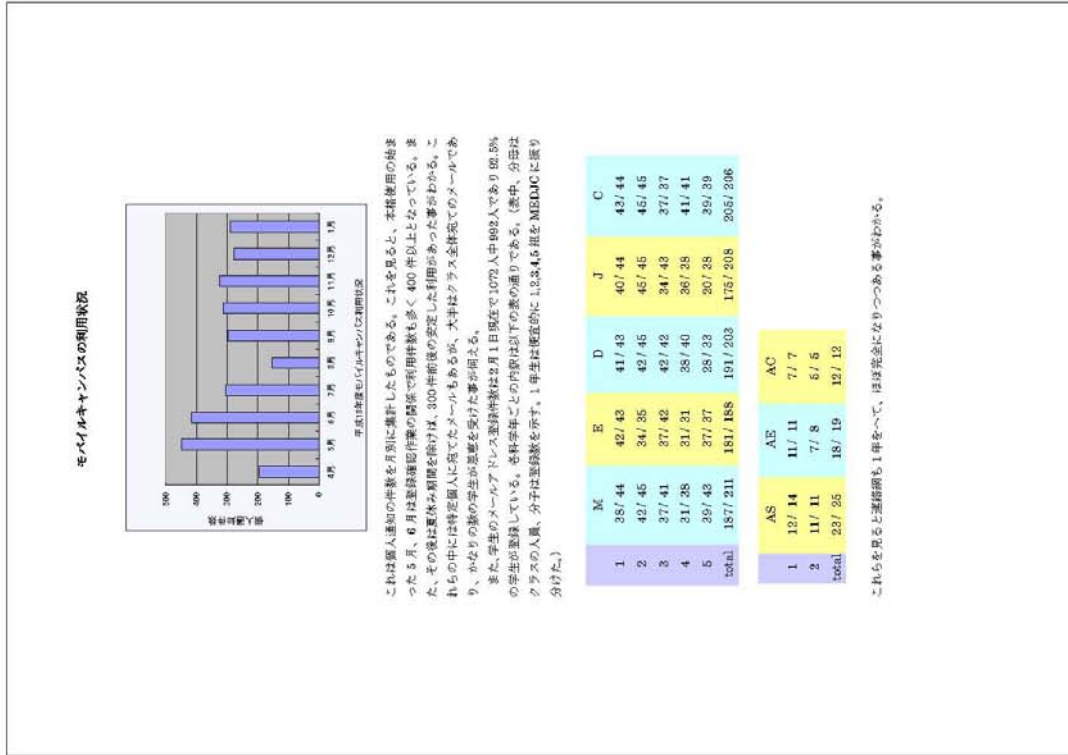
2006年度 オフィスアワー一覧

| 分野 | 教員氏名           | 教員室    | Tel  | 曜日 | 時間            | 備考 |
|----|----------------|--------|------|----|---------------|----|
| 英語 | 相澤 優行          | 3階 3室  | 5145 | 木  | 12:00 ~ 15:00 |    |
| 英語 | Chen, Wen-Rong | 3階 3室  | 5891 | 木  | 12:00 ~ 15:00 | #1 |
| 英語 | 坂本 大樹          | 1棟 1室  | 5141 | 木  | 16:00 ~ 17:30 |    |
| 英語 | 竹田 恒夫          | 3階 3室  | 5146 | 木  | 12:15 ~ 13:15 | #2 |
| 英語 | 梶野 智子          | 1棟 1室  | 5147 | 木  | 16:00 ~ 17:00 | #3 |
| 英語 | 利井 三平          | 2階 2室  | 5138 | 木  | 16:00 ~ 17:00 |    |
| 機械 | 木村 剛           | 3階 1階  | 5504 | 火  | 16:10 ~ 17:15 |    |
| 機械 | 岩崎 浩           | 1階 1室  | 5166 | 火  | 16:00 ~ 17:00 |    |
| 機械 | 香瀬 龍生          | 4階 4室  | 5161 | 木  | 13:00 ~ 14:00 |    |
| 機械 | 清次 剛博          | 3階 4室  | 5162 | 木  | 14:00 ~ 15:00 |    |
| 機械 | 下子 信博          | 3階 4室  | 5164 | 木  | 13:30 ~ 14:30 |    |
| 機械 | 尾形 博貴          | 3階 4室  | 5167 | 木  | 13:30 ~ 14:30 |    |
| 機械 | 福田 勝己          | 2階 2室  | 5163 | 木  | 16:00 ~ 17:00 |    |
| 機械 | 藤下 運寛          | 3階 4室  | 5160 | 木  | 13:30 ~ 15:00 |    |
| 機械 | 新 庄            | 1棟 1室  | 5150 | 火  | 16:00 ~ 17:00 |    |
| 英語 | 津田 亮           | 3階 3室  | 5149 | 火  | 16:30 ~ 17:30 |    |
| 英語 | 松野 美智子         | 2階 2室  | 5149 | 火  | 16:00 ~ 17:00 |    |
| 社会 | 渡野 敬一          | 1棟 1室  | 5137 | 火  | 16:00 ~ 17:00 |    |
| 社会 | 川北 翼           | 3階 3室  | 5157 | 火  | 16:30 ~ 17:30 |    |
| 社会 | 河井 豊           | 1棟 1室  | 5156 | 火  | 16:30 ~ 18:30 |    |
| 情報 | 野野 正宏          | 情報棟 4階 | 5197 | 木  | 14:00 ~ 16:00 |    |
| 情報 | 小坂 智文          | 情報棟 5階 | 5199 | 木  | 13:00 ~ 14:00 |    |
| 情報 | 小島 敏也          | 情報棟 4階 | 5168 | 木  | 14:00 ~ 16:00 |    |
| 情報 | 鈴木 孝           | 情報棟 3階 | 5081 | 木  | 14:30 ~ 16:00 |    |
| 情報 | 鈴木 雅人          | 情報棟 4階 | 5195 | 木  | 14:00 ~ 16:00 |    |
| 情報 | 西村 亮           | 情報棟 3階 | 5080 | 木  | 14:00 ~ 16:00 |    |
| 情報 | 平野 友一          | 情報棟 3階 | 5082 | 木  | 14:00 ~ 16:00 |    |
| 情報 | 松林 勝志          | 情報棟 5階 | 5170 | 木  | 13:30 ~ 15:30 |    |
| 情報 | 松本 章代          | 情報棟 4階 | 5084 | 木  | 13:00 ~ 14:30 |    |
| 情報 | 横山 照盛          | 情報棟 3階 | 5049 | 木  | 14:00 ~ 16:00 |    |
| 情報 | 吉本 茂樹          | 情報棟 5階 | 5083 | 木  | 14:30 ~ 16:00 |    |
| 数学 | 市川 裕子          | 1棟 1室  | 5151 | 火  | 16:30 ~ 18:00 |    |
| 数学 | 小中 淳二          | 1棟 1室  | 5140 | 火  | 16:30 ~ 18:00 |    |
| 数学 | 安藤 四郎          | 1棟 1室  | 5139 | 火  | 17:00 ~ 18:00 |    |
| 数学 | 佐藤 善隆          | 3階 3室  | 5144 | 火  | 16:30 ~ 17:30 |    |
| 数学 | 須藤 昇           | 3階 3室  | 5148 | 火  | 16:30 ~ 17:30 |    |
| 数学 | 中野 豊           | 1棟 1室  | 5143 | 火  | 16:30 ~ 17:20 |    |
| 数学 | 吉田 登           | 1棟 1室  | 5142 | 火  | 16:00 ~ 17:30 |    |
| 体育 | 黒田 一男          | 2階 2室  | 5153 | 火  | 16:30 ~ 17:30 |    |
| 体育 | 新木 智之          | 3階 3室  | 5160 | 火  | 16:10 ~ 17:30 | #4 |
| 電気 | 伊藤 彰           | 3階 3室  | 5179 | 火  | 16:15 ~ 17:15 |    |
| 電気 | 伊藤 浩           | 1階 1室  | 5175 | 火  | 16:15 ~ 17:15 |    |
| 電気 | 大久 照雄          | 3階 4階  | 5178 | 火  | 16:15 ~ 17:15 |    |
| 電気 | 須原 盛治          | 3階 4階  | 5178 | 火  | 16:15 ~ 17:15 |    |
| 電気 | 玉田 耕治          | 3階 3室  | 5181 | 火  | 16:15 ~ 17:15 |    |
| 電気 | 七井 淳           | 3階 3室  | 5174 | 火  | 16:15 ~ 17:15 |    |
| 電気 | 松井 義弘          | 4階 4室  | 5173 | 火  | 16:15 ~ 17:15 |    |

(出典 平成18年度シラバス)

| 分野 | 教員氏名  | 教員室   | mail      | Tel  | 曜日 | 時間            | 備考 |
|----|-------|-------|-----------|------|----|---------------|----|
| 電気 | 山内 善生 | 3階 3室 | yamauchi  | 5171 | 木  | 13:00 ~ 14:10 |    |
| 電気 | 野任 寿生 | 4階 4室 | noji      | 5188 | 火  | 16:10 ~ 17:30 |    |
| 電子 | 青木 宏之 | 3階 3室 | azu       | 5192 | 木  | 13:00 ~ 17:00 |    |
| 電子 | 戸津 博博 | 3階 3室 | tsuchi    | 5193 | 木  | 16:00 ~ 18:00 |    |
| 電子 | 大塚 茂久 | 3階 3室 | otsuka    | 5184 | 木  | 16:00 ~ 18:00 |    |
| 電子 | 鹿毛 恒彦 | 3階 3室 | kage      | 5148 | 火  | 16:10 ~ 17:00 |    |
| 電子 | 加藤 希  | 3階 3室 | kato      | 5078 | 火  | 14:00 ~ 15:00 |    |
| 電子 | 小笠原 之 | 3階 3室 | ogasa     | 5167 | 火  | 16:10 ~ 16:30 |    |
| 電子 | 永吉 浩  | 3階 3室 | ながよし      | 5392 | 火  | 16:20 ~ 17:00 |    |
| 電子 | 正木 雅  | 3階 3室 | masaki    | 5190 | 火  | 16:10 ~ 17:00 |    |
| 電子 | 谷田 雅久 | 3階 3室 | yatabe    | 5169 | 火  | 16:10 ~ 17:10 |    |
| 電子 | 植野 正光 | 3階 3室 | uehara    | 5166 | 火  | 16:10 ~ 17:00 |    |
| 電子 | 野江 敏  | 3階 3室 | noe       | 5072 | 火  | 16:00 ~ 17:15 |    |
| 電気 | 阿久 次男 | 2階 2室 | akutsu    | 5067 | 火  | 16:00 ~ 17:00 | #5 |
| 電気 | 石井 宏幸 | 2階 2室 | ishii     | 5079 | 火  | 16:00 ~ 17:00 |    |
| 電気 | 北野 寛之 | 2階 2室 | kitano    | 5068 | 火  | 16:00 ~ 17:10 |    |
| 電気 | 工藤 重子 | 2階 2室 | terada    | 5069 | 火  | 16:15 ~ 17:15 |    |
| 電気 | 戸川 良  | 2階 2室 | tsukagawa | 5076 | 火  | 16:00 ~ 18:00 |    |
| 電気 | 北野 寛之 | 2階 2室 | kitano    | 5068 | 火  | 16:10 ~ 17:10 |    |
| 電気 | 高橋 三男 | 2階 2室 | takahashi | 5074 | 火  | 12:00 ~ 12:50 |    |
| 電気 | 土屋 真一 | 2階 2室 | tsuchiya  | 5191 | 火  | 16:00 ~ 17:00 |    |
| 電気 | 中野 雅之 | 2階 2室 | nakanishi | 5066 | 火  | 16:00 ~ 17:00 |    |
| 電気 | 中野 雅之 | 2階 2室 | nakanishi | 5075 | 火  | 14:00 ~ 16:00 |    |
| 電気 | 三谷 切也 | 2階 2室 | mitsuya   | 5071 | 火  | 16:30 ~ 17:00 |    |
| 電気 | 瀬 泰博  | 2階 2室 | seta      | 5153 | 火  | 16:30 ~ 17:30 |    |
| 電気 | 大野 泰博 | 2階 2室 | ono       | 5155 | 火  | 16:30 ~ 17:30 |    |
| 物理 | 前庭 直治 | 2階 2室 | maedaira  | 5154 | 火  | 14:30 ~ 15:30 |    |

#1 月～金  
#2 月～金  
#3 午後又は昼休み  
#4 & 水曜日昼休み  
#5 前日昼休みと放課後



**モバイルキャンパスへのメールアドレス登録について**

学生が利用可能なメールアドレスの登録方法について説明します。

登録には以下の4つのURLの内のどれかを用います。適切なものにアクセスして利用権限に同意し、メールアドレスの設定及びパスワードの設定を行います。

パソコン用: <https://www.mobilecampus.ne.jp/mc/login.html> (https, bloginに注意)

スマホ用: <http://www.mobilecampus.ne.jp/mc/login.html> (loginに注意)

Web用: <http://www.mobilecampus.ne.jp/mc/login.html> (loginに注意)

1. アクセスするとログイン画面が表示されるので、別項にてお知らせした利用番号とパスワードを用いてログインし、利用権限を承認し、パスワードを入力しOKをクリック。

(1) パスワードを入力しOKをクリック。

(2) 利用権限を承認。

(3) メールアドレスを設定し、次の画面で自分のメールアドレスを入力し、もう一度入力し、OKをクリック。

(4) メールアドレスが正しく登録されました。メール配信が開始されます。というメッセージが出るので、MENUをクリック。

(5) メール2枚設定したい人は別項の方法で設定。

3. パスワード変更したい場合はパスワード変更を選択し、パスワードを入力し、OKをクリック。

(1) 新しいパスワードを入力し、もう一度入力し、OKをクリック。

(2) パスワード変更が正常に処理されました。というメッセージが出るので、MENUをクリック。次の画面で戻るを選択。

4. アドレスをクリックするとログイン画面が表示されます。というメッセージが出るので、アドレスをクリック。

5. システムからの登録完了メールが配信されました。

**注意事項**

- 利用権限を守って下さい。
- アカウントの管理は慎重に行ってください。特に、パスワードが変更し、他人に奪取されないようにして下さい。
- 授業中は携帯電話の電源をOFFにしてください。

**説明会**

設定方法がわからない学生に対してはシステムからの登録完了メールが届いた場合は以下の日程で開催を行いますので、参加して下さい。(自分で登録できた人は出席の必要はありません)

日時: 4月6日(水)

場所: 8301 教室

持ち物: このプリント、利用番号・パスワードが書かれたプリント、筆記用具、携帯電話(パソコンを使う人は不要)

(出典 学生課資料)



観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

自主的学習環境として、本校では、図書館、コンピュータ演習室、実習工場、自学自習室がある。図書館の整備状況および利用規定を資料7-1-②-1、利用者数を資料7-1-②-2、パンフレットを資料7-1-②-3に示す（現地閲覧資料109）。コンピュータ演習室の整備状況および利用規定を資料7-1-②-4、利用状況を資料7-1-②-5に示す。また実習工場の整備状況および利用規定等を資料7-1-②-6、利用状況を資料7-1-②-7に示す。

図書館では、図書館所蔵の各種資料の閲覧・貸出、所蔵しない資料の取り寄せ（各大学・研究機関などとの相互貸借協力）、及び電子ジャーナルの閲覧、インターネットによる情報収集ができるよう学生の希望に反映して整備をしている。また、新入生オリエンテーション実施の際には図書館利用案内を配布し、学生が自学自習できるようにVODシステム用パソコン（5台）と、基本ソフトが入ったパソコン（15台）を設置するとともに、平日は夜20時まで、土曜日は17時まで開館時間を延長しているため、学生の学習環境としてよく利用されている。

コンピュータ演習室は、現在、第1演習室と第3演習室の2部屋で運営されている。それぞれの部屋に50台のPCが配置され、Windows系のアプリケーションが利用可能である。プログラミング言語演習、コンピュータリテラシー教育、機械系CAD教育、英語教育等に利用されている。

実習工場では、機械工作技術の実技指導を行っており、低学年は鋳造、CAD/CAM、溶接、研削、切削、仕上げに関する基礎技術、高学年は先進加工技術に通じるNC加工機（マシニングセンタ、放電加工機、NCフライス、NC旋盤）を利用した応用技術の指導を行っている。また、実験装置の試作、卒業研究や課外活動（体験教室・ロボコンゼミ等）の補助を行っている。また、ホームルーム教室等も、放課後の自主学習スペースとして利用されている。

自学自習室は平成19年2月から新しく設けた部屋であり、学生が自習のために自由に使うことができる（資料7-1-②-12）。放課後は専攻科の学生がつめているため、わからない点などは専攻科生に質問することもできる部屋であり、学生の放課後等の自習に役立っている。

キャンパス生活環境に関する施設は、くぬぎだ会館と生協食堂が挙げられる。くぬぎだ会館の整備状況および利用心得を資料7-1-②-8に、利用状況を資料7-1-②-9に示す。櫛田会館には、保健室、カウンセリングルーム、売店、学生会室、課外活動室、暗室及び和室が整備されている。これらは、福利厚生施設として、学生の保健衛生と楽器を使用する課外活動及び学生会活動等の目的のために有効に利用されている。

また、食堂の整備状況および利用心得を資料7-1-②-10に、利用状況を資料7-1-②-11に示す。食堂は、昼休みに利用することができ、135人が同時に食事できるスペースがある。メニューも、定食、丼物、麺類が数種類あり豊富であり、キャンパス生活環境として有効に利用されている。

（分析結果とその根拠理由）

自主的学習環境として、図書館・コンピュータ演習室・実習工場が整備され、効果的に利用されている。図書館は、延長開館・利用案内の配布などを行っている。キャンパス生活環境として、く

ぬぎだ会館と生協食堂が整備され、効果的に利用されている。

以上により、自主的学習環境及びキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されている。

資料 7-1-②-1

図書館の整備状況と利用状況

本校図書館では、図書館所蔵の各種資料の閲覧・貸出、所蔵しない資料の取り寄せ（各大学・研究機関などとの相互貸借協力）及び電子ジャーナルの閲覧、インターネットによる情報収集ができるよう学生の希望に反映して整備をしております。また、新入生オリエンテーション実施の際には図書館利用案内を配布したり、学生が自学自習できるようVODシステム用パソコン（5台）と、基本ソフトが入ったパソコン（15台）を設置するとともに平日は夜20時まで、土曜日は17時まで開館時間を延長しているため、学生の学習環境としてよく利用されております。

既存施設の実態調査

| 室名                         | 室面積 | 収容人数 |
|----------------------------|-----|------|
| 1 グループ学習室(2F)              | 32  | 14   |
| 2 リスニングルーム(2F)             | 43  | 12   |
| 3 閲覧室(マルチメディアコーナー含む)(2F)   | 274 | 23   |
| 4 開架書架・ホール(2F)             | 49  | 88   |
| 5 集密書架・閲覧書架・ブラウジングコーナー(1F) | 234 | 42   |
| 6 応接室(1F)                  | 15  | 6    |
| 7 図書館事務室(1F)               | 35  | 6    |
| 8 談話室(1F)                  | 49  | 15   |
| 計                          | 731 | 206  |

|                            | テレビ | ビデオ | CD | LD | コピー機(1人) | 机(2人) | 机(4人) | 机(12人) | パソコン |
|----------------------------|-----|-----|----|----|----------|-------|-------|--------|------|
| 1 グループ学習室(2F)              |     |     |    |    |          |       |       |        |      |
| 2 リスニングルーム(2F)             | 1   | 1   | 1  |    |          |       | 5     |        |      |
| 3 閲覧室(マルチメディアコーナー含む)(2F)   | 4   | 3   | 2  | 1  | 10       | 4     | 10    |        | 20   |
| 4 開架書架・ホール(2F)             |     |     |    |    |          | 2     | 2     |        |      |
| 5 集密書架・閲覧書架・ブラウジングコーナー(1F) |     |     |    |    | 1        | 3     | 2     |        | 1    |
| 6 応接室(1F)                  |     |     |    |    |          |       |       |        |      |
| 7 図書館事務室(1F)               |     |     |    |    |          |       |       |        |      |
| 8 談話室(1F)                  | 1   |     |    |    | 1        |       | 1     | 2      |      |
|                            | 6   |     |    |    | 2        | 13    | 9     | 19     | 1    |
|                            |     |     |    |    |          |       |       |        | 23   |

(出典 図書館資料)

## 資料7-1-②-1

## 利用規程

## 東京工業高等専門学校図書館規則

## (目的)

第1条 東京工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）は、本校に必要な図書及びその他の資料（以下「図書」という。）を収集・管理して、学術の教授研究及び調査等に資するとともに、学生の学力と教養を高めることを目的とする。

## (図書の区分・定義及び分類)

第2条 前条による図書とは次の物をいう。

- (1) 一般図書及び貴重図書
- (2) 参考図書（辞書、便覧等）
- (3) 逐次刊行物（新聞、雑誌等）
- (4) マルチメディア（CD、CD-ROM、レーザーディスク、ビデオテープ等）

2 図書の分類は、日本十進分類法による。

## (利用者の範囲)

第3条 図書館の図書を利用できる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本校の教職員
- (2) 本校の学生
- (3) 図書館の利用を申し出た一般の利用者（以下「一般利用者」という。）

## (開館時間・休館日)

第4条 図書館の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、校長が必要と認めるときは変更することができる。

- (1) 開館時間 平日9時から20時まで  
土曜日9時から17時まで
- (2) 休館日 日曜日国民の祝日及び校長が定めた日

## (図書館利用者カード)

第5条 教職員及び学生は、身分証明書または学生証を利用する。

2 一般利用者が、図書の館外への貸出を希望する場合には、図書館利用者カードを交付する。

3 一般利用者が、図書館利用者カードの交付を受けようとする場合は、住所、氏名、連絡先の確認できる資料を係員に提示し、申請するものとする。

4 図書館利用者カードは他に譲渡、転貸してはならない。

5 図書館利用者カードを紛失したときは、直ちに係員に届けること。事情調査の上、再交付する。

## (館内閲覧)

第6条 図書の閲覧は、図書館内で行わなければならない。

2 図書の閲覧冊数は1回3冊以内とする。

3 閲覧を終了したとき、又は閉館時間になったときは、直ちに閲覧図書を元の位置に返却しなければならない。

## (館内規律)

第7条 図書館の利用に当たっては、次のことを守らなければならない。

- (1) 館内では係員の指示に従うこと。
- (2) 静粛を守ること。
- (3) 飲食等をしないこと。
- (4) 切り抜き、書き込み等の行為はしないこと。

## (館外貸出)

第8条 図書の貸出を希望する者は、図書館利用者カードを提示し、図書を借り受けるものとする。

2 貸出できる図書の冊数及び期間は、次のとおりとする。

- (1) 教職員5冊以内14日間
- (2) 学生5冊以内14日間
- (3) 一般利用者5冊以内14日間

3 前項のほか、特別貸出は次のとおりとする。

- (1) 専攻科研究及び卒業研究用2冊以内14日間
- (2) 長期休業中冊数、期間はその都度定める。

4 貸出を受けた図書は、その期間内であっても返却の請求があったときは、直ちに返却しなければならない。

5 貸出を受けた図書は、責任をもって保管し、他人に転貸してはならない。

## (長期貸出図書)

第9条 教職員が研究及び業務を遂行するため、特に必要とする図書は、校長の許可を得て長期貸出することができる。

## (教職員の退職時等の扱い)

第10条 教職員が退職若しくは転出するとき、又は長期出張のため任地を離れるときは、その以前に貸出中の図書を返却しなければならない。

## (学生の休退学時等の扱い)

第11条 学生が卒業、退学等学籍を離れるとき、又は休学するときは、直ちに貸出中の図書を返却しなければならない。

## (貸出禁止図書)

第12条 次の図書の貸出は許可しない。ただし、校長の許可を受けた者は、この限りではない。

- (1) 貴重図書
- (2) 参考図書
- (3) マルチメディア（CD-ROM、レーザーディスク、ビデオテープ）
- (4) 雑誌の最新号
- (5) その他校長が定めた図書

## (文献複写)

第13条 図書の複写を希望する者は、係員の指示に従わなければならない。

## (寄贈)

第14条 図書館は、図書の寄贈を受けることができる。寄贈を受けた図書は、図書館に保管する図書と同一に取り扱うものとする。

## (弁償)

第15条 図書を紛失、汚損、損傷した者は、直ちに係員に報告し、弁償しなければならない。

## (罰則)

第16条 この規則に違反した者又は不都合な行為をした者は、図書館の利用を一定期間停止することができる。

## (雑則)

第17条 図書館資料を利用者の閲覧に供するため、図書館資料の目録及びこの規則を常時閲覧室内に備え付けるものとする。

2 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、校長が定める。

## 附則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 東京高専規則集)

資料7-1-②-2

## 図書館利用状況

|        | 入館者数  |   |
|--------|-------|---|
| 平成12年度 | 71937 | 人 |
| 平成13年度 | 68151 | 人 |
| 平成14年度 | 66688 | 人 |
| 平成15年度 | 67790 | 人 |
| 平成16年度 | 71519 | 人 |
| 平成17年度 | 67353 | 人 |
| 平成18年度 | 72355 | 人 |

## 一般開放における利用状況

|        | 入館者数 |          |
|--------|------|----------|
| 平成12年度 | 2700 | 人(含土曜学生) |
| 平成13年度 | 2468 | 人(含土曜学生) |
| 平成14年度 | 710  | 人        |
| 平成15年度 | 831  | 人        |
| 平成16年度 | 769  | 人        |
| 平成17年度 | 1251 | 人        |
| 平成18年度 | 713  | 人        |

(出典 図書館資料)

資料 7-1-②-3

### 図書館利用案内



**東京工業高等専門学校**  
〒103-0997 東京都八王子市南町1-20-2  
庶務課図書部  
TEL 0426-09-5403・5111,0260  
FAX 0426-09-5404  
http://www.tokai.ac.jp/~lib/0309-0997.htm

■本校の図書は次の方々が利用できます。

本校の学生  
本校の教職員  
図書館の利用を申し出た一般の利用者

| 曜日  | 開館時間       | 観覧貸出       | 交納貸出       |
|-----|------------|------------|------------|
| 月～金 | 9:00-20:00 | 9:30-19:45 | 9:00-20:00 |
| 土   | 9:00-17:00 | 9:30-16:45 | 9:00-17:00 |

※ 観覧貸出は図書館内の作業の中心のみの貸出となります。

■休館日

日曜日  
国慶日の祝日  
毎半年休 (12月29日～1月3日)  
校風が定めた日

※ 臨時休館は図書館内の作業の中心のみの貸出となります。

■貸出部・情報

| 学 生   | 5冊 | 14日間 |
|-------|----|------|
| 教 員   | 5冊 | 14日間 |
| 一般利用者 | 5冊 | 14日間 |

■特別貸出部・情報

蔵書本籍貸出用 2冊以内 14日間  
及ぶ本籍貸出用 2冊以内 14日間

※ 各、5冊以上の借出はできません。

●1階 プラザのコーナー  
図書、図書情報誌等





2F

1F

交通のご案内



〒103-0997 東京都八王子市南町1-20-2  
TEL 0426-09-5403・5111,0260  
FAX 0426-09-5404  
http://www.tokai.ac.jp/~lib/0309-0997.htm

みなさんの図書館です。



※ 資料は大切に扱ってください。

(出典 図書館パンフレット)

資料 7-1-②-4

## 東京工業高等専門学校コンピューター演習室利用規則

制定 平成14年 4月 4日

改正 平成18年 3月 2日

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校コンピューター演習室（以下「演習室」という。）の利用について、必要な事項を定めるものである。

第2条 演習室の利用資格者は、次のとおりとする。

- (1) 本校の教職員
- (2) 本校の学生
- (3) その他情報・メディア教育センター運営委員会の承認した者

第3条 コンピューター演習室利用の優先順位は、原則として次のとおりとし、同順位間では受付順位とする。ただし、緊急な場合は優先順位を変更する。順位の変更は、利用者相互の協議を経て情報メディア教育センター長（以下「センター長」という。）が決定する。

- (1) 授業
- (2) 卒業研究
- (3) 教員研究
- (4) 事務処理
- (5) その他

第4条 コンピューターのオペレータは、次の資格を必要とする。

- (1) 情報・メディア教育センター運営委員会がコンピューターの操作について十分な知識と経験を有すると認めた本校の教職員
- (2) 前号に該当する指導教員が特に承認した本校の学生

第5条 利用者は、別に定める演習室の利用手引きに従わなければならない。

第6条 利用者がこの規則に違反し、又は演習室の運営に重大な支障を生じさせたとき、又はそのおそれのあるときは、センター長は演習室の利用を一時停止させることができる。

## 附 則

- 1 この規則は、平成14年4月4日から施行し、平成14年4月1日から適用する。
- 2 東京工業高等専門学校電子計算機室利用規則（昭和47年7月14日施行）は、平成14年3月31日限り、これを廃止する。

## 附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 東京工業高等専門学校規則集)

## 資料 7-1-②-4

○部屋数、収容人数、机、パソコンの台数

**第一演習室 (5101)**面積 111m<sup>2</sup>

収容人数 50名

机 50台、プロジェクタ 1台 (PLUS U2-X2000)、プリンタ 2台 (RICOH NX750)

パソコンの台数 50台 (Fujitsu FMV-E635)

インストール ソフト

|                       |                                 |
|-----------------------|---------------------------------|
| Microsoft Office 2003 | Microsoft VisualStudio.NET 2003 |
| Symantec AntiVirus 9  | AutoCAD 2005                    |
| SolidWorks 2005       | PowerParts 5.4                  |
| NetBeans 5.0          | Win mostar V3.03                |
| GNU octave 2.1.73     | Peak Simulation                 |
| Activepdf             | ActivePerl                      |
| AdobeReader 8         | ANhttpd                         |
| Susie                 | TeraPad                         |
| FFFTP 1.92            | DANDP                           |
| GIMP                  | Lhaca                           |

**第三演習室**面積 111m<sup>2</sup>

収容人数 50名

机 47台、プロジェクタ 1台 (PLUS U2-1200)、プリンタ 2台 (Canon LBP-3800)

[シンククライアント方式サーバ (Windows2003) 1台]

シンククライアント方式端末 (MintWave) 47台

インストール ソフト

|                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| Microsoft Office 2003 | Microsoft VisualStudio 6.0 |
| Symantec AntiVirus 10 | VellumCAD 5.0              |
| D mostar              | Lhaca                      |
| Peak Simulation       | ActivePerl                 |
| AdobeReader 7         | ANhttpd                    |
| TeraPad               | FFFTP 1.92                 |
| R 2.3.1               | ACDLabFreeware5            |
| Autodesk              |                            |

(出典 マルチメディア委員会資料)



資料7-1-②-5

## 2. コンピューター演習室の利用状況

前期と後期について第1演習室と第3演習室の利用率

平成18年度

前期

第一演習室 利用率 35/36 97.2%

第三演習室 利用率 26/36 72.2%

後期

第一演習室 利用率 35/36 97.2%

第三演習室 利用率 22/36 61.1%

時間割外

7/31(月)～8/1(火) 情報工学科公開講座

8/4(金) 機械工学科メカトロニクス体験講座

12/11(月)～7/22(金) 16:00～17:00 英語補講

(出典 マルチメディア委員会資料)

資料7-1-②-5

第 1 演 習 室

平成18年度 後期

|   | 1                           | 2 | 3                                      | 4 | 5                             | 6 | 7                        | 8 |
|---|-----------------------------|---|----------------------------------------|---|-------------------------------|---|--------------------------|---|
| 月 | Listening I<br>1-2<br>竹田    |   | 機器分析 II<br>4C<br>城石                    |   | 情報工学実験Ⅲ<br>4J<br>青野・小嶋・平尾・松本  |   |                          |   |
| 火 | デジタル信号処理 II<br>4J<br>吉本     |   | 機械設計製図 I A<br>3M<br>堤・森下               |   | 情報工学実験 I<br>2J<br>青野・横山・松林・平尾 |   |                          |   |
| 水 | 機械設計製図 B<br>4M<br>斉藤        |   | 情報処理 II<br>4C<br>城石                    |   | デジタル信号処理 II<br>4J<br>吉本       |   | Listening I<br>1-1<br>竹田 |   |
| 木 | 機械設計製図 I A<br>3M<br>堤・森下    |   | Listening I<br>1-3<br>竹田               |   |                               |   |                          |   |
| 金 | オペレーティングシステム II<br>5E<br>鮎泉 |   | ものづくり基礎工学 (J科)<br>1年<br>鈴木(孝)・平尾・西村・松本 |   |                               |   |                          |   |

第 3 演 習 室

平成18年度 後期

|   | 1                                    | 2 | 3                             | 4 | 5                                 | 6 | 7                      | 8 |
|---|--------------------------------------|---|-------------------------------|---|-----------------------------------|---|------------------------|---|
| 月 |                                      |   |                               |   | プログラミング言語 I<br>2E<br>鮎泉           |   |                        |   |
| 火 |                                      |   | 実践プログラミング I<br>3J<br>松本・鈴木(雅) |   | 計算力学 B<br>5M<br>斉藤(昭)             |   | 実践プログラミングⅢ<br>4J<br>吉本 |   |
| 水 | 選択外国語 (TOEIC Seminar IV)<br>5年<br>関根 |   | 知識工学 I<br>3J<br>鈴木(雅)・平尾      |   | 情報工学実験 II<br>3J<br>小坂・鈴木(孝)・小嶋・平尾 |   |                        |   |
| 木 |                                      |   | プログラミング言語<br>2J<br>鈴木(雅)      |   |                                   |   |                        |   |
| 金 |                                      |   | 量子化学<br>4C<br>小野              |   | 情報基礎<br>2J<br>青野                  |   |                        |   |

(出典 マルチメディア委員会資料)

資料 7-1-②-5

## 第 1 演習室

平成18年度 前期

|   | 1                             | 2 | 3                                   | 4 | 5                               | 6 | 7                        | 8 |
|---|-------------------------------|---|-------------------------------------|---|---------------------------------|---|--------------------------|---|
| 月 | 実践プログラミング I<br>3J<br>鈴木(雅)・松本 |   | 機械設計製図 I A<br>3M<br>森下              |   | 情報工学実験Ⅲ<br>4J<br>平尾・西村          |   |                          |   |
| 火 | 計算化学<br>5C<br>土屋              |   | 情報基礎<br>2J<br>青野・西村                 |   | 情報工学実験Ⅱ<br>3J<br>松林・鈴木(孝)・小嶋・平尾 |   |                          |   |
| 水 | 機械設計製図 B<br>4M<br>福田          |   | オペレーティングシステム I<br>5E<br>龍泉          |   | Listening I<br>1-5<br>竹田        |   | Listening I<br>1-4<br>竹田 |   |
| 木 | 英語特論<br>専攻科2年<br>関根           |   | 情報処理 I<br>2C<br>土屋                  |   |                                 |   |                          |   |
| 金 | 機械設計製図 I A<br>3M<br>森下        |   | ものづくり基礎工学 (J科)<br>1年<br>松林・平尾・西村・松本 |   |                                 |   |                          |   |

## 第 3 演習室

平成18年度 前期

|   | 1                                  | 2 | 3                           | 4 | 5                       | 6 | 7                        | 8 |
|---|------------------------------------|---|-----------------------------|---|-------------------------|---|--------------------------|---|
| 月 | デジタル信号処理 I<br>4J<br>吉本             |   | プログラミング言語<br>2J<br>鈴木(雅)・西村 |   | メカトロニクス I<br>3M<br>下井・堤 |   | メカトロニクス実習<br>3M<br>下井・堤  |   |
| 火 |                                    |   | 工業分析化学<br>1AC<br>工藤・城石      |   | 計算力学 A<br>5M<br>斎藤(昭)   |   |                          |   |
| 水 | 選択外国語 (TOEIC SeminarⅣ)<br>5年<br>関根 |   | 実践プログラミングⅡ<br>4J<br>吉本・松本   |   |                         |   | 知識工学 I<br>3J<br>鈴木(雅)・平尾 |   |
| 木 | プログラミング言語Ⅱ<br>3E<br>伊藤(彰)          |   |                             |   |                         |   |                          |   |
| 金 | 情報処理<br>2M<br>平野                   |   |                             |   |                         |   | 情報処理<br>4D<br>小野         |   |

(出典 マルチメディア委員会資料)

実習工場設備等一覧

| 実習工場概要     |                    |         |
|------------|--------------------|---------|
| 施設名称       | 面積                 | 収容人数(人) |
| 機械工場       | 380 m <sup>2</sup> | 30      |
| 鋳造         | 90 m <sup>2</sup>  | 10      |
| 溶接         | 41 m <sup>2</sup>  | 10      |
| CAD/CAM室   | 70 m <sup>2</sup>  | 15      |
| 第1オーブンスペース | 65 m <sup>2</sup>  |         |
| 第2オーブンスペース | 50 m <sup>2</sup>  |         |

| 鋳造室 |          |    |
|-----|----------|----|
| 番号  | 品名       | 台数 |
| 1   | ショットブラスト | 1  |
| 2   | ダイキャスト   | 1  |
| 3   | サンドミル    | 1  |
| 4   | グラインダ    | 1  |
| 5   | ルツボ      | 1  |
| 6   | 万能糸鋸盤    | 1  |
| 7   | ベルトサンダー  | 1  |

| 溶接室 |           |    |
|-----|-----------|----|
| 番号  | 品名        | 台数 |
| 1   | アーケ溶接機    | 4  |
| 2   | 溶接ユニット    | 2  |
| 3   | CO2半自動溶接機 | 1  |
| 4   | アルゴン溶接機   | 1  |
| 5   | 溶盤        | 1  |

| 工場 |            |    |
|----|------------|----|
| 番号 | 品名         | 台数 |
| 1  | 旋盤         | 10 |
| 2  | 六角旋盤       | 1  |
| 3  | NC旋盤       | 1  |
| 4  | ワイヤカット     | 1  |
| 5  | 横フライス盤     | 2  |
| 6  | 縦フライス盤     | 1  |
| 7  | ターレットフライス盤 | 1  |
| 8  | NCフライス盤    | 1  |
| 9  | シーバー       | 1  |
| 10 | スロッター      | 1  |
| 11 | 円筒研削盤      | 1  |
| 12 | 平面研削盤      | 1  |
| 13 | マシニングセンタ   | 1  |
| 14 | シヤーリング     | 1  |
| 15 | 折り曲げ機      | 1  |
| 16 | 桌上ボール盤     | 9  |
| 17 | 直立ボール盤     | 2  |
| 18 | スポット溶接機    | 1  |
| 19 | ハンドプレス     | 1  |
| 20 | コンターマシン    | 1  |
| 21 | プレス        | 1  |
| 22 | 圧縮機        | 3  |
| 23 | グラインダー     | 5  |
| 24 | 工具研削盤      | 2  |
| 25 | 小型フライス盤    | 1  |
| 26 | チーフルソー     | 1  |

| 第1オーブンスペース |          |    |
|------------|----------|----|
| 番号         | 品名       | 台数 |
| 1          | 30馬力モーター | 1  |
| 2          | 小型フライス盤  | 2  |

| 倉庫 |         |    |
|----|---------|----|
| 番号 | 品名      | 台数 |
| 1  | 万能研削盤   | 1  |
| 2  | 高速カッター  | 1  |
| 3  | ベルトサンダー | 1  |

| その他  |     |                                      |
|------|-----|--------------------------------------|
| 種類   | 数量  | 備考                                   |
| 溶接機  | 4台  | 工場、CAD室、第1オーブンスペース、第2オーブンスペース、事務室    |
| 収容人数 | 50名 |                                      |
| 机    | 28卓 | 第1室2卓、工場5卓、CAD室8卓、第1オーブンスペース2卓、第2室5卓 |
| パソコン | 27台 | 工場4台、CAD室13台、第1オーブンスペース3台、事務室7台      |

(出典 実習工場資料)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p style="text-align: center;">2003年5月26日<br/>実習工場長 黒崎 茂</p> <p style="text-align: center;">実習工場時間外開放規定</p> <p>パソコンおよび設備稼働時間外実習作業（例えば機械工学科卒業研究等）のために実習工場の使用について下記の申し合わせを定める。</p> <p><b>1. 開放時間</b><br/>平日（17：00～20：00）、土・日・休日（9：00～17：00）</p> <p><b>2. 機の受け渡しについて</b><br/>(1) 時間外に使用する場合は使用当日（休日使用の場合は前日）16：00迄に担当教員の実習工場（第一技術室）から鍵と鍵貸出簿を受け取る。（学生に対する鍵の受け渡しは行わない）<br/>(2) 使用日（土、日、休日の場合は休み明け）の翌日9：00迄に鍵と鍵貸出簿を実習工場（第一技術室）に返却する。</p> <p><b>3. 工場使用中の対応について</b><br/>(1) 学生は緊急時に必ず担当教員の連絡をとり指示を仰ぐこと。担当教員は適切な処置をとること。<br/>(2) 学生が工場を使用中、担当教員は必ず所在を明らかにしておくこと。（緊急時の対応のため）<br/>(3) 工場は学生2人以上で使用すること。（緊急時の対応のため）<br/>(4) 使用ミスによる機械、工具の破損について発生する修理・購入に關わる費用は原則として使用者（担当教員）の負担とする。<br/>(5) 担当教員の不在として第一技術室の技術職員が時間外監視はできないものとする。</p> <p><b>4. 工場使用後の対応について</b><br/>(1) 機械の清掃、工具類の片付けを学生に徹底させる。<br/>(2) 使用後部品の整理を止めることの確認。<br/>(3) 工場内閉鎖の閉鎖確認。<br/>(4) 鍵貸出簿には使用日付、担当教員名、使用学生名、使用機器名を記入、機械故障等の特記事項があれば記載。<br/>(5) 戸閉まりの確認、窓開閉の確認の後には鍵返。</p> <p>当面は上記による方法で実習工場を時間外開放するが、状況に応じて規定の変更を行う。</p> |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p style="text-align: center;">2006年3月1日<br/>実習工場長 斎藤 純夫</p> <p style="text-align: center;">実習工場利用規定</p> <p>パソコンおよび実習作業（機械工学科卒業研究等）のための実習工場の利用について下記の申し合わせを定める。</p> <p><b>1. 利用時間</b><br/>平日（9：00～17：15）</p> <p><b>2. 工場利用について</b><br/>(1) 工場利用前に必ず所定の用紙（工場使用届）に記入し担当教員の承認（印）を受けること。<br/>(2) 工場利用当日は工場利用開始に必要な事項を記入すること。<br/>(3) 利用時間外の使用については別紙の実習工場時間外開放規定に従うこと。<br/>(4) 工場利用中は実習に準じた服装で行うこと。</p> <p><b>3. 工場利用中の対応について</b><br/>(1) 緊急時の場合は技術職員に報告して指示を仰ぐこと。（技術職員は適切な処置をし担当教員に連絡する）<br/>(2) 使用ミスによる機械、工具の破損について発生する修理・購入に關わる費用は原則として使用者（担当教員）の負担とする。</p> <p><b>4. 工場利用後の対応について</b><br/>(1) 機械の清掃、工具類の片付けを徹底すること。<br/>(2) 使用後部品の整理を止めること。</p> <p>利用状況に応じて規定の変更を行う場合がある。</p> |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

(出典 実習工場資料)

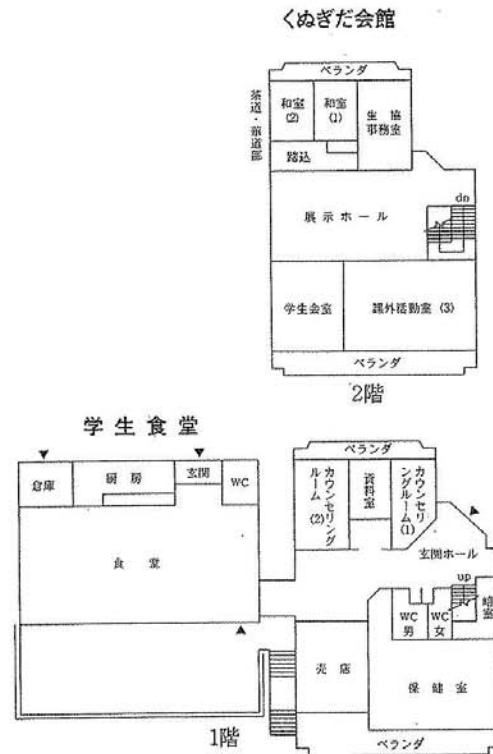


平成18年度前期時間割

実習工場 内線 5118

| 月 |   |   |   |   |   |   |   | 火 |   |   |   |   |   |   |   | 水 |   |   |   |   |   |   |   | 木 |   |   |   |   |   |   |   | 金 |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

資料 7-1-②-8



□ 地 階

○ 第一活動室

- ・椅子 45脚
- ・長机 1台
- ・アンプスピーカー 5台
- ・電子ピアノ 1台
- ・ドラムセット 1式
- ・キャビネット 1台

□ 1階

○ カウンセリングルーム (1)

- ・書棚 3台
- ・テレビ 1台
- ・椅子 15脚
- ・長机 1台
- ・棚 1台
- ・電気ポット 1台
- ・ラジカセ 1台



(6) 会館内には、不必要な物品又は貴重品を持ち込まないこと。また、会館内の物品を無断で持ち出さないこと。

(7) 夜用者は、使用後火気を消滅し、戸締り火火等を確認すること。

11. この心得に定めること外、必要な事項については、学生主事の指示に準ずるものとする。

**(9) 東京工業高等専門学校くぬぎだ会館使用について**

1. この定めは、東京工業高等専門学校くぬぎだ会館使用に準ずる6項及び第11項に基づき、くぬぎだ会館(以下「会館」という。)の円滑な利用をはかることを目的とする。

2. 会館の目的に際するため、学生主事の指示により、会館の運用等について、警備する「くぬぎだ会館委員会」(以下「委員会」という。)を設置する。

3. 学生会は会館の円滑な利用を促進するために必要な運用、調整等を行う「学生会くぬぎだ会館運営調整委員会」(以下「学生会委員会」という。)を設置するものとする。学生会委員会の委員長は、学生会長とし、これ以外の委員の構成等については、学生会に委ねる。

4. 租屋を含む屋外活動室及び図書(以下「屋外活動室等」という。)を定期的に使用する必要がある学生会の団体(学生の委員会、部又は同好会)が、年度の初めに指導教員の承認を得た申請書(以下「申請書」という。)を学生会に提出し、学生会委員会の承認を得た上で、学生会を通じて学生主事に申請した場合には、厚生委員会が審査した上で、当該屋外活動室の鍵を、学生会を通じて使用責任者に使用させることがある。この場合は、学生会長及び使用責任者は適切な取扱いに責任を負うものとする。

5. 屋外活動室等の鍵の受渡は、前項の場合を除き、学生課学生係(以下「学生係」という。)において行うものとし、屋外活動室等の使用時間が学生課学生係職員(以下「学生係職員」という。)の担当に及ぶ場合は、警備員が行うものとする。

6. 屋外活動室等を使用した者は、使用後確実に、使用した屋外活動室等の鍵を返さなければならない。

7. 屋外活動室等(除却を除く)の使用時間が、学生係職員の退行後に及ぶ場合は、更に1階空回ホール等の扉を閉鎖しなければならない。

8. 屋外活動室等(除却を除く)を利用する場合は、1階空回ホールの扉又は学生係室との間の扉開口(学生係室扉扉扉のみ)を使用することとし、これ以外の扉又は窓等を使用し、会館内に入り出すことは、災害予防の観点を除いて厳禁する。

9. 学生会内のガス消滅装置は、租屋を使用する使用責任者の連帯の指示、監督の下に使用し、使用責任者がその安全管理に責任を負うものとする。

10. 会館の屋外活動室の冷暖房設備及び2階の和室を含む屋外活動室のガス配管後の取扱いには細心の注意を払い、二重扉の閉鎖に特に心がけなければならない。

**(8) 東京工業高等専門学校くぬぎだ会館使用心得**

1. この心得は、東京工業高等専門学校(以下「本校」という。)のくぬぎだ会館(以下「会館」という。)のうち、図書室及びパソコンセンターを除く会館の使用方式等について定めるものである。

2. 会館の使用目的は、次の各号に定めるところによる。

(1) 会館の屋外活動室は、主として学生が屋外活動として、東洋館等の履修をする場所として使用するものとする。

(2) 図書は、学生及び教職員が学業修業等に使用するものとする。

(3) 2階の和室を含む屋外活動室は、学生及び教職員が会議、研修及びその他の屋外活動等に使用するものとする。

(4) 2階の空回ホールは、学生及び教職員が講義及びその他の履修等に使用するものとする。

4. 会館の使用手続については、次の各号に定めるところによる。

(1) 本校学生及び一般学生が使用する場合は、本校学生規則第38条に定める手続による。

(2) 本校教職員が使用する場合は、学生課学生係を通じて事前に所定の手続をとるものとする。

(3) 本校以外の者が使用する場合は、別途一時使用調書を事前に会計課総務係に提出し、校長の許可を得なければならない。

5. 会館の使用責任者は、次の各号に定めるところによる。

(1) 学生会が使用する場合は、各指導教員又はその委任を受けた者。

(2) 一般学生、教職員又は本校以外の者が使用する場合は、その代表者。

6. 会館の鍵は、学生課学生係で保管する。鍵の取扱いについては、別に定めるところによる。

7. 使用許可を受けた者が、その使用を意図し又は使用内容を変更しようとするときは、直ちに所定の手続をとるものとする。

8. 使用許可が会館の施設又は備品等を破損又は欠損した場合は、一部又は全部の費用を負担するものとする。ただし、その事由が争ひを得ないと思われた場合は、一部又は全部の費用を免除することができる。

9. 使用中に悪戯行為があつた場合は、直ちに使用許可を取り消すことができる。

10. 会館の使用者は、次の各号の注意事項を守らなければならない。

(1) 使用時間は、8時30分から19時30分までとする。ただし、特別に校長の許可を得た場合は、定められた時間以外に使用することができる。

(2) 使用のつど清掃して、常に整理整頓につとめること。

(3) 屋外活動室等では、電動機等の電気器具は使用しないこと。

(4) 各別扉が不慮開閉を使用した場合は、直ちに閉鎖すること。

(5) 会館の窓ガラスに落書きしたり、ぬぐり等に注意をしないこと。



東京工業高等専門学校学生食堂の利用に関する規則

- (総則)  
 第1条 この規則は、東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生食堂（以下「食堂」という。）の利用について、その円滑なる運用と、学生及び教職員の福祉を目的として定める。  
 (対象)  
 第2条 食堂の利用を次のとおりとする。  
 (1) 本校の学生及び教職員  
 (2) 本校に関係する外来者等  
 (対象日)  
 第3条 食堂（食堂に併設する売店を含む。）の営業日を次のとおり定める。  
 (1) 土曜日、日曜日、祝祭日及び学校の定める休業日を除く毎日  
 (2) 前号以外で、校長が特に認めたい日  
 2 朝頂店等において、臨時に営業日を休業日とすることができる。  
 (営業時間)  
 第4条 営業時間を次のとおり定める。ただし、校長が特に認めたい場合、営業時間を延長又は短縮することができる。  
 (利用方法)  
 1 11時から14時まで  
 第5条 通常営業日（第3条第1項第1号に定める日）における食堂の利用方法を次に定める。  
 (1) 食堂における飲食は、すべてセルフサービスとする。  
 (2) 営業時間内は、個人又は団体が過量本家の目的を超えて利用することはできない。  
 (3) 食堂の出す飲食物は、必ず営業内において飲食し、他の場所へ移動させて飲食してはならない。  
 (4) その他、食堂の管理運営上、指示された事項は遵守しなければならない。  
 (営業時間外の利用)  
 第6条 通常営業日の営業時間外に食堂を利用する場合は、その朝飯利用の1週間前までに、別紙様式による申請書を提出し、校長が認めて提出し、その承認を得なければならない。この場合使用する者は、必ず所定の使用種別に記載しなければならない。  
 (休業日以外の利用)  
 第7条 通常営業日（第3条第1項に定める日）以外に食堂を利用しようとするときは、前条に準ずるものとし、校長が認める場合は、別紙様式による臨時給食費納付書を提出し、許可を得なければならない。  
 (利用禁止の期間)  
 第8条 食堂を利用する場合は、次に該当するときは、利用を禁止する。  
 (1) 食堂厨房内を使用するもの  
 (2) 風紀衛生上、不適当と認められるもの  
 (3) 食堂の管理運営上、支障があると認められるもの  
 (4) 第1条に定める目的の範囲を著しく超えるもの  
 (5) 害利を目的とするもの  
 (6) その他校長が不適当と認められるもの

附 則

この規則は、昭和46年9月1日から施行する。

別紙様式 略

○学生食堂（くぬぎだ金庫1階）



机 (4～6人用) 19台  
 机 (2～4人用) 20台  
 椅子 1355脚

○売店（くぬぎだ金庫1階）



## 生協購買部 (H18. 3～H19. 2)

|      | 3月    | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月    | 9月     | 10月    | 11月    | 12月    | 1月     | 2月     | 年間合計    |
|------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 利用客数 | 2,133 | 10,399 | 6,722  | 11,225 | 8,437  | 1,614 | 8,656  | 10,893 | 11,576 | 6,443  | 7,632  | 8,608  | 94,338  |
| 利用点数 | 7,880 | 19,747 | 13,587 | 20,432 | 15,138 | 2,943 | 16,786 | 22,109 | 23,502 | 14,323 | 17,235 | 19,911 | 193,593 |

## 生協食堂部 (H18. 3～H19. 2)

|      | 3月  | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月 | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 年間合計   |
|------|-----|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 利用客数 | 152 | 2,210 | 2,299 | 2,363 | 1,574 | 閉店 | 1,740 | 2,534 | 2,215 | 1,936 | 1,885 | 1,793 | 20,701 |

資料7-1-②-11

(出典 学生課資料)

資料 7-1-②-12

# 生 活 ～

## 学習到達度試験を実施

国立高専機構では、高専生の実力が定着しているかを見極めるため、今年度から3年生を対象に全国統一の試験を行うことになりました。今年度は数学を1月11日に実施し、来年度は数学、物理の2科目を実施する予定です。

## 吹奏楽部第26回定期演奏会

1月20日、いちようホールで東京高専吹奏楽部第26回定期演奏会を行いました。

今年は部員減少という苦しい状況にありましたが、一人一人が自分の力を発揮し、良い演奏会にすることができました。これからもこの演奏会を続けていけるよう、努力していきたいと思えます。

(部長：野村佳永)



## 冬期学校



2年生恒例の冬期学校は、雪不足が懸念されましたが、ゲレンデ状況は良好で、天候にも恵まれました。初めてスキーを体験した学生も林間コースを滑るなどしてスキーを楽しみました。

また、他のクラスの学生とも交流することもできました。



## 専攻科特別研究発表会

専攻科2年生の特別研究発表会が2月3日八王子市学園都市センターにて開催されました。京王プラザホテルで開催された懇親会では、主催者である本校技術懇談会会長の太田様より優秀な発表をした学生に対し奨励賞が授与されました。



## 駅伝大会

2月8日毎年恒例の学生会イベント、第16回校内駅伝大会が開催されました。総参加チーム数30チーム、150人近い参加者が襷をつなぎました。中には、自作の襷を用意したチームや、大胆な仮装をしたチームも参加。寒空のなか、大いに盛り上がりました。(学生会長 40 栗原 祐輔)



## 自学自習室(セルフスタディールーム)を設置

東京高専では、学生が主体的かつ効率的に学ぶ環境を提供するため、2月8日、図書館棟1階に自学自習室(セルフスタディールーム)をオープンしました。

オープニングセレモニーでは、水谷校長から「教えて学ぶ! 学んで教える! 教えることは最高の復習である」との挨拶がありました。自学自習室では、後輩のため専攻科5名の学生がTAとして協力してくれることになりました。

【開室時間】

9:00～19:30

【TA在室時間】

16:30～19:30



## 第14回関東高専卒研発表交流会

平成19年3月10日、第14回関東高専卒業研究発表交流会が開催されました。発表会は都内の4高専(都立産技高専品川キャンパス、荒川キャンパス、サレジオ高専、東京高専)が参加し、今年度は計15件の発表がありました。

本校からは機械、電気、電子、情報工学科から4件の発表があり、学生それぞれが、卒業研究の成果を熱心に良く伝えていました。

来年度は荒川キャンパスで行われる予定です。

(出典 広報誌柗田の風および学生課資料)

資料 7-1-②-1 2

## 自学自習室使用の心得

情報・メディア教育センター  
セルフスタディ運営委員会

自学自習室は、学生が自学自習するために設置された部屋です。各席にはLAN ケーブルと電源コンセントが用意されており、携帯型コンピュータを接続することによりネットワークを使用することができます。一部の席にはコンピュータが設置されています。

1. 利用者
  - (1) 本校の学生及び教職員
  - (2) 前号に掲げる者のほかセルフスタディ運営委員会が適当と認めた者
2. 利用方法
  - (1) 入室時に、受付にあるノートに所属氏名と入室時間を記入し、退室時には退室時間を記入しなければならない。
3. 利用期間
  - (1) 利用日は別途定める
  - (2) 利用時間 原則 午前9時から午後7時30分までとする(利用時間を変更する場合には、部屋の前に掲示する。)
4. 利用の範囲
  - (1) コンピュータを使用した自学自習
  - (2) 利用者の持ち込むコンピュータを使用した自学自習
  - (3) コンピュータを使用しない自学自習
5. コンピュータ及びネットワーク利用上の注意
  - (1) アカウントの取り扱いに注意する事。特にアカウントの貸し借りは慎む事。(貸したアカウントにより問題が発生した場合でも、本来のアカウント所有者が賠償責任を負います。)
  - (2) ネットワークの利用は、ネットワークを管理する者の定めた規則を遵守し、本来の学習目的以外には用いないこと。
  - (3) 他の計算機システムの利用は、当該計算機システムを管理する者の定めた規則遵守し、本来の学習目的以外には用いないこと。
  - (4) 他の迷惑または迷惑の可能性のある行為は絶対におこなわないこと。
6. その他利用上の注意
  - (1) 16:30～19:30の時間帯は、学習指導補助学生(TA)が常駐するので、TAに対して学習に関する事項やコンピュータ及びネットワークに関する質問をすることができる。ただし他のサービスに支障のするような回答に時間を要する質問は控えること。
  - (2) 携帯電話はマナーモードに設定し音声通話はおこなわないこと。
  - (3) 学習室内での飲食はしないこと。
  - (4) 他の利用者の迷惑となる事はおこなわないこと。
  - (5) 退室時には、コンピュータ(ディスプレイを含む)の電源を切り、机上と椅子の整理をおこなうこと。
  - (6) 管理者(TAを含む)の指示にしたがうこと。
7. 利用の停止
  - (1) セルフスタディ運営委員会は、利用者が委員会で定めた規則に従わない場合または承認された目的以外での利用をおこなった場合には、当該利用者の利用を停止することができる。

以上

(出典 広報誌柗田の風および学生課資料)

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

学生のニーズは、ニーズの種類によって、学生図書委員会・くぬぎだ祭実行委員会・寮生会などを通して把握され、厚生委員会（現在、学生委員会）で審議し対応する。学習支援に関する学生のニーズは、主に、担任および学級指導教員・専攻主任・副主任・科目担当教員によって把握される。一例として、学生会・同好会からあがったニーズについて検討した議事録を資料7-1-③-1に示す。

（分析結果とその根拠理由）

学生のニーズは、学生図書委員会・くぬぎだ祭実行委員会・寮生会、および、担任・学級指導教員・専攻主任・副主任・科目担当教員によって把握され、実際の対応が機能している。

以上によって、学習支援に関する学生のニーズは適切に把握されている。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・ 管理上の問題については発着教員を定めて検討する。</p> <p>・ ホームページの内容の更新については学生主事・主事または学生会メンバーが行う。</p> <p>10. 体育祭や運動会等の準備としての利用について<br/>         体育祭や運動会等の準備としての利用について、現在、体育祭や運動会には利用していないため、これをスポーツ大会の用具保管のための倉庫として使えないかという旨の問い合わせが学生会からあり、石原教員と相談のうえ、現在入っている物品を整理したうえで使用させることとした旨の報告があった。</p> <p><b>学生主事・主事選挙結果メモ (平成18年7月20日 (水) 開催)</b></p> <p>4. 学生会活動への協力体制について<br/>         学生会から、くぬぎた悠平(フレット掲載予定記事の学校担当)について敬えて欲しい旨の依頼があり、各記事の学校担当について確認し、学生会に連絡することとした。</p> <p>6. 学生会作成によるくぬぎた悠平ホームページについて<br/>         くぬぎた悠平ホームページ担当の学生から制作中のファイルが提出されている件について、担当学生から夏休み前に掲載したい旨の要望を受けており、未完成の状態であるが日時・場所を公開できることから本校のホームページに掲載することとした。掲載作業は白石教員の指導により、学生係にて行うこととした。</p> <p><b>学生主事・主事選挙結果メモ (平成18年9月5日 (火) 開催)</b></p> <p>5. 奥運部の招集競参加希望について<br/>         川上学生係から、新選部の招集競参加について、新選部顧問の堀山教員より、学生が招集競の参加を希望している旨連絡があったことについて検討があり、その検討について検討を行い、両校の顧問で調整を行ったうえで参加させることとした。</p> | <p>平成18年度 第2回学生委員会議事録<br/>         日 時 平成18年9月28日 (月) 15:00～17:30</p> <p>5. 学生会ホームページについて<br/>         中川委員から、学生会ホームページについて、案内で公開するのではなく、掲載上、アカウンントとパスワードが欲しい旨の要望が学生会から出されている旨の報告があり、審議の結果、字外にも公開することを踏まえ、アカウンントとパスワードは学生会に与えず、掲載しようとする記事等の内容について学生係(内容に依りては学生主事・主事)の承認を受け、学生係にて掲載することとした。</p> <p>平成18年度 第4回学生委員会議事録<br/>         日 時 平成19年3月16日 (水) 16:00～19:30</p> <p>5. 奥新選部会の作品展示について<br/>         川上学生係から、奥新選部会から希望の出展している作品の展示について、図書委員から、図書輸入口付近の扉に展示する許可を得た旨の報告があった。</p> <p><b>学生主事・学生主事選挙結果メモ (平成18年4月20日 (水) 開催)</b></p> <p>3. 学生会の掲示物について<br/>         学生会の掲示物について掲示期限が過ぎりしないものがあるもので期限を明示して欲しい旨の要望が教員からあり、このことについて期限を明示するように学生会に要望を出すこととした。</p> <p><b>学生主事・主事選挙結果メモ (平成18年6月19日 (月) 開催)</b></p> <p>6. 学生会作成によるくぬぎた悠平ホームページの掲載サーバへの掲載について<br/>         学生会作成によるくぬぎた悠平ホームページの本校サーバへの掲載について、学生に対する技術的な相談等への対応をどのように行うかについて検討し、以下のとおりを行うこととした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術的な質問については、白石教員が対応する。</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(出典 学生課資料)



観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

資格試験のための支援としては、TOEICのIPテストの実施(資料7-1-④-1)、TOEIC400点相当を専攻科の修了要件にしていること(資料7-1-④-2)、実用英語技能検定・工業英語能力検定に合格したときの単位認定(資料7-1-④-3)などがある。特に専攻科学生はTOEIC400点相当をクリアしており、機能している(資料7-1-④-2)。また、検定試験に関する支援としては、国家試験の認定などがあげられる(資料7-1-④-4)。

外国留学のための支援としては、直接的支援ではないが、日豪学生交流(資料7-1-④-5)、日韓学生交流(資料7-1-④-6)、ヘルシンキ学生交流(資料7-1-④-7)などが上げられる。外国留学をするときに必要な語学力、国際理解力などをつけることによって、間接的ながら重要な支援である。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、TOEICのIPテストを実施し、TOEIC400点相当を専攻科の修了要件にしている。また、実用英語技能検定・工業英語能力検定に合格したときに単位認定を認定する制度や国家試験の認定などの制度があり、機能している。外国留学のための支援としては、日豪学生交流、日韓学生交流、ヘルシンキ学生交流などが実施されている。

以上により、資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能している。

# 2006年度 東京工業高等専門学校 英語科・生協 共催 カレッジTOEIC テスト

日時：1月18日(木)13:00～15:00 開催 12:30 (集合12:45厳守)

場所：専攻科棟1階 マルチメディアルーム

申込開始：10月31日(月)16:45(生協開店)まで

受験料：4,040円(消費税込) (参考：TOEIC公開テスト46,615円)

\*受験を取りやめても受験料の払い戻しはいたしません。ご了承下さい。

持参品：HBの鉛筆・消しゴム・受験票

定員：100名(定員になり次第締め切らせていただきます)

申込方法：申込書を記入の上、受験料を添えて生協購買部にてお申込下さい。  
 応募期限：前2週間後に生協購買部にてお申し込みいたします。

## ●カレッジTOEIC テストとは？

過去のTOEIC公開テスト問題(Listening100問、Reading100問)を使用し、テスト形式を採用。新題はTOEIC公開テストと全く同じレベルで行われる英語能力テストです。はじめてTOEICを受験される方やTOEIC公開テストへのステップ(準備)にぜひご利用ください。各専攻科や部員に自己の英語能力を競い、磨き出しなければなりません。ご利用ください。

## ●公開テストとの違いは？

公開テストの原理は、OFFICIAL SCORE CERTIFICATE (認定証) が発行されますが、カレッジTOEICテストではSCORE SHEETが発行されます。カレッジTOEICテストのスコアは、英語の目標として目標値などにも記入できます。各種企業に提出しても構いません。ただし、公式認定証が必要な場合は公開テストを受験して下さい。

受験票 (ご本人控え)

## 1月18日 12:45開始 (受験者は受験で参ります)

氏名 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ 出席番号 \_\_\_\_\_

\*本券を当日持参下さい

\_\_\_\_\_ 受取日 \_\_\_\_\_ 担当氏 \_\_\_\_\_ 通しNO \_\_\_\_\_

2006年度東京工業高等専門学校カレッジTOEICテスト受験申込書

1月18日(木)受験

\_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ 出席番号 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ 受取日 \_\_\_\_\_ 担当 \_\_\_\_\_ 通しNO \_\_\_\_\_

TOEIC/TOEIC Bridge 団体受験について (改訂版) 2004.1.14  
 (受験料に別して改訂) 2004.10.06  
 (TOEIC受験料に別して改訂) 2005.2.9  
 (TOEIC IP 英語日本を反映) 2006.5.1

1. 今後のTOEICの他者向け  
 2004年度より新カリキュラムが導入される。それに合わせて学生連行でTOEICおよびTOEIC Bridgeを1年～2年まで受験を義務化し、TOEICを学校全体の取組として位置づける。

2. TOEIC/TOEIC Bridge と受験学年

(1) 専攻科の部  
 1年～3年までの定員枠を、学生連行で実施する。

| 年度     | 対象学年 | 試験の種類        | 実施時期 | 一人当たり受験料 |
|--------|------|--------------|------|----------|
| 2004年度 | 1年生  | TOEIC Bridge | 4月   | 2835円    |
| 2005年度 | 1年生  | TOEIC Bridge | 4月   | 2835円    |
|        | 2年生  | TOEIC Bridge | 12月  | 2835円    |
| 2006年度 | 1年生  | TOEIC Bridge | 4月   | 2835円    |
|        | 2年生  | TOEIC Bridge | 4月   | 2835円    |
|        | 3年生  | TOEIC        | 12月  | 4040円    |

(2) 任意受験の部

| 年度      | 対象学年 | 試験の種類 | 実施時期 | 一人当たり受験料 |
|---------|------|-------|------|----------|
| 2004年度～ | 全学年  | TOEIC | 12月  | 4040円    |

(注) 受験料は消費税込。一人当たり受験料以外に翻訳料等の若干の諸経費がかかる。

平成18年度 TOEICテスト (ブリッジ及びTOEIC) の受験状況

| IPの種類               | 受験日       | 受験者数      |      |
|---------------------|-----------|-----------|------|
| 1年生                 | TOEICブリッジ | 2006.4.27 | 218名 |
| 2年生                 | TOEICブリッジ | 2006.4.27 | 194名 |
| 3年生 (4年生以上の任意受験を含む) | TOEIC     | 2007.1.18 | 215名 |

資料7-1-④-2

## 平成20年度 専攻科学生募集要項

### I. アドミッションポリシー（入学者受入方針）

高等専門学校で修得した能力にさらに国際性を身につけ、複合・融合分野に対応できる、ものづくり志向の技術者の育成を目標にする本校では、次のような受験生を求めています。

- (1) 工学の基礎を修得している人
- (2) さまざまな課題に主体的に取り組む意欲のある人

(中略)

### V. その他の注意事項

- (1) 願書出願時に配布する「受験者心得」をよく読んで試験会場においてください。会場では係員の指示に従ってください。

(中略)

- (5) TOEIC (Test of English for International Communication) スコアについて

本校は入学案内にもありますように、国際性を持ったエンジニアの育成に力を入れています。合格者は、入学時に TOEIC (Test of English for International Communication) の受験スコアを提出していただきます。専攻科修了の認定には、TOEIC スコアが400点以上が必要となります。

(出典 専攻科募集要項)

## 資料7-1-④-2

## 専攻科修了時のTOEICスコア

## 2期生（平成17年度修了）

|    | スコア |
|----|-----|
| 1  | 925 |
| 2  | 880 |
| 3  | 595 |
| 4  | 515 |
| 5  | 480 |
| 5  | 480 |
| 7  | 475 |
| 7  | 475 |
| 9  | 465 |
| 10 | 460 |
| 11 | 450 |
| 11 | 450 |
| 13 | 445 |
| 13 | 445 |
| 13 | 445 |
| 16 | 435 |
| 17 | 425 |
| 18 | 420 |
| 18 | 420 |
| 20 | 415 |
| 21 | 410 |
| 22 | 405 |
| 23 | 400 |
| 24 | 395 |

平均 488（留学生含）  
450（日本人のみ）

400点を最低ライン

e・ラーニング

m p 3 貸与

個別指導

物質工学専攻で英語による特別研究中間発表

## 3期生（平成18年度修了）

|    | スコア |
|----|-----|
| 1  | 590 |
| 2  | 575 |
| 3  | 550 |
| 4  | 515 |
| 4  | 515 |
| 6  | 495 |
| 7  | 490 |
| 8  | 485 |
| 9  | 470 |
| 10 | 445 |
| 10 | 445 |
| 12 | 440 |
| 12 | 440 |
| 14 | 430 |
| 14 | 430 |
| 16 | 425 |
| 16 | 425 |
| 18 | 420 |
| 19 | 415 |
| 20 | 410 |
| 21 | 405 |
| 22 | 400 |
| 22 | 400 |
| 24 | 390 |

平均 459

400点を最低ライン

e・ラーニング

m p 3 貸与

個別指導

物質工学専攻で英語による特別研究中間発表

英語プレゼン塾による英語による研究発表

（出典 学生課資料）

外国語技能審査の名称に基づく単位認定について (平成18年度)

| 認定科目名   | 単位数 | 取得者数 | 備考                |
|---------|-----|------|-------------------|
| 「特別英語Ⅰ」 | 1単位 | 7名   |                   |
| 「特別英語Ⅱ」 | 2単位 | 3名   |                   |
| 「特別英語Ⅲ」 | 4単位 | 1名   |                   |
| 「工業英語Ⅰ」 | 2単位 | 11名  |                   |
| 「工業英語Ⅱ」 | 4単位 | 1名   |                   |
|         |     | 計21名 | 2名が2科目取得のため21名となる |

外国語技能審査の合格に基づく単位認定について

東京工業高等専門学校附属1,3,4の4に基づき、外国語技能審査の合格者による単位取得の部  
 題について次のとおり取り扱う。

1. 目的  
 授業時間外の英語学習の目的をもち、学生の学習意欲を高めることにより、学生の授業時間外の  
 学習時間を増やし、英語力の向上を図ることを目的とする。
2. 対象  
 対象となる外国語技能審査は、英用英語技能認定及び工業英語能力認定とする。
3. 単位の認定  
 修得単位の認定は、本校在学中に修得した場合には限り、次の表に掲げるとおりとする。ただし、  
 過去に修得試験に合格して単位認定を受けている学生が、その後も同じ認定試験の上位級に合格し  
 た場合は、その上位級との差別の単位数を認定する。  
 (例) 1年次に英用英語技能認定2級に合格し、1年次の年度末に「特別英語Ⅰ」1単位を得  
 ている学生が、3年次に英用英語技能認定2級に合格した場合は、3年次の年度末に「特  
 別英語Ⅱ」を1単位だけ得る。

| 名        | 級  | 区 | 分 | 認定科目名 | 認定単位数 |
|----------|----|---|---|-------|-------|
|          |    |   |   |       |       |
| 英用英語技能認定 | 1級 |   |   | 特別英語Ⅳ | 6     |
|          | 2級 |   |   | 特別英語Ⅲ | 4     |
| 工業英語能力認定 | 1級 |   |   | 工業英語Ⅱ | 4     |
|          | 2級 |   |   | 工業英語Ⅰ | 2     |

4. 単位の認定時期  
 上記の単位は、当該修得試験に合格した年度末に認定する。(認定された単位は、進級・修了部  
 定単位数に含まれる。)
5. 評価  
 認定された科目の評価は、「A」とする。

資料7-1-④-4

## 国家資格の認定について

本校は次の国家資格の認定校となっているので、指定単位を修得することにより国家資格を取得することができます。

| 学 科 名 | 資 格         | 備 考                                                                                      |
|-------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 電子工学科 | 第2級陸上特殊無線技士 | 指定単位修得の上、申請による。<br>※電子工学科は、無線従事者規則第31条第1項の規定に基づく養成課程の認定を受けている。<br>指定単位は電子工学科担当教員に確認すること。 |
|       | 第3級海上特殊無線技士 |                                                                                          |
|       | 第2級海上特殊無線技士 |                                                                                          |

(出典 学生便覧)

表3.6-2(1) 1984年～2006年までの交流実績集計

| 日次 | 月・日・曜    | 活動                                        | ホスト・ファミリー |
|----|----------|-------------------------------------------|-----------|
| 1  | 7月3日(水)  | 帰国時 出発式<br>横浜国立大学附属横浜、大工戸機械、東京理学院(豊栄)     | 前半        |
| 2  | 7月4日(金)  | 帰国時 出発式<br>横浜国立大学附属横浜、大工戸機械、東京理学院(豊栄)     | 後半        |
| 3  | 7月5日(土)  | 土曜日 卒業式<br>ホスト・ファミリーへのプログラム<br>又は鶴岡山ハイキング | 前半        |
| 4  | 7月6日(日)  | 日曜日 ホスト・ファミリー交代日                          | 後半        |
| 5  | 7月7日(月)  | 東京女子大学(フタバ)                               | 後半        |
| 6  | 7月8日(火)  | 工業高等学校(山崎、フタバ)                            | 後半        |
| 7  | 7月9日(水)  | 英経連会<br>今様についての話し合い<br>コンピュータールームでメールチェック | 後半        |
| 8  | 7月10日(木) | 東京理学院<br>宇野で送別会<br>現地での旅行出発               |           |

表3.6-2(2) 受け入れプログラム一割(2003年度)

| 日次 | 月・日・曜    | 活動                                        | ホスト・ファミリー |
|----|----------|-------------------------------------------|-----------|
| 1  | 7月3日(水)  | 帰国時 出発式<br>横浜国立大学附属横浜、大工戸機械、東京理学院(豊栄)     | 前半        |
| 2  | 7月4日(金)  | 帰国時 出発式<br>横浜国立大学附属横浜、大工戸機械、東京理学院(豊栄)     | 後半        |
| 3  | 7月5日(土)  | 土曜日 卒業式<br>ホスト・ファミリーへのプログラム<br>又は鶴岡山ハイキング | 前半        |
| 4  | 7月6日(日)  | 日曜日 ホスト・ファミリー交代日                          | 後半        |
| 5  | 7月7日(月)  | 東京女子大学(フタバ)                               | 後半        |
| 6  | 7月8日(火)  | 工業高等学校(山崎、フタバ)                            | 後半        |
| 7  | 7月9日(水)  | 英経連会<br>今様についての話し合い<br>コンピュータールームでメールチェック | 後半        |
| 8  | 7月10日(木) | 東京理学院<br>宇野で送別会<br>現地での旅行出発               |           |

出典 『舞鶴高専06～07教育方法改善共同プロジェクト中間報告書』

表3.6-2(1) 1984年～2006年までの交流実績集計

3.6.2 日豪学生交流

日豪学生交流は、産業・経済のグローバル化が加速する21世紀を見据えて、次世代を担う技術者・国際的感覚を身に付けてもらいたいとの願いから1984年に始まりました。学生交流の趣意書を添えて複数の国の教育機関に問い合わせる手順を送ることから始まりました。この交流は、文字通り手作りの学生交流と考える。30年を越える交流の歴史の中で、交流相手校の組織形態は多少の変遷を経てきたものの、基本的にはメルボルン郊外に拠点をもちオーストラリアと日本の両国に位置するTAJPE (Technical & Further Education) の形態、オーストラリア本土に展開される公立の職業訓練校のための高等教育機関) をパートナーとした交流が続けられている。2000年と2005年には、それぞれの単位が責任のある主体として交流に関与することを認めるために交流書を改訂した。

(1) 日豪学生交流の特徴  
日豪学生交流の最大の特徴は、メルボルン学生交流、日韓学生交流にも当てはまることであるが、交流が「列強なパートナーシップ」に基づいたものであると見える。これは交流開始当初から現在に至るまで変わらずに維持されている基本的な性格である。「対等なパートナーシップ」とは、こちらに優越したから交流は受け入れないというように、両国交互にほぼ同等の日数、参加人数、プログラムを枠組として行われる交流形態を指して言う。表3.6-2(1)にあるように、それぞれの交流回数、交流日数、参加人数はほぼ同等であることがわかる。

表3.6-2(1) 1984年～2006年までの交流実績集計

| 年度   | 延べ交流回数  | 延べ参加日数 | 延べ参加人数  |
|------|---------|--------|---------|
| 1984 | 10回     | 111日   | 125人    |
| 1985 | 127日    | 平均交流日数 | 11.5日   |
| 1986 | 平均参加学生数 | 189人   | 平均参加学生数 |
| 1987 | (男子)    | (127人) | 男子      |
| 1988 | (女子)    | (62人)  | 女子      |
| 1989 | 平均引渡人数  | 21人    | 平均引渡人数  |
| 1990 |         |        | 27人     |

(注) ・渡豪の交流日数は、交流以外の単独行動を含む全日数を取載。  
・来日の交流日数は半戻との単独行動を含めず交流日数のみを記載。  
・2001年度は学生交流が中止され、代わりに学生交流を再開。  
・2005年度は関係と協賛機関の目的でスタッフのみが来日。

(4) 交流プログラムの実例  
以下に渡豪時、受け入れ時のそれぞれ典型的なプログラムを紹介する。  
(渡豪プログラム)

表3.6-2(2) 渡豪プログラム一割(1988年度)

| 日次 | 月・日・曜    | 活動                    | 宿泊         |
|----|----------|-----------------------|------------|
| 1  | 10月1日(水) | 帰国集合                  |            |
| 2  | 10月2日(木) | メルボルン、市街見学、キヤンパス      | ホスト・ファミリーA |
| 3  | 10月3日(金) | メルボルン、バーベキュー、フランクスタウン | ホスト・ファミリーA |
| 4  | 10月4日(土) | メルボルン郊外、川下り           | ホスト・ファミリーA |
| 5  | 10月5日(日) | メルボルン郊外、公式歓迎会、昼食・見物見学 | ホスト・ファミリーB |
| 6  | 10月6日(月) | メルボルン郊外、メルボルンレポート     | ユースホステル    |

(出典 『舞鶴高専06～07教育方法改善共同プロジェクト中間報告書』)





資料7-1-④-6

## 2006年度 日韓学生交流スケジュール

10月25日(水)(1日目)

- ・ 13時50分 成田着 (NW30) [齊藤・菊地]
- ・ 15時30分 成田出発 リムジンバス(9+2=11) → 京王八王子からタクシー
- ・ 18時 学校到着 学生会主催による歓迎会(生協食堂)
- ・ ホームステイの家族迎え ホームステイ

10月26日(木)(2日目)

- ・ 9時 東京高専集合(1棟一般科事務室) [9:00-10:30 中野・(加藤)]
- ・ 9時10分から10時20分 国語授業参観 (船戸先生)
- ・ 10時~11時20分 校内施設見学(図書館、他) [10:30-11:30 中野・吉本]
- ・ 11時30分~ 【釜山情報大学先生】学生課集合 → 表敬訪問(校長室)(齊藤・松井)
- ・ 11時50分頃 記念写真撮影 【釜山情報大学先生・学生】本校出席者  
寮食堂前に集合(雨の場合変更) [玉田・吉本]
- ・ 12時~学校主催歓迎会(1寮1階国際交流室)水谷校長、[齊藤]、村井、松井、[玉田]、庄司、  
芳竹事務部長、学生課長、教務係長
- ・ 11時50分 ~ 【釜山情報大学学生】  
昼食 生協食堂 本校学生(4C学生、他)
- ・ 13時10分 生協食堂前 集合
- ・ 13時10分~16時 高尾山薬王院 [齊藤・川北・一戸]  
雨天時は21世紀センター
- ・ 16時45分 相互に学校紹介(学生会:4C学生、他)(会場:第2AV教室)
- ・ 18時 ホームステイ  
【釜山情報大学先生】歓迎会 (幹事 )

10月27日(金)(3日目)

- ・ 10時 浅草集合(東京高専出発組は8時30分集合?) [玉田・庄司]
  - ・ 10時 ※浅草- (水上バス) - お台場 - 東京タワー → 八王子へ移動
  - ・ 19時30分~ Farewell Party 八王子周辺 (企画:4C学生、他)
  - ・ ホームステイ
- ※ 詳細は検討する

10月28日(土)(4日目)

- ・ 8時30分 東京高専集合 [齊藤・玉田(加藤)]
- ・ 9時出発 都内見学(貸し切りバス)  
車窓から都内見学(皇居周辺) → 秋葉原にて買い物(1時間程度)  
昼食(希望を旅行社へ連絡:千円程度)
- ・ 13時 江戸東京博物館 着 (見学科は学校で支出)
- ・ 14時30分 江戸東京博物館 出発
- ・ 16時 成田空港着
- ・ 18時20分 成田発(NW29)
- ・ 20時50分 釜山着

(出典 学生課日韓交流資料)

資料 7-1-④-7

|                                                    |            |
|----------------------------------------------------|------------|
| 平成18年度ヘルシンキ学生交流事業                                  | 2007年2月15日 |
| ヘルシンキ学生交流実行委員会<br>委員長<br>庄司良                       |            |
| 1. ヘルシンキ学生の受け入れ(前)                                 |            |
| 受入学生：1名                                            |            |
| 受入期間：平成18年5月12日～8月11日                              |            |
| 受入研究先：生研研究室(物質工学科)                                 |            |
| 研修テーマ：自動車排ガスの環境安全性評価                               |            |
| 交流事業：歓迎会、                                          |            |
| 研究成果発表会(フィンランドの紹介を含む)、送別会                          |            |
| 受入学生：1名                                            |            |
| 受入期間：平成18年5月12日～8月11日                              |            |
| 受入研究先：小嶋研究室(情報工学科)                                 |            |
| 研修テーマ：BluetoothによるGPS(Local Positioning System)の研究 |            |
| 交流事業：歓迎会、                                          |            |
| 研究成果発表会(フィンランドの紹介を含む)、送別会                          |            |
| 2. ヘルシンキへの本校学生派遣                                   |            |
| 派遣学生：2名                                            |            |
| 派遣期間：平成19年3月21日～4月18日                              |            |
| 引率教員：村井三千男 教授 (留学生助教：別プロジェクトで同行)                   |            |
| 引率期間：平成19年3月21日～3月28日                              |            |
|                                                    | 以上         |

|                   |                                                                                                                                               |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成18年度ヘルシンキ学生交流事業 |                                                                                                                                               |
| 1. 受け入れ学生         | 2名                                                                                                                                            |
| 2. 滞在期間           | 平成18年5月から8ヶ月                                                                                                                                  |
| 3. 交流事業           | (1) 研修内容：専門分野の研究(指導教官を定め、卒研と同様の研究を行う)、<br>(2) 学生交流：(2名とも共通)<br>・懇話会などの開催(3回)<br>・歓迎会<br>・成果報告会+送別会<br>・工場見学(全校一斉工場見学に同席)<br>・学生会所属部・同好会活動への参加 |
| 4. 予算(送別会費)       |                                                                                                                                               |
| (1) 歓迎会(学生食費)     | 10,000円                                                                                                                                       |
| (2) 送別会           | 25,000円                                                                                                                                       |
| (3) 学生会交流事業支援     | 10,000円                                                                                                                                       |
| (4) 受入研究先研究支援     | 100,000円                                                                                                                                      |
| 予算合計              | 155,000円                                                                                                                                      |
| 実行委員会委員           | 学生側委員                                                                                                                                         |
| 教員側委員             | 委員長                                                                                                                                           |
|                   | 教員                                                                                                                                            |
| 庄司 良 (物質工学科)      |                                                                                                                                               |
| 小嶋敏也 (情報工学科)      |                                                                                                                                               |
| 中川 悠 (物質工学科)      |                                                                                                                                               |
| 加藤 悟 (電子工学科)      |                                                                                                                                               |
| 村井三千男 (一般科目)      |                                                                                                                                               |
| 松井繁弘 (電気工学科)      |                                                                                                                                               |
| 金澤智博 (学生側委員)      |                                                                                                                                               |
| 田口みさお (教務部長)      |                                                                                                                                               |

(出典 ヘルシンキ学生交流実行委員会資料)

観点7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生に対しては、指導教員やチューターによる支援体制を作り実際に機能している（現地閲覧資料を参照）。留学生に対する特別時間割(前掲の資料5-1-②-5)を編成して、日本語能力の向上や専門科目の補習を目的とした学習支援が行われている。編入生に対しては、必要に応じて事前指導が行われる。事例を資料7-1-⑤-2に示す。本校では、ほとんどの場合、3年生に編入するため、特別の時間割を組む必要はない場合も多いが、必要に応じて支援が行われる。一例として、学習障害のある学生が入学したときには担任と学生相談室が連携して支援をするようにという指示（資料7-1-⑤-3）が出されたことがあり、また、実際に支援が行われている（現地閲覧資料206）。

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対しては、指導教員やチューターによる支援体制を作り、留学生に対する特別時間割を編成して、日本語能力の向上などに向けて、学習支援が行われている。

以上により、特別な支援を行うことが必要と考えられる者への学習支援体制が整備され、必要に応じて学習支援が行われている。

資料 7-1-⑤-1

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校学則第38条の規定に基づき、外国人留学生（以下「留学生」という。）の教育課程その他に関する特例を定めるものである。

（入学）

第2条 留学生は、定員外として第3学年に入学を許可するものとする。

（教育課程）

第3条 留学生の教育課程は、その留学生に適合するように特別に編成することができる。

（授業料等）

第4条 国費外国人留学生については、検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

（留学生指導教員）

第5条 留学生に対する学習指導を行うため、留学生指導教員を置く。

（チューター）

第6条 学校生活及び個人生活について留学生に助言を与えるため、チューターを置くことができる。

附則

この規則は、昭和60年6月13日から施行する。

附則

この規則は、昭和62年4月1日から施行する。

附則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

## 2-2 チューター制度

学校生活及び個人生活について、留学生に助言するためチューターが置かれている。

東京工業高等専門学校チューター制度実施要項

- 東京工業高等専門学校外国人留学生特例規則第6条に規定するチューターについては、この要項の定めるところによる。
- チューターは、第3学年及び第4学年に在学する外国人留学生（以下「留学生」という。）が所属する学科の学生の中から、指導教員の推薦に基づいて校長が委嘱する。  
ただし、留学生が寮生の場合は、必要に応じて、寮生活に関して留学生に助言を与えるためのチューター（以下「寮チューター」という。）を置くことができる。  
寮チューターは、当該留学生と同一学科の寮生の中から、寮務主事の推薦に基づき校長が委嘱する。
- チューターは、その職務に関し、必要に応じ指導教員（寮チューターにあつては、寮務主事）の指導を受けるとともに、毎月報告書（別紙様式）を指導教員（寮チューターにあつては、寮務主事）を経て校長に提出しなければならない。
- 指導教員は、年度当初にチューター（寮チューターを除く。）としての適任者を選任し、校長に推薦する。  
ただし、寮チューターを置く必要が生じた場合は、寮務主事は速やかに適任者を選任し、校長に推薦する。
- チューター（寮チューターを含む。）には、予算の範囲内において、四半期ごとに謝金を支給する。
- この要項に定めるものの他、チューター制度の運用に関し必要な事項はその都度定める。

附則

（出典 学生課資料）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(17)</p> <p>平成19年5月12日<br/>物質工学科<br/>学科長 石井次幸</p> <p>1. 概要<br/>平成19年度に普通科高校の卒業生が東京高等専門学校3年生に1名編入します。その事前指導内容を報告します。</p> <p>2. 概要、日時<br/>(1)平成18年度後期<br/>(2)毎週火曜日：分析実験のある日全て</p> <p>3. 指導内容、目的<br/>(1) 現物質工学科3年生の「分析化学実験」の実験の様子、内容に実際に立ち会う。但し、本人に実験は、させない。<br/>目的は、次の通りである。普通科高校では、英・化学実験を行っていない。そこで、物質工学科の2年生の実験内容を見学することによって化学実験に慣れるとともに編入学年の3年生への実験につなげる。また、平成19年度同じクラスとなるため、先輩、クラスに慣れるため見学させた。<br/>(2) 高等の化学II(前導2年生が履修)の問題集を拜くという課題を与え、毎週火曜日「分析化学実験」の前に進捗状況を確認した。<br/>(3) その他<br/>パソコン(ワード、エクセル)ができるようにアドバースをした。それは、3年生の実験レポートがパソコン(ワード、エクセル)にて作成するため。<br/>以上</p> | <p>平成19年度物質工学科3年編入生に対する入学前指導について</p> <p>情報工学科 青野正宏</p> <p>1. 概要<br/>平成18年7月に実施された編入試験において総合技術情報技術科3年生の生徒を平成19年度物質工学科3年生に編入入学することを要約した。</p> <p>2. 入学前指導の必要性<br/>高校卒業生を3年次に編入するといっても、本校のカリキュラムと高校のカリキュラムが異なり、本校3年で履修するに必要な基礎知識が不足することが予想できた。</p> <p>3. 実施環境<br/>当該生徒の住所が遠隔地にあり、高校にもマシンと通学する必要があるため、しばしば来校して指導を受けさせるには無理があった。そのため、1・2ヶ月に1回程度、休日に来校させて、指導を行った。</p> <p>4. 指導内容<br/>まず、どの程度の学力レベルにあるかを判断するため、数学と回路科目について、10年度に当該生となる2年の定期試験の問題を解かせ、進度を把握した。その結果、電気回路などはまずまずの力業であったが、数学については、勉強していない項目がいくつか見られた。その他の科目も高校で勉強していない内容もあることは予想できたが、本校入学後理解していなければ直ちに受講に差し支えある数学に重点を置いた。高校のカリキュラムで履修しない内容については配慮するよう指導した。また、定期指導が困難であるため、高校の数学の志望にも指導を受けるようアドバースした。<br/>また、転学状況については、メールでも確認した。</p> <p>5. 入学後<br/>プログラミング習熟など、特に十分でないという科目については特別カリキュラムを組んで個別指導を行っている。数学などは、定期試験の結果次第で、成績を出すのは早計であるが、本人の態度ではついていけそうであるとのこと。<br/>以上</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(出典 学生課資料)

平成18年度第9回教育研究会

平成19年1月18日(木)16時10分  
1棟3階 会議室

・テーマ

- (1) 校長発言 「出前授業や公開講座について」 水谷 校長 津田副校長
- (2) 機関別認証評価について 鈴木認証評価専門委員
- (3) 来年度シラバスについて 浅野教務主事補
- (4) 講演 推薦入試面接技術に関する講演 大澤 先生
- (5) 都市型 KOSEN 創成 WG 答申 三谷 WG 主査
- (6) 建物改修等について 山本会計課長

次回開催予定日  
平成19年2月8日(木) 16:10

面接者ミーティング

学生相談室カウンセラー 大澤 祥

<面接の目的>

良い人材を見つけるため  
高専にふさわしい人材、ふさわしくない人材  
情報交換の場

1. 本書を熟読する必要性  
リクオスと面接と対応訓練

<面接のポイント>

- ① リクオスを読み取るための声かけ
- ② どんな態度で本書を引き出す  
基本、マナーシグ
- 1) 多様な知識、うなずき 「うんうん」「エー」「そうなんだ」
- 2) 繰り返し 重要なキーワードをそのまま繰り返す
- 3) 明確化 「あなたが言いたいことは～ということですか?」「あなたの気持ちはいかうことですか?」
- 4) 要約 学生がくどくど話しているときを一度切りつけないとき
- 5) 確認 「なもほど」「それは当然だね」「大塚だったね」
- 6) リード 「もう少し詳しく話してください」
- ③ ボディランゲージ  
面接者のボディランゲージ  
学生のボディランゲージ
- ④ 質問技法
- 1) オープンクエスション
- 2) 3つ以上の答え
- 3) 変化球を投げ込む

<カウンセラーの役割と意識性>

- ・ 受容 共感
- ・ 分かってもらえない→本書を指せる→内容・解釈  
→自分の意識が伝わるようになる
- ・ 聴けないモード 話の腰を切る 説教モード 上からものを言う  
相手の気持ちも考慮する 自分の話にもっていく

<判断の視点、注意するポイント>

- 1) 実力志向
- 2) 中心志向
- 3) ハロー効果
- 4) 論理的判断
- 5) 対比判断

人材を評価する項目と質問例

- 1. 協調性  
質問 1) 誰を引っ張っていくタイプ?  
リーダーの後をついていくタイプ? (エピソードをきく)  
2) オープンで一人勝ち、どんな実力になる?  
3) いざというとき誰がやるか? 本人は別人?  
どのような性格の友達?  
どんな相談をした?  
相手はどんな反応?  
どのように感謝になった?
- 2. 継続性  
質問 1) 何のために勉強している? 志望動機は?  
10年後の自分について話してください  
2) 何しやる気がなくなったときある?  
そのとき、どう自分を奮い立たせた?  
3) どんなことに情熱的?  
4) 入学したらどんなことしたい?
- 3. 表現力  
質問 1) 今まで一番思い込めたことはどんなこと?  
2) 役に立たない? なぜその結果に集中したの?  
3) 自信を感じて感動したものは?  
4) 自信を感じて学んだことは?  
5) 修学旅行はどこへ?  
6) 修学旅行を通じて感動したものは?  
7) 修学旅行を通じて学んだことは?
- 4. 柔軟性  
質問 1) 挫折は?  
2) 挫折を乗り越えて見るとどういえる?  
3) 小中、高専で一番の失敗は? どう乗り越えた?  
4) 失敗から学んだことは?  
5) 苦手なタイプは?  
6) その人とうまく付き合う?
- 5. 安定性・情熱性  
質問 1) イライラしたときどう対処?  
2) 友達と意見が合わないとき、どうする?  
3) 友達と意見が合わないとき、どうする?  
4) 友達と意見が合わないとき、どうする?  
5) 友達と意見が合わないとき、どうする?
- 6. 教養・読書性  
質問 1) 友達が読んだら感動してなかった。  
どう思う? どんな気持ちになる?  
2) 読書は?  
3) 自分が読んだら感動したものは?  
4) 読書を通じて感動したものは?  
5) 読書を通じて学んだことは?  
6) もしも読書したとします?  
7) どう対処する?
- 7. 発想の豊かさ・好奇心の強さ  
質問 1) 高専を色でたとえるとき、どうして?  
2) 自分を動物が動物でたとえるとき、どうして?  
3) ロボットと何か、この二つの言葉を使って思い、物語を作ってください。

(出典 教育研究会資料)



観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

クラブ活動や学生会に対する支援としては、教員による人的支援、後援会による資金面における支援、活動場所の提供など施設面での支援などがある。教員による人的支援としては、クラブ顧問と学生会の指導を担当する教員が任命され支援体制が整備されている(資料7-1-⑥-1、資料7-1-⑥-2)。また、例えば地区大会の引率など(資料7-1-⑥-3)の例から明らかなように、支援体制が実際に機能している。資金面における支援としては、後援会による補助の体制が整備され機能している(現地閲覧資料を参照)。施設面の支援としては、学生会室と部室が用意され(資料7-1-⑥-5)、支援体制が整備されると共に、部室の利用状況から見て良く機能している(資料7-1-⑥-6)。

(分析結果とその根拠理由)

クラブ顧問と学生会の指導を担当する教員が任命され人的支援体制が整備されており、引率などにおいてこの体制が機能している。資金面における支援としては、後援会による補助の体制が整備され機能している。また、学生会室と部室が用意され良く利用されている。

以上により、学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能している。





資料7-1-⑥-2

## 平成18年度 学生会所属団体顧問教員等一覧

|                  | 団体名        | 顧問教員名     | 部長名 | 部員数 | 校外コーチ |
|------------------|------------|-----------|-----|-----|-------|
| 運<br>動<br>系<br>部 | 陸上競技部      | 菊地 章      |     | 16  |       |
|                  | 硬式テニス部     | 黒田一寿 齋藤四郎 |     | 23  |       |
|                  |            | 市川裕子      |     |     |       |
|                  | ソフトテニス部    | 齋藤四郎 城石英伸 |     | 19  |       |
|                  |            | 清水昭博 加藤格  |     |     |       |
|                  | バスケットボール部  | 拝田稔 山内峯生  |     | 25  |       |
|                  | バレーボール部    | 竹田恒美 川北晃司 |     | 12  |       |
|                  | 硬式野球部      | 鈴木智之 石井宏幸 |     | 30  |       |
|                  |            | 三谷知世 高見昭康 |     |     |       |
|                  | ハンドボール部    | 古屋正俊      |     | 11  |       |
|                  | バドミントン部    | 西村亮 城石英伸  |     | 8   |       |
|                  | サッカー部      | 玉田耕治 舘泉雄治 |     | 38  |       |
|                  |            | 浅野敬一      |     |     |       |
|                  | 水泳部        | 大塚友彦 加藤格  |     | 23  |       |
|                  | 卓球部        | 河村豊 相澤俊行  |     | 13  |       |
| 鈴木孝 高見昭康         |            |           |     |     |       |
| 剣道部              | 横山繁盛 土井淳   |           | 11  |     |       |
| 柔道部              | 松井義弘 黒崎茂   |           | 6   |     |       |
| 空手道部             | 谷田部 喜久雄    |           | 6   |     |       |
| 少林寺拳法部           | 筒井健太郎 一戸隆久 |           | 12  |     |       |

|             |           |           |   |    |  |
|-------------|-----------|-----------|---|----|--|
| 文<br>化<br>部 | 吹奏楽部      | 須原啓一 中野雅之 |   | 23 |  |
|             |           | 津田 潔      |   |    |  |
|             | 軽音楽部      | 中川 修      |   | 50 |  |
|             | 茶道・華道部    | 市川裕子 北折典之 |   | 10 |  |
| 写真部         | 鹿毛哲郎 中川 修 |           | 9 |    |  |

|             |               |               |    |   |  |
|-------------|---------------|---------------|----|---|--|
| 同<br>好<br>会 | ESS同好会        | 村井三千男 ゲイツ ジョン |    | 5 |  |
|             | 環境研究同好会       | 三谷知世 加藤格      |    | 8 |  |
|             |               | 庄司 良          |    |   |  |
|             | 手話同好会         | 齋藤四郎 菊地 章     |    | 5 |  |
|             |               | 城石秀伸          |    |   |  |
|             | 将棋同好会         | 阿久沢昇 竹田恒美     |    | 7 |  |
|             |               | ゲイツ ジョン       |    |   |  |
|             | まんが研究同好会      | 船戸美智子         |    | 7 |  |
|             | SPC同好会        | 鈴木雅人 小嶋徹也     |    | 8 |  |
|             |               | 松本章代          |    |   |  |
|             | 女子バスケットボール同好会 | 黒田一寿 堀 智子     |    | 9 |  |
|             |               | 森下 達哉         |    |   |  |
| 軟式野球同好会     | 福田勝己          |               | 12 |   |  |
| フットサル同好会    | 拝田 稔          |               | 13 |   |  |
| 工作同好会       | 木村 南          |               | 5  |   |  |

(出典 学生課資料)

| 学年  | 日        | 曜日 | 場所      | 参加人数 | 講師   |
|-----|----------|----|---------|------|------|
| 1学年 | 09/15/28 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/15/29 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/16/24 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/16/25 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/17/10 | 月  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/17/11 | 火  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/18/26 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/18/27 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/19/13 | 水  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/19/14 | 木  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
| 2学年 | 09/18/21 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/18/22 | 月  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/19/07 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/19/08 | 月  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/20/23 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/20/24 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/21/09 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/21/10 | 月  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/22/25 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/22/26 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |

平成18年度 地区大会等開催一覧

| 学年  | 日        | 曜日 | 場所      | 参加人数 | 講師   |
|-----|----------|----|---------|------|------|
| 1学年 | 09/15/28 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/15/29 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/16/24 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/16/25 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/17/10 | 月  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/17/11 | 火  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/18/26 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/18/27 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/19/13 | 水  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/19/14 | 木  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
| 2学年 | 09/18/21 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/18/22 | 月  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/19/07 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/19/08 | 月  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/20/23 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/20/24 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/21/09 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/21/10 | 月  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/22/25 | 土  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |
|     | 09/22/26 | 日  | 国際連盟の対戦 | 1    | 国際連盟 |

(出典 学生課資料)

資料7-1-⑥-5

武道場

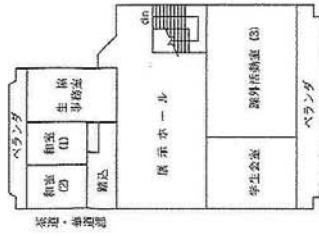


1階



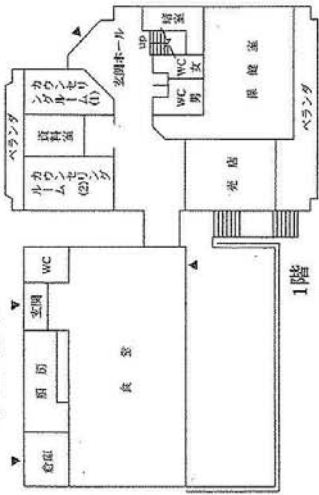
2階

くぬぎだ会館



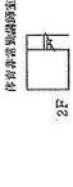
2階

学生食堂



1階

第1体育器具庫 第2体育器具庫



1F



課外教育共用施設



1階

地階



出典: 学生便覧



観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

生活指導全般に関することは教育便覧に記載(資料7-2-①-1)されており、担任・学級指導教員がこれに当たり学生主事が統括している。担任・学級指導教員による生活指導は、必要に応じて保護者とも緊密に連携をとり、きめ細かく行っている。その一例を資料7-2-①-2に示す。

精神面での相談・助言をする体制としては、学生相談室が設置されており、専門知識を持つカウンセラー2名が対応している(資料7-2-①-3)。健康面での相談・助言をする体制としては、保健室が整備(資料7-2-①-4)されており、常時、看護師が相談に当たっている。また、資料7-2-①-3と資料7-2-①-4から、両体制ともよく機能している。セクシャルハラスメントに対しては相談窓口が設置されており(資料7-2-①-5)、同資料は学生便覧にも掲載され、学生に周知されている。

経済面での支援としては、奨学金の推薦と授業料免除の体制が整備され、学生便覧に記載することにより、学生に周知されている(資料7-2-①-6)。利用実績(資料7-2-①-7)から、この支援体制も機能している。

就職等に係わる指導・相談・助言を行う体制としては、学科による就職の斡旋などの体制が内規(資料7-2-①-8)に定められており、実際に機能し、高い実績をあげている。

(分析結果とその根拠理由)

生活指導全般については、担任・学級指導教員がこれに当たり学生主事が統括して、きめ細かく行っている。精神面での相談・助言をする体制としては、学生相談室が設置され、専門知識を持つカウンセラー3名が対応している。健康面での相談・助言をする体制としては、保健室が整備されており、常時、看護師が相談に当たっている。学生相談室、保健室ともよく利用されている。セクシャルハラスメントに対しては相談窓口が設置されており、学生便覧に記載することにより周知されている。経済面での支援としては、奨学金の推薦と授業料免除の体制が整備され、学生便覧に記載することにより学生に周知され、利用されている。

就職等に係わる指導・相談・助言を行う体制としては、学科による就職の斡旋などの体制があり非常に高い実績を上げている。

以上により、学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

第3章 生活指導活動関係

- 3-1-1 日常生活に関すること
- 3-1-1-1 通学
  - (1) 通学定時歩道の購入  
史料は、通学定時歩道の購入のために「学生定期歩道購入用通学証明書」を学生証で発行していたが、平成18年度からは、学生証の実効性に陥行するシールか「通学証明書」の機能を併せ持つこととなった。このシールは毎年、学生に配布される。
  - (2) シールに通学する必要がある場合  
「臨時通学証明書発行欄」を事前に学級担任等（兼生の場合は兼務主事）を經由して、学生係に提出させる。
- 3-1-2 自転車使用
  - 3-1-2-1 自転車、自動車二輪車及び原動機付自転車による通学は、許可を受けたもの以外は認めない。使用許可については厚生委員会が審議する。審議結果については、学級担任より学級担任等またはそれに準ずる職員を通じて申請者に通知する。
- ★ 車庫無断持ち込み等、違反者に対する措置  
学生の車庫持ち込み等により違反者に対して措置する。
- 3-1-3 服装
  - 「学生準則」第15条及び「服装に関する基準」に基づき、随時適切な指導をする。
- 3-1-4 校内美化
  - 教壇の清掃を毎日放課後に行なうことは、従来より実施されていることであるが、これ以外の学校の施設、設備についても、学生が日常使用する場所については、清掃等の美化活動に学生の協力を得るようとする。
- 3-1-5 下校時間
  - 学生は、遅くとも20時までに下校させるようにする。ただし、卒業研究等で指導教員の下での居残りは、この限りではない。この場合、20時以降居残るときには、警備員（放課時間内）に、このこと必ず事前説明しているときは「時間外居残り届」を用紙等に提出する。）に連絡する。
- 3-1-6 紛失、拾得、盗難
  - (1) 紛失  
「紛失届」を、学生係に提出させる。（届出用紙は、学生係にある。）
  - (2) 拾得  
拾得物と共に、「拾得届」を、学生係に提出させる。（届出用紙は、学生係にある。）
  - (3) 盗難  
盗難物は、第2期1階の防犯物展示コーナーに展示される。  
学生が盗難にあった時は、学級担任等又はその他の指導教員を通じて学生係に連絡する。被害額が大きい場合には、学生主事と相談の上、警察に被害届を提出させることがある。  
なお、学生の盗難防止のため、金銭、貴重品は、常に身に身につけるよう指導する。特に実験、実習、体育等で服装を履ける時には、十分気を付けるよう指導する。
- 3-1-7 施設、設備、物品等の使用
  - 学生が施設、設備、物品等を使用した時は、学級担任等はその他の指導教員を通じて、学生係に連絡する。（ただし、教室内のもについては、指導員に連絡する。）  
学生が故意に破壊した場合は、本人にその費用を徴収させる。

(出典 教育便覧)

- 3-1-8 旅行、登山
  - (1) 旅行  
「旅行届」を事前に学級担任等を經由して学生係に提出させる。（用紙は学生係にある。）
  - (2) 登山  
登山として名山、名山及び著名山、名山は認めない。特別な事情で認める場合は、手続及び条件は、旅行の場合と同様である。
  - (3) 学生旅行費貸付引当の発行  
「学級旅行費」を、2日前までに学生係に提出させる。（「学級旅行費」と「旅行届」は、1枚の用紙で別になっている。）
- 3-1-9 アルバイト
  - 原則として学生のアルバイトは、禁止している。学生がやむを得ない事情により、アルバイトを行うことを学級担任等に申請してきた時は、関係者から学級担任等への承認書を提出させ、内容をチェックした上で了承する。（ただし、東洋経済など本部外機関のアルバイトについては事前に保護者の承諾を得た上で、学級担任等に報告させる。）その際、学生の学習状況、安全確保及び帰路上等からの適宜な監視、学生の成長発達に配慮した適切な指導をする。ただし、学校等が実施する公開講座及び研修等教育研究活動については、この限りでない。  
なお、学生のアルバイトとして、原簿保管、深夜業、深夜業、危険有害業務等に従事することは認めない。
- 3-1-10 飲酒、喫煙
  - 学生の飲酒、喫煙は禁止している。学校敷地内は成年学生も禁煙となっている。
- 3-1-11 下宿
  - 原則として学生の下宿は認めない。ただし、特別な事情により下宿の希望を申し出てきた場合には、学級担任等は関係者と十分に相談した上で、学級担任を証明して「下宿許可届」を学生係に提出させる。
  - 下宿許可については、厚生委員会が審議する。なお、1～3年までの学生については「卒業生誓約書」及び「学級担任等意見」を添付する。
- 3-1-12 その他の諸許可関係等
  - ※ 「学生準則」第20条～28条及び「諸許可関係一覧表」参照。
- 3-2 教育相談に関すること
- 3-2-1 校内の学生相談機関
  - くぬぎな会館1階にカウンセリングルームがあり、学生の相談に応じている。
- 3-2-2 外部の公的相談機関
  - (1) 東京都教育相談センター  
目黒区目黒1-1-14 電話 03-5434-1983  
〒153-8539 相談用電話番号 03-5493-8008  
担当：指導員  
対象：指導員から相談生段階までの子どもと、その保護者、及び教職員
  - (2) 児童相談所（第15号）の相談により専任職員が対応している。児童相談センター及び10ヵ所の児童相談所（蒲田、足立、相模原、相模原、北、足立、五反田、八王子、多摩）が専任職員の一斉巡回分派している。ここでは、児童相談所が児童の福祉に関する事項について相談に応じ、児童相談所に対してカウンセリングやケースワークを行っている。
  - (3) 警視庁少年センター  
警視庁本部に少年相談室が、また、地域に密着した非行防止活動の拠点として、少年センターが警視庁管内に9ヵ所（大塚、世田谷、新習、青井、宮城、立川、五反田、八王子）設置されている。ここでは、臨床心理の専門家を少年相談室と少年相談室に専任の臨床心理士が相談に応じている。

5年 機械工学科 男子学生 休学希望学生に対する指導記録

【指導記録】

2006年10月19日の機械工学科休学希望学生との面談の結果、再入学を希望することなく、卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

以下、主な指導内容を列記する。

2006. 10.19 機械工学科休学希望学生との面談を行うが、内容が乏しく、約1ヶ月半後に再入学を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 11.30 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.1 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.4 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.11 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.12 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.15 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.17 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.18 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.20 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

2006. 12.21 休学希望学生との面談を行うが、卒業を希望することなく卒業を希望することになり、その頃から精神的にも不安定な状況になった。

1年1組 男子学生 転学希望学生に対する指導記録

平成 18年 7月 18日

学級担任 所見

学年及び学科 1年1組

当該学生名

所見及び指導記録

入学当初はクラス内に親しい友人もでき、中間試験までとても前向きに学習していた。学業成績もきわめて良好であり中間試験では完璧な成績を挙げた。融上競技部での活動もこなし、学習と部活の両立を達成していた。

ところが、中間試験後の6月18日(日)の融上競技部の試合で雨に打たれて、熱を出したのをきっかけに次第が壊れた。最初の理由は風邪であったが、時間の経過とともに、理由を明かさなくなかった。

数度の母親との情報交換の結果、第1希望の普通高校を辞退して、第2希望の本校に、自分の強い意志で入学することに決めたが、普通高校に進学した友人との情報交換によ

って、自分がこのまま専門に進んでしまおうではなく、普通高校での幅広い分野の勉強を希望していることに気づいて自覚にこもって臨んでいるということがわかった。ストレスにより、アトピー症状も表れていたようである。また、これには大学進学を控えた

影響も少なからずあり、高専で、5学科に限定して自分の専門を決定することに抵抗を感じ始めてもいたようである。

一方、中学校時代に不登校の経験もあり、引きこもりを心配していた母親は、本校学生相談室で、今は本人の強い意志で進学すべきとまである旨、励まも受けていた。

最近になって、本人としては当初本校を中退して、高等学校卒業程度認定試験を受験して大学を目指すというようになったが、担任としては2学期からの普通高校への転学を勧めた。

転学への意志は、再度転校を勧めた7月7日の本人と担任との直談判の面談で明確になり、普通高校への転学への本人の決心が強固であることを確認した。

よって、本人の希望する将来のために、今回の転学はやむを得ないと信じる。

学級担任氏名 船戸 肇 男子 清水 昭博

以上



資料 7-2-①-3

## (4) カウンセリングルームについて

学習、学校生活、寮生活、家庭、交友、異性、将来の進路、人生観等のさまざまな問題に直面し悩んでいる学生諸君のために、くぬぎだ会館の1階に、カウンセリングルームが設置されている。カウンセリングルームは説教や訓戒をする場所ではなく、又、新聞雑誌などの身の上相談のように「こうしなさい」という指示を与える場所でもない。上記のような問題の解決は、本当に自分の納得できる道を自分自身で選ぶこと以外にはない。来談者自身が、自ら自己を観察し、解決の方法を考え、決断実行しなければならない。カウンセリングルームは、対話を通じて来談者に援助を与える場所である。具体的な相談内容についての秘密を守ることはいうまでもない。

開室時間や休室日はカウンセリングルームの入口に掲示する。担当者は時間の許す限り在室しているから、休み時間、休講時間、放課後等気軽にカウンセリングルームの戸をたたいてくれればよい。開室時間は通常、月～金 12:00～17:00

(出典 学生便覧)

資料 7-2-①-4

## ◎保健室

くぬぎだ会館の1階にあり、看護師が常勤して、疾病、傷害に対する救急処置、保健指導等を行っている。但し、不在の場合は学生係で対処する。

(出典 学生便覧)

資料7-2-①-4

## 平成17年度保健室利用状況

## 〔傷病者〕

| 内容            | 月    | 4   | 5   | 6  | 7  | 8  | 9   | 10  | 11 | 12 | 1  | 2  | 3   | 合計  |
|---------------|------|-----|-----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|-----|-----|
| 内科<br>関係      | 頭痛   | 2   | 7   | 11 | 6  | 0  | 6   | 8   | 7  | 9  | 4  | 2  | 0   | 62  |
|               | 感冒症状 | 13  | 10  | 13 | 3  | 0  | 2   | 16  | 23 | 7  | 11 | 11 | 1   | 109 |
|               | 胃腸症状 | 7   | 9   | 19 | 10 | 1  | 10  | 7   | 6  | 8  | 5  | 4  | 0   | 86  |
|               | 生理痛  | 2   | 1   | 4  | 2  | 0  | 2   | 1   | 3  | 0  | 1  | 2  | 0   | 18  |
|               | 気分不良 | 6   | 10  | 12 | 21 | 2  | 16  | 10  | 10 | 8  | 10 | 12 | 1   | 117 |
|               | その他  | 0   | 4   | 2  | 0  | 0  | 0   | 3   | 3  | 3  | 2  | 2  | 0   | 19  |
|               | 小計   | 30  | 41  | 61 | 42 | 3  | 36  | 45  | 52 | 35 | 33 | 33 | 2   | 413 |
| 外科<br>関係<br>係 | 捻挫   | 3   | 5   | 3  | 4  | 0  | 4   | 2   | 3  | 2  | 3  | 4  | 1   | 34  |
|               | 打撲   | 7   | 7   | 3  | 5  | 1  | 5   | 3   | 9  | 3  | 3  | 3  | 1   | 50  |
|               | 突き指  | 3   | 7   | 2  | 4  | 0  | 2   | 4   | 7  | 1  | 1  | 4  | 0   | 35  |
|               | 筋肉痛  | 2   | 4   | 2  | 1  | 1  | 1   | 4   | 4  | 0  | 0  | 0  | 0   | 19  |
|               | 腰痛   | 1   | 2   | 2  | 1  | 1  | 4   | 6   | 3  | 0  | 2  | 0  | 0   | 22  |
|               | 創傷   | 16  | 23  | 22 | 12 | 4  | 13  | 19  | 23 | 8  | 6  | 10 | 1   | 157 |
|               | 熱傷   | 0   | 0   | 1  | 1  | 0  | 2   | 4   | 2  | 0  | 0  | 0  | 0   | 10  |
|               | 眼症状  | 2   | 3   | 3  | 5  | 0  | 3   | 2   | 2  | 2  | 1  | 1  | 1   | 25  |
|               | 皮膚症状 | 2   | 8   | 7  | 9  | 2  | 9   | 13  | 9  | 1  | 1  | 0  | 0   | 61  |
|               | その他  | 12  | 13  | 11 | 8  | 1  | 9   | 10  | 10 | 11 | 8  | 6  | 2   | 101 |
| 小計            | 48   | 72  | 56  | 50 | 10 | 52 | 67  | 72  | 28 | 25 | 28 | 6  | 514 |     |
| 合計            | 78   | 113 | 117 | 92 | 13 | 88 | 112 | 124 | 63 | 58 | 61 | 8  | 927 |     |

※学校行事(校外)、寮に向いた件数は除く

## 〔その他〕

| 内容     | 月   | 4   | 5   | 6   | 7  | 8   | 9   | 10  | 11  | 12 | 1   | 2  | 3     | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|-------|----|
| 健康相談   | 5   | 5   | 8   | 0   | 0  | 4   | 2   | 3   | 2   | 0  | 0   | 0  | 0     | 29 |
| 測定     | 85  | 30  | 45  | 60  | 18 | 88  | 63  | 61  | 44  | 37 | 40  | 8  | 579   |    |
| 健康センター | 6   | 11  | 10  | 2   | 2  | 7   | 10  | 9   | 5   | 2  | 7   | 1  | 72    |    |
| 診断書関係  | 35  | 30  | 5   | 2   | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 1  | 5   | 4  | 82    |    |
| 定健関係   | 74  | 97  | 32  | 3   | 0  | 2   | 1   | 0   | 0   | 3  | 0   | 0  | 212   |    |
| その他    | 32  | 130 | 54  | 44  | 4  | 48  | 52  | 79  | 92  | 43 | 52  | 9  | 639   |    |
| 合計     | 237 | 303 | 154 | 111 | 24 | 149 | 128 | 152 | 143 | 86 | 104 | 22 | 1,613 |    |

(出典 学生課資料)

資料 7-2-①-5

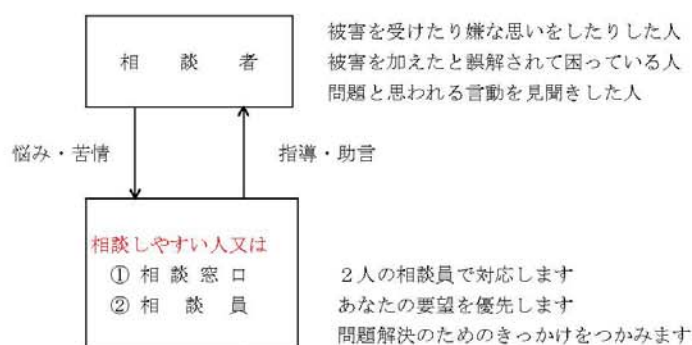
## 東京工業高等専門学校のセクハラ対策について

東京工業高等専門学校には教職員及び学生のためのセクハラに関する相談窓口が設置されています。

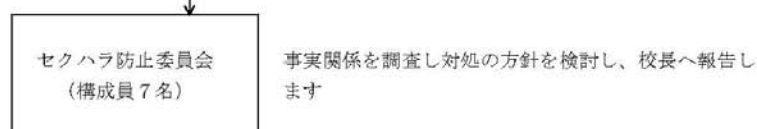
何かあったらひとりで悩んでいないですぐ声をかけてみてください。

秘密は堅く守ります。きっとあなたの力になります。

相談すると



必要に応じて



## ①相談窓口

|                  |      |
|------------------|------|
| 1 棟 2 階 庶務課事務室   | 随時受付 |
| くぬぎだ会館 1 階 保健室   | 随時受付 |
| くぬぎだ会館 1 階 学生相談室 | 随時受付 |

## ②相 談 員

|         |         |              |                       |
|---------|---------|--------------|-----------------------|
| 古 屋 正 俊 | 学生相談室室長 | 042-668-5159 | furuya@tokyo-ct.ac.jp |
| 白 崎、大 澤 | カウンセラー  | 042-668-5131 | sodan@tokyo-ct.ac.jp  |
| 星 操     | 庶務課長    | 042-668-5113 | skacho@tokyo-ct.ac.jp |
| 内 山 尚 子 | 人事係長    | 042-668-5115 | jinji@tokyo-ct.ac.jp  |
| 佐 藤 幸 江 | 看護師     | 042-668-5759 | sachie@tokyo-ct.ac.jp |
| 工 藤 節 子 | 物質工学科教授 | 042-668-5069 | kudo@tokyo-ct.ac.jp   |

- 第7款 第5条により申請があったときは、校長は厚生委員会の意見を聴いて許可を決定する。  
(許可の取消し)
- 第8条 授業料の免除又は徴収額を許可された学生が許可の決定後その理由が崩壊したものであるとき、若しくは申請に不正の事実が発見されたときは、校長は厚生委員会の意見を聴いてその許可を取消するものとする。
- 2 申請により許可を取消したときは、その取消した日より前月のうちに次に定める授業料を納付させるものとする。
- (1) 免除又は徴収額下の理由が崩壊したことにより取消したときは、免除にあつては月割計算によりその取消した日の属する月以降のその期の授業料、徴収額を、徴収額を、徴収額にあつては月割計算によりその取消した日より前月のうちに次に定める授業料を納付するものとする。
- (2) 不正の事実が発見されたことにより取消したときは、免除又は徴収額を下したその期の授業料

- (借入料の免除)
- 第9条 借入料の免除は、次の各号に掲げるものについてこれを行う。
- (1) 死亡又は行方不明のため除籍した場合の当該学生に係る未納の借入料
- (2) 学生又は学生親戚が風水害等の災害を受け、納付が困難と認められる場合は、当該当月から起算して6か月間の授業料において、校長が必要と認める範囲に納付するべき借入料の全額、ただし、校長が必要と認めらるる範囲が当該年度にわたる場合は、当該学生は、翌年度当初に翌年度分に係る免除の申請を改めて行うものとする。
- (3) 授業料の未納を理由として、退学を命ぜられた学生に係る未納の借入料
- 2 前項に規定する借入料の免除については、第5条から前条までの規定を準用する。ただし、この場合にあっては、第5条の趣旨は借入料免除によるものとする。
- 附 則 (経過)
- (2) 貸学金について  
卒業、人物ともに優秀かつ健康であり、卒業の5年が原積と認められる学生に対し、現在のような奨学金の恩恵が与えられている。  
《奨学生の募集・採用》  
奨学生の募集は、すべての学校指示書（学生を要請し、第2種1階）により行われる。募集次第は卒業生ともとも5月に行われる。日本学生奨励会（日本学生奨励会）の募集期は、4月の年1回又、応急採用として、原積に急病が重化が生じた学生には、随時、窓口で直接に応じる。採用については日本学生奨励会において協議することとする。応募された書類は、担当委員等にて審査し、推薦されて、それぞれ教育委員会において採用決定がなされる。応募時に推薦額が配分されるので、応募者の推薦、収入標準、学内奨励等十分吟味して応募しなくてはならない。出願の際は、家庭や学校担任あるいは学生本人からかましく相談して応募すること。  
《奨学生となったら》  
日本学生奨励会や、東京都の奨励、奨学生として採用される時点で、奨学生手帳が配られる。これには、授業標準や、毎月の特典額、届出額を有する手帳と併せて配られる。常に携行すること。それをよく読み、又、奨学生手帳は、いかなる場合でも提示できるように、常に携行すること。奨学金の交付について、日本学生奨励会、東京都の奨励は、毎月奨学生本人の銀行振込口座に直接振り込まれる。

- (1) 東京工業高等専門学校授業料及び借入料免除等に関する規則
- (経過)
- 第1条 東京工業高等専門学校規則第3条の規定に基づき、授業料並びに借入料の免除及び徴収額等については、この規則の定めるところによる。
- (授業料の免除)
- 第2条 授業料の免除は、経費的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生に対して、その期に納付すべき授業料の全部又は半額についてこれを行う。
- 2 休学を許可した場合は、月割計算により休学期間の翌月から休学期間の前月までの未納の授業料の全額を免除する。
- 3 前2項に定めるもののほか、次の各号に掲げる場合に限りその授業料を免除することができる。
- (1) 死亡又は行方不明のため除籍した場合の当該学生に係る未納の授業料の全額
- (2) 授業料の各号ごとの納付額6か月以内（入学時に対する入学した月の属する部分に係る借入料は、入学時1年以内）において、学生の学費を負担している者（以下「学費負担者」という。）が死亡し、又は学生若しくは学費負担者が風水害等の災害を受け、納付が困難と認められる場合は、当該理由の発生した日の属する月の属する範囲に納付するべき授業料、ただし、当該理由発生後、当該理由の発生した日の属する月の属する範囲に納付済みであり、かつ、当該学生が当該期間分の授業料を納付していない場合には、当該期間分の授業料
- (3) 借入料の未納を理由として、退学を命ぜられた学生に対し、その納入期により退学を許可した場合は、月割計算により退学の翌月以降に納付すべき借入料の全額
- (4) 授業料の未納を理由として除籍した場合の当該学生に係る未納の授業料の全額
- 第3条 借入
- (授業料の徴収額下)
- 第4条 授業料の徴収額は、経費的理由によって納付額までに授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生に対して、前項分については9月末まで、後期分については3月末日まで、その期に納付すべき授業料の徴収額を減らすことができる。この場合の授業料は、その期間満了の前1.5日以内に納付させるものとする。
- 2 前項に定めるもののほか、次の各号に掲げる場合においても、前項に準じて授業料の徴収を減らすことができる。
- (1) 行方不明の場合
- (2) 学生又は学費負担者が風水害等の災害を受け、納付が困難と認められる場合
- (3) その他やむを得ない事情があると思われる場合
- 3 特別の事情がある学生に対しては、その期の授業料において、月割分納を許可することができる。この場合の月割分納額は、授業料年度の1.2分の1に相当する額とし、毎月5日までに分納させるものとする。
- (申請の手続)
- 第5条 授業料の免除又は徴収額を許可しようとする学生は、所定の書式に次の書類を添え、学生主事を添えて校長に届け出るものとする。
- (1) 家庭調査書
- (2) 成績調査書
- (3) 学費負担者が死亡した場合は、戸籍簿本
- (4) 災害を受けた場合は、市区町村長又は警察署長が発行した被害程度が証明できる罹災証明書
- 第6条 授業料の免除又は徴収額は、年度を2期に分けて納付する場合は3月31日まで、後期は9月30日までに変更した申請に対して、当該期間分の授業料について退学の申請を許可するものとする。  
(許可)

## 資料7-2-①-7

## 平成18年度授業料免除・奨学金利用実績

## ○平成18年度前期授業料免除実績

申請者数：75名 全額免除者数：45名 半額免除者数：18名

## ○平成18年度後期授業料免除実績

申請者数：77名 全額免除者数：34名 半額免除者数：43名

## □平成18年度日本学生支援機構奨学金実績

## ・申請者数

## 【本科】

第1種 9名

第2種 2名

## 【専攻科】

第1種 2名

第2種 2名

## ・採用者数

## 【本科】

第1種 9名

第2種 2名

## 【専攻科】

第1種 2名

第2種 2名

## □東京都育英資金

【本科】 1名

## □(財)佐藤奨学会

【本科】 1名

## □(財)関育英奨学会

【本科】 1名

出典：学生課

## 資料7-2-①-8

## 就 職 斡 旋 に 関 す る 内 規

- 第1条 東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）は職業安定法第33条の2の規定に基づいて、本校の学生並びに卒業生に対し、就職の斡旋を行う。  
本校を通じて就職を希望する学生及び卒業生は、この内規を遵守しなければならない。
- 第2条 就職を希望する者は、本校所定の「進路調査票」を提出し、就職登録をしなければならない。
- 第3条 就職を希望する者が、私的に就職運動をする場合は、事前にその都度その予定及び経過を、本校所属学科の担当教員に報告しなければならない。
- 第4条 就職を希望する者で、校長の推薦書を必要とする者は、本校所定の「推薦依頼書」を保護者の連名をもって作成し、就職登録の際にあらかじめ提出しておくなければならない。
- 第5条 校長の推薦は、就職を希望する者に対し、1社を原則として「推薦書」を発行する。事情により数社に対して推薦を希望する場合でも、同時に発行する「推薦書」は2通以内とする。
- 第6条 就職を希望する者の求人先の選定は、希望者の意志を尊重するものとする。ただし、希望者の能力、適正に応じた最も適当と思われる求人先を選定しようよう指導を行う。
- 第7条 就職を斡旋された者は、就職先が内定あるいは決定した場合、最初の内定先あるいは決定先に就職しなければならない。
- 第8条 就職を斡旋された者が、求人先の出頭日に差し支える場合は、事前に必ず本校所属学科の担当教員又は学生係就職業務担当者に届け出なければならない。また、求人先から受けた通知事項についても、直ちに届け出なければならない。

附 則（省略）

| 年度     | 項目<br>専攻名 | 修了<br>者数 | 就職<br>希望<br>者数 | 既備法<br>定者数 | 決定内訳 |    | 求人<br>数 | 求人<br>率 | 求人<br>倍率 |      |
|--------|-----------|----------|----------------|------------|------|----|---------|---------|----------|------|
|        |           |          |                |            | 部外   | 部内 |         |         |          |      |
| 平成十六年度 | 機械工学科     | 10       | 8              | 8          | 3    | 5  | 37.5    | 96      | 68       | 8.5  |
|        | 電気電子工学科   | 7        | 2              | 2          | 2    | 0  | 100.0   | 55      | 66       | 33.0 |
|        | 物質工学科     | 6        | 1              | 1          | 0    | 1  | 0.0     | 22      | 23       | 23.0 |
|        | 計         | 23       | 11             | 11         | 5    | 6  | 43.5    | 133     | 157      | 14.3 |
| 平成十七年度 | 機械工学科     | 10       | 8              | 8          | 6    | 2  | 75.0    | 80      | 80       | 10.0 |
|        | 電気電子工学科   | 9        | 6              | 6          | 4    | 2  | 66.7    | 87      | 87       | 14.5 |
|        | 物質工学科     | 5        | 2              | 2          | 0    | 1  | 0.0     | 37      | 37       | 18.5 |
|        | 計         | 24       | 16             | 16         | 10   | 5  | 62.5    | 204     | 204      | 12.8 |
| 平成十八年度 | 機械工学科     | 11       | 9              | 9          | 3    | 6  | 33.3    | 92      | 92       | 10.2 |
|        | 電気電子工学科   | 8        | 5              | 4          | 0    | 4  | 0.0     | 88      | 88       | 17.8 |
|        | 物質工学科     | 5        | 3              | 3          | 1    | 2  | 33.3    | 46      | 46       | 15.3 |
|        | 計         | 24       | 17             | 16         | 4    | 12 | 25.0    | 226     | 226      | 13.3 |

(過去5年間の実績)

| 年度     | 項目<br>専攻名 | 卒業<br>者数 | 就職<br>希望<br>者数 | 既備法<br>定者数 | 決定内訳 |       | 求人<br>数 | 求人<br>率 | 求人<br>倍率 |      |
|--------|-----------|----------|----------------|------------|------|-------|---------|---------|----------|------|
|        |           |          |                |            | 部外   | 部内    |         |         |          |      |
| 平成十四年度 | 機械工学科     | 37       | 22             | 22         | 7    | 15    | 31.8    | 383     | 424      | 19.3 |
|        | 電気工学科     | 36       | 24             | 17         | 29.2 | 439   | 536     | 22.3    |          |      |
|        | 電子工学科     | 32       | 12             | 11         | 4    | 7     | 36.4    | 397     | 425      | 35.4 |
|        | 情報工学科     | 46       | 30             | 30         | 6    | 24    | 20.0    | 352     | 382      | 12.7 |
|        | 物質工学科     | 40       | 15             | 15         | 2    | 13    | 13.3    | 240     | 240      | 16.0 |
|        | 計         | 191      | 103            | 102        | 26   | 76    | 25.5    | 1,861   | 2,007    | 19.5 |
| 平成十五年度 | 機械工学科     | 39       | 25             | 25         | 9    | 16    | 36.0    | 452     | 533      | 21.3 |
|        | 電気工学科     | 29       | 16             | 16         | 1    | 15    | 6.3     | 477     | 539      | 33.7 |
|        | 電子工学科     | 36       | 16             | 16         | 5    | 11    | 31.3    | 454     | 521      | 32.6 |
|        | 情報工学科     | 42       | 21             | 21         | 3    | 18    | 14.3    | 401     | 455      | 21.7 |
|        | 物質工学科     | 34       | 22             | 22         | 6    | 16    | 27.3    | 293     | 312      | 14.2 |
|        | 計         | 180      | 100            | 100        | 24   | 76    | 24.0    | 2,077   | 2,380    | 23.6 |
| 平成十六年度 | 機械工学科     | 38       | 24             | 23         | 10   | 13    | 43.5    | 543     | 685      | 28.5 |
|        | 電気工学科     | 37       | 23             | 23         | 10   | 13    | 43.5    | 567     | 696      | 30.3 |
|        | 電子工学科     | 33       | 14             | 14         | 5    | 9     | 35.7    | 457     | 558      | 39.9 |
|        | 情報工学科     | 31       | 15             | 15         | 0    | 15    | 0.0     | 366     | 457      | 30.5 |
|        | 物質工学科     | 35       | 10             | 9          | 4    | 5     | 44.4    | 235     | 353      | 35.3 |
|        | 計         | 174      | 86             | 84         | 29   | 55    | 34.5    | 2,218   | 2,749    | 32.0 |
| 平成十七年度 | 機械工学科     | 37       | 25             | 25         | 13   | 12    | 52.0    | 764     | 865      | 34.6 |
|        | 電気工学科     | 36       | 20             | 20         | 13   | 7     | 85.0    | 800     | 881      | 44.1 |
|        | 電子工学科     | 30       | 11             | 11         | 0    | 100.0 | 682     | 742     | 67.5     |      |
|        | 情報工学科     | 39       | 22             | 22         | 19   | 3     | 86.4    | 804     | 884      | 31.1 |
|        | 物質工学科     | 37       | 11             | 11         | 5    | 6     | 45.5    | 414     | 436      | 39.6 |
|        | 計         | 179      | 89             | 89         | 61   | 28    | 68.5    | 3,264   | 3,608    | 40.5 |
| 平成十八年度 | 機械工学科     | 42       | 23             | 22         | 9    | 12    | 40.9    | 812     | 916      | 39.8 |
|        | 電気工学科     | 37       | 26             | 26         | 6    | 20    | 23.1    | 750     | 943      | 36.3 |
|        | 電子工学科     | 33       | 20             | 19         | 9    | 10    | 47.4    | 573     | 749      | 37.5 |
|        | 情報工学科     | 38       | 17             | 16         | 3    | 13    | 18.8    | 477     | 709      | 41.7 |
|        | 物質工学科     | 38       | 18             | 18         | 6    | 12    | 66.7    | 321     | 431      | 23.9 |
|        | 計         | 188      | 104            | 101        | 39   | 61    | 38.8    | 2,933   | 3,748    | 36.0 |

(出典 学生課資料)

観点7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。  
また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生に対しては、指導教員とチューターが配置され生活面での支援に当たっており、その活動は有効に行われている（現地閲覧資料を参照）。また、留学生のための施設として、留学生室（資料7-2-②-1）と寮が整備されている。寮には、宗教上の理由で食堂や風呂を利用できない留学生のために、補食室とシャワーも完備している（資料7-2-②-2）。また、インターネットを利用できるようパソコンも設置されている。

H18年度現在、在校生の中に障害を持った学生はいないが、今後必要になることが予想されるため、施設のバリアフリー化を進めている。現状では、第7棟・第8棟のエレベーター、第5棟・第8棟の身障者用トイレのほか、数箇所に設置されたスロープなどがある（資料7-2-②-3）。

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対しては、指導教員とチューターが配置され生活面での支援に当たっており、その活動は有効に行われている。また、留学生のための施設として、留学生室と寮が整備されている。寮には、宗教上の理由で食堂や風呂を利用できない留学生のために、補食室とシャワーも完備しており、インターネットも利用できる。

施設のバリアフリー化については、第7棟・第8棟のエレベーター、第5棟・第8棟の身障者用トイレのほか、数箇所に設置されたスロープなどがある。

以上により、特別な支援を行うことが必要と考えられる者への生活支援等を適切に行うことができる状況にある。また、必要に応じて生活支援等が行われている。



資料 7-2-②-1

留学生室整備状況



出典：学生課

資料7-2-②-2



寮捕食室



シャワー室

(出典 学生課資料)

資料7-2-②-3

東京高専バリアフリー施設一覧



専攻科棟入口スロープ



専攻科棟身障者用トイレ



専攻科棟エレベータ



図書館棟入口スロープ



図書館玄関内スロープ



5棟 身障者用トイレ



2棟スロープ



7棟スロープ



7棟エレベータ

(出典 総務課資料)

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

学生寮が設置されており(資料7-2-③-1)、200名弱の学生が利用している。管理体制としては、寮務委員会と学生課学生生活係が協力して当たっている(資料7-2-③-2)。勉学を支援するための自習室、快適な寮生活を送るための談話室・補食室なども整備されている(資料7-2-③-3)。同時に、規律正しい生活を送るよう指導するために、ポイント制を採用している(資料7-2-③-4)。

勉学の場として有効に機能するための体制としては、学習時間を設定し、舎監がマニュアルにしたがって指導を行う体制を敷いている。平成18年度からは寄宿舍指導員を雇い舎監と協力して指導にあたっている。また、専攻科生のチューター制度も導入した(資料7-2-③-5)。欠課・欠席が多い学生への寮務委員会の指導体制(資料7-2-③-6)も整備されている。また、体調不良のため欠席する寮生についての情報を、学生生活係が毎朝、担任・学級指導教員に電話連絡している。さらに、学習指導時間を遵守させるために、舎監による指導(資料7-2-③-5)を行っている。この結果、寮は勉学の場として有効に機能しており、寮生の成績は通学生の成績に引けをとらないことが資料7-2-③-7の分析結果からもわかる。

(分析結果とその根拠理由)

学生寮の管理は、寮務委員会と学生課学生生活係が協力して当たっている。自習室・談話室・補食室なども整備されて、生活環境・学習環境が整備されている。勉学の場として有効に機能するための体制としては、ポイント制の採用・学習時間の設定・舎監と寄宿舍指導教員および寮務委員会の連携による指導体制などがあげられる。また専攻科生チューターの役割も大きい。更に、学習指導時間を遵守させるために、舎監および寄宿舍指導員による指導を行っている。この結果、寮は勉学の場として有効に機能しており、寮生の成績は通学生の成績に引けをとらない。

以上により、学生寮が整備され、学生の生活及び勉学の場として有効に機能している。

資料7-2-③-1

## 学生寮の設置状況

|      |                      |
|------|----------------------|
| 敷地面積 | 10,774m <sup>2</sup> |
| 寮生定員 | 204名                 |
| 入寮生数 | 186名                 |

|                         |                   |                    |       |
|-------------------------|-------------------|--------------------|-------|
| 寮室等                     | 第1 寄宿舎            |                    |       |
|                         | 1人部屋              | 9 m <sup>2</sup>   | 17室   |
|                         | 2人部屋              | 16 m <sup>2</sup>  | 26室   |
|                         | シャワー室             | 9 m <sup>2</sup>   | 3室、6基 |
|                         | ラウンジ              | 9~17m <sup>2</sup> | 5室    |
|                         | 洗濯場               | 9 m <sup>2</sup>   | 1室    |
|                         | 洗面所               | 9 m <sup>2</sup>   | 3室    |
|                         | 洗濯・洗面所            | 9 m <sup>2</sup>   | 3室    |
|                         | 便所                | 11 m <sup>2</sup>  | 3室    |
|                         | 補食室               | 18 m <sup>2</sup>  | 3室    |
|                         | 第2 寄宿舎            |                    |       |
|                         | 1人部屋              | 9 m <sup>2</sup>   | 83室   |
|                         | 便所・洗面所・洗濯場        | 18 m <sup>2</sup>  | 4室    |
|                         | 談話・補食室            | 27 m <sup>2</sup>  | 4室    |
|                         | 第3 寄宿舎 (男子)       |                    |       |
|                         | 1人部屋              | 11 m <sup>2</sup>  | 10室   |
|                         | 2人部屋              | 17 m <sup>2</sup>  | 6室    |
|                         | シャワー室             | 11 m <sup>2</sup>  | 2室、4基 |
|                         | 洗濯・洗面所            | 10 m <sup>2</sup>  | 2室    |
|                         | 便所                | 17 m <sup>2</sup>  | 2室    |
|                         | 談話・補食室            | 2~34m <sup>2</sup> | 2室    |
|                         | 第3 寄宿舎 (女子)       |                    |       |
|                         | 1人部屋              | 11 m <sup>2</sup>  | 10室   |
|                         | 2人部屋              | 17 m <sup>2</sup>  | 10室   |
|                         | シャワー室             | 11 m <sup>2</sup>  | 2室、4基 |
|                         | 洗濯・洗面所            | 10 m <sup>2</sup>  | 2室    |
|                         | 便所                | 0~17m <sup>2</sup> | 3室    |
|                         | 談話・補食室            | 34 m <sup>2</sup>  | 2室    |
| 補食室                     | 24 m <sup>2</sup> | 1室                 |       |
| 乾燥室                     | 10 m <sup>2</sup> | 1室                 |       |
| 談話室                     | 28 m <sup>2</sup> | 1室                 |       |
| 自習室                     | 26 m <sup>2</sup> | 1室                 |       |
| 女子浴室                    | 11 m <sup>2</sup> | 1室                 |       |
| (浴槽 4.5m <sup>2</sup> ) |                   |                    |       |
| 脱衣室・シャワーユニット等           | 14 m <sup>2</sup> | 1室                 |       |

|          |                         |                    |
|----------|-------------------------|--------------------|
| 食堂棟      | 食堂                      | 120 m <sup>2</sup> |
|          | 談話コーナー                  | 45 m <sup>2</sup>  |
|          | 自習室                     | 36 m <sup>2</sup>  |
|          | 便所                      | 5~9m <sup>2</sup>  |
|          | 脱衣室                     | 30 m <sup>2</sup>  |
|          | 浴室                      | 45 m <sup>2</sup>  |
|          | (浴槽 8.3m <sup>2</sup> ) |                    |
| シャワーユニット |                         |                    |

(出典 総務課資料)

|                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>東京高等「くぬぎた寮」</b><br/>一 二 三 四</p>                                                                                     | <p><b>1. 高専における寮の役割</b></p> <p>＊ 高専に集めるのはなぜ？<br/>         期待する学習環境を構築させ、これを通して人間<br/>         形成に資する教育環境を醸成<br/>         このことから高専に設置されている寮は<br/> <b>「新質寮」</b><br/>         と称されています。</p> | <p><b>食堂棟</b> (約1,000㎡)</p>                                                       | <p><b>養食堂</b> (約1,000㎡)</p>                                                                                          |
| <p><b>2. 設備の概要</b></p> <p>男子寮：定員174名<br/>         1寮、2寮、3寮 (1から2階)<br/>         女子寮：定員300名<br/>         3寮 (3&amp;4階：女子専用出入口)<br/>         食堂棟<br/>         その他 (風呂・シャワー室、読書室、談話室)<br/>         事務室：3寮1階</p> | <p><b>くぬぎた寮 (1寮)</b></p>                                                                              | <p><b>寮生の居室</b></p> <p>＊ 二人1部屋<br/>二人1部屋<br/>がある<br/>＊ 言葉は<br/>二人1部屋<br/>の片側</p>  | <p><b>補食堂 (談話室)</b></p> <p>各階に1〜2ヵ所設置</p>                                                                            |
| <p><b>くぬぎた寮 (2寮)</b></p>                                                                                                | <p><b>くぬぎた寮 (3寮)</b></p>  <p>玄関前、女子専用エレベーター</p>                                                     | <p><b>洗濯機・乾燥機室</b></p>  <p>男女別</p>                                              | <p><b>3. 安全・生活指導面への対応</b></p> <p>＊ 安全設備面<br/>         1. 電子鍵<br/>         2. 女子専用エレベーター設備</p> <p>＊ 安全・生活指導面<br/>         1. 緊急時、避難目による緊急集合ポイント<br/>         2. 夜間による騒音<br/>         (土日は日ごと騒音を実施)</p> |

(出典 半井建設資料)



資料7-2-③-1

寮生数 (毎年度4月1日現在)

| 年度     | 男子寮生 | 女子寮生 | 合計   |
|--------|------|------|------|
| 平成15年度 | 121人 | 22人  | 143人 |
| 平成16年度 | 133人 | 22人  | 155人 |
| 平成17年度 | 138人 | 18人  | 156人 |
| 平成18年度 | 160人 | 22人  | 182人 |
| 平成19年度 | 163人 | 23人  | 186人 |

(出典 学生課資料)



倉庫を交代する場合には、警務主事補又は警務係に連絡する。  
なお、勤務の当日（又は前日迄）には、お互いに関照し、間違のないようにする。

- (1) 所見やケガ
- 緊急が必要な場合
    - ① 0 発信 119（消防署）に電話し、緊急車の出動を依頼。
    - ② 5119（警備員）に電話。
    - ③ 警長（不在時は副警長・保健委員長）を呼び出し、倉庫室に詰めるように指示。
    - ④ 緊急連絡セット（ペット缶の缶庫にある）を持って、倉庫室に向かい、
    - ⑤ 病院到着後、保護者と警務主事、担任（学級指導教員）に連絡。
    - \* 帰寮時にタクシー券を利用。
  - 救急室が必要な場合
    - ① 救急室が必要なが、病院に行く場合
    - ② 指示板（倉庫室デスク前）のリストを見て病院に電話。
    - ③ 警長（不在時は副警長・保健委員長）を呼び出し、倉庫室に詰めるように指示。
    - ④ オクシー（0 発信 661-0248；携帯文庫）を呼び、病人に現金と健康保険証を持参させる。
    - ⑤ 病院到着後、保護者に連絡。
    - \* 帰寮時にタクシー券利用
    - \* 病院について（倉庫室からの電話は全て 0 発信）
      - ・ 休日の昼以外、市の夜間緊急診療所（八王子市平間町 18-8）が午後 8 時から午後 11 時まで診療。（電話 625-9910）
      - ・ 救急病棟の案内（一日中）
      - ・ 東京都消防各課救急救急センター（042-521-2323）
      - ・ 八王子消防署（625-0118）
      - ・ 東京都保健医療センター（03-5272-0303）

- (2) 警報へかかったとき
- 1) 火災警報機にランプが点灯  
点灯場所に急行する。
  - 火災の場合
    - ① 避難命令放送（一斉放送のボタンを押す）  
「ただ今、0 階の階で火災発生。警長は警備・防災委員の指示に従って、（グラウンド）に緊急避難してください。」（2・3 階へ戻す）
    - ② 0 発信 119（消防署）へ電話  
【門田町 1200 の東京工業高等専門学校で火災発生、出動願います。】
    - ③ 5119（警備員）に電話  
【0 階の倉庫 00 で火災、0 階の階で火災発生。防火管理者の会計課員に緊急連絡してください。】
    - ④ 避難案内、警長の安否確認  
点呼（各学年防災委員→防災委員→倉庫）
    - ⑤ 警務主事（不在の場合は主事補）に報告

1. 寮生活について

本校寮生活は、勉強に資する環境の中で、規律ある共同生活を体験させ、これを通じて人間形成に資することを目的とした通居通学寮者のための課外教育施設であり、くねきた寮と称している。入寮に際しては、上記の目的を踏まえ進学のうえで入寮を許可している。

寮務主事、主事補及び寮務係職員が寮生指導等に当たるとし、毎日、教員が交替で巻取業務を行っている。

2. 巻取業務の概要
- (1) 勤務時間  
朝 8 時～午後 5 時 15 分  
日 8 時 30 分～午後 5 時 15 分（土曜日・休日）
  - (2) 勤務場所  
Ⅰ 寮舎（2 人の倉庫の場合は、Ⅱ 寮舎も利用）
  - (3) 勤務内容  
○ 寮生に緊急の事態が生じた時は、適切な処置をとる。  
○ 倉庫日誌に勤務事項等を記入する。  
○ 点呼  
点呼開始（女子午後 10 時、男子午後 10 時 10 分）  
○ 寮舎室長の始末と解錠  
○ 寮内見回り
  - (4) 食事  
寮舎が、寮生活に活用してある。
  - (5) 日誌（詳細は巻取業務と関係の「巻取業務マニュアル」を参照）  
xylbox-File-各寮・委員会からのお知らせ-寮務委員会にも掲載
  - (6) 倉庫室等の電話  
・ 固定 042-668-5083（公用・長距離発信電話）  
・ 携帯（PHS）070-5023-2892（受信電話）
  - (7) 放送設備  
倉庫室、Ⅲ 寮 1 階廊下・海産室及びⅠ 寮 1 階準備室に放送設備があり、全寮への同時放送又は各寮向けへの放送ができる。
  - (8) 車両協力の利用  
・ 海産室（新話室）：午後 11 時 30 分まで。  
・ 実習科目直営：寮生の集合等に使用するには、寮務主事の許可を必要とする。

3. 倉庫の危険と軽減について

- (1) 倉庫の危険と軽減について
  - 所見及びむねを備わらない事情等のため、次年度の倉庫の危険又は軽減を希望する場合は、倉庫勤務免除又は軽減理由、その期間等を明記した願（書式は任意）を 2 月末日までに寮務主事を理由として校長へ提出し、許可を得る。（ただし、長期出張、長期病休休暇の場合はこの限りではない。）
  - 寮務主事と学生主事及び専攻科長については、倉庫を免除する。
  - 当学年途中で 60 日以上となる教員の倉庫勤務については、希望により義務を免除できること。
  - 原則として本専学の子を養育している教員の倉庫勤務については、希望により免除を受けることができる。
- (2) 倉庫の交代

(3) 警察からの発生引取の電話

- ①発生（不在時は副専長・担任教員）を呼び出し、希望室に届めるように指示。
- ②タクシー（0発信061-0248：緊急交通）を呼び、緊急連絡セットを待合の上、希望が警察に出向く。
- ③警察で事件を馴れた後、専務主事（又は主事補）・学生主事・担任（学級指導教員）に連絡
- \* 帰寮時にタクシー券利用

(4) 停電・断水などの設備の不具合  
状況を把握した上で、施設係長・警務係長に連絡

5. 大規模出稼対策

1. 地震対策（命取の対応について）

(1) 地震により下記内容を指示。

内 容

- ① 大揺れがとまったらグラランに避難する。等
- ② 震の開始、火災の防止
- ③ 安全の確認（点呼）、応急処置、養生会を指揮する。
- ④ 情報の収集
- ⑤ 居室に散り、落致、貴重品、携帯ラジオ、懐中電燈、毛布など身の回り品を整えさせるなど指示し、余震に備えて安全が場所を確認させる。

II. 其他地震の警戒宣言が発令された場合（判定余震集の報道があった時点を含む。）の対応について

(1) 指揮系統について

- ①在任中は、警務主事が発生に指示する。主事が不在の場合は主事補が当たる。また、主事、主事補とも不在の場合は教務主事及び学生主事が発生に指示する。
- ②夜間又は土曜・休日の場合は命取（可能ならば主事又は主事補と連絡をとり）が、発生に指示する。

(2) 滞在者の指示について

- ①滞在方向別の責任者を定め、メンバーを報告させる。
- ②日中（8時30分～17時15分）に発令された場合は、状況にもよるが帰宅可能な者は帰宅させる。その際、発生をチェックする。その他の発生については、各責任者と協議し、帰宅可能と判断した場合は帰し、そうでなければ滞留させる。
- ③夜間の場合は、各責任者と協議し、帰宅できるグループは、直ちに帰宅させ、その他発生はその夜に帰宅させ、次夜③の対応させる。もし、翌朝始発電車が運行される場合は、滞りについて滞留し、その場合のこと等を責任者と協議して決めておく。

(3) 滞留発生がいる場合の対応について

- ①発生内容及び発生時の措置は、命取・警務委員会・その他の教員が行う。
- ②発生を監視の高に監視、防備させ、体形に応じて可能な防犯行動を行わせる。
- ③ボリバケツ（水）に飲料水を確保させる。（1寮前の洗面場）階層に水を確保する。

非常ベル → 火災受信機 → 火災受信機 → 現場確認 → 避難の放送 → 119 → 5119 → 警務員 → 主事又は主事補

非常ベル → 火災受信機 → 火災受信機 → 現場確認 → 火災受信機 → 5119 → 警務員 → 発生に放送 → 非常ベル → 火災受信機 → 現場確認 → 火災受信機 → 5119 → 警務員 → 発生に放送

●火災でない場合

- ①火災受信機「音響」(赤ボタン)を押す→音停止
- ②5119（警務員）に電話して、火災でないことを連絡
- ③火災受信機下のボタンを押して、「復旧」(オレンジボタン)を押す
- ④警務員に火災でないことを放送（一斉放送のボタンを押す）

●火災発生時

- ①「別」(黒ボタン)を押す
- ②非常口を閉める
- ③「一斉」(黒ボタン)を押す
- ④警務員に電話して、発生を知らせる
- ⑤発生主事（不在の時は主事補）に連絡
- ⑥警務主事と二人で、その階の居住者全員を事情確認

2) 防災室係長が点検  
点検箇所を急行し、その階の全頭置（女子寮の場合は全居室）を確認

●発生者がいない場合

- ①0発信110（警察）に連絡
- ②5119（警務員）に連絡
- 発生者がいない場合
- ①「別」(黒ボタン)を押す
- ②非常口を閉める
- ③「一斉」(黒ボタン)を押す
- ④警務員に電話して、発生を知らせる
- ⑤発生主事（不在の時は主事補）に連絡
- ⑥警務主事と二人で、その階の居住者全員を事情確認

(出典 教育便覧)

食糧、医薬品、衣類用品等を客別に運び出せる場所（食堂入口等）に設け、燃料等を確保させる。  
 ③食糧・備品類  
 寮には、食糧、医薬品及び備品等が備蓄されている。（1寮1所直置）

継続入寮についての申合せ

決定 平成24年4月23日  
 最終改正 平成18年4月1日

以下の項目についても該当した場合は、継続入寮を許可しない  
 ○正当な理由がなく欠席時数が10%を超える場合。  
 ○正当な理由がなく遅刻が10%を超える場合。

以下の場合は継続入寮に当たり入寮を許可しないこともある  
 【面談時要注】

- 点呼時不在が2回以上ある場合。
- ポイントがある場合。
- 正当な理由がなく欠席時数が5%を超える場合。
- 正当な理由がなく遅刻が5%を超える場合。
- 寮運営に支障をきたす行為があった場合。（喫煙、飲酒等含む）

以下の場合は、寮初入寮として扱う  
 ○留年した場合。

\*東京工業高等専門学校入学許可に関する内規第2条(8)原級留置しておらず、出席状況が良好であること。

- (注) 1. この申合せは、教育運営・学務課にて、付録として掲載する。  
 2. この申合せの改正は、寮務委員会で開催する。

資料7-2-③-2

## 東京工業高等専門学校寮務委員会規則

制定 平成17年12月1日

## (趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第7条第3項の規定に基づき、東京工業高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 寮生の指導に関すること。
  - (2) 寮生の厚生に関すること。
  - (3) 入退寮に関すること。
  - (4) その他寄宿舎の運営に関すること。
- 2 審議結果は、運営会議に報告し、必要に応じ議を経なければならない。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 寮務主事
- (2) 寮務主事補
- (3) 学生課長
- (4) その他校長が必要と認めた者

## (任期)

第4条 前条第4号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、寮務主事をもって充てる。

- 2 委員長は委員会を招集し、議長となる
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

## (委員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

## (拡大委員会)

第7条 寮務委員会に、各学科長、基礎教育委員会委員長を加えた拡大委員会を置くことができる。

- 2 拡大委員会は寮務主事が招集し、議長となる。

## (事務)

第8条 委員会の事務は、学生課において処理する。

## (雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

## 附 則

- 1 この規則は、平成17年12月1日から施行する。
- 2 この規則施行後最初の第3条第4号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日までとする。

資料 7-2-③-3



女子寮自習室



寮食堂自習室



談話室・補食室



捕食室

出典：学生課

## 10. 施設・備品の利用法

- (1) 居室
- ・ 居室は学校の財産である。丁寧に使用し、借りたものはそのまま形で返却すること。
  - ・ 居室から清潔を心がけ、勝手に汚したり、分解したりしてはならない。
  - ・ 空室及び二人部屋を一人で使っている場合であっても自分の居室及び自分の備品以外を勝手に使用してはならない。
  - ・ 退寮や部屋の移動の際は、指示に従い直ちに清掃して居室を明け渡すこと。なお、部屋を移動する前に居室チェック表によりチェックを受けること。チェック結果によっては、修繕または弁償しなければならない。なお、不用品は全て各自責任を持って居室に持ち帰ること。
  - ・ 部屋の臭いがひどい場合には、本人・保護者に確認のうえ、ルームクリーニング代の費用を支払わなければならない場合がある。
  - ・ 居室前の廊下は共用部分であり、緊急時の避難経路ともなるので、廊下には私物を置かないこと。
- (2) 貸与備品
- ・ 部屋ごとにベッド、カーテン、椅子、ロッカー、電気スタンドが備えられている。
  - ・ 備品を部屋から他の場所へ移動させてはならない。部屋からなくなった場合や、故意に破損させた場合は弁償しなければならない。
- (3) 精食室
- ・ 精食室の使用は23:30までとする。
  - ・ 調理は精食室ですること。居室などで調理してはならない。
  - ・ 精食調理のもの(ラフマンなど)に限る。
  - ・ ガスコンロの使用中はその場を離れないこと。また、使用後は必ず元栓を閉めること。
  - ・ 火災警報器を動作させないために、必ず集気扇を回すこと。
  - ・ 居室内の整理・整頓および衛生管理に留意するとともに私物を放置しないこと。
  - ・ ゴミ箱のゴミは定期的に分別の上、処分すること。
  - ・ 三角コーナーなどにゴミを放置しないこと。
  - ・ 精食室員からの注意を受けても、精食室の利用状況が改善されない場合、一定期間利用禁止とする場合がある。この場合の期間については、寮務委員長とその副委員長、決定次第、掲示などで通知することとする。

- (4) 電話
- ・ 公用・発信電話番号 042-668-5083 (17:00~翌朝8:30) 精食室
  - ・ 発信用PHS 070-5023-2892 (発信専用)
  - ・ ADSL専用電話 1寮1階精食室 0426-68-5084
- (5) 寮内放送設備 (寮生による呼び出し・連絡用)

- ・ 1寮1階精食室
  - ・ 3寮1階廊下・精食室
- (6) 洗濯機・乾燥機
- ・ われ勝ちならぬよう、譲り合いの精神で使用すること。
  - ・ 容量以上の洗濯物を入れられないこと。
- (7) 貴重品管理庫 (3寮1階ロビー)
- ・ 現金などを保管するのに利用できる。(使用方法については学生生活係に問い合わせると。
- (8) コピー機 (3寮(男子寮)1階ロビー)
- ・ 1枚10円で利用できる。
  - ・ 女子寮生が利用する場合は、非常急ぎ・学生生活係に申し出る。
- (9) 寮食堂自習室
- ・ 使用したい場合は、事前に学生生活係を済して業務室に願い出ること。
  - ・ 自室で勉強したいとき、みんなと一緒に勉強したいときなどに利用できる。
  - ・ 利用は22:00までとする。
  - ・ 大きな音を出さないこと。やむを得ず話すときも小さい声で話すこと。
  - ・ 最後に部屋を出るときは忘れず窓を閉め、消灯すること。
  - ・ 覚強、乗換以外のことをしてはいけない。
  - ・ 自習室に他人のものを置くことは禁止する。
  - ・ 覚強運具以外の物(ラジカセ・飲食物等)の持ち込みは禁止する。
- (10) 寮内インターネット回線
- ・ 各居室のLANケーブル用コンセントは、寮で契約するADSL回線に接続することができる。
  - ・ 利用前に、接続するパソコンにウイルスチェック用のソフトのインストールや、OSのセキュリティ対策を済ませ、寮ネットワーク委員会のチェックを受けること。
  - ・ 利用に当たっては、「寮内インターネット回線使用に関する誓約書」を提出すること。
  - ・ ファイルの送信はダウンロード・共有など、高質な運用行為が実施した場合は、ポイント制の「その他の違反」により最大6,000ポイントを適用する機会がある。
  - ・ 利用時間は7:00~24:00とする(休室時間を除く)。
  - ・ 許可なく、ルーター等の設定の改変、回線設備の改修などを行ってはならない。

(出典 寮生活マニュアル)

### 7. 禁止事項とポイント制

寮の規則に違反した場合は、下記のようなポイントがつく。ポイント累積により、次表の指導を受ける。

#### 【累積ポイントによる指導要領】

| 累積ポイント                   | 指導要領                            |
|--------------------------|---------------------------------|
| 6, 0ポイント                 | 注意 (注意を促された日から経過後7日以内)に返答すること。) |
| 6, 0ポイント<br>〜<br>1か月臨時退学 | 1か月臨時退学                         |
| 3, 0ポイント                 | 1週間臨時退学                         |

| 違反内容とその例                                                                                                                                                                                                                                                                               | ポイント |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| <b>集団生活から著しく逸脱した違反・寮内生活を著しく乱す違反</b><br>(注意 一度の違反で退寮となる)<br>・ 男子寮への女子の立ち入り、女子寮への男子の立ち入り (理由問わず)<br>・ 夜間・夜逃<br>・ マージャン (持ち込みのみでも違反)<br>・ 下宿生に対する差別的な態度・発言<br>・ 暴力行為<br>・ 食器や部屋の損傷、ゴミのゴミ<br>・ 夜間無断外出 (22:00 ~ 翌朝7:00)<br>・ 無断水汲 (23:30以後)<br>・ 外泊等の不正使用 (外泊届を提出して在寮した場合、または外泊届提出があつた場合など) | 8    |
| <b>点呼・在寮に関わる違反</b><br>・ 夜間無断外出 (22:00 ~ 翌朝7:00)<br>・ 無断水汲 (23:30以後)<br>・ 外泊等の不正使用 (外泊届を提出して在寮した場合、または外泊届提出があつた場合など)                                                                                                                                                                    | 4    |
| <b>重大な違反や損失に結びつく可能性のある違反</b><br>・ 火元につながる恐れのある行為、排煙時間における騒音 (喫煙部室を含む)<br>・ たばこ類の持ち込み (喫) (喫)<br>・ 窃盗 (所持品類のものを含む) の持ち込み (喫) (喫)                                                                                                                                                        | 3    |
| <b>持ち込み禁止物品を寮内に持ちこくる違反</b>                                                                                                                                                                                                                                                             | 1    |
| <b>生活習慣に関わる違反</b><br>・ 起床時不在 (22:00以後、起床終了後まで)<br>・ 授業時間中 (休憩も含む) の理由なき在寮 (8:50 ~ 12:00)<br>・ アラック積むおむすのドライヤー、加湿器 (スイッチが壊れている場合)<br>・ 部屋の後いかにで喫煙をうけた場合 (喫煙部室・消煙部室など)                                                                                                                   | 0.5  |
| <b>その他の違反 (寮務委員会で個別に検討)</b>                                                                                                                                                                                                                                                            | 1~6  |

(注1) たばこのみならず、灰皿・喫煙などが発見された部屋の居住者が対象。  
 (注2) 中身の有無に関わらず、蒸気・ボール缶などが発見された部屋の居住者が対象。

(注3) 寮内では、たとえ寮内に通した者でも同じ規則を適用。  
 (注4) 談話食堂等の共用スペースで飲酒・喫煙があった場合、およびたばこ類(灰皿・喫煙部を含む)・蒸気(料理用、蒸気・ボール缶等を含む)の持ち込みが確認された場合は、当該スペースを一定期間使用禁止とする。期間については寮務委員会で検討した後、掲示等でお知らせする。また、これらに該当した学生の処分については、上のポイント表の「たばこ類の持ち込み」「飲酒・喫煙」の項に該当するものとする。

- ・ 車椅子、蒸気釜など、寮務委員会で指定したボランティア活動などに参加した場合は、0.5ポイント単位でポイントを回復することがある(プラスポイント適用)。ただし、その時点で累積ポイントがない者については、プラスポイントは適用されない。
- ・ ポイントは発生した時点から1年間有効とする(プラスポイントも同様)。

#### 【寮内持ち込み禁止物品】

| 品目   | 例                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------|
| 電熱器具 | 電気ストーブ、電気コンロ、トースター、オーブン、電子レンジ、アイロン、電気ポット、コーヒーメーカー、電気毛布、電気あんか等 |
| 電気器具 | テレビ、洗濯機、洗濯機等、冷暖房                                              |
| その他  | テレビゲーム機等、ゲームソフト、寮内で演奏するための楽器                                  |

※ 上におげた物品以外でも、持ち込みが許可できない場合がある。  
 ※ 持ち込み可能かどうか不明な場合には、事前に寮関係の職員(17ページ参照)に問い合わせること。

#### 【条件付で持ち込みが許可されている物品】

| 品名    | 条 件                            |
|-------|--------------------------------|
| ドライヤー | 使用後は、コート室から持ち出すこと。             |
| 風呂敷   | 卓上型、または床敷型に限り許可する。             |
| ラジカセ等 | 学習時間・特休時間内は、ヘッドフォン等を使用すること。    |
| 加湿器   | 関係者からの故障等を要出すること。              |
| パソコン  | ノート型が原則。また、ゲーム機と見なされるものは許可しない。 |

(出典 寮生活のマニュアル)

4. 日 課

|      | 平 日               | 休 日               |
|------|-------------------|-------------------|
| 起床   | 7:00              |                   |
| 朝食   | 7:30 ~ 8:20       | 8:30 ~ 9:20       |
| 登校   | ~ 8:20            |                   |
| 昼食   | 12:00 ~ 12:50     | 12:00 ~ 13:00     |
| 夕食   | 17:30 ~ 19:30     | 17:30 ~ 19:00     |
| 入浴   | 16:00 ~ 21:00 (※) | 7:00 ~ 21:00      |
| 寮内清掃 | 19:30 ~ 20:00     | 19:30 ~ 20:00     |
| 風呂掃除 | 21:10 ~ 21:30     |                   |
| 学習時間 | 20:00 ~ 22:00     | 20:00 ~ 22:00     |
| 作業時間 | 20:00 ~           | 20:00 ~           |
| 女子点呼 | 22:00 ~ 22:10 (※) | 22:00 ~ 22:10 (※) |
| 男子点呼 | 22:10 ~ 22:50 (※) | 22:10 ~ 22:50 (※) |
| 就寝時間 | ~ 24:00 (※)       | ~ 24:00 (※)       |

(注1) 平日7:00~8:00の間も風呂を利用することができる。ただし、女子寮に於いてはシャワーのみが利用可とする。

(注2) 「平日有休」とは日曜日~本週日の夜、「休日前夜」とは金曜日~土曜日の夜、および休日などの前夜を意味する。

(注3) 学習している場所に戻り24:00以降も泊まっていることを一応認めるが、翌日の授業で遅刻しないように気を付けること。

～日課に関する注意事項～

(1) 五機電子システム

- ・ 寮の玄関は電子鍵システムとなっている。利用である寮間は寮のよおりである。
- ・ 学生ごとに利用可能な玄関、利用可能な時間が異なるので注意すること。
- ・ 平日の午前中(8:50~12:00)は寮への立ち入りは禁止である。

| 場所     | 利用可能時間帯                       | 男子 |      | 女子   |     |
|--------|-------------------------------|----|------|------|-----|
|        |                               | 1年 | 2~4年 | 専攻科生 | 全学年 |
| 1年専攻科寮 | 終日                            | X  | X    | O    | X   |
| 1年専攻科寮 | (平日) 7:00-8:50<br>12:00-22:00 | O  | X    | O    | X   |
| 2年1F互換 | (休日) 7:00-23:00               | X  | O    | O    | X   |
| 3年1F互換 | 終日                            | X  | O    | O    | X   |
| 3年女子   | 終日                            | X  | X    | X    | O   |

(2) 配膳  
・ 各段で自費または時計等を使用して、洗濯ごすことのないようになること。

(3) 食事  
・ 食事は食堂内の食事テーブルで取ること。

- ・ 食事は食堂内内にあること。食堂の取り置きは禁止する。
- ・ 同業者が病室のため自室に食事を持っていく必要があるときは、教職員(学生生活係が希望)および保護者の許可を得ること。その場合、食室に依頼すればおかしな事を特別に作ってもらえる。
- ・ セルフサービスである。各段は退却口へ退却すること。
- ・ 夕食は19:30までに食事を退却できるように済ませること。

(4) 服装 (8:20まで)  
・ 電気装置のスイッチを切ること。

- ・ 1階は盗難防止のため必ず室内に鍵をかけること。
- ・ 各段を空にするときは扉に鍵をかけておくこと。

(5) 入浴  
・ 体を洗ってから浴槽に入ること。

- ・ 浴槽内にタオルなどを置かないこと。
- ・ 浴槽内で体を洗ったり、洗濯しないこと。
- ・ 伝染性の病気にかかっている人は入浴を控えること。
- ・ 電気、ガス、水道を節約すること。

(6) 清掃  
・ 各段の居間の整理整頓に心がける。共通部分の清掃は各自担当にしたがって行うこと。

(7) 学習時間・作業時間  
・ 自室または自習室で学習すること。

- ・ 大きな音を出さないこと。話字学習でラジカセなどを扱う場合はヘッドフォン等を使用すること。

(8) 点呼  
・ 自室で静粛を保ち、同業者や他の部屋の扉等に迷惑をかけないようになること。

- ・ 熱し、大きな音を出さないこと。ラジカセなどはヘッドフォン等を使用すること。
- ・ 体の部屋へ行かないこと。
- ・ 24:00までに就寝できるように準備すること。

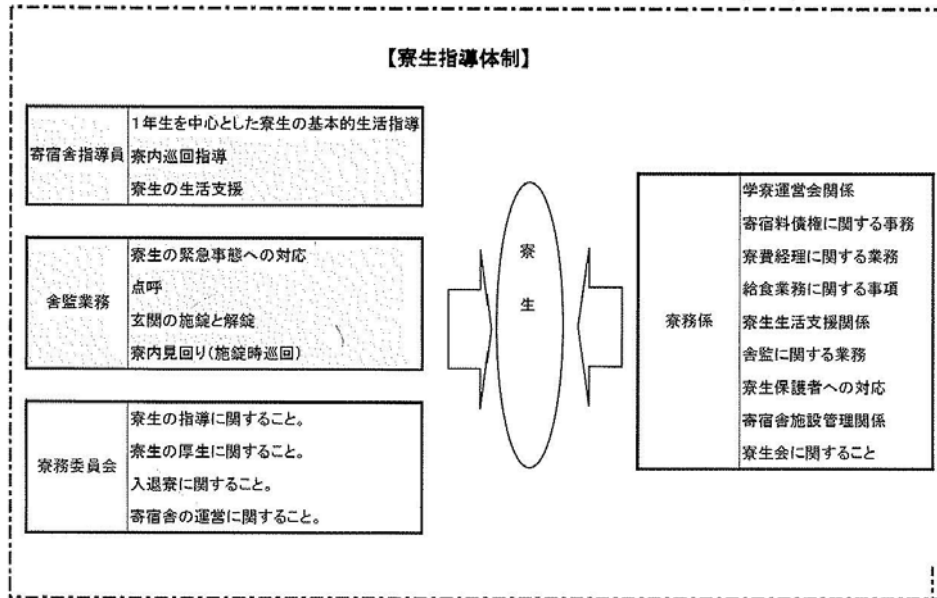
(出典 寮生活のマニュアル)



資料 7-2-③-5

寄宿舎指導員の配置について

2006.1.16



**指導体制**

- 指導曜日・時間日  
4月～6月 月～木 17:30～21:30(4時間)  
7月～2月 月～木 17:30～20:30(3時間)
- 賃金単価 1時間 1,170円
- 所要額 約604,000円
- 交通費

**具体的業務内容**

- 1 1年生を中心とした寮生の基本的な生活指導  
初めて親元を離れ集団生活を送ることとなる1年生にとっては、寮という集団生活において守るべき生活のルールや基本的な生活習慣に対する指導・支援が必要となってくる。1年生の最初の時期にきちんとした生活習慣を身につけさせるべく指導・支援に当たる。
- 2 寮内巡回指導(舎監補助)  
廊下、乾燥室、便所、脱衣室、シャワー室、浴室、談話補食室、自習室等の巡回、きれいに使用されているかどうかの点検及び改善指導を行う。

**希望条件**

小・中学校等で生徒指導の経験の有する者が望ましい

(出典 学生課資料) 20



資料 7-2-③-5

平成18年度 第4回常務委員会議事概要

期 日 平成18年5月8日(月) 16:30~18:20  
場 所 回廊交流室  
出席者 西村、市川、鈴木、前原、伊藤、一戸、西村、中野、学生部長  
(欠席:オプザーバー(高尾))  
配布資料 1. 平成18年度学生会等委員一覧  
2. 関東信越地区高専学生交流会の開催について

議 事  
(報告)  
1. 平成18年度学生会等委員について  
前回配布資料に追加し、修正を加えたが、防災、美化、健康の各委員長は未定である旨報告があった。  
2. その他  
3M学生1名は、期終日に保護者からの要請もあり2家2113室に前通を移動した旨報告があった。なお、点呼については2家4,3,2,1階点呼終了後に2113室に向かい点呼をとってもらいこととし、変更事項については、期間限定マニュアルとして各級教務マニュアルに掲載することとした。

(審議)  
1. 専攻科生による学習支援について  
保護者会で昨年年度会をいたしていたことなので、今年度も専攻科生に対する学習支援を実施することとした。また、専攻科生の3名が講師を引き受けることを了解済みであるが、うち1名については用件と専攻科の研修を実施することとした。  
なお、専攻科生については、期終日に2113室でつづいておられるかをチェックする仕組みを、期で利用可能なものであることの確認も、教務は近く行ったポイントを絞った実施計画を行う等、検討してもらおうこととした。

(以下省略)

学生保護者代表型役員会議録

日 時 平成18年5月10日(土)13:00~15:30  
場 所 茶室(第四階)  
出席者 保護者代表(後略) 10名出席  
学校側 河村常務理事、大山常務部長  
配布資料①平成18年度年間行事  
②茶室平成17年度収支決算書及び平成18年度歳入予算案

議事に关立ち自己紹介及び高専朝スタップ紹介が行われた。

(報告)  
1. 常務理事から平成18年4月1日現在の業生数及び1業改修後2ヶ月が経過しての現状について次のとおり報告があった。  
・ 業生204名 業生数合計 182名 (内訳 男子160名、女子22名)  
10月に中途入業者の募集を締切している。  
・ 1業改修後により2人部員が追加したことにより、従来の学年体制から学年連合の班体制に移行した。これにより各課で新たな役割のつなぐ役割を担いたいと考えている。  
・ 互いに電子システムを導入しセキュリティが確保できるようになった。

・ 定員割により1年生の入業者が増え、女子業に配属していた業者は残り全業生への配属にあたる常務委員を要請し、月~木の17:30~21:30に開催に当たってもおえるようになった。

・ 風呂場での盗難事件が発生した。業生は居間に鍵をかけた傾向が有り、安全確保の取組からも業室について保護者の方からも注意喚起をお願いしたい。

2. 平成18年度年間行事について  
常務部長から平成18年度の年間行事については事前に各業室に返付済みである配付資料のとおりであり、11月開催の保護者懇話会の日程については、昨年度の懇話会での日程との変更もあつたが、河村常と同一日程の方が都合の良い方もおられたことから河村常副常務期間中とさせて頂いた点について説明があつた。

○ 東海迎送会  
例年保護者が実施することで業生の理解への差を縮めようと考えている東海迎送会については、今年度は茶道・迎送会準備の一環として1業室単位にプランナーを配置したいと考えており、業室美化委員とも連携しつつ保護者の方々の支援をお願いしたい旨と専務から提案があつた。今年度の日程は次のとおり。  
日程:9月2日(土)10:00~12:00 飲物及び備食を用意

(以下省略)

(出典 常務委員会資料)

資料7-2-③-6

2006.11.6

## 夜自習について

夜自習は次のとおり実施します。対象者は、必ず出席すること。無断で欠席・遅刻・早退した場合はポイントがつきます。

対 象：前期末試験での成績が不振であった方及び  
仮入寮の方

期 間：11月13日（月）から12月4日（月）  
1年生：月・水曜日  
2、3年生：火・木曜日  
仮入寮生：月～木

20：00～22：00

場 所：1年生：寮食堂自習室 指定された席

2、3年生：寮食堂自習室



（出典 寮務委員会資料）

資料 7-2-③-6

成績不振による夜自習者 - 自習対象曜日 月・水:M-J 火・木:1年・E・D・C

| 学年   | 名前 | 水   |       | 木   |       | 月    |       | 火    |       | 水    |       | 木    |       | 月    |       | 火    |       |
|------|----|-----|-------|-----|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|
|      |    | 7/6 | 20:00 | 7/7 | 20:00 | 7/11 | 20:00 | 7/12 | 20:00 | 7/13 | 20:00 | 7/14 | 20:00 | 7/18 | 20:00 | 7/19 | 20:00 |
| 1年2組 | A  | 任意  | 定時    | 任意  | 定時    | 任意   | 定時    | 任意   | 定時    | 任意   | 定時    | 任意   | 定時    | 任意   | 定時    | 任意   | 定時    |
| 1年5組 | B  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 1年5組 | C  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2M   | D  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2M   | E  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2M   | F  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2M   | G  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2M   | H  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3M   | I  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3M   | J  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2E   | K  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2E   | L  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2E   | M  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3E   | N  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3E   | O  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3E   | P  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2D   | Q  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2D   | R  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3D   | S  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3D   | T  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 2J   | U  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3J   | V  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3J   | W  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3J   | X  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3J   | Y  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3J   | Z  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3J   | a  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |
| 3C   | b  |     |       |     |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |      |       |

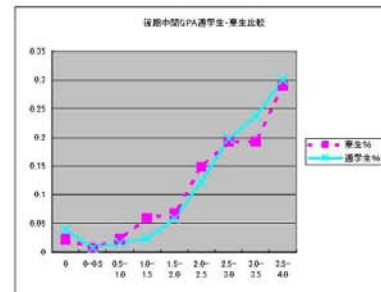
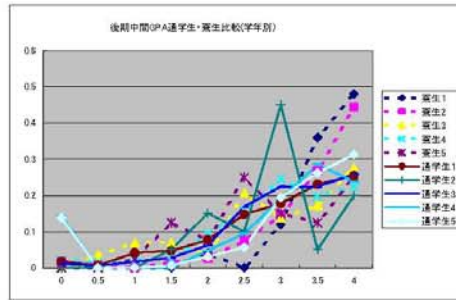
(出典 寮務委員会資料)

資料7-2-③-7

寮生と通学生の成績比較

| クラス | 試験   | 合計人数 | 寮生人数 | 通学生人数 | 寮生 GPA 平均 | 通学生 GPA 平均 | 全体 GPA 平均 |
|-----|------|------|------|-------|-----------|------------|-----------|
| 1-1 | 前期中間 | 42   | 4    | 38    | 3.88      | 3.08       | 3.15      |
| 1-1 | 前期期末 | 42   | 4    | 38    | 3.77      | 3.10       | 3.25      |
| 1-1 | 後期中間 | 42   | 4    | 38    | 3.72      | 3.17       | 3.22      |
| 1-1 | 学年末  | 42   | 4    | 38    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 1-2 | 前期中間 | 42   | 4    | 38    | 3.75      | 3.18       | 3.20      |
| 1-2 | 前期期末 | 42   | 4    | 38    | 3.78      | 3.18       | 3.21      |
| 1-2 | 後期中間 | 42   | 4    | 38    | 3.68      | 3.22       | 3.24      |
| 1-2 | 学年末  | 42   | 4    | 38    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 1-3 | 前期中間 | 42   | 4    | 38    | 3.52      | 3.20       | 3.21      |
| 1-3 | 前期期末 | 42   | 4    | 38    | 3.25      | 3.18       | 3.19      |
| 1-3 | 後期中間 | 42   | 4    | 38    | 3.24      | 3.24       | 3.24      |
| 1-3 | 学年末  | 42   | 4    | 38    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 1-4 | 前期中間 | 42   | 4    | 38    | 3.77      | 3.24       | 3.24      |
| 1-4 | 前期期末 | 42   | 4    | 38    | 3.50      | 3.24       | 3.27      |
| 1-4 | 後期中間 | 42   | 4    | 38    | 3.52      | 3.02       | 2.84      |
| 1-4 | 学年末  | 42   | 4    | 38    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 1-5 | 前期中間 | 42   | 4    | 38    | 2.71      | 3.01       | 2.51      |
| 1-5 | 前期期末 | 42   | 4    | 38    | 3.21      | 3.00       | 3.17      |
| 1-5 | 後期中間 | 42   | 4    | 38    | 3.23      | 3.23       | 3.23      |
| 1-5 | 学年末  | 42   | 4    | 38    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2M  | 前期中間 | 39   | 5    | 34    | 3.17      | 1.99       | 1.88      |
| 2M  | 前期期末 | 39   | 5    | 34    | 2.24      | 2.05       | 2.11      |
| 2M  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2M  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2E  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2E  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2E  | 後期中間 | 45   | 5    | 40    | 2.80      | 2.57       | 2.64      |
| 2E  | 学年末  | 45   | 5    | 40    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2D  | 前期中間 | 44   | 3    | 41    | 2.10      | 2.03       | 2.05      |
| 2D  | 前期期末 | 44   | 3    | 41    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2D  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2D  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2J  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2J  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2J  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2J  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2C  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2C  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2C  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2C  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3M  | 前期中間 | 41   | 3    | 38    | 2.83      | 2.83       | 2.84      |
| 3M  | 前期期末 | 41   | 3    | 38    | 3.17      | 3.02       | 3.04      |
| 3M  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3M  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3E  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3E  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3E  | 後期中間 | 41   | 4    | 37    | 2.88      | 2.81       | 2.86      |
| 3E  | 学年末  | 41   | 4    | 37    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3D  | 前期中間 | 41   | 11   | 30    | 2.51      | 2.25       | 2.01      |
| 3D  | 前期期末 | 41   | 11   | 30    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3D  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3D  | 学年末  | 41   | 7    | 34    | 2.88      | 2.81       | 2.84      |
| 3J  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3J  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3J  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3J  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3C  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3C  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3C  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3C  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4M  | 前期中間 | 45   | 3    | 42    | 2.27      | 2.25       | 2.24      |
| 4M  | 前期期末 | 45   | 3    | 42    | 2.59      | 2.76       | 2.74      |
| 4M  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4M  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4E  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4E  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4E  | 後期中間 | 38   | 4    | 34    | 3.83      | 3.03       | 3.03      |
| 4E  | 学年末  | 38   | 4    | 34    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4D  | 前期中間 | 41   | 5    | 36    | 3.23      | 3.20       | 3.20      |
| 4D  | 前期期末 | 41   | 5    | 36    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4D  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4D  | 学年末  | 40   | 3    | 37    | 2.24      | 1.87       | 1.87      |
| 4J  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4J  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4J  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4J  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4C  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4C  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4C  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 4C  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5M  | 前期中間 | 39   | 3    | 36    | 1.17      | 1.88       | 1.88      |
| 5M  | 前期期末 | 39   | 3    | 36    | 3.24      | 2.85       | 2.81      |
| 5M  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5M  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5E  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5E  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5E  | 後期中間 | 31   | 3    | 28    | 2.84      | 2.27       | 2.40      |
| 5E  | 学年末  | 31   | 3    | 28    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5D  | 前期中間 | 38   | 4    | 34    | 3.18      | 2.12       | 2.12      |
| 5D  | 前期期末 | 38   | 4    | 34    | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5D  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5D  | 学年末  | 37   | 4    | 33    | 3.58      | 3.21       | 3.21      |
| 5J  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5J  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5J  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5J  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5C  | 前期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5C  | 前期期末 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5C  | 後期中間 | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 5C  | 学年末  | 0    | 0    | 0     | 0.00      | 0.00       | 0.00      |

| クラス   | 試験   | 合計人数 | 寮生人数 | 通学生人数 | 寮生 GPA 平均 | 通学生 GPA 平均 | 全体 GPA 平均 |
|-------|------|------|------|-------|-----------|------------|-----------|
| 1学年平均 | 前期中間 | 373  | 25   | 348   | 3.38      | 3.15       | 3.18      |
| 1学年平均 | 前期期末 | 373  | 25   | 348   | 3.40      | 3.24       | 3.20      |
| 1学年平均 | 後期中間 | 373  | 25   | 348   | 3.42      | 3.21       | 3.23      |
| 1学年平均 | 学年末  | 373  | 25   | 348   | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 2学年平均 | 前期中間 | 402  | 8    | 394   | 3.09      | 2.86       | 2.80      |
| 2学年平均 | 前期期末 | 402  | 8    | 394   | 3.08      | 2.78       | 2.78      |
| 2学年平均 | 後期中間 | 402  | 8    | 394   | 2.90      | 2.93       | 2.94      |
| 2学年平均 | 学年末  | 402  | 8    | 394   | 0.00      | 0.00       | 0.00      |
| 3学年平均 | 前期中間 | 402  | 10   | 392   | 2.70      | 2.08       | 2.09      |
| 3学年平均 | 前期期末 | 402  | 10   | 392   | 1.54      | 1.52       | 1.52      |
| 3学年平均 | 後期中間 | 402  | 10   | 392   | 2.88      | 2.81       | 2.80      |
| 3学年平均 | 学年末  | 402  | 10   | 392   | 1.81      | 1.21       | 1.20      |
| 4学年平均 | 前期中間 | 384  | 11   | 373   | 2.78      | 2.78       | 2.78      |
| 4学年平均 | 前期期末 | 384  | 11   | 373   | 1.41      | 1.44       | 1.43      |
| 4学年平均 | 後期中間 | 384  | 11   | 373   | 2.98      | 3.02       | 3.00      |
| 4学年平均 | 学年末  | 384  | 11   | 373   | 0.75      | 1.00       | 0.95      |
| 5学年平均 | 前期中間 | 377  | 8    | 369   | 2.08      | 2.57       | 2.51      |
| 5学年平均 | 前期期末 | 377  | 8    | 369   | 1.30      | 1.28       | 1.28      |
| 5学年平均 | 後期中間 | 377  | 8    | 369   | 2.84      | 3.27       | 3.00      |
| 5学年平均 | 学年末  | 377  | 8    | 369   | 0.00      | 1.26       | 1.20      |
| 全校平均  | 前期中間 | 520  | 72   | 448   | 2.75      | 2.08       | 2.08      |
| 全校平均  | 前期期末 | 520  | 72   | 448   | 2.07      | 2.12       | 2.11      |
| 全校平均  | 後期中間 | 520  | 72   | 448   | 2.72      | 2.80       | 2.71      |
| 全校平均  | 学年末  | 438  | 60   | 378   | 0.68      | 0.64       | 0.64      |



(出典 学生課資料)

**観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

就職や進学の進路指導については、学科長と5年生の学級指導教員が連携し、必要に応じて各学科で進路指導資料(例えば資料7-2-④-1)を作成するなどして、きめ細かく指導している。特に就職に関しては、就職を斡旋する形をとっており、非常にきめ細かい進路指導体制となっている(前掲の資料7-2-①-8)。就職のための指導の一環として、進路指導オリエンテーション(資料7-2-④-2)を開催し、進路に関する資料を収集して学生が利用できるようにしている(資料7-2-④-3)。また、外部講師を招請して進路指導講演会(資料7-2-④-4)を毎年開催している。その結果、非常に高い就職率と進学率を実現しており、内容的にも就職進学の状況は非常に優れている(前掲の資料6-1-③-1、資料6-1-③-2、資料6-1-③-3、資料6-1-③-4、資料6-1-③-5、資料6-1-③-6)。

その他、準学士課程から大学への推薦入学制度に加え、専攻科課程においては、早稲田大学大学院・北陸先端科学技術大学院大学との間で、大学院への推薦入学の協定(資料7-2-④-5)を結ぶなどして進学の支援をしている。

(分析結果とその根拠理由)

進路指導については、学科長と5年生の学級指導教員が連携してきめ細かく指導している。進路に関する説明会の開催、進路に関する資料の収集と閲覧、外部講師による進路指導講演会の開催などを実施している。その結果、非常に高い就職率と進学率を実現しており、内容的にも就職進学の状況は非常に優れている。その他、専攻科課程においては、早稲田大学大学院・北陸先端科学技術大学院大学との間で、推薦入学の協定を結ぶなどして進学の支援をしている。

以上により、就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能している。

(6) 4月1～2月 **最終特報**  
企業から求人票や履歴資料が送られてくるようになります。企業の求人担当の人が選考指導員（担任、学科長）を勤めてきます。就職活動の学生は長期的な就職や企業まで取り込む時期にあります。また、求人企業の資料が揃っている段階ではありませんが、インターネット、就職情報データベース、就職情報センターの求人資料などを参考にしてください。選考の書類が郵送品、大学編入試験申込書（選考用）等も参考にします。インターネットでも情報を入力準備を開始していきます。インターネットのアクセス方法は担任に確認してください。進学希望の学生も目標大学・専攻科に前向きな態度を加えてください。

(7) 4月2月～3月初 **選考指導員リエンカウンターション**  
4月選考指導員が終了した日に、学生全員をまとめて選考指導員リエンカウンターションが開催されます。あらためて、就職・進学に向けて何をしなければならぬかを明確にしてください。

**2.2. 就職のスケジュール・手帳**  
手帳に必要な用紙の取扱は、その時期になると選考指導員（担任）から指示があります。

(1) **会社見学（8月初旬より）**  
就職活動を行う前に、会社訪問見学を行うこともできる企業があります。今までに経験した就職のある企業ではお誘いすれば、引受けてくれることが多いので、積極的に企業があれば担任から連絡を入けることも可能です。また、インターネットなどで学校を調べます。自分で会社見学を申し込み込むこともできる企業もあります。企業によっては定期的にセミナーを開催し出席を要する企業があります。この場合セミナーに参加することになります。費用を自分で負担するようにしましょう。いずれの場合も、会社見学やセミナーに参加した場合は速やかに「会社見学報告書」を作成してください。国に会社見学の報告をします。

(2) **求人への応募（就職か自由応募か）**  
応募形式としては、自由応募と推薦応募の2つがあります。推薦の場合は、ほとんどが推薦の形式を取っています。本年夏の機会、推薦書はいろいろと書かれた企業もありますが、全て学校経由であったため基本的には推薦での応募ということになります。推薦書の場合、受験期間中は、他の企業を受けることはできません。また、合格後は必ずその会社に入社しなければなりません。企業と学校の推薦期間から合格の通知は届くと書きます。しかし、必ずしも合格できるという保証はありません。不合格となる場合もあります。自由応募の場合は、推薦書は提出しませんが、履歴などのエントリーシート（目次）で自由に受験を希望して受験することができます。履歴書も可能です。しかし、特にリクナビなどは、多数の受験者を獲得、そのなかからふるいにかけ、人材の会社のみを絞りこむという企業が多くあります。(8月に有名企業) 本校や院生を中心に募集しているが、ついでに高専にも声をかけるという形で、合格はきわめて低いのが一般的です。リクナビで有名企業ばかり狙っていると、集まった企業は多くありますが、合格は少ないということがあります。リクナビで有名企業ばかり狙っていると、集まった企業は多くありますが、合格は少ないということがあります。しかし、内定を自由に断れるという意味ではなく、企業によって選考が大きく違い、特に高専の場合、内定の低い企業では、推薦が無くとも内定で内定を出す場合があり、むしろ内定が断れないことがあります。故って、担任とのこまめな連絡が重要です。就職活動の手帳を国に示します。

(8) 4月12月 **学年集計**  
就職・進学したOB・OGを招いて学科委員会が開催されます。自分の意思を相談するための参考としてください。ここでまた選考指導員が実施されます。

平成18年度 東京高専 情報工学科 (15年度)

2009年10月31日

5) 選考指導員 堀山英盛

**選考指導のまとめ**

(中略)

**2. 就職活動のスケジュール・手帳**

**2.1. 情報収集**  
3月～4月号 **アンケート、個別面談、保護者懇話会 など**  
この間に、年度ごとのアンケートや個別面談で面談をとりあいます。それまでに、自分自身の希望や志の事など自分で考え、自分自身を深くのぞいてください。このアンケートや個別面談で就職や保護者や先輩などと相談しながら、自分の意思を固めていきます。4年度の前期には、「情報工学セミナー」の科目名で、企業研究を行います。次のインターネットの準備とさらに卒業の就職活動準備に付ける入り口となります。

(2) 4月1月～8月 **インターネット**  
要項としてお伝えしたとおり、社会における仕事とはどのようなものかを体験することが重要です。前年、企業側も学生側も互いに深く理解しているという趣向で定期的に実習先がそのまま就職先になる例もあります。自分の専攻たい分野で実習を受けるのも良いでしょう。あるいは人間として働くことができる、働き分業を体験するのも良いでしょう。

(3) 4月10月～10月 **情報収集指導実践**  
この項までに、ください。自分の志望職種を固めておくことが望まれます。いわゆる就職活動への導入文字を指すのであれば、その準備を始める必要があります。また、ソフトウェアエンジニア職種の会社に就職するのであれば、情報処理技術者の資格取得が期待されています。会社によっては入社前に必要になります。事前に取って置けば有利です。

(4) 4月11月 **個別三者面談**  
くみおが部の日曜を中心に学生全員を対象に、本人、保護者、担任の3者面談が実施されます。それまでに保護者とよく話し合っておいてください。ここで就職・進学を明確にし、就職でなければ就職、進学であれば就職の大学・専攻科まで進んで担任と相談してください。

(5) 4月12月 **学年集計**  
就職・進学したOB・OGを招いて学科委員会が開催されます。自分の意思を相談するための参考としてください。ここでまた選考指導員が実施されます。



**進路指導オリエンテーション**

東京工業高等専門学校  
27 Feb 2007

**家庭での基本**

- 本人と家族でよく話し合う
- 進路について本人と家族で決意する
- 学級指導教員と保護者、本人とで連絡を取り合う

**進学か就職か**

進学 50%

(1) 大学編入  
編入  
学力試験の受検  
本校専攻科  
同進専門学校

就職 50%

(1) 学校推薦  
(2) 学校製印応募  
(3) 社会的応募

**進路決定への準備**

- 履歴書(市販用紙でもいい)を用意
- 原簿専用学票(はやめに用意)
- 健康診断(4月実施)
- 進路調査票(推薦書)の資料などは早く準備し、学費に支出し、自分の進路を乗りこえる準備を怠らぬ。
- 自分専用の印鑑

**就職**

そのための準備が  
できるのか

- 企業で働きたいのか何ができるのか
- 企業推薦(インターネット)
- 学生・卒業の履しによる情報収集
- 企業説明による情報収集
- 受験対策(面接、SPI)
- 学校推薦か学校製印応募が私の応募か
- 受験手帳

**平成18年度  
進路指導オリエンテーション**

**日時** 平成19年2月27日(火) 13:00~

**場所** 5201大講義室

**対象** 4年生全員

**次第**

- (1) オリエンテーション 進路指導委員会委員長
- (2) 専攻科について 専攻科長
- (3) 質疑応答

**東京工業高等専門学校  
進路指導委員会**



資料 7-2-④-4

### 進路指導講演会実施要項

1. 目 的

学外識者を招いて進路に関する講演会を実施し、学生に進路への意識を高めるとともに、進路について考える機会とする。

2. 実施日程

第1回目：平成18年7月6日（木） 13：00～14：00

第2回目：平成19年1月18日（木） 13：00～14：00

3. 講 師

第1回目：住友金属鉱山株式会社技術本部青梅研究所 能見 育孝 氏

第2回目：日本分光株式会社総務部部长 篠崎 美雄 氏

4. 対象学年

第4学年全員

5. 開催場所

本校第5棟2階 大講義室

6. 担 当

進路指導委員会（委員長：教務主事）

（出典 学生課資料）

資料 7-2-④-5

## 専攻科に関する大学院との推薦協定

平成 19 年 3 月現在

| 番号 | タイトル                                      | 締結調印                      | 締結年月日            | 締結期間        |
|----|-------------------------------------------|---------------------------|------------------|-------------|
| 1  | 早稲田大学大学院情報生産システム研究科と東京工業高等専門学校の推薦入学に関する覚書 | 早稲田大学大学院情報生産システム研究科研究科委員長 | 平成 16 年 6 月 2 日  | 有効期間は 5 年間  |
| 2  | 北陸先端科学技術大学院大学と東京工業高等専門学校の推薦入学に関する協定書      | 北陸先端科学技術大学院大学長            | 平成 17 年 5 月 24 日 | 調印の日から 6 年間 |

- 1 -

(出典 学生課資料)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ ガイダンスの一環としての合宿研修は学生の評価が非常に高い。
- ・ 図書館の整備状況と利用状況が優れている。
- ・ 海外学生交流は規模と歴史の両面で優れている。
- ・ 学生相談室・保健室・学生課と担任・学級指導教員との連携が良い。
- ・ 大学院推薦入学協定など進路に関する支援体制が整っている。

(改善を要する点)

- ・ 特になし

## (3) 基準7の自己評価の概要

本校では、準学士課程1年生と専攻科1年生の全員に対して、ガイダンスを適切に実施しており、特に合宿研修に対する学生の満足度は高い。その他の学年に対しても、学習・教育目標に関するガイダンスが実施されている。

学生に対する、相談・助言に関しては、担任、学級指導教員、専攻科主任・副主任が、丁寧な指導を実施している。さらに、科目担当教員による相談・助言の体制として、オフィスアワーが設定されシラバスに記載されている。本校の学生は、オフィスアワーに限らず、教員室に質問に行く習慣ができており、この体制はよく機能している。その他、本校ではモバイルキャンパスによる連絡、指導体制も確立している。

自主的学習環境として、図書館・コンピュータ演習室・実習工場が整備され、効果的に利用されている。図書館は、延長開館・利用案内の配布などを行っている。キャンパス生活環境として、くぬぎだ会館と食堂が整備され、効果的に利用されている。

学生のニーズは、学生図書委員会・くぬぎだ祭実行委員会・寮生会、および、担任・学級指導教員・専攻主任・副主任・科目担当教員によって把握される。

留学生に対しては、留学生に対する特別時間割を編成して支援体制を作り、日本語能力の向上や専門科目の補講を目的として、学習支援が行われている。

クラブ顧問と学生会指導担当教員が任命され、日常的な指導のほか、引率などを行っている。資金面では、後援会による補助が実施されている。また、学生会室と部室が用意され良く利用されている。

生活指導全般については、学生主事のもと担任および学級指導教員がこれに当たり、きめ細かく行っている。また、学生相談室と保健室が設置され、専門知識を持つカウンセラー3名と看護師が相談に当たっている。学生相談室、保健室ともよく利用されている。セクシャルハラスメントに対しては相談窓口が設置されている。さらに、奨学金の推薦と授業料免除の制度が学生に周知されており、利用されている。

留学生に対しては、指導教員とチューターが配置され生活面での支援に当たっており、その活動は有効に行われている。また、留学生のための施設として、留学生室と寮が整備されている。寮には、宗教上の理由で食堂や風呂を利用できない留学生のために、補食室とシャワーも完備しており、インターネットも利用できる。

施設のバリアフリー化については、第7棟・第8棟のエレベーター、第5棟・第8棟の身障者用

便所、数箇所に設置されたスロープなどが設置されている

学生寮の管理運営は、寮務委員会と学生課学生生活係が協力して担当している。自習室・談話室・補食室なども整備されて、生活環境・学習環境が整備されている。勉学の間として有効に機能するための体制としては、ポイント制の採用・学習時間の設定・寮務委員会の生活指導体制などがあげられる。また、学習指導時間を遵守させるために、舎監・寄宿舎指導員による指導を行っている。この結果、寮は勉学の間として有効に機能しており、寮生の成績は通学生の成績に引けをとらない

進路指導については、学科長と5年生の学級指導教員が連携してきめ細かく指導している。進路に関する説明会の開催、進路に関する資料の収集と閲覧、外部講師による進路指導講演会の開催などを実施している。その結果、非常に高い就職率と進学率を実現しており、内容的にも就職進学の様子は非常に優れている。その他、専攻科課程においては、早稲田大学大学院・北陸先端科学技術大学院大学との間で、推薦入学の協定を結ぶなどして進学の支援をしている。

## 基準 8 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点到に係る状況）

本校は、平成 16 年度に専攻科総合教育棟が新設され、寮の改修も行われた。現在の施設・設備は、資料 8-1-①-1 および資料 8-1-①-2 に示した状況である。校地・運動場・校長室・教員室・会議室・事務室・教室・研究室・図書館・保健室・学生控室・体育館・寄宿舎・課外活動施設・梶田会館・情報処理のための演習室・LL 教室・実習工場などが整備されており、面積などを含め、整備状況は高等専門学校設置基準(第22条) (第23条) (第24条) (第25条) (第26条) (第27条) に適合している。

本校の学習・教育目標に対応した施設として、体育施設(資料 8-1-①-3)、教室およびゼミ室(資料 8-1-①-3, 4)、研究室(資料 8-1-①-5)、実験室等(資料 8-1-①-6)、コンピュータ演習室(資料 8-1-①-7)、LL および AV 教室(資料 8-1-①-8)、図書館(資料 8-1-①-9)、実習工場(資料 8-1-①-10) が整備されており、その整備状況は、本校の教育課程の実現にふさわしい施設設備である。特徴ある施設としては次のものが挙げられる。

図書館は、工学に関する専門図書にとどまらず幅広い分野の蔵書を有しており、各種資料の閲覧・貸出し・所蔵しない文献の取り寄せ、電子ジャーナルの閲覧なども可能である。その他、自習室やパソコンなども整備されている。また、平日は 20 時まで、土曜日にも 17 時まで開館しており、学生の幅広いニーズに答えることが可能である。

LL 教室は図書館棟の一角に位置しており、学生が図書や AV 資料を借りるなどの日常的な学習活動と密接に関連付けられているのが特徴である。教室内も広いスペースが確保されており、一クラス 40 名程度の学生数には十分である。LL 機器の更新も近々予定されている。

実習工場は、基準 7 で示したように本校の実習で不可欠な機器を取り揃えており、授業内で行う実習だけでなく、卒業研究やロボコンの課外活動などにおいても、利用申請すれば時間外でも利用できるような体制をとっており、学生の幅広いニーズに対応することができる仕組みになっている。

有効に活用されているかという観点では、教室はもちろんのこと、演習室、実験室、ゼミ室、LL 教室、実習工場などの施設も、授業でよく利用されており(資料 8-1-①-11)、教育課程の実現に貢献している。また、図書館、演習室、実習工場などが学生の自主的学習環境としてよく利用されている(資料 8-1-①-12、資料 8-1-①-13、ただし実習工場の利用状況については現地閲覧資料を参照)。特に実習工場は 5 月から 10 月にかけて週 10 時間ロボコンで使用、そのほか卒研などで年間 435 時間の利用がある。

また、本校では、安全衛生管理規定を設け(資料 8-1-①-14)、パトロールを実施するなど(資料 8-1-①-15)、安全を重視した管理体制をとっている。特に、実習工場では、安全を確保するための十分な対策を実施している。さらに、本校は、環境モデル校として、環境に配慮した

活動を実施している（資料 8-1-①-16）。

現在、施設のバリアフリー化をさらに推進しているところである。現状では、第 7 棟・第 8 棟のエレベーター、第 5・8 棟の身障者用便所、数箇所に設置されたスロープなどが設置されている（前掲の資料 7-2-②-3）。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科総合教育棟が新設され、寮の改修も行われた。施設・設備の整備状況は高等専門学校設置基準（第 22 条）（第 23 条）（第 24 条）（第 25 条）（第 26 条）（第 27 条）に適合している。

また、本校の学習・教育目標に対応した施設が整備されており、その整備状況は、本校の教育課程の実現にふさわしい施設設備である。特に図書館の整備状況は良く、学生の自主的学習環境としてよく利用されている。演習室、実験室、ゼミ室、LL 教室、実習工場などの施設も、授業でよく利用されており、教育課程の実現に貢献している。また、図書館、演習室、実習工場は授業時間外の利用も可能であり学生の多様なニーズに対応している。

また、本校では、安全パトロールを実施するなど、安全を重視した管理体制をとっている。さらに、環境モデル校として、環境に配慮した活動を実施している。

バリアフリー化は、現在、さらに推進しているところである。現状では、第 7 棟・第 8 棟のエレベーター、第 5・8 棟の身障者用便所、数箇所に設置されたスロープなどが設置されている。

以上により、学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されている。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされている。



資料 8-1-①-1

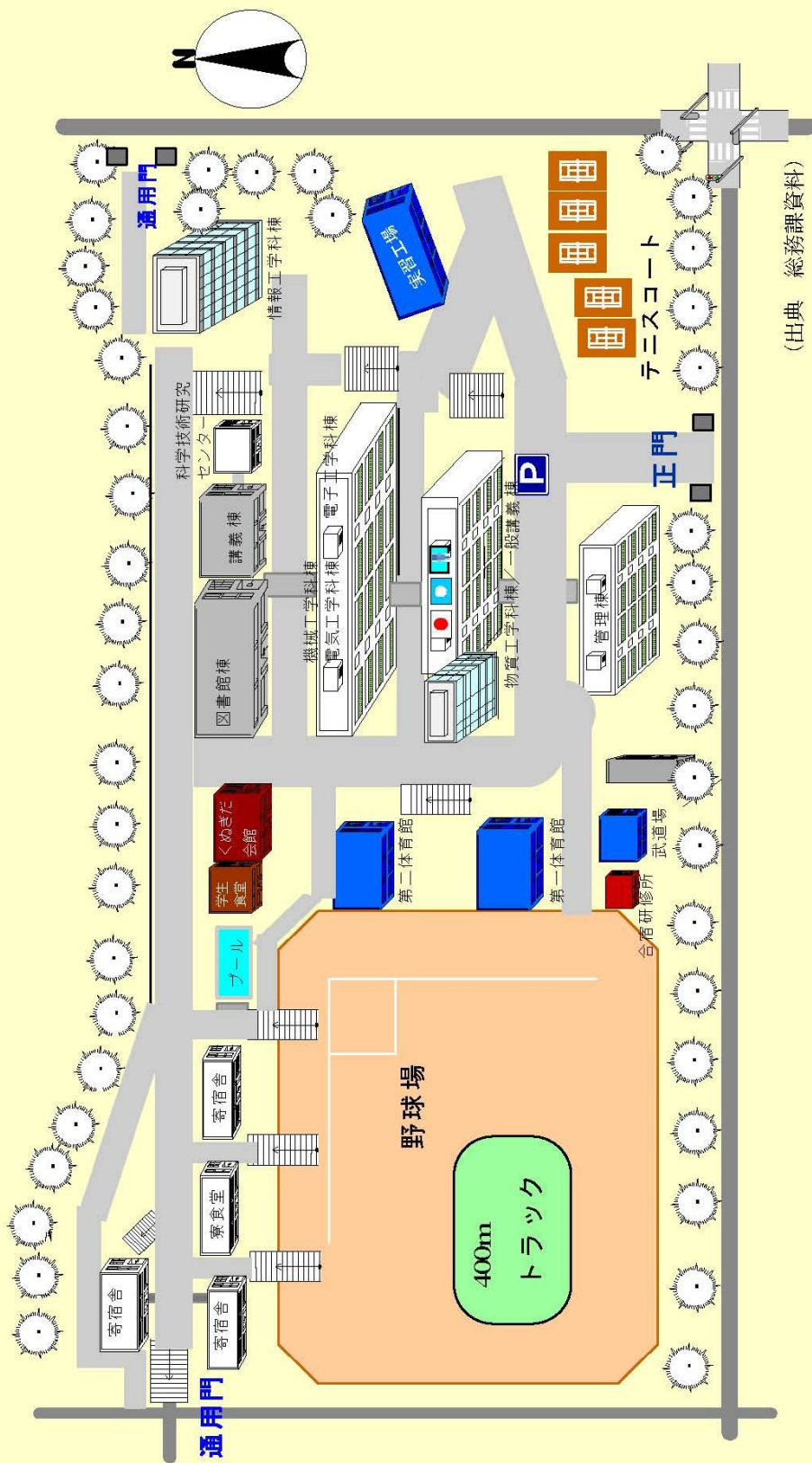
## 建 物

| 番号 | 名 称               | 構 造   | 築 年         | 面積     |
|----|-------------------|-------|-------------|--------|
| 1  | 第1棟(管理棟)          | RC3   | S41. 46. 54 | 1,684  |
| 2  | 第2棟(講義棟・物質工学科棟)   | RC4   | S41. H7     | 4,208  |
| 3  | 第3棟(機械・電気・電子工学科棟) | RC4   | S42. 46     | 5,456  |
| 4  | 第4棟(図書館棟)         | RC2-1 | S49. H8     | 2,097  |
| 5  | 第5棟(新講義棟)         | RC2   | S56         | 660    |
| 6  | 第6棟(地域連携テクノセンター)  | RC2   | S57         | 461    |
| 7  | 第7棟(情報工学科棟)       | RC5   | H1          | 2,224  |
| 8  | 第8棟(専攻科・総合教育棟)    | RC4   | H17         | 1,168  |
| 9  | 機械実習工場            | S1    | S41         | 726    |
| 10 | 第1棟体育館            | SRC1  | S41. 60     | 1,123  |
| 11 | 第2棟体育館            | SRC1  | S57         | 880    |
| 12 | 武道場               | S1    | S44         | 311    |
| 13 | 体育器具庫             | CB    | S42         | 56     |
| 14 | 部室                | CB    | S46         | 100    |
| 15 | 合宿研修所             | S1    | S54         | 196    |
| 16 | くぬぎだ会館            | RC2-1 | S58         | 663    |
| 17 | 学生食堂              | S1    | S46         | 216    |
| 18 | 課外教育共用施設          | RC1   | S59         | 98     |
| 19 | 第1寄宿舍             | RC3   | S41         | 1,326  |
| 20 | 第2寄宿舍             | RC4   | S41. 42     | 1,298  |
| 21 | 第3寄宿舍             | RC4   | S46         | 1,362  |
| 22 | 寮食堂               | RC1   | S41. 42. 55 | 699    |
|    | 職員宿舎、その他          |       |             | 3,821  |
|    |                   |       |             | 30,833 |

(出典 総務課資料)

資料 8-1-1-①-1

# 東京高専構内建物配置図



資料 8-1-①-1

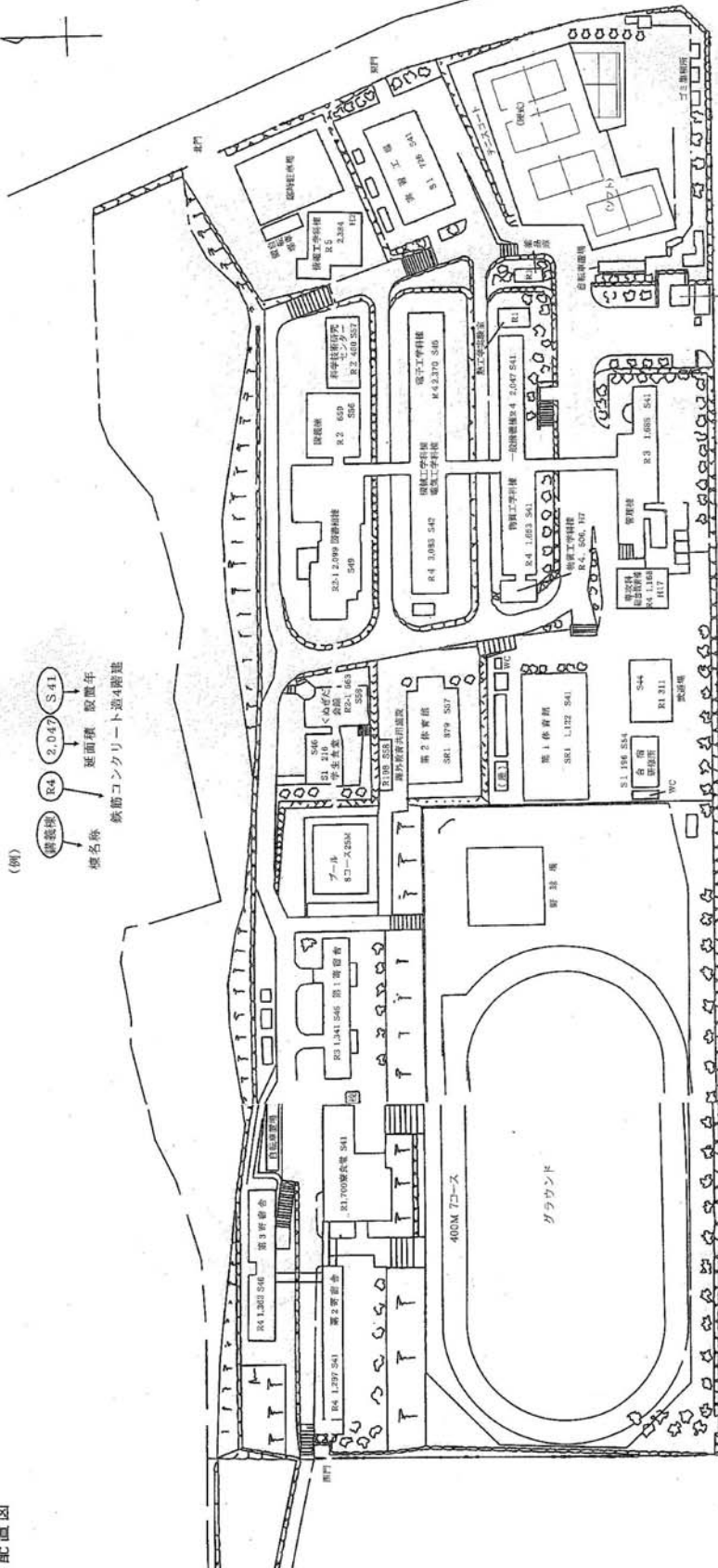


(R: 鉄骨コンクリート造)  
(S: 鉄骨造)

(例)



配置図



守衛所 R1 2006 542 (出典 総務課資料)

-162-

|                       | 施設名称       | 面積                   | 内 訳                                                              |
|-----------------------|------------|----------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1<br>体<br>育<br>施<br>設 | 運動場        |                      | 野球場、サッカーコート、陸上トラック                                               |
|                       | テニスコート     | 26,024m <sup>2</sup> | クレーコート(2面)、ハードコート(2面)                                            |
|                       | プール        |                      |                                                                  |
|                       | 第1体育館      | 1,123m <sup>2</sup>  |                                                                  |
|                       | 第2体育館      | 880m <sup>2</sup>    |                                                                  |
|                       | 武道場        | 311m <sup>2</sup>    |                                                                  |
|                       | 一般講義室      | 58~88m <sup>2</sup>  | 25室                                                              |
|                       | 専攻科講義室     | 42~57 m <sup>2</sup> | 3室                                                               |
|                       | 大講義室       | 261 m <sup>2</sup>   |                                                                  |
|                       | 共通ゼミ室      | 83 m <sup>2</sup>    | 3室                                                               |
| 2<br>講<br>義<br>室<br>等 | 第1AV教室     | 73 m <sup>2</sup>    |                                                                  |
|                       | 第2AV教室     | 128 m <sup>2</sup>   |                                                                  |
|                       | 第3AV教室     | 116 m <sup>2</sup>   |                                                                  |
|                       | マルチメディアルーム | 160 m <sup>2</sup>   |                                                                  |
|                       | 研究室        |                      | 機械工学系(8室)、電気工学系(8室)、電子工学系(9室)、情報工学系(7室)、物質工学系(17室)               |
|                       | 実験室        |                      | 物理(2室)、化学(1室)、機械工学科(9室)、電気工学科(7室)、電子工学科(7室)、情報工学科(5室)、物質工学科(16室) |
|                       | 第1演習室      | 111 m <sup>2</sup>   |                                                                  |
| 5                     | 第3演習室      | 111 m <sup>2</sup>   |                                                                  |
|                       | LL教室       | 104 m <sup>2</sup>   |                                                                  |
| 7                     | 図書館        | 632 m <sup>2</sup>   | 閲覧室、マルチメディアコーナー、リスニングルーム、グループ学習室                                 |
| 8                     | 実習工場       | 726 m <sup>2</sup>   | 機械工場、溶接室、鋳造室、CAD-CAM室                                            |
| 9                     | 自学自習室      | 107 m <sup>2</sup>   |                                                                  |

(注) 参考資料

(7) 東京工業高等専門学校体育施設使用心得

体育施設の使用については、その存在価値を高め、その機能を最大限に発揮させるよう十分な配慮をすとともに、東京工業高等専門学校学生準則第28条及び校内施設の課外使用についての規定を守り管理その他において使用者が良識を持って行動する。

【体育施設の使用心得】

使用者は、原則として本校学生及び教職員とする。

【体育施設の範囲】

第一体育館（チャロワー室を含む）、第二体育館、武道場、運動場、プール、テニスコート

【体育施設の運営責任者】

体育教員とする。

【体育施設の使用責任者】

- (1) 授業で使用する場合、指導教員とする。
- (2) 課外活動で使用する場合は、クラブ顧問、指導教員とする。
- (3) (1)、(2)以外で学生等が使用する場合は、その代表者とする。

【体育施設の使用手続】

- (1) クラブ活動で使用する場合  
年度当初に、使用するクラブ間で調整し、体育教員の了承を得てから「学生会所属団体活動計画書」2部を作成し、学生会に提出する。  
なお、提出時期は、4月、10月の年2回とする。
- (2) クラブ活動以外で本校学生が使用する場合  
「施設設備使用許可願」を、体育教員の了承を得てから、学生課学生支援係（以下「学生支援係」という。）に提出する。ただし、体育教員の指示に従うことを条件に、所定の使用簿に記入して使用することができる。
- (3) 本校以外の者が使用する場合  
「財産一時使用願書」を事前に総務課財務係に提出する。  
〔一時貸出可能施設〕  
運動場、第一体育館、第二体育館、テニスコート、武道場の各体育施設とする。

(出典 学生便覧)

【体育施設内での物品を破損した場合の手続】

「物品等破損届」を使用責任者を經由して、学生支援係に提出する。その場合、状況に応じて一部又は全部の費用を弁償させることがある。

【体育施設使用上の注意事項】

- ① 事故が起こらないように安全に配慮して使用すること。
- ② 運動にふさわしい服装を使用すること。
- ③ 体育の授業で使用しているときは、施設内に立ち入らないこと。
- ④ 使用した用具その他は、所定の位置に整理整頓しておくこと。
- ⑤ 使用後は清掃を行い、火気に注意して戸締まり及び消灯等を確認すること。
- ⑥ 施設内では飲食をしないこと。
- ⑦ 施設内に私物を放置しないこと。

【事故発生時の対処方法】

別紙「事故発生時の緊急連絡網（処置図）」参照のこと。

【各施設ごとの一般心得】

1. 体育館（第一、第二）
  - (1) 使用時間  
8時40分から19時30分までとする。
  - (2) 鍵の保管及び貸出し  
別紙「鍵の取扱方法」参照のこと。
  - (3) 注意事項
    - ① 土足は厳禁とする。体育館専用の靴に限り使用を認める。
2. 運動場
  - (1) 使用時間  
8時40分から19時30分までとする。
  - (2) 照明器具の鍵  
体育教員の指示に従うこと。
  - (3) 注意事項
    - ① 雨の日及び状況の悪い日の使用は避けること。
    - ② 運動場内を通行しないこと。
    - ③ 運動場内に車両を乗り入れないこと。
    - ④ 砂塵が起らないように散水に心がけること。
    - ⑤ 使用后、運動場を出るときは、運動靴の泥を十分に払い落とすこと。
    - ⑥ ラインカーは使用後石灰を払いしておくこと。

- ⑨ プール使用の際は必ず2人以上で使用し、絶対に1人で泳いでほ  
ならない。
- ⑩ 使用者は必ず備付けの使用簿に所定事項を記入すること。
- ⑪ オイルの使用は禁止する。

#### 5. 武道場

- (1) 使用時間 8時40分から19時30分までとする。
- (2) 鍵の保管及び貸出し 別紙「鍵の取扱方法」参照のこと。
- (3) 注意事項
- ① 靴の使用は禁止する。

平成7年11月1日実施

#### 鍵の取扱方法

##### 【体育館・武道場】

1. 鍵は、朝警備員室から学生支援係が受領する。
2. 授業時間帯は、体育教員が開錠し施錠する。
3. 授業時間帯以外は、使用者は学生支援係で鍵を借受け各施設に設置のキーボックスに一時保管し、最終使用者が施錠し17時15分までは学生支援係に、それ以後は警備員室に返却する。
4. 休業日の前日(17時15分)学生支援係は、鍵を警備員室に預ける。
5. 休業日に施設を使用する場合は、鍵を警備員室で借り受け、警備員室に返却する。ただし、警備員室から借り受けける場合は、本人の学生証と引替えとする。
6. 各施設には、それぞれ使用簿を置いておくので、必ず記載すること。

以上

#### (8) 東京工業高等専門学校合宿研修所使用要領

1. 本校合宿研修所(以下「研修所」という。)を使用する場合は、別紙「合宿研修所使用願」を使用開始希望日の10日前までに、顧問教員又は指導教員の承認を得て学生課学生支援係に提出し、校長の許可を受けなければならない。1
2. 研修所を使用することができる者は、本校学生、教職員、その他校長が適当と認めたものとする。
3. 研修所の使用許可期間は、原則として7日以内とする。

①—33

3. テニスコート
- (1) 使用時間 8時40分から19時30分までとする。
- 体育教員の指示に従うこと。

##### 照明器具の鍵

##### 注意事項

- ① テニスコート内にテニスシューズ以外で入らないこと。
- ② テニス以外の目的に使用しないこと。
- ③ 雨の日及び状態の悪い日の使用は避けること。
- ④ テニスコート内に車両を乗り入れないこと。

#### 4. 水泳プール

- (1) 使用期間 6月中旬から9月下旬までとし、原則として休業日の使用は禁止する。ただし、水泳部が課外活動で使用する場合は、この限りではない。プール開設初期は学年歴に拘載。

#### (2) 使用時間

8時40分から19時00分までとする。ただし、休講時及び昼休みの使用は禁止する。

#### (3) 鍵の保管及び貸出し

体育教員の指示に従うこと。

#### (4) プールの管理運営

体育教員・水泳部顧問・総務課施設係が協議して当たる。清掃は原則として水泳部員が行う。

#### (5) 注意事項

- ① 8コース中、水泳部練習中は南側4コース(1.2.3.4.)を水泳部が優先使用する。
- ② 使用前は、シャワーで身体を洗い、準備運動を行うこと。使用後は整理運動を行い、また、洗眼、うがいを行い、身体の水気をよくふき取ること。
- ③ プールサイドを走り廻ったり、他人の迷惑になるようなこと。又は危険な飛び込みやふざけた行為は絶対に行わないこと。
- ④ 衛生管理上又は健康上、水泳が不適当と認められるときは直ちに使用を制限、又は禁止する場合がある。
- ⑤ 水泳帽子は必ず着用し、水泳着以外では絶対に泳いでほならない。
- ⑥ 更衣は定められた更衣室で行い、貴重品は各自で管理すること。
- ⑦ 使用時間は厳守し、最終の使用者は、プール内外の安全を確認して施錠すること。
- ⑧ 使用後は必ず温水シャワーのスイッチを切ること。

(庄井 学生便覧)

資料 8-1-①-3

体育施設写真

グラウンド



体育館及びトレーニング機器



武道場



プール



テニスコート



ハードコート

クレーコート



(出典 総務課資料)

一般教室の概要

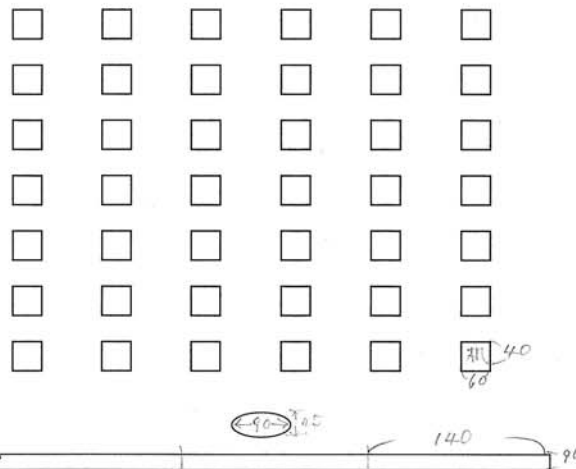
資料 8-1-①-4

レイアウト図 (フリーハンド可)

・室名称: 3D (2203) ・室面積: 57 m<sup>2</sup> ・用途: 教室 ・使用者及び人数: 42 人

・主な備品類

教卓 学生用机・椅子 教材入れ ~~ロッカー~~ 掃除用具入れ ~~傘立て~~



室内の写真



コメント欄

7-9  
サイト 40+ 設備 追加設置  
(出典 総務課資料)



資料 8-1-①-4

## 講義室一覧

| 施設名称       | 面積                   | 室数 | 収容人数(人) | 設備等                           |
|------------|----------------------|----|---------|-------------------------------|
| 一般講義室      | 56~60 m <sup>2</sup> | 19 | 42      |                               |
|            | 68 m <sup>2</sup>    | 3  | 50      |                               |
|            | 72~88 m <sup>2</sup> | 3  | 50      |                               |
| 専攻科講義室     | 42~57 m <sup>2</sup> | 3  | 25~30   |                               |
| 大講義室       | 261 m <sup>2</sup>   | 1  | 200     | ピアノ、液晶プロジェクター、電動スクリーン、放送設備    |
| 共通ゼミ室      | 67 m <sup>2</sup>    | 1  | 45      |                               |
|            | 83 m <sup>2</sup>    | 2  | 45      |                               |
| 第1AV教室     | 73 m <sup>2</sup>    | 1  | 50      | 資料8-1-①-4AV機器参照               |
| 第2AV教室     | 128 m <sup>2</sup>   | 1  | 70      | 資料8-1-①-4AV機器参照               |
| 第3AV教室     | 116 m <sup>2</sup>   | 1  | 60      | 資料8-1-①-4AV機器参照               |
| マルチメディアルーム | 160 m <sup>2</sup>   | 1  | 70      | 液晶プロジェクター、電動スクリーン、放送設備、パソコン端末 |
| 自学自習室      | 107 m <sup>2</sup>   | 1  |         | パソコン、パソコン端末                   |

2 講義室等

(出典 総務課資料)

資料 8-1-①-5

| 所属       | 研究室名称        | 室番     | 面積 | 設備等                                          |
|----------|--------------|--------|----|----------------------------------------------|
| 機械工学系研究室 | 材料加工学第2実験室   | 3102   | 20 | パソコン、作業台、棚、机、ロッカー                            |
|          | 材料実験室        | 3110   | 33 | パソコン、作業台、棚、机、ロッカー                            |
|          | ロボット工学実験室    | 3116   | 57 | パソコン、作業台、棚、机、ロッカー                            |
|          | 計測実験室        | 3204   | 56 | 実験机、パソコン、卓上ボール盤、真空ポンプ、コックレック、ヒューズボックス他       |
|          | 精密機械・表面工学実験室 | 3205-2 | 57 | 表面粗さ計、微小硬さ試験機、スケール、机、冷蔵庫、ロッカー他               |
|          | 熱工学第2実験室     | 3212-2 | 19 | パソコン、机、フリーザー、書棚他                             |
|          | メカトロ第2実験室    | 3212-1 | 19 | パソコン、机、冷蔵庫、書棚他                               |
| 電気工学系研究室 | メカトロ第1実験室    | 3213   | 37 | 書棚、パソコン、実験机、ロッカー、工具台、工具棚、キャビネット他             |
|          | 伊藤(彰)実験室     | 3301-2 | 30 | フィルタの特性測定装置一式、パソコン                           |
|          | 館泉実験室        | 3302-2 | 29 | 学生用机、パソコン、書棚、工具棚、作業台                         |
|          | 玉田実験室        | 3308   | 38 | IR分光計、可視分光計、蒸着装置、電源装置、ドラフト、CVD装置他            |
|          | 土井実験室        | 3311   | 37 | 電力系統解析装置、卒研等学生用パソコン6台                        |
|          | 大貫実験室        | 3410   | 31 | 実験机、机、パソコン、器具棚、冷蔵庫                           |
|          | 松井実験室        | 3413   | 28 | パソコン、机、サーボモータ実験装置                            |
| 電子工学研究室  | 須原実験室        | 3414   | 29 | 実験台、放電実験用電源、オシロスコープ、パソコン、真空排気装置、他            |
|          | 伊藤(浩)実験室     | 3415   | 37 | 学生用机、書棚、真空蒸着装置、計測器、パソコン                      |
|          | 一戸実験室        | 3125   | 53 | スパッタリング成膜装置、電気特性評価システム、イオン成膜装置他              |
|          | 柚賀実験室        | 3216   | 38 | 実験装置、作業机、パソコン、冷蔵庫、保管庫他                       |
|          | 谷田部実験室       | 3217   | 38 | 薬品庫、発振器、変圧器台、薬品保冷庫、スパッタリング装置、排気装置他           |
|          | 加藤実験室        | 3314   | 19 | 吸着実験装置、Nox分析計、SO2分析計、薬品庫、作業台他                |
|          | 加藤実験室        | 3315   | 19 | ガスク、恒温槽、フラスコホルダ、PH計秤、超純水装置、器具庫他              |
| 情報工学系研究室 | 永吉実験室        | 3323-1 | 29 | 永吉実験室 真空蒸着装置、真空処理装置、電気特性評価装置、机、流し台、薬品棚、パソコン他 |
|          | 青木実験室        | 3432   | 29 | 机、本棚、パソコン                                    |
|          | 鹿毛実験室        | 3433   | 29 | 机、実験台、冷蔵庫、パソコン台、ガラス入れ、ラック、パソコン、冷蔵庫           |
|          | 大塚実験室        | 3425   | 31 | 机、長机、パソコン、本棚                                 |
|          | 情報基礎研究室Ⅰ     | 7305   | 56 | 書棚、机、机、流し台、パソコン                              |
|          | 情報基礎研究室Ⅱ     | 7306   | 42 | 平机、ホブゾック、書棚、流し台、机                            |
|          | 知能情報研究室      | 7401   | 67 | 平机、書棚、流し、机、パソコン、冷蔵庫、大型ディスプレイ                 |
| 物質工学研究室  | 情報通信研究室      | 7405   | 53 | ホブゾック、書棚、OA机、モニター、パソコン、キャビネット、冷蔵庫他           |
|          | 制御情報研究室Ⅰ     | 7501   | 67 | パソコン、机、書庫、棚、食器棚、冷蔵庫、流し、棚                     |
|          | 制御情報研究室Ⅱ     | 7506   | 42 | パソコン、机、書庫、棚、食器棚、冷蔵庫、流し、棚、ロボ、消音装置             |
|          | 制御情報研究室Ⅲ     | 7505   | 53 | 机、書棚、書庫、流し台、パソコン                             |
|          | 菊地実験室        | 2105   | 58 | 定温乾燥機、スパッタ装置、真空装置、SEM、蒸気式ポンプ他                |
|          | 庄司実験室        | 2109   | 38 | テーパグラマー、発光レーザー、遺伝子毒性測定装置、藻類培養装置他             |
|          | 庄司実験室        | 2110   | 38 | クリーンベンチ、ドラフト、遺伝子増幅装置、液体クロマトグラフィ、遠心分離器他       |
| 情報工学系研究室 | 石井実験室        | 2121   | 31 | 机、棚、パソコン、机、冷蔵庫                               |
|          | 石井実験室        | 2123   | 21 | 薬品庫、ドラフト、乾燥機、実験台、机、流し                        |
|          | 工藤実験室        | 2207   | 29 | 薬品庫、ドラフトベンチ、乾燥器、電気化学アナライザー、恒温槽他              |
|          | 工藤実験室        | 2211   | 38 | 薬品管理ラック、メタルラック、書庫、冷蔵庫、PCラック他                 |
|          | 三谷実験室        | 2221   | 62 | 実験台、ドラフトベンチ、クリーンベンチ、ビペット台、冷却ポンプ、薬品棚他         |
|          | 高橋実験室        | 2308-1 | 29 | 滅菌庫、実験台、恒温槽、薬品庫、冷蔵庫                          |
|          | 阿久沢実験室       | 2309   | 29 | 机、棚、ストーブ、他                                   |
|          | 城石実験室        | 2310-2 | 29 | 実験台、机、器具庫、薬品庫、真空蒸着装置、ロッカー                    |
|          | 阿久沢実験室       | 2313   | 38 | X線回折装置、BSR装置、電流磁気効果測定装置、レドフラミン分光光度計他         |
|          | 高橋(三)実験室     | 2314   | 38 | 机、実験台、冷蔵庫、実験台、パソコン台、ガラス入れ他                   |
|          | 北折実験室        | 2321   | 62 | 机、薬品庫、乾燥機、棚、ロッカー他                            |
|          | 土屋実験室        | 2409-2 | 29 | ドラフト、机、パソコン、書棚、冷蔵庫                           |
|          | 中川実験室        | 2413   | 38 | 恒温槽、乾燥機、ドラフトベンチ、実験台、書棚他                      |
|          | 町田実験室        | 2422   | 30 | ドラフト、乾燥機、机、試薬庫、冷蔵庫、ロッカー、流し他                  |

(出典 総務課資料図面等から集計)

資料 8-1-①-6

## 実験室等一覧

| 所属       | 実験室名称        | 室番     | 面積                           | 設備等                                      |
|----------|--------------|--------|------------------------------|------------------------------------------|
| 物理実験室    | 物理実験室        | 2205   | 126                          | 実験機、ドラフトチェンバー、キャビネット他                    |
|          | 応用物理実験室      | 7205   | 73                           | 実験機、書庫、物品棚、テーブル、流し                       |
| 化学実験室    | 一般化学実験室      | 2103   | 118                          | イオン交換水製造装置、純水製造装置、ドラフトチェンバー、実験台他         |
| 機械工学科実験室 | 材料加工学第1実験室   | 3103   | 59                           | 超塑性鍛造装置、小型引張試験機、金属顕微鏡他                   |
|          | 流体・熱工学実験室    | 3104   | 127                          | 熱工学実験装置、流体実験装置、風洞実験装置、ポンプ実験装置他           |
|          | 材料実験室        | 3107   | 85                           | 万能試験機、小型引張試験機、電気油圧式疲労試験機他                |
|          | メカトロ実習室      | 3202-2 | 116                          | 旋盤、ボール盤、フライ盤、パソコ、教育用ロボット、シミュレーション制御学習装置他 |
|          | 設計システム実験室    | 3203   | 30                           | パソコ、オシロ等測定機器、卓上ボール盤                      |
|          | 製図室          | 3205-1 | 122                          | 製図台、ドラフター、スチール棚、机他                       |
|          | 空調機械室        | 3207   | 9                            | エアコン、制御盤、タクト、レーザーレーザレーザ集録装置              |
|          | 恒温室          | 3208   | 19                           | 歯車試験機、万能測定顕微鏡、摩擦係数測定装置、カトメータ他            |
|          | 精密測定室        | 3210   | 12                           | 3次元座標測定機、工具顕微鏡、パソコラック、コンピュータ、会議用机他       |
| 電気工学科実験室 | 高度計測評価実験室    | 3111-2 | 25                           | 小型プローブ顕微鏡、低雑音プローブシステム、ドラフター、計測用パソコン      |
|          | 電子材料物性室      | 3112   | 84                           | 電子ビーム蒸着装置、スパッタリング装置、ドラフター、ガス安全装置、分光光度計   |
|          | エネルギー変換実験室   | 3113   | 119                          | マイコン実験装置、FPGA実験装置、パソコン                   |
|          | 高圧実験室        | 3115   | 49                           | 電圧調整器、試験用変圧器、衝撃電圧発生器、球間隙、がいし装置、他         |
|          | 電気工学基礎実験室    | 3304   | 87                           | 電源装置、測定機器、AVプロジェクター式、作業台、棚、冷蔵庫           |
|          | 電子デバイス実験室    | 3306   | 126                          | 実験机10台、実験器具(直流電源、発振器、各種計測器等)と収納棚         |
|          | 電算機応用実験室     | 3312   | 58                           | パソコン(学生用21台、教師用2台)、机、椅子                  |
| 電子工学科室   | 材料・プロセス実験室   | 3124   | 60                           | 蒸着機、スクラブ、電磁石、クワイエット、I-V、C-V測定機、クリーンルーム他  |
|          | 機器室          | 3122   | 19                           | 机、パソコン他                                  |
|          | 測定室          | 3123   | 19                           | 可視分光システム、分光測定機、分光評価システム、机、本棚             |
|          | 回路系実験室・小池実験室 | 3221-1 | 77                           | 実験机、排風機フィルタ、パソコラック、部品棚、スチール棚他            |
|          | 電子工学実験室      | 3322   | 175                          | 実験机                                      |
|          | 情報系実験室       | 3426   | 60                           | 長机、本棚、パソコン、机                             |
|          | 電子工学特別教室     | 3427   | 116                          | 机、長机                                     |
| 情報工学科実験室 | 情報工学実験室      | 7203   | 116                          | 机、パソコン、オシロ等測定機器、基盤加工機                    |
|          | 実験室          | 7301   | 67                           | OA机、パソコン、書棚、オープンラック、書架カメラ、プロジェクタ         |
|          | 創造工房         | 7406   | 42                           | OA机、カラープリンター、AVラック、スクリーン、書棚、オープンラック他     |
|          | コンピュータ演習室Ⅰ   | 7408   | 73                           | 印刷機、キャビネット、スキャナ、シュレッダー、洗面台、机他            |
|          | コンピュータ演習室Ⅱ   | 7508   | 73                           | パソコ、机、棚、書庫、流し台                           |
| 物質工学科実験室 | 化工実験室        | 2107   | 123                          | ドラフト、クリーンベンチ、薬品庫、高速遠心器、ガスろ、実験台他          |
|          | コンピュータ室      | 2124   | 21                           | 机、実験台、測定データ解析用パソコン、流し台、測定機器              |
|          | 分析実験室        | 2209   | 170                          | ドラフトチェンバー、恒温乾燥機、イオン交換水製造装置、実験台他          |
|          | 天秤室          | 2210   | 19                           | 薬品庫、防爆冷蔵庫、排気機能付薬品庫、電子天秤                  |
|          | 物理化学実験室      | 2307   | 58                           | ドラフト、ストーンテーブル、実験台、流し                     |
|          | 創造実験室        | 2310-1 | 29                           | 蒸留水製造装置、ストーンテーブル、実験台                     |
|          | 物理化学準備室      | 2311-2 | 19                           | ストーンテーブル、真空排気装置、グローブボックス、薬品庫他            |
|          | SEM室         | 2312   | 19                           | 電子顕微鏡、デジタルカメラ、EDX分析装置、イオンスポット装置他         |
|          | 機器分析室        | 2407   | 29                           | 原子吸光度計、ポンプ、ICP分析発光装置、イオンロケットラック他         |
|          | 機器分析室        | 2408   | 29                           | コンピュータ、熱分析装置他                            |
|          | 有機化学実験室      | 2410-1 | 93                           | ドラフトチェンバー、実験台、局所排気装置、クリーンベンチ、乾燥機他        |
|          | C科コンピュータ室    | 2410-2 | 29                           | パソコン、書庫、プリンター、ファイルケース                    |
|          | 有機化学実験室      | 2411-1 | 38                           | 薬品庫、ドラフト、冷却装置、実験台、冷蔵庫他                   |
|          | 有機化学準備室      | 2411-2 | 19                           | 防爆冷凍冷蔵庫、薬品庫、冷凍庫、棚                        |
| 分光分析室    | 2423         | 21     | 分光光度計、デシケター、フューズ交換赤外線吸光度計、机他 |                                          |
| NMR室     | 2424         | 21     | NMR、圧力計、コンピュータ、机、流し台、本棚      |                                          |

(出典 総務課資料図面等より集計)

資料 8-1-①-7

コンピュータ演習室 設備および利用状況

○部屋数、収容人数、机、パソコンの台数

第一演習室 (5101)

面積 111.1㎡

収容人数 50名

机 50台、プロジェクタ1台 (EUS UC-X200)、プリンタ2台 (EIOH M750)

パソコンの台数 50台 ( Fujitsu FM-E63S)

インストール ソフト  
 Microsoft Office 2003  
 Symantec AntiVirus 9  
 SolidWorks 2006  
 NetBeans 5.0  
 GNU octave 2.1.73  
 ActivePerl  
 AddressBook 8  
 Surio  
 EFTP 1.92  
 GIMP

第三演習室

面積 111.1㎡

収容人数 50名

机 47台、プロジェクタ1台 (EUS UC-1200)、プリンタ2台 (Canon LP-3800)  
 (シンククライアント方式サーバ (Windows2003) 1台)  
 シンククライアント方式端末 (Multifove) 47台

インストール ソフト  
 Microsoft Office 2003  
 Symantec AntiVirus 10  
 D-mstar  
 Peak Simulation  
 AddressBook 7  
 TerraPad  
 E 2.3.1  
 Autodesk

2. コンピュータ演習室の利用状況  
 前期と後期について第一演習室と第三演習室の利用率

平成16年度

前期 利用率 35/36 97.2%

第三演習室 利用率 26/36 72.2%

休務

第一演習室 利用率 35/36 97.2%

第三演習室 利用率 22/36 61.1%

時間割外

7/31(月)～8/1(火) 唐櫃工学科公開講座  
 8/4(金) 機械工学科メカトロニクス体験講座  
 12/11(月)～7/22(金) 16:00～17:00英語補修

(出典 マルチメディア委員会資料)

資料8-1-①-8

## L L教室, AV室の利用機器及び利用マニュアルについて

### L L教室 (定員48名): 図書館棟2階

特 徴: 大画面のモニターテレビ及び各学生用机にあるモニターテレビにプリント・OHPシート・教材実物・ビデオ教材・LD教材・DVD教材・パソコン画面を提示できる。

使用可能機器: ビデオビューア (教材提示装置) / VHSビデオ / βビデオ / 8ミリビデオ / LD / CD / MD / DVD / カセットテープ / ノートパソコン (学内LAN接続済)

### 第1 AV室 (定員50名): 情報工学科棟3階

特 徴: 液晶プロジェクターにより大型スクリーンにビデオ教材を提示できる他、モニターテレビでも教材を提示できる。パソコンを持ち込んで接続すれば液晶プロジェクターにより大型スクリーンにパソコン画面を提示できる。

使用可能機器: OHP / VHSビデオ / βビデオ / LD / CD / DVD / カセットテープ

### 第2 AV室 (定員70名): 図書館棟1階

特 徴: 液晶プロジェクターにより大型スクリーンにプリント・OHPシート・教材実物・ビデオ教材・パソコン画面を提示できる。モニターテレビでもビデオ教材を提示できる。

使用可能機器: ビデオビューア (教材提示装置) / OHP / VHSビデオ / βビデオ / LD / CD / DVD / カセットテープ / パソコン (学内LAN接続済)

### 第3 AV室 (定員60名): 情報工学科棟1階

特 徴: 液晶プロジェクターにより大型スクリーンにビデオ教材を提示できる他、モニターテレビでも教材を提示できる。パソコンを持ち込んで接続すれば液晶プロジェクターにより大型スクリーンにパソコン画面を提示できる。

使用可能機器: OHP / VHSビデオ / βビデオ / LD / DVD

#### 【利用方法】

1. 原則的に、授業での利用が優先されます。
2. 授業で利用されていない時間帯等に利用したい場合は、Workboxにより利用の予約を行ってください。60日前から予約可能: 学科講演会, 卒業研究発表での利用予約は学生課を通じて行ってください。
3. L L教室及びAV室施設のほか、貸出用機器もWorkboxで利用の予約を行ってください。  
貸出用機器: 液晶プロジェクター, スクリーン, OHP

#### 【利用マニュアルについて】

1. 機器の利用マニュアルは、各利用施設に備えてあります。
2. また、Workboxの電子ファイリングにPDF形式でファイリングされています。

(出典 総務課資料)

資料8-1-①-8

## LL教室概要

**LL教室**（定員48名）：図書館棟2階

特 徴：大画面のモニターテレビ及び各学生用机にあるモニターテレビにプリント・OHPシート・教材実物・ビデオ教材・LD教材・DVD教材・パソコン画面を提示できる。

使用可能機器：ビデオビューア（教材提示装置）／VHSビデオ／βビデオ／8ミリビデオ／LD／CD／MD／DVD／カセットテープ／ノートパソコン（学内LAN接続済）

2. また、Workboxの電子ファイリングにPDF形式でファイリングされています。



（出典 総務課資料）

資料 8-1-①-9

図書館既設施設の使用実態調査

| 室名                           | 室面積 | 収容人数 |
|------------------------------|-----|------|
| 1 グループ学習室 (2 F)              | 32  | 14   |
| 2 リスニングルーム (2 F)             | 43  | 12   |
| 3 閲覧室 (マルチメディアコーナー含む) (2 F)  | 274 | 23   |
| 4 開架書架・ホール (2 F)             | 49  | 88   |
| 5 集密書架・閲覧書架・プララジングコーナー (1 F) | 234 | 42   |
| 6 応接室 (1 F)                  | 15  | 6    |
| 7 図書館事務室 (1 F)               | 35  | 6    |
| 8 談話室 (1 F)                  | 49  | 15   |
| 計                            | 731 | 206  |

|                              | テレビ | ビデオ | CD | LD | コピー機 | 机 (1人) | 机 (2人) | 机 (4人) | 机 (12人) | パソコン |
|------------------------------|-----|-----|----|----|------|--------|--------|--------|---------|------|
| 1 グループ学習室 (2 F)              |     |     |    |    |      |        |        | 5      |         |      |
| 2 リスニングルーム (2 F)             | 1   | 1   | 1  |    |      |        |        |        |         |      |
| 3 閲覧室 (マルチメディアコーナー含む) (2 F)  | 4   | 3   | 2  | 1  |      | 10     | 4      | 10     |         | 20   |
| 4 開架書架・ホール (2 F)             |     |     |    |    |      |        | 2      | 2      |         |      |
| 5 集密書架・閲覧書架・プララジングコーナー (1 F) |     |     |    |    | 1    | 3      | 2      |        | 1       | 3    |
| 6 応接室 (1 F)                  |     |     |    |    |      |        |        |        |         |      |
| 7 図書館事務室 (1 F)               |     |     |    |    |      |        |        |        |         |      |
| 8 談話室 (1 F)                  | 1   |     |    |    | 1    |        | 1      | 2      |         |      |
|                              | 6   |     |    |    | 2    | 13     | 9      | 19     | 1       | 23   |

(出典 図書専門委員会資料)

実習工場設備等一覧

| 施設名称       | 面積                 | 収容人数(人) |
|------------|--------------------|---------|
| 実習工場棟      | 380 m <sup>2</sup> | 30      |
| 新造         | 90 m <sup>2</sup>  | 10      |
| 溶接         | 41 m <sup>2</sup>  | 10      |
| CAD/CAM室   | 70 m <sup>2</sup>  | 15      |
| 第1オーフンスベース | 65 m <sup>2</sup>  |         |
| 第2オーフンスベース | 50 m <sup>2</sup>  |         |

| 番号 | 品名       | 台数 | メーカー     | 装置      |
|----|----------|----|----------|---------|
| 1  | ショットブラスト | 1  | 白鐵       | RU-3A 他 |
| 2  | ダイキャスト   | 1  | 川口ダイキャスト | R-20    |
| 3  | サントミル    | 1  | 三和機工     | SKA-J   |
| 4  | グラインダ    | 1  | 三菱       | T6-3557 |
| 5  | ルツボ      | 1  |          | 300     |
| 6  | 万能糸鋸盤    | 1  | 旭精機      | YS-1NR  |
| 7  | ベルトサンダー  | 1  | 淀川       |         |

| 番号 | 品名        | 台数 | メーカー    | 装置         |
|----|-----------|----|---------|------------|
| 1  | アーケ溶接機    | 4  | 大阪電機    | BC         |
| 2  | 溶接ユニット集塵機 | 2  | 富士エントナー | NFA-20N    |
| 3  | CO2半自動溶接機 | 1  | ナショナル   | YM-180SP-2 |
| 4  | アルゴン溶接機   | 1  | 大阪製作    | AE-300     |
| 5  | 溶接        | 1  | 日立      | ABT-H3     |

| 番号 | 品名         | 台数 | メーカー      | 装置                 |
|----|------------|----|-----------|--------------------|
| 1  | 溶接         | 10 | テクノソン     | LR35R              |
| 2  | 汎用旋盤       | 1  | 山崎製作所     | MAZAK JUNIOR       |
| 3  | NC旋盤       | 1  | ツガミ       | MERCURY T-NCM45/60 |
| 4  | ワイヤカット     | 1  | ファナック     | TARE CUT MODEL SP  |
| 5  | 横フライス盤     | 2  | エンジユウ     | HF-2               |
| 6  | 立フライス盤     | 1  | エンジユウ     | VF-2               |
| 7  | ターレットフライス盤 | 1  | エンジユウ     | FB-Ⅲ               |
| 8  | NCフライス盤    | 1  | エンジユウ     | NR-F               |
| 9  | シューパー      | 1  | 中村製機製作所   | KN 101             |
| 10 | スロットャー     | 1  | 中防鋳造工務所   |                    |
| 11 | 白鐵研削盤      | 1  | 西本製作所     | PSG-52AN           |
| 12 | 平面研削盤      | 1  | シキヤ       | GP-24.40A          |
| 13 | マシニングセンタ   | 1  | キヤ        | PC-30E             |
| 14 | ワーキング      | 1  | 菊水産業      | KS-4E12H           |
| 15 | 折り曲げ機      | 1  | 山口プレス     | U-330              |
| 16 | 卓上ボール盤     | 9  | キヤ        | KID-420 他          |
| 17 | 直立ボール盤     | 2  | AASHINA 他 | AUD-520 他          |
| 18 | スポット溶接機    | 1  | ナショナル     | YF-0502K           |
| 19 | ハンドプレス     | 1  | 生活環境工業    | H-T10              |
| 20 | コンターマシン    | 1  | 日本工業      | 410                |
| 21 | プレス        | 1  | 菊水産業      | KP-20              |
| 22 | 溶接         | 3  |           |                    |
| 23 | ソフティング     | 3  | 日立 他      | ABT4 他             |
| 24 | 工具研削盤      | 2  | 飯田製作所     | YG-200F            |
| 25 | 小径フライス盤    | 1  | LAGIERA   |                    |
| 26 | ティーフルソー    | 1  | マキタ       | Z701N              |

| 番号 | 品名      | 台数 | メーカー  | 装置      |
|----|---------|----|-------|---------|
| 1  | 3次元スキャナ | 1  | ローランド | LPX-609 |
| 2  | 小型フライス盤 | 2  | ローランド | MDX-49  |

| 番号 | 品名      | 台数 | メーカー | 装置       |
|----|---------|----|------|----------|
| 1  | 汎用旋盤    | 1  | アマダ  | H-250-SA |
| 2  | 高速カッター  | 1  | 松下   | K05      |
| 3  | ベルトサンダー | 1  | 光陽研磨 |          |

| 種類                                      | 台数  |
|-----------------------------------------|-----|
| 溶接機、溶接工機、CAD室、第1オーフンスベース、第2オーフンスベース、集塵室 | 59名 |
| 汎用旋盤、工場、第5車、CAD室8車、第1オーフンスベース2車、集塵室9車   | 28名 |
| 工場4台、CAD室13台、第1オーフンスベース3台、事務室7台         | 27台 |

資料 8-1-①-10

(出典 実習工場資料)



平成18年度前期時間割(案) 資料1-1-①-2 前期時間割案

| 18年度前期 | 19年度前期 | 20年度前期 | 21年度前期 | 22年度前期 | 23年度前期 | 24年度前期 | 25年度前期 | 26年度前期 | 27年度前期 | 28年度前期 | 29年度前期 | 30年度前期 | 31年度前期 | 32年度前期 | 33年度前期 | 34年度前期 | 35年度前期 | 36年度前期 | 37年度前期 | 38年度前期 | 39年度前期 | 40年度前期 | 41年度前期 | 42年度前期 | 43年度前期 | 44年度前期 | 45年度前期 | 46年度前期 | 47年度前期 | 48年度前期 | 49年度前期 | 50年度前期 | 51年度前期 | 52年度前期 | 53年度前期 | 54年度前期 | 55年度前期 | 56年度前期 | 57年度前期 | 58年度前期 | 59年度前期 | 60年度前期 | 61年度前期 | 62年度前期 | 63年度前期 | 64年度前期 | 65年度前期 | 66年度前期 | 67年度前期 | 68年度前期 | 69年度前期 | 70年度前期 | 71年度前期 | 72年度前期 | 73年度前期 | 74年度前期 | 75年度前期 | 76年度前期 | 77年度前期 | 78年度前期 | 79年度前期 | 80年度前期 | 81年度前期 | 82年度前期 | 83年度前期 | 84年度前期 | 85年度前期 | 86年度前期 | 87年度前期 | 88年度前期 | 89年度前期 | 90年度前期 | 91年度前期 | 92年度前期 | 93年度前期 | 94年度前期 | 95年度前期 | 96年度前期 | 97年度前期 | 98年度前期 | 99年度前期 | 100年度前期 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 18年度前期 | 19年度前期 | 20年度前期 | 21年度前期 | 22年度前期 | 23年度前期 | 24年度前期 | 25年度前期 | 26年度前期 | 27年度前期 | 28年度前期 | 29年度前期 | 30年度前期 | 31年度前期 | 32年度前期 | 33年度前期 | 34年度前期 | 35年度前期 | 36年度前期 | 37年度前期 | 38年度前期 | 39年度前期 | 40年度前期 | 41年度前期 | 42年度前期 | 43年度前期 | 44年度前期 | 45年度前期 | 46年度前期 | 47年度前期 | 48年度前期 | 49年度前期 | 50年度前期 | 51年度前期 | 52年度前期 | 53年度前期 | 54年度前期 | 55年度前期 | 56年度前期 | 57年度前期 | 58年度前期 | 59年度前期 | 60年度前期 | 61年度前期 | 62年度前期 | 63年度前期 | 64年度前期 | 65年度前期 | 66年度前期 | 67年度前期 | 68年度前期 | 69年度前期 | 70年度前期 | 71年度前期 | 72年度前期 | 73年度前期 | 74年度前期 | 75年度前期 | 76年度前期 | 77年度前期 | 78年度前期 | 79年度前期 | 80年度前期 | 81年度前期 | 82年度前期 | 83年度前期 | 84年度前期 | 85年度前期 | 86年度前期 | 87年度前期 | 88年度前期 | 89年度前期 | 90年度前期 | 91年度前期 | 92年度前期 | 93年度前期 | 94年度前期 | 95年度前期 | 96年度前期 | 97年度前期 | 98年度前期 | 99年度前期 | 100年度前期 |

(出典 平成18年度前期時間割より該当科目のみ抜粋)



資料 8-1-①-12

## 図書館利用状況

|        | 入館者数  |   | 貸出冊数     |
|--------|-------|---|----------|
| 平成12年度 | 71937 | 人 | 7547 冊等  |
| 平成13年度 | 68151 | 人 | 6930 冊等  |
| 平成14年度 | 66688 | 人 | 7733 冊等  |
| 平成15年度 | 67790 | 人 | 9511 冊等  |
| 平成16年度 | 71519 | 人 | 9279 冊等  |
| 平成17年度 | 67353 | 人 | 12541 冊等 |
| 平成18年度 | 72355 | 人 | 15530 冊等 |

## 一般開放における利用状況

|        | 入館者数 |          | 貸出冊数   |
|--------|------|----------|--------|
| 平成12年度 | 2700 | 人(含土曜学生) | 348 冊等 |
| 平成13年度 | 2468 | 人(含土曜学生) | 388 冊等 |
| 平成14年度 | 710  | 人        | 426 冊等 |
| 平成15年度 | 831  | 人        | 607 冊等 |
| 平成16年度 | 769  | 人        | 234 冊等 |
| 平成17年度 | 1251 | 人        | 203 冊等 |
| 平成18年度 | 713  | 人        | 801 冊等 |

(出典 図書専門委員会資料)

資料 8-1-①-13

2003年5月26日

実習工場長 黒崎 茂

## 実習工場時間外開放規定

ロボコンおよび放課後時間外実習作業（例えば機械工学科卒業研究等）のために実習工場の使用について下記の申し合わせを定める。

## 1. 開放時間

平日（17：00～20：00）、土・日・休日（9：00～17：00）

## 2. 鍵の受け渡しについて

- (1) 時間外に使用する場合は使用当日（休日使用の場合は前日）16：00迄に担当教員が実習工場（第一技術班）から鍵と鍵貸出簿を受け取る。（学生に対する鍵の受け渡しは行わない）
- (2) 使用日（土、日、休日の場合は休み明け）の翌日9：00迄に鍵と鍵貸出簿を実習工場（第一技術班）に返却する。

## 3. 工場使用中の対処について

- (1) 学生は緊急時に必ず担当教員の連絡をとり指示を仰ぐこと。担当教員は適切な処置をとること。
- (2) 学生が工場を使用中、担当教員は必ず所在を明らかにしておくこと。（緊急時の対応のため）
- (3) 工場は学生2以上で使用する事。（緊急時の対応のため）
- (4) 使用ミスによる機械、工具の破損について発生する修理・購入に関わる費用は原則として使用者（担当教員）の負担とする。
- (5) 担当教員の代役として第一技術班の技術職員が時間外監視はできないものとする。

## 4. 工場使用後の対処について

- (1) 機械の清掃、工具類の片付を学生に徹底させる。
- (2) 使用機器の電源を止めることの確認。
- (3) 工場内照明の消灯確認。
- (4) 鍵貸出簿には使用日時、担当教員名、使用学生名、使用機器名を記入、機器故障等の特記事項があれば記載。
- (5) 戸締まりの確認、窓開閉の確認の後に施錠。

当面は上記による方法で実習工場を時間外開放するが、状況に応じて規定の変更を行う。

- 1 -

(出典 実習工場資料)

資料 8-1-①-13

## コンピュータ演習室利用心得

平成15年2月

情報教育専門委員会

17時にシャットダウンされます。

コンピュータ演習室は授業や独習でコンピュータリテラシヤやプログラミング言語を学ぶ環境を提供しています。不心得な学生の行為によりこの環境が破壊されたりすることがないように1人1人心がけて下さい。

利用に当たっては以下のことに留意して下さい。

1. 一般常識に関する事
  - (1) 演習室内で飲食はしない事。
  - (2) 入室時はスリッパに履き替える事。また、脱いだ靴は所定の場所に整然と置く事。
  - (3) 退出時はパソコン、ディスプレイ等の電源を確認し、イスを整理する事。
  - (4) その他、他人の迷惑になる事はしない事。
2. コンピュータ利用上の注意
  - (1) アカウントの取り扱いに注意する事。特にアカウントの貸し借りは慎む事。  
(貸したアカウントにより問題が発生した場合でも、本来のアカウント所有者が賠償責任を負います。他人がログインし、パスワードを入力する場面では目を離しましょう。)
  - (2) 演習室内ではゲームをしないこと。
  - (3) USBコネクタ端子への接続はUSBフラッシュメモリ以外は接続しない事。
  - (4) ネットワークに接続してダウンロードしたソフトウェアをPCにインストールしない事。
  - (5) 電子掲示板への書き込み、チャット、オークション参加、ネット上のゲーム参加、音楽ファイルの収集など本来の学習目的以外の用途に用いない事。
  - (6) アダルトサイト等の教育上不適切なサイトにアクセスしない事。(中には悪意のあるサイトもあり、罣が仕掛けられている場合もあります。)
  - (7) ハッキング、迷惑メールの送付、ウイルスの送付等の迷惑行為はしない事。
  - (8) プリントアウトの際は用紙の無駄使いを慎む事。
3. 罰則  
上記の規則を破った場合、アカウントの取り消し、演習室使用禁止等の処分を受ける事になります。

(出典 情報教育専門委員会)

東京工業高等専門学校安全衛生委員会規則

制定 平成16年4月1日  
最終改正 平成17年12月1日

(略称)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構東京工業衛生管理規則第13条第1項及び東京工業高等専門学校内閣府令第7条第3項の規定に基づき、東京工業高等専門学校安全衛生委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(略称・調査事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議及び調査する。  
(1) 教職員及び学生の危険及び健康障害を防止するための基本となるべき対策。  
(2) 教職員及び学生の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策。  
(3) 労働災害の原因及び再発防止対策。  
(4) 安全衛生に関する学生の教育及び教職員の研修（講演会、講習会等を含む）。  
(5) その他労働安全衛生法第18条第1項第四号に定める教職員及び学生の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副校長 1名
- (2) 高橋 1名
- (3) 衛生管理者 1名
- (4) 庶務課長
- (5) 会計課長
- (6) 学生課長
- (7) 人事課長
- (8) 施設課長
- (9) 学生部長
- (10) 一教員から1名
- (11) 各学科 1名
- (12) 政府機関 2名

2 委員会に委員長及び副委員長各1名を置く。  
3 委員長を除く委員のうち半数は、教職員の過半数を代表する者が推薦した者のうちから校長が指名した者とする。

(委員長等)

第4条 委員会は、副校長をもって赤で、  
2 副委員長は委員長が指名した者たるが、委員長の代理をすることもできる。

(代理人)

第5条 委員会は、第3条第1項に挙げた委員の代理人を置くことができ、その者に委員が安全衛生委員会及び関連行事に参加し困難な場合に、その委員の代理人として出席させることができる。  
2 前項の規定において、委員が過半数代表者の推薦を受けた者である場合、その代理人は過半数代表者の推薦した者のうちから選ばなければならない。

(任期)

第6条 第3条第1項第9号から第11号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補充委員の任期は、前任者の現任期間とする。

(委員長の招集)

第7条 委員会は委員長が招集し、毎月1回以上開催するものとする。

2 議事は委員長の指名する。  
3 委員会は、委員長の必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴取することができる。

4 委員会は、議長の指名を校長に報告しなければならない。

5 委員会は、議事録を作成して3年間保存しなければならない。  
(委員会の成立・議決)

第8条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議決を置くことができない。  
2 前項において、委員が欠席してもその代理人が出席している場合は、当該委員は出席とみなす。  
3 議決を要する事項については、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決すところによる。

(安全衛生パトロール)

第9条 委員会は、年内の安全衛生パトロールを毎月1回以上行い、労働環境の改善及び労働災害防止に努める。

2 委員会は、パトロールの結果を公告に公表することができる。  
3 安全衛生パトロールで指摘を受けた部署の管理責任者は、速やかに是正報告書を委員事務局に提出し、該当部署の改善を行わなければならない。

4 前項の是正報告書に添付された改善状況の記録は、該当部署の次回安全衛生パトロール時に行う、指摘箇所に改善が認められない場合、委員会は該当部署の管理責任者に再改善を指示を行うことができる。

5 委員会は、安全衛生パトロール結果、是正報告書を3年間保存しなければならない。  
6 委員会は、委員、代理人のほか、本校に在籍する衛生管理者、体育教員及び女子教職員を必要に応じて安全衛生パトロールに参加させることができる。

(事務)

第10条 委員会の事務は、庶務課において処理する。  
(附則)

第11条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

この規則は、平成17年3月23日から施行する。

この規則は、平成17年12月1日から施行する。

この規則施行後第3条第1項第9号から第11号の委員の任期は、第6条の規定にかかわらず平成18年3月31日までとする。

平成18年度第1回安全衛生パトロール分担表  
平成18年4月分

| 実施日・時間帯             | 対象施設                                              | 委員名                                 |
|---------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 4月25日(火)<br>10時30分～ | 第1棟 専攻科棟<br>渡り廊下(1棟-2棟)<br>(女子更衣室)<br>周辺屋外        | (1班)<br>*小 坂<br>山 本<br>筒 井<br>川 上   |
| 4月25日(火)<br>16時00分～ | 第2棟東側(中央階段含む)<br>渡り廊下(2棟-3棟)<br>第2棟南側階段<br>熟工学実験室 | (2班)<br>*金 澤<br>茂 木<br>城 石<br>藤 野   |
| 4月28日(金)<br>11時00分～ | 第2棟西側1, 2階(新棟含む)                                  | (3班)<br>*中 川<br>谷 田 部<br>青 野<br>内 山 |
| 5月1日(月)<br>15時20分～  | 第2棟西側3, 4階(新棟含む)                                  | (4班)<br>*玉 田<br>中 里<br>星 田          |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山が担当する。

資料8-1-①-15

平成18年度第2回安全衛生パトロール分担表  
平成18年5月分

| 実施日・時間帯             | 対象施設                              | 委員名                                 |
|---------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 6月6日(火)<br>10時30分～  | 第3棟東側1, 2F(中央階段含む)<br>渡り廊下(3棟-4棟) | (1班)<br>小 坂<br>山 本<br>*筒 井<br>川 上   |
| 5月25日(木)<br>16時00分～ | 第3棟東側3, 4F<br>(中央階段含む便所から)        | (2班)<br>金 澤<br>*茂 木<br>城 石<br>藤 野   |
| 5月26日(金)<br>11時00分～ | 第3棟西側1, 2F<br>(西側屋外倉庫含む)          | (3班)<br>中 川<br>*谷 田 部<br>青 野<br>内 山 |
| 6月5日(月)<br>15時30分～  | 第3棟西側3, 4F                        | (4班)<br>*玉 田<br>中 里<br>星 田          |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

平成18年度第3回安全衛生パトロール分担表  
平成18年6月分

| 実施日・時間帯                             | 対象施設                                                                 | 委員名                                 |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 6月27日(火)<br>10時30分～<br>集合場所: 図書館前玄関 | 第4棟, 第5棟, 第6棟<br>上記建物以北の屋外                                           | (1班)<br>小 坂<br>*山 本<br>筒 井<br>川 上   |
| 6月15日(木)<br>16時00分～<br>集合場所: 第7棟玄関  | 第7棟, 北門,<br>北自転車置き場<br>北テニスコート<br>周辺屋外                               | (2班)<br>金 澤<br>茂 木<br>*城 石<br>藤 野   |
| 6月16日(金)<br>11時00分～<br>集合場所: 実習工場   | 実習工場,<br>東門, テニスコート,<br>ゴミ置き場,<br>自転車置き場, 周辺屋外                       | (3班)<br>中 川<br>谷 田 部<br>*青 野<br>内 山 |
| 6月26日(月)<br>15時30分～<br>集合場所: 専攻科棟玄関 | 第1体育館, 第2体育館<br>体育器具庫, 武道場<br>合宿研修所(トイレ含む)<br>野球場内野と第2体育館以南の<br>周辺屋外 | (4班)<br>*玉 田<br>中 里<br>星 田          |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

平成18年度第4回安全衛生パトロール分担表  
平成18年7月分

| 実施日・時間帯             | 対象施設                                                  | 委員名                                |
|---------------------|-------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 8月2日(水)<br>10時00分～  | くぬぎだ会館<br>学生食堂<br>プールと附属家<br>課外教育共用施設<br>第2体育館以北の周辺屋外 | (1班)<br>小 坂<br>山 本<br>筒 井<br>川 上   |
| 7月25日(火)<br>16時00分～ | 1寮<br>寮食堂<br>周辺屋外                                     | (2班)<br>金 澤<br>茂 木<br>城 石<br>藤 野   |
| 7月25日(火)<br>9時30分～  | II寮, III寮<br>西門<br>西自転車置き場,<br>周辺屋外                   | (3班)<br>中 川<br>谷 田 部<br>青 野<br>内 山 |
| 7月25日(火)<br>16時00分～ | 危険物倉庫, 正門<br>守衛所<br>学科棟周辺屋外<br>野球場内野以外のグラウンド全域        | (4班)<br>玉 田<br>中 里<br>星 田          |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

(出典 安全衛生委員会記録)

資料 8-1-①-15

平成18年度第5回安全衛生パトロール分担表  
平成18年8月分

| 実施日・時間帯             | 対象施設                                             | 委員名                            |
|---------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------|
| 8月31日(木)<br>15時30分～ | 第1棟<br>専攻科棟<br>渡廊下(1棟-2棟)<br>周辺屋外を含む             | (1班)<br>*小坂<br>山本<br>筒井<br>川上  |
| 9月12日(火)<br>16時00分～ | 第2棟東側(中央階段含む)<br>渡廊下(2棟-3棟)<br>第2棟南側階段<br>熱工学実験室 | (2班)<br>*金澤<br>茂木<br>城石<br>藤野  |
| 9月15日(金)<br>15時30分～ | 第2棟西側1.2F(新棟含む)                                  | (3班)<br>*中川<br>谷田部<br>青野<br>内山 |
| 8月31日(木)<br>15時30分～ | 第2棟西側3.4F(新棟含む)                                  | (4班)<br>玉田<br>*中里<br>星<br>飯田   |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

平成18年度第6回安全衛生パトロール分担表  
平成18年9月分

| 実施日・時間帯             | 対象施設                             | 委員名                           |
|---------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| 9月19日(火)<br>17時00分～ | 第3棟東側1.2F(中央階段含む)<br>渡り廊下(3棟-4棟) | (1班)<br>小坂<br>山本<br>筒井<br>川上  |
| 9月12日(火)<br>16時00分～ | 第3棟東側3.4F<br>(中央階段含む便所から)        | (2班)<br>金澤<br>茂木<br>城石<br>藤野  |
| 9月15日(金)<br>13時30分～ | 第3棟西側1.2F<br>(西側屋外倉庫含む)          | (3班)<br>中川<br>谷田部<br>青野<br>内山 |
| 9月19日(火)<br>17時00分～ | 第3棟西側3.4F                        | (4班)<br>玉田<br>中里<br>星<br>飯田   |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

2・34等、  
8月分、  
15時、  
4.1.5.

平成18年度第7回安全衛生パトロール分担表  
平成18年10月分

| 実施日・時間帯              | 対象施設                                                               | 委員名                           |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 10月24日(火)<br>10時30分～ | 第4棟、第5棟、第6棟<br>上記建物以北の屋外                                           | (1班)<br>小坂<br>山本<br>筒井<br>川上  |
| 10月19日(木)<br>13時30分～ | 第7棟、北門、<br>北自転車置き場<br>北テニスコート<br>周辺屋外                              | (2班)<br>金澤<br>茂木<br>城石<br>藤野  |
| 10月27日(金)<br>11時00分～ | 実習工場、<br>東門、テニスコート、<br>ゴミ置き場、<br>自転車置き場、周辺屋外                       | (3班)<br>中川<br>谷田部<br>青野<br>内山 |
| 10月16日(月)<br>15時20分～ | 第1体育館、第2体育館<br>体育器具庫、武道場<br>合宿研修所(トイレ含む)<br>野球場内野と第2体育館以南の<br>周辺屋外 | (4班)<br>玉田<br>中里<br>星<br>飯田   |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

平成18年度第8回安全衛生パトロール分担表  
平成18年11月分

| 実施日・時間帯              | 対象施設                                                  | 委員名                           |
|----------------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 11月21日(火)<br>10時30分～ | くぬぎだ会館<br>学生食堂<br>プールと附属家<br>課外教育共用施設<br>第2体育館以北の周辺屋外 | (1班)<br>小坂<br>山本<br>筒井<br>川上  |
| 11月30日(火)<br>13時30分～ | 1寮<br>寮食堂<br>周辺屋外                                     | (2班)<br>金澤<br>茂木<br>城石<br>藤野  |
| 11月24日(金)<br>11時00分～ | 2寮、3寮<br>西門<br>西自転車置き場、<br>周辺屋外                       | (3班)<br>中川<br>谷田部<br>青野<br>内山 |
| 11月27日(月)<br>16時20分～ | 危険物倉庫、正門<br>守衛所<br>学科棟周辺屋外<br>野球場内野以外のグラウンド全域         | (4班)<br>玉田<br>中里<br>星<br>飯田   |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

(出典 安全衛生委員会記録)



資料 8-1-①-15

平成18年度第9回安全衛生パトロール分担表  
平成18年12月分

| 実施日・時間帯              | 対象施設                                             | 委員名                           |
|----------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------|
| 12月12日(火)<br>10時30分～ | 第1棟<br>専攻科棟<br>被褥下(1棟-2棟)<br>周辺屋外を含む             | (1班)<br>小坂<br>山本<br>筒井<br>川上  |
| 12月14日(木)<br>13時10分～ | 第2棟東側(中央階段含む)<br>被褥下(2棟-3棟)<br>第2棟南側階段<br>熱工学実験室 | (2班)<br>金澤<br>茂木<br>城石<br>藤野  |
| 12月1日(金)<br>11時00分～  | 第2棟西側1,2F(新棟含む)                                  | (3班)<br>中川<br>谷田部<br>青野<br>内山 |
| 11月27日(月)<br>16時10分～ | 第2棟西側3,4F(新棟含む)                                  | (4班)<br>玉田<br>中里<br>星<br>飯田   |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

平成18年度第10回安全衛生パトロール分担表  
平成19年1月分

| 実施日・時間帯             | 対象施設                            | 委員名                           |
|---------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 1月23日(火)<br>10時30分～ | 第3棟東側1,2F(中央階段含む)<br>被褥下(3棟-4棟) | (1班)<br>小坂<br>山本<br>筒井<br>川上  |
| 1月25日(木)<br>13時15分～ | 第3棟東側3,4F<br>(中央階段含む便所から)       | (2班)<br>金澤<br>茂木<br>城石<br>藤野  |
| 1月26日(金)<br>11時00分～ | 第3棟西側1,2F<br>(新棟廊外倉庫含む)         | (3班)<br>中川<br>谷田部<br>青野<br>内山 |
| 1月29日(月)<br>15時30分～ | 第3棟西側3,4F                       | (4班)<br>玉田<br>中里<br>星<br>飯田   |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

平成18年度第11回安全衛生パトロール分担表  
平成19年2月分

| 実施日・時間帯             | 対象施設                                                               | 委員名                           |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 2月6日(火)<br>10時30分～  | 第4棟、第5棟、第6棟<br>上記建物以北の屋外                                           | (1班)<br>小坂<br>山本<br>筒井<br>川上  |
| 2月15日(木)<br>13時10分～ | 第7棟、北門、<br>北自転車置き場<br>北デニスコート<br>周辺屋外                              | (2班)<br>金澤<br>茂木<br>城石<br>藤野  |
| 2月9日(金)<br>11時00分～  | 実習工場、<br>東門、デニスコート、<br>ゴミ置き場、<br>自転車置き場、周辺屋外                       | (3班)<br>中川<br>谷田部<br>青野<br>内山 |
| 2月20日(火)<br>15時00分～ | 第1体育館、第2体育館<br>体育器具庫、武道場<br>合宿研修所(トイレ含む)<br>野球場内野と第2体育館以南の<br>周辺屋外 | (4班)<br>玉田<br>中里<br>星<br>飯田   |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

平成18年度第12回安全衛生パトロール分担表  
平成19年3月分

| 実施日・時間帯            | 対象施設                                                  | 委員名                           |
|--------------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 3月8日(木)<br>10時00分～ | くぬぎだ会館<br>学生食堂<br>プールと附属家<br>課外教育共用施設<br>第2体育館以北の周辺屋外 | (1班)<br>小坂<br>山本<br>筒井<br>川上  |
| 3月8日(木)<br>10時00分～ | I寮<br>寮食堂<br>周辺屋外                                     | (2班)<br>金澤<br>茂木<br>城石<br>藤野  |
| 3月8日(木)<br>10時00分～ | II寮、III寮<br>西門<br>西自転車置き場、<br>周辺屋外                    | (3班)<br>中川<br>谷田部<br>青野<br>内山 |
| 3月8日(木)<br>10時00分～ | 危険物倉庫、正門<br>守衛所<br>学科棟周辺屋外<br>野球場内野以外のグラウンド全域         | (4班)<br>玉田<br>中里<br>星<br>飯田   |

女子更衣室及び女子便所のパトロールは内山人事係長が担当する。

(出典 安全衛生委員会記録)

東京工業高等専門学校環境専門委員会運営内規

制定 平成 18 年 2 月 2 日

(趣旨)

第 1 条 この内規は、東京工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則第 6 条第 2 項の規定に基づき、東京工業高等専門学校環境専門委員会（以下「専門委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(任務)

第 2 条 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 環境方針に関すること。
- (2) 環境目的・目標に関すること。
- (3) 環境プログラムシステムに関すること。
- (4) 環境目的・目標・プログラムの達成状況の確認とその是正に関すること。
- (5) 監視、測定の実態に関すること。
- (6) その他環境に配慮した取組に関すること。

(組織)

第 3 条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副校長 1 名
- (2) 教員の中から自己点検・評価委員会が指名した者 若干名
- (3) 事務部長
- (4) 各課長
- (5) 事務職員の中から自己点検・評価委員会が指名した者 若干名

(任期)

第 4 条 前条第 1 号及び第 2 号並びに第 5 号に定める委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の現任期間とする。

(委員及び副委員長)

第 5 条 専門委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。

2 委員長は専門委員会を招集し、その議長となる。

3 副委員長は委員のうちから委員長が指名し、専門委員会において委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を専門委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(事務)

第 7 条 専門委員会の事務は、関係各課の協力を得て、会議室において処理する。

附 則

この内規は、平成 18 年 2 月 2 日から施行する。

平成 18 年度環境専門委員会報告

1. 構内一斉清掃の実態

平成 18 年 6 月から平成 19 年 2 月までの 9 ヶ月間に計 7 回の構内一斉清掃を実施した。

(1) 実施日： 6 月 29 日(木)、9 月 29 日(木)、11 月 2 日(木)、11 月 9 日(木)、

12 月 21 日(木)、1 月 25 日(木)、2 月 15 日(木)

(2) 時間帯：13：45～14：15

(3) 参加者：学生は各クラス 5 人程度、教員は原副会長参加

(4) 学生指導：1～3 年は担任教員が指導、4.5 年は学科で責任者を指名して指導

専攻科は専攻科長が指導

(5) 効果：7 回の清掃のうち 4 回についてはゴミ別の回収量を軽減した。下表にそれを示す。

す。回を重ねるたびにゴミの量が減少し、明らかに清掃の効果が上がっていることが分かる。なお、雑草や紙木の枝も回収しその量はおよそ数トンに達した。これらバ

イオマスの有効利用が今後の課題である。

構内清掃によって集められたゴミ

| 月日    | 可燃物 | 不燃物 | ペーパー | 缶  | ビン | 廃電池 | テーパー | ボール | 紙   | その他 | 計 |
|-------|-----|-----|------|----|----|-----|------|-----|-----|-----|---|
| 6月29日 | 91  | 202 | 23   | 22 | 12 | 30  | 00   | 00  | 381 |     |   |
| 9月29日 | 26  | 16  | 03   | 34 | 00 | 00  | 00   | 79  |     |     |   |
| 11月9日 | 10  | 52  | 01   | 03 | 02 | 00  | 00   | 31  | 88  |     |   |
| 2月15日 | 67  | 12  | 00   | 11 | 00 | 00  | 00   | 90  |     |     |   |
| 計     | 193 | 281 | 27   | 70 | 15 | 30  | 31   | 648 |     |     |   |

2. 教室清掃点検

平成 18 年 9 月から平成 19 年 2 月までに計 12 回の教室清掃点検を実施した。教員の環境専門委員会が 17：00～18：00 までの約 1 時間をかけて点検した。点検は 1 回目を除き予告なしで行った。点検結果は各教室に掲示するとともに、教職員にはメールでその結果公表した。

1 年生のクラスが最もよく清掃を実施しており、学年が上がることにより清掃状況は悪化した。学生組織による自主的な清掃点検の実現が今後の課題である。

点検項目：①黒板がきれいに拭かれているか ②黒板消しにチョークが付着していないか

③チョーク置きとチョーク入れに粉がたまっていないか ④床及び机の清掃は十分か

⑤机と椅子の位置は適正か ⑥机と椅子の位置は適正か ⑦机と椅子の位置は適正か

⑧机と椅子の位置は適正か ⑨机と椅子の位置は適正か ⑩机と椅子の位置は適正か

⑪机と椅子の位置は適正か ⑫机と椅子の位置は適正か ⑬机と椅子の位置は適正か

(出典 環境委員会資料)

資料 8-1-①-16



= 東京高専環境美化取組 構内清掃によるゴミ分別状況調査 =

平成18年7月4日 送付  
平成18年7月10日付付 送付

東京高専は去る六月二十九日、学生教職員 200 人程で構内清掃を実施した。清掃により回収されたごみ及び草の量を測定した結果、可燃物 8.23kg、不燃物 20.2kg、資源スチロール 3.02kg、ペットボトル 2.28kg、缶 2.22kg、ビン 1.22kg、紙パック 0.88kg、草 500kg 以上。同校は今年度から環境モデル校に指定され、ごみの分別・減量、エネルギー節約等に積極的に取り組んでいる。今回の測定データは、環境美化のための取り組み、特に今後定期的に実施される構内清掃の成果を具体的に評価するための基礎として位置づけられている。取り取った場についても、バイオマス資源としての利用方法を検討する予定である。

当日は猛暑の中にもかかわらず、学生教職員が一丸となって環境美化に取り組んだ。構内及び周辺一帯清掃は今回を含め毎年 8 回実施する。

写真は、清掃に励む学生、教職員

(写真 環境美化調査資料)

**観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、学内LANによる情報ネットワークが構築され、演習室、卒研室、図書館などにおいて、学生が利用することができる(資料8-1-②-1)。また寮では学内LANとは別に寮生会で独自にADSL回線を契約して使用しているため、寮務委員会が中心となって運営のための支援を行っている。この学内LAN情報ネットワークは、教育課程を実現するためのニーズを満たしており(演習室の授業における利用状況に関する前掲の資料8-1-①-11)、また、学生の学習に関するニーズを満たしている。特に、図書館が20:00まで開館しているため、図書館での情報ネットワークの利用は、利用時間に関する学生のニーズを満たしている。

情報ネットワークのセキュリティに関しては、ネットワーク管理専門委員会が設置され(資料8-1-②-2)、セキュリティ・ポリシーに従って運用している(資料8-1-②-3)。これにより十分なセキュリティが確保されている。また、セキュリティを高める努力として、情報倫理教育がなされている(資料8-1-②-4)。

また、情報ネットワークは、授業において(前掲の資料8-1-①-11)、また、授業外の自主学習において(資料8-1-②-5)、よく利用されている。

(分析結果とその根拠理由)

学内LANによる情報ネットワークが構築され、演習室、卒研室、図書館などにおいて、学生の利用に供している。この情報ネットワークは、教育課程を実現するためのニーズを満たしており、また、学生の学習に関するニーズを満たしている。特に、図書館が20:00まで開館しているため、利用時間に関する学生のニーズも満たしている。

情報ネットワークのセキュリティに関しては、セキュリティ・ポリシーに従って管理している。これに加えて、情報倫理教育を実施しているため、十分なセキュリティが確保されている。また、情報ネットワークは、授業内外においてよく利用されている。

以上により、教育内容・方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されている。



資料 8-1-②-2

## 東京工業高等専門学校ネットワーク管理委員会規則

制定 平成17年12月1日

## (趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第7条第3項の規定に基づき、東京工業高等専門学校ネットワーク管理委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学内LANの管理運営に関する事。
  - (2) 学内LAN利用者の管理に関する事。
  - (3) 学内LAN設備の調査及び改善に関する事。
  - (4) その他学内LANに関する事。
- 2 審議結果は、校務執行会議に報告し、必要に応じ議を経なければならない。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教員 若干名
- (2) 技術職員 若干名
- (3) 庶務課長
- (4) その他校長が必要と認めた者

## (任期)

第4条 前条第1号、第2号及び第4号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、校長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

## (委員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

## (事務)

第7条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

## 附 則

- 1 この規則は、平成17年12月1日から施行する。
- 2 この規則施行後最初の第3条第1号、第2号及び第4号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日までとする。



資料 8-1-②-4

## 第 6 回 e-Learning WG 会議 議事録

日時 2007 年 3 月 15 日(木) 10:20-12:20

場所 7 棟 5F J 科学科会議室

出席者 (敬称略) 青木、町田、羽鳥、福井、横山(記)

平成 18 年度の重点配分経費予算で設置した「e ラーニングの試行システム」に関し、今後の e ラーニング試行の進め方についての打ち合わせをおこなった。

今後広く教科で e ラーニングを活用できるような環境を作っていくことが必要であるが、まず e ラーニング WG のメンバーを中心として、全校で活用できる次のコンテンツを試作することとした。

## 1. 東京高専学生生活入門

- ・新 1 年生向けに、学校の規則や、諸注意、ガイダンス等の内容のコンテンツを作成する。
- ・町田先生には竹田先生と相談していただき 1 年生向けのコンテンツを検討いただく。青木先生には学生係りと相談していただいて学生向けのコンテンツを検討いただく。

## 2. ネットワーク “ネチケット入門”

- ・インターネットの利用やメールの利用に関しての諸注意に関するコンテンツを作成する。
- ・羽鳥技術長中心にコンテンツの検討をいただく。

英語科の竹田先生にも WG のメンバーになっていただく(町田先生、横山)。 ー 依頼済み

e ラーニングのコンテンツを作成するにあたり、コンテンツ作成のための講習会を開くこととし、e ラーニング試行システム購入先の富士通ミドルウェアに依頼する(横山担当)。

ー 4/3(火)10:00-12:00 で開催予定に決定

以上



## 資料 8-1-②-5

前期と後期について第1演習室と第3演習室の利用率(割付られた時間/割付可能時間)の計算をお願いいたします。

平成18年度

前期

第一演習室 利用率 35/36 97.2%

第三演習室 利用率 26/36 72.2%

後期

第一演習室 利用率 35/36 97.2%

第三演習室 利用率 22/36 61.1%

時間割外

7/31(月)～8/1(火) 情報工学科公開講座

8/4(金) 機械工学科メカトロニクス体験講座

12/11(月)～7/22(金) 16:00～17:00 英語補講

その他、平日17時まで演習室は開放

(出典 マルチメディア委員会報告)

観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館には、図書・学術雑誌・視聴覚資料などが系統的に整備されているほか、多くの電子ジャーナルを利用することができる(資料 8-2-①-1)。図書の整備が教育課程を実現するために適切なものとなるよう、新たに整備する図書には教員・技術職員、および、学生の希望を反映させている(資料 8-2-①-2)。学生の希望は、学生図書委員を通して、または、図書館職員をとおして、図書委員会(教職員組織)で審議されるが、特に不適切でない限り学生の希望に沿った形で図書が購入される(資料 8-2-①-3)。

図書館はよく利用されており(資料 8-2-①-4)、電子ジャーナルもよく利用されている(資料 8-2-①-5)。

(分析結果とその根拠理由)

図書館には、図書・学術雑誌・視聴覚資料などが系統的に整備されているほか、多くの電子ジャーナルを利用することができる。学生希望図書の制度があり、学生の希望を反映した図書の整備が行われている。また、図書館はよく利用されており、電子ジャーナルもよく利用されている。

以上により、図書・学術雑誌・視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されている。



資料 8-2-①-2

## 図書の整備方針

1. 学生への支援に関する目標を達成するための措置
  - 1) 学習資料の充実に努める。
    - ①専門知識を習得すると同時に、社会生活における幅広い一般教養を身につけるために、関係図書を充実する。
    - ②専門の基礎的学力を習得するために、低学年用学習教材を充実する。
    - ③国際化に対応するための語学力（英語力）を強化するために、英語教材を充実する。
    - ④視聴覚資料（ビデオ、DVD、CD）及び市販の電子的資料（CD-ROM、ビデオ・オン・デマンド用ソフト）を充実する。
  - 2) 内外の情報を入手し、幅広い知識の習得が容易なように、環境を整備する。
    - ①インターネットを利用できる機器を充実する。
    - ②学習に有益な情報の提供及び入手方法（情報検索方法）について、適切な支援を実施すると同時に可能な環境（図書館ホームページ等）を整備する。
  - 3) 視聴覚資料及び市販の電子的資料を学習するために必要な機器を充実する。
  - 4) 専攻科学生の学士レベルの学習支援のために、内外文献資料の入手及び電子ジャーナル等の利用を促進する。
2. 教員への教育研究支援に関する目標を達成するための措置
  - 1) 図書館内外の文献等を迅速・適切に入手できる体制を整備する。
  - 2) 電子ジャーナル等の利用を促進する。
3. 社会貢献に関する目標を達成する措置
  - 1) 土曜日における一般開放をより充実させ、地域社会における生涯学習に貢献する。
  - 2) 図書館の情報を広く公開し、地域社会における利用者のニーズに応える。
  - 3) 公立図書館との連携を図り、相互利用を容易にする。

(出典 図書館資料)

学生希望図書

学生希望図書の決定方法

学生の希望図書について学生図書委員会(図書館、生協)にアンケート用紙を設置し、選定を行う。最終選定は図書委員会(教員)で審議するが、特に不適切でない限り学生の希望に沿った形で購入される。

昨年度の実績(平成18年度):26冊

平成18年度 学生希望図書一覧表

| 番号 | 書名                                     | 著者名                 | 発行所           | 納入金額   | ISBN       |
|----|----------------------------------------|---------------------|---------------|--------|------------|
| 1  | 環境計量士試験濃度・共通精選問題集                      | 三好康彦                | オーム社          | 3,591  | 4274167186 |
| 2  | 環境計量士試験濃度・共通徹底研究/なるほどナットク              | 平野明子/水代勝一/山根良一/久木英典 | オーム社          | 3,213  | 4274167127 |
| 3  | 工業英検3級問題集 '08年度版                       | 劇団ひとり               | 日本工業英語協会      | 1,512  | 4820781286 |
| 4  | 陸日向に咲く                                 | 劇団ひとり               | 幻冬舎           | 1,323  | 4344011023 |
| 5  | (エルクスト 宿命の赤き翼上ノドラゴンライダー 2)エラゴン2 上・下    | 村上春樹                | ソニー・マガジズ      | 1,701  | 4789727084 |
| 6  | (エルクスト 宿命の赤き翼下ノドラゴンライダー 2)エラゴン2 上・下    | 村上春樹                | ソニー・マガジズ      | 1,701  | 4789727092 |
| 7  | ノルウェイの森 上                              | 村上春樹                |               | 485    | 4062748681 |
| 8  | ノルウェイの森 下                              | 村上春樹                |               | 485    | 406274869X |
| 9  | ハリウッド・ポスターとナゾのプリンス 上・下セット              | J. K. ローリング         | 静山社           | 3,591  | 4915512576 |
| 10 | C++の設計と進化                              | Bjarne Stroustrup   | ソフトバンククリエイティブ | 3,780  | 4797328541 |
| 11 | バグダットのバニーニグ イラク女性の占領下日記                | リバーヘンド              | アートン          | 1,417  | 4901006754 |
| 12 | バグダットのバニーニグ いま、イラクを生きる                 | リバーヘンド 2            | アートン          | 1,323  | 4861930227 |
| 13 | 30日できる! OS自作入門                         | 川合秀実                | 毎日コミュニケーションズ  | 3,591  | 4839919844 |
| 14 | プログラミングのための線形代数                        | 平岡和幸                | オーム社          | 2,835  | 4274065782 |
| 15 | 猫でもわかるWindowsプログラミング第二版                | 桑井康孝                | ソフトバンククリエイティブ | 2,645  | 4797328487 |
| 16 | マクマリー 有機化学概説 問題の解き方 第5版 英語版            | 和歌山利宏、村井真絵          | 東京化学同人        | 2,646  | 480790597X |
| 17 | SPI2の完璧対策(2008年度版)                     | 和歌山利宏、村井真絵          | 日経人材情報        | 1,323  | 4891120843 |
| 18 | 図解ハイク工学入門                              | Charles Petzold     | 日経BPソフトプレス    | 1,568  | 4876871531 |
| 19 | C#によるプログラミングMicrosoft Windows 上        | Charles Petzold     | 日経BPソフトプレス    | 5,197  | 4891002921 |
| 20 | C#によるプログラミングMicrosoft Windows 下        | Charles Petzold     | 日経BPソフトプレス    | 4,914  | 489100293X |
| 21 | ATL comプログラミング                         | Robert C. Seacord   | 翔泳社           | 4,536  | 4881356992 |
| 22 | C/C++セキユアライジング                         | Robert C. Seacord   | アスキー          | 3,591  | 4756148239 |
| 23 | Windows Presentation Foundationプログラミング | オーム社                | オーム社          | 5,386  | 427406641X |
| 24 | プログラミングMicrosoft .NET Framework 第2版    | 翔泳社                 | 日経BPソフトプレス    | 5,670  | 4891005238 |
| 25 | Unicode 標準入門                           | 翔泳社                 | 翔泳社           | 3,591  | 4798100307 |
| 26 | C++ 標準ライブラリの使い方完全ガイド                   | 技術評論社               | 技術評論社         | 3,288  | 477412401X |
|    |                                        |                     |               | 74,903 |            |

(出典 図書専門雑誌(資料))

資料 8-2-①-4

## 図書館の開館時間延長数

## 開館延長時間

| 曜日  | 閲覧室         |
|-----|-------------|
| 月～金 | 17:00～20:00 |
| 土   | 9:00～17:00  |

| 月       | 平日    |       | 土曜日  |      | 合計    |       |
|---------|-------|-------|------|------|-------|-------|
|         | 入館者数  | 貸出冊数  | 入館者数 | 貸出冊数 | 入館者数  | 貸出冊数  |
| H18. 4月 | 6024  | 1243  | 131  | 46   | 6155  | 1289  |
| 5月      | 7614  | 1792  | 75   | 14   | 7689  | 1806  |
| 6月      | 7745  | 1204  | 211  | 44   | 7956  | 1248  |
| 7月      | 5396  | 2365  | 264  | 70   | 5660  | 2435  |
| 8月      | 1630  | 609   | 67   | 22   | 1697  | 631   |
| 9月      | 7182  | 1121  | 240  | 109  | 7422  | 1230  |
| 10月     | 7144  | 1069  | 268  | 104  | 7412  | 1173  |
| 11月     | 7152  | 1251  | 216  | 67   | 7368  | 1318  |
| 12月     | 5709  | 1586  | 211  | 89   | 5920  | 1675  |
| H19. 1月 | 5909  | 1046  | 110  | 56   | 6019  | 1102  |
| 2月      | 6833  | 1009  | 236  | 100  | 7069  | 1109  |
| 3月      | 1845  | 474   | 143  | 40   | 1988  | 514   |
| 計       | 70183 | 14769 | 2172 | 761  | 72355 | 15530 |

(出典 図書館資料)

資料8-2-①-5

## 電子ジャーナル・アクセス数

|   |                   | アクセス数 |
|---|-------------------|-------|
| 1 | AIP/APS           | 242   |
| 2 | IEEE              | 138   |
| 3 | JDreamII          | 702   |
| 4 | MathSciNet        | 78    |
| 5 | ScienceDirect     | 4,084 |
| 6 | SciFinder Scholar | 1,050 |

(出典 図書館資料)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 本校では、直接教育に係わる施設に力を入れて整備している。
- ・ 特に図書館、演習室、実習工場では授業時間外の利用を可能として学生の多様なニーズに対応できる仕組みになっている。
- ・ 安全衛生・環境に配慮した管理体制が実施されている。
- ・ 図書館の整備状況は良好であり、利用状況も優れている。

(改善を要する点)

## (3) 基準 8 の自己評価の概要

専攻科総合教育棟が新設され、寮の改修も行われた。施設・設備の整備状況は高等専門学校設置基準(第22条)(第23条)(第24条)(第25条)(第26条)(第27条)に適合している。本校の施設は、学習・教育目標に対応しており、本校の教育課程の実現にふさわしい。図書館は、学生の自主的学習環境としても、よく利用されている。演習室、実験室、ゼミ室、LL教室、実習工場などの施設も、授業でよく利用されており、教育課程の実現に貢献している。

また、本校では、安全パトロールを実施するなど、安全・環境を重視した管理体制をとっている。バリアフリー化に関しては、第7棟・第8棟のエレベーター、第8棟の身障者用便所、スロープなどが設置され、今後、さらに推進していく予定である。

学内LANによる情報ネットワークが構築され、演習室、卒研室、図書館などにおいて、学生の利用に供している。この情報ネットワークは、教育課程を実現するためのニーズを満たしており、また、学生の学習に関するニーズを満たしている。情報ネットワークのセキュリティに関しては、セキュリティ・ポリシーに従って管理している。これに加えて、情報倫理教育を実施しているため、十分なセキュリティが確保されている。また、情報ネットワークは、授業内外においてよく利用されている。

図書館には、図書・学術雑誌・視聴覚資料などが系統的に整備されているほか、多くの電子ジャーナルを利用することができる。学生希望図書の制度があり、学生の希望を反映した図書の整備が行われている。また、図書館はよく利用されており、電子ジャーナルもよく利用されている。



## 基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

### (1) 観点ごとの分析

観点9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

#### (観点に係る状況)

教育活動の実態を示すデータは、学籍・成績などに関するデータと授業実施記録(答案など)・授業改善記録がある。前者については、学生課において資料9-1-①-1に従い、適切に収集・蓄積されている(現地閲覧資料207)。後者については、教務委員会および自己点検評価委員会(JABEE専門委員会)の取り決め(資料9-1-①-2、資料9-1-①-3)により、電子媒体として適切に収集蓄積されている(現地閲覧資料101)。

教育活動の実態を示すデータの評価は、JABEE専門委員会、教務委員会(資料9-1-①-4)、専攻科委員会(資料9-1-①-5)、運営会議(資料9-1-①-6)、入試企画室(資料9-1-①-7)、で連携して行われる。また必要に応じてワーキンググループを発足させ、改善を図っている。例えば資料9-1-①-8のように、平成19年度からのシラバスに関するシステムについての検討を行い実施している。

授業アンケートを基にした評価の結果は本校の自己点検評価書である参与会報告に記載されている(後掲の資料9-1-②-2、現地閲覧資料8~10)。また、成績資料に基づく、入試企画室の評価結果は、入試方法の改善に活かされている(前掲の資料4-2-②-3、4-2-②-4)。本校では、「明日を拓く指標」「明日を拓く指標第2号」「参与会報告書(第1回・第2回)」「参与会報告書(第3回)」「参与会報告書(第4回)」が自己点検・評価報告書に相当する。(現地閲覧資料6~10)

#### (分析結果とその根拠理由)

学籍・成績などに関するデータは、学生課において適切に収集・蓄積されている。授業実施記録(答案など)・授業改善記録は、JABEE専門委員会等の決定方針に従い電子媒体として適切に収集蓄積されている。

教育活動の実態を示すデータの評価は、JABEE専門委員会、教務委員会、専攻科委員会、運営会議、入試企画室で連携して行われる。評価の結果は本校の自己点検評価書である参与会報告に記載されている。

以上により、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されている。

東京工業高等専門学校文書管理規則

東京工業高等専門学校文書管理規則（平成13年4月1日施行）の全部を改正する。

平成13年 4月 1日  
制定  
平成18年 3月17日  
改正

(総則)

第1条 この規則は、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」（平成13年法律第140号、以下「法1」という。）第23条に基づき、東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）に於ける法人文書の適正な管理について、必要な事項を定めるものとする。

第2条 この規則において「法人文書」とは、法第2条第2項に規定するものをいう。  
第3条 この規則において「法人文書ファイル」とは、行政機関の保有する情報の公開に関する法律施行令（平成12年法律第41号、以下「施行令」という。）第13条第2項第1号に掲げるものをいう。  
第4条 この規則において、「庫等」とは図及の事務センター準備室をいい、「学科等」とは各学科、教科、各専攻、各専攻の学内共同教育研究施設をいう。

第5条 本校の憲法決定に当たっては、原則として文書（図画及び電磁的記録を含む。以下同じ。）を作成して行うものとする。ただし、憲法決定と同時に文書を作成することが困難である場合は、事前に文書を作成するものとし、処理に係る事務が軽微な場合は、文書を作成しないことができる。  
第6条 本校における事務及び事業の記録については、原則として文書を作成するものとする。ただし、処理に係る事務が軽微な場合は、文書を作成しないことができる。

第7条 本校は総括文書管理者を置き、事務部長をもって充てる。  
第8条 本校の専攻及び学科等に、文書管理者及び文書管理担当を置く。  
第9条 文書管理者は、当該担当等にあつては課長等を、学科等に於ては学科長又はその長をもって充てる。

第10条 文書管理担当者は、文書管理者が指名する者をもって充てる。  
第11条 総括文書管理者は、次に規定する東京工業高等専門学校法人文書分類基準表（以下「分類基準表」という。）及び第9条に規定する東京工業高等専門学校法人文書ファイル管理規程（以下「管理規程」という。）の整備に努めるとともに、法人文書の管理に関する事務を指揮監督し、研修等の実施に当たるものとする。  
第12条 文書管理者は、法人文書の管理の徹底に努めるものとする。  
第13条 文書管理担当者は、文書管理者を補佐するものとする。

第14条 文書管理者は、法人文書の体系的な整理、迅速な検索及び適切な保存に活用するため、別紙第1号様式により法人文書をその事務及び事業の性質、内容等に応じて体系的に分類した分類基準表を作成し、総括文書管理者に提出しなければならない。  
第15条 文書管理者は、毎年1回分類基準表の見直しを行い、必要と認められる場合は改定を行うものとする。  
第16条 分類基準表については、別に定める。

第17条 法人文書は、その他の文書と明確に区分し、事務部又は書庫の戸棚等その管理が適切に行われる専用の棚等で保存するものとする。  
第18条 法人文書は、保存期間が満了する日まで必要と認められ、記録媒体の変換を行うなどにより、適正かつ確実に利用できる方式で保存するものとする。

(保存期間)

第19条 法人文書を作成し、又は取得したときは、別表の東京工業高等専門学校法人文書保存期間基準表（以下「法人文書保存期間基準表」という。）により保存期間の満了する日を規定するものとする。  
第20条 保存期間の満了する日の規定に当たっては、法人文書ファイルを単位として規定するものとする。  
第21条 保存期間の計算については、翌年度の4月1日を起算日とするものとする。ただし、法人文書の管理の特殊性、事務または事業の性質、内容等により、作成又は取得した日以降の日を起算日とする場合がある。

第22条 次に掲げる法人文書については、第1項に規定する保存期間の満了する日を経過した後において、各号の区分においてそれぞれ次に定める期間が経過する日までの間保存期間を延長するものとする。この場合において、一の号に該当する法人文書が他の号にも該当するときは、それぞれの期間が経過する日のいずれか遅い日までの間保存するものとする。  
(1) 現に審査、検査等の対象となっているものについては、当該審査、検査等が完了するまでの間延長が認められるまでの間  
(2) 現に係属している不即申立てにおける手続上の行為をするために必要とされるものについては、当該延長が認められるまでの間  
(3) 現に係属している不即申立てに対する判決又は裁決の日の翌日から起算して1年間  
(4) 開示請求があったものについては、法第9条各項の決定の日の翌日から起算して1年間  
(5) 保存期間が満了した法人文書については、職務の遂行上必要な場合は、一定の期間を定めて当該保存期間を延長することができる。

第23条 前項の規定により、保存期間を延長するときは、延長する法人文書の名称及び年月日を記載した記録を文書管理者に提出し、その許可を得なければならない。  
第24条 保存期間が満了する前に整理しなければならない特別な理由が生じた法人文書は、延長することなく、又は、  
(延長又は整理)

第25条 保存期間（前条第6項の規定により延長された場合にあつては、延長後の保存期間）が満了した法人文書（保存期間が1年未満のものを除く。）は、施行令第16条第1項第5号の規定により法人文書階等の階別（以下「公文書階等」という。）へ移管するものを附さ、原則として廃棄するものとする。

第26条 前項の規定により、原則として廃棄するものとされている法人文書のうち、本校にとって歴史的、学術的に貴重な文書の取扱いについては、校長が別に定める。

第27条 第1項の規定により、法人文書を廃棄するときは、廃棄する法人文書の名称を文書管理者に報告しなければならない。

第28条 前条第7項の規定により法人文書を廃棄するときは、廃棄する法人文書の名称、廃棄しなければならない理由及び廃棄する年月日を記載した記録を作成し、文書管理者を経て校長に提出し、その許可を得なければならない。

第29条 法人文書を廃棄するに当たっては、廃棄する法人文書の内容に抵触した方法で行うものとし、当該法人文書に法第5条各号に規定する不開示情報が記録されているときは、当該不開示情報が漏えいしないようにならなければならない。

第30条 第1項に規定する公文書階等への移管に際する手続等については、校長が別に定める。

第31条 文書管理規程は、法人文書の適切な管理を行うこと及び法による開示請求をしようとする者の利益を図るため、別紙第2号様式により管理規程を作成し、総括文書管理者に提出しなければならない。

第32条 管理規程は、1年以上の保存期間を規定した法人文書ファイルを整備するものとする。  
第33条 管理規程の記載事項について、記載すべき事項が法第5条各号に規定する不開示情報に該当すると思われる場合その他合理的な理由がある場合には、記載を簡略化することができる。

資料9-1-①-1

- 4 審理者は、年1回以上定期的に更新を行うものとする。
- 5 審理者は、専門職員（情報処理担当）において一般の閲覧に供するものとする。

（他の法令等との調整）

第10条 この規則にかかわらず、法第26条に基づき命令の規定により、法人文書の分類、作成、保存、廃棄その他の法人文書の管理に関する事項について特別の規定が設けられている場合には、当該事項については、当該法第26条に基づき命令の規定によるものとする。

（雑則）

第11条 この規則に定めるもののほか、法人文書の管理について必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

- 3 -

（出典 総務課資料）

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                |            |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 教育研究等 | 進学等に関するもの<br>科目等履修書、研究論文及び修士論文に関するもの<br>学生就職活動に関するもので重要なもの<br>学生の課外活動に関するもので(5年保存のものを除く)<br>種別厚生施設の利用に関するもので(5年保存のものを除く)<br>学生新着書の選定に関するもので(5年保存のものを除く)<br>留学生の支援に関するもの<br>その他3年保存が必要であると認められるもの                                                               | 3年         |
|       | 工場実習に関するもの<br>教科書に関するもの<br>休講等に関するもの<br>工学部等にに関するもの<br>学生監等各種証明書発行に関するもの(新着書関係を含む)<br>学生の修業・退席(新着書関係を含む)<br>教養等利用<br>学生の就職に関するもので(5年保存のものを除く)<br>学生の課外活動に関するもので(3年保存のものを除く)<br>種別厚生施設の利用に関するもので(うち軽易なもの(3年保存のものを除く)<br>学生新着書の選定に関するもの<br>その他1年保存が必要であると認められるもの | 1年         |
| 保健管理  | その他1年以上保存を要しない全ての法人文書<br>学生の健康診断書<br>学生の特別定期健康診断書<br>学生の健康意識に関するもの<br>その他5年保存が必要であると認められるもの                                                                                                                                                                    | 1年未満<br>5年 |
|       | その他3年保存が必要であると認められるもの                                                                                                                                                                                                                                          | 3年         |
|       | その他1年保存が必要であると認められるもの                                                                                                                                                                                                                                          | 1年         |
|       | その他1年以上保存を要しない全ての法人文書                                                                                                                                                                                                                                          | 1年未満<br>5年 |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                     |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 教 務 | 学籍簿<br>指導要録<br>卒業證書発行台帳及び修了証書発行台帳<br>成績回覧<br>学生の賞罰に関するもので重要なもの<br>その他30年保存が必要であると認められるもの                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 30年<br>(卒業・退学後)<br>(卒業・退学後)<br>(卒業・退学後)<br>(卒業・退学後) |
|     | 卒業成績及び単位の授与並びに認定に関するもの<br>学生の賞罰に関するもので(30年保存のものを除く)<br>学生教務委員の学生の入学率に関するもので重要なもの<br>学生の身分異動に関するもので重要なもの<br>教育課程に関するもの<br>各種資格試験に関するもので重要なもの<br>教務に関する統計<br>その他10年保存が必要であると認められるもの                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 10年<br>(卒業・退学後)                                     |
|     | 入学者選抜に関する基準等<br>入学、再入学、転入学、編入学及び転学に関するもの<br>休学及び復学に関するもの<br>学生の身分異動に関するもの<br>退学及び除籍に関するもの<br>学生の身分異動に関するもので(10年保存のものを除く)<br>入学者選抜に関するもの<br>募集要項<br>定期試験に関するもの<br>模範時間割に関するもの<br>出席簿<br>学生の海外留学に関するもの<br>厚生指導要録に関するもの<br>学生の厚生指導に関するもの<br>種別厚生施設の利用に関するもので重要なもの<br>学生団体に関するもの<br>学生の課外活動に関するもので重要なもの<br>入学料、推薦料等の免除に関するもの<br>日本籍英名及びその他の英名団体の英学会に関するもの<br>日本学生支援機構及びその附属団体の奨学金に関するもの<br>学生の災害救済等に関するもの<br>学生新着書等の学生の入学率に関するもので(10年保存のもの<br>を除く)<br>学生教務委員の選定に関するもので重要なもの<br>学務課・学務部課長・学務課副課長<br>留学生の受け入れに関するもの<br>その他5年保存が必要であると認められるもの | 5年<br>(卒業・退学後)                                      |

(出典 総務課資料)

資料 9-1-①-2

教務委員会資料 2007.4.16  
教務主事

## 授業改善等について

1. 授業改善ループ, 教育課程改善ループ (すでに昨年度決まっていること)
  - (1) ミニ授業アンケート
    - 中間試験前後に, 各教員が実施。記述式
    - 授業改善点について学生に聞く, すぐ反映
    - 集計を簡素化するため, の工夫
    - たとえば 記述式「この授業について改善してほしいところを書いてください」
    - 実施結果のまとめは <http://xythos/file/授業記録> 中の 2007 の各授業フォルダ (2007 はまだできていない)
  - (2) 授業公開によるピアレビュー
    - 各学科, 各教科の実施回数目標を持ち, 実施状況を公開
    - 実施結果は <http://xythos/file/授業記録> 中の 2006 年度の「授業公開」の中
  - (3) 試験問題・試験答案例の教員間公開
    - <http://xythos/file/授業記録> 中の 2007 の各授業フォルダ
    - 2006 年度分は追加アップロードを各教員に依頼
  - (4) 成績集計グラフ
    - すでに毎回 <http://xythos/file/授業記録> にアップロードされている
  - (5) 授業案アンケートの集計
    - すでに毎回 <http://xythos/file/授業記録> にアップロードされている
  
2. 授業改善ループ, 教育課程改善ループ (今年度追加の取り組み)
  - (1) 試験問題・答案の学生への公開
    - 4月3日の運営会議で校長先生から依頼され, 各学科長が了承済
    - 4月12日の学生集会で校長先生が学生に公約
    - 方法 試験問題・試験答案例の教員間公開用途の XYTHOS のフォルダをそのまま学生に公開
    - 過渡的対応 試験問題・試験答案例を自学自習室に各教員が掲示
  - (2) 学科・教科 FD 記録の教員間共有
    - 教育課程改善のための検討, 科目間整合性の検討, 授業内容・方法改善の検討など実施していることを見えるようにし, 履歴を残す
    - (教育研究会での報告も必要)
    - <http://xythos/file/授業記録> にアップロード
  
3. 学年修了認定会議についての意見
 

学年修了認定会議の開催方法についていくつか意見が出ている。

現行

  - 成績チェック Web 入力期間中に, 各自 Web でチェックする
  - 修了認定予備会議 (学科, 基礎教育, 教科 (2006 年度は一般科目では開催されなかった))
  - 運営会議 (修了認定)

(出典 平成19年度第1回教務委員会資料)

## 資料 9-1-①-2 (その2)

2005 年 9 月 28 日

自己点検評価委員会

## 東京工業高等専門学校 2005 年（平成 17 年）度成績資料保存基準

- 1 成績資料保存の保存基準
  - 1-1 全学年の全科目について、レポート、小テスト及び図面・製作物、その他成績評価の根拠となる資料（以下、単に「成績資料」という。）を電子媒体により保存する。
  - 1-2 各科目における成績評価の 70% 超に相当する成績資料を保存する。
- 2 各成績資料の保存方法
  - 2-1 定期試験（中間試験及び学年末試験）
    - 2-1-1 問題、模範解答及び全答案を保存する。
    - 2-1-2 JABEE 対応科目（本科 4・5 年及び専攻科 1・2 年）については、①上位 3 名分の答案、②60 点台の答案、③その他の答案の順番で保存する。
  - 2-2 レポート
    - 2-2-1 合格最低レベルのレポート及び最高レベルのレポートを各 3 名分保存する。
    - 2-2-2 採点が合否のみの場合には、5 名分を無作為抽出して保存する。
    - 2-2-3 工場見学に関するレポートは、全数を保存する。
  - 2-3 小テスト
    - 2-3-1 各回の問題、模範解答及び平均的な答案 1 名分を保存する。
  - 2-4 図面・製作物
    - 2-4-1 課題の概要及び提出物の画像データを保存する。
    - 2-4-2 保存の対象は、2-2-1 及び 2-2-2 に準じる。
  - 2-5 上記以外の成績資料

電子媒体による保存が困難な場合及び 2-1 から 2-4 までに掲げた以外の成績資料を保存する場合には、事前に JABEE 専門委員会及び認証評価専門委員会が承認した方法及び内容により必要な成績資料を保存する。
- 3 成績評価・授業改善記録の保存

科目ごとに、「成績評価・授業改善記録」（別紙様式 2）に必要事項を記入のうえ、プリントアウトしたものを保存する。

(出典 J A B E E 専門委員会資料)

資料9-1-①-3

JABEE・認証評価専門委員会（第6回）議事要旨

日 時：2005年9月21日 16:00～18:00

場 所：1棟1階 会議室

出席者：潮委員長、鈴木（雅）、浅野、市川、森下、松井、永吉、中川各委員  
（事務出席者：企画調査係長）

1. インターンシップ報告会及びインターンシップ報告書について  
（略）

2. レポート等保存基準

- 9月26日中に、以下の点を修正した2005年度成績史料保存基準（案）を浅野から各委員に送付する。
  - ① 1～3年生を対象に含める。
  - ② 採点が合否しかないレポートの場合には、当該クラスから無作為に抽出した5名分を保存する。（「最高レベル、中レベル、最低レベルを各1つずつ」という従来基準は、抽出が困難なため廃止。）
  - ③ 工場見学については、レポート以外に成績評価を証明する資料を確保することが困難なため、全量を保存する。
- 各委員は、大量のレポート保存を回避できるよう、保存基準の再検討をすること。
- 体育（1～3年）、音楽及び美術については、一般教科で保存方法を検討する。基本的には、個別の実技内容や作品等の記録ではなく、実施内容に関する報告書を教員が作成し保存する方向とする。

（出典 J A B E E 専門委員会議事録より抜粋）

資料9-1-①-3

| IV 各種委員会等委員                                            |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     | 2006.12.1 |
|--------------------------------------------------------|-----------|-----------------------|----------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------|
| <b>企画評価関係</b>                                          |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 企画室                                                    | 室長        | 佐藤(倫)                 | 副室長            | 竹田              | 庄司, 浅野, 鈴木(雅), 大塚                                                                                                                | 庶務課 |           |
| 自己点検評価委員会                                              | 委員長       | 校長                    | 副委員長           | 澤、専攻科長、<br>教務主事 | 事務部長、庶務課長                                                                                                                        | 庶務課 |           |
| <b>入試関係</b>                                            |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 入試委員会(=運営会議(入試))                                       |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 入試企画室                                                  | 室長        | 企画室長兼務                |                |                 | 教務主事、教務主事補、出題担当者選定<br>学生課長、課長補佐、教務係長                                                                                             | 学生課 |           |
| <b>教育関係</b>                                            |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 専攻科委員会                                                 | 委員長       | 専攻科長                  |                |                 | 専攻主任、副主任、潮、中里、川北、学生課長                                                                                                            | 学生課 |           |
| 教務委員会                                                  | 委員長       | 教務主事                  |                |                 | 各教員代表、各学部長、教務主事補、学生課長                                                                                                            | 学生課 |           |
| 基礎教育委員会                                                | 委員長       | 小坂                    | 副委員長           | 町田              | 1年招任(清水、松戸、玉田、川北、加藤、潮、吉木、竹田、相澤)<br>市川、大塚、学生課長                                                                                    | 学生課 |           |
| <b>学生指導関係</b>                                          |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 学生相談室                                                  | 室長        | 古屋                    |                |                 | カウンセラー                                                                                                                           | 学生課 |           |
| 進路指導委員会                                                | 委員長       | 教務主事                  |                |                 | 各学科(5学科選出)、教務主事補(鈴木雅)、学生課長                                                                                                       | 学生課 |           |
| 厚生委員会                                                  | 委員長       | 学生主事                  |                |                 | 教務主事補(大野)、学生主事補、業務主事補(一戸)、学生課長                                                                                                   | 学生課 |           |
| 業務委員会                                                  | 委員長       | 業務主事                  |                |                 | 業務主事補、学生課長                                                                                                                       | 学生課 |           |
| <b>教育研究支援・産学連携関係</b>                                   |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 技術室運営委員会                                               | 委員長       | 技術室長                  |                |                 | 学部長、地域連携センター長、図書館長、<br>情報・メディア教育センター長、学生課長、技術長、班長                                                                                | 学生課 |           |
| 地域連携センター委員会                                            | 委員長       | センター長                 | 副委員長           | 福田              | 副校長、教務主事、専攻科長、庶務課長<br>小嶋、伊藤浩、山内、中野、Gates、藤野、維實                                                                                   | 庶務課 |           |
| <b>情報企画・広報関係</b>                                       |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 図書委員会                                                  | 委員長       | 図書館長                  |                |                 | 木村、大塚、庄司、羽鳥、松岡、庶務課長                                                                                                              | 庶務課 |           |
| 情報・メディア教育センター<br>・ネットワーク管理室<br>・コンピュータ演習室<br>・マルチメディア室 | 企画<br>委員会 | 委員長                   | 青木             |                 | 横山(センター長)、青木(旧IT戦略主査)、館長(ネットワーク管理室長)、<br>副館長(マルチメディア室長)、庶務課長                                                                     | 庶務課 |           |
|                                                        |           | ・ネットワーク管理<br>専門委員会委員長 | ネットワーク<br>管理室長 |                 | 鈴木雅、小嶋、大塚、羽鳥、福井、庶務課長                                                                                                             | 庶務課 |           |
|                                                        |           | 運営<br>委員会             | センター長          |                 | 関根、筒井、伊藤浩、阿津、土原、福井                                                                                                               | 庶務課 |           |
| 広報室                                                    | 室長        | 副校長 津田                |                |                 | 教務主事補(浅野)、学生主事補(森下、中川)、業務主事補(鈴木智)、                                                                                               | 庶務課 |           |
| 事務情報化推進委員会                                             | 委員長       | 事務部長                  |                |                 | 課長(3)、(事務部長指名)                                                                                                                   | 庶務課 |           |
| <b>施設・環境安全関係</b>                                       |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 施設整備計画委員会                                              | 委員長       | 会計課長                  | 副委員長           | 一               | 校長、副校長、主事、事務部長                                                                                                                   | 会計課 |           |
| 安全衛生委員会                                                | 委員長       | 教務主事                  | 副委員長           | 中里              | 庶務課、衛生管理者、庶務課長、会計課長、学生課長、人事係長、施設係<br>長、学生係長、一般教員(中里)、専門学科(菅井、玉田、谷田部、青野、城<br>石)、技術室(藤野、釜田) 構成員合計17名<br>副: 星田、福田、山内、阿津、鈴木、中野、藤野、長井 | 庶務課 |           |
| 防火対策委員会                                                | 委員長       | 校長                    | 副委員長           | 事務部長            | 防火管理者、副校長、主事(3)、専攻科長、会計課長                                                                                                        | 会計課 |           |
| <b>国際学生交流関係</b>                                        |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 国際学生交流委員会                                              | 委員長       | 松井                    | 副委員長           | 村井、加藤、庄司        | 玉田、小嶋、道、Gates、藤野、竹田、 教務主事補(大野)、 学生主<br>事補(葛城)、業務主事補(西村)、学生課長                                                                     | 学生課 |           |
| <b>知財・倫理関係</b>                                         |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 知的財産委員会                                                | 委員長       | 教務主事                  |                |                 | 副校長、学生主事、業務主事、庶務課長                                                                                                               | 庶務課 |           |
| セクシャルハラスメント防止委員会                                       | 委員長       | 教務主事                  |                |                 | 工藤、学生主事、業務主事、学生相談室長、事務部長、<br>庶務課長                                                                                                | 庶務課 |           |
| <b>V 専門委員会</b>                                         |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| <b>自己点検評価委員会</b>                                       |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 認証評価専門委員会                                              | 委員長       | 潮                     | 副委員長           | 鈴木(雅)           | 鈴木(智)、清藤、森下、須原、永吉、中川、竹田、企画調査係長、総務係長、<br>教務係長、学生係長                                                                                | 庶務課 |           |
| JABEE専門委員会                                             | 委員長       | 潮                     | 副委員長           | 浅野              | 市川、多田、松井、一戸、小嶋、城石、教務係長                                                                                                           |     |           |
| 環境専門委員会                                                | 委員長       | 三谷                    |                |                 | 古屋、加藤、中川                                                                                                                         | 会計課 |           |
| 連絡網管理委員会                                               | 委員長       | 土屋                    |                |                 | 清藤、下井、館長、小池、西村                                                                                                                   |     |           |
| <b>国際学生交流委員会</b>                                       |           |                       |                |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 日豪学生交流実行委員会                                            | 委員長       | 竹田                    | 副委員長           | 佐藤(倫)           | 黒田、一戸、Gates、吉木                                                                                                                   |     |           |
| ヘルシンキ学生交流実行委員会                                         | 委員長       | 庄司                    |                |                 | 村井、加藤、小嶋、中川、松井                                                                                                                   | 学生課 |           |
| 日韓学生交流実行委員会                                            | 委員長       | 齋藤                    | 副委員長           | 玉田、加藤           | 川北、木村、一戸、吉木、菊地、中野                                                                                                                |     |           |

(出典 教育研究会資料)



資料9-1-①-4 (その1)

## 東京工業高等専門学校教務委員会規則

制定 平成17年12月1日

## (趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第7条第3項の規定に基づき、東京工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

## (審議事項)

第2条 委員会は、本科に係る次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育計画の立案及び教務の連絡調整に関する事。
  - (2) 教育課程に関する事。
  - (3) 学生の身分異動及び学籍に関する事。
  - (4) 定期試験に関する事。
  - (5) 学生の学習指導に関する事。
  - (6) その他教務一般に関する事。
- 2 審議結果は、運営会議に報告し、必要に応じ議を経なければならない。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 学科長及び教科代表
- (4) 学生課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

## (任期)

第4条 前条第5号の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

- 2 委員長は委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

## (委員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

## (事務)

第7条 委員会の事務は、学生課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

## 附 則

- 1 この規則は、平成17年12月1日から施行する。
- 2 この規則施行後最初の第3条第5号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日までとする。

資料9-1-①-4 (その2)

| IV 各種委員会等委員                                             |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     | 2006.12.1 |
|---------------------------------------------------------|-----------|--------|----------------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------|
| <b>企画評価関係</b>                                           |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 企画室                                                     | 室長        | 佐藤(輔)  | 副室長                  | 竹田              | 庄司、浅野、鈴木(雅)、大塚                                                                                                                   | 庶務課 |           |
| 自己点検評価委員会                                               | 委員長       | 校長     | 副委員長                 | 潮、専攻科長、<br>事務主事 | 事務部長、庶務課長                                                                                                                        | 庶務課 |           |
| <b>入試関係</b>                                             |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 入試委員会(→運営会議(入試))                                        |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 入試企画室                                                   | 室長        | 企画室長兼務 |                      |                 | 教務主事、職務主事補、出願担当者直直<br>学生課長、課長補佐、教務係長                                                                                             | 学生課 |           |
| <b>教育関係</b>                                             |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 専攻科委員会                                                  | 委員長       | 専攻科長   |                      |                 | 専攻科主任、副主任、潮、中里、川北、学生課長                                                                                                           | 学生課 |           |
| 教務委員会                                                   | 委員長       | 教務主事   |                      |                 | 各教科代表、各学科長、教務主事補、学生課長                                                                                                            | 学生課 |           |
| 基礎教育委員会                                                 | 委員長       | 小坂     | 副委員長                 | 町田              | 1年担任(清水、船戸、玉田、川北、加藤、潮、吉本、竹田、相澤)<br>市川、大塚、学生課長                                                                                    | 学生課 |           |
| <b>学生指導関係</b>                                           |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 学生相談室                                                   | 室長        | 吉屋     |                      |                 | カウンセラ                                                                                                                            | 学生課 |           |
| 進路指導委員会                                                 | 委員長       | 職務主事   |                      |                 | 各学科(5学科選出)、職務主事補(鈴木雅)、学生課長                                                                                                       | 学生課 |           |
| 厚生委員会                                                   | 委員長       | 学生主事   |                      |                 | 教務主事補(大野)、学生主事補、業務主事補(一戸)、学生課長                                                                                                   | 学生課 |           |
| 奨励委員会                                                   | 委員長       | 業務主事   |                      |                 | 業務主事補、学生課長                                                                                                                       | 学生課 |           |
| <b>教育研究支援・産学連携関係</b>                                    |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 技術運営委員会                                                 | 委員長       | 技術室長   |                      |                 | 学科長、地域連携センター長、図書館長、<br>情報・IT教育センター長、学生課長、技術長、室長                                                                                  | 学生課 |           |
| 地域連携センター委員会                                             | 委員長       | センター長  | 副委員長                 | 福田              | 副校長、教務主事、専攻科長、庶務課長<br>小嶋、伊藤浩、山内、中野、Gates、墨野、純真                                                                                   | 庶務課 |           |
| <b>情報企画・広報関係</b>                                        |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 図書館委員会                                                  | 委員長       | 図書館長   |                      |                 | 木村、大塚、庄司、羽鳥、松岡、庶務課長                                                                                                              | 庶務課 |           |
| 情報・IT/IT教育センター<br>・ネットワーク管理室<br>・コンピュータ演習室<br>・マルチメディア室 | 企画<br>委員会 | 委員長    | 青木                   |                 | 横山(センター長)、青木(旧IT戦略主事)、館長(ネットワーク管理室長)、<br>関根(マルチメディア室長)、庶務課長                                                                      | 庶務課 |           |
|                                                         | 運営<br>委員会 | 委員長    | ネットワーク管理<br>専門委員会委員長 | ネットワーク<br>管理室長  | 鈴木雅、小嶋、大塚、羽鳥、相井、庶務課長                                                                                                             | 庶務課 |           |
| 広報室                                                     | 室長        | 副校長 津田 |                      |                 | 関根、筒井、伊藤浩、阿津、土屋、堀井                                                                                                               | 庶務課 |           |
| 事務情報化推進委員会                                              | 委員長       | 事務部長   |                      |                 | 教務主事補(浅野)、学生主事補(山下、中川)、業務主事補(鈴木智)、<br>課長(3)、(事務部長指名)                                                                             | 庶務課 |           |
| <b>施設・環境安全関係</b>                                        |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 施設整備計画委員会                                               | 委員長       | 会計課長   | 副委員長                 | 一               | 校長、副校長、主事、事務部長                                                                                                                   | 会計課 |           |
| 安全衛生委員会                                                 | 委員長       | 職務主事   | 副委員長                 | 中里              | 産業医、衛生管理者、庶務課長、会計課長、学生課長、人事係長、施設係<br>長、学生係長、一般教科(中里)、専門学科(筒井、玉田、谷田部、青野、城<br>石)、技術室(藤野、藤田) 構成員合計17名<br>副:黒田、福田、山内、阿津、鈴木孝、中野、海津、長井 | 庶務課 |           |
| 防火対策委員会                                                 | 委員長       | 校長     | 副委員長                 | 事務部長            | 防火管理者、副校長、主事(3)、専攻科長、会計課長                                                                                                        | 会計課 |           |
| <b>国際学生交流関係</b>                                         |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 国際学生交流委員会                                               | 委員長       | 松井     | 副委員長                 | 村井、加藤、庄司        | 玉田、小嶋、福、Gates、齋藤、竹田、 職務主事補(大野)、 学生主<br>事補(崎根)、業務主事補(西村)、学生課長                                                                     | 学生課 |           |
| <b>知財・倫理関係</b>                                          |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 知的財産委員会                                                 | 委員長       | 職務主事   |                      |                 | 副校長、学生主事、業務主事、庶務課長                                                                                                               | 庶務課 |           |
| セクシャルハラスメント防止委員会                                        | 委員長       | 職務主事   |                      |                 | 工藤、学生主事、業務主事、学生相談室長、事務部長、<br>庶務課長                                                                                                | 庶務課 |           |
| <b>V 専門委員会</b>                                          |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| <b>自己点検評価委員会</b>                                        |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 認証評価専門委員会                                               | 委員長       | 潮      | 副委員長                 | 鈴木(雅)           | 鈴木(智)、清藤、森下、須原、永吉、中川、竹田、企画調査係長、総務係長、<br>教務係長、学生係長                                                                                | 庶務課 |           |
| JABEE専門委員会                                              | 委員長       | 潮      | 副委員長                 | 浅野              | 市川、多羅尾、松井、一戸、小嶋、城石、教務係長                                                                                                          | 庶務課 |           |
| 環境専門委員会                                                 | 委員長       | 三谷     |                      |                 | 吉屋、加藤、中川                                                                                                                         | 会計課 |           |
| 遊藝管理委員会                                                 | 委員長       | 土屋     |                      |                 | 清藤、下井、齋藤、小池、西村                                                                                                                   | 会計課 |           |
| <b>国際学生交流委員会</b>                                        |           |        |                      |                 |                                                                                                                                  |     |           |
| 日豪学生交流実行委員会                                             | 委員長       | 竹田     | 副委員長                 | 佐藤(輔)           | 黒田、一戸、Gates、吉本                                                                                                                   | 学生課 |           |
| ヘルシンキ学生交流実行委員会                                          | 委員長       | 庄司     |                      |                 | 村井、加藤、小嶋、中川、松井                                                                                                                   |     |           |
| 日韓学生交流実行委員会                                             | 委員長       | 齋藤     | 副委員長                 | 玉田、加藤           | 川北、木村、一戸、吉本、菊地、中野                                                                                                                |     |           |

(出典 東京工業高等専門学校平成18年度校務分掌一覧)

資料9-1-1-①-4 (その3)

平成18年度 第2回教務委員会  
 日時：平成18年5月15日(月) 16:20～18:40  
 場所：学生集会棟5  
 出席者：小坂、渡野、大野、鈴木(調)、古里、相澤、佐藤(総)、黒崎、須原(代)、鹿毛、青野、石井(選別)、(田口)

配布資料：  
 資料1：2006年度 各内スピンナーコンテスト実施要綱  
 資料2：第21回関東圏地区高等学校専門学校英語弁論大会について  
 資料3：ウォーキングゼミ、ランタイム、ウォーキングNo.1  
 資料4：保健室 研修・研究旅行の実施について  
 資料5：外国人留学生の就業時期等について(平成18年度 前席)  
 資料6：京教習業者の登録申請書について  
 資料7：京教習業者の登録申請書の科目名の訂正一覧  
 資料8：留学生の課外科目変更について  
 資料9：平成18年度工業専攻科先修科一覧  
 資料10：2006年度研修要綱 庶務科目一覧  
 資料11：広報活動用印刷版(案)

1. 新設事項  
 (1) 新設基準について  
 前回は引き続き進捗確認について意見交換を行い、継続確認とした。  
 (2) ホームルーム活動について  
 HR活動の記録を踏まえるために、Excelにクラス別にフォルダを作成し、任意に記入していただくこととした。年度末にプリントすれば記録書ができるよう同じフォーマットを使用する。

2. 今後の課題  
 (1) 学生の進捗率向上と出口の学力維持向上について  
 今後の課題として、検討する予定である。

平成18年度 第1回教務委員会記録  
 日時：平成18年4月17日(月) 16:20～19:30  
 場所：1棟3階会議室  
 出席者：小坂、渡野、大野、鈴木(調)、古里、相澤、佐藤(総)、黒崎、伊藤(総)、鹿毛、青野、石井、(村井、田口)

配布資料：  
 資料1：国立高等専門学校学校学習到達試験の実施について  
 資料2：新1年生学科所属の所属について  
 資料3：ホームルーム活動について  
 資料4：定額納付及び滞納督促に関する規則(案)  
 資料5：公文に関する事項の取組(案)  
 資料6：1年生の留学期間中の授業の措置について  
 資料7：京教習業者の就業案内  
 資料8：平成18年度インターネット打合せ記録  
 資料9：研修旅行打ち合わせ記録  
 資料10：留学期間中の研修要綱  
 資料11：留学期間要綱  
 資料12：留学期間の科目一覧表  
 資料13：平成18年度留学期間の留学期間要綱  
 資料14：平成18年度工業専攻科先修科一覧  
 資料15：平成18年度留学期間研修要綱  
 資料16：平成18年度留学期間研修要綱

1. 新設事項  
 (1) 国立高等専門学校学校学習到達試験の実施について (資料1)  
 後援本部より連絡があったことについて意見交換を行った。留学期間の系列化につながるようなアンケートの公表に配慮してもらいたい等の付帯意見を提出してはどうかとの意見があった。京教習業者の目的を整理し受検することとした。  
 また、本校の学習到達試験の実施について、18年度は終了として行われるので、特段の対応は行かず、結果をみてから本校の取り組み方を検討することとした。  
 ・平成19年11月(木)午前中(60分～90分)を予定。  
 ・平成18年度は教習の執行を基盤、京教習業者は第3学年。  
 ・3年生の水曜日授業回数は16回あることから授業への影響はない。

(2) 新設基準について  
 3月17日の学年研修終了認定会議において一般教員より提案があったことについて意見交換を行った。  
 この提案では17年度から始まった新設基準を継続してみての課題点と修正(案)が提示された。それを基に議々進捗交換を行った。  
 今後引き続き進捗を確認するにあたり、P.D.C.AのC項目の洗い出しを行い、17年度自身と比較できる材料を用意したいとの要望があった。

(3) 新1年生学科所属の手順について  
 2006年度入学生の新1年生学科所属手続は、資料2のとおり前年と同様に行う旨の旨があった。なお、新2年生への履修記録の取組を予定している1年生からの発表がまだ聞いているようなので、もう少し遅らせてから実施したい旨の旨があった。

(4) ホームルーム活動について (資料3)  
 ホームルーム活動報告書を作成するにあたり、ホームルームのとりかたについて意見交換を行った。  
 また、研修スケジュールを作成するにあたり、学年ごとの担任会を開くようなことも検討してもらいたい旨の旨があった。

(5) 相見改正について  
 ①定額納付及び滞納督促に関する規則(案) (資料4)

(出典 教務委員会議事録からの抜粋)

東京工業高等専門学校専攻科規則

(目的)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校前編5 2条の規定に基づき、専攻科の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(専攻科長)

- 第2条 専攻科に、専攻科長を置く。
- 2 専攻科長は、校長の命を受け、専攻科に関する事項を掌理する。
- 3 専攻科長は、専攻科を担当する教授の中から、校長が選任する。
- 4 専攻科長の任期は2年とし、再任を助げない。ただし、専攻科長に欠員が生じた場合の兼任者の任期は、前任者の任期期間とする。

(専攻主任)

- 第3条 専攻毎に専攻主任を置く。
- 2 専攻主任は、専攻科長の職務を助け、専攻の運営に関することを総括する。
- 3 専攻主任は、専攻を担当する教授又は助教の中から、専攻科長の推薦に基づき、校長が指名する。
- 4 専攻主任の任期は2年とし、再任を助げない。ただし、専攻主任に欠員が生じた場合の兼任者の任期は、前任者の任期期間とする。

(専攻副主任)

- 第4条 専攻毎に専攻副主任を置くことができるものとする。
- 2 専攻副主任は、専攻主任の職務を助け、専攻の運営に関することを補佐する。
- 3 専攻副主任は、専攻主任の推薦に基づき、校長が指名する。
- 4 専攻副主任の任期は1年とし、再任を助げない。ただし、専攻副主任に欠員が生じた場合の兼任者の任期は、前任者の任期期間とする。

(専攻科委員会)

- 第5条 専攻科に、校長の諮問に応じて、専攻科に関する基本的事項を審議し、その円滑な運営を図るため、東京工業高等専門学校専攻科委員会(以下「専攻科委員会」という。)を置く。
- 2 専攻科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成15年4月3日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

東京工業高等専門学校専攻科委員会規則

制定 平成15年4月3日  
改正 平成17年12月1日

(略号)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内館庫庫庫前編第7条第3項及び東京工業高等専門学校専攻科規則第5条の規定に基づき、東京工業高等専門学校専攻科専攻科委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
  - (1) 教育課程の編成及び実施に関すること。
  - (2) 授業計画に関すること。
  - (3) 入学希望に関すること。
  - (4) 学生の入学、退学、休学、復学及び留学等身分に関すること。
  - (5) 学生の就職及び卒業成績に関すること。
  - (6) 教育及び研究に関すること。
  - (7) 学生の進学及び就職に関すること。
  - (8) 学生の賞罰に関すること。
  - (9) その他委員会において必要と認められた事項に関すること。
- 2 審議結果は、運営会議に報告し、必要に応じて議を懸念しなければならない。

(組織)

- 第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
  - (1) 専攻科長
  - (2) 専攻主任
  - (3) 各学科等で専攻科を担当する教員 若干名
  - (4) 学生代表
- 2 前項の委員に専攻副主任を加えることができる。

(任期)

第4条 前条第1項第3号の委員の任期は1年とし、再任を助げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補充委員の任期は、前任者の任期期間とする。

(役員)

- 第5条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。
- 2 委員長は委員会を召集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指した委員がその職務を代行する。
- (委員以外の者の出席)
- 第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学生課において処理する。

(施行)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成15年4月3日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

附 則

1 この規則は、平成17年12月1日から施行する。

2 この規則施行後最初の第3条第1項第3号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日までとする。

平成18年度 第4回 専攻科委員会 審議要録

日時 平成18年7月24日(月) 13時30分から15時まで  
 場所 学生課会議室  
 出席者 三谷、川北、楠、中里、福田、小坂、重毛、松井、町田、学生課長  
 配付資料  
 資料1 専攻科教育についての議論のためのメモ  
 資料2 教育課程表(18年度用)  
 資料3 専門・副専攻科目の区分及び修得すべき単位数(大学詳細・学習与集積実行冊子抜粋)

〔審議事項〕

1. 専攻科教育について (資料1・2・3)
 

専攻科表から、現在の専攻科教育を見直し、平成21年度以降の教育課程の枠組みを決めて行きたい旨の発議があり、自由討論を行った。

(1) 専攻科委員会としては、概ね、次の方向性が確認された。

  - ① 専攻科の教育目標は、基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけ、国際化・複合化に対応できる技術者を育成することである。
  - ② JABEEによる認定審査は、独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画において指摘することが盛り込まれており、今年度の改善で認定されなくても、来年度以降も継続して受診する。
  - ③ 19年度以降のJABEE認定審査の受審領域を現行のまま「工学(融合複合・新領域)」とするのか、「各領域」に変更するのか、早めに決定しておく必要がある。受審領域により、教育課程の構成が異なる。「工学(融合複合・新領域)」の場合は、横断的科目を多くして各専攻が横断的に履修できるようにする必要がある。

「各領域」の場合、専攻ごとに単目の教育課程を履修できるが、履修や学科内の体制構築の問題が残る。
- (2) 専攻科教育の現状について、次のような意見が出された。
  - ・ 1年前期では医学が選考状態(領域も多く)で、研究に時間的余裕がないという不満を持つ学生がいる。入学前は研究ができてと思って専攻科に来たのに、これでは期待はずれという意見もある。
  - ・ 研究するのに十分な学力があるとは思えない。留学でしっかりとした基礎学力を身に

- 付けさせるべき。
- ・ 2年後期の一般科目は受講者が少ないケース(1, 2名)が目立つので、学年配当を調整して、隔年開講とするなどの措置が望まれる。
  - ・ 滝澤生は、一般教養が強いので、一般科目の修得単位数を増やすことも考えて良い。
  - ・ 学習意欲が乏しい。基礎学力が低下している学生がいるとの報告を受けている。
  - ・ 学生の学習内容を見ていると、専攻科はどのような学生を育てようとしているのか疑問が生ずることがある。
  - ・ 特別研究については、次の点を検討して行く必要がある。
    - 時間に出てこない学生がいる。(就職の啓蒙)
    - 特別研究最終報告会での発表レベルに大きな差がある。(発表の基五と並上げ)
    - 専攻によってはoriginalityを求める研究ができない。
- (3) 今後の検討資料とするために、アンケート等を実施することとした。
- ・ 卒業生、在校生に教育課程等に関するアンケートを実施する。
  - ・ 授業科目委員にアンケートを実施する。
  - ・ 教育研究会での自由討論を実施する。  
(9月か10月の教育研究会で、専攻科教育について急遽の意見交換を行う。)
- (4) 20年度のレビュー審査時には次の点を考慮する。

- ・ 初めて審査を受ける先生方(16年度以降に助教職以上に採用された先生方)が各科目を履修している。
- ・ 21年度以降順次学年を進える先生方を考慮して、教育課程を検討する。

(出典 専攻科委員会議事要旨抜粋)

平成18年度第4回運営会議議事要録

- 日 時 平成18年7月6日(木) 16時10分～19時25分  
 場 所 第1棟3階会議室  
 構 成 員 22名  
 配布資料
- 1.1-1 国立高等専門学校機構在外研究員派遣に関する申し合わせ
  - 1.1-2 高等専門学校設置基準の一部改正
  - 1.1-3 自己点検書について
  - 1.1-4 「工学(融合複合・新領域)関連分野」審査員養成研修会のご案内
  - 1.1-5 入試成績の追跡調査について
  - 1.1-6 東京高等「くぬぎた案」一ご案内
  - 1.1-7 奨学金制度、共同研究、受託研究の受入について
  - 1.1-8 学外地所協の取扱いについて
  - 1.1-9 クラブ期間の決め方について
  - 1.2-1 教科報告書(一般科/日本文学、英語科、数学科)
  - 1.2-2 学科報告書(機械工学科、電子工学科、情報工学科)
  - 1.2-3 図書館、情報メディア関係、技術室、地域連携テクノセンター報告
  - 1.2-4 国際学生交渉委員会報告
  - 1.4-1 平成18年度研究報告書について
  - 1.4-2 校内一斉清掃について

○講事に先立つ紹介等

- 0-1 全国体育大会に向けて運動会の実施(水泳、ハンドボール等)
- 0-2 前回議事要録の確認  
議事に先立ち、前回の議事要録が確認された。

○審議事項

- 2 学生の身分異動  
 (1) 転学許可願について  
 学生部長から、資料に基づき(会議終了後取り)、転学許可願のあった学生(1学年戸崎達之)について説明があり、審議の結果、了承された。

1.5 教育研究会の開催

- 校長から、7月13日(木)16時10分から、次のテーマについて開催する旨の説明があり、了承された。
- (1) 本校の共通的問題(校長発言:定例)
  - (2) 教務主管関係での討論  
低学力の学生に対する指導をどこまで行えるのか、どこまで進めさせるのか
  - (3) 自己点検委員会  
個別別課題説明会の報告
  - (4) 業務主管発表  
学業における現状と課題
  - (5) その他  
研究業績の情報入力について

○報告事項

- 1.1 校務執行会議要録
  - 1.1-1 国立高等専門学校機構在外研究員派遣に関する申し合せについて  
 庶務課長から、資料に基づき、東京高等専門学校における国立高等専門学校機構在外研究員制度による研究員派遣の取り扱いについて、「国立高等専門学校機構在外研究員制度」による研究員派遣に関する申し合せ)を平成18年6月23日付けで確定した旨の報告があった。
  - 1.1-2 高等専門学校設置基準の一部改正について  
 校長から、資料に基づき、高等設置基準の一部が改正され、「助教役」が「准教授」に改定され、さらに「助教」が新設される旨の報告があった。
  - 1.1-3 JABEE自己点検等について  
 専攻科長から、資料に基づき、自己点検における本校の状況及び自己点検書の修正点について説明があり、今後における自己点検書の確認等については、JABEE専門委員会に一任する旨の報告があった。
  - 1.1-4 「工学(融合複合・新領域)関連分野」審査員養成研修会について  
 専攻科長から、本校における審査員有資格者の体制整備の必要性から、平成18年7月22日に予定されている研修会に、校長及び電子工学科水正教員に参加を希望したい旨の報告があった(他1名についても検討中)。

平成18年度第1回入試企画室会議記録

日 時：平成18年4月20日 13時～14時  
 場 所：学生課会議室  
 出席者：佐藤（総）、小坂、浅野、大野、鈴木（機）、金澤、村井、田口  
 配布資料：

- 資料1：平成19年度入試日程
- 資料2：18年度適性試験問題正解書及びコメント
- 資料3：19年度ポスター等
- 資料4：アンケート集計結果

議 題：

1. 平成19年度入試日程及び広報計画について

確認事項

- ① 日程：教務主事より資料1に基づき説明があり、照会と知り承された。
- ② 中学校訪問：昨年と同様6月の中間試験の時期に行うこととした。
- ③ ポスター、リーフレット：19年度用の印刷が5月上旬には出来上がる旨、学長より報告があった。
- ④ 募集要項の作成部数：昨年度と同じ4,500部とする。
- ⑤ 中学校（各学科2名、一般4名）、塾の訪問（各学科2名以上、一般4名以上）：中学校訪問と同時期に塾訪問も行うこととした。

2. 推薦・学力による選抜について

確認事項

- ① 仮配属方式めぐり相当入試：19年度も継続する。
- ② 選抜方式  
 学力及び推薦による選抜の2種類とする。  
 推薦による募集人員は40%程度とするを「40%程度を上回るとする」に変更した。
- ③ 学力による選抜  
 a. 試験科目 4科目（国語、数学、理科、英語）とする。  
 b. 選考基準は、昨年と同様とする。  
 欠席に関しては若干の減点がある。  
 選考の比重は、おおよそ学力：内申＝8：2とする。  
 c. 別冊請求部数 500部（昨年度と同数）  
 d. 予備問題は、学習指導要領が改正されていないことから、昨年度にチェックしたものを入試企画室構成員が確認して使用するものとする。
- ④ 推薦による選抜  
 a. 出願資格  
 現役、応募動機、9段階評価平均4.0以上であり、かつ理科、数学、英語が4以上であること。  
 b. 実施科目は、面接と適性テストとする。適性テスト作成は平均6.5点を目標し、目的に沿ったものとする。（平成18年度入試平均5.6点、最高9.2点、最低2.0点）  
 c. 選考基準は、昨年と同様とする。

選考の比重は、適性テスト：面接＝5：5  
 d. 選考値の合格基準が各学科間で大きな差がないようにする。  
 内定者の最低選考値の設定（学科の最低点を並べて1等1位の選考値－6.0）を最低ラインとする。（6.0は60.0点満点の1割）

◎18年度推薦による選抜

|     | M   |     | E   |     | D   |     | J   |     | C   |     |    |     |    |    |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|----|-----|
|     | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 |    |     |    |    |     |
| 最 高 | 61  | 92  | 520 | 68  | 72  | 488 | 70  | 80  | 520 | 73  | 92 | 568 | 64 | 92 | 532 |
| 最 低 | 62  | 60  | 428 | 55  | 32  | 316 | 51  | 48  | 348 | 61  | 48 | 388 | 61 | 52 | 400 |

◎17年度推薦による選抜

|     | M   |     | E   |     | D   |     | J   |     | C   |     |    |     |    |    |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|----|-----|
|     | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 | 選考値 |    |     |    |    |     |
| 最 高 | 67  | 88  | 532 | 61  | 88  | 508 | 69  | 92  | 592 | 56  | 96 | 512 | 68 | 88 | 536 |
| 最 低 | 53  | 64  | 404 | 52  | 64  | 400 | 58  | 64  | 424 | 50  | 72 | 416 | 54 | 68 | 420 |

3. 編入学試験について

確認事項

- ① 口程は、資料1のとおりとする。
- ② 募集学科は、全学科とする。
- ③ 試験科目等は全学科共通のものとし、次のとおりとする。  
 英語 英語Ⅰ、英語Ⅱ  
 数学 数学Ⅰ、数学Ⅱ  
 面接
- ④ 出願資格について

昨今、多額の学科名が存在するため、受験者の関心を広げる意味もあり19年度の募集要項より「高等学校を卒業した者及び平成19年3月卒業見込みの者」に変更し、注として「\*工業に強い関心がある者があって工業系の科目を修めている者が望ましい。」を加えることとした。

4. 入試情報公開について

確認事項

- ① ホームページで公開する事項は、次のとおりとする。  
 a. 入試情報（日々更新）、合格者番号発表、合格者平均点

5. その他

資料9-1-①-8

## 2006～2007年度のシラバス及び授業改善報告書改善のポイント

シラバスWG

## 【2006年度実績】シラバスの改善

1. データベース化
  - データベース化により、作業の効率化、基本事項の確実な入力、事前の相互チェックの強化及び学外への公開を実現する。また、後述のとおり、授業改善報告書をも一括管理する。
  - ホームページにおける学外への公開は、2008年度を目途とする。
2. 本科学生に対する配布方法の変更
  - シラバスの実質的活用を図るため、本科学生については、冊子による配布を廃止し、授業冒頭に担当教員自身が配布・説明することとする。なお、実際に配布したシラバスは、JABEE委員が収集し、保存する。
  - 専攻科については、従来どおり、履修要覧の一部としてシラバスを配布する。
3. 「カリキュラム中の位置付け」に関する記述の充実
  - シラバス中に記述欄を新設し、前提となる科目や知識及び今後の活用が予想される科目や分野について説明する。記述に際しては、学生が、カリキュラム全体における当該科目の位置付けを明確に意識できること、学習の方向性を理解し学習意欲を高めることに留意する。なお、従来の「関連科目」の欄は削除する。
  - 記述内容は、JABEE委員等が事前にチェックする。
4. 「評価基準」に関する記述の充実
  - 試験やレポートで評価すべき内容を明確に記述する。例) ○○ができる、××を理解している、△△についてプレゼンテーションできる、等。
  - 記述内容は、JABEE委員等が事前にチェックする。

## 【2007年度計画】授業改善報告書の改善等

1. カリキュラム概要資料の作成・配布
  - カリキュラムの全体像を平易に説明するため、科目間の関連図を含むカリキュラム概要資料を別途作成し、全学生に配布する。
2. シラバスと授業改善報告書の統合及びデータベース化
  - 従来は紙媒体で作成・保存していた授業改善報告書を前述のシラバスデータベースと統合し、シラバス(P: 計画)と授業改善報告書(C: チェック、A: 改善)を同一画面上で作成・参照できる仕組みを整備する。これにより、全教員は、全科目のシラバスと授業改善報告書を同時、かつ簡便に参照できるので、継続的な授業改善の基礎資料として活用する。
  - 授業終了時の報告のみならず、実施途上の改善点等を記述できる欄を設ける。これにより、有用なノウハウや教材等を迅速に共有することができる。

(出典 シラバスWG資料)



観点 9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学生の授業アンケートが実施され、平成18年度からは自由記述欄を新たに設けた（資料9-1-②-1）。授業アンケートの結果、および、分析結果は本校の自己点検評価書である参与会報告に記載されている（資料9-1-②-2、現地閲覧資料8～10）。このようにして、学生の意見の聴取は継続的に行われ、自己点検・評価書に適切に反映されている。また、アンケートを授業改善に生かすため、各教員は、授業改善記録を答案と共に保存している（資料9-1-②-3、現地閲覧資料101）。

（分析結果とその根拠理由）

学生の授業アンケートが実施され、平成18年度からは自由記述欄を新たに設けた。授業アンケートの結果、および、分析結果は本校の自己点検評価書である参与会報告に記載されている。また、各教員は授業改善記録を作成し、個々にも自己点検・評価を行っている。

以上により、学生の意見の聴取が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

資料 9-1-②-1

平成19年1月17日

〔平成18年度集中・通年・後期〕授業担当者 各位

教務主事  
企画室長

授業アンケート実施について（依頼）

このことについて、下記のとおり実施しますので、ご協力をお願いします。座学・実験の判断が難しい場合には、それぞれの該当する項目に回答させてください。

また、複数の教員で実施している授業については、成績報告担当者へ配布しておりますので、実施する際には各担当者への振り分け、及び実施後の取りまとめ等よろしくをお願いします。

記

- 対 象 : 平成18年度の集中授業（除く前期終了授業）、通年及び後期授業  
 実 施 期 限 : 平成19年2月15日（木）まで  
 実 施 時 期 : 実施期限までの間の適当な授業時間内（20分程度）  
 従来からの変更点 : ・シラバス通りであったかについての項目を追加。  
 ・マークシート裏面に自由記述欄を追加。  
 ・上記に伴ってアンケート対象授業の拡大。（基本的に全授業が対象となる）  
 ・技術室でのデータ読取後、アンケート用紙を授業担当者へ回付。  
 実 施 方 法 : ・学生へアンケート用紙に記載してある【記入上の注意】を説明する。  
 ・封筒表紙に添付されている数字5桁の科目コードを板書して学生に示す。  
 ・アンケート用紙の回収後、科目コードが正しくマークされているか確認する。  
 ・裏面の自由記述を授業担当者として確認した後、非常勤講師は学生課へ、常勤教員は庶務課提出する。

\*\*\*授業に関するアンケート\*\*\*

東京工業高等専門学校

| 科目名 | 教担当員名 | 学年  | クラス       | 科目コード |      |      |      |      |
|-----|-------|-----|-----------|-------|------|------|------|------|
|     |       | [1] | [11] [12] | [01]  | [02] | [03] | [04] | [05] |
|     |       | [2] | [21] [22] | [11]  | [12] | [13] | [14] | [15] |
|     |       | [3] | [31] [32] | [21]  | [22] | [23] | [24] | [25] |
|     |       | [4] | [41] [42] | [31]  | [32] | [33] | [34] | [35] |
|     |       | [5] | [51] [52] | [41]  | [42] | [43] | [44] | [45] |
|     |       | [6] | [61] [62] | [51]  | [52] | [53] | [54] | [55] |

（記入上の注意）  
 (1) 「学年」「クラス」欄には、自分の学年、クラスを記入し、塗りつぶして下さい。  
 (2) 「科目名」欄に授業科目名を記入し、「科目コード」欄には、先生が指示する科目番号を入れて下さい。  
 (3) 「担当教員名」欄には、授業を担当する先生の名前を記入して下さい。  
 (4) 用紙は破損したり、曲げたり、汚したりしないでください。  
 (5) マークは「E」の中を黒い線のシャープペンシルまたは鉛筆で塗りつぶして下さい。たとえ黒くなくてもボールペンやマイコンペンは黒針する機種の鉛筆が混入しないので使用しないでください。  
 (6) 訂正は消しゴムできれいに消して下さい。

良いマーク  悪いマーク

座学授業について

実験・実習について

| 質 問                   | 回 答 欄                                                                                                                                      | 質 問                      | 回 答 欄                                                                                                                                      |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか。 | <input type="radio"/> 意欲的でない <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> 大分意欲的 <input type="radio"/> 非常に意欲的<br>[1] [2] [3] [4] [5] | あなたは実験・実習に意欲的に取り組んでいますか。 | <input type="radio"/> 意欲的でない <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> 大分意欲的 <input type="radio"/> 非常に意欲的<br>[1] [2] [3] [4] [5] |

（出典 総務課資料）



6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について

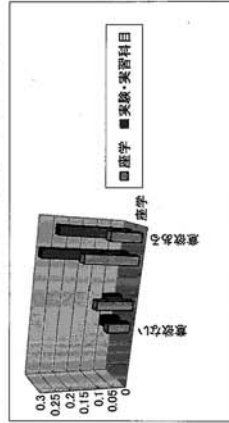
授業に対しては、授業内容が難しいとした者が42%に対し、難しくはないとした者は13%にとどまっている。しかし、教師に敬意を感じるとした者が41%を出める。このことは、難しい内容（体系だからある程度はやむを得ない面がある）を、熱心に教えてくれる教師が少なくないことを示していると考えられる（図2）。

実験・実習に関しては全平均として69%の学生が、取り組みに意欲的である、真面目であると回答し、11.7%の学生が、取り組みに意欲的ではない、真面目ではないと回答している（図2）。

実験・実習内容については40%の学生が、興味の湧くものであった、必要性・重要性が伝わったと回答する一方、興味が湧かなかった、重要性は伝わらなかったとした学生は23%であった。

これらの数値からも、本校の学生は、実験・実習に興味をもち意欲的な学生が留学に対してより多いこと、しかし2割程度の学生は、留学にも実験・実習にもあまり意欲を持たない学生である、と言えるのではないかと。

さらに見れば、「大変意欲的でない」とした者は、留学8%、実験・実習科目6.1%である（図3）。この約7%は前者に重複している学生と思われるが、40人1クラスである3人程度であることは、授業経験からも納得できる数値に近いものがある。



(図3)

外部評価を基にした本校の最近の教育方針として、60点を合格点とする画一的な基準や、留年率を0にすることが強調されている。その結果、レベルを下位に合わせられる傾向が見られる。学生の分布状況を見るとき、意欲的な学生をさらに伸ばす方針をもっと強調することが必要ではないかと。

6.1-2-1-1

6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について

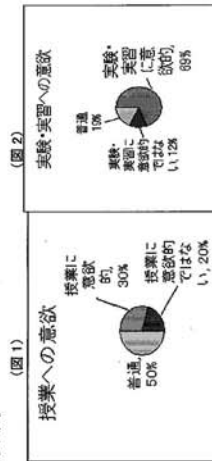
学生による授業アンケートの回答結果から

企画・評価室

1. アンケート実施時期・方法等  
専任教員、非常勤教員担当の、体育実技以外の全留学、実験・実習科目を対象に、前期末（前期修了科目）、学年末（後期修了科目、通年科目対象）の年2回実施。アンケートは、留学12期、実験実習科目9期の各期間について、[1.最も良くない、2.やや良くない、3.普通、4.やや良い、5.最も良い]の5段階の回答の中から1回を選ぶマークシート方式で実施。回収率95%前後。

今回は、平成16年度学年末実施調査の結果について報告する。

2. 回答結果全体から言えると思われること  
授業に対し、意欲的・真面目に取り組んでいないとした学生は平均30%あり、あまり意欲的ではない、真面目ではないと答えた学生は20%ある。そして授業は分かりやすい、重要性が伝わる、と肯定的に答えた学生はそれぞれ32%程度ある一方、授業の進捗が遅い、教師の説明は分かりやすくはない、科目の重要性は伝わらないと否定的に答えた学生は、それぞれ20%ある。  
これらのことを合わせて考えると本校の学生は、「意欲的に勉強しようとしている学生が約3割、授業にあまり意欲を持っていない学生が約2割いる」と言えるのではないかと（図1）。



(図1)

(図2)

しかし学習意欲は全体的にあまり行っていない、比較的良く行うとした学生は12%、あまり行わないとした学生が過半数56%を占める。その結果、授業内容を比較的良く理解できたとした者が21%であるのに対し、あまり良くは理解できなかつたとした者が29%となっている。

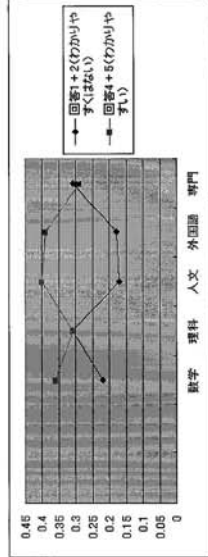
(出典 参与会資料)

資料 9-1-②-2

6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について

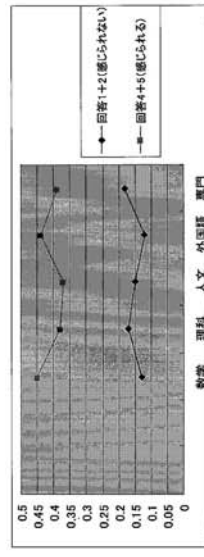
質問 6. 先生の説明はわかりやすいですか。

| H16年度(後期、通年科目) | 数学  | 理科  | 人文  | 外国語 | 専門  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答「+2(わかりやすい)  | 22% | 31% | 17% | 18% | 31% |
| 回答「+5(わかりやすい)  | 36% | 31% | 40% | 39% | 29% |



質問 9. 授業の説明は、学生に理解してもらおうという雰囲気を感じますか。

| H16年度(後期、通年科目) | 数学  | 理科  | 人文  | 外国語 | 専門  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答「+2(感じられない)  | 13% | 17% | 15% | 12% | 18% |
| 回答「+5(感じられる)   | 45% | 36% | 37% | 44% | 39% |



質問 12. あなた自身はこの科目の内容をどの程度理解できていると思われていますか。

| H16年度(後期、通年科目)    | 数学  | 理科  | 人文  | 外国語 | 専門  |
|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答「+2(あまり理解できてない) | 34% | 36% | 22% | 28% | 32% |
| 回答「+5(理解できている)    | 17% | 17% | 23% | 25% | 19% |

6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について

上記のことは全体的な特徴であるが、これを教科別、学科別、学年別に見ると細かな違いが見えてくる。

以下の項目別に、特徴的と思われることについてデータで示したい。

I. 本科における座学の場合

1. 教科(数学、理科、人文、外国語、専門科目)について

2. 学科(機械、電気、電子、情報、物質)について

3. 学年(1年、2年、3年、4年、5年)について

II. 本科 実習・実習科目の場合

1. 学科(機械、電気、電子、情報、物質)について

2. 学年(1年、2年、3年、4年、5年)について

III. 専攻科の場合

コース (AS, AE, AC) について

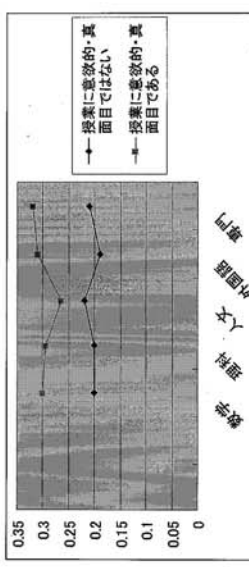
I. 本科、座学の場合

1. 教科(数学、理科、人文、外国語、専門科目)について

理数専門科目については、意欲的な学生は30%あり、科目の重要性の認識も30%が持っているが、人文科目に対しては学生はやや意欲の低い傾向が見られ、重視と考える者24%に対し、そうは思わない者が28%ある。しかし、理数専門科目の理解度は共に17%程度と低くなっている。授業に対しては、4割の学生が燃意を感じている。

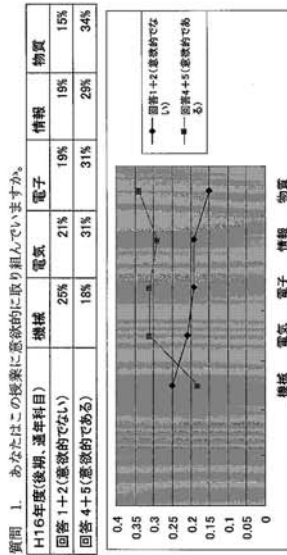
質問 1 および 3 の合計

| H16年度(後期、通年科目) | 数学  | 理科  | 人文  | 外国語 | 専門  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 授業に意欲的・真面目ではない | 20% | 20% | 22% | 18% | 21% |
| 授業に意欲的・真面目である  | 30% | 30% | 27% | 31% | 32% |



(出典 参与会資料)

6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について



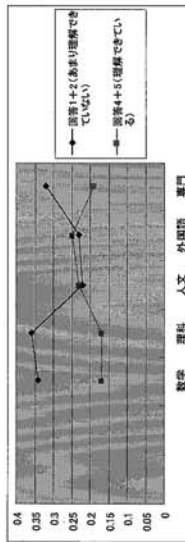
質問 9. 授業の説明は、学生に理解してもらおうという雰囲気を感じますか。



質問 10. この授業科目の必要性(重要性)は授業を通して伝わりますか。



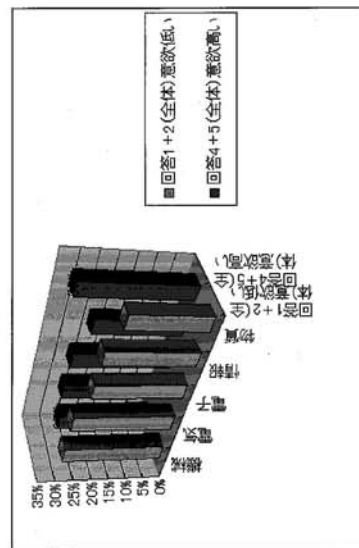
6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について



2. 学科(機械、電気、電子、情報、物質)について  
 学科を比較すると、学生の意欲が高く授業に真面目に取り組んでいるのが物質であると考える。  
 情報では授業に対し、学生が同比率で2層化しているように思われる。

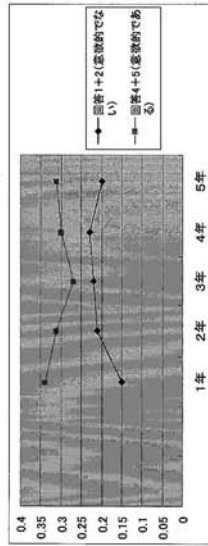
全質問に対する「良くない(1+2)」と、「良い(3+4)」を学科別に集計すると次の表になる。

| H16年度(後期、通年科目) | 機械  | 電気  | 電子  | 情報  | 物質  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答 1+2(全体)意欲低い | 26% | 26% | 25% | 25% | 22% |
| 回答 4+5(全体)意欲高い | 27% | 26% | 28% | 25% | 32% |



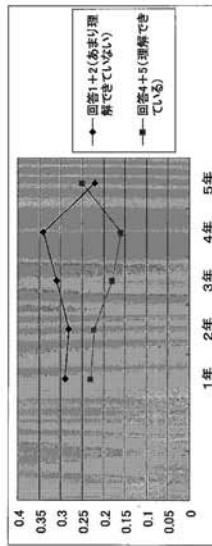
(出典 参与会資料)

6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について



質問 1. あなた自身はこの科目の内容をどの程度理解できていると思えますか。

| H16年度(後期、通年科目)     | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 5年  |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答 1+2(あまり理解できてない) | 29% | 28% | 31% | 34% | 22% |
| 回答 4+5(理解できている)    | 23% | 22% | 18% | 16% | 25% |



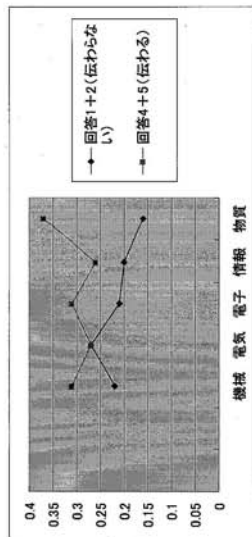
Ⅱ 本科 実験実習科目

1. 学科別データ  
物質工学科が他学科と比べ抜きん出て良い結果となっている。また、3学年の落ち込みが大きい。

質問 1. あなたはこの授業・実習に意欲的に取り組んでいますか。

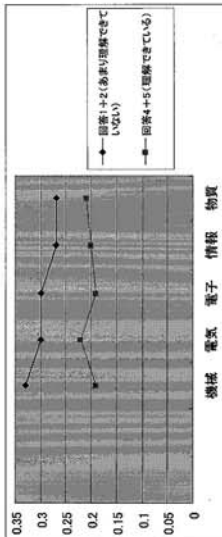
| H16年度(後期、通年科目) | 機械  | 電気  | 電子  | 情報  | 物質  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答 1+2(意欲的でない) | 12% | 15% | 9%  | 12% | 1%  |
| 回答 4+5(意欲的である) | 50% | 53% | 44% | 53% | 80% |

6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について



質問 1. あなた自身はこの科目の内容をどの程度理解できていると思えますか。

| H16年度(後期、通年科目)     | 機械  | 電気  | 電子  | 情報  | 物質  |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答 1+2(あまり理解できてない) | 33% | 30% | 30% | 27% | 27% |
| 回答 4+5(理解できている)    | 19% | 22% | 19% | 20% | 21% |



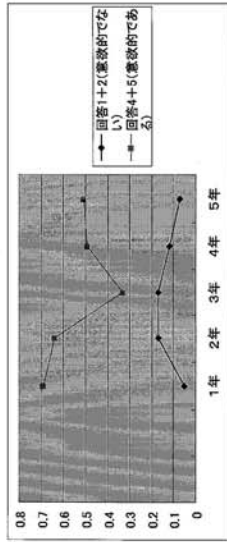
3 学年別データ

3年次に落ち込みが見られる。

質問 1. あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。

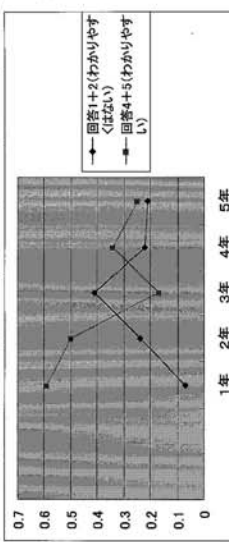
| H16年度(後期、通年科目) | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 5年  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答 1+2(意欲的でない) | 15% | 21% | 22% | 23% | 20% |
| 回答 4+5(意欲的である) | 34% | 31% | 27% | 30% | 31% |

6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について



質問 8. 実験・実習の必要性 (重要性) は変わりますか。

| H16年度(後期、通年科目)   | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 5年  |
|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答1+2(わかりやすくはない) | 7%  | 24% | 41% | 22% | 21% |
| 回答4+5(わかりやすい)    | 59% | 50% | 17% | 34% | 25% |



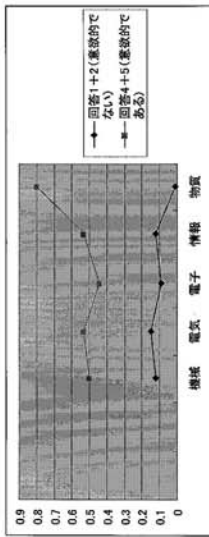
Ⅲ 専攻科

AS コースだけが選んでいる。

質問 1. あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。

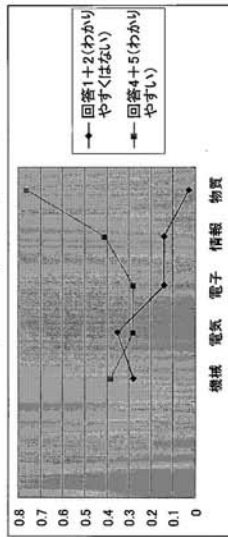
| H16年度(後期、通年科目) | AC  | AE  | AS  | 学年  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|
| 回答1+2(意欲的でない)  | 8%  | 11% | 6%  | 9%  |
| 回答4+5(意欲的である)  | 47% | 50% | 30% | 45% |

6.1-2-1Ⅲ-4 (3) 学生の授業評価について



質問 8. 実験・実習の必要性 (重要性) は変わりますか。

| H16年度(後期、通年科目)   | 機械  | 電気  | 情報  | 物質  |
|------------------|-----|-----|-----|-----|
| 回答1+2(わかりやすくはない) | 28% | 35% | 14% | 3%  |
| 回答4+5(わかりやすい)    | 38% | 28% | 41% | 76% |



2. 学年別データ

質問 1. あなたはこの実験・実習に意欲的に取り組んでいますか。

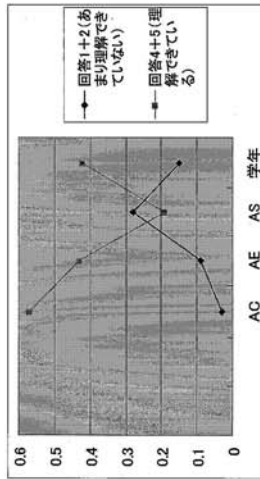
| H16年度(後期、通年科目) | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 5年  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答1+2(意欲的でない)  | 5%  | 17% | 12% | 12% | 7%  |
| 回答4+5(意欲的である)  | 69% | 64% | 33% | 49% | 51% |

(出典 参与会資料)

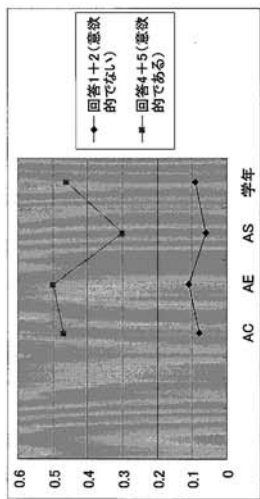


資料 9-1-②-2

6.1-2-1III-4 (3) 学生の授業評価について

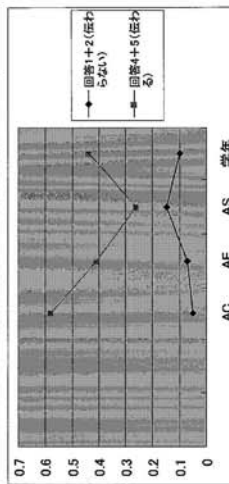


6.1-2-1III-4 (3) 学生の授業評価について



質問10. この授業科目の必要性(重要性)は授業を通して伝わりますか。

| H16年度(後期、通年科目) | AC  | AE  | AS  | 学年  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|
| 回答 1+2(伝わらない)  | 5%  | 7%  | 15% | 10% |
| 回答 4+5(伝わる)    | 56% | 41% | 20% | 44% |



質問12. あなた自身はこの科目の内容をどの程度理解できていると思われますか。

| H16年度(後期、通年科目)     | AC  | AE  | AS  | 学年  |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|
| 回答 1+2(あまり理解できてない) | 3%  | 9%  | 28% | 15% |
| 回答 4+5(理解できている)    | 57% | 43% | 19% | 42% |

(出典 参与会資料)

成績評価・授業改善記録

教科目名 材料力学Ⅱ

担当教員 福藤 茂

学年 4年

科目 材料力学Ⅱ

単位数 3単位

授業の目標と概要  
材料力学Ⅱでは、材料力学Ⅰをさらに発展させた問題の解法方法を扱う。Ⅰの知識をさらに広げた領域として、①棒のねじり、②ひずみエネルギー、③組み合わせた応力、④柱の圧縮、⑤はりの不連続問題等を扱う。これらの解法方法を理解する。特に問題がⅠよりも高度になることから、基礎的問題が確立できるところより努力することを目標とする。

得点分布

| 評価             | 人数 |
|----------------|----|
| A (80点以上)      | 21 |
| B (70点以上80点未満) | 4  |
| C (60点以上70点未満) | 10 |
| D (60点未満)      | 1  |
| 合計             | 36 |

平均点 70.3点

成績評価の方法  
定期試験を基礎、各試験の不合格者は、追加試験として再評価する。

授業返却 返却済

授業の目標の達成度評価と、前年度計画した授業改善事項により得られた効果  
目標：不連続問題は、重ね合わせ法とひずみエネルギー法による解法を理解する。(重ね合わせ法については、理解できた。ひずみエネルギー法は十分理解したとは言えない。)  
目標：ねじりは、円形断面について理解する。(円形断面のねじりは、よく理解を示した。)  
目標：圧縮は、オイラーの臨界応力の使用方法を理解する。(圧縮公式はよく理解した。)  
学生の授業アンケート評価に対するコメント  
最低への改善を丁寧に書いてほしい旨の前編より、丁寧にわかりやすく書くことを心がけた。そのためA評価学生が多くなった。

来年度に向けた授業改善計画  
授業中に練習問題を解かせることを実行していったために、力がついた。今後1問でも多く解かせていくことを心がける。

成績評価・授業改善記録

教科目名 制御工学 (Control Engineering)

担当教員 松井 龍弘

学年 5年

科目 制御工学

単位数 2単位

授業の目標と概要  
本講義では、制御工学の中で特に古典制御と呼ばれる事項について学習する。ここでは、ラプラス変換を用いたシステムの取り扱いはから高度な応答に基づくフィードバック制御の解析・設計法まで、自動制御に関する基本的事項を習得する。

得点分布

| 評価             | 人数 |
|----------------|----|
| A (80点以上)      | 0  |
| B (70点以上80点未満) | 13 |
| C (60点以上70点未満) | 7  |
| D (60点未満)      | 7  |
| 合計             | 37 |

平均点 47.6点

成績評価の方法  
前期中間20%、前期末20%、後期中間20%、後期末20%、最終試験20%

授業返却 返却済

授業の目標の達成度評価と、前年度計画した授業改善事項により得られた効果  
本講義は5年生のものであるため、前半、進路が決定し、卒業単位取得の取組みのついた学生の学習意欲の低下が問題となる。その対策として、科目の重要性を強調したり、実用例を示すようにしたりして、学生の学習意欲の喚起に努めたが、評価がC以下の学生が約半数となった。

学生の授業アンケート評価に対するコメント  
意欲および興味を伸ばして取り回り学生数を増やす努力がさらに必要である。また、制御工学を学ぶのに前提となる数学、物理等が十分身に付いていない学生への対策が必要である。

来年度に向けた授業改善計画  
制御工学の必要性を例を挙げて繰り返し説明する。また、制御工学の理解に必要な数学・物理等の解説を適宜加えていきたい。

成績評価・授業改善記録

教科目名 固体電子工学II

担当教員 吉田 浩 所属 電子工学科

担当教員 佐藤 成彦 単位数 3 単位

授業の目標と到達点  
トランジスタ等の半導体デバイスの動作原理を物理論的な視点から理解できるようにする。電子論、固体中の電子の振る舞いの基礎について理解を深め、半導体デバイスの動作原理を基礎を理論的に理解できるようにする。固体論・半導体デバイス動作理論の基本的事項について学習問題を提示して理解を深める。

| 評価             | 人数 |
|----------------|----|
| A.(80点以上)      | 12 |
| B.(70点以上80点未満) | 13 |
| C.(60点以上70点未満) | 8  |
| D.(60点未満)      | 6  |
| 合計             | 39 |

平均点 64点

授業評価の方法  
中間、期末の平均で評価

授業評価 5.0

授業の目標の達成度評価と、前年度計画した授業改善計画により得られた効果  
4年次後期の専門科目であるので、ソフト系希望の学生で意欲の低下した学生が見られる。複雑な数式よりも物理的なイメージをわかりやすく説明するとともに、歴史的なエピソードなどを合わせて興味を持たせるように動いているが、D評価を取る学生が6名出てしまった。

学生の授業アンケート評価に対するコメント  
難しい内容はプリントで参考資料として配布、基礎的な重要事項はノートに載せている。固体物理は数学、物理、化学などの基礎が必要であるが、これらが身に付いていない学生にとっては難しく感じるようである。

授業に向けた授業改善計画  
授業における基礎の復習をしながら進めたいと考えている。

成績評価・授業改善記録

教科目名 知識工学II (Knowledge Engineering)

担当教員 鈴木 雅人 所属 情報工学科

担当教員 山本 多彦 単位数 2 単位

授業の目標と到達点  
知識工学では、種別演習を通して、直感的なコンピュータ自動推論には限界があり、帰納・統計に基づく演習演習が必要であることを学んだ。本講義では、これら4パターン推論理論の基礎について学び、知識工学で英語した演習内容をまとめる。

| 評価             | 人数 |
|----------------|----|
| A.(80点以上)      | 14 |
| B.(70点以上80点未満) | 10 |
| C.(60点以上70点未満) | 10 |
| D.(60点未満)      | 6  |
| 合計             | 40 |

平均点 68.25点

授業評価の方法  
定期試験70%、演習評価30%で評価する。

授業評価 5.0

授業の目標の達成度評価と、前年度計画した授業改善計画により得られた効果  
学生が思わけていた重要な事項も取り入れてあるが分かったため、それらも評価も高めたい。必要事項をまとめた。しかし、教員の指導が思うようにスムーズに教授できず、予想以上の時間をとられてしまった。

学生の授業アンケート評価に対するコメント  
帰納・統計を使うための知識を講義出す部分が多いため、英訳のボタン推論に引の上りを使うのかという本質的な部分で理解できなかったとの意見が多かった。今回は、なるべく数式の誘導を簡略化し、本質の部分で演習を通して教えられるようにしたい。

授業に向けた授業改善計画  
来年度に向けた授業改善計画  
数式の誘導に注視される時間をなるべく短縮するために、AV装置を利用してパワーポイントによる解説を主体に行い、授業では、英訳の本質と、英訳に非を動かすことにより、演習を通して理解させることを主眼に授業を改善する。



観点9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学校教育法第69条の3に定める自己点検・評価報告書は、本校では、「明日を拓く指標」「明日を拓く指標第2号」「参加会報告書(第1回・第2回)」「参加会報告書(第3回)」「参加会報告書(第4回)」という名称で発行されている。学外者の意見は適宜聴取され、本校の自己点検・評価報告書に記載されている（資料9-1-③-1、現地閲覧資料6～10）。専攻科修了生・準学士課程卒業生に対する最新のアンケート結果および過去の専攻科修了生に対するアンケート結果は、資料9-1-③-2に示したとおりである。このアンケートは、機構の実施するアンケートに追加する形で実施された。企業に対する最新のアンケート結果は、資料9-1-③-3に示したとおりである。

（分析結果とその根拠理由）

学外者の意見は適宜聴取され、本校の自己点検・評価報告書に記載されている。卒業生・修了生に対するアンケートは、機構の実施するアンケートに追加する形で実施される。

以上により、学外関係者の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。



ち2回全国大会に出場したのに対して、ロボコンゼミ活動以降では6回のうち4回全国大会に出場しています)

7. プレゼンテーション能力

Q14: 学生の「人前での発表」の訓練は昨年から重要と思う。貴校では学生が社会人や地域の人、小中高生、学外の学生、学会や研究会で話す機会などの対応はどうか、このような事がカリキュラムに体系的に入っているか

A14: 優れたプレゼンテーション能力を備えた技術者を育成することは本校の教育目標の一つに上げられておられます。

そのため次のような機会を確保しています。

本 科: 卒業研究の中間発表会、最終発表会の実施

夏期講習 (インターンシップ) の報告会の実施

公開講座における説明担当

専攻科: 特別研究の中間発表会、最終発表会の実施

特別講習 (インターンシップ) の報告会

専攻科として学会発表を奨励しており、毎年延 20-30 名が学会発表を経験

この訓練の場として、大学学生及び院生も含めた専門学会の発表会において優れた発表を頂き、また、八王子市産学公産事業におけるスピーチコンテストや発表会でも毎年のように優秀賞を頂くなど顕著な成果が得られております。

8. 人間関係

Q15: 最近の学生は一概に良好な人間関係を築き友人を作りにくいこともあると聞くが、高専5年次の卒業で学友を離れた友人の形はどうか、寮生などではどうであるか、学友を離れた同窓生のつながりは社会に出たら大切と思う、くくり入試での別居はどうか。

A15: くくり入試での合格者は、学科配置による各学科部合の学友関係はなっています。入学当初に部活参加があり、学友が単位となりませんが、友人関係に役立っているようです。正式な学友関係は、2年生からになります。1年生で即クラスであったことは将来的にも学友を離れた友人の別居に役立っていると聞いております。

また、学科、学年を越えるものとしては種別活動があり、5割程度の学生はクラブに所属しています。

寮生は、全学年を対象としたスポーツ大会、寮まわりの情報などを通して交流の機会があり、又、学年毎の集会、指図が行われていますので、精神的な交流の機会があります。最近、上寮生から下寮生への通達の指図などの問題があり、現状では学友関係的な交流を中心に運営しています。今後の課題として、精神的な交流機会を取り入れた寮運営について、検討を始めています。

専攻科では、「習熟度」を大きな教育方針の一つに掲げており、専攻科の分野 (専門共通科目) を多く修得することが可能になっています。教育課程は、一般科目 (8単位以上)、専門共通科目 (4単位以上)、専門科目 (40単位以上) が修了要件になっています。また、専門科目においても8単位までは他専攻の科目の修得を認め

題を見たりするような指導をする TA 制度についてはどうか。

A11: 効果的と思われる指導の形態として、教育後援会からも承認されています。高専は単位制ではないために、正統の授業時間中に在学生の TA を担任するのは、TA 候補の学生は専攻科の空室時間などがないため、現状ではなかなか実現困難です。夏期講習の企画あるいは授業時間中に在学生の TA を担任できる環境を整備して、学生の TA について実現できる可能性を探りたいと考えています。大学と同様の単位・時間換算が 60 単位まで認められるようになると、実現の可能性を高める方向にあると考えています。

Q12: 自習時間 30 分は学生が時間的なゆとりが少なすぎないか、また自習の仕方が分からないう学生がいると他の学校で聞くが、如何か。

A12: 高専の伝統に則して、高専は大学と比べて、従来の TA 制度に、同じ単位数に対して授業時間が多くなるという特徴があり、学校の授業を終わらせ、部外活動などで人間力を高めることと推進されています。目的意識の高い学生が多く入学していることに基づくと、現在では、学生の活動の大きさを鑑み、又中高校で習った基礎も少なくありません。学生の自学意欲を高める方策が現在の最重要事項と認識しています。くくり入試と 2 年次学科所属は、1 年生にとって良い刺激になっているように、45 年生はインターンシップや研究奨励、卒業研究でそれなりの動機付けになっています。問題は、2,3 年生の中での自習に対する指導方針の策定にあると考えています。例えば、3 年生には一般科目担当教員を含めて個別指導を企画すること、2 あるいは 3 年生に、個人のパソコンを持たせ、学内の eLearning 環境を整備して、資料検索を要する宿題等により自習自習環境が充実するようにするなど、を検討したいと考えています。

Q13: サークル活動でロボットを作ったり、競技参加の作品製作などで、製作や練習のスペースや指導される職員がいまいちとよく聞くが、貴校はどうか。

A13: 本校では 2001 年度より高専コンテスト推進委員会が設立されており、この委員会はロボコングループ (担当教員 4、支援教員 2 および技術顧問 2) とプロコングループ (担当教員 3) に分かれており、それぞれ「アイデア対決・全国高等専門学校ロボコン」(担当教員 3) を目指す学生のグループ (ロボコンゼミ) および「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」を目指す学生のグループ (SPC) を推進しております。全国大会出場に向けた学生の熱い思いを生かしながら学生による技術開発、技術研修、技術発表の場を確保し、向上を目指して開催しております。

これらの活動の成果は正統授業へのモチベーションや課題に反映されており、又ロボコンではこれまでの技術を Web 文書化し、学内向け Web サイトに発信しています。活動場所として、ロボコンでは教員室・制御室が常置され、又、技術委員の協力関係を築いた学生は、実習工場の加工機が使用できます。シナクス中には製作場所としてオープンスペースの活用、また競技練習場として 5 年次の一つのホールルームを長期にわたって使っているようにしています。プロコンにおいては、卒業生や 5 年生なども支援にあたっています。2002 年にはプロコン SPC が競技部門で全国優勝しました。2005 年度にはロボコンが 6 年間にわたる技術講習の場として、地区大会優勝、全国大会準優勝・ロボコン大会を受賞しています。(ロボコンゼミ活動以前では現在と同じ地区予選方式、ロボコン







完成教育という用語は、他うとすれば教員が教育を行っている最終段階の大学後期博士課程教育に使うべきと考えます。本科卒業は生涯学習の第一の段階と考えています。本校の本科の教育目標は、技術者生涯学習の観点から完成教育というのほ必ずしも妥当とは思っていません。

13. 産学連携事業等

Q28：インテンションについては本科と専攻科で会学生を対象に実施しているようだが、地元企業との連携、例えば共同研究などもう少し推進しても良いのではないかと。A28：インテンションにつきましては現在本社が推進しており、従来のカリキュラムでは単位のない必要要件のみでしたが、現在のカリキュラムでは卒業要件とともに単位としても認定することとしています。本科生10名程度を共同出資組員（王子市の中小企業団体であり、理事も組織で運営されている。）に入会して頂いており、毎年プログラムをお互いに調整しながら実施しています。それから本校の地域連携プロジェクトでは産学連携のあり方王子市の企業を中心に、現在41社との間で技術協議会を開催して、企業との協力を得ながらさらに地域との連携を進めて行きたいと考えています。

Q29：産学連携について、外部への公開方法また企業からどのように依頼したらいいのかについて伺いたい。

A29：基本的に本校の教員陣にでも直接依頼して頂ければ対応いたします。実際には本校と近隣企業の有志の集まりである技術協議会の会員になられていいる企業からの依頼がほとんどです。ですから技術協議会の会員企業でないとしり漏れ費かと思えます。産学連携にご道徳面からは相当教員一帯からようにはなっておりませんが、技術協議会の会員の企業からもしばしば問い合わせというご意見もありませんので、依頼方法については得意に改善したいと考えております。依頼についてもできる限り受け付けていただく姿勢でおります。

14. 同窓会

Q30：高専創立40年たつて、OB、OGたちの母校に対する愛着や貢献はどうか。同窓会と母校のつながりは進んでいるか、卒業生にシニアボランティア活動などを依頼するなどの計画はあるのか。

A30：ほとんどの同窓会高専は設立の都に団体がなかったために、当初から教育後援会を在学生の保護者で組織運営しております。又、卒業生の多くは、大学に入学するため、母校の概念として最終学歴の大学を意識する卒業生も多いと思われ、同窓会と母校とのつながりは、卒業生科の同窓会・卒業生科の同窓会が中心で、学校としてのつながりではなく、4年に1度開催される同窓会総会に在籍教員が任意参加しているのが現状です。現在、創立50周年記念事業の準備も教育後援会が資金・管理していることもあり、在籍のOB教員が中心となって教育後援会と同窓会の連携について具体的な取組めたところです。シニア（注）ではありませんが、ボランティア活動が行われている実情があります。情報分野で在校生に産学連携を推進するために情報工学科の教員と卒業生が中心となって前学期プロジェクト（OGB 塾）を立ち上げ活動中です。

導入教育・補充教育のためのTAとして専攻科学生の他校の大学等に導入した院生などを採用することを予算案を含めて検討したいと考えています。

現任は、通商教育リサーチアシスタント、学術情報会の顧問としてOB、OGを依頼しているのが現状です。

第1期生が2010年には60才を迎えることもあり、現職確保を促した本格的なシニアボランティア活動に打ち込める年齢層が減少すると考えております。

今後、このことを考慮して同窓会への働きかけを行って行きたいと考えています。

(注)本校では非常勤講師に年齢制限を設けています。本校の教員の定年は63歳です。非常勤講師は毎年更新し、若手陣が63歳までとなっています。又本校を退任した教員は非常勤講師に任用できません。シニアはこれとの関係で考えています。

15. 教員の教育研究活動の自己申告及び職員人事

Q31：自己申告は企業でも実施しているが、高専生に当てるに当たっては自己顕示タイプや控え目なタイプなど一人一人の性格によって自己評価にバイアスがあり、その他の評価と総合して自己申告の内容を補う必要があることをコメントしたい。

A31：項目設定は再考検討で進んでいる教員評価を範囲にして、本校独自の教育研究活動に関する項目を追加した形になっております。ご指摘頂いたことについてはこれから検討課題として行きたいと思っております。

Q32：現在、小、中、高等学校では自己申告教員評価の実施を進めており、校長は必ず教員との面接を年3回程度実施している。さらに校長も各学期1回程度実施している。こういったさまざまな視点を取り入れながら、評価を進める必要があると考える。

A32：校長の教員相互評価を今後実施していきたいと思っております。現時点ではまだ制度的な準備が整っておりませんが、これから検討して行きたいと思っております。

Q33：自己申告の対象は技術職員も含まれているか。

A33：対象にはなっていません。技術職員は教育職ではありませんので、今回は対象から外しておりますが、今後は教員職員、事務職員、教育支援職員の3本の柱で学校運営していくなかで、技術職員に対する評価の方法についても考えて行く必要があると考えています。

Q34：自己申告はあくまで自己申告なので、昇格、昇給、給与に使う場合、それを評価する仕向にも必要になってくると思う。感想としては、合計のグラフを見ると平均よりも下の方に山があるように、高専を見てもかなり具体的な項目があつて、なおかつ重点が低いというものはヘッドの割合の少ないかと思う。もう少しヘッドを下げた方がいいかなが考慮はされているのではないかと。

A34：今後の検討課題とさせていただきます。

Q35：教員の職位はどうか。最近重要職であるとしてよく言われる、選考委員会（名称は不明）の委員の職位はどうなっているのか。採用分野の専門の委員だけか。このとき、人材の採用資格について学校独自の共同協議、非協議資格、レベルのようなものはあるのか。

A35：本校では、教員人事は人事委員会（校長、副校長、主任及び専務部長の計7名で構成



資料 9 - 1 - ③ - 1

は1日2時間位なのでそういう点の強いついっても興味深いデータであったと思う。自分の学校に戻っても参考になる話が沢山あった。感謝したい。

9：酒席の様子を伺うというのも良くやっていると思うし、日本のものづくりを支えているという実感を強く持った。授業の準備については難しい課題もあるようだが、やはり日本の技術者教育の中心を担っている、と強く感じた。

10：教務主任からくくり入りなどの話を伺い、副校長には環境などを含めて聞いた。これからの技術者が突出したスキルを持つことも求められると思うが、技術がブランクポックス化しているようなことをある程度知らないとやっけない状況にもなっている。基本的なことを体で理解していかない、先ほど校長からの話にもあったように昔体験したものを思い出し、新しい使い方に応用してそれをまた新たな発見や進歩に繋げるためには、化学、電気、機械関係によっては生物などどこかで体験しておくことは一番重要ではないかと思う。私が現在取り組んでいるものづくりにおいても、菓分野のことをなるべく早く体験することが良いということも今日は非常に心強く感じた。それを教える技術員の方々にはなかなか大変であると思うながらも、ただやはり学生は何か自分で作って持つという体験をすることがとにかく少なくない。学校で教えられない授業などは人間のわずかで、本1冊を半年かかって教えるだけだし、あとは学生が自分で何かを履き込みながら、演習を自主学習に置き換えることができれば非常に良いと思うし、図書館やリスニングルームなども随分整備されていて、学生に活用させるためには初めに少し基本的な指針が必要だが、あとは学生自身が考えて行くというところが技術者教育に求められていると思うし、今日は東京高等がそれぞれを実践していると感じた。先立方、事務職員の方々も相当に苦労されていると思うが、日本の技術を支えるところとしてそろそろ高等が躍り出てくると思うし、今日この話を聞いて非常に意を強くした。

(出典 明日を開く指標)

平成19年1月

東京工業高等専門学校  
専攻科2年主任 各 校

東京工業高等専門学校  
専攻科長 三 谷 知 世

**専攻科教育に関するアンケートのお返りについて**

本校は専攻科教育のあり方、教育活動の充実・改善等について、様々な検討を進めています。  
この度、本校の専攻科2年に在学中のみなさまの意見を踏まえて検討を進めることが必要であると考え、「専攻科教育に関するアンケート」を実施することとしました。  
ついては、アンケートの集計を早急に行い、次のアンケートにご返答ください。

今後の学校のあり方、教育活動の充実・改善の検討の推進資料とします  
ので、次のアンケートについて回答のうえ、2月7日（水）までに返答  
をしてください。

専攻科名 機械情報システム工学専攻 電気電子工学専攻 物質工学専攻  
(いずれれもに○を付けてください。)

**1 専攻科に関する評価等**

1-1 専攻科の専門内務、学修支援に關して、各項目毎にその満足度として該当するものを1から5まで半から一つ選び、○を付けてください。

|               | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---------------|---|---|---|---|---|
| ア 専門科目(講義)    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| イ 専門科目(演習/実験) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ウ 専門科目(特別演習)  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| エ 専門科目(特別実習)  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| オ 専門科目(特別演習)  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| カ 一般科目(英語)    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| キ 一般科目(英語以外)  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ク 教育施設・設備     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ケ 厚生施設・設備     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| コ 生活相談、学生指導   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ク 選考相談、進路指導   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| シ 資格取得        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ス 総合満足度       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

※ イ 専門科目(特別実習)は、「特別実習」を意味します。(次のページに載ります。)

1-2 専攻科の専門内務に關して、あなた自身に關して記入してくださいと考えているものを次の中から選び、○を付けてください。(5つまで回答可)

- 1 専門科目の基礎
- 2 専門科目の応用
- 3 専門科目の基本技術
- 4 人文社会系の一般教養
- 5 自然科学系の一般教養
- 6 英語
- 7 外国語
- 8 外国語
- 9 外国語
- 10 個人生活
- 11 フレキシビリティ
- 12 コミュニケーション
- 13 基礎
- 14 応用
- 15 特別実習
- 16 特別実習
- 17 その他

1-3 専攻科の専門内務に關して、あなた自身に關して記入してくださいと考えているものうち、最も重要な項目において、特に強く考えているものを次の中から選び、○を付けてください。(5つまで回答可)

- 1 専門科目の基礎
- 2 専門科目の応用
- 3 専門科目の基本技術
- 4 人文社会系の一般教養
- 5 自然科学系の一般教養
- 6 英語
- 7 外国語
- 8 外国語
- 9 外国語
- 10 個人生活
- 11 フレキシビリティ
- 12 コミュニケーション
- 13 基礎
- 14 応用
- 15 特別実習
- 16 特別実習
- 17 その他

1-4 専攻科の専門内務に關して、今般、専攻科内務の改善を願うべきと考えているものを次の中から選び、○を付けてください。(3つまで回答可)

- 1 専門科目の基礎
- 2 専門科目の応用
- 3 専門科目の基本技術
- 4 人文社会系の一般教養
- 5 自然科学系の一般教養
- 6 英語
- 7 外国語
- 8 外国語
- 9 外国語
- 10 個人生活
- 11 フレキシビリティ
- 12 コミュニケーション
- 13 基礎
- 14 応用
- 15 特別実習
- 16 特別実習
- 17 その他

1-5 採入の満足度として満足度が60点以下の項目と、その項目に於ける満足度が高い項目として55点以上の項目とをそれぞれ選んでください。

1-6 専攻科の専門内務に關して、あなた自身に關して記入してくださいと考えているものを次の中から選び、○を付けてください。(5つまで回答可)

- 1 専門科目の基礎
- 2 専門科目の応用
- 3 専門科目の基本技術
- 4 人文社会系の一般教養
- 5 自然科学系の一般教養
- 6 英語
- 7 外国語
- 8 外国語
- 9 外国語
- 10 個人生活
- 11 フレキシビリティ
- 12 コミュニケーション
- 13 基礎
- 14 応用
- 15 特別実習
- 16 特別実習
- 17 その他

**2-2** 専門学校に入学するにあたって、今後、特に力を入れるべきものを選択するものの中から選び、○を付けて下さい。(複数回答)

- 1 教員の質の上
- 2 教育内容・教育方法の充実
- 3 最新の設備・環境
- 4 教育施設・設備の充実
- 5 学校の雰囲気・校風
- 6 国際交流
- 7 地域連携
- 8 その他( )

**3** 本科に関する評価等(東京高等の本科卒業生の方のみ、ご回答ください。)

**3-1** 本科で学び、卒業したことについて、その総合的な満足度として満足するものを選択するものから一つ選び、○を付けてください。

- 1 大変満足している
- 2 やや満足している
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり満足していない
- 5 全く満足していない

**3-2** 本科の教育内容、授業、施設、設備等に満足して、良かった点、良くなかった点及び今後、改善を望むべき点を自由に記述してください。

[良かった点]

[良くなかった点]

[改善を望むべき点]

**4** 卒業生・修了生の能力に関する自己評価等

卒業生・修了生の能力に期待して採用し企業するために、「学生の目的に沿って、あなた自身が、修了生の能力を十分に発揮できるように、修業期間中にどのような努力を怠りませんでしたか」という質問に対して、回答してください。(複数回答可)

**4-1** 採用者としての評価がなされると思われるという観点で、あなたが卒業生または修了生に身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに最も近いと考えますか。以下の選択肢から最も近いと思われるもの一つを選び、○を付けてください。

1. 高い
2. やや高い
3. 普通
4. やや低い
5. 低い

(次のページに続きます。)

**1-7** 専攻科の教育内容、学修環境、施設・設備等に満足して、良かった点、良くなかった点及び今後、改善を望むべき点を自由に記述してください。

[良かった点]

[良くなかった点]

[改善を望むべき点]

**1-8** 日本技術者育成機構(JABEE)の技術者教育プログラム認定校について、あなたの認識として正しいものを選択するものから一つ選び、○を付けてください。

- 1 JABEE認定教育プログラム修了者は社会的に大卒と同等とされている
- 2 JABEE認定教育プログラム修了者は社会的に中卒と同等とされている
- 3 JABEE認定教育プログラム修了者であること自体は社会的な評価の対象となっていない
- 4 その他( )

**2** 専門学校への進学等

**2-1** 専門学校で学ぶ(通学)の理由を選択するものから一つ選び、○を付けてください。今後、どうなると思いますか。次の中から一つ選び、○を付けて下さい。

- 1 さらにニーズが高まる
- 2 現状が続く
- 3 ニーズは次第に低くなる
- 4 ほとんど変わらない
- 5 その他( )

**2-2** 専門学校で学ぶ理由で、次の認識を有する者のうち、今後、社会からの人材ニーズが最も高くなると思うものを選択し、○を付けて下さい。

- 1 本科(非学士課程)を卒業して、直ちに就職する者
- 2 高等専門学校卒業後、専攻科を修了した者
- 3 (専攻科)で学ぶ必要はないが、専攻科で学ぶことは卒業生としての地位を向上させる
- 4 (専攻科)で学ぶ必要はないが、専攻科で学ぶことは卒業生としての地位を向上させる
- 5 (専攻科)で学ぶ必要はないが、専攻科で学ぶことは卒業生としての地位を向上させる
- 6 専攻科は必要ない
- 7 わからない

(次のページに続きます。)

作成：2018年度 東京工業高等専門学校卒業見学の学生アンケート調査結果  
卒業生：修了生の能力に関する自己評価等

3. 技術者としての自立的な行動規範

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 環境情報システム工学専攻 | 0  | 3    | 4  | 0    | 0  |
| 電気電子工学専攻     | 0  | 3    | 3  | 0    | 2  |
| 物質工学専攻       | 0  | 0    | 3  | 2    | 1  |
| 合計           | 0  | 6    | 9  | 2    | 3  |

2. 日本語およびコミュニケーション能力

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 環境情報システム工学専攻 | 0  | 3    | 0  | 4    | 0  |
| 電気電子工学専攻     | 0  | 0    | 3  | 3    | 2  |
| 物質工学専攻       | 0  | 0    | 3  | 0    | 2  |
| 合計           | 0  | 3    | 6  | 7    | 4  |

3. 基礎学力および専門分野学力

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 環境情報システム工学専攻 | 0  | 2    | 5  | 0    | 0  |
| 電気電子工学専攻     | 1  | 1    | 4  | 1    | 1  |
| 物質工学専攻       | 0  | 0    | 2  | 2    | 1  |
| 合計           | 1  | 3    | 11 | 3    | 2  |

4. グループ活動における協働性(リーダーシップ)

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 環境情報システム工学専攻 | 0  | 2    | 2  | 2    | 0  |
| 電気電子工学専攻     | 0  | 1    | 3  | 2    | 2  |
| 物質工学専攻       | 0  | 2    | 3  | 2    | 1  |
| 合計           | 0  | 5    | 8  | 6    | 3  |

5. 継続的な自己啓発能力

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 環境情報システム工学専攻 | 0  | 2    | 5  | 0    | 0  |
| 電気電子工学専攻     | 0  | 2    | 3  | 1    | 2  |
| 物質工学専攻       | 0  | 2    | 3  | 0    | 0  |
| 合計           | 0  | 6    | 11 | 1    | 2  |

6. ものづくり技術者

|              | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|--------------|----|------|----|------|----|
| 環境情報システム工学専攻 | 0  | 4    | 3  | 0    | 0  |
| 電気電子工学専攻     | 1  | 2    | 2  | 1    | 2  |
| 物質工学専攻       | 0  | 2    | 2  | 1    | 0  |
| 合計           | 1  | 8    | 7  | 2    | 2  |

4-2 日本語およびコミュニケーション能力という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実力・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるものをご一つ選び、○を付けてください。

- 1. 高い
- 2. やや高い
- 3. 普通
- 4. やや低い
- 5. 低い

4-3 基礎学力および専門分野学力(ものづくりの知識、暗算力、図表読み)という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実力・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるものをご一つ選び、○を付けてください。

- 1. 高い
- 2. やや高い
- 3. 普通
- 4. やや低い
- 5. 低い

4-4 グループ活動における協働性(リーダーシップ)という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実力・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるものをご一つ選び、○を付けてください。

- 1. 高い
- 2. やや高い
- 3. 普通
- 4. やや低い
- 5. 低い

4-5 継続的な自己啓発能力(学び続ける力)を持ち社会の進化に対応できるという観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実力・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるものをご一つ選び、○を付けてください。

- 1. 高い
- 2. やや高い
- 3. 普通
- 4. やや低い
- 5. 低い

4-6 ものづくり技術者という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実力・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最も当てはまるものをご一つ選び、○を付けてください。

- 1. 高い
- 2. やや高い
- 3. 普通
- 4. やや低い
- 5. 低い

\*ご回答ありがとうございます。

卒業時アンケート

2/2 ページ

**卒業時における学生自身による  
学習・教育目標達成度評価アンケート**

【目的】  
このアンケートは、学習・教育目標に関する達成度を学生が自己評価を行うもので、集計結果は、修士課程の教育改善に役立てるための基礎資料となります。学生諸君の貴重な意見を聞かせてください。

(1)好きなペンネームをアルファベットで入力してください。ペンネームは送信ボタンの二重押しなどのトラブルに対処するためのもので回答者を特定するものではありません。

ペンネーム:  
機械工学科  
電気工学科  
電子工学科  
情報工学科  
物質工学科

【Q3】  
基礎学力および専門分野学力(もの作りの知識、理解力、図取力)という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択群から最もあてはまるものをお選びください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

【Q4】  
グループ活動における協調性とリーダーシップ力という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択群から最もあてはまるものをお選びください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

【Q5】  
継続的な自己啓発力(学び続ける力)を社会の変化に対応できるという観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択群から最もあてはまるものをお選びください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

【Q6】  
ものづくり技術者という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択群から最もあてはまるものをお選びください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

http://bayes.tokyo-ct.ac.jp/db/top.cgi 2007/03/19

卒業時アンケート

1/2 ページ

**東京工業高等専門学校修士課程  
卒業時における学生自身による  
学習・教育目標達成度評価アンケート**

【目的】  
このアンケートは、学習・教育目標に関する達成度を学生が自己評価を行うもので、集計結果は、修士課程の教育改善に役立てるための基礎資料となります。学生諸君の貴重な意見を聞かせてください。

(1)好きなペンネームをアルファベットで入力してください。ペンネームは送信ボタンの二重押しなどのトラブルに対処するためのもので回答者を特定するものではありません。

ペンネーム:  
機械工学科  
電気工学科  
電子工学科  
情報工学科  
物質工学科

【Q1】  
技術者としての自立的な行動規範を身につけているという観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択群から最もあてはまるものをお選びください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

【Q2】  
日本語およびコミュニケーション能力という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択群から最もあてはまるものをお選びください。

高い  
やや高い  
普通  
やや低い  
低い

http://bayes.tokyo-ct.ac.jp/db/top.cgi 2007/03/19

(出典 認証評価専門委員会資料)



資料9-1-③-2

## 学習教育目標の達成度自己評価に関するアンケート

実施時期 2007年2月下旬  
 対象者 2006年度準学士課程卒業予定者  
 有効回答数 172件

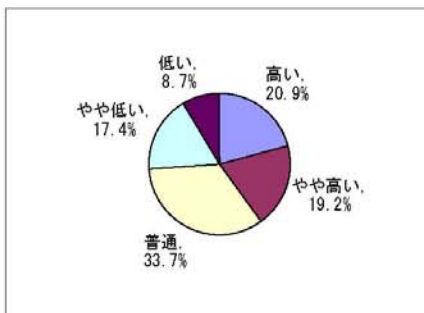
【1】技術者としての自律的な行動規範を身につけているという観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



【2】日本語およびコミュニケーション能力という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



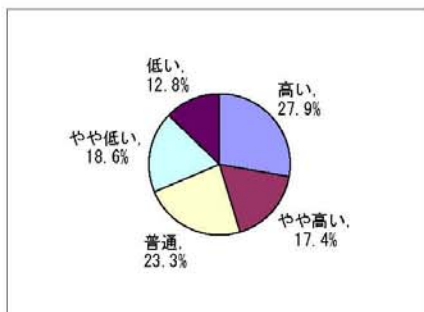
【3】基礎学力および専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると次のどれに該当しますか。



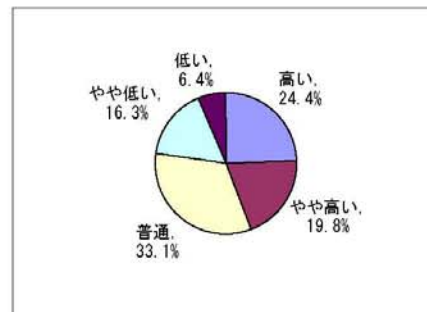
【4】グループ活動における協調性とリーダーシップ力という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



【5】継続的な自己啓発力（学び続ける力）を持ち社会の変化に対応できるという観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



【6】ものづくり技術者という観点で、あなたが卒業までに身につけた学力・資質・能力を評価すると、次のどれに該当しますか。



(出典 認証評価専門委員会資料)

専攻科教育に関するアンケート

実施時期 平成19年2月  
実施対象 平成16、17年度専攻科学生 47名  
回答者数 15名

| 専攻 | 1期生  | 2期生   | 計     |
|----|------|-------|-------|
| AS | 1(0) | 6(2)  | 7(2)  |
| AE | 2(0) | 2(0)  | 4(0)  |
| AC | 1(1) | 3(1)  | 4(2)  |
| 計  | 4(1) | 11(3) | 15(4) |

※ ( )は女子個で人数、1)は漢字専攻で内数

回答率 32%  
題目 専攻科教育の充実・改善等に資するため

5 卒業生・修了生の能力に関する自己評価等

卒業生・修了生の能力に関して評価し希望するために、「学校の目的に照って、あなたが、卒業・修了後に身につけた学力・実質・能力」について、下記のアンケートにお答えください。(専攻科修了年度時点(課程)で思っていることでご回答してください。)  
回答者数 14名

5-1 技術者としての自発的な行動態度を身につけているという観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最もあてはまるもの一つを選び、○を付けてください。

- 1. 高い 9 0.0%
- 2. やや高い 7 50.0%
- 3. 普通 0 0.0%
- 4. やや低い 0 0.0%
- 5. 低い 0 0.0%

5-2 日本語およびコミュニケーション能力という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最もあてはまるもの一つを選び、○を付けてください。

- 1. 高い 0 0.0%
- 2. やや高い 4 28.6%
- 3. 普通 4 28.6%
- 4. やや低い 4 28.6%
- 5. 低い 1 7.1%

5-3 基礎学力および専門分野の学力(もの作りの知識、読解力、取組力)という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最もあてはまるもの一つを選び、○を付けてください。

- 1. 高い 1 7.1%
- 2. やや高い 6 42.9%
- 3. 普通 7 50.0%
- 4. やや低い 0 0.0%
- 5. 低い 0 0.0%

5-4 ギルード西園における個人在りりーゲームアップカという観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最もあてはまるもの一つを選び、○を付けてください。

- 1. 高い 2 14.3%
- 2. やや高い 7 47.1%
- 3. 普通 6 35.7%
- 4. やや低い 0 0.0%
- 5. 低い 0 0.0%

5-5 継続的な自己啓発力(学び続ける力)を伸ばす社会的な変化に対応できるという観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最もあてはまるもの一つを選び、○を付けてください。

- 1. 高い 1 7.1%
- 2. やや高い 1 7.1%
- 3. 普通 9 64.3%
- 4. やや低い 1 7.1%
- 5. 低い 2 14.3%

5-6 ものづくり技術者という観点で、あなたが卒業または修了までに身につけた学力・実質・能力を評価すると、次のどれに該当しますが、以下の選択肢から最もあてはまるもの一つを選び、○を付けてください。

- 1. 高い 1 7.1%
- 2. やや高い 7 50.0%
- 3. 普通 5 35.7%
- 4. やや低い 0 0.0%
- 5. 低い 1 7.1%

(出典 庶務課アンケート資料)

東京工業高等専門学校「創成型工学」教育プログラム  
(The Program of Creative Engineering Education)

アンケート調査表

貴校名 \_\_\_\_\_ 記入担当 学部所属 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_  
回答日 平成 16 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

【1】日本技術者教育認定機構 (JABEE) について

- 問 1. 日本技術者教育認定機構 (JABEE) をご存知でしょうか。  
 a) よく知っている b) ある程度知っている c) あまり知らない  
 d) 全く知らない e) その他 ( )
- 問 2. 日本技術者教育認定機構 (JABEE) のような高等教育機関の教育水準を認定する制度は必要だと思いますか。  
 a) 非常に必要である b) ある程度必要である c) あまり必要ない  
 d) 全く必要ない e) その他 ( )

【2】本校の「創成型工学」教育プログラムについて

- 問 3. 当教育プログラムの理念は、理解できますでしょうか。  
 a) よくわかる b) ある程度わかる c) あまりわからない  
 d) 全くわからない e) その他 ( )
- 問 4. 当教育プログラムの各所は適切と思われるでしょうか。  
 a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
 d) 全く適切でない e) その他 ( )
- 問 5. 当教育プログラムが目指す技術者は、理解できますでしょうか。  
 a) よくわかる b) ある程度わかる c) あまりわからない  
 d) 全くわからない e) その他 ( )
- 問 6. 当教育プログラムが目指す技術者は、今後必要になると思われますか。  
 a) 非常に必要になる b) ある程度必要になる c) あまり必要にならない  
 d) 全く必要にならない e) その他 ( )

【3】本校の「創成型工学」教育プログラムの学習・教育目標について

- 問 7. 当教育プログラムの学習・教育目標は、理解できますでしょうか。  
 a) よくわかる b) ある程度わかる c) あまりわからない  
 d) 全くわからない e) その他 ( )
- 問 8. 当教育プログラムにたいして、この学習・教育目標は、適切と思われるでしょうか。  
 a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
 d) 全く適切でない e) その他 ( )
- 問 9. 学習・教育目標「(A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機・安全に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者の養成」は、「社会の要請する水準」以上の学士 (技術者) を育てるという観点から適切と思われるでしょうか。  
 ※ここでは、「社会の要請する水準」は「貴校が期待している学士としての水準」とお考えください。  
 a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
 d) 全く適切でない e) その他 ( )

- 問 10. 学習・教育目標「(B) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力を身につけ、国際的に活躍しうる素養を持った技術者の養成」は、「社会の要請する水準」以上の学士 (技術者) を育てるという観点から適切と思われるでしょうか。  
 a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
 d) 全く適切でない e) その他 ( )
- 問 11. 学習・教育目標「(C) 基礎学力の上に、算数力、創造力、判断力、研究開発能力を身につけた技術者の養成」は、「社会の要請する水準」以上の学士 (技術者) を育てるという観点から適切と思われるでしょうか。  
 a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
 d) 全く適切でない e) その他 ( )
- 問 12. 学習・教育目標「(D) 生涯にわたる自己学習能力や健康増進能力及び社会の変化に対応できる柔軟性を身につけた技術者の養成」は、「社会の要請する水準」以上の学士 (技術者) を育てるという観点から適切と思われるでしょうか。  
 a) 非常に適切である b) ある程度適切である c) あまり適切でない  
 d) 全く適切でない e) その他 ( )

- 問 13. 学習・教育目標「(A) ~ (D)」を達成した専攻科卒業生は、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と比べると、  
 a) 水準よりかなり上である b) 水準よりやや上である c) 水準程度である  
 d) 水準よりやや下である e) 水準よりかなり下である
- 問 14. 当教育プログラムの学習・教育目標が達成されていけば、貴社の新入社員としての資質を満足していると思えますか。  
 a) 十分満足である b) ある程度満足である c) あまり満足できない  
 d) 全く満足できない e) その他 ( )

- 【4】その他  
 問 15. 貴社では、社員の採用にあたり、JABEE プログラム終了認定の有無を採用の判断材料として活用したいと思えますか。  
 a) 積極的に活用したい b) ある程度活用したい c) あまり活用したくない  
 d) 全く活用したくない e) その他 ( )

- 問 16. 貴社では、大学、専攻科修了生の新入社員の英語力として、TOEIC は何点以上必要と考えられますか。  
 a) 300 点以上 b) 400 点以上 c) 500 点以上  
 d) 600 点以上 e) その他 ( )
- 【5】その他ご意見がございましたら、お教えください。

ご協力ありがとうございます。

東京工業高等専門学校「創造型工学」教育プログラム (The Program of Creative Engineering Education) プログラム開設結果

調査期間：1月7日～2月10日 送付企業数284社 回答数98社 (回答率34.5%)

問1. 日本技術者教育認定機構 (JABEE) をご存知でしょうか。

|             |              |             |            |         |
|-------------|--------------|-------------|------------|---------|
| 31. 非常に知らない | 32. ある程度知らない | 33. あまり知らない | 34. 全く知らない | 35. その他 |
| 1           | 33           | 23          | 41         | 0       |

問2. 日本技術者教育認定機構 (JABEE) のような高等教育機関の教育水準を認定する制度は必要だと思いますか。

|              |               |              |             |         |
|--------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 非常に必要である | 32. ある程度必要である | 33. あまり必要はない | 34. 全く必要はない | 35. その他 |
| 27           | 56            | 6            | 1           | 0       |

問3. 当教育プログラムの理念は、理解できますでしょうか。

|           |             |              |             |         |
|-----------|-------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 全くわかる | 32. ある程度わかる | 33. あまりわからない | 34. 全くわからない | 35. その他 |
| 42        | 47          | 6            | 0           | 0       |

問4. 当教育プログラムの名称は適切と思われませんか。

|              |               |              |             |         |
|--------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 非常に適切である | 32. ある程度適切である | 33. あまり適切でない | 34. 全く適切でない | 35. その他 |
| 23           | 57            | 6            | 0           | 0       |

問5. 当教育プログラムが目指す技術者は、理解できますでしょうか。

|           |             |              |             |         |
|-----------|-------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 全くわかる | 32. ある程度わかる | 33. あまりわからない | 34. 全くわからない | 35. その他 |
| 54        | 40          | 4            | 0           | 0       |

問6. 当教育プログラムが目指す技術者は、今後必要になると思われますか。

|              |               |                |               |         |
|--------------|---------------|----------------|---------------|---------|
| 31. 非常に必要になる | 32. ある程度必要になる | 33. あまり必要にならない | 34. 全く必要にならない | 35. その他 |
| 67           | 28            | 0              | 1             | 0       |

問7. 当教育プログラムの学習・教育目標は、理解できますでしょうか。

|           |             |              |             |         |
|-----------|-------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 全くわかる | 32. ある程度わかる | 33. あまりわからない | 34. 全くわからない | 35. その他 |
| 42        | 51          | 4            | 0           | 0       |

問8. 当教育プログラムについて、この学習・教育目標は、適切と思われませんか。

|              |               |              |             |         |
|--------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 非常に適切である | 32. ある程度適切である | 33. あまり適切でない | 34. 全く適切でない | 35. その他 |
| 36           | 59            | 0            | 0           | 2       |

問9. 学習・教育目標 (A) 技能と非技能概念との関係を理解し、技術者に求められる能力・安全に関する倫理観・生涯学習の観念に基づいた技術者の育成は、社会の要請する水準以上の学生 (技術者) を育てるという観点から適切と考えるでしょうか。

|              |               |              |             |         |
|--------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 非常に適切である | 32. ある程度適切である | 33. あまり適切でない | 34. 全く適切でない | 35. その他 |
| 41           | 54            | 1            | 0           | 1       |

問10. 学習・教育目標 (B) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力の身に付け、国際的に活躍しうる素養を身につけた技術者の養成は、社会の要請する水準以上の学生 (技術者) を育てるという観点から適切と考えるでしょうか。

|              |               |              |             |         |
|--------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 非常に適切である | 32. ある程度適切である | 33. あまり適切でない | 34. 全く適切でない | 35. その他 |
| 40           | 40            | 0            | 0           | 0       |

問11. 学習・教育目標 (C) 応用力の上に、実践力、創造力、新発想・新発見を身につけた技術者の育成は、社会の要請する水準以上の学生 (技術者) を育てるという観点から適切と考えるでしょうか。

|              |               |              |             |         |
|--------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 非常に適切である | 32. ある程度適切である | 33. あまり適切でない | 34. 全く適切でない | 35. その他 |
| 40           | 36            | 1            | 0           | 1       |

問12. 学習・教育目標 (D) 専門にわたる自己啓発的かつ創造的マネジメント能力及び社会の発展に貢献し得る柔軟性を身につけた技術者の育成は、社会の要請する水準以上の学生 (技術者) を育てるという観点から適切と考えるでしょうか。

|              |               |              |             |         |
|--------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 非常に適切である | 32. ある程度適切である | 33. あまり適切でない | 34. 全く適切でない | 35. その他 |
| 41           | 35            | 2            | 0           | 0       |

問13. 学習・教育目標 (A) ~ (D) を達成した専攻科卒業生は、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と考えるでしょうか。

|               |               |               |               |         |
|---------------|---------------|---------------|---------------|---------|
| 31. 非常にわかりやすい | 32. 非常にわかりやすい | 33. 非常にわかりやすい | 34. 非常にわかりやすい | 35. その他 |
| 35            | 32            | 8             | 1             | 0       |

問14. 当教育プログラムの学習・教育目標が達成されていないのは、貴社の納入社員としての資質を満足していると思われませんか。

|             |               |              |             |         |
|-------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| 31. 十分満足である | 32. ある程度満足である | 33. あまり満足でない | 34. 全く満足でない | 35. その他 |
| 64          | 32            | 0            | 0           | 2       |

問15. 貴社では、社員の採用に当たり、JABEEプログラム終了認定の資格を採用の判断材料として採用したいと思われませんか。

|               |               |                |               |         |
|---------------|---------------|----------------|---------------|---------|
| 31. 積極的に採用したい | 32. ある程度採用したい | 33. あまり採用したくない | 34. 全く採用したくない | 35. その他 |
| 10            | 61            | 11             | 2             | 0       |

問16. 貴社では、卒業・専攻科終了者の納入社員の英語力として、TOEICは何点以上必要と考へておられますか。

|            |            |            |            |         |
|------------|------------|------------|------------|---------|
| 31. 3.0点以上 | 32. 4.0点以上 | 33. 5.0点以上 | 34. 6.0点以上 | 35. その他 |
| 4          | 29         | 24         | 24         | 2       |

観点9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校における教育の質の向上・改善に関するシステムは資料9-1-④-1のように整備されている。このシステムによって教育課程の見直しなどが行われた具体例として本校におけるくくり相当入試の例を示す。後掲の資料11-3-②-1に示す参与会報告において、「高専入学時の学科選択は中学3年生にとって難しい」という意見が出され、これを受けて本校では、最も関連性の深い教務委員会において、入学後の教育課程も視野にいて、くくり相当入試に関する検討を行った（資料9-1-④-2）。これらの結果は本校の意志決定機関である校務執行会議および運営会議を経て了承され、平成17年度から実施された。実施にあたっての具体的な新入生の指導や2年進級時の学科配属の運用を円滑に行うため、基礎教育委員会が設置（資料9-1-④-3）され、同委員会と教務委員会とが連携をはかって実施された（資料9-1-④-4）。

また、くくり相当入試開始の2年後の運営会議（修了判定）において、学年末の成績から、進級基準の見直しに関する検討を行うべきであるという意見が出され（資料9-1-④-5）、教務委員会において審議中である（資料9-1-④-6）。

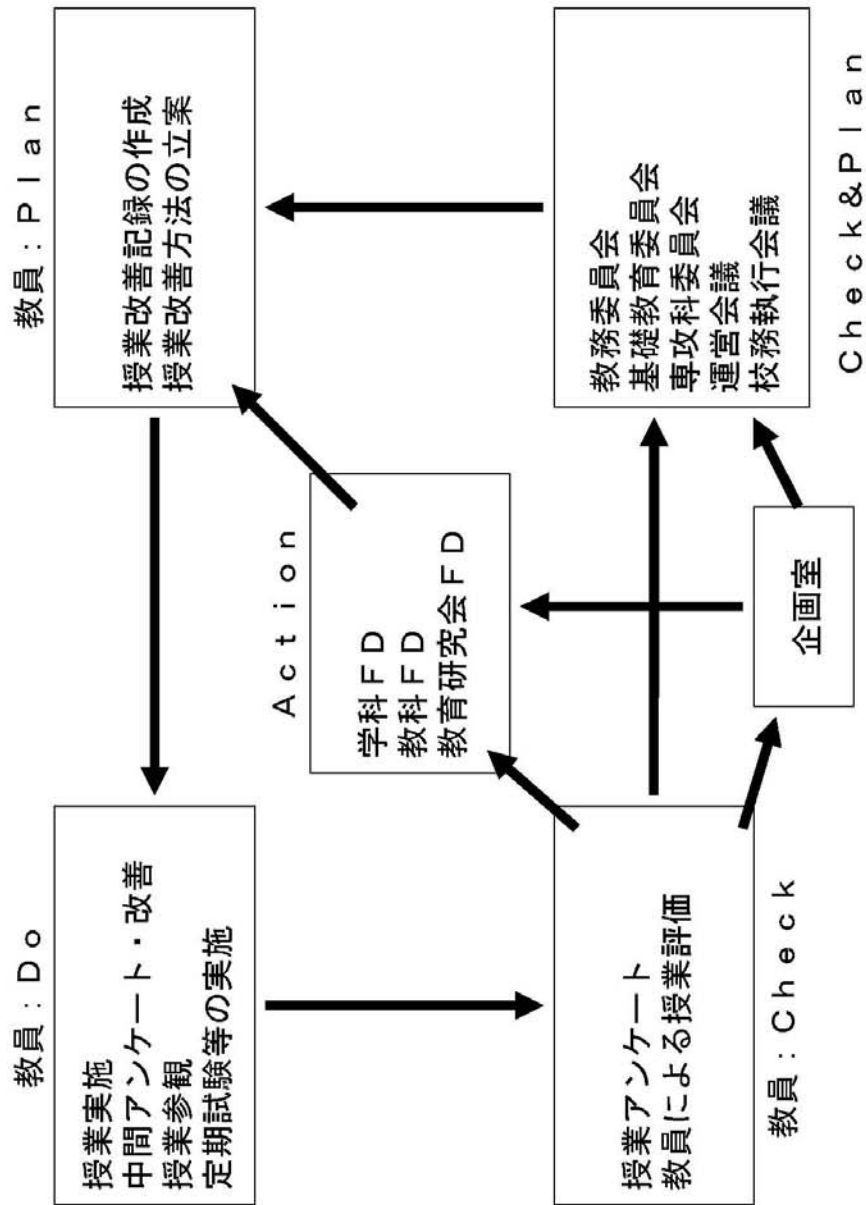
（分析結果とその根拠理由）

本校では、各種の評価を教育の質の向上および改善に結びつけられるようなシステムが整備されている。また、そのようなシステムが機能して教育課程などの改善に結びついた例として、くくり相当入試制度がある。また、その制度の実施状況から、更なる改善を検討している。

平成19年度から、教育の改善に関するPlanステージを強化するため、新しく教育改善委員会を発足しており、教育の質の向上および改善に関するシステムそのものの改善も実施している。

以上により、教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、継続的な方策が講じられている。

資料9-1-④-1



(出典 本校の現状をもとに作図)

平成16年度臨時教務委員会記録  
 日時 平成16年7月27日(火) 16:30~18:20  
 場所 学生懇談会議室  
 出席者 小坂、相澤、津田、村井、高藤、木村、大山、小池、市村、高藤、学生部長  
 欠席者 鈴木(病)、穴倉(空席)

【配付資料】

1. くくり相当入試の準備状況と新カリキュラムへの移行について (27日付2004)
2. 東京工業高等専門学校学期の一部改正について
3. 新カリキュラム関係のまとめ(5/14付2004)
4. 時間割組み込みのシミュレーション
5. 各学年配当の単位数及び時間割 (平成18年度以降用)
6. 各学年配当の単位数及び時間割 (平成17年度用)
7. 機械工学科新カリキュラム
8. 2004年7月27日教務委員会資料 (情報工学科)

(議事)

1. くくり相当入試の準備状況と新カリキュラムへの移行について
  - 1) 配付資料に基づき平成17年度から実施する「くくり相当入試」に対応した新カリキュラムに関する検討事項について再確認を行った。
  - 2) 基礎学力演習(仮称)については水曜日の5~8限、ものづくり基礎(仮称)については金曜日の3~7限とすることとした。
  - 3) 3年応用物理の配属については、希望として M.I.D.C (後期)・J (前期) が望ましいため、物理科で対応可能かどうか電子工学科を通じて検討を依頼した。これは(その後、現状で機械、電子は応用物理を前期でも後期でも配属できる可能性はあることがわかった。)
  - 4) 一般科目・専門科目の前後期時間割のすり合わせを行うため、一般科目の平成17年度用、平成18年度以降用カリキュラムの前期・後期の配属について審議委員から説明があり、速うて、前後期配分の一般科目時間割を記載したファイルを作成後から送付することとした。
  - 5) 8月28日開催の校務執行会議で検討するため、下記資料を作成いただき、8月23日(月)までにファイルを教務科まで送付いただくこととした。
    - (1)新カリキュラムの学年課程表(単位の配属されているもの)
    - (2)新カリキュラムの期・後期割り当て表(電気工学科に限り作成いただく)
    - (3)通選約カリキュラムの学年課程表
    - (4)通選約カリキュラムの期・後期割り当て表
    - (5)新カリに關する学部の一部改正についての、各学科・専科分に係る【4】改正内容について作成(簡潔な表現で全体で7~8頁程度)
    - (6)新旧対照表及び科目変更の理由書
    - (7)在校生が不利にならない理由書

平成16年度第4回教務委員会記録  
 日時 平成16年7月12日(月) 16:40~18:30  
 場所 学生懇談会議室  
 出席者 小坂、相澤、津田、村井、高藤、木村、大山、小池、市村、高藤、学生部長  
 欠席者 (欠席:鈴木)

【配付資料】

1. 新カリキュラム表
2. 新カリキュラムに関する事項
3. 1年次修得単位数-教務委員会資料技術-
4. 3年生の応用物理についてのお知らせ
5. 電気工学科非常勤講師任用について
6. 公欠承認-サポート一部-
7. 公欠承認-サポート一部-
8. 出欠中学校への派遣依頼学生一覧
9. 外国人留学生短期留学期間、教育課程の特例一覧
10. ベンチマークプログラムへの短期留学期間単位化に関する要望
11. 平成16年度東京地区国立高専専門学校35専攻部実務委員

(議事)

1. 新カリキュラムについて
    - 1) 小坂主事から、平成17年度からの新カリキュラムの基本設計についてお話しのとおり確認が行われた。
    - ①時間割組み込み科目については資料に基づき決定する。
    - ②時間割に組み込まない単位
      - ア)インターンシップ 3単位(工学専攻を含む)
      - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - また、不同位が望ましいのではないかとの意見があった。新カリキュラムは平成17年度入学生から適用する方向性が望ましいのではないかとの意見があった。
  - ③単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ④単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑤単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑥単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑦単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑧単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑨単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑩単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑪単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑫単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑬単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑭単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑮単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑯単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑰単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑱単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑲単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ⑳単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉑単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉒単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉓単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉔単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉕単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉖単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉗単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉘単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉙単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉚単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉛単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉜単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉝単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉞単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㉟単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊱単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊲単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊳単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊴単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊵単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊶単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊷単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊸単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊹単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊺単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊻単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊼単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊽単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊾単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
  - ㊿単位認定
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
    - イ)外国語実習(表)による単位認定 1単位(表)
2. 公欠額について
  - 1) 小坂主事から、配付資料6、7、8に基づき説明があり、これを了承した。なお、今後同様な公欠額が提出された場合は主事・主事輔に一任いただくこととした。

資料9-1-④-3

## 東京工業高等専門学校基礎教育委員会規則

制定 平成17年12月1日

## (趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第7条第3項の規定に基づき、東京工業高等専門学校基礎教育委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 1年生の学習指導の連絡調整に関すること。
  - (2) 1年生の学生生活に関すること。
  - (3) その他1年生の学級運営及び学生指導に必要な事項に関すること。
- 2 審議結果は、運営会議に報告し、必要に応じ議を経なければならない。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 1年生担任
- (2) 学生課長
- (3) その他校長が必要と認めた者

## (任期)

第4条 前条第3号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、校長が指名する。

- 2 委員長は委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

## (委員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

## (事務)

第7条 委員会の事務は、学生課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

## 附 則

- 1 この規則は、平成17年12月1日から施行する。
- 2 この規則施行後最初の第3条第3号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日までとする。



平成17年度第8回基礎教育委員会記録

日時 平成17年12月19日(月) 16:22~18:30  
 場所 1棟3階会議室  
 出席者 小坂、潮、清水、玉田、加藤、町田、船戸、川北、竹田、相澤、大塚、小中澤  
 学生職員 計13名(欠席:吉本)

【配付資料】

1. 基礎教育委員会(19Dec2005)にむけて
2. 第1年生学科配属の手順
3. 第2回学科希望調査結果資料

議事

1. 配属手順をめぐって
  - (1) 1/2/15第2回希望調査クラス集計について  
 小坂委員長から、配付資料3に基づき第2回学科希望調査の結果について、現時点において定員を超える数が12名であり、前回より若干改善されている旨説明があった。また、次期生8名の状況について該当クラス担任に対し確認があり、進路変更2名、未提出1名であることが報告された。  
 引き続き小坂委員長から、今回の結果について、希望状況点、成績点まで学生に知らせることが技術的には可能であるが、どこまで出すべきか議論いただきたい旨説明があった。これを受けて、種々議論の結果、次のとおりとすることとした。  
 ・新しいかたちのスコアを個人ごとに対応わたす。なお、作成は学生課で行う。  
 ・第1希望学科の希望者数、選考種、希望学科内順位を記載する。  
 ・選考値は1.0点換算せず、6.0点満点とする。  
 ・選考の配点(2:4:4)等について、学生から疑問があった場合は公表してもよい。  
 ・正確な成績とするため1年生の前期訂正期間を設け、それを控除されたものを1月12日(水)のホームページで配付できるようにする。  
 (2) 1/25最終希望調査クラス集計について  
 小坂委員長から、配付資料2に基づき最終希望調査について、朝のホームページの出発状況が新たに追加されるため、1月26日(木)までの大府、選考回数を集計していただきたい旨依頼があった。この他、調査票配付日について、委員から1月26日(木)当日に配付し記入させるのでは、書ける学生と書けない学生でかなりの差がでしまうのではないかと意見があり、種々議論の結果、2月4日(火)に担任配付、翌25日(水)朝のホームページにおいて学生に配付することとした。

平成17年度第6回基礎教育委員会記録

日時 平成17年10月27日(水) 16:30~18:05  
 場所 学生課会議室  
 出席者 小坂、玉田、加藤、吉本、町田、船戸、川北、竹田、大塚、相澤、小中澤、学生職員 計12名(欠席:潮、清水)

【配付資料】

1. 東京高等1年生保護者合同懇談会 6Nov2005

議事

1. 学科希望調査結果と当面の学生指導及び学科配属に係る選考値算定方法の再検討について  
 小坂委員長から、第1回学科希望調査において、学科を変更した学生に対して生じている学科希望得点の不公平について、どのように対応すべきか検討したい旨、説明があった。これを受けて、各委員から概ね以下のような意見が出された。  
 ・入試時の第1希望の取り扱いについて、どのような説明がなされているかが問題ではないか。  
 ・本年度から変更した方がよいのではないか。  
 ・学生に提示できるようなものではないか。  
 ・入学後において、入試時のデータ等による不公平があつてはならないのではないか。  
 ・推薦の学生について、GPAで一定基準を下回る場合は、アドバンテージをなくしてはどうか。  
 ・第2希望での配属となった学生が、そのまま配属学科を第1希望とした場合、希望学科得点が0点となるのはおかしい。  
 ・学生の努力が反映されるものとしてほしい。  
 この他、優秀な学生を知らしめたいという学科の視点のみでの判断をなくさなければ、更に難しいのではないかと意見があり、種々議論の結果、選考値算定方法については、ワキンググループを作りシミュレーションを含め検討を行い、基礎教育委員会としての案を作成することとし、学生には第2希望までの各学科の希望者数を公表することとした。
2. 学科配属ホームページ再構築  
 小坂委員長から、配付資料1に基づき学科正式配属の手順説明5、2、(5)の部分について、資料と併せて修正したい旨、説明があった。また、同資料に際し、委員より2.単位修得と進修要件の部分について、回復措置は講じますが、Dの可能性があるというように修正してはどうかとの意見があり、併せて修正することとして了承された。

平成17年度第9回基礎教育委員会記録

日時 平成18年1月30日(月) 16:16~17:42  
 場所 1棟3階会議室  
 出席者 小坂、潮、清水、玉田、加藤、吉本、町田、松戸、川北、竹田、相澤、大坂、小中澤  
 計13名(欠席：学生部長)

【配付資料】

1. 基礎教育委員会 (30Jan2005) にむけて

議 事

1. 配属手帳をめくって  
 小坂委員長から、最終科目希望調査の結果について、当初予想していたよりも希望が分かれたため、1回の選挙で終了する見込みであること。及びその場合においても日程変更は行わない考えである旨、説明があった。また、併せて今回の選挙による配属の結果については、連続した場合のみ有効であり、進級できなかつた場合はクリアされて来年度改めて選挙の対象となる旨、説明があった。

これを受けて、委員から、17年度1年生の留年生が多かつた場合、18年度の1年生が多くなり、19年度2年生の各学科への受け入れ人数は多くなるのかとの質問があり、小坂委員長から、予定としては18年度入学式時点での1年生の定数を5で割った数でクリアになる旨、説明があった。また、選挙時に希望者が多かつた学科の受け入れ予定生数が、年度末に留年生もしくは退学した場合でも他の学生の移動はないと考えてよいかとの確認があり、そのとおりである旨、説明があった。

この他、委員から、配属に関してのお願いとして、次のような意見が出された。  
 ・学生がすべて第一希望の学科に行けるような状況としていただきたい。候補者から見た場合、物質工学科は定員よりも多く学生を取っているが、他の学科は4.8、4.4名の希望者がいるところを1、2名削ったという点では、イメージ的に悪くはならないか。

これについて、小坂委員長から、選挙会議において教員から4.2名を守るようにとの指示である旨、説明があった。

2. 次年度の基礎教育委員会について  
 (1) 委員会構成について  
 小坂委員長から、配付資料1に基づき来年度の基礎教育委員会構成について、説明があった。なお、ものづくり担当1名については、本日各担当者が決まつたため、後日改めて

(3) 配属作業について  
 小坂委員長から、配付資料1に基づき選挙期間内は、どのように選挙が行われるかわからなため、当該期間内の放課後はあけておくよう学生に指導していただきたい旨依頼があった。また、併せて面接等の情報について、各学科からクラス担任→連絡がいくようにしたいとの懸念があったが、これに対し委員から、掲示板で知らせはどうかとの意見があり、種々連絡の結果、各学科から学生課へ連絡し、学生課が掲示板で情報を掲示することとした。  
 なお、掲示は学籍番号のみで行い、各クラス担任は掲示板を必ず見るよう学生に指導することとした。

この他、選挙期間等について、小坂委員長から、希望状況によっては、いろいろなケースが起つてくると考えられるが、選挙期間を動的に変更したり、日数、発表日時を変更することはない考えである旨説明があった。

2. 次年度の基礎教育委員会について

小坂委員長から、配付資料1に基づき次年度の基礎教育委員会の構成、運営及び担任の組み合わせ等について、資料のとおり予定しており、次回委員会において各担当等を決したい旨説明があった。

3. 学生指導について

各クラスの状況について、種々意見交換を行った。その中で1月に実施予定の百人一首大会に関し質問があり、松戸委員から、1月12日(水)、28日(木)のカーニバル終了後13時45分より第2体育館で開催し、準備等は学生の実行委員が行うため、各クラス担任は参加することはしない旨説明があった。

この他、小坂委員長から、無務修学の処分を受けた3名の学生について、進級のための支援、特に1/3以上の欠席となつてしまう科目に対して、基礎教育委員会としてどのように対応すべきか確認いただいた旨説明があった。これを受けて種々議論を行ったが、対応については結論は得られなかつた。

次回はメールによる調査で決定した日に開催予定

(出典 基礎教育委員会議事録)

平成 17 年度運営会議（学年課程修了認定）議事要録

日時：平成 18 年 3 月 17 日（金）9 時 00 分～11 時 30 分  
 場所：第 1 棟 3 階会議室  
 構成員：19 名 欠席者なし

配布資料

- ・ 学業成績原簿
- ・ 留学生・編入学生修得単位一覧（1.5 名）
- ・ 修了基準未達の学生一覧
- ・ 平成 17 年度身分異動一覧（1.4 名 1.6 件分）
- ・ 東京工業高等専門学校学業成績の評価及び学年課程修了認定等に関する内規（抄）
- ・ 学年課程修了の認定基準
- ・ 確認・集計表
- ・ 新進認定基準に対する疑問と提案（一般教科よりの特出資料）

○ 議決事項

1. 資料の説明・確認について  
 教務主事より、配布資料の説明があり、確認を行った。
2. 審議対象者の確認について  
 資料に基づき、休学者・年度途中退学者を確認し、826 名の審議対象者の確認を行った。
3. 修了認定基準を満たさない学生の確認について  
 主事・主事補の審議対象者の事前審査の結果、学年課程修了認定等に関する内規第 4 条 2 項について下記のとおり報告があった。  
 (1) 欠席日数が年間総課日数の 5 分の 1 を超える者が 4 名。  
 (2) 学校行事又は特別活動への参加状況が特に悪い者の報告はない。  
 (3) その他審議を必要と認められる者について、各学科長より該当者なしの報告があった。
4. 修了事件を満たしている学生の確認について  
 資料に基づき、第 4 学年よりクラス毎に学年課程修了の認定確認を行い、第 4 条 2 項の別記定める学年課程修了の認定基準 1 を満たしていない者を資料の上より確認し、審議対象者 826 名中 85 名を除いた 761 名の学生を学年課程修了者として認定することを決定した。  
 なお、65 名中 1 名については留校の理由によりこの会議での認定ではなく校務執行会議議決ありとしたことと、留校が校長先生よりあり、了承された。
5. 修了を認定できない者の要議について  
 各学科長より修了を認定できない者の進路について報告があり、64 名を原級留置者

とした。  
 また、上記の者が退学した場合は在籍学年修了認定を資料の上おとし、18 名を否とした。

6. 原級留置者への申し渡し及び校長訓諭について  
 ①進学者・復学者は 3 月 23 日（木）1.3 時まで教務部に提出する。  
 ②原級留置者への申し渡しは 20 日（月）1.0 時 30 分としているが、資料において柔軟に対応してもかまわない。  
 ③校長訓諭については全学年一括に 4 月 5 日（水）1.4 時より行方目、アナウンスがあった。

7. その他  
 数字教科代表より今年度の数字全体の成績と再指導について報告があり、最終的に口評値をつけざるを得なかった学生の今後の指導について問題提起があった。  
 また、一般教科代表より「新進認定基準に対する原印と提案」の提出があり、現行システムの不都合について意見交換を行った。いずれも今後の手帳を踏んで議論することとした。

(出典 運営会議議事録)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>平成18年度 第6回教務委員会</p> <p>日 時：9月11日(月)16:20～ 20:15</p> <p>場 所：学生課会議室</p> <p>出席者：小坂、藤野、大野、古野、相澤、石井、古野、相澤、佐藤、水谷、北原、金澤、学生部長</p> <p>配布資料：<br/>資料1：学習到達度試験(数学)についての構想<br/>資料2：(※教学生産部利用)平成18年度 高等専門学校学習到達度試験の実施について<br/>資料3：平成19年度学年(案)について<br/>資料4：平成20年度学年(案)について<br/>資料5：公欠に関する内規(案)の改正について<br/>資料6：(数学総合(原野))の単位認定について<br/>資料7：気象災害、交通機関障害に伴う授業実施について<br/>資料8：9月1日現在の学生数について<br/>資料9：外国人留学生時間割(後期分)の提出について</p> <p>1. 審議事項<br/>(中略)</p> <p>(2)新進級基準について<br/>7月の教育研究会の意見交換を踏まえて、総務審議を行った。教務主宰が変更してまだ1年目の期間しか経っていない。実施する際、事前に手配を必要とする点があることから、2008年度に向けて進級基準にマージンを持たせることを検討したい旨、意見集がありその方向で議論することとした。<br/>また、卒業に5科目(90%点以上)の導入も2008年度に向けて検討したい旨、提案があった。</p> | <p>平成19年度 第1回教務委員会記録</p> <p>日 時：平成19年4月16日(月)10:20～19:55</p> <p>場 所：学生課会議室</p> <p>出席者：小坂、藤野、福田、大野、古野、相澤、石川(教務兼科代表代理)、香澤(総)、土井、原野、青野、中川(C学兼科代表)、(総監)</p> <p>出席者：全席</p> <p>配布資料：<br/>資料1：授業改善案について<br/>資料2：1年生各学履修科目中の授業の構築について<br/>資料3：平成19年度本邦インターンシップ打ち合わせ記録<br/>資料4：TOEIC bridge IP 試験について</p> <p>1. 審議事項<br/>(中略)</p> <p>(4)学年履修修了認定基準単位数及び評定の見直しについて<br/>昨年度から履修記録となった履修記録について、審議の結果、次の基準を教務委員会とすることとした。<br/>①1から3学年修了認定に4単位の未修単位数を認める。<br/>②全学共通の必修科目を新たに設置することはしない、すでに専門科目で定めているものについては変更しない。<br/>③D評価をDとEに分けることはしない。<br/>④科目評価A、B、C、Dに加え、S評価(95%以上)を認める。<br/>⑤卒業は2008年度からとする。<br/>なお、新しい学履修修了認定基準単位数(案)を教務主宰が作成し、構成員に配付し、各学科等で検討することとした。また、検討する際には、前置工学科においては「化学I、化学II」のより深い学習に留意することとした。</p> |
| <p>平成18年度 第10回教務委員会記録</p> <p>日 時：2月5日(日)16:30～20:00</p> <p>場 所：学生課会議室</p> <p>参加者：小坂、藤野、大野、岩本、黒崎、須原(代理)、鹿毛、石井、相澤、古野、相田(代理)、金澤、学生部長</p> <p>配布資料：1. 平成19年度学年(案)<br/>2. 単位認定<br/>3. 単位認定<br/>①電気工学科「情報技術特講」<br/>②電子工学科「電子工学特別演習Ⅰ」<br/>③情報工学科「基用情報通信特講Ⅰ」<br/>④化学工学科「環境科学特講」<br/>4. 選科科目一覧表</p> <p>1. 審議事項<br/>(中略)</p> <p>(4)新進級基準について (継続)<br/>一般からの提案について各学科での検討結果の報告があり、意見交換を行ったが一般科目は</p>                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>平成19年度 第10回教務委員会記録</p> <p>日 時：2月5日(日)16:30～20:00</p> <p>場 所：学生課会議室</p> <p>参加者：小坂、藤野、大野、岩本、黒崎、須原(代理)、鹿毛、石井、相澤、古野、相田(代理)、金澤、学生部長</p> <p>配布資料：1. 平成19年度学年(案)<br/>2. 単位認定<br/>3. 単位認定<br/>①電気工学科「情報技術特講」<br/>②電子工学科「電子工学特別演習Ⅰ」<br/>③情報工学科「基用情報通信特講Ⅰ」<br/>④化学工学科「環境科学特講」<br/>4. 選科科目一覧表</p> <p>1. 審議事項<br/>(中略)</p> <p>(4)新進級基準について (継続)<br/>一般からの提案について各学科での検討結果の報告があり、意見交換を行ったが一般科目は</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

(出典 教務委員会資料)

観点9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

各教員の自己評価は集計した後、教員の質の向上と授業改善に資するため、平均値のグラフと共に各教員にフィードバックされる(資料9-1-⑤-1)。また、授業評価アンケート結果は集計した後、授業改善に資するため、各教員にフィードバックされる(資料9-1-⑤-2)。各教員は、授業アンケート結果に基づき、授業改善案を作成し、授業改善記録(前掲の9-1-②-3、現地閲覧資料101)として、ウェブ上に保存する。さらに、改善計画に基づきシラバスを変更する(資料9-1-⑤-3)。

また、自己評価の結果を教員の質の向上に結びつけるため、各教員は、外部の研究会、研修会に出席して自己研鑽をしており、その結果、多くの教員が学位を取得するなどしている(現地閲覧資料を参照)。学校としては、優秀教員評価において、これらの資料を利用している(資料9-1-⑤-5、資料9-1-⑤-6)。

(分析結果とその根拠理由)

各教員の自己評価と授業評価アンケート結果は集計した後、教員の質の向上と授業改善に資するため、各教員にフィードバックされる。また、各教員は、授業アンケート結果に基づき、授業改善案を作成し、授業改善記録として、ウェブ上に保存する。

また、自己評価の結果を教員の質の向上に結びつけるため、各教員は、外部の研究会、研修会に出席して自己研鑽をしており、多くの教員が学位を取得するなどの成果を生んでいる。学校としては、優秀教員評価において、これらの資料を利用している。

以上により、個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容等の継続的改善を行っている。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握している。

資料 9-1-⑤-1

東高専企 第 15 号  
平成17年11月25日

東京工業高等専門学校  
校長 松本 浩之

教員各位

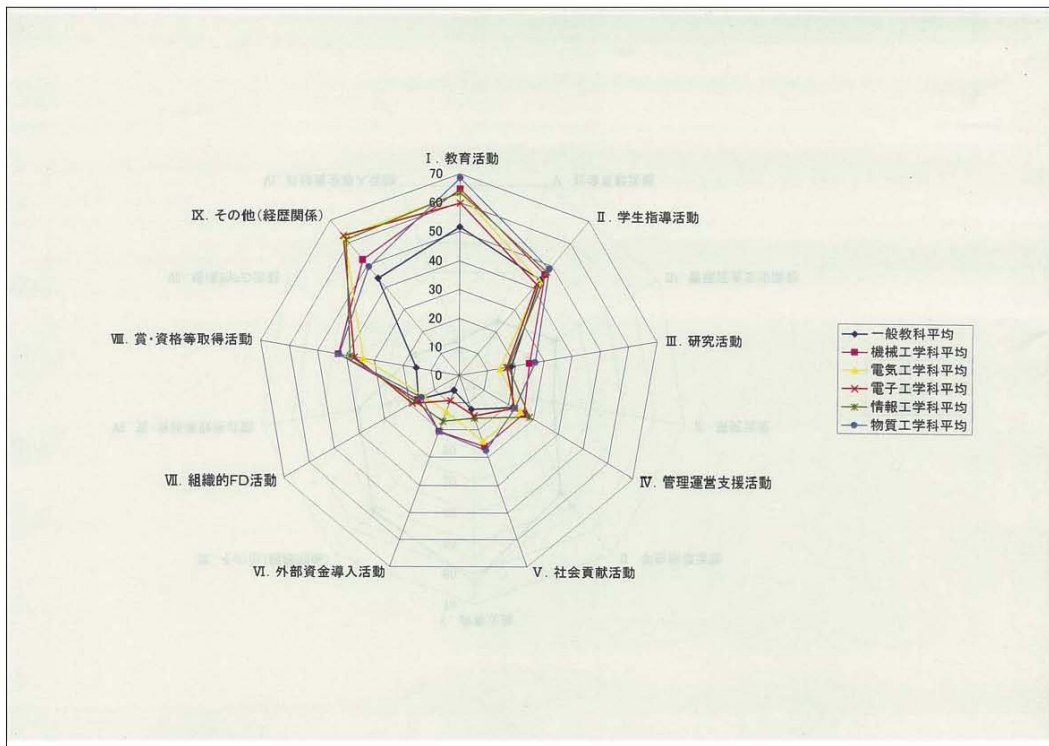
教員の教育研究活動等に係る自己申告書集計結果について（通知）

週日ご提出いただいた自己申告書について、集計結果を通知いたしますので、今後の教育研究活動等を行う際の目安としてご活用ください。

なお、本結果は下記2種類のグラフにまとめられており、2. レーダーグラフ（個人別）については本人のみに通知しております。

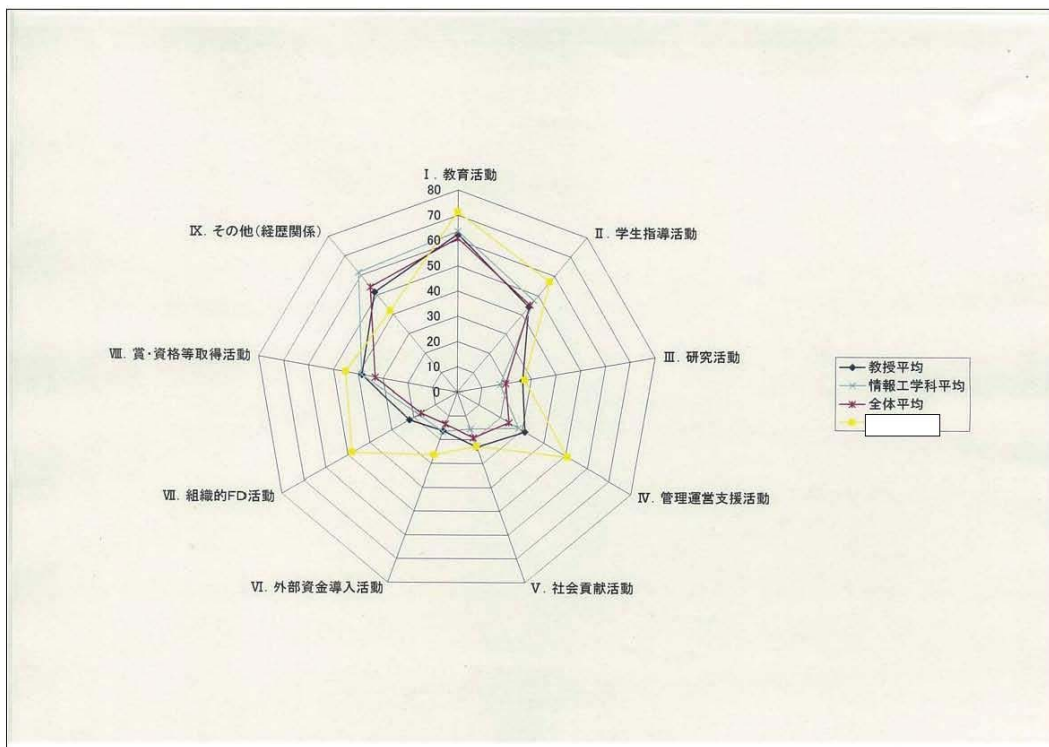
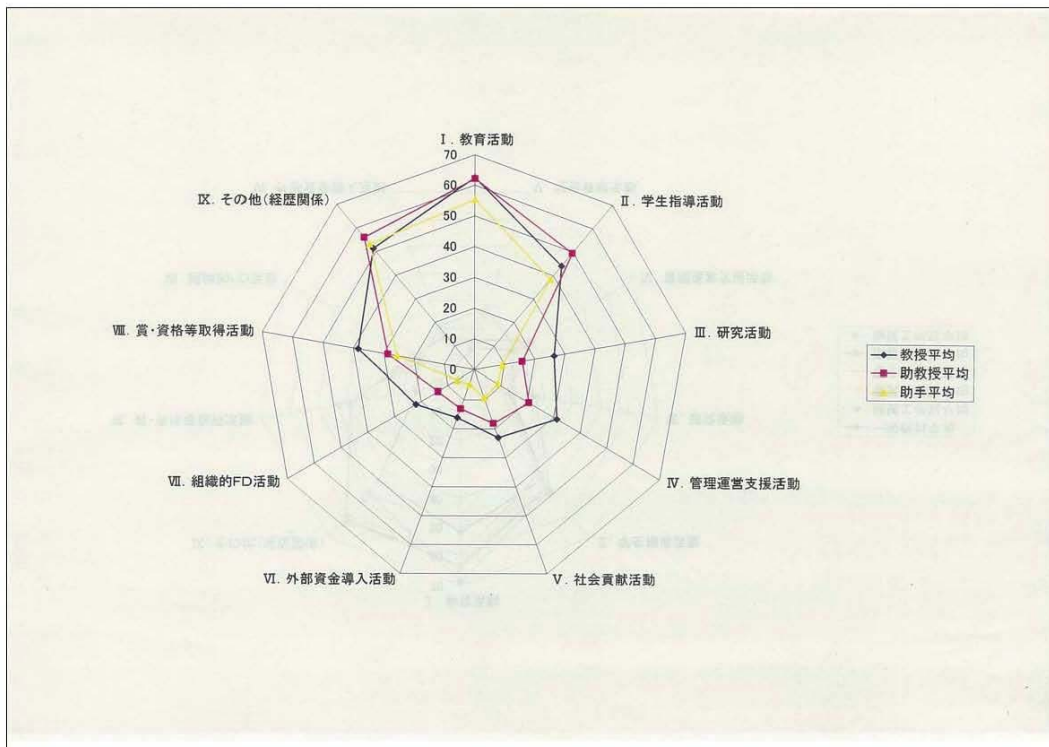
記

1. 項目別総合棒グラフ（集点）  
項目毎に得点を最高点（集点満点）から1.0段階に区分し、各得点範囲の人数を棒グラフで表しています。
2. レーダーグラフ（各学科平均グラフ、各種平均グラフ、個人別グラフ）  
項目毎に集点を1.0.0点満点で換算した得点を基に作成しています。また、個人別グラフについては、本人グラフのほかにも職種平均、学科平均及び全体平均の4種類のグラフで構成されています。



(出典 自己評価集計結果一部抜粋)

資料 9-1-⑤-1



(出典 自己評価集計結果一部抜粋)

資料9-1-⑤-2

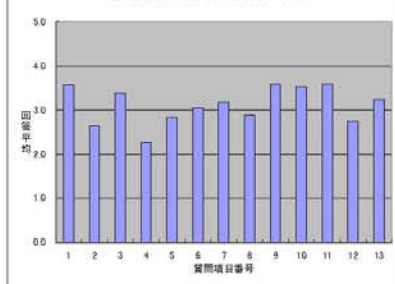
No.

1-4 物理(20704 講義 講義 Q2).xls

| 質問                                     | 回答    |       |       |       |       | 回答平均 |
|----------------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|                                        | 回答 1  | 回答 2  | 回答 3  | 回答 4  | 回答 5  |      |
| 1.あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか。                | 2.4%  | 7.1%  | 40.0% | 31.0% | 19.0% | 3.6  |
| 2.あなたはこの授業のために平常や宿題などの程度行っていますか。       | 11.9% | 33.3% | 39.1% | 11.9% | 4.0%  | 2.6  |
| 3.あなた自身の授業態度等はまあまあだと感じますか。             | 2.4%  | 9.5%  | 47.8% | 25.0% | 11.9% | 3.4  |
| 4.授業の内容はあなたにとって難しいですか。                 | 28.6% | 28.6% | 33.3% | 7.1%  | 2.4%  | 2.3  |
| 5.授業の進度はあなたにとって適切ですか。                  | 9.5%  | 21.4% | 52.4% | 9.5%  | 7.1%  | 2.8  |
| 6.先生の説明はわかりやすいですか。                     | 9.5%  | 18.0% | 39.1% | 23.8% | 9.5%  | 3.0  |
| 7.先生の話し方(声量、スピード等)は聞き取りやすいですか。         | 7.1%  | 4.8%  | 59.9% | 19.0% | 9.5%  | 3.2  |
| 8.黒板の文字や図はわかりやすいですか。                   | 16.7% | 16.7% | 42.9% | 9.5%  | 14.3% | 2.9  |
| 9.授業の説明は、学生に理解してもらおうという意図を感じますか。       | 4.8%  | 2.4%  | 40.0% | 33.3% | 19.0% | 3.6  |
| 10.この授業科目の必要(重要)性は授業を通して伝わりますか。        | 2.4%  | 2.4%  | 56.8% | 21.4% | 19.0% | 3.5  |
| 11.成績評価の結果は適切と思われるですか。                 | 2.4%  | 2.4%  | 50.0% | 23.8% | 21.4% | 3.6  |
| 12.あなた自身は、この科目の内容をどの程度理解できていると思われるですか。 | 16.7% | 16.7% | 47.8% | 14.3% | 4.8%  | 2.7  |
| 13.この授業科目はシラバス通りであったと思われるですか。          | 0.0%  | 2.4%  | 73.8% | 21.4% | 2.4%  | 3.2  |

回答1:悪い 回答2:やや悪い 回答3:普通 回答4:やや良い 回答5:良い

各質問項と回答平均グラフ(産学授業について)



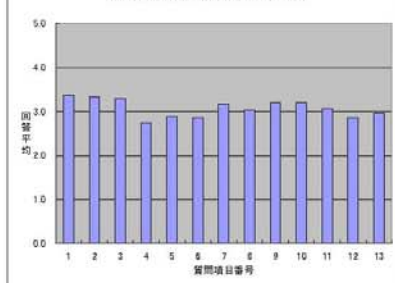
No.

3.1 健康-保健Ⅱ(40234 発講 講義 Q2).xls

| 質問                                     | 回答    |       |       |       |       | 回答平均 |
|----------------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|                                        | 回答 1  | 回答 2  | 回答 3  | 回答 4  | 回答 5  |      |
| 1.あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか。                | 3.3%  | 6.7%  | 50.0% | 30.0% | 10.0% | 3.4  |
| 2.あなたはこの授業のために平常や宿題などの程度行っていますか。       | 6.7%  | 6.7%  | 40.0% | 40.0% | 6.7%  | 3.1  |
| 3.あなた自身の授業態度等はまあまあだと感じますか。             | 3.3%  | 10.0% | 46.7% | 33.3% | 6.7%  | 3.3  |
| 4.授業の内容はあなたにとって難しいですか。                 | 13.3% | 16.7% | 56.7% | 10.0% | 3.3%  | 2.7  |
| 5.授業の進度はあなたにとって適切ですか。                  | 10.0% | 16.7% | 53.3% | 13.3% | 6.7%  | 2.9  |
| 6.先生の説明はわかりやすいですか。                     | 10.0% | 13.3% | 60.0% | 13.3% | 3.3%  | 2.9  |
| 7.先生の話し方(声量、スピード等)は聞き取りやすいですか。         | 6.7%  | 10.0% | 46.7% | 33.3% | 3.3%  | 3.2  |
| 8.黒板の文字や図はわかりやすいですか。                   | 6.7%  | 10.0% | 60.0% | 20.0% | 3.3%  | 3.0  |
| 9.授業の説明は、学生に理解してもらおうという意図を感じますか。       | 6.7%  | 13.3% | 43.3% | 26.7% | 10.0% | 3.2  |
| 10.この授業科目の必要(重要)性は授業を通して伝わりますか。        | 6.7%  | 10.0% | 43.3% | 36.7% | 3.3%  | 3.2  |
| 11.成績評価の結果は適切と思われるですか。                 | 6.7%  | 6.7%  | 66.7% | 13.3% | 6.7%  | 3.1  |
| 12.あなた自身は、この科目の内容をどの程度理解できていると思われるですか。 | 6.7%  | 20.0% | 56.7% | 13.3% | 3.3%  | 2.9  |
| 13.この授業科目はシラバス通りであったと思われるですか。          | 3.3%  | 10.0% | 76.7% | 6.7%  | 3.3%  | 3.0  |

回答1:悪い 回答2:やや悪い 回答3:普通 回答4:やや良い 回答5:良い

各質問項と回答平均グラフ(産学授業について)



(出典 平成18年度授業アンケート集計結果例)



2005年度 授業改善 (物質工学科)

| 学年    | 授業名    | アンケート結果        | 改善内容                                               |
|-------|--------|----------------|----------------------------------------------------|
| 4年    | 高分子化学  | 黒板の文字や図がわかりにくい | 字を大きく書くようにした。                                      |
| 4年    | 機構分析Ⅱ  | 授業内容が難しい       | 演習問題の解説を黒板に出てやらせることで学生がどこを理解していないか把握するようにした。       |
| 5年    | 生体高分子学 | 授業内容が難しい       | プリントに要点をまとめて配るようにした。                               |
| 5年    | 酵素工学   | 授業内容が難しい       | プリントに要点をまとめて配るようにした。                               |
| 専攻科1年 | 構造有機化学 | 授業内容が難しい       | 有機化学の知識が足りないので三年生の有機化学で教えたことを復習してから新しいことを教えるようにした。 |

成績評価・授業改善記録

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 教科目名  | 科目名(記入)(English Name) |
| 担当教員  | 所属科                   |
| 学年    | 専攻科1年                 |
| 必修/選択 | 必修                    |
| 単位数   | 3単位                   |

授業の目標と到達  
 本科で学んだ物理を基礎として、専門科目へ通ずる基礎的な力学の講義を行う。微積分・ベクトル力学を用いて力学を学び、工学分野で力学の果たす役割を学ぶ。同時に、微積分を工学に応用する方法について理解する。新卒力学の初歩についても理解する。

| 評価       | 人数 |
|----------|----|
| A(80点以上) | 27 |
| B(70点以上) | 6  |
| C(60点以上) | 4  |
| D(50点未満) | 2  |
| 合計       | 39 |

平均点 85.0点  
 成績評価の方法  
 テスト80%、課外20%

答案返却 返却否

授業の目標の達成度評価と、前年度科目の授業改善後に「よりわかりやすくなる」として、専門科目へ通ずる基礎的な力学の講義を行う。微積分・ベクトル力学を用いて力学を学び、工学分野で力学の果たす役割を学ぶ。同時に、微積分を工学に応用する方法について理解する。という目標はおおむね達成できた。解析力学の初歩を加えたため、新卒生はあったようである。

学生の授業アンケート評価に対するコメント  
 評価が低い項目は「予習や復習をやっていますか。」という項目であり、前年度よりは改善されたが「黒板(白黒)の文字や図がわかりやすいか。」という項目も評価が低かった。黒板だけでなく、白黒でやったこととが原因のことがあったことであると思う。

来年度に向けた授業改善計画  
 来年度は4学年のみであるから、今年こそ普通教室で授業を実施したい。また、内容的にも、解析力学の初歩をやさしく説明する内容を充実させたい。

(出典 授業改善記録等から抜粋)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>一般教科担当教員全員の共通の点数とする。なお、合計点（満点170点）は、変更しないこととする。</p> <p>③教員による自己評価、教員による相互評価及び学生による教員評価の結果がともに良好で、かつ、文部科学大臣等の表彰をするにふさわしい教員を選考する。（必ずしも最高点の者でなくともよい。）</p> <p>(2) 推薦人員<br/>各国立高等専門学校から1名とする。ただし、昨年度の受賞者は除く。</p> <p>(3) 提出書類<br/>①教員顕彰申請書（様式1）<br/>当該教員の自己評価集計表を添付<br/>※顕彰題目及び顕彰内容は受賞後に公表されることを前提に記入すること。<br/>②自己申請書（A4版3枚、様式2）<br/>※この申請書以外の資料の添付は禁止。なお、記載内容は受賞後に公表されることを前提に記入すること。<br/>③推薦の所見（A4版1枚、任意書式）<br/>④教員の教育業績等評価関係資料（様式3）</p> <p>3. 顕彰対象者選考要領<br/>(1) 選考委員会の構成<br/>①独立行政法人国立高等専門学校機構教育・FD委員会委員3名及び員外及び嘱託技師科学大学等の教員2名の計5名で構成する。<br/>（注：委員となった校長は当該学校の教員の希望には加わらない。）<br/>②委員会に委員を置き、教育・FD委員会委員の中から互選する。<br/>(2) 選考方法<br/>審査項目及び配点は下記のとおりとし、選考委員が採点を行う。<br/>採点結果を公表し、提出書類を総合的に査定し、選考する。<br/>①推薦の自己申請書の内容 5.0点<br/>②当該教員の教育業績自己採点 1.0点<br/>③教員の相互評価結果 2.0点<br/>④学生の評価結果 2.0点<br/>合計 10.0点</p> <p>4. 日程<br/>9月下旬 候補者募集<br/>11月中旬 候補者選考<br/>1月中旬 選考委員会開催、顕彰教員を決定<br/>2月下旬 文部科学省へ顕彰教員への表彰を依頼<br/>3月下旬 校長会議において表彰</p> | <p>平成18年9月15日<br/>独立行政法人国立高等専門学校機構理事長決定</p> <p><b>平成18年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項</b></p> <p>1. 顕彰要項<br/>(1) 対象<br/>高等専門学校教員は主として教育者の面を持つが、一方で研究者の面を持つとともに高等専門学校の管理運営にも果たすべき役割がある。高等専門学校教員連年に対する業績評価は、これらを総合して行われるべきものであるが、現状においては、とすれば専門の研究業績のみが評価され、学生教育や管理運営に係る業績が適正に評価されていない恐れがある。このように観点から、業績評価をFD活動を含み、学生教育を中心とする分野において顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに、顕彰を通じて高等における教育の充実・向上を目指すものである。</p> <p>(2) 顕彰基準<br/>国立高等専門学校における教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績があったと認められる者とする。</p> <p>(3) 賞の名称<br/>文部科学大臣賞 1名<br/>独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞 若干名<br/>独立行政法人国立高等専門学校機構理事賞 若干名<br/>独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰選考委員会特別賞 若干名</p> <p>(4) 候補者の推薦<br/>下記2の候補者推薦要領により、各国立高等専門学校校長が行う。</p> <p>(5) 顕彰対象者の決定<br/>上記によって推薦された候補者の中から、下記3の顕彰対象者選考要領に基づいて選考委員会が顕彰教員を選考・決定し、文部科学省へ表彰の依頼をする。</p> <p>(6) 顕彰の時期<br/>平成19年3月開催予定の校長会議の上で行う。</p> <p>2. 候補者推薦要領<br/>(1) 推薦基準<br/>①別に定める教員による自己評価（第1節）、教員による相互評価（第2節）、学生による教員の評価（第3節）の総合評価に基づき候補者の選考を行う。<br/>②教員による自己評価（第1節）の点数集計を行う際、一般教科担当教員で卒業生、留學生を担当しない場合は、「A、5卒業論文指導の状況等」及び「A、6留學生の指導等」を自己採点しない場合、合計点（満点）が異なることとなり、不利になるため、この場合の取扱いを次のようにする。<br/>※ 専門学科教員のA、5（満点11点）、A、6（満点6点）、合計（満点17点）の自己採点結果の平均点（例えば、A、5（7点）、A、6（2点）、合計（9点））を</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

（出典 平成18年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項）

資料 9-1-⑤-6

## 国立高等専門学校教員顕彰実績

## 本校推薦者一覧

|          |       |           |
|----------|-------|-----------|
| 平成 14 年度 | 機械工学科 | 佐藤 義孝 教授  |
| 平成 15 年度 | 電気工学科 | 舘泉 雄治 助教授 |
| 平成 16 年度 | 電子工学科 | 潮 秀樹 教授   |
| 平成 17 年度 | 一般科目  | 古屋 正俊 教授  |
| 平成 18 年度 | 一般科目  | 浅野 敬一 准教授 |

## 本校受賞者

|          |       |          |
|----------|-------|----------|
| 平成 14 年度 | 機械工学科 | 佐藤 義孝 教授 |
| 平成 17 年度 | 一般科目  | 古屋 正俊 教授 |

(出典 総務課資料から集計)



**観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。**

(観点に係る状況)

本校においては多くの研究活動が教育の質の改善に寄与している。資料 9-1-⑥-1 は、近年、本校教員が発表した論文のうち、教育改善等に関する主なものを抜き出したものである。このように教育方法等の研究が活発に行われている。また、これらの研究成果は授業改善等に資している。例をあげると、文献 37 の事例では、卒業研究の一貫として開発された教育用計算機システムの CPU シミュレータを授業の場に還元し、実際にものに触れながら直感的に理解しやすい実験教材として授業改善に役に立っている。その他にも沢山の教育改善事例がある（現地閲覧資料 18）。

また、専門分野の研究を深めることにより授業改善等に資している近年の事例は資料 9-1-⑥-2 の通りである。情報理論、情報通信、信号処理、半導体物性、半導体デバイスなどの授業においては、専門分野で行われている最先端の研究内容の事例紹介や、実際に専門分野の研究で用いた生のデータを授業で活用することにより、授業改善等に資している。

このように、教育研究および専門研究は非常に盛んに行われており、その成果は、様々な形で授業に還元されて、教育の質の改善に寄与している。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、資料 9-1-⑥-1 および資料 9-1-⑥-2 の事例、および現地閲覧資料 18 に見られるとおり、多くの研究活動が教育の質の改善に寄与している。

Carbon 2005 (Aberdeen) 59-3 (July 2006)

- 1 8. Co-51Crによるエチレン吸着反応の機構、江原輝雄、松本豊樹、炭素材料吸着反応研究 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 0. アルミナ吸着剤カソード電極の電解に伴う電解液酸化反応の機構、森田洋、清水健也、炭素材料吸着反応研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 1. 三元系炭素化合物からの炭素黒質の炭素材料吸着剤、森田洋、清水健也、炭素材料吸着反応研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 2. カーボンペーストの高圧電極化反応、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 3. 炭素黒質の吸着反応の機構、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 4. "Fmoc"を用いた炭素材料吸着剤の合成、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 5. 炭素黒質の吸着反応の機構、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 6. "Fmoc"を用いた炭素材料吸着剤の合成、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 7. "Fmoc"を用いた炭素材料吸着剤の合成、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 8. 炭素黒質の吸着反応の機構、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 2 9. 炭素黒質の吸着反応の機構、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 3 0. 炭素黒質の吸着反応の機構、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006
- 3 1. 炭素黒質の吸着反応の機構、炭素黒質吸着反応研究会 炭素化合物物性研究会 30周年記念研究発表会、2006

1. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
2. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
3. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
4. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
5. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
6. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
7. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
8. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
9. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
10. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
11. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
12. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
13. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
14. 炭素黒質の異なる構造の炭素材料の電気伝導性、日本炭素材料学会、2006
15. Change of electric resistance of graphite cathode during electrolysis in alumina molten salt. Aizawa, E. Kang, T. Usui, K. Karada, Carbon 2006 (Aberdeen) 59-3 (July 2006)
16. Characterization of graphite intercalation compounds prepared from carbon materials with different heat-treatment temperature. Aizawa, E. Tsushiy, R. Matsumoto and Y. Souda, Carbon 2005 (Aberdeen) 59-3 (July 2006)
17. Change of  $\sigma$ -axis resistivity of Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> during sorption of H<sub>2</sub>, CO<sub>2</sub> and CO. H. Aizawa, Y. Kanishashi, Y. Sato, K. Tsushiy and R. Matsumoto, Carbon 2005 (Aberdeen) 59-3 (July 2006)
18. Chemical modification of graphitic powder and electric resistance of graphite, C5F6O3 and C24(O2H)2.2xCO2. H. Aizawa, Y. Kanishashi, K. Tsushiy, K. Tamaki, Y. Iwasa and R. Matsumoto, Carbon 2005 (Aberdeen) 59-3 (July 2006)

(出典 教員研究業績まとめ)

4.8. 半導体プロトン導電性固体電解質の研究(1)A1 岩水 茂夫 磯石研室 電気化学会、2006

4.9. 固体高分子部電解質カソード燃料電池性能向上のための開発(1)A1 岡谷 一輝 磯石研室 電気化学会、2006

5.0. 固体高分子部電解質カソード燃料電池性能向上のための開発(2) 岡谷 一輝 磯石研室 電気化学会、2006

5.1. 光導波管分光法による固液界面への色素吸着特性の研究(2) 月田 仁 磯石研室 電気化学会、2006

5.2. ハイドロクワ型触媒を用いた水の光分解に関する基礎的研究 5.0 田邊 命と磯石研室 電気化学会、2006

5.3. 酸化還元反応による生分解性樹脂の合成 5.0 小塚 一三 磯石研室 第12回高専シンポジウム、2006

5.4. 原水山吹土壌への下水由来溶解性有機物の吸着 5.0 山崎 三 磯石研室 第12回高専シンポジウム、2006

5.5. 学生主体的授業「ナノシリコン」を用いた酸化還元反応の研究 第12回高専シンポジウム、2006

5.6. バックアップラナーを用いた酸化還元反応の研究 第12回高専シンポジウム、2006

5.7. Boron-LiDMSO系を用いた高圧有機物電解質の電子輸送 2.0 山本 理二 5.0 松嶋 勉 土屋 研室 第33回高専材料科学会、2006

5.8. 伊藤 彰、「電子伝導性有機物」の電子輸送特性に関する基礎的研究をテーマとして、日本化学教育学会高専・大学部論文誌、Vol. 12, No. 1, pp. 93-98, 2005

「電子伝導性有機物」、「アミノ酸」の性質について、本学高専新聞を巻料として活用している。

5.9. 大山 昌幸、伊藤 彰、佐野 孝、「電子伝導性有機物」の電子輸送特性に関する基礎的研究をテーマとして、日本化学教育学会高専・大学部論文誌、Vol. 12, No. 1, pp. 93-98, 2005

水素分子、半導体材料の物理化学的性質を考察し、実際に真空プロセス技術により薄膜を作製し、その薄膜の物理特性から物理性を評価している。このことより、半導体の基礎研究から材料開発まで、さらには基礎研究の応用までを担うことができる。「基礎電子工学」、「電子伝導性」、「半導体特性」、「電子材料プロセス工学」の講義に生かすことができる。

6.0. 土井 洋、竹内 俊子、「都市圏における地球温暖化対策モデルの開発」、電気学会論文誌D、Vol. 125, No. 11, pp. 1936-1947, 2005

今日のエネルギー問題において、エネルギーセキュリティと共に、地球温暖化への対応などの環境的側面が重要な課題となっている。この課題に取り組むために本論文は、エネルギーマネジメントシステム構築として、「新エネルギー工学」の構築に活かすことができる。

6.1. 伊藤 彰、「基礎電子工学」を用いた制御系の高度制御、平成18年度高専学会高専論文部

3.2. “産業情報系学生を対象としたもの作り導入—基本応用製作とマイクロコントローラ—” 巻一、西村 浩、小坂 誠、日本工学教育協会第52回年次大会(工学・工業教育研究協議会) 講演論文集、pp. 33-34

3.3. “産業情報系学生を対象としたマイクロコントローラ製作—実習型授業による教育効果の向上—”、西村 浩、小坂 誠、日本工学教育協会第52回年次大会(工学・工業教育研究協議会) 講演論文集、pp. 508-507, 2005 年9月

3.4. “東京工業高等専門学校情報工学科における情報教育とその展望”、小坂 誠、西村 浩、小坂 誠、第1回100%教育者会議 予稿集、pp. 37-40 (Sep. 2003).

3.5. “マイクロコンピュータのシステム設計教育について”、堀山 隆盛、西村 浩、平塚 友一、紀本 孝、東京工業高等専門学校研究報告書 第33号、pp. 9-14, 2007

3.6. “幅広い層(20)向け共有メモリ管理方式の開発”、堀山 隆盛、紀本 孝、市村 洋、東京工業高等専門学校研究報告書、第38号、pp. 79-86, 2008

3.7. “教育用計算機設計システムの開発について—コンピュータ教育用CPUシミュレータSimESの開発—”、堀山 隆盛、紀本 孝、市村 洋、東京工業高等専門学校研究報告書 第38号、pp. 33-45, 2008

3.8. アルミナ溶融電解に伴うカソード電位の動電位化現象、駒久 沢昇、藤本 龍也、黒田 孝二 駒久 沢昇研究室 第3 回高専材料科学会、2006

3.9. カーボンペーストの高純度化研究、駒久 沢昇、岩倉 山大 駒久 沢昇研究室 第33回高専材料科学会、2006

4.0. アルカリ金属—有機電解質系からなる電池の性能向上、駒久 沢昇、黒田 龍也 駒久 沢昇研究室 第33回高専材料科学会、2006

4.1. Cs-2Mn-7F-Wa-Fa-三元系化合物の酸化還元特性、駒久 沢昇、松本 龍也 駒久 沢昇研究室 第33回高専材料科学会、2006

4.2. 有機電子系からなる電池の性能向上、黒田 龍也、駒久 沢昇、黒田 龍也 駒久 沢昇研究室 第57巻、2007

4.3. Study on the water treatment for natural rubber factory 50 (M) 141 石井 研室 The International Symposium, 2006

4.4. 亜硫酸塩の酸化還元反応に関する基礎研究 30 小林 崇 45 秋山 亮 基礎研究 第24回高専学会、2006

4.5. ソラマニ電子線の湿水処理による成長及び汚染の軽減 55 小林 崇 45 高専研究 第25巻 高専研究、2006

4.6. ソラマニ電子線の湿水処理による成長及び汚染の軽減 55 黒田 龍也 基礎研究 第12回高専シンポジウム、2006

4.7. 半導体センサーを使った自然環境モニタリング 55 秋山 亮 基礎研究 第12回高専シンポジウム、2006

(出典 教員研究業績まとめ)





Symp. Proc. 891, Warrensville, PA, 2006, 21

- 1 0 5 . H. Nagayoshi, H. Sato, S. Nishimura, and K. Terashima "Hydrogen Radical Etching Effect on Carbon Nanotube Growth" Mater. Res. Soc. Symp. Proc. 890, Warrendale, PA, 2006, 12
- 1 0 6 . H. Nagayoshi, S. Nishimura, K. Terashima and A. Uryashin "Texturing Mechanism of Si Using Hydrogen Radicals" Proceedings of the 4<sup>th</sup> WPEC 2006.
- 1 0 7 . H. Nagayoshi, S. Nishimura and K. Terashima "Optical Properties of Exposed GaP Crystals for Solar Cell Application" Proceedings of the 4<sup>th</sup> WPEC 2006.
- 1 0 8 . H. Nagayoshi and T. Kajikawa "Mismatch Power Loss Reduction on Thermoelectric Generator Systems Using Maximum Power Point Tracker" Proceedings of 29<sup>th</sup> International Conference on Thermoelectronics, Vienna, 2006
- 1 0 9 . Hiroshi Nagayoshi, Kenji Subramani and Mounir Khench "Evaluation of an Blocking Layer Insertion Effect on Dry-Sensitized Solar-Cell" Proceedings of Renewable Energy 2006, Chiba, 2006
- 1 1 0 . Hiroshi Nagayoshi and Takemitsu Kajikawa "Evaluation of Mismatch Power Loss Caused by 2-Dimensional Temperature Distribution on TEG System Output" Proceedings of Renewable Energy 2006, Chiba, 2006
- 1 1 1 . Hiroshi Nagayoshi, Susuka Nishimura, Kazuhiko Terashima and Alexander Uryashin "Surface Texturing Mechanism by Hydrogen Radicals with Tungsten Silicide Particle Deposition" Proceedings of Renewable Energy 2006, Chiba, 2006
- 1 1 2 . Hiroshi Nagayoshi, Nishimura, Susuka Terashima, Kazuhiko Matsumoto Nobuo SI Whisker Growth by Hydrogen Radical using Hot Filament CVD Reactor. Mater. Res. Soc. Symp. Proc. 2007
- 1 1 3 . H. Nagayoshi, K. Terashima, T. Kajikawa, Evaluation of the Effect of Thermoelectric Generator System, Proceedings on the 28<sup>th</sup> Thermoelectric Conference, 2007
- 1 1 4 . 高橋裕太, 西村裕彦, 寺嶋一高, 永吉 浩 "水素ラジカルによる結晶Si表面のテクスチャー化" 第32回応用物理学国際会議論文集, 2006年
- 1 1 5 . 伊藤健郎, 杉本大輔, 永吉 浩 "有機大気汚染に起因する「心」バリア層形成条件の改善" 第32回応用物理学国際会議論文集, 2006年
- 1 1 6 . 永吉 浩, 西村裕彦, 寺嶋一高, 松本健英 "ホットフィラメント法によるSi(111)表面のテクスチャー化" 第32回応用物理学国際会議論文集, 2007年
- 1 1 7 . 荒上剛史, 西村裕彦, 寺嶋一高, Alexander Uryashin, 永吉 浩 "水素ラジカルによる結晶Si表面のテクスチャー化" 第37回応用物理学国際会議論文集, 2006年
- 1 1 8 . Y. MASUDA, T. ICEHINOE, S. MASAKI and K. KAWASAKI, Fabrication of Al-doped ZnO

- Relation Graph". IEEE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, vol. E88-A, no. 10, pp. 2387-2392, October, 2005.
- 9 4 T. Okazaki, T. Takahashi, "A New Decision Approach for the Fingerprint Core Location using Extended Relation Graph", IEEE Transactions on Information and Systems, vol. E88-D, no.10, pp.2608-2612, October, 2005.
- 9 5 . T. Okazaki, Daisuke Watanabe, Hiroaki Aoki, "Fingerprint Core and Delta Detection by Quadratic Analysis", Proceedings of IAPR Conference on Machine Vision Applications (MVA)2007, held in Tokyo, pp. 136-134, May, 2007.
- 9 6 . T. Okazaki, Daisuke Watanabe, Hiroaki Aoki, "The Reliable Core and Delta Detection for Fingerprint Recognition using Extended Relational Graph", Proceedings of 1<sup>st</sup> International Workshop on Security (IWSSEC 2006) - Short Paper -, held in Kyoto, pp.147-148, October, 2006.
- 9 7 . T. Okazaki, A. Kondo, "A New Approach to Detect Core and Delta of the Fingerprint using Extended Relational Graph", Proceedings of IEEE International Conference on Image Processing 2006, held in Genova, vol.3 pp.649-652, September, 2006.
- 9 8 . T. Okazaki, A. Kondo, "Improvement of the Fingerprint core detection using extended relation graph". Proceedings of IEEE-IPRASIP International Workshop on Non-linear Signal and Image Processing 2005, held in Samsara, pp. 227-231, May, 2005.
- 9 9 . 渡辺大輔, 大塚友彦, "登録点検出による登録画像からの高解像度コア/デルタ検出手法", 2007年電子情報通信学会論文誌論文集, 情報システム分冊, pp. 35, March, 2007.
- 1 0 0 大塚友彦, 小宮敬文, 大塚賢治, 清水昭博, 岡村亮, 尾石英伸, 尾崎茂, 福田勝己, 菅下進樹, 堤博典, 土井隆, 伊藤浩, 山内聖生, 木村知厚, 加藤純, 一戸龍夫, 正木進, 杉本孝, 松本啓志, 吉本空海, 松本寛代, 中野賢之, 宗徳昌輔, 杉本洋二, 藤野亮, 藤田清之, 中村啓一, 坂本啓介, 松岡敏, 野田賢治, 深澤孝治, 新田武文, "16のつくり基礎工学"における体験型専門科目導入教育〜高度第1年生への試み〜, 東京理科大学論文集, 第3312号, pp. 71-78, March, 2007
- 1 0 1 . 大塚友彦, "登録システム技術教育教材としてビットシフトアルゴリズム演習", 東京理科大学論文集, 第3310号, pp. 39-42, December, 2006.
- 1 0 2 . 渡辺大輔, 大塚友彦, 三好崇也, 藤本高之, "登録画像ラフによる登録画像のコア/デルタ検出手法の改善", 2006年電子情報通信学会論文誌論文集, 情報システム分冊, pp. 124, March, 2006
- 1 0 3 . 徳重義太郎, 大塚友彦, 青木宗之, "取所3次元化による検出情報を用いたコア一画素からの登録画像検出", 2006年電子情報通信学会論文誌論文集, 情報システム分冊, pp. 133, March, 2006
- 1 0 4 . H. Nagayoshi, S. Nishimura, and K. Terashima "Silicon Surface Texturization Mechanism by Hydrogen Radicals Using Tungsten Hot Filament" Mater. Res. Soc. Symp. Proc. 891, Warrensville, PA, 2006, 21

(出典 教員研究業績まとめ)

2005

133. 木村清, 成瀬太一, 水村憲: “ランダムナノ構造/ナノの盛り加工”, 57 回塑性加工学会講演論文集, pp. 77-78, 2005

134. 木村清, 杉林秀之, 松本武介: “高強度電子線照射体の開発”, 57 回塑性加工学会講演論文集, pp. 409-410, 2005

135. 田村博一, 黒崎茂: “七ニケラーゲルを用いたボルトの動力測定(引張およびせん断負荷が作用した場合)”, 第 38 回成心むすみ測定と強度評価シンポジウム, 2007

136. 井筒謙三, 黒崎茂: “圧電材料を利用した振動検出システム”, 日本機械学会・関東学生第 40 回学生員卒業研究発表講演会, 2007

137. 和泉亨, 黒崎茂: “七ニケラーゲルを用いたボルトの動力検出の試み”, 第 38 回成心むすみ測定と強度評価シンポジウム, 2004

Film by Resorcinol Spatter-Deposition Using an Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> Metal Composite Target”, International Conference on Metallurgical Coating and Thin Films (ICMCTF2006), CP-9, San Diego, CA, May 2006)

1.1.9. T. Kihmachi, S. Maenaka, M. Iwami, K. Kawasumi, Heat Treatment Effect in Palladium Oxide Composite Films Fabricated by Resorcinol Ion Beam Spatter-Deposition, American Vacuum Society 65th International Symposium, TFP10F2.1, San Francisco, CA (Nov. 2006)

1.2.0. Saito Satoru, Kenichi Sato, Satoshi Saizuka: “A Discussion on Prediction of Wind Conditions and Power Generation with the Weibull Distribution”, JSME International Journal Series B, 2006-5, Vol.49, No.2, pp. 488-494, 2006

1.2.1. Saito Satoru, Satoshi Saizuka, Kenichi Sato: “Transient Characteristics of Two Wind Turbine Generator Systems Having Two Types of Control Methods”, Journal of Environment and Engineering (JSME), 2007-1, Vol. 2, No. 1, pp.19-24, 2007

1.2.2. 黒田 謙志, 深江 英正, 高橋 誠志, 大田 英輔: “軸折断シニアラミド複合材料を用いた電子制御型の航空エンジン試験機”, 日本機械学会2006年度大会講演論文集(2), pp. 207-208, 2006

1.2.3. 木村清, 成瀬太一: “環境教育としての使用済み飲料容器の廃棄性について”, 東京工業高等専門学校卒業論文集, 第 38 巻(1号), pp.7-17, 2006

1.2.4. 木村清: “RFID+QRコードを利用する生産システム”, 16 回塑性加工学会講演論文集, pp. 205-206, 2006

125. 木村清, 河村豊, 川北 啓司, 黒崎 茂: “七ニケラーゲルを用いたボルトの動力測定と圧電材料を用いた振動検出の試み”, 18 回工業教育, pp. 754-759, 2006

126. 木村清: “低コスト-CFRP 製作技術の開発”, 14 回機械材料・材料加工技術協会, pp. 209-210, 2006

1.2.7. 木村清, 水村憲, 松本武介, 成瀬太一, 杉林秀之: “CFRP およびランダムナノ構造のボルトの動力検出の開発”, 材料・構造の複合化と機能化に関するシンポジウム, pp. 284-290, 2007

1.2.8. 木村清: “FRP の低コスト成形に関する研究”, 49 回プラスチックプロセス研究会, 2007

1.2.9. 木村清: “CFRP 製バルブ用継手等の開発第 4 報”, 自動車技術会 2008 年春大会, 材料 1 pp. 5-8, 2008

1.3.0. 木村清, 水村憲: “炭素繊維複合材料のバルブ用継手用 FRP の成形技術 -A と CFRP の成形技術の関係を調べる-”, 16 回塑性加工学会講演論文集, pp. 10-14, 2006

1.3.1. 木村清, 松本武介: “高強度樹脂基の軽量化-CFRP 基板の開発その 2-”, 16 回塑性加工学会講演論文集, pp. 207-208, 2006

1.3.2. 木村清, 黒田 謙一: “工学部必講のゴム成形”, 16 回塑性加工学会講演論文集, pp. 209-210, 2006

(出典 教員研究業績まとめ)

研究活動が教育の質の改善に寄与していること例

- ・ グラフアイト層間化合物の構造や物性の研究において X線回折測定、チャマン分光測定、電子スピントラップ測定、電気抵抗測定、電導抵抗測定、水素吸蔵測定などの手法を利用しており、卒業研究をはじめ学生実験などで学生が直接経験に触れてデータを得るという体験をすることができ、学生実験テーマは研究テーマに関連する題材をもとに後目のテーマを設定している。(何人か)
- ・ 学食や研究室において学生自らが培養する機会をつくることで、外部専門家の質問やアドバイスを受けることができ、卒業研究への取り組みのモチベーションが向上し、当該分野における研究の位置づけも認識できるようになる。卒業や就職応募を告げてアレクサンダー・ジョンソンとのようにすればよいのか、学習する機会にもなっている。また、他の先輩・大学の同年代の若者と交流を通して広い視野を養うことができる。(何人か)
- ・ 授業改革に関しては、研究を通して得られた情報を講義の中でトピックや演習として取り入れることで学生の興味を引き出す効果が期待できる。例えばカーボン材料を例にすると、フラーレンは面心立方構造をとるがグラフェンは面心立方構造をとるがグラフェン分子1個の質量を計算するといった演習や、カーボンナノチューブからそのグラフェン層を剥がしてハイブリッド自動車用水素ポンプの代わりに使おうといった試みの紹介など、先進テクノロジーとの関係で講義を行うことで学生の興味を引き出すことができる。(何人か)
- ・ 研究活動によって得られた当該分野における幅の広かつ深みのある知識が授業の内容を豊かにする。(注目)
- ・ 授業で最先端の研究事例、研究状況を紹介していること。(注目)
- ・ 研究活動により、認知が領域と未知な領域を明確に把握することで、当該分野の現状と今後の見通しをお話できること。(注目)
- ・ 5J「情報理論」において、学食や近隣の大学の研究者らとのセミナーで議論した話題について、最後の授業時に紹介している。(平成18年度はネットワーク符号化について紹介した。) (小嶋先生)
- ・ 4J「情報通信工学1」において、ビット転り率やSN比を使用する際、自らの研究論文で用いたデータグラフを提示して、そのイメージを伝えた。(小嶋先生)
- ・ 3J「知識工学1」において、学習者文字認識を題材とした演習をおこなっており、自分の研究で用いたデータや手法・結果を提示して、具体的目標をもたせて課題に取り組みさせた。(鈴木)
- ・ 「番号処理のための数学的手法」の研究結果を教材として提示し解説することにより、「番号処理理論」を準備する学生の理解を助けている。(伊藤敏)
- ・ 新電子材料の開発から、応用までを目的に活動しており、特に、新電子材料として層状化合物半導体や酸化有機半導体を研究している。また、それら新材料を制作するプロセス技術の開発も同時に研究している。担当科目との関わりとして、「基礎電子量子工学」授業の発展も同時に研究している。担当科目との関わりとして、「基礎電子量子工学」となっているトピックを紹介し、講義の必要性と重要性を講義することができると、また、「電子材料工学」の講義では、半導体プロセス技術の先端的内容や実際の研究結果を見せることにより、より実践的内容としている。(伊藤敏)
- ・ 「電子材料プロセス工学」の講義では、半導体プロセス技術の先端的内容や実際の研究結果を見せることにより、より実践的内容としている。(伊藤敏)
- ・ 生体工学における生体情報の計測や、データベース作成、材料の研究において必要不可欠なことで様々な物理現象の計測においては、微小信号の計測・制御・処理等の技術が必須となっている。そこで、様々な番号の計測・制御・処理等の新手法の開発に関する研究を行っている。現在担当している「ものづくり基礎工学」(新選電気実験1・II)で

- ・ は、学生の創造性や進捗性をもった「ものづくり」の行える技術者の育成を目標としたカリキュラムであり、本研究は、「ものづくり」に必要な設計・製作・計測・解析・評価等に密着した内容である。また、授業内容の改善・発展にも寄与できる。(木村知彦)
- ・ 電力ネットワークとエネルギーマネジメントの2つの分野におけるシステム工学的アプローチによる問題解決に関する研究活動は、その内容を紹介することにより、「電力システム工学」と「新エネルギー工学」を学ぶことの意義と目標を具体化することに役立っている。また、研究活動を通して獲得できる先端技術および統計データなどの最新情報は、それぞれの授業と関連させたい。(辻井尊)
- ・ 授業、ゼミにおいて半導体デバイス、次世代電池、エネルギー問題等に関する最新のトピック、学食の様子、研究の進め方などの話題に触れている。英語による卒業研究発表を実施。学生に積極的に学会発表に参加させて業績の向上を図っている。(水野)
- ・ 卒業研究で取り組んだ「情報教育としての活用済み教科機器の圧縮保管性に関する一考題」を下記論文としてまとめた。研究内容としては既存教科機器を積してからの回収容器(分別ゴミ箱)に入れると、40~60kg程度圧縮容量が増加することを実験的に確認し、3年生に「田んぼで育てよう」と呼びかけ、ディスプレイを併設し田やベントボットなどを備えて育てることを呼びかけた。また卒業中間発表の場で、90、94学生にも「田を育てよう」と呼びかけた。その結果として育てられている教科機器の30、34パーセントが増えるようになった。本校の専攻者に役立つ実践的な教育研究事例である。計測制御(2006年度、専攻科)、流体システム工学(SM)の授業において、最新の研究成果を含め、実際の現場システムの実情を講義。
- ・ 論文を運営利用することにより、液体工学(SM)や液体システム工学(SM)の授業において、講義で説明した事項が実際の現場システムにどのように適用されているかを理解することにより、より講義内容を理解できるような配課。
- ・ 卒業後進出先材料の低コスト形成技術の研究開発を行い、教育の質の向上に寄与している。(木村博)
- ・ 「IT野郎カーポート用排気管の開発」の研究結果に基づき、専攻科生の特別研究や卒業に低コストのIT野郎排気管として生かされ、さらに口頭発表した。(木村博)
- ・ 材料力学解析に新しいメソッド法の開発研究が、卒業研究への質の改善につながっている。例として学食の研究発表で専攻科生および卒業研究生が、勝手に送られる質を受賞している。

(出典 科目担当教員による事例集計結果)

観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

本校では、教育研究会でファカルティ・ディベロップメントが実施されている(資料9-2-①-1)。その他、学科会議や教科グループやWGにおけるファカルティ・ディベロップメントが実施されており、中には外部講師を招いての講演会も開催されている(資料9-2-①-2)。学外の研修会への参加という方法もとられている。

教員研究集会での発表が授業改善につながった例としては、実験により原理を理解する方法を取り入れた物理の例があり(資料9-2-①-3)、教科グループにおけるFDが授業改善につながった例としては、微分積分の習熟度別授業の例があり(資料9-2-①-4)、WGにおけるFDが授業改善につながった例としては、技術者倫理の開講の例があり(資料9-2-①-5)、学外の研修会におけるFDが授業改善につながった例としては、TOEICに関する指導の例がある(資料9-2-①-6)。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育研究会でファカルティ・ディベロップメントが実施されている。その他、学科会議や教科グループやWGでもファカルティ・ディベロップメントが実施される。更に、外部講師による講演会も開催されている。これらの組織によるFDが授業改善につながっている。

以上により、ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されている。

平成18年度 教育研究集会議題一覧

|      |        |                                                                                                                |
|------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 4月4日   | (1) 新任教員紹介<br>(2) 平成18年度内部組織委員等について<br>(3) 教務主事報告<br>(4) 専攻科長報告<br>(5) その他の報告事項                                |
| 第2回  | 5月18日  | (1) 本校の共通的問題<br>(2) J A B E 受審に向けて<br>(3) 内地研委員の報告<br>(4) クラブ顧問の委嘱について                                         |
| 第3回  | 6月8日   | (1) 本校の共通的問題<br>(2) 専攻科2年生の学位申請について<br>(3) レポートラマン分光分析装置とナノマテリアル研究<br>(4) 本校の環境方針と具体的活動                        |
| 第4回  | 7月13日  | (1) 本校の共通的問題<br>(2) 低学力の学生に対する指導(討論)<br>(3) 機関別認定評価説明会報告<br>(4) 学祭における現状と課題<br>(5) 研習業績の掲載入力について               |
| 第5回  | 9月14日  | (1) 専攻科の法律教養<br>(2) J A B E 受審に向けて                                                                             |
| 第6回  | 10月19日 | (1) 校長発言および J A B E 委員長報告<br>(2) 本校「蘆山」の植生調査結果報告<br>(3) 技術研修会報告<br>(4) クラブ顧問について                               |
| 第7回  | 11月16日 | (1) 校長発言<br>(2) 学修単位科目の実施報告                                                                                    |
| 第8回  | 12月21日 | (1) 校長発言<br>(2) 授業改善に向けての取り組み<br>(3) 平成18年度国立高専学習到達度試験<br>(4) 新田寮の現状と今後                                        |
| 第9回  | 1月18日  | (1) 校長発言<br>(2) 機関別認定評価<br>(3) 来年度シラバスについて<br>(4) 推薦入試面接技術に関する講演<br>(5) 都市型 K O S E N 制裁WG 答申<br>(6) 建物改修等について |
| 第10回 | 2月8日   | (1) 校長発言<br>(2) 入学推薦入試についての報告<br>(3) 教務委員会議題：学力を保証しながら留年させない工夫                                                 |
| 第11回 | 2月22日  | (1) 校長あいさつ<br>(2) 入試試験関係報告<br>(3) 3月6日の選校日について<br>(4) 先輩間交流報告                                                  |

平成17年度 教育研究集会議題一覧

|      |        |                                                                                                                                                                                            |
|------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | 4月4日   | (1) 新任教員紹介<br>(2) 平成17年度内部組織委員等について<br>(3) 教務主事報告<br>(4) 学生主事報告<br>(5) 教務主事報告<br>(6) 専攻科長報告<br>(7) 学位取得者の紹介<br>(8) 学生会代表との面談について<br>(9) 平成17年度学生所属団体顧問委員の委嘱について<br>(10) ホームトラリアの大学との交流調査報告 |
| 第2回  | 5月19日  | (1) 学位取得者の紹介<br>(2) 学生会代表との面談について<br>(3) 平成17年度学生所属団体顧問委員の委嘱について<br>(4) ホームトラリアの大学との交流調査報告                                                                                                 |
| 第3回  | 6月8日   | (1) 各案保存について<br>(2) 新しい成績システムについて<br>(3) 新学科 F D 報告<br>(4) 教育研究会の開始時間について                                                                                                                  |
| 第4回  | 7月14日  | (1) 学生への教育指導について<br>(2) 平成17年度全国高専体育大会上位入賞者の紹介<br>(3) 工場見学レポート保存方法について<br>(4) 解題試験 問題集などにおける水準の維持について<br>(5) 増設工学科 F D 報告                                                                  |
| 第5回  | 9月8日   | (1) 成績システムについて<br>(2) 物理工学科 F D 報告<br>(3) 高専機械科 F D 報告<br>(4) 成績評価について                                                                                                                     |
| 第6回  | 10月13日 | (1) J A B E 報告<br>(2) 新グループウェアについて<br>(3) 新しい1単位の考え方について<br>(4) 夏休みの時間について                                                                                                                 |
| 第7回  | 11月17日 | (1) ロボコン大会報告<br>(2) 学会賞受賞披露<br>(3) 学生授業アンケートについて<br>(4) 1案改題に伴う教習体制の再検討について                                                                                                                |
| 第8回  | 12月5日  | (1) 推薦入試における面接担当者への事前研修<br>(2) 文章表現法改善委員会報告                                                                                                                                                |
| 第9回  | 1月19日  | (1) 機械工学科 F D 報告<br>(2) 国際学生交流委員会活動報告<br>(3) 数学・物理工学科 F D 報告<br>(4) モバイルキャンパス会議開催における英語教育の成果について                                                                                           |
| 第10回 | 2月9日   | (1) 機械工学科 F D 報告<br>(2) 国際学生交流委員会活動報告<br>(3) 数学・物理工学科 F D 報告<br>(4) モバイルキャンパス会議開催における英語教育の成果について                                                                                           |

(出典 教育研究集会資料)

資料 9-2-①-2

平成18年度前後のFD実施一覧

| 学科    | 名称             | 実施日                      | 内容                                                   |
|-------|----------------|--------------------------|------------------------------------------------------|
| 一般科目  | 一般科目合同会議       |                          | 年16回                                                 |
|       | 数学科FD          | 平成19年3月17・18日            | 第1回数学科到達試験の結果について                                    |
|       | 数学科・物質工学科FD    | 平成18年2月16日               | 物質工学科専門科目と数学の連携について                                  |
| 機械工学科 | 第1回FD          | 平成18年1月6・7日              | カリキュラム、授業内容について                                      |
|       | 第2回FD          | 平成18年11月29日              | 授業公開(機械製作実習)                                         |
|       | 第3回FD<br>学科会議  | 平成19年2月1日                | 旧機械工学科教員との意見交換会<br>年33回                              |
| 電気工学科 | 第1回FD          | 平成19年3月14日               | 松下電器における新入社員に対する組み込み技術関連の教育方法                        |
|       | 第2回FD          | 平成19年3月16日               | 電気工学分野の教育に関して、奈良高専電気工学科との情報交換<br>年23回                |
| 電子工学科 | 学科会議           |                          |                                                      |
|       | 学科FD           | 平成18年8月2日                | 科目間連携、シラバス打ち合わせ<br>年35回                              |
| 情報工学科 | 学科会議           |                          |                                                      |
|       | 第1回FD          | 平成18年7月24日               | 情報工学科教育課程について<br>認証評価について<br>外部資金獲得について              |
|       | 第2回FD          | 平成18年8月28日               | 外部資金獲得にむけて                                           |
|       | 第3回FD<br>第4回FD | 平成18年9月28日<br>平成19年3月30日 | 科研究費応募について<br>学生の規律指導について<br>教科研究<br>教育課程見直し<br>年11回 |
| 物質工学科 | 学科会議           |                          |                                                      |
|       | 学科FD<br>学科会議   | 平成19年3月19日               | 公開講座と地域連携について<br>年19回                                |

(出典 各教科・学科記録の集計)

資料9-2-①-2

物質工学科主催：FD研修会

研修テーマ「公開講座と地域連携」

神戸市立工業高等専門学校 大淵 真一教授をお迎えして、「神戸市立高専の公開講座と地域連携」について御講演頂き、講師を交えて討議し、FD研修を行う。

研修日時：平成19年3月19日 14～17時

研修場所：図書館棟2階中会議室および地域連携テクノセンター

研修日程 (司会：中川助教授)

14：00 御挨拶 石井学科長

14：05 講演者紹介

14：10～15：10 講演

講演者：神戸市立工業高等専門学校

地域協働研究センター長 大淵 真一教授

講演テーマ：「神戸市立高専の公開講座と地域連携」

15：10～15：30 休憩

15：30～16：30 討議

16：30 研修閉会の辞（御礼） 津田副校長

16：35～ 本校地域連携テクノセンター見学

17：00～ 懇親会（中会議室）（司会：北折教授）

御挨拶 三谷副校長

18：00 研修のまとめと御挨拶 高橋副学科長

出席者：物質工学科教員、一般教科教員、他学科教員、技術職員

（出典 物質工学科資料）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>平成18年度 東京工業高等専門学校物理教育の取組</p> <p>東京工業高等専門学校、物理学教室<br/>工学部、前田英治、横野智</p>                                                                                                                                                                                                            | <p><b>2 年物理 (週2時間・通常)</b></p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p> | <p><b>3 年物理 (週2時間・通常)</b></p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p> |
| <p><b>1 年物理 (週2時間・通常)</b></p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p> | <p><b>2 年物理 (週2時間・通常)</b></p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p>                          | <p><b>3 年物理 (週2時間・通常)</b></p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p> <p>高校レベルの知識(力学、電磁気、波動、熱力学)を基礎として、電子回路(回路論)において、多段階の全領域を用いて、回路設計を行い、最終的に電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。また、電子回路の設計を行い、回路の動作を確認する。</p> |



資料 9-2-①-4

## 2年生微分積分学における 習熟度授業(今年度で9年目) の見直し

### プラス面

- 上位クラスの学生のやる気を引き出すことが出来る。
- 上位クラスの学生に対しては、より進んだ内容の解説や演習を行うことができる。
- ひとつのクラスの学生のレベルが一定なので、授業のペースが作りやすい。
- 今までには下位クラスは学生数を少なく設定しているため、各自を良く見てやることができた。

(出典 教育研究会資料から抜粋)

資料 9-2-①-4

## マイナス面

- 試験毎のクラス入れ替えでひとりの学生を一年間通して継続的に見ることが出来ない場合がある。
- 下位クラスの学生のモチベーションを保たせるのが困難な場合がある。
- 近年下位クラスでは、以前に比べて学習遅延の学生が増加していて、効果的な指導が困難になりつつある。

## その他（1）

- 学年共通の試験内容は最低ラインに合わせざるを得ないが、上位クラスにとっては物足りない。
- しかし上位クラスと下位クラスで異なる試験を行うと成績をつけるとき、どうしても不公平感が生じてしまう。  
＜どのような試験にするか、が最大の悩み＞
- 少人数の下位クラスを増やすことがマンパワーの面で可能か？

(出典 教育研究会資料から抜粋)

資料9-2-①-4

## その他（2）

- 必要事項の習得が非常に困難である学習遅延の学生の実態。  
＜具体的には・・・  
一度理解しても時間が経つと忘れてしまう  
⇒同じことの繰り返しが延々続いてしまう＞
- 下位クラスレベルの学生には、様々な内容を含む複合的な問題を時間をかけて考えるような機会がなく、繰り返しの効果が得られない。

（出典 教育研究会資料から抜粋）







**TOEIC テストを活用した  
英語学習方法についての  
講演会のお知らせ**

専攻科英語教育プロジェクトチーム

英語をしっかりと身につけたい方、英語がもともとうまくない方、英語に興味のある方、奮ってご参加下さい。

**記**

**日時:** 3月10日(月)14:00~16:30

**内容:** 1. TOEICテストについて

TOEIC運営委員会

2. 講演:「使える英語の効果的学習法」

講師:(株)アイ・シー・シー

鹿野晴夫先生

**場所:** 5201教室

**対象:** 専攻科内定者(必ず),

3年生, 4年生, 5年生

☆希望者は2月28日までに教室に貼ってある参加希望リストに名前を記入してください。

From: "Tomoyo Mitani" <mitani@tokyo-ct.ac.jp>  
To: "sall\_kosen@tokyo-ct.ac.jp"  
Subject: 英語学習講演会のご案内  
Date: Wed, 26 Feb 2003 08:42:11 +0900  
MIME-Version: 1.0  
Content-Type: text/plain; charset="iso-2022-jp"  
Content-Transfer-Encoding: 7bit  
X-Priority: 3  
X-MSMail-Priority: Normal  
X-Mailer: Microsoft Outlook Express 6.00.2800.1106  
X-MimeOLE: Produced By Microsoft MimeOLE V6.00.2800.1106  
全教職員様

こんにちは、三谷です。昨日の新年任侠奉命でもご案内しました通り英語学習講演会を2日前にわたって開催します。特に、2日目は教職員を対象としたもので、英語のトレーニング方法や指針法について非常に豊富な知識をいただきたいと思います。奮ってご参加ください。なお、3月11日の出席につきましてはあらかじめ三谷までメールでお知らせください。

**記**

英語学習講演会 (1日目)

**日時:** 3月10日(月) 14:00-16:30

**場所:** 5201教室

**内容:** 1. TOEICテストについて

TOEIC運営委員会

2. 使える英語の効果的学習法

(株)アイ・シー・シー

鹿野晴夫先生

対象: 3, 4, 5年生 教職員

英語学習講演会 (2日目)

**日時:** 3月11日(火) 14:00-16:30

**場所:** 図書棟 第2AV教室

**内容:** 『英語のトレーニング方法』

【英語学習のアドバンスの仕方】

(株)アイ・シー・シー

大塚千尋先生

鹿野晴夫先生

対象: 教職員 (参加ご希望の方は三谷までメールをお願いします)

(出典 専攻科英語教育プロジェクトチーム資料)

観点9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

本校では、教育研究会・学科会議・教科グループ・WGでのファカルティ・ディベロップメントの結果は、運営会議、教務委員会、専攻科委員会の審議を経て教育改善につなげられる（前掲の資料9-1-①-4、資料9-1-①-5、資料9-1-①-6）。

教員研究集会での発表が授業改善につながった例としては、実験により原理を理解する方法を取り入れた物理の例があり（資料9-2-②-1）、教科グループにおけるFDが授業改善につながった例としては、微分積分の習熟度別授業の例があり（資料9-2-②-2）、WGにおけるFDが授業改善につながった例としては、技術者倫理の開講の例があり（資料9-2-②-3）、学外の研修会におけるFDが授業改善につながった例としては、TOEICに関する指導の例がある（資料9-2-②-4）。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育研究会・学科会議・教科グループ・WGでのファカルティ・ディベロップメントの結果は、運営会議、教務委員会、専攻科委員会の審議を経て教育改善につなげられる。教育研究会・学科会議・教科グループ・WGなどにおけるFDが授業改善につながっている。

以上により、ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。



資料 9 - 2 - ② - 1

## 教科目名 物理

担当 教官 : 前段 眞治

学年、学科等 : 1年 一般科目 (自然系) 通常講義

単位数 期間 : 必修 2 単位 通期 週2時間 (合計 60 時間)

### 授業の目標と概要

運動を表す方法を学び、それを用いて物体の運動を表現する。つまり、物体がどのように運動をしているかを知る。さらに、それらを伴っている法則を、できるだけ実験を通して求める。自然界におけるいろいろな物体に対して、この法則を適用して、その運動を予想し、実際との比較をする。

### カリキュラムにおける位置づけ

中学校で学習した理科第 1 分野および数学の内容を前提とする。物理全般と専門学科で学ぶ物理関連科目の基礎となる。

### 授業の内容

| 授業の内容                                                                                              | 時間                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 1. 力と運動                                                                                            | 12                                                                 |
| 1・1 直線運動<br>速度, 加速度, 等加速度直線運動<br>実験: ①直線的な運動 (速度と加速度)                                              | 2                                                                  |
| <b>前期中間試験</b>                                                                                      | 1                                                                  |
| 1・2 運動の法則<br>力, 運動の第 1 法則 (慣性の法則), 運動の第 2 法則 (運動方程式),<br>運動の第 3 法則 (作用反作用の法則),                     | 6                                                                  |
| 1・3 いろいろな直線運動<br>重力とばねの力, 運動方程式の作り方, 自由落下運動,<br>真上に投げ上げたときの運動, 摩擦が働くときの運動,<br>実験: ②一定な力を受ける物体の速度変化 | 6                                                                  |
| <b>前期末試験</b>                                                                                       | 1                                                                  |
| 1・4 運動量<br>力積と運動量, 運動量保存の法則<br>実験: ③ 運動量保存則 (1次元), ④ 力の合成                                          | 6                                                                  |
| 1・5 力学的エネルギー<br>仕事, 運動エネルギー, 仕事と運動エネルギー, 位置エネルギー, 力学的エネルギー保存の法則                                    | 2                                                                  |
| <b>後期中間試験</b>                                                                                      | 1                                                                  |
| 1・6 平面・空間での運動<br>ベクトルとスカラー, 力, 速度, 運動方程式・運動量・仕事, いろいろな運動<br>実験: ⑥衝突の際の運動量の変化 (2次元)                 | 12                                                                 |
| <b>学年末試験</b>                                                                                       | 2                                                                  |
|                                                                                                    | 1                                                                  |
| <b>教科書</b>                                                                                         | 小暮陽三(編):高専の物理(第5版), 森北出版                                           |
| <b>補助教科書</b>                                                                                       | 物理IBβコース: 中部日本教育文化会、物理実験テキスト: 島津理化器械株式会社<br>提出物は、必ず全員、提出すること。      |
| <b>履修上の注意</b>                                                                                      |                                                                    |
| <b>評価基準</b>                                                                                        | 物理学の重要な分野である力学の基本法則を理解し、実験レポートや課題レポートを提出し教科書レベルの問題で60点以上を取ることができる。 |
| <b>評価法</b>                                                                                         | 定期試験75%、レポートなど25%                                                  |
| <b>学習・教育目標</b>                                                                                     | 東京高専   C-5 JABEE   (c) (d)                                         |

(出典 平成19年度シラバス)



平成 18 年度後援校訪問調

- 東京工高 -

| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 |    |    |    |     |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96  | 97 | 98 | 99 | 100 |

資料 9-2-②-3

## 教科目名 技術者倫理 (Engineering Ethics)

担当教官：河村 豊, 川北晃司, 浅野敬一, 他

学年, 学科等：専攻科 1 年 全専攻 講義

単位数 期間：必修 2 単位 前期週 2 時間 (合計 30 時間)

## 授業の目標と概要

職業的技術者に必要な知識である「技術者倫理」について、(1) 過去の事例の検討 (知ること)、(2) 技術者倫理の原則を検討 (理解すること)、(3) 技術者と企業の関わりを検討 (身につけること)、という 3 側面から取り扱う。実践的な場面での「倫理的ジレンマ」への対応について素養を身につけることをめざす。

## 履修上の注意(準備する用具, 前提となる知識など)

自らの専門知識が社会の中でどのように機能するかを考えるための「思考トレーニング」の1つである。その前提は、狭い問題関心ではなく、広い知的関心にある。この講義の前提となるものは、「社会の中の技術」を考える「気持ち」であろう。

## 授業の内容

| 授 業 項 目                    | 時間                                                            | 内 容                                                |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 1. イントロ                    | 3                                                             | 技術者倫理に関わる概要                                        |
| 「知ること」                     |                                                               |                                                    |
| 2. 技術事故事例 (1)<br>宇宙技術事故の場合 | 2                                                             | 技術事故から技術者倫理を考える<br>事故の概要 (ビデオ資料を利用)                |
| 3. 技術事故事例 (2)<br>原子力事故の場合  | 2                                                             | 技術者倫理の事例として検討する                                    |
| 4. 技術事故事例 (3)<br>環境汚染事故の場合 | 2                                                             |                                                    |
| 「理解すること」                   |                                                               |                                                    |
| 5. 倫理綱領                    | 2                                                             | 倫理綱領をどのように活かすか                                     |
| 6. 応用倫理                    | 2                                                             | 生命・環境・情報倫理との関連                                     |
| 7. 倫理概念                    | 2                                                             | 倫理原則の諸類型と活かし方                                      |
| 8. 工学の倫理概念                 | 2                                                             | 「安全学」との関連その他                                       |
| 前期中間試験                     |                                                               |                                                    |
| 「身につけること」                  |                                                               |                                                    |
| 9. 企業経営の基礎                 | 2                                                             | 企業経営の基礎を検討する。                                      |
| 10. 経営倫理の概要                | 2                                                             | 経営倫理が生まれた背景と現状を検討する。                               |
| 11. リスク・マネジメント             | 2                                                             | リスク・マネジメントの基礎を理解する。                                |
| 12. 経営倫理上のジレンマ             | 2                                                             | ディスカッションを通じて解決を探る。                                 |
| 「実践編」                      |                                                               |                                                    |
| 13. 技術者の直面する倫理問題           | 2                                                             | 技術者が直面する倫理問題を具体的事例を挙げて検討する。また、問題解決に向けた具体的行動例を検討する。 |
| 14. 倫理問題解決への指針             | 2                                                             |                                                    |
| 前期末試験                      |                                                               |                                                    |
|                            | 1                                                             |                                                    |
| 後期中間試験                     |                                                               |                                                    |
| 学年末試験                      |                                                               |                                                    |
| 到達目標                       | 技術者倫理に関連する出来事, 事項および倫理的ジレンマに対する対処法に関わる, 基礎的知識を 8 割程度習得していること。 |                                                    |
| 学習・教育目標                    | 東京高専 A-3, 4                                                   | JABEE (b)                                          |
| 関連科目                       |                                                               |                                                    |
| 教科書                        | 斉藤了文, 坂下浩司『はじめての工学倫理』昭和堂, 2001年                               |                                                    |
| 補助教科書                      | 適宜プリントなどを配布                                                   |                                                    |
| 評価法                        | 小テスト, 感想文の成績が 4 割, 期末試験の成績は 6 割                               |                                                    |

(出典 平成 18 年度シラバス)

## 2006年度 東京工業高等専門学校 英語科・生協 共催 カレッジTOEIC テスト

試験日時：1月18日(木)13:00～15:00 開場 12:30 (集合12:45後等)  
 試験会場：専攻科棟1階 マルチメディアルーム  
 申込受付期間：12月1日(金)～12月15日(金)18:45(生協開店まで)  
 受験料：4,040円(消費税込) (参考：TOEIC公開テストは6,615円)

\*受験料を取り分けても受験料の払い戻しはしません、ご了承ください。

申込方法：申込書をご記入の上、受験料を添えて生協購買部にてお申込下さい。  
 持参品：HBの鉛筆・消しゴム・受験票

定員：100名(定員になり次第締め切らせていただきます)

結果報告：約2週間後に生協購買部にてお返しいたします。

### ●カレッジTOEIC テスト とは？

過去のTOEIC公開テスト問題(Listening100問, Reading100問)を使用し、テスト形式や採点方法・問題はTOEIC公開テストと全く同じレベルで行われる模擬テストです。はじめにTOEICを受ける方やTOEIC公開テストへのステップ(準備)にしたい方や高いスコアを達成し、就職活動に自己の実験力を試さず・提出しなればならないと当社ご利用いただけます。

### ●公開テストとの違いは？

公開テストの採票は、OFFICIAL SCORE CERTIFICATE (公式証) が発行されませんが、カレッジTOEICテストではSCORE SHEETが発行されます。カレッジTOEICテストのスコアは、英語力の証明として履歴書などにも記入できます。各専攻部に提出しても構いません。ただし、公式採票が採票の理由は公開テストを受験して下さい。

### 受験票 (ご本人控え)

### 1月18日 12:45開場 (開場後は受験できません)

氏名 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ 出席番号 \_\_\_\_\_  
 受験日 \_\_\_\_\_ 担当番 \_\_\_\_\_ 通しNO \_\_\_\_\_

\*本券を当日ご持参下さい

2006年度東京工業高等専門学校カレッジTOEICテスト受験申込書  
 1月18日(木)受験  
 氏名 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ 出席番号 \_\_\_\_\_  
 受験部 \_\_\_\_\_ 受験日 \_\_\_\_\_ 担当 \_\_\_\_\_ 通しNO \_\_\_\_\_

TOEIC/TOEIC Bridge 団体受験について (改訂版) 2004.1.14  
 (受験料に別して改訂) 2004.10.06  
 (TOEIC 受験料に別して改訂) 2005.2.9  
 (TOEIC IP 英語日を反映) 2006.5.1

1. 本報の TOEIC の位置づけ  
 2004年度より新カリキュラムが導入されるが、それに合わせて学季進行で TOEIC および TOEIC Bridge を1年～3年まで受験を義務化し、TOEIC を学校全体の取組みとして位置づける。

2. TOEIC/TOEIC Bridge と受験学年

(1) 必修受験の部

1年～3年までの全員必修を、半季進行で実施する。

| 年度     | 対象学年 | 試験の種類        | 実施時期 | 一人当たり受験料 |
|--------|------|--------------|------|----------|
| 2004年度 | 1年生  | TOEIC Bridge | 4月   | 2835円    |
|        | 1年生  | TOEIC Bridge | 4月   | 2835円    |
|        | 2年生  | TOEIC Bridge | 12月  | 2835円    |
| 2005年度 | 1年生  | TOEIC Bridge | 4月   | 2835円    |
|        | 2年生  | TOEIC Bridge | 4月   | 2835円    |
| 2006年度 | 2年生  | TOEIC Bridge | 4月   | 2835円    |
|        | 3年生  | TOEIC        | 12月  | 4040円    |

(2) 任意受験の部

| 年度      | 対象学年 | 試験の種類 | 実施時期 | 一人当たり受験料 |
|---------|------|-------|------|----------|
| 2004年度～ | 全学年  | TOEIC | 12月  | 4040円    |

(注) 受験料は請求書込み、一人当たり受験料以外に副読料等の若干の諸経費がかかる。

平成18年度 TOEICテスト (ブリッジ及び TOEIC) の受験状況

| 年度                  | IPの種類     | 受験人数      |       |
|---------------------|-----------|-----------|-------|
|                     |           | TOEICブリッジ | TOEIC |
| 1年生                 | TOEICブリッジ | 3006/427  | 218/6 |
| 2年生                 | TOEICブリッジ | 3006/427  | 194/6 |
| 3年生 (4年生以上の任意受験を含む) | TOEIC     | 3007/118  | 215/6 |

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

- ・ 教員は、教員の質の向上を図るとともに、授業の改善に取り組んでいる。
- ・ 授業アンケート結果が各教員にフィードバックされ、実際に教員の質の向上および授業改善にむけた努力をしている。
- ・ 教員の質の向上に結びつけるための各教員の努力により、多くの教員が学位を取得するなどの成果を生んでいる。
- ・ 各種のファカルティ・ディベロップメントが実施され、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

### (改善を要する点)

特になし。

## (3) 基準 9 の自己評価の概要

学籍・成績などに関するデータは、学生課において適切に収集・蓄積されている。授業実施記録・授業改善記録は、J A B E E 専門委員会により電子媒体として適切に収集蓄積されている。

教育活動の実態を示すデータの評価は、J A B E E 専門委員会、教務委員会、専攻科委員会、運営会議、入試企画室で連携して行われる。評価の結果は本校の自己点検評価書である参与会報告に記載されている。

学生の授業アンケートが実施され、平成 18 年度からは自由記述欄を新たに設けた。授業アンケートの結果、および、分析結果は本校の自己点検評価書である参与会報告に記載されている。

学外者の意見は適宜聴取され、本校の自己点検・評価報告書に記載されている。卒業生・修了生に対するアンケートは、機構の実施するアンケートに追加する形で実施される。

各教員の自己評価と授業評価アンケート結果は集計した後、教員の質の向上と授業改善に資するため、各教員にフィードバックされ、各教員は、授業アンケート結果に基づき、授業改善案を作成し、授業改善記録として、ウェブ上に保存する。

また、自己評価の結果を教員の質の向上に結びつけるため、各教員は、外部の研究会、研修会に出席して自己研鑽をしており、多くの教員が学位を取得するなどの成果を生んでいる。

本校では、多くの研究活動が教育の質の改善に寄与している。また、各種のファカルティ・ディベロップメントが実施され、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

## 基準10 財務

### (1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校の資産は、2004年4月1日の独立法人化に伴い、政府から独立行政法人国立高等専門学校機構に出資され、本校が管理している。本校の教育・研究を安定的に遂行するための校地・校舎・設備等の資産を有している（前掲の資料8-1-①-1から資料8-1-①-10、資料10-1-①-1）。また、起債は高専機構が一括して行うため本校独自の債務はない（資料10-1-①-2）。財務諸表、資産の保有状況一覧等は現地閲覧資料とする（現地閲覧資料208）。

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育・研究を安定的に遂行するための校地・校舎・設備等の資産を有している。また、起債は高専機構が一括して行うため本校独自の債務はない。

以上により、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有している。また、債務はない。

資料 10-1-①-1

## 建 物

| 番号 | 名 称               | 構 造   | 築 年         | 面積     |
|----|-------------------|-------|-------------|--------|
| 1  | 第1棟(管理棟)          | RC3   | S41. 46. 54 | 1,684  |
| 2  | 第2棟(講義棟・物質工学科棟)   | RC4   | S41. H7     | 4,208  |
| 3  | 第3棟(機械・電気・電子工学科棟) | RC4   | S42. 46     | 5,456  |
| 4  | 第4棟(図書館棟)         | RC2-1 | S49. H8     | 2,097  |
| 5  | 第5棟(新講義棟)         | RC2   | S56         | 660    |
| 6  | 第6棟(地域連携テクノセンター)  | RC2   | S57         | 461    |
| 7  | 第7棟(情報工学科棟)       | RC5   | H1          | 2,224  |
| 8  | 第8棟(専攻科・総合教育棟)    | RC4   | H17         | 1,168  |
| 9  | 機械実習工場            | S1    | S41         | 726    |
| 10 | 第1棟体育館            | SRC1  | S41. 60     | 1,123  |
| 11 | 第2棟体育館            | SRC1  | S57         | 880    |
| 12 | 武道場               | S1    | S44         | 311    |
| 13 | 体育器具庫             | CB    | S42         | 56     |
| 14 | 部室                | CB    | S46         | 100    |
| 15 | 合宿研修所             | S1    | S54         | 196    |
| 16 | くぬぎだ会館            | RC2-1 | S58         | 663    |
| 17 | 学生食堂              | S1    | S46         | 216    |
| 18 | 課外教育共用施設          | RC1   | S59         | 98     |
| 19 | 第1寄宿舍             | RC3   | S41         | 1,326  |
| 20 | 第2寄宿舍             | RC4   | S41. 42     | 1,298  |
| 21 | 第3寄宿舍             | RC4   | S46         | 1,362  |
| 22 | 寮食堂               | RC1   | S41. 42. 55 | 699    |
|    | 職員宿舎、その他          |       |             | 3,821  |
|    |                   |       |             | 30,833 |

(出典 総務課財務担当保管資料)



資料 10-1-①-2

(単位:円)

|           |                 |  |                |
|-----------|-----------------|--|----------------|
| 負債の部      |                 |  |                |
| 1 流動負債    |                 |  | 13,872,518,491 |
| 1 短期借入金   | 1,324,545,523   |  |                |
| 2 短期借入金   | 1,013,396       |  |                |
| 3 短期借入金   | 1,263,285,725   |  |                |
| 4 短期借入金   | 2,280,000,319   |  |                |
| 5 短期借入金   | 71,622,066      |  |                |
| 6 短期借入金   | 8,998,821       |  |                |
| 7 短期借入金   | 2,895,190       |  |                |
| 8 短期借入金   | 2,010,160       |  |                |
| 9 短期借入金   | 895,815,450     |  |                |
| 10 短期借入金  |                 |  |                |
| 2 長期負債    |                 |  |                |
| 1 長期借入金   | 4,151,190,239   |  |                |
| 2 長期借入金   | 28,074,171      |  |                |
| 3 長期借入金   | 385,212,239     |  |                |
| 4 長期借入金   | 3,190,210,459   |  |                |
| 5 長期借入金   | 1,195,000       |  |                |
| 6 長期借入金   | 2,110,270,284   |  |                |
| 7 長期借入金   | 14,245,284      |  |                |
| 8 長期借入金   |                 |  |                |
| 9 長期借入金   | 101,933,988,266 |  |                |
| 10 長期借入金  | 21,022,279      |  |                |
| 11 長期借入金  | 31,070,000      |  |                |
| 12 長期借入金  | 11,060,000      |  |                |
| 13 長期借入金  | 11,282,206      |  |                |
| 14 長期借入金  |                 |  |                |
| 15 長期借入金  | 10,872,418,559  |  |                |
| 16 長期借入金  |                 |  |                |
| 17 長期借入金  |                 |  |                |
| 18 長期借入金  |                 |  |                |
| 19 長期借入金  |                 |  |                |
| 20 長期借入金  |                 |  |                |
| 21 長期借入金  |                 |  |                |
| 22 長期借入金  |                 |  |                |
| 23 長期借入金  |                 |  |                |
| 24 長期借入金  |                 |  |                |
| 25 長期借入金  |                 |  |                |
| 26 長期借入金  |                 |  |                |
| 27 長期借入金  |                 |  |                |
| 28 長期借入金  |                 |  |                |
| 29 長期借入金  |                 |  |                |
| 30 長期借入金  |                 |  |                |
| 31 長期借入金  |                 |  |                |
| 32 長期借入金  |                 |  |                |
| 33 長期借入金  |                 |  |                |
| 34 長期借入金  |                 |  |                |
| 35 長期借入金  |                 |  |                |
| 36 長期借入金  |                 |  |                |
| 37 長期借入金  |                 |  |                |
| 38 長期借入金  |                 |  |                |
| 39 長期借入金  |                 |  |                |
| 40 長期借入金  |                 |  |                |
| 41 長期借入金  |                 |  |                |
| 42 長期借入金  |                 |  |                |
| 43 長期借入金  |                 |  |                |
| 44 長期借入金  |                 |  |                |
| 45 長期借入金  |                 |  |                |
| 46 長期借入金  |                 |  |                |
| 47 長期借入金  |                 |  |                |
| 48 長期借入金  |                 |  |                |
| 49 長期借入金  |                 |  |                |
| 50 長期借入金  |                 |  |                |
| 51 長期借入金  |                 |  |                |
| 52 長期借入金  |                 |  |                |
| 53 長期借入金  |                 |  |                |
| 54 長期借入金  |                 |  |                |
| 55 長期借入金  |                 |  |                |
| 56 長期借入金  |                 |  |                |
| 57 長期借入金  |                 |  |                |
| 58 長期借入金  |                 |  |                |
| 59 長期借入金  |                 |  |                |
| 60 長期借入金  |                 |  |                |
| 61 長期借入金  |                 |  |                |
| 62 長期借入金  |                 |  |                |
| 63 長期借入金  |                 |  |                |
| 64 長期借入金  |                 |  |                |
| 65 長期借入金  |                 |  |                |
| 66 長期借入金  |                 |  |                |
| 67 長期借入金  |                 |  |                |
| 68 長期借入金  |                 |  |                |
| 69 長期借入金  |                 |  |                |
| 70 長期借入金  |                 |  |                |
| 71 長期借入金  |                 |  |                |
| 72 長期借入金  |                 |  |                |
| 73 長期借入金  |                 |  |                |
| 74 長期借入金  |                 |  |                |
| 75 長期借入金  |                 |  |                |
| 76 長期借入金  |                 |  |                |
| 77 長期借入金  |                 |  |                |
| 78 長期借入金  |                 |  |                |
| 79 長期借入金  |                 |  |                |
| 80 長期借入金  |                 |  |                |
| 81 長期借入金  |                 |  |                |
| 82 長期借入金  |                 |  |                |
| 83 長期借入金  |                 |  |                |
| 84 長期借入金  |                 |  |                |
| 85 長期借入金  |                 |  |                |
| 86 長期借入金  |                 |  |                |
| 87 長期借入金  |                 |  |                |
| 88 長期借入金  |                 |  |                |
| 89 長期借入金  |                 |  |                |
| 90 長期借入金  |                 |  |                |
| 91 長期借入金  |                 |  |                |
| 92 長期借入金  |                 |  |                |
| 93 長期借入金  |                 |  |                |
| 94 長期借入金  |                 |  |                |
| 95 長期借入金  |                 |  |                |
| 96 長期借入金  |                 |  |                |
| 97 長期借入金  |                 |  |                |
| 98 長期借入金  |                 |  |                |
| 99 長期借入金  |                 |  |                |
| 100 長期借入金 |                 |  |                |
| 101 長期借入金 |                 |  |                |
| 102 長期借入金 |                 |  |                |
| 103 長期借入金 |                 |  |                |
| 104 長期借入金 |                 |  |                |
| 105 長期借入金 |                 |  |                |
| 106 長期借入金 |                 |  |                |
| 107 長期借入金 |                 |  |                |
| 108 長期借入金 |                 |  |                |
| 109 長期借入金 |                 |  |                |
| 110 長期借入金 |                 |  |                |
| 111 長期借入金 |                 |  |                |
| 112 長期借入金 |                 |  |                |
| 113 長期借入金 |                 |  |                |
| 114 長期借入金 |                 |  |                |
| 115 長期借入金 |                 |  |                |
| 116 長期借入金 |                 |  |                |
| 117 長期借入金 |                 |  |                |
| 118 長期借入金 |                 |  |                |
| 119 長期借入金 |                 |  |                |
| 120 長期借入金 |                 |  |                |
| 121 長期借入金 |                 |  |                |
| 122 長期借入金 |                 |  |                |
| 123 長期借入金 |                 |  |                |
| 124 長期借入金 |                 |  |                |
| 125 長期借入金 |                 |  |                |
| 126 長期借入金 |                 |  |                |
| 127 長期借入金 |                 |  |                |
| 128 長期借入金 |                 |  |                |
| 129 長期借入金 |                 |  |                |
| 130 長期借入金 |                 |  |                |
| 131 長期借入金 |                 |  |                |
| 132 長期借入金 |                 |  |                |
| 133 長期借入金 |                 |  |                |
| 134 長期借入金 |                 |  |                |
| 135 長期借入金 |                 |  |                |
| 136 長期借入金 |                 |  |                |
| 137 長期借入金 |                 |  |                |
| 138 長期借入金 |                 |  |                |
| 139 長期借入金 |                 |  |                |
| 140 長期借入金 |                 |  |                |
| 141 長期借入金 |                 |  |                |
| 142 長期借入金 |                 |  |                |
| 143 長期借入金 |                 |  |                |
| 144 長期借入金 |                 |  |                |
| 145 長期借入金 |                 |  |                |
| 146 長期借入金 |                 |  |                |
| 147 長期借入金 |                 |  |                |
| 148 長期借入金 |                 |  |                |
| 149 長期借入金 |                 |  |                |
| 150 長期借入金 |                 |  |                |
| 151 長期借入金 |                 |  |                |
| 152 長期借入金 |                 |  |                |
| 153 長期借入金 |                 |  |                |
| 154 長期借入金 |                 |  |                |
| 155 長期借入金 |                 |  |                |
| 156 長期借入金 |                 |  |                |
| 157 長期借入金 |                 |  |                |
| 158 長期借入金 |                 |  |                |
| 159 長期借入金 |                 |  |                |
| 160 長期借入金 |                 |  |                |
| 161 長期借入金 |                 |  |                |
| 162 長期借入金 |                 |  |                |
| 163 長期借入金 |                 |  |                |
| 164 長期借入金 |                 |  |                |
| 165 長期借入金 |                 |  |                |
| 166 長期借入金 |                 |  |                |
| 167 長期借入金 |                 |  |                |
| 168 長期借入金 |                 |  |                |
| 169 長期借入金 |                 |  |                |
| 170 長期借入金 |                 |  |                |
| 171 長期借入金 |                 |  |                |
| 172 長期借入金 |                 |  |                |
| 173 長期借入金 |                 |  |                |
| 174 長期借入金 |                 |  |                |
| 175 長期借入金 |                 |  |                |
| 176 長期借入金 |                 |  |                |
| 177 長期借入金 |                 |  |                |
| 178 長期借入金 |                 |  |                |
| 179 長期借入金 |                 |  |                |
| 180 長期借入金 |                 |  |                |
| 181 長期借入金 |                 |  |                |
| 182 長期借入金 |                 |  |                |
| 183 長期借入金 |                 |  |                |
| 184 長期借入金 |                 |  |                |
| 185 長期借入金 |                 |  |                |
| 186 長期借入金 |                 |  |                |
| 187 長期借入金 |                 |  |                |
| 188 長期借入金 |                 |  |                |
| 189 長期借入金 |                 |  |                |
| 190 長期借入金 |                 |  |                |
| 191 長期借入金 |                 |  |                |
| 192 長期借入金 |                 |  |                |
| 193 長期借入金 |                 |  |                |
| 194 長期借入金 |                 |  |                |
| 195 長期借入金 |                 |  |                |
| 196 長期借入金 |                 |  |                |
| 197 長期借入金 |                 |  |                |
| 198 長期借入金 |                 |  |                |
| 199 長期借入金 |                 |  |                |
| 200 長期借入金 |                 |  |                |
| 201 長期借入金 |                 |  |                |
| 202 長期借入金 |                 |  |                |
| 203 長期借入金 |                 |  |                |
| 204 長期借入金 |                 |  |                |
| 205 長期借入金 |                 |  |                |
| 206 長期借入金 |                 |  |                |
| 207 長期借入金 |                 |  |                |
| 208 長期借入金 |                 |  |                |
| 209 長期借入金 |                 |  |                |
| 210 長期借入金 |                 |  |                |
| 211 長期借入金 |                 |  |                |
| 212 長期借入金 |                 |  |                |
| 213 長期借入金 |                 |  |                |
| 214 長期借入金 |                 |  |                |
| 215 長期借入金 |                 |  |                |
| 216 長期借入金 |                 |  |                |
| 217 長期借入金 |                 |  |                |
| 218 長期借入金 |                 |  |                |
| 219 長期借入金 |                 |  |                |
| 220 長期借入金 |                 |  |                |
| 221 長期借入金 |                 |  |                |
| 222 長期借入金 |                 |  |                |
| 223 長期借入金 |                 |  |                |
| 224 長期借入金 |                 |  |                |
| 225 長期借入金 |                 |  |                |
| 226 長期借入金 |                 |  |                |
| 227 長期借入金 |                 |  |                |
| 228 長期借入金 |                 |  |                |
| 229 長期借入金 |                 |  |                |
| 230 長期借入金 |                 |  |                |
| 231 長期借入金 |                 |  |                |
| 232 長期借入金 |                 |  |                |
| 233 長期借入金 |                 |  |                |
| 234 長期借入金 |                 |  |                |
| 235 長期借入金 |                 |  |                |
| 236 長期借入金 |                 |  |                |
| 237 長期借入金 |                 |  |                |
| 238 長期借入金 |                 |  |                |
| 239 長期借入金 |                 |  |                |
| 240 長期借入金 |                 |  |                |
| 241 長期借入金 |                 |  |                |
| 242 長期借入金 |                 |  |                |
| 243 長期借入金 |                 |  |                |
| 244 長期借入金 |                 |  |                |
| 245 長期借入金 |                 |  |                |
| 246 長期借入金 |                 |  |                |
| 247 長期借入金 |                 |  |                |
| 248 長期借入金 |                 |  |                |
| 249 長期借入金 |                 |  |                |
| 250 長期借入金 |                 |  |                |
| 251 長期借入金 |                 |  |                |
| 252 長期借入金 |                 |  |                |
| 253 長期借入金 |                 |  |                |
| 254 長期借入金 |                 |  |                |
| 255 長期借入金 |                 |  |                |
| 256 長期借入金 |                 |  |                |
| 257 長期借入金 |                 |  |                |
| 258 長期借入金 |                 |  |                |
| 259 長期借入金 |                 |  |                |
| 260 長期借入金 |                 |  |                |
| 261 長期借入金 |                 |  |                |
| 262 長期借入金 |                 |  |                |
| 263 長期借入金 |                 |  |                |
| 264 長期借入金 |                 |  |                |
| 265 長期借入金 |                 |  |                |
| 266 長期借入金 |                 |  |                |
| 267 長期借入金 |                 |  |                |
| 268 長期借入金 |                 |  |                |
| 269 長期借入金 |                 |  |                |
| 270 長期借入金 |                 |  |                |
| 271 長期借入金 |                 |  |                |
| 272 長期借入金 |                 |  |                |
| 273 長期借入金 |                 |  |                |
| 274 長期借入金 |                 |  |                |
| 275 長期借入金 |                 |  |                |
| 276 長期借入金 |                 |  |                |
| 277 長期借入金 |                 |  |                |
| 278 長期借入金 |                 |  |                |
| 279 長期借入金 |                 |  |                |
| 280 長期借入金 |                 |  |                |
| 281 長期借入金 |                 |  |                |
| 282 長期借入金 |                 |  |                |
| 283 長期借入金 |                 |  |                |
| 284 長期借入金 |                 |  |                |
| 285 長期借入金 |                 |  |                |
| 286 長期借入金 |                 |  |                |
| 287 長期借入金 |                 |  |                |
| 288 長期借入金 |                 |  |                |
| 289 長期借入金 |                 |  |                |
| 290 長期借入金 |                 |  |                |
| 291 長期借入金 |                 |  |                |
| 292 長期借入金 |                 |  |                |
| 293 長期借入金 |                 |  |                |
| 294 長期借入金 |                 |  |                |
| 295 長期借入金 |                 |  |                |
| 296 長期借入金 |                 |  |                |
| 297 長期借入金 |                 |  |                |
| 298 長期借入金 |                 |  |                |
| 299 長期借入金 |                 |  |                |
| 300 長期借入金 |                 |  |                |
| 301 長期借入金 |                 |  |                |
| 302 長期借入金 |                 |  |                |
| 303 長期借入金 |                 |  |                |
| 304 長期借入金 |                 |  |                |
| 305 長期借入金 |                 |  |                |
| 306 長期借入金 |                 |  |                |
| 307 長期借入金 |                 |  |                |
| 308 長期借入金 |                 |  |                |
| 309 長期借入金 |                 |  |                |
| 310 長期借入金 |                 |  |                |
| 311 長期借入金 |                 |  |                |
| 312 長期借入金 |                 |  |                |
| 313 長期借入金 |                 |  |                |
| 314 長期借入金 |                 |  |                |

**観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。**

(観点に係る状況)

本校は、独立法人化に伴い、運営費交付金が国から高専機構を通じて継続的に交付されている。授業料などの収入は、資料10-1-②-1に示したとおりである。また、外部資金の導入にも努力している(資料10-1-②-2、資料10-1-②-3)。科研費の採択数を増やすための努力としては、科研費申請書の書き方に関する講習会を実施したり、校長や採択経験者によるアドバイスを行ったりしている(資料10-1-②-4)。

(分析結果とその根拠理由)

本校は、独立法人化に伴い、運営費交付金が国から高専機構を通じて継続的に交付されている。また、外部資金の導入にも努力している。

以上により、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されている。

資料10-1-②-1

## 東京工業高等専門学校収入額一覧

単位：千円

| 区 分      | 16年度      | 17年度      | 18年度      |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 運営費交付金   | 1,329,640 | 1,433,608 | 1,224,779 |
| 授業料      | 192,001   | 234,827   | 235,202   |
| 入学料及び検定料 | 27,496    | 28,600    | 28,688    |
| 寄宿料      | 1,426     | 1,384     | 1,642     |
| その他      | 10,181    | 8,346     | 10,732    |
| 小計       | 231,104   | 273,157   | 276,264   |
| 合計       | 1,560,744 | 1,706,765 | 1,501,043 |

(外部資金除く)

(出典 総務課財務担当保管資料)

## 平成18年度 外部資金受入状況

| 外部資金名称   | 受入金額<br>(円) |
|----------|-------------|
| 受託研究     | 4,500,000   |
| 共同研究     | 7,470,000   |
| 受託試験     | 160,050     |
| 奨学寄附金    | 18,276,973  |
| 科学研究費補助金 | 18,640,000  |
| 合計       | 49,047,023  |

## 平成17年度 外部資金受入状況

| 外部資金名称   | 受入金額<br>(円) |
|----------|-------------|
| 受託研究     | 2,000,000   |
| 共同研究     | 5,025,000   |
| 受託試験     | 297,200     |
| 奨学寄附金    | 11,428,735  |
| 科学研究費補助金 | 13,600,000  |
| 合計       | 32,350,935  |

(出典 総務課財務担当保管資料)

資料10-1-②-2

資料 10-1-②-3

平成18年度 科学研究費補助金の申請・採択状況

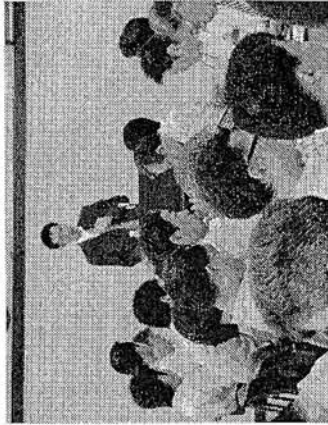
| 区分      | 課題名                                                       | 代表者名  | 申請件数(件) |    | 申請金額(18年度分)<br>(円) |           | 採択件数(件) |    | 採択金額(18年度分)<br>(円) |           | 募集機関    |
|---------|-----------------------------------------------------------|-------|---------|----|--------------------|-----------|---------|----|--------------------|-----------|---------|
|         |                                                           |       | 新規      | 継続 | 新規                 | 継続        | 新規      | 継続 | 新規                 | 継続        |         |
| 基盤研究(B) | 音の悪い出話を聞き取り易く録音可能な高齢者に優しいマルチメディア活用の研究                     | 小坂敬文  | 1       |    | 3,330,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(B) | 学習意欲が乏しい学生にも効果がある遠隔授業に関する研究                               | 青野正宏  | 1       |    | 5,540,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(B) | 警備・災害救助用ロボットの研究開発                                         | 下井信浩  | 1       |    | 1,270,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(B) | 反応性スパッタリング法による三元系希土色変長領域材料に関する基礎研究                        | 玉田経治  | 1       |    | 4,250,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(B) | 水素ラジカルによる結晶シリコンテラゲーバ化処理                                   | 永吉浩   | 1       |    | 12,500,000         |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 電子計算機学習支援システムに関する研究                                       | 鈴木孝   | 1       |    | 1,700,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 工学の学習旅行を考慮した綴り方形式を中心とする解析学早期教育法の研究                        | 中里肇   | 1       |    | 668,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 国費・政府留学生の高専卒業後における活動の実態に関する調査研究                           | 佐藤隆徳  | 1       |    | 2,244,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 計算機基礎教育システムの研究                                            | 横山英盛  | 1       |    | 1,450,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 試作ビブセンサによる環境安全確保のためのひずみモニタリング方法                           | 黒崎茂   | 1       |    | 3,243,000          |           | 1       |    | 2,400,000          |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 水の電気分解により作製するオゾン水の簡便な作製装置試作とその応用研究                        | 北折典之  | 1       |    | 2,530,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 種々のエネルギーオンビームによる半導体浸漬成形技術に関する研究                           | 大野秀樹  | 1       |    | 3,880,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | マイクロ・ナノオーダーの摩擦機構の解明とその評価                                  | 福田勝己  | 1       |    | 3,800,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 浜核機械の真まわりのわず構造の解明と制御                                      | 斉藤純夫  | 1       |    | 4,100,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 低周波音波教育を対象としたアクティブノイズコントロールの開発                            | 西村亮   | 1       |    | 1,780,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 受動的・能動的聴音制御法を併用した広帯域聴音の抑制                                 | 森下達哉  | 1       |    | 1,890,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 個人識別のための指紋や顔等の各種バイOMETリック情報からの特徴抽出手法                      | 大塚友彦  | 1       |    | 803,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 新規カーボン多孔質材料の創製とキャタリゼーション                                  | 阿久沢昇  | 1       |    | 1,672,000          |           | 1       |    | 1,200,000          |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 地球温暖化防止のための民生部門における対策モデルの開発                               | 土井洋   | 1       |    | 755,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 工業高専および企業における人材育成と技術者倫理教育の現状と課題                           | 川北晃司  | 1       |    | 2,838,000          |           | 1       |    | 2,200,000          |           | 日本学術振興会 |
| 萌芽研究    | 農産物を出さない農と野良の循環生産システム(アクアポニクス)による環境教育研究                   | 松林勝志  | 1       |    | 1,637,000          |           | 1       |    | 1,100,000          |           | 日本学術振興会 |
| 萌芽研究    | 大気中二酸化炭素濃度の増大抑制(温度分布測定によるガスバリエーションの生成条件)                  | 前井健太郎 | 1       |    | 4,675,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 萌芽研究    | メタン・フレキシブルによるCO <sub>2</sub> -H <sub>2</sub> 系由来活性炭の創成と評価 | 中野雅之  | 1       |    | 3,190,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 萌芽研究    | 活性メチレン基を有するアセトキシエポキシ樹脂のリンゲル重合                             | 中川修   | 1       |    | 3,120,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 萌芽研究    | 東南アジアのバイオマスを用いた炭素循環による環境調和型脱炭素社会の構築と発展                    | 石井宏幸  | 1       |    | 4,020,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 萌芽研究    | 固体内核反応の理論的研究                                              | 土屋賢一  | 1       |    | 1,456,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | 内田クレベリン精神作業検査のコンピュータライズと判定自動化                             | 黒田一寿  | 1       |    | 1,881,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | 理工系学生のためのオブジェクト指向による論理的思考力養成教育の支援システム構築                   | 松本孝代  | 1       |    | 360,000            |           | 1       |    | 300,000            |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | トーマス政権期の対日政策における日米中小企業の位置づけ                               | 浅野敬一  | 1       |    | 1,115,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | 生物結合モデルに基づく環境中の重金属の植物に対する有害性予測                            | 庄司良   | 1       |    | 2,996,000          |           | 1       |    | 2,300,000          |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | 固体高分子形電解質電池用電極の耐久性向上のための添加剤の研究                            | 城石宏伸  | 1       |    | 1,866,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | 酸化触媒形成へのイオンプロセスの展開                                        | 戸崎久   | 1       |    | 3,129,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | 工業化向きプロセスによる層状化合物半導体の低温結晶成長と光物性に関する研究                     | 伊藤浩   | 1       |    | 1,360,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | ミズ製作業における熱線技術のデジタル化と知的自動化                                 | 堤博貴   | 1       |    | 2,800,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | 相関特性の優れた系列を用いた時間量込み・符号分割多重アクセス通信方式に関する研究                  | 小嶋徹也  | 1       |    | 1,568,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | 高速・高精度情報伝達技術を支える楕円アルゴリズムの開発とその応用に関する研究                    | 吉本定伸  | 1       |    | 1,420,000          |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(C) | 高度英語リーディング教材指導システムとコースウェアの開発                              | 相澤俊行  | 1       |    | 1,400,000          |           | 1       |    | 1,400,000          |           | 日本学術振興会 |
| 基盤研究(B) | 第二次大戦期日本における戦時科学動員に関わる実証的研究                               | 河村豊   | 1       |    | 600,000            |           | 1       |    | 600,000            |           | 日本学術振興会 |
| 若手研究(B) | 行書体毛筆文字列の自動生成に基づく書き続け学習支援の高級習字に関する研究                      | 鈴木雅人  | 1       |    | 500,000            |           | 1       |    | 500,000            |           | 日本学術振興会 |
| 特定領域研究  | 手作り顕微鏡による技術型理科教育の教材開発                                     | 高橋三男  | 1       |    | 4,000,000          |           | 1       |    | 4,000,000          |           | 文部科学省   |
| 萌芽研究    | 顕微鏡状態を利用した新規顕微鏡用照明システムの開発とセンサへの応用                         | 前田茂   | 1       |    | 1,100,000          |           | 1       |    | 1,100,000          |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | バイクの構成部品の仕組みを理解するための学習教材の開発                               | 鈴木浩二  | 1       |    | 390,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | 構成製作実習への小型情報端末を用いた改進黨科教材の導入                               | 藤野宏   | 1       |    | 932,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | 機械科学生以外で工作機械を学ぼうとする人への授業方法の研究                             | 島津朋之  | 1       |    | 400,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | 電気工芸実習のためのE-Learningシステムを活用した支援教材の開発                      | 羽鳥広範  | 1       |    | 850,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | 電子系向け作りながら学ぶマイコン制御実験の試作研究                                 | 福井英雄  | 1       |    | 200,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | 物づくりにおける各種回路の製作                                           | 松岡敏   | 1       |    | 450,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | 理論と実践をともに重視したOS・ネットワーク技術教育環境の構築                           | 村田賢俊  | 1       |    | 530,000            |           | 1       |    | 400,000            |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | 物理現象の数理モデル化と可視化の研究                                        | 高澤剛   | 1       |    | 825,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | 工場汚染物質の種子発芽への影響およびストレスシグナルの検出                             | 飯田裕   | 1       |    | 987,000            |           | 1       |    | 750,000            |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | ゼオライトを用いる吸着剤の可能性                                          | 賀賀智希  | 1       |    | 350,000            |           | 0       |    | 0                  |           | 日本学術振興会 |
| 奨励研究    | オゾンシートの増量条件による影響及び膜材への応用について                              | 長井佳樹  | 1       |    | 510,000            |           | 1       |    | 390,000            |           | 日本学術振興会 |
| 合計(総括表) |                                                           |       | 47      | 5  | 102,653,000        | 7,600,000 | 9       | 5  | 11,040,000         | 7,600,000 |         |

(出典 総務課資料)

資料10-1-②-4

「科学研究費補助金」説明会

東京高専では、九月二十九日、日本学術振興会研究事業部研究助成課の長瀬課長を講師に招き、科学研究費補助金に関する説明会を開催した。説明会には、東京高専及びサレジオ高専の教職員合わせて約九十名が参加し、松本校長の挨拶に続き、長瀬講師から制度の概要、申請の留意事項、公募からの審査の流れ、使用ルール等について、配布された資料に基づき事例を交えながらのわかりやすい説明がなされた。参加した教職員はメモを取るなど熱心に耳を傾け、科学研究費補助金制度についての理解を深めることができた。



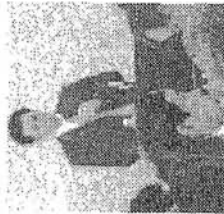
(出典 文芸速報)

第6798号

東京高専・豊田高専・米子高専  
科学研究費補助金説明会を開催

東京高専、豊田高専、米子高専では、科学研究費補助金に関する説明会を開催した。法人化以降、従来以上に外部資金獲得の重要性が高まっており、多数の教職員が熱心に聴講した。

【東京高専】同校および近隣のサレジオ高専の教職員合わせて約九十名が参加。松本校長の挨拶に続き、日本学術振興会の長瀬研究助成課長が、制度の概要、申請の留意事項などについて配付資料に基づきわかりやすく説明した。【写真Ⅰ】。



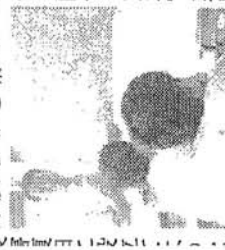
【豊田高専】名古屋大学大学院工学研究科の早川義二教授【写真Ⅱ】を講師



アンケートをしたところ、同校の現状と地元住民のイメージに大きな開きがあることが判明したことから、地元住民に現在の同校の姿を広報することを目的に行ったもの。

広報誌では、市民が興味を持つような卒業生の活躍、市民も参加できるイベントなどを紹介している。表紙のロゴデザインは、電子工学科四年の村上祐輝君の作品が採用された。【写真Ⅲは江端校長】とロゴデザイン制作者の村上君【写真Ⅳ】。

【情報デザイン報告会を開催】熊本電波高専 熊本電波高専は、鹿児島大学工学部の高田等教授を招き、情報デザイン研究会をこのほど開催した。【写真Ⅰ】。高田教授からは、台風による電気設備の損傷をいち早く



(第三種郵便物認可)

資料 10-1-②-4

平成 18 年 9 月 14 日

## 科学研究費補助金説明会

1. 採択者の経験談  
一般科目 河村先生  
物質工学科 阿久沢先生
2. 校長講話 (資料の代読)
3. 不正使用の防止
4. 応募の手順

## 科学研究費補助金申請の手引き



1. 全教員及び全技術職員は最低  
1件は申請書作成(連名や共同は  
代表者のみカウント)

2. 申請書作成することに意義あり。  
自らの活動の再確認と自己目標



3. 校長は可能な限り、全申請書を  
読ませていただきます。

教育研究会(06.9.14)



## 「科研費」獲得への努力

河村 豊(一般科目)

- 1. 科研費の魅力
- 2. 科研費申請の事例(私の場合)
- 3. 科研費申請・審査に関わること

(出典 科研費説明会資料)

観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

学校の目的を達成するために、教育・研究予算を重視した予算配分方針（現地閲覧資料を参照）に従って、総務課財務担当で案を作成し、運営会議の議を経て予算配分を決定し（現地閲覧資料を参照）、その結果は、運営会議資料としてウェブ上で学内関係者に明示されている。

(分析結果とその根拠理由)

教育・研究予算を重視した予算配分方針に従って、総務課財務担当者が案を作成し、運営会議の議を経て予算配分を決定し、その結果は、運営会議資料としてウェブ上で学内関係者に明示されている。

以上により、学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されている。



観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

高専機構会計規則第17条18条によって、本校は、高専機構からの収入予算額以上の支出はできない構造となっている(資料10-2-②-1)。念のため、本校の損益計算書を示すと、資料10-2-②-2のようになっており、支出超過となっていない。

(分析結果とその根拠理由)

高専機構会計規則第17条18条によって、本校は、高専機構からの収入予算額以上の支出はできない構造となっており、損益計算書からみても支出超過となっていない。

以上により、収支の状況において、支出超過となっていない。

資料10-2-2-②-1

「高専機構会計規則」(抜粋)

(予算実施計画の作成)

第17条 理事長は、毎事業年度開始前に通則法第31条第1項に定める年度計画に基づいて、予算実施計画を作成し、これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。

2 理事長は、機構の効率的、効果的な運営に常に配慮するものとする。

(予算実施計画の通知)

第18条 理事長は、前条で作成した予算実施計画に基づき予算額を契約担当役員及び出納命令役に通知するものとする。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号)

資料10-2-②-2

事業年度： 17年度  
 支部： 16\_東京工業高等専門学校  
 会計区分： 国立高专機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 シェア： 総括

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

(単位：円)

## [経常費用]

## 業務費

## 教育・研究経費

|            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 消耗品費       |            | 77,944,714 |
| 備品費        |            | 20,113,254 |
| 印刷製本費      |            | 6,648,371  |
| 水道光熱費      |            |            |
| 電気料        | 13,335,896 |            |
| ガス料        | 3,562,494  |            |
| 水道料        | 7,900,715  | 24,799,105 |
| 旅費交通費      |            | 19,512,136 |
| 通信運搬費      |            | 6,350,817  |
| 賃借料        |            | 9,702,888  |
| 車両燃料費      |            | 3,383,641  |
| 福利厚生費      |            | 0          |
| 保守費        |            | 2,891,821  |
| 修繕費        |            | 21,374,733 |
| 損害保険料      |            | 0          |
| 広告宣伝費      |            | 0          |
| 行事費        |            | 0          |
| 諸会費        |            | 381,429    |
| 会議費        |            | 169,360    |
| 委託調査研究費    |            | 0          |
| 文献複写費      |            | 60,221     |
| 支払派遣費      |            | 0          |
| プログラム開発費   |            | 1,638,000  |
| 支払報酬       |            |            |
| 諸謝金        | 1,243,616  | 1,243,616  |
| 奨学費        |            |            |
| 奨学交付金      | 13,078,950 |            |
| 留学生給与      | 0          | 13,078,950 |
| 減価償却費      |            | 9,962,747  |
| 貸倒損失       |            | 0          |
| 貸倒引当金繰入額   |            | 0          |
| 徴収不能引当金繰入額 |            | 0          |
| 雑費         |            |            |

1 / 7

(出典 総務課資料)

資料10-2-②-2

事業年度： 17年度  
 支部： 16\_東京工業高等専門学校  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 コメント：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)

|            |            |            |             |
|------------|------------|------------|-------------|
| 備給料        | 0          |            |             |
| 特許出願費      | 0          |            |             |
| 移設撤去費      | 0          |            |             |
| 損害賠償費      | 0          |            |             |
| 雑役務費       | 13,774,509 | 13,774,509 | 233,030,312 |
| 教育研究支援費    |            |            |             |
| 消耗品費       |            | 9,334,410  |             |
| 備品費        |            | 2,860,920  |             |
| 印刷製本費      |            | 0          |             |
| 水道光熱費      |            |            |             |
| 電気料        | 1,720,761  |            |             |
| ガス料        | 74,671     |            |             |
| 水道料        | 351,143    | 2,146,575  |             |
| 旅費交通費      |            | 118,320    |             |
| 通信運搬費      |            | 2,929,444  |             |
| 賃借料        |            | 0          |             |
| 車両燃料費      |            | 238,739    |             |
| 福利厚生費      |            | 40,000     |             |
| 保守費        |            | 1,349,250  |             |
| 修繕費        |            | 2,902,165  |             |
| 損害保険料      |            | 0          |             |
| 広告宣伝費      |            | 0          |             |
| 行事費        |            | 0          |             |
| 諸会費        |            | 29,000     |             |
| 会議費        |            | 0          |             |
| 支払派遣費      |            | 0          |             |
| プログラム開発費   |            | 0          |             |
| 支払報酬       |            |            |             |
| 諸謝金        | 0          | 0          |             |
| 減価償却費      |            | 3,223,703  |             |
| 貸倒損失       |            | 0          |             |
| 貸倒引当金繰入額   |            | 0          |             |
| 徴収不能引当金繰入額 |            | 0          |             |
| 雑費         |            |            |             |
| 移設撤去費      | 0          |            |             |
| 損害賠償費      | 0          |            |             |

2 / 7

(出典 総務課資料)

資料 10-2-②-2

事業年度： 17年度  
 支部： 16\_東京工業高等専門学  
 会計区分： 国立高专機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 コメント：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

|               |             |             | (単位：円)      |
|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 雑役務費          | 4,691,274   | 4,691,274   | 29,863,800  |
| 受託研究費         |             |             |             |
| 謝金            |             | 0           |             |
| 旅費交通費         |             | 55,600      |             |
| 人件費           |             | 0           |             |
| 物件費           |             | 4,929,400   |             |
| 減価償却費         |             | 0           |             |
| その他の受託研究費     |             | 0           | 4,985,000   |
| 受託事業費         |             |             |             |
| 謝金            |             | 0           |             |
| 旅費交通費         |             | 0           |             |
| 人件費           |             | 0           |             |
| 物件費           |             | 749,200     |             |
| 減価償却費         |             | 0           |             |
| その他の受託事業費     |             | 0           | 749,200     |
| 教員人件費         |             |             |             |
| 常勤教員給与        |             |             |             |
| 常勤教員給与        | 531,714,757 |             |             |
| 常勤教員賞与        | 207,671,477 |             |             |
| 常勤教員賞与引当金繰入額  | 0           |             |             |
| 常勤教員退職給付費用    | 87,024,192  |             |             |
| 常勤教員法定福利費     | 11,921,971  | 838,332,397 |             |
| 非常勤教員給与       |             |             |             |
| 非常勤教員給与       | 29,793,280  |             |             |
| 非常勤教員賞与       | 0           |             |             |
| 非常勤教員賞与引当金繰入額 | 0           |             |             |
| 非常勤教員退職給付費用   | 0           |             |             |
| 非常勤教員法定福利費    | 134,068     | 29,927,348  | 868,259,745 |
| 職員人件費         |             |             |             |
| 役員報酬          |             |             |             |
| 役員報酬          | 0           |             |             |
| 役員賞与          | 0           |             |             |
| 役員賞与引当金繰入額    | 0           |             |             |
| 役員退職給付費用      | 0           |             |             |
| 役員法定福利費       | 0           | 0           |             |
| 常勤職員給与        |             |             |             |

3 / 7

(出典 総務課資料)

資料 10-2-②-2

事業年度： 17年度  
 支部： 16 東京工業高等専門学校  
 会計区分： 国立高専機構  
 部 署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 シェア： 総括

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)

|               |             |             |             |
|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 常勤職員給与        | 227,171,527 |             |             |
| 常勤職員賞与        | 76,814,287  |             |             |
| 常勤職員賞与引当金繰入額  | 0           |             |             |
| 常勤職員退職給付費用    | 6,875,672   |             |             |
| 常勤職員法定福利費     | 5,227,873   | 316,089,359 |             |
| 非常勤職員給与       |             |             |             |
| 非常勤職員給与       | 7,136,243   |             |             |
| 非常勤職員賞与       | 115,384     |             |             |
| 非常勤職員賞与引当金繰入額 | 0           |             |             |
| 非常勤職員退職給付費用   | 0           |             |             |
| 非常勤職員法定福利費    | 669,244     | 7,920,871   | 324,010,230 |
| 一般管理費         |             |             |             |
| 一般管理費         |             |             |             |
| 消耗品費          |             | 14,569,299  |             |
| 備品費           |             | 2,622,696   |             |
| 印刷製本費         |             | 2,229,769   |             |
| 水道光熱費         |             |             |             |
| 電気料           | 6,452,853   |             |             |
| ガス料           | 150,518     |             |             |
| 水道料           | 419,843     | 7,023,214   |             |
| 旅費交通費         |             | 3,202,274   |             |
| 通信運搬費         |             | 1,451,420   |             |
| 賃借料           |             | 4,976,328   |             |
| 車両燃料費         |             | 421,546     |             |
| 福利厚生費         |             | 648,530     |             |
| 保守費           |             | 17,369,987  |             |
| 修繕費           |             | 4,824,659   |             |
| 損害保険料         |             | 15,291      |             |
| 広告宣伝費         |             | 0           |             |
| 行事費           |             | 159,300     |             |
| 諸会費           |             | 488,200     |             |
| 会議費           |             | 26,000      |             |
| 委託調査研究費       |             | 0           |             |
| 支払派遣費         |             | 0           |             |
| プログラム開発費      |             | 468,617     |             |
| 諸謝金           |             | 58,728      |             |

4 / 7

(出典 総務課資料)

資料10-2-②-2

事業年度： 17年度  
 支部： 16\_東京工業高等専門学校  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 コメント：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)

|                 |             |             |               |
|-----------------|-------------|-------------|---------------|
| 支払手数料           |             |             |               |
| 銀行手数料           | 678,320     |             |               |
| その他手数料          | 0           | 678,320     |               |
| 租税公課            |             |             |               |
| 自動車重量税          | 37,800      |             |               |
| 固定資産税           | 3,197,600   |             |               |
| 収入印紙代           | 0           |             |               |
| 消費税等            | 0           |             |               |
| その他の租税公課        | 0           | 3,235,400   |               |
| 減価償却費           |             | 34,351,697  |               |
| 貸倒損失            |             | 0           |               |
| 貸倒引当金繰入額        |             | 0           |               |
| 徴収不能引当金繰入額      |             | 0           |               |
| 雑費              |             |             |               |
| 環境整備費           | 9,252,516   |             |               |
| 移設撤去費           | 0           |             |               |
| 雑役務費            | 21,660,720  | 30,913,236  | 129,734,511   |
| 財務費用            |             |             |               |
| 財務費用            |             |             |               |
| 支払利息            |             | 0           |               |
| その他の財務費用        |             | 0           | 0             |
| 雑損              |             |             |               |
| 雑損              |             |             | 0             |
| [経常費用] 合計       |             |             | 1,590,632,798 |
| [経常収益]          |             |             |               |
| [経常収益] 運営費交付金収益 |             |             | 1,240,400,817 |
| [経常収益] 授業料収益    |             |             |               |
| [授業料収益] 授業料収益   | 247,906,400 |             |               |
| [授業料収益] 講習料収益   | 0           | 247,906,400 |               |
| [経常収益] 入学金収益    |             |             | 21,098,900    |
| [経常収益] 検定料収益    |             |             | 7,500,800     |
| [経常収益] 受託研究等収益  |             |             |               |
| 受託研究収益          | 260,000     |             |               |
| 共同研究収益          | 4,725,000   | 4,985,000   |               |
| [経常収益] 受託事業等収益  |             |             | 749,200       |
| [経常収益] 補助金等収益   |             |             | 6,855,000     |

資料 10-2-②-2

事業年度： 17年度  
 支部： 16\_東京工業高等専門学  
 会計区分： 国立高专機構  
 部 署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 セグメント：

## 損 益 計 算 書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

|                  |             | (単位：円)        |
|------------------|-------------|---------------|
| [経常収益] 寄附金収益     |             | 17,747,946    |
| [経常収益] 施設費収益     |             | 0             |
| [経常収益] 資産見返負債戻入  |             |               |
| 資産見返運営費交付金等戻入    | 3,756,288   |               |
| 資産見返補助金等戻入       | 0           |               |
| 資産見返寄附金等戻入       | 950,979     |               |
| 資産見返物品受贈額戻入      | -42,830,880 |               |
| 特許権仮勘定見返運営費交付金戻入 | 0           | 47,538,147    |
| [経常収益] 財務収益      |             |               |
| 受取利息             | 1,413       |               |
| その他の財務収益         | 0           | 1,413         |
| [経常収益] 雑益        |             |               |
| 財産貸付料収入          | 9,555,676   |               |
| 文献複写料            | 2,580       |               |
| 物品受贈益            | 0           |               |
| 債権受贈益            | 0           |               |
| 承継剰余金債務戻入        | 0           |               |
| その他の雑益           | 169,980     | 9,728,236     |
| [経常収益] 合計        |             | 1,604,511,859 |
| 経常利益             |             | 13,879,061    |
| [臨時損失]           |             |               |
| [臨時損失] 固定資産除却損   |             | 13,947,657    |
| [臨時損失] 固定資産売却損   |             | 0             |
| [臨時損失] 災害損失      |             | 0             |
| [臨時損失] その他の臨時損失  |             | 0             |
| [臨時損失] 合計        |             | -13,947,657   |
| [臨時利益]           |             |               |
| [臨時利益] 固定資産売却益   |             | 0             |
| [臨時利益] 貸倒引当金戻入   |             | 0             |
| [臨時利益] 徴収不能引当金戻入 |             | 0             |
| [臨時利益] 退職給付引当金戻入 |             | 0             |
| [臨時利益] 資産見返負債戻入  |             |               |
| 資産見返運営費交付金等戻入    | 0           |               |
| 資産見返補助金等戻入       | 0           |               |
| 資産見返寄附金戻入        | 0           |               |
| 資産見返物品受贈額戻入      | 0           | 0             |



資料10-2-②-2

事業年度： 17年度  
 支部： 16\_東京工業高等専門学  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 セグメント：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

|                | (単位：円)  |
|----------------|---------|
| [臨時利益]その他引当金戻入 | 0       |
| [臨時利益]その他の臨時利益 | 0       |
| [臨時利益]合計       | 0       |
| [当期純利益 (純損失)]  | -68,596 |
| [目的積立金取崩額]     | 0       |
| [当期総利益 (総損失)]  | -68,596 |

※ -68,596 の損失については、長期前払費用の計上のため支出超過とはなっていない。

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

適正な資源配分を実現するために、教育・研究に対する経常的な予算配分（現地閲覧資料を参照）の他、重点配分予算を配分している。重点予算配分は、校務執行会議構成員に対するプレゼンテーションを基に配分を決定する。資料10-2-③-1に平成18年度予算要求一覧を示す。またその採択結果は資料10-2-③-2の通りであり、予算執行後には、成果報告書（資料10-2-③-3、現地閲覧資料23）の提出を義務付けており、適正な配分を保障している。さらに、適正な優先順位を付けて、教育充実設備費配分の要求を行っている（資料10-2-③-4）。

（分析結果とその根拠理由）

適正な資源配分を実現するために、教育・研究に対する経常的な予算配分の他、重点配分予算を配分している。重点予算配分は、プレゼンテーションを基に配分を決定し、予算執行後には成果の報告が義務付けられている。また、適正な優先順位を付けて、教育充実設備費配分の要求を行っている。

以上により、学校の目的を達成するため、教育研究活動に対し、適切な資源配分がなされている。

資料 10-2-③-1

**平成18年度重点配分経費要求一覽**

| 1. 教育改善（改革）経費                                     |          |                                   | 予算額：10,000 |    |
|---------------------------------------------------|----------|-----------------------------------|------------|----|
| プロジェクト名称                                          | 要求部局     | 要求代表者                             | 要求額(千円)    | 備考 |
| 英語授業改善に向けたマーク・カード方式によるデータ収集と、統計処理によるデータ分析のための環境整備 | 一般科目 英語科 | 竹田 信典(相澤 俊行)                      | 500        |    |
| 創造力、実践力育成のためのメカづくり教育プログラム                         | 機械工学科    | 堤 博貴(木村 南)                        | 600        |    |
| 魅力ある早期環境・エネルギー教育に関する創造電気実験の再構築                    | 電気工学科    | 玉 田 耕 治                           | 1,000      |    |
| 学習支援室の立上げプロジェクト                                   | 電子工学科    | 大 塚 友 彦                           | 990        |    |
| 基礎教育用シングルボードコンピュータの基板製作                           | 情報工学科    | 鈴 木 孝                             | 956        |    |
| 平均的学力を待つ学生の電子バージョン向上をねらいとする実権を題材とした教材開発           | 情報工学科    | 鈴 木 雅 人                           | 880        |    |
| ものづくり基礎工学の実験室や公開講座用実験室へのクーラー設置                    | 物質工学科    | 石 井 宏 幸                           | 1,000      |    |
| 計                                                 |          |                                   | 5,906      |    |
| 2. 教育改善のための設備更新費                                  |          |                                   |            |    |
| 設備名                                               | 要求部局     | 主たる使用者                            | 要求額(千円)    | 備考 |
| 水泳実験装置（金学科共通体育実験装置）                               | 物理       | 前殿 真治(大野 秀樹)                      | 2,443      |    |
| 設計創想教育用ソフトウェア                                     | 機械工学科    | 森 下 雅 彦                           | 2,710      |    |
| 数値解析ソフトウェア駆込の更新と機能追加                              | 電気工学科    | 松井 義弘(伊藤 勲)                       | 2,776      |    |
| 体験を重視した電気電子工学導入教育とその環境整備                          | 電子工学科    | 一 戸 隆 久                           | 2,907      |    |
| 物理化学実験の改善のための設備更新費                                | 物質工学科    | 高 橋 三 男                           | 2,173      |    |
| 計                                                 |          |                                   | 12,108     |    |
| 3. 研究助成金                                          |          |                                   |            |    |
| 研究課題                                              | 所属       | 申請者                               | 要求額(千円)    | 備考 |
| 核微体分野教員による技術者倫理教育法の研究                             | 一般科目     | 岡 村 豊                             | 550        |    |
| 反応性バットによる低濃度酸化膜プロセスの開発研究                          | 電気工学科    | 伊 藤 浩 治                           | 470        |    |
| 金属酸化物薄膜の熱処理効果                                     | 電子工学科    | 一 戸 隆 久                           | 230        |    |
| 数式処理アルゴリズムのX線構造解析分析への応用                           | 電子工学科    | 白 石 登 一                           | 213        |    |
| 正確な出力状況をリアルタイムに把握するシステムの構築                        | 情報工学科    | 松 林 勝 志                           | 400        |    |
| 固体内核反応の理論的研究                                      | 物質工学科    | 土 屋 賢 一                           | 496        |    |
| 針管用電極材料としてのカーボンナノチューブ粒子の評価法に関する研究                 | 物質工学科    | 工 藤 賢 子                           | 355        |    |
| オゾン生成装置の開発とその駆動力の研究                               | 物質工学科    | 北 折 典 之                           | 482        |    |
| ポリアセトセトキシエチルメタクリレート（PAAEM）の構造制御                   | 物質工学科    | 中 川 修                             | 500        |    |
| 赤土酸化物をを用いた光化学的水の酸化およびプロトン還元触媒の基礎科学的研究             | 物質工学科    | 城 石 英 伸                           | 500        |    |
| 東京高専における「脳科学と教育」に関する調査研究                          |          | 高橋三男、青木宏之、小嶋敏也                    | 500        |    |
| 開伐材を活用したカブト虫の飼育による環境教育                            |          | 高橋三男、松井義弘、羽島広義、藤野宏、藤原孝治           | 500        |    |
| 開伐材を活用した野球バットの試作                                  |          | 高橋三男、河野敏、新木雄二、藤野宏、海津和之、中村康一郎、米谷雄介 | 500        |    |
| 計                                                 |          |                                   | 5,706      |    |

| 4. F Dに関する研究会等の開催経費                                        |                |                   |         |    |
|------------------------------------------------------------|----------------|-------------------|---------|----|
| 要求事項                                                       | 所属             | 申請者               | 要求額(千円) | 備考 |
| 全学的FD合同研究会開催                                               | 企画・評価室         | 佐 藤 義 隆           | 1,005   |    |
| FDに関する研究会の実施                                               | 電気工学科          | 松 井 義 弘           | 95      |    |
| 組み込み技術に関する研究会の開催                                           | 電気工学科          | 松 井 義 弘           | 223     |    |
| 新2年生保護者・学生会同懇談会、新2年生合宿研修、及び学科教員FDの開催費                      | 電子工学科          | 大 塚 友 彦           | 100     |    |
| 計                                                          |                |                   | 1,423   |    |
| 5. その他の経費                                                  |                |                   |         |    |
| 要求事項                                                       | 担当学科等名         | 主たる担当者            | 要求額(千円) | 備考 |
| 英語によるプレゼンテーション能力向上のための実践的指導法開発～フィンランドにおける英語教育手法の調査と指導法の確立～ | 全学科            | 村井三千男、松井義弘(阿久沢 勇) | 1,345   |    |
| 高専習学卒業生の実態調査および習学生支部の創設                                    | 一般科目           | 佐 藤 義 隆           | 387     |    |
| 高山再生プロジェクト—高山の保全と活用—                                       | 一般科目(体育科)学生相談室 | 吉 藤 正 俊           | 930     |    |
| こころの勇を抱える学生に対する修学支援体制の調査                                   | 一般科目(体育科)学生相談室 | 黒 田 一 孝           | 180     |    |
| 学舎の美化・環境・道徳マナー教育の推進                                        | 情報工学科          | 松 林 勝 志           | 230     |    |
| 商品管理システムのデータバックアップ用システム構築                                  | 物質工学科          | 町 田 茂             | 956     |    |
| ものづくり教育設備の増強（3Dプリンタの増設）                                    | 物質工学科          | 藤 野 宏(青藤 純夫)      | 2,796   |    |
| 地域連携テクノセンター活用および施設整備費                                      | 地域連携テクノセンター    | 北 折 典 之           | 4,471   |    |
| 学生実験・公開講座等のための教材づくり用測定器の導入                                 | 技術室第2技術室       | 橋 井 繁 雄           | 319     |    |
| 本校卒業生の奨励に関する調査                                             | 企画・評価室         | 佐 藤 義 隆           | 822     |    |
| ロボコン大賞受賞ロボット展示ケースの製作                                       | ロボコンゼミ         | 松 林 勝 志           | 170     |    |
| 東京高専のホームページを使い勝手のよい魅力あるものに改善するプロジェクト                       | 庶務課            | 黒 田 一 孝           | 600     |    |
| キャンパスにコミュニティの輪を広げるためのプロジェクト                                | 庶務課            | 布 川 み づ 子(星 操)    | 1,000   |    |
| eラーニング試行システムの構築                                            | eラーニング科        | 横 山 繁 彦           | 1,500   |    |
| 計                                                          |                |                   | 16,208  |    |
| 総 合 計                                                      |                |                   | 41,351  |    |

(出典 総務課資料)



資料10-2-③-3

平成17年度  
重点配分経費及び  
教育充実設備費等（成果）報告書

（出典 総務課資料 平成17年度重点配分経費報告書）

平成 18 年度 高等専門学校教育充実設備費要求 (審査結果・配分)

| 学 科                   | 主使用者                         | 装置名                               | 金額 (千円) | 設置場所                                                                                                                           | 採 否 | 備 考                                 |
|-----------------------|------------------------------|-----------------------------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------------------------------|
| 一般科目                  |                              |                                   |         |                                                                                                                                |     |                                     |
| 機械工学科<br>実習工場         | 機械工学科教員・実習<br>工場技術職員<br>木村 晋 | インテリジェント精密万能材料試験システム              | 8, 847  | 実習工場                                                                                                                           |     | 緊急性、全学対応、低<br>学年教育の観点から採<br>否の結果不採択 |
| 電気工学科                 |                              |                                   |         |                                                                                                                                |     |                                     |
| 電子工学科<br><5 学科共通>     | 鹿毛 哲 郎<br><要求取組>             | 学科実験室の空調設備設置                      | 4, 800  | メカトロ実習室 (3202)<br>電子デバイス実験室 (3306)<br>電気工学基礎実験室 (3304)<br>電子工学実験室 (3322)<br>情報工学実験室 (7203)<br>コンピュータ演習室 (7508)<br>分析実験室 (2209) |     | 緊急性、全学対応、低<br>学年教育の観点から採<br>否の結果不採択 |
| 情報工学科<br>IT情報<br>教育むけ | 青野 正 宏<br>横山 繁 盛             | 第3演習室/PC化                         | 9, 255  | 第3コンピュータ演習室                                                                                                                    | 採 択 | 緊急性、全学対応、低<br>学年教育の観点から採<br>否の結果不採択 |
| 物質工学科                 | 城石 英 伸<br>(石井 宏 幸)           | 環境教育およびものづくり教育のための<br>講義・物性分析システム | 11, 948 | 地域連携テクノセンター                                                                                                                    |     | 緊急性、全学対応、低<br>学年教育の観点から採<br>否の結果不採択 |
| 地域連携テクノ<br>センター       | 北折 典 之                       | 3次元表面解析装置一式                       | 16, 000 | 地域連携テクノセンター                                                                                                                    |     | 緊急性、全学対応、低<br>学年教育の観点から採<br>否の結果不採択 |

(出典 総務課資料)

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

本校は、高専機構として統一された財務会計システムによって財務会計処理を行っている。このシステムによって作成された財務諸表は、高専機構会計規則第44条に従い(資料10-3-①-1)、高専機構によって公開されている(資料10-3-①-2)。

(分析結果とその根拠理由)

高専機構の財務諸表は、高専機構会計規則第44条に従い、ホームページ上で公開されている。以上により、学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されている。

資料 10-3-①-1

## 「高専機構会計規則」(抜粋)

## (年度末決算)

第44条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に關し眞正な數値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債務・債務の整理、その他決算整理を的確に行つて、所定の手続きに従つて決算數値を確定しなければならぬ。

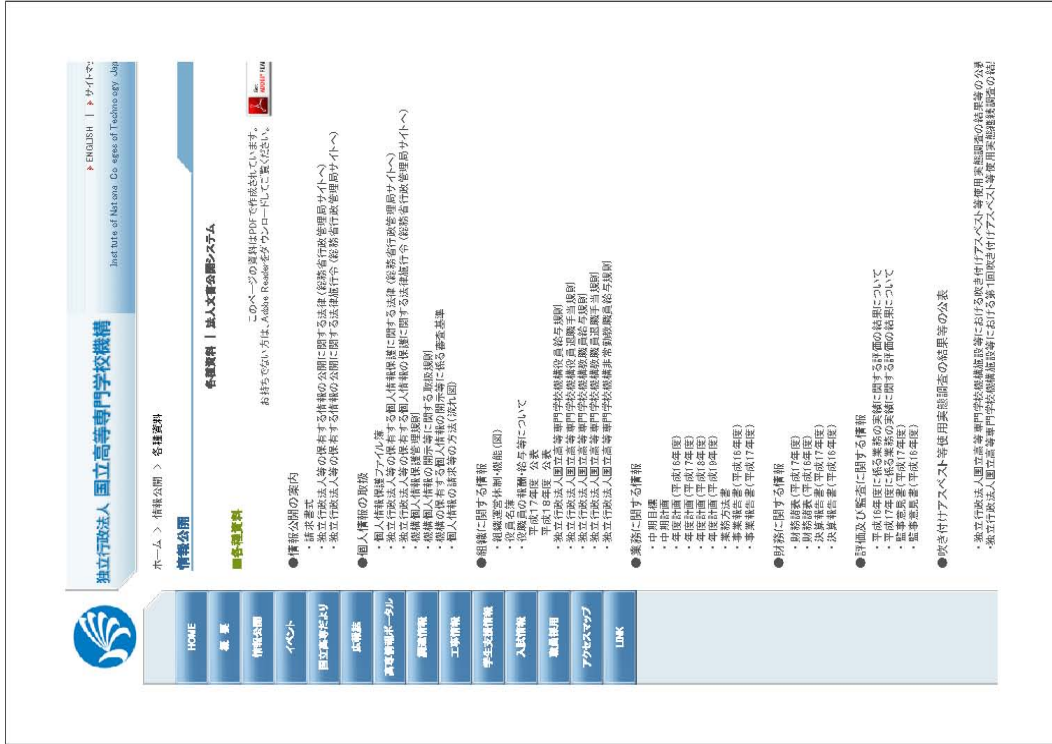
2 理事長は、前項の整理を行つた後、翌事業年度5月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならぬ。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に關する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書
- 六 附属明細書

3 前項各号の書類の様式は、別に定めるものとする。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号)





(出典 国立高等専門学校機構ホームページ)

観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

独立行政法人通則法第39条に従い(資料10-3-②-1)、会計監査人による監査を受けることになっている。本校においては平成19年4月現在、まだ会計監査人による監査を受けていないが、平成17年に、監査法人による検査を受けており、監査が適正に行われている(資料10-3-②-2)。また、高専会計規則第45条(資料10-3-②-3)に基づき、内部監査も適正に実施された(資料10-3-②-4)。

(分析結果とその根拠理由)

独立行政法人通則法第39条に従い、会計監査人の監査が行われることになっているが、本校は平成19年4月現在、まだ監査を受けていない。しかし、平成17年に監査法人による検査を受けており、監査が適性におこなわれている。適正に行われた。また、高専会計規則第45条に基づき、内部監査が適正に実施された。

以上により、財務に対して、会計監査等が適正に行われている。

資料 10-3-②-1

「独立行政法人通則法」(抜粋)

(会計監査人の監査)

第三十九条 独立行政法人(その資本の額その他の経営の規模が政令で定める基準に達しない独立行政法人を除く。)は、財務諸表、事業報告書(会計に関する部分に限る。)及び決算報告書について、監事の監査のほか、会計監査人の監査を受けなければならない。

(会計監査人の選任)

第四十条 会計監査人は、主務大臣が選任する。

(会計監査人の資格)

第四十一条 株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律(昭和四十九年法律第二十二号)第四条(第二項第二号を除く。)の規定は、第三十九条の会計監査人について準用する。

この場合において、同法第四号第二項第一号中「第二条」とあるのは、「独立行政法人法通則法第三十九条」と読み替えるものとする。

(会計監査人の任期)

第四十二条 会計監査人の任期は、その選任の日以後最初に終了する事業年度の財務諸表についての主務大臣の第三十八条第一項の承認の時までとする。

(会計監査人の解任)

第四十三条 主務大臣は、会計監査人が次の各号の一に該当するときは、その会計監査人を解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- 二 会計監査人たるにふさわしくない非行があったとき。
- 三 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(出典 独立行政法人通則法 平成11年法律第103号)

東京工業高等専門学校 監査講評 MEMO  
05.5.27 (金)  
中央青山監査法人

1. 今回の監査内容

(貸借対照表関係)  
貴校の第1期事業年度における財務諸表(貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書・行政サービス実益コスト計算書・附属明細書)データが、適正に作成されているかどうかの確信を中心として監査を行っていただきました。

2. 監査結果

(貸借対照表関係)

①出願中の特許権に係る費用について  
特許の申請に係る費用が教育研究経費の増額に計上されています(70千円)。特許権等の山原費用については、特許申請の結果が判明するまでは債権定に計上する必要はありません。

(修正仕訳)

特許権増加分(※1) 70,653円/教育研究経費 雑費(特許申請費) 70,653円  
運営費交付金収益 70,653円/管理費運賃費交付金等 70,653円  
(※1)→本来は特許権の科目に特許権増加分があれば問題ありませんが、科目が設定されていないので、特許権に計上し、内容が分かるようにその旨を摘要に記載するといいたいと思います。

(備考) 期首時点においても甲類中の費用があれば、特許権債権定として、期首減額の対象にする必要はありません。  
特許権債権定 XXXX/ 貸借対照表物品受贈額 XXXX

②前払費用、長期前払費用の計算について

自動車保険料(保険料22,140円、契約締結日H17/2/9、保険期間H17/3/25~H19/3/25の24ヶ月)の按分計算で、当期の保険料が2ヶ月分、前払保険料が12ヶ月分、長期前払保険料10ヶ月分と期間計算されました。  
しかし、保険期間は3月から開始するため、これに基づき3月の1ヶ月分を当期の保険料とし、前払保険料は12ヶ月分、長期前払保険料は11ヶ月分と期間計算する必要があります。

③預り香附金

期首承認分17,469,437円のうち、4,939,179円が法人形初年度において未使用となっています。このままですと、「預り香附金」ではなく、「長期預り香附金」として表示する必要ありということとなりますので、今後1年以内に使用する予定であることを示す前貸計問書の作成を貴校毎に作成する必要があります。

(損益計算書関係)

①出資財産の除却時の処理

出資財産を今年度中に除却していますが、その際に固定資産除却損を計上しています(車庫・物庫等) 2,090,000円。これは、専攻科課業のため取り崩したものであり、この除却損はQ&A11.5に記述されている通り、資本剰余金のマイナスで計上する必要があります(資本剰余金一回が資産除却損等額)。

(修正仕訳)

損益外除却損増加分計額 418,000円/建物減価償却累計額 418,000円  
建物減価償却累計額 418,000円/増加分減価償却累計額 418,000円  
固定資産除却損 2,090,000円/建物 2,090,000円  
(修正仕訳)  
資本剰余金 固定資産除却増加分2,090,000円/固定資産除却損 2,090,000円

②専攻科・総合教育施設経費について

H17/3/31専攻科・総合教育施設新築に関して、本部より振替えられた消耗品費(1,252,390円)、備品費(8,269,260円)、修繕費(133,046円)が、一般管理費として計上されました。しかしながら、当該費用は専攻科新築に関する費用ですので、教育研究経費で計上するようにして下さい。

③経費の請求書について

3/29に計上されている消耗品費(朝ヒノゲン 4,775,000円)の請求書および納品書を確認したところ、先方の日付記入がなされていませんでした。平仮的に、物品の引渡しおよび後継債務の発生の手続きを確立するためには、先方からの日付記入及び東工大高等部の受領印の押印が必要となります。したがって、請求書・納品書については、必ず先方から日付記入をしてもらうように対応して下さい。

資料 10-3-②-2

(附属明細書関係)

① 反動市払費用のデータの修正  
 附属明細書の「反動市払費用の取得及び処分並びに減価償却費の明細」のデータの中に「前期前払費用」の分(0,392円)だけ数字が記入されています。但し記入漏れとこのことで、附属明細書データの追加入力をお願いします。

② 特許料のデータ追加入力  
 (「費用が用者関係」①出願中の特許料に係る費用について)上の修正に伴い、附属明細書のデータ「固定資産の取得及び処分並びに減価償却費の明細」上も修正をお願いします。

③ 「資本金及び資本剰余金の明細」上のデータ追加入力  
 (「損益計算書関係」①出資放棄の取組)上の修正に伴い、附属明細書のデータ「資本金及び資本剰余金の明細」上の「損益外出資差引増減額」の欄にも記入をお願いします。

以 上

(行政サービス実施コスト計算書関係)

① 引当外退職給付増加分額  
 以下の通り会計基準上の本来の計算方法とは異なっております。

|                    |               |
|--------------------|---------------|
| (1) 本来の計算          |               |
| 当期末退職給付見積額 (在職者の分) | 918,990,231円  |
| 前期末退職給付見積額 (在職者の分) | -849,107,594円 |
| 前期末退職給付見積額 (退職者の分) | -29,653,240円  |
| 差引                 | -29,680,603円  |

(2) 東京高専計算

|                    |                |
|--------------------|----------------|
| 当期末退職給付見積額 (含・退職者) | 1,035,636,091円 |
| 前期末退職給付見積額 (含・退職者) | -218,670,854円  |
| 差引                 | 86,364,857円    |

86,364,857円は、行政サービス実施コスト計算書上の「引当外退職給付増加分額」ではなく、「行政サービス実施コスト」となります。

※行政サービス実施コスト計算書のイメージ

|                 |              |
|-----------------|--------------|
| I 業務費用          |              |
| 退職給付費用 (教員)     | 63,358,020円  |
| (職員)            | 52,687,440円  |
| .....           |              |
| III 引当外退職給付増加分額 | -29,680,603円 |
| .....           |              |
| 行政サービス実施コスト     | 86,364,857円  |

機構本部より最近配布された計算様式によれば、本来の計算を行うことができます。

② 貸付取引の機会費用(土地・建物)  
 全て合同借入費分ですが、現在機会費用として、以上の計算により算出しています。

|                 |            |
|-----------------|------------|
| 建て面債に相当する土地の使用料 | 4,360,400円 |
| 国有財産法上の使用料      | -884,431円  |
| 差引              | 3,475,969円 |

四からは、あくまでも無償貸借を行っていますので、機会費用としては、建て面債に相当する土地の使用料 4,360,400円を算上するようして下さい。

(出典 総務課保管資料監査報告書)

資料 10-3-②-3

「高専機構会計規則」(抜粋)

(内部監査)

第 4 5 条 理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

2 内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。

(会計機関の義務及び責任)

第 4 6 条 会計機関は、機構の財務及び会計に関し、適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し、かつ、予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって、その職務を行わなければならない。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 3 4 号)

資料 10-3-②-4

平成 18 年 8 月 8 日

東京工業高等専門学校

校長 水谷 惟恭 殿

監査員

庶務課長 星 操

学生課学生係長 川上 努

会計課長 山本 敏文

会計課総務係長 宮岡 保則



## 会計監査（内部監査）監査報告書

監査を終了しましたので、次のとおり報告します。

監査実施期間 平成 18 年 8 月 1 日～平成 18 年 8 月 3 日

監査事項（平成 17 年度関係書類）

|                            |        |
|----------------------------|--------|
| ・会計経理に関する法令等の適用に関する事項      | 指導事項無し |
| ・予算決算に関する事項                | 指導事項無し |
| ・収入支出に関する事項                | 指導事項無し |
| ・債権に関する事項                  | 指導事項無し |
| ・物品に関する事項                  | 指導事項無し |
| ・不動産に関する事項                 | 指導事項無し |
| ・契約に関する事項                  | 指導事項無し |
| ・旅費に関する事項                  | 指導事項無し |
| ・外部資金、寄附金及び科学研究費補助金等に関する事項 | 指導事項無し |
| ・帳簿及び証拠書類に関する事項            | 指導事項無し |
| ・その他                       | 特になし   |

（出典 総務課資料）

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 教育・研究を重視した予算配分を行っており、すべての予算が、学内関係者に明示されている。
- ・ 重点配分経費により、適正な資源配分を図っている。

(改善を要する点)

## (3) 基準10の自己評価の概要

本校の教育・研究を安定的に遂行するための校地・校舎・設備等の資産を有しており、債務はない。

本校は、運営費交付金が国から高専機構を通じて継続的に交付されている。また、外部資金の導入にも努力している。

教育・研究予算を重視した予算配分方針に従って、総務課で案を作成し、運営会議の議を経て予算配分を決定し、その結果は、運営会議資料としてウェブ上で学内関係者に明示されている。

適正な資源配分を実現するために、教育・研究に対する経常的な予算配分の他、重点配分予算を配分している。重点予算配分は、プレゼンテーションを基に配分を決定し、予算執行後には成果の報告が義務付けられている。また、適正な優先順位を付けて、教育充実設備費配分の要求を行っている。

高専機構の財務諸表は、ホームページ上で公開されている。また、会計監査人の監査が適正に行われ、内部監査も適正に実施されている。



## 基準11 管理運営

### (1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到係る状況)

本校では、校長・主事・各種委員会の役割と責任が規則により明確になっている(資料11-1-①-1)。定められた校長と主事の役割は、学校教育法施行規則第72条に適合するものである。意思決定プロセスは、資料11-1-①-2に示したとおりであり、各種委員会で企画立案した事項について、運営会議の審議を経て校務執行会議で決定する形をとっている。しかしながら、必要に応じて校長が専決し、校長のリーダーシップにより効果的な意思決定が行われる体制である。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、校長・主事・各種委員会の役割と責任が規則により明確に定められており、その役割は、学校教育法施行規則第72条に適合するものである。意思決定プロセスは、各種委員会で企画立案した事項について、運営会議の審議を経て校務執行会議で決定し、校長のリーダーシップにより意思決定が行われる体制である。

以上により、学校の目的を達成するために、校長・各主事・委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっている。

東京工業高等専門学校内部組織運営規則

制 定 平成 9年 4月 1日  
 最終改正 平成19年 4月 1日

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条及び東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）学園（以下「学園」という。）第11条に基づき、本校における内部組織（事務組織を除く）等に関する事項を定め、校務運営の円滑を図ることを目的とする。

第2章 組織

(組織)

第2条 学園第7条に定める機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報工学科、物質工学科及び学園第44条に定める情報情報システム工学専攻、電気電子工学専攻、物質工学専攻のほか、本校に会議等を置く。

(会議の種類)

第3条 第1条の目的を達成するため、本校に次の会議を置く。

(1) 校務執行会議

(2) 運営会議

(校務執行会議)

第4条 校務執行会議は、意志決定機関として管理運営に関する重要事項を審議し、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

2 校務執行会議は、別に定める。

(運営会議)

第5条 運営会議は、審議機関として管理運営に関する事項を審議し、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

2 運営会議は、別に定める。

(教育研究会)

第6条 本校に教育の質向上及び教育改善を促すため、教育研究会を置く。

2 教育研究会は、別に定める。

(委員会等の種類)

第7条 第1条の目的を達成するため、本校に次の委員会等を置く。

- (1) 人事委員会
- (2) 自己点検・評価委員会
- (3) 安全衛生委員会
- (4) セクシュアル・ハラスメント防止委員会
- (5) 知的財産委員会
- (6) 施設整備計画委員会
- (7) 防災対策委員会
- (8) 専攻科委員会
- (9) 教務委員会

- (10) 進路指導委員会
  - (11) 学生委員会
  - (12) 審務委員会
  - (13) 図書委員会
  - (14) 地域連携テクノセンター委員会
  - (15) 情報・メディア教育センター運営委員会
  - (16) 技術運営委員会
  - (17) 国際学生交流委員会
- 2 前項に定める委員会等の他、校長が必要と認める場合には他の委員会等を置くことができる。

3 各委員会等に関し必要な事項は、別に定める。

(学園内共同教育研究施設)

第8条 第1条の目的を達成するため、次の学園内共同教育研究施設を置く。

- (1) 図書館
  - (2) 地域連携テクノセンター
  - (3) 情報・メディア教育センター
  - (4) 実習工場
- 2 学園内共同教育研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

第9条 第1条の目的を達成するため、次の室を置く。

- (1) 企画室
  - (2) 広報室
  - (3) 国際室
  - (4) 入館企画室
  - (5) 学生相談室
  - (6) 技術室
- 2 前項に定める室の他、校長が必要と認める場合には他の室を置くことができる。
- 3 各室に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 役職等

(副校長)

第10条 第1条の目的を達成するため、本校に副校長（総務・企画担当）、副校長（情報・広報担当）、副校長（教務主事）、副校長（学生主事）、副校長（審務主事）、及び副校長（専攻科長）を置く。

2 副校長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(専攻科長)

第11条 第1条の目的を達成するため、本校に専攻科長を置く。

2 専攻科長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(主事補)

第12条 第1条の目的を達成するため、教務主事補、学生主事補及び審務主事補を置く。

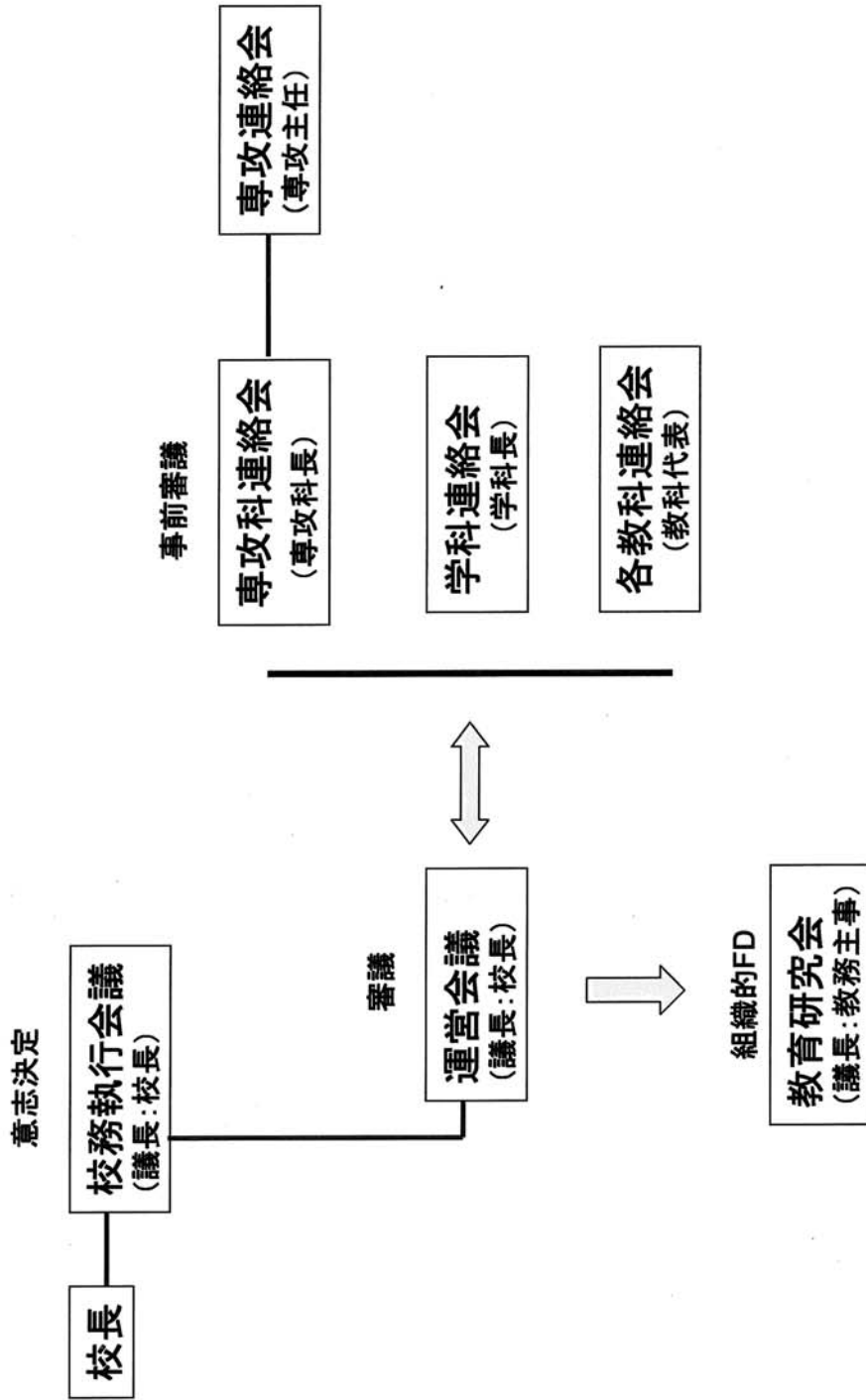
2 主事補の任期は1年とし、再任を妨げない。

(専攻科長等)

第13条 第1条の目的を達成するため、本校に次の職を置く。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 学科長<br/>(2) 教科代表（人文社会、英即及び数学の各担当教員の代表）<br/>(3) 図書館長<br/>(4) 地域連携テクノセンター長<br/>(5) 情報・メディア教育センター長<br/>(6) 実習工場長<br/>(7) 企画室長<br/>(8) 広報室長<br/>(9) 国際室長<br/>(10) 入試企画室長<br/>(11) 学生相談室長<br/>(12) 技能室長</p> <p>2 部項任期は1年とし、再任を妨げない。</p> <p>第14条 第1条の目的を達成するため、本校専攻科の各専攻に専攻主任を置く。<br/>2 部項任期は1年とし、再任を妨げない。</p> <p>第15条 第1条の目的を達成するため、本校に次の学生指導担当教員を置く。<br/>(1) 学級担任・学級指導教員<br/>(2) 学生会部・同好会顧問<br/>(3) 学生指導担当教員<br/>(学生指導担当教員)</p> <p>第16条 副校長は、校長の命を受け、校長の命を受け、次の各号に關することを掌理する。<br/>(1) 評価に關すること。<br/>(2) 産学官連携に關すること。<br/>(3) 研究支援に關すること。<br/>(4) その他学務機構等の企画立案に關すること。</p> <p>3 副校長（情報・広報担当）は、校長の命を受け、次の各号に關することを掌理する。<br/>(1) 広報に關すること。<br/>(2) 地域貢献に關すること。<br/>(専攻科長）<br/>(主事補）</p> <p>第17条 専攻科長は、校長の命を受け、専攻に關することを掌理する。<br/>(主事補）</p> <p>第18条 専攻主事補は、専攻主事を補佐する。<br/>2 学生主事補は、学生主事を補佐する。<br/>3 専攻主事補は、専攻主事を補佐する。<br/>(学科長）</p> <p>第19条 学科長は、学科内の運営及び進路調整に關することをつかさどる。<br/>(教科代表）</p> <p>第20条 教科代表は、教科内の運営及び進路調整に關することをつかさどる。</p> | <p>(図書館長)<br/>第21条 図書館長は、図書館の管理、運営に關することをつかさどる。<br/>(地域連携テクノセンター長)<br/>第22条 地域連携テクノセンター長は、地域連携テクノセンターの管理、運営に關することをつかさどる。<br/>(情報・メディア教育センター長)<br/>第23条 情報・メディア教育センター長は、情報・メディア教育センターの管理、運営に關することをつかさどる。<br/>(実習工場長)<br/>第24条 実習工場長は、実習工場の管理・運営に關することをつかさどる。<br/>(企画室長)<br/>第25条 企画室長は、企画室の管理、運営に關することをつかさどる。<br/>(入試企画室長)<br/>第26条 入試企画室長は、入試試験の運営に關することをつかさどる。<br/>(学生相談室長)<br/>第27条 学生相談室長は、学生相談室の管理、運営に關することをつかさどる。<br/>(広報室長)<br/>第28条 広報室長は、広報に關する重要なことをつかさどる。<br/>(国際室長)<br/>第29条 国際室長は、国際交流に關する重要なことをつかさどる。<br/>(技術室長)<br/>第30条 技術室長は、技術室の管理、運営に關することをつかさどる。<br/>(専攻主任)<br/>第31条 専攻主任は、専攻科長を補佐する。<br/>(学級担任・学級指導教員)<br/>第32条 学級担任は、第1学年から第3学年の担任学級の運営及び学生の指導にあたる。<br/>2 学級指導教員は、第4学年及び第5学年の指導学級の運営及び学生の指導にあたる。<br/>3 前2項については、必要に応じ教務主事、学生主事、業務主事及び学科長等と連携、協議するものとする。<br/>(学生会部・同好会顧問)<br/>第33条 学生会部・同好会顧問は、学生会部等と連携、協議し、クラブ活動の指導にあたる。</p> <p>附 則<br/>1 この規則は、平成17年12月1日から施行する。ただし、第7条第2号に規定する委員会については、平成17年4月1日から適用する。<br/>2 東京工業高等専門学校内務組織運営規則（昭和49年3月1日施行）は廃止する。<br/>3 この規則施行に際し、廃止される東京工業高等専門学校内務組織運営規則（昭和49年3月1日施行）第2条第1項第10号から第12号に規定される組織は経過措置として平成18年3月31日まで存続するものとする。</p> <p>附 則<br/>この規則は、平成19年4月1日から施行する。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 本校教育運営体制の骨格



資料11-1-①-2

(出典 総務課資料)

**観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。**

(観点に係る状況)

本校では、規則により、管理運営に関する委員会の役割分担（例として校務執行会議および運営会議の例を資料11-1-②-1に示す）と事務組織の役割分担（資料11-1-②-2）が定められている。基準1から基準10に示したように、本校は、本校の目的を達成するために効果的に機能している。各種委員会と事務組織が、管理運営体制として効果的に活動していることを示している。具体的な例は各基準のところで述べたので、ここでは省略する。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、規則により、管理運営に関する委員会と事務組織の役割分担が定められている。基準1から基準10に示したように、委員会と事務組織の活動により、本校は目的を達成するために効果的に運営されている。

以上により、管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。

資料11-1-②-1

## 東京工業高等専門学校校務執行会議規則

制定 平成17年12月1日

改定 平成19年4月1日

## (趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第4条第2項の規定に基づき、東京工業高等専門学校校務執行会議（以下「校務執行会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

## (目的)

第2条 校務執行会議は、意志決定機関として管理運営に関する重要事項を審議し、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

## (審議事項)

第3条 校務執行会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 校務運営についての重要事項に関すること。
- (2) 運営会議に諮るべき事項の整理に関すること。
- (3) その他校長が必要と認めた事項。

## (組織)

第4条 校務執行会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
  - (2) 副校長
  - (3) 主事
  - (4) 専攻科長
  - (5) 事務部長
  - (6) 課長
- 2 校長が必要と認めた場合は、その他の職員を出席させ意見を聴取することができる。
- 3 校務執行会議の中に、校長が特に必要と認めた特定の重要事項について検討するため、臨時機関を設けることができる。
- 4 臨時機関に関し必要な事項は、校務執行会議で別に定める。
- 5 校務執行会議は校長が主宰し、招集する。

## (開催)

第5条 校務執行会議は、必要に応じ開催する。

## (事務)

第6条 校務執行会議の事務は、総務課総務係において処理する。

## 附 則

この規則は、平成17年12月1日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

東京工業高等専門学校校運営会議規則

制定 平成18年11月9日  
改定 平成19年4月11日

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第5条第2項の規定に基づき、東京工業高等専門学校校運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。（目的）

第2条 運営会議は、審議機関として普通運営に関する事項を審議し、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。（審議事項）

第3条 運営会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 校務運営及び連絡調整に関すること。
- (2) 教員の組織に関すること。
- (3) 学則その他の重要な規則の制定、改廃に関すること。
- (4) 予算案等の基本に関すること。
- (5) 国際交流及び留学生交流協定等に関する基本的な事項に関すること。
- (6) 入学試験に関すること。
- (7) 学年奨励金の規定に関すること。
- (8) 卒業（修了）の規定に関すること。
- (9) 学生の身分及び処分（退学又は休学）の決定に関すること。
- (10) その他校長が必要と認めた事項。

第4条 運営会議は、次の身主に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 主宰
- (4) 専攻科長
- (5) 学部長
- (6) 教授代表
- (7) 事務部長
- (8) 院長

2 校長は、前条第1号から第6号に定める事項について、より多くの意見を聴取する必要があると認めるときは、拡大運営会議を招集する。

3 拡大運営会議は普通各号、図書館長、地域連携アカデミアセンター長、情報・メディア教育センター長、技術支援及び専攻主任をもって組織する。

4 前条第6号に定める事項のうち本科学験院に関することについては、運営会議（試験関係）とする。

5 前条第7号に定める事項については、運営会議（学年奨励金決定）とする。

6 前条第8号に定める事項のうち本科学験院に関することについては、運営会議（卒業判定）とする。

7 第4項から第6項については、第1項第1号から第7号、学生部長及び学務主任をもって組織する。

8 前条第9号に定める事項のうち本科学験院に関することについては、運営会議（特別指導関係）とし、第1項第1号、学生主宰、第5号から第7号、学生部長、学生主宰補佐及び専攻科長学生の学級主任・学級指導教員をもって組織する。

9 前条第6号、第8号、第9号に定める事項のうち専攻科に関することについては、それぞれ前条第6号については運営会議（専攻科試験関係）、第8号については運営会議（専攻科修了判定）、第9号については運営会議（専攻科特別指導関係）とする。

なお、運営会議（専攻科試験関係）及び運営会議（専攻科修了判定）については、第1項第1号から第7号及び学生主宰をもって組織し、運営会議（専攻科特別指導関係）については、第1項第1号、学生主宰、第4号、第6号、第7号、学生部長、学生主宰補佐及び専攻科長学生の専攻主任又は指導教員をもって組織する。

10 校長が必要と認められた場合は、その他の職員を出発させ意見を聴取することができる。（附則）

第5条 運営会議は、定例会を定め開催する。ただし、必要のある場合は臨時に開催することができる。（事務）

第6条 運営会議の事務は、總務課及び学生課において処理する。

附 則

この規則は、平成17年12月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年11月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

東京工業高等専門学校事務組織及び分掌規則

制 定 昭和48年4月1日  
 最終改正 平成19年4月1日

第1章 総則  
 (趣旨)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則(平成16年4月1日制定)第5条及び東京工業高等専門学校規則(昭和40年4月1日制定)第10条に定めらるるもののほか、東京工業高等専門学校事務部の組織及び分掌を定めることを目的とする。

第2章 事務組織

第2条 事務部に総務課及び学生課を置く。  
 (略)

第3条 総務課の事務を分掌させるため、総務係、人事労務係、企画係、研究協力係、財務係、用務係及び施設係を置く。

第4条 学生課の事務を分掌させるため、教務係、学生支援係、学生生活係及び図書情報係並びに貸附庫を置く。  
 (略)

第3章 職務

第5条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受けて本校事務部の事務を処理する。

(略)

第6条 総務課及び学生課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受けその課を監督し、その運営に従事する。

(課長補位)

第7条 総務課及び学生課に課長補位を置く。

2 課長補位は、課長を補佐し、その課の事務を整理する。

(略)

第8条 事務部の各係に係長を置く。

2 係長は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

(主任)

第9条 事務部の各係に主任を置くことができる。

2 主任は、上司の命を受け該の事務を処理する。

第3章 所掌事務

第10条 総務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 事務部所掌事務の連絡調整に関すること。
- 二 学期その他の始期日の制定及び改定に関すること。
- 三 儀式及び他の係に属さない諸行事に関すること。
- 四 会費等に関すること。
- 五 渉外に関すること。
- 六 公文書類の授受及び送達に関すること。
- 七 公印(財務関係及び学生課の公印を除く。)の管理に関すること。
- 八 旅行命令等に関すること。
- 九 広報に関すること。
- 十 情報公開及び個人情報保護に関すること。
- 十一 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- 十二 その他他の係の所掌に属さない事務に関すること。
- 2 人事労務係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 教職員の任免、職務及び賞罰等に関すること。
  - 二 教職員の給与に関すること。
  - 三 教職員の定員及び個別定数に関すること。
  - 四 労働時間及び休暇等に関すること。
  - 五 教職員の人事考課に関すること。
  - 六 教職員の研修に関すること。
  - 七 教職員の労働災害に関すること。
  - 八 教職員の退職手当てに関すること。
  - 九 教職員の人事記録に関すること。
  - 十 教職員の栄典に関すること。
  - 十一 教職員の安全衛生及び福利厚生に関すること。
  - 十二 非常勤教職員の任免、職務及び給与に関すること。
  - 十三 労使協定に関すること。
  - 十四 共済組合に関すること。
  - 十五 雇用保険に関すること。
  - 十六 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 十七 その他的人事に関すること。
- 3 企画係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 将来構想等に関すること。
  - 二 自己点検・評価に関すること。
  - 三 外部評価及び審査に関すること。
  - 四 外国との学術交流等に関すること。
  - 五 文部科学省等が行う教育研究支援事業に関すること。
  - 六 内地研修員及び在外研究員に関すること。
  - 七 公開講座、学校開放及び生涯学習等に関すること。

(出典 東京工業高等専門学校規定)



- 八 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- 九 その他企画に関すること。
- 4 研究協力係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 学術研究助成金に関すること。
  - 二 民間等との共同研究、委託研究及び受託試験の契約に関すること。
  - 三 四 帝財金の受け入れに関すること。
  - 五 知的財産に関すること。
  - 六 産学官連携に関すること。
  - 七 地域連携テクナクセンターの事務に関すること。
  - 八 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 九 その他研究能力に関すること。
- 5 財務係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 予算管理及び決算に関すること。
  - 二 財務関係規程等に関すること。
  - 三 会計簿記の公印の管理に関すること。
  - 四 監査に関すること。
  - 五 不動産に関すること。
  - 六 借入金及び支出に関すること。
  - 七 預り金及び有価証券に関すること。
  - 八 収入及び支出に関すること。
  - 九 預り金及び有価証券に関すること。
  - 十 給与、旅費及び借金の支払決済に関すること。
  - 十一 貸付、貯蓄及び住民優待の徴収に関すること。
  - 十二 所得税及び住民優待の徴収に関すること。
  - 十三 共済組合会金の徴収に関すること。
  - 十四 計算証明に関すること。
  - 十五 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 十六 その他他の係の所掌に属さない財務関係事務に関すること。
- 6 用度係においては、次の事務をつかさどる。
  - 一 物品管理の策定調整に関すること。
  - 二 物件（図書資料を含む）の契約及び支払決済に関すること。
  - 三 物品の調達、出荷、保管及び処分に関すること。
  - 四 物品の修理及び後援に関すること。
  - 五 電気、水道、ガス及び電話の料金に関すること。
  - 六 構内整備及び運搬等の清掃に関すること。
  - 七 自動車の維持管理及び運行に関すること。
  - 八 所掌事務に係る調査統計その他の報告に関すること。

(出典 東京工業高等専門学校規定)

資料11-1-②-2

- 3 学生生活係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 寄宿舎の管理運営に関すること。
  - 二 寄宿舎の諸経費に係る経理に関すること。
  - 三 入寮及び退寮に関すること。
  - 四 寮生の厚生指導に関すること。
  - 五 外国人留学生に関すること。
  - 六 教員の宿日歴に関すること。
  - 七 国際学生交流事業に関すること。
  - 八 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 九 その他寄宿舎に関すること。
- 4 図書情報係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 図書館の管理運営に関すること。
  - 二 図書の分類及び整理等に関すること。
  - 三 図書の閲覧及び貸出等に関すること。
  - 四 文庫の相互利用及び複製等に関すること。
  - 五 研究報告に関すること。
  - 六 著作権に関すること。
  - 七 情報・メディア教育センターの事務に関すること。
  - 八 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
  - 九 その他図書情報に関すること。
- 5 技術系の組織及び業務等は別に定める。
- 附 則
- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
  - 2 東京工業高等専門学校事務組織及び分掌規則（昭和48年4月1日施行）は廃止する。

- 5 -

(出典 東京工業高等専門学校規定)

観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

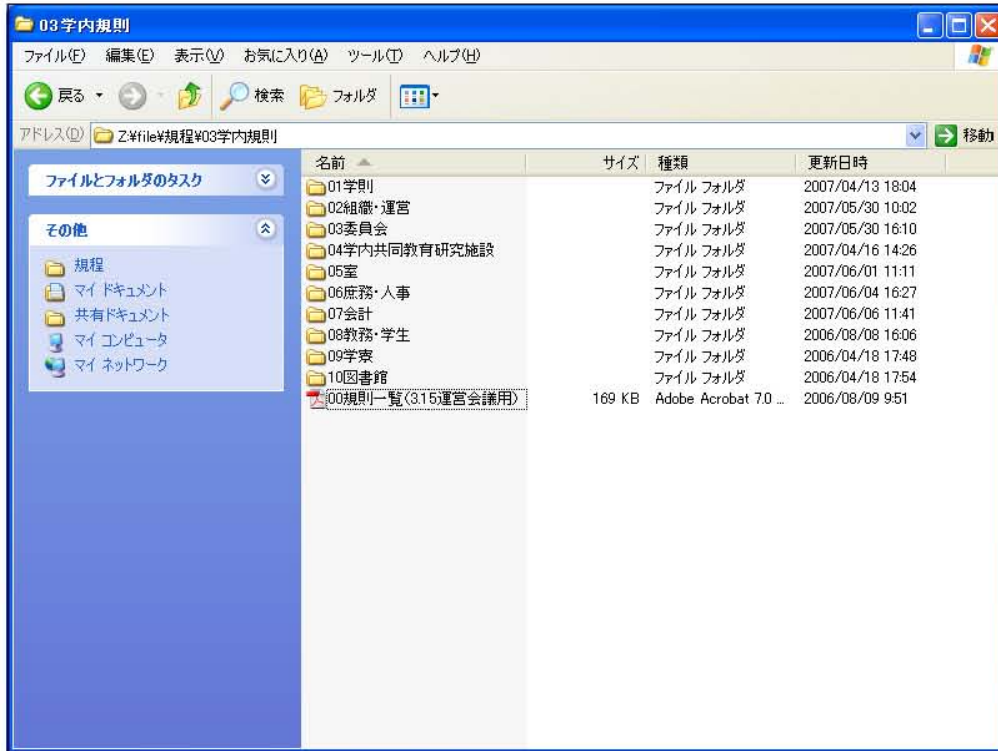
(観点に係る状況)

管理運営の諸規定は定められており（前掲の資料11-1-②-1、11-1-②-2）、また、規則集として整備され（資料11-1-③-1）、教職員が閲覧できる共有フォルダーに掲載されている。

(分析結果とその根拠理由)

管理運営の諸規定は適切に定められており、規則集として整備されている。以上により、管理運営の諸規定が整備されている。

資料1 1-1-③-1



2007/5/18

東京工業高等専門学校規則一覧 (平成19年4月1日付対応：学則及び事務分限規則の整理に基づくもの)  
(注) 改正が行われる可能性があるもの

| No. | 規則名                | 改正 | 備考 |
|-----|--------------------|----|----|
| 1   | 学則                 | 改  |    |
| 2   | 組織・運営              | 改  |    |
| 3   | 01 内部組織運営規則        | 改  |    |
| 4   | 02 内部執行会議規則        | 改  |    |
| 5   | 03 運営委員会規則         | 改  |    |
| 6   | 04 運営研究委員会規則       | 改  |    |
| 7   | 05 学務委員会規則         | 改  |    |
| 8   | 06 学務連絡及び分室規則      | 改  |    |
| 9   | 07 技術連絡会議規則        | 改  |    |
| 10  | 08 学生生活規則          | 改  |    |
| 11  | 09 学生生活委員会規則       | 改  |    |
| 12  | 10 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 13  | 11 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 14  | 12 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 15  | 13 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 16  | 14 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 17  | 15 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 18  | 16 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 19  | 17 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 20  | 18 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 21  | 19 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 22  | 20 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 23  | 21 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 24  | 22 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 25  | 23 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 26  | 24 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 27  | 25 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 28  | 26 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 29  | 27 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 30  | 28 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 31  | 29 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 32  | 30 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 33  | 31 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 34  | 32 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 35  | 33 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 36  | 34 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 37  | 35 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 38  | 36 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 39  | 37 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 40  | 38 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 41  | 39 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 42  | 40 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 43  | 41 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 44  | 42 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 45  | 43 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 46  | 44 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 47  | 45 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 48  | 46 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 49  | 47 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 50  | 48 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 51  | 49 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 52  | 50 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 53  | 51 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 54  | 52 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 55  | 53 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 56  | 54 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 57  | 55 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 58  | 56 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 59  | 57 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 60  | 58 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 61  | 59 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 62  | 60 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 63  | 61 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 64  | 62 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 65  | 63 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 66  | 64 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 67  | 65 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 68  | 66 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 69  | 67 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 70  | 68 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 71  | 69 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 72  | 70 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 73  | 71 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 74  | 72 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 75  | 73 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 76  | 74 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 77  | 75 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 78  | 76 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 79  | 77 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 80  | 78 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 81  | 79 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 82  | 80 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 83  | 81 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 84  | 82 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 85  | 83 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 86  | 84 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 87  | 85 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 88  | 86 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 89  | 87 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 90  | 88 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 91  | 89 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 92  | 90 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 93  | 91 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 94  | 92 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 95  | 93 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 96  | 94 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 97  | 95 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 98  | 96 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 99  | 97 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 100 | 98 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 101 | 99 学生生活委員会分室規則     | 改  |    |
| 102 | 100 学生生活委員会分室規則    | 改  |    |
| 103 | 01 学則              | 改  |    |
| 104 | 02 組織・運営           | 改  |    |
| 105 | 03 委員会             | 改  |    |
| 106 | 04 学内共同教育研究施設      | 改  |    |
| 107 | 05 室               | 改  |    |
| 108 | 06 庶務・人事           | 改  |    |
| 109 | 07 会計              | 改  |    |
| 110 | 08 教務・学生           | 改  |    |
| 111 | 09 学表              | 改  |    |
| 112 | 10 図書館             | 改  |    |
| 113 | 00 規則一覧(3.15)運営会議用 | 改  |    |

(出典 東京工業高等専門学校規則集)

| No. | 規 則 名                | 改正 | なし | 備考 |
|-----|----------------------|----|----|----|
| 19  | ハラシメントの防止に関する規則      | 改  |    |    |
| 20  | 身元保証書送達事項            | 改  |    |    |
| 21  | 学具研究費受入取項            | 改  |    |    |
| 22  | 自家用自動車等の無断使用に関する取扱い項 | 改  |    |    |
| 23  | 学具貸借規則               | 改  |    |    |
| 24  | 会計基本規則               | 改  |    |    |
| 25  | 不動産管理規則              | 改  |    |    |
| 26  | 自動車運行管理規則            | 改  |    |    |
| 27  | 物品の盗難・人防止に関する取扱い項    | 改  |    |    |
| 28  | 出納員の任免等に関する規則        | 改  |    |    |
| 29  | 活動及び建物施設取項           | 改  |    |    |
| 30  | 入退校等の調整に関する取扱い項      | 改  |    |    |
| 31  | 科外研究費補助金経費取扱い取項      | 改  |    |    |
| 32  | 金庫保守規則               | 改  |    |    |
| 33  | 懲罰規則                 | 改  |    |    |
| 34  | 校舎管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 35  | 物品管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 36  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 37  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 38  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 39  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 40  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 41  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 42  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 43  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 44  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 45  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 46  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 47  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 48  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 49  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 50  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 51  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 52  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 53  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 54  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 55  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 56  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 57  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 58  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 59  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 60  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 61  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 62  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 63  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 64  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 65  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 66  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 67  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 68  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 69  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 70  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 71  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 72  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 73  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 74  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 75  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 76  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 77  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 78  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 79  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 80  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 81  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 82  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 83  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 84  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 85  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 86  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 87  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 88  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 89  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 90  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 91  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 92  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 93  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 94  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 95  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 96  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 97  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 98  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 99  | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 100 | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 101 | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 102 | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 103 | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 104 | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 105 | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 106 | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 107 | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |
| 108 | 学具管理費取扱い取項           | 改  |    |    |

| No. | 規 則 名         | 改正 | なし | 備考 |
|-----|---------------|----|----|----|
| 1   | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 2   | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 3   | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 4   | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 5   | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 6   | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 7   | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 8   | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 9   | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 10  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 11  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 12  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 13  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 14  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 15  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 16  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 17  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 18  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 19  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 20  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 21  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 22  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 23  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 24  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 25  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 26  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 27  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 28  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |
| 29  | JABE専門委員会運営内規 | 改  |    |    |

(出典 東京工業高等専門学校規則集)

**観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、参与会において、外部有識者の意見を伺い、適切な形で管理運営に反映させている(資料11-2-①-1)。その他、技術懇談会、企業アンケート、保護者会などによって外部有識者の意見を聴取し、自己点検・評価報告書に記載されているように管理運営に反映されている(資料11-2-①-2)。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、参与会において、外部有識者の意見を伺うほか、技術懇談会、企業アンケート、保護者会などによって外部有識者の意見を聴取し、自己点検・評価報告書に記載されているように管理運営に反映されている。

以上により、外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されている。



も2回全国大会に出場したのに対して、ロボコンセミ活動以後では5回のうち4回全国大会に出場しています)

7. プレゼンテーション能力
Q14: 学生の「入前の夏や閉門」の開催は低学年から重視と思う。貴校では学生が社会人や地域の人、小中高生、学科外の学生、学会や論議会で話す機会などへの対応はどうか。このような対応がカリキュラムに反映しているか。

A14: 優れたプレゼンテーション能力を備えた技術者を育成することは本校の教育目標の一つに上げられています。
そのため次のような機会を定めています。
本 科: 卒業研究の中間発表会、最終発表会の実施
学科によっては、課題研究の発表会を実施
夏期講習(インターンシップ)の報告会の実施
公開講座における説明担当
専攻科: 特別研究の中間発表会、最終発表会の実施
特別実習(インターンシップ)の報告会
専攻科として学会発表を奨励しており、毎年延べ200名が学会発表を経験

この開催の場として、大学学部生及び院生も含めた専門学会の発表会において優れた評価を頂き、また、八王子市産学公連携事業におけるスピーチコンテストや発表会でも毎年のように優秀賞を頂くなど顕著な成果が表れております。

8. 人間関係
Q15: 最近の学生は一般に良好な人間関係や親しい友人を作りにくいこともあると聞くが、高専5年次の卒業で学科を越えた友人の形成はどうか。寮生などではどうか。学科を越えた同輩生のつながりは社会に出てから大切と思う。くくり入試での効果はどうか。

A15: くくり入試での合格者は、学科毎に課による宗学科連合の学級編成に依っています。入学当初に研修旅行があり、学級が単位となり、学年単位となりますが1年生で同クラスであったことは正にその学級編成は、2年生からになりますが1年生で同クラスであったことは将来的にも学科を越えた友人の形成に役立つものと確信しております。
また、学科、学年を越えるものとしては課外活動があり、5割程度の学生はクラブに所属しています。
寮生は、全学年を対象としたスポーツ大会、寮まわりの情報などを通して交流の機会があり、又、学年毎の集い、指輪が行われていますので、積極的な交流の機会があります。過去に、上級生から下級生への過度の指導などの問題もあり、現状では学年横断的な交流を中心に運営しています。今後の課題として、積極的な交流機会を盛り入れた寮運営について、検討を始めているところで。
専攻科では、「学際性」を大きな教育方針の一つに掲げ、横断的な分野(専門共通科目)を多く修習することが可能になっています。専攻科単位(4.0単位以上)、専門科目(8単位以上)、専門共通科目(1.4単位以上)、専門科目(4.0単位以上)が修了要件に満たない場合は、また、専門科目においても8単位まで出願方式の科目の修習を認めています。

題を見たりするような指導をするTA制度についてはどうか。
A11: 効果的とされている方法として、教育後援会からも推奨されています。高専は単位の制ではないために、正規の授業時間中に在学生のTAを任用するのは、TA候補の学生は体育生及び専攻科生が空き時間ほとんどないために、現状ではなかなか実現困難です。夏期集中講義の実現あるいは授業時間内に限らずに自習できる環境を整備して、学生のTAについて実現できる可能性を探りたいと考えています。大学と同様な単位・時間換算が60単位まで認められるようになったことも、実現の可能性を高める方向にあると考えています。

Q12: 自習時間30分は学生が暗黙的なゆとりが少ないためか、また自習の仕方が分からない学生がいると他の学校で聞くが、如何か。
A12: 高専の伝統に由来していると思います。高専は大学と比べて、従来から、同じ単位数に対して授業時間数も多く設定されており、学校の授業で学習を終わらせ、課外活動などで人間力を高めることが推奨されてきました。目的意識が高い学生が多く入学していたころに比べると、現在では、学生の志願が大きく変わり、又中学校で習う基礎も少なくなっています。学生の進路意識を高める方向が現在の最重要事項と認識しています。くくり入試と2年次学科所属は、1年生にとっても良い帰路になりました。4.5年生はインターンシップや研究開発、卒業研究でそれなりの動機付けになっています。問題は、2.3年生の中だるま現象に対する指導方針の策定にあると考えています。例えば、3年生には一般科目担当教員を含めて課題研究を企画すること、2あるいは3年生に、個人のパソコンを持たせ、学内のe-Learning環境を整備して、資料検索を導く宿題等により自習学習が促すようにするなど、を検討したいと考えています。

Q13: サークル活動でロボットを作ったり、競技参加の作品製作などで、製作や練習のスペースや指導される職員がいまいちとよく聞くが、貴校はどうか。
A13: 本校では2001年度より高専コンテスト指導委員会が規定されており、この委員会にはロボコングループ(担当教員4、支援職員2および技術職員2)とプロコングループ(担当教員3)に分かれており、それぞれ、7エリア対応、全国高専専門学校ロボットコンテストを目標とするグループ(ロボコンセミ)および「全国高専専門学校ロボティクスコンテスト」を目標とするグループ(SFC)を指導しております。全国大会出場に向けた学生の熱い思いを生かしながら、学生による技術開発、技術修習、技術伝承および環境整備能力の向上を目指して指導しております。

これらの活動の成果は正副校長へのモチベーションや課題に反映されており、又ロボコンではこれまでの技術をWebで公開し、学内向けWebサイトに蓄積しています。活動場所として、ロボコンでは教務課・制御研究室が管理され、又、技術職員の安全指導を受けた学生は、実習工場加工機が使用できます。シームレスには製作場所としてオープンスペースの活用、また競技練習場所として6年次の一つのホールームラームを長期にわたって使えるようになっています。プロコンにおいても、共用スペースを確保できるようになっています。プロコンに対しては、卒業生や5年生なども支援にあたっています。2002年度にはプロコンSFCが競技部門で全国優勝しました。2006年度にはロボコンセミが5年間にわたる技術部門のことで、地区大会優勝、全国大会優勝・ロボコン大賞を受賞しています。(ロボコンセミ活動以前は現在と同じ地区方式10回)



います。このことから利るように、専攻の項を他専攻の学生と一緒にこなす  
授業が、全授業科目の1/3以上と広範であり、専攻の項を他専攻の友人形成が実現  
に行われています。

Q16: 進級に伴う学生とクラス、教員との関係はどうか、4年から研究室に配  
属になるのか、卒業生の学生には研究が大きな役割と影響力を持つことになったと思  
うが、研究期間の交流などによる視野や視野への関心の拡大への取り組はどうか。  
A16: 1年生は学科型通期の総合クラス、2年生から5年生までは学科単位のクラス編成とな  
っています。1年生から2年生に進級する時、学生は新しいクラス編成になります。  
それ以降は同じクラスメイトと過ごします。

担任教員は1年生から3年生まで、ほぼ毎年変わり、一般科目担任教員が学科分  
属して授業を担当することもあります。3年生までは週に1回のホームルームが  
あります。教員が同一学級を担っており担当するシステムをとっていません。専攻として  
は、学生指導方針にたいして、若い学生に接する機会があること、引き継ぎに任せる問題で、学生  
の異動記録が体系的に蓄積できにくいことなどがあり、学科長のリーダーシップの基に、  
学科毎にこれらの実習を無くす検討を始めています。4年生と5年生は通期指導の継続  
性のこともあり、学級指導教員(4・5年生の担任教員)は継続担当する割合が多くあ  
ります。

研究室への配属は5年生になるときですが、それ以前にプレ本研を課している学科で  
は、4年生の半ばで研究配属になる場合もあります。  
卒業途中研究家は、他学科の専攻生も参加しているので、お互いの研究室でどのよ  
うなことを研究しているか知ることができます。また1つの研究室を複数教員が担当す  
る総合型研究室運営が行われている学科もあります。  
学生の就職は、総合学級の1年生については教務主任が、学科編成後の2から6年生  
については学科長が行います。  
専攻科の各専攻は、基本的に履修・履修の分野を担当するようにしており、異分  
野への関心・理解を得ることを教育目標としています。

9. 学生の個人経験  
Q17: 15歳から20歳、専攻科では20歳までの若者のアインシュタインの期間を  
高専で過ごし、この期間に人間形成に大きくかわるようになる。本学期には入学生時  
は性格、考え方、進路も大きく変わることもあろう。このように考えると、学生の異動  
記録はクラス単位ではなく各自のポートフォリオが必要となるが、これに対する取組  
みは如何か。  
A17: 本校では、個々の学生の成績異動記録の他に、パーソナルポートフォリオを担当する  
ものとして「原加記録」があります。これらは、特別加録指導、生活支援あるいはメ  
ンタル・ヘルスクラスを要する学生に事前指導に役立っています。  
「原加記録」は学生毎に異動記録で形成されており、異動記録、進路、授業・学校行事へ  
の出席、行動、性格、クラブ・サークル活動状況、学級担任状況などを、入学時から5  
年生までの5年間を一貫して記録しています。  
学級担任は、当該学生のメンタルケアや成長を支援し、本学期の担任に申し  
送ることとしています。また、「原加記録」に記録できない特別な内容については、担

任の引継ぎも、口頭等で伝えることとしており、各学生の入学時から記録を学級担  
任がクラス単位に活かせるシステムが出来ています。しかし、学級担任によって、「異  
動記録」の記録内容にバラつきや差があるのも事実であり、また、「インターンシッ  
プ」での「異動記録(研究内訳)」、「プレゼン能力」、「実習能力」(TOEICスコア)と  
いった本校専攻教育の特色的な項目に関する記録は未だカバーされていないのが実状  
です。

個々の学生を多面的、重層的にとらえて、人間の形成にかかわる、成長、発達、学習、  
適応、達成等を総合的に記録するという点では、改善の余地を残しており、今後の課  
題となります。また、「原加記録」を異動記録から電子媒体保存に移行して、学内のグル  
ープウェアにファイリングして、指導に当たる教員が情報を共有できるようにするこ  
とも課題のひとつです。

1年生から3年生の低学年と、4・5年生の高学年では身体的・精神的発達速度が異  
なるとは異なり、また、最近入学してくる学生の学力力は地大傾向にあり、結果として  
学習到達度に大きなバラつきがみられ、ひとりひとりの学生の能力や個性に応じた、き  
め細かい指導を行う点からも、ポートフォリオの活用が今後には更に大きくなるものと考  
えられます。

専攻科においては、自学自習を促すとする大学生と同様に考えられています。  
1. 研究と人間関係の記録  
少人数教育のメリットから専攻科生の指導は、特別研究(16単位)の指導  
教員が研究活動及び人間形成に大きな役割を担っています。  
指導教員は、個別に特別研究指導記録を作成しており、本人の研究活動等  
に関する記録を作成しています。これが本専攻の原加記録の役目としており  
ます。

2. 学校改革の記録  
専攻科の専攻は、技術者教育プログラムとして「創成型工学教育プログラム」  
を行っています。(本科4・5年生及び専攻科1・2年生対象・大学相当学年)  
修得した科目について、学生本人が学習・教育目標に照らして「達成した目標  
となる修得科目」及び「その他の達成した目標」についてを記入する達成度課  
録表(ポートフォリオ)を作成し、専攻主任に確認を受ける方式となっていま  
す。

10. カウンセリング  
Q18: カウンセラーや精神健康教育や学生相談室の活動はどうか。  
A18: 本校の学生会館の内部にメンタルケアを担当する学生相談室とヘルプデスクを担当する  
保健室が併設されています。相談室は校長直轄とし、教員の専任がコーディネーターと  
なり、非常勤のカウンセラー(臨床心理士)3名が毎日(月から金曜日まで)交代で学  
生・保護者・教員の相談にあたり、相談室には相談室、相談室、相談室があ  
り、面談では個別相談を行い、電話では、24時間として相談室のあるなしに保  
別相談だけでなく、新入生委員、新入生委員や留學生委員に対する面談も実施し、学  
生生活のケア全般に幅広く対応しています。またカウンセラーは学内職員研究会、学  
科や教員会の保護者懇談会等でのメンタルヘルスの講話会・講話会など相談室外での啓

業的な活動も行っていきます。相談室には、室長以外の教員の担当は誰か、各教員の担当のフェイズワーでは、各教員が個別の学習支援を行うほか、学生相談室と相互に緊密な連携を取りながら、学生達の相談ごとに対応しています。  
保護者では専任指導員が健康課題に対応し、学内の精神健康教育の向上に向けて学生相談室と一体的な運営を行っています。  
文、カウんセラー、看護部は北大各学部各専攻とのカウんセラー相互の交流会にも積極的に参加し、情報交換の実を挙げようとしています。

11. 学生の授業評価アンケート
- Q19：理解している・していないという言葉を別の言葉に置き換えると、学生が自信を持っているか、いいゆかという言葉に置き換えても良いのではないかと。  
A19：試験の要点をクリアしていることが、人に説明できるほどに理解していることに通じるかは別話とします。学生に自信と誇りを持たせるための目標設定、授業アンケートの項目設定、学生指導のあり方について、継続的に検討していく所存です。
- Q20：北大で自信力と自己学習時間との相関関係を分析したグラフを公表しているが、それを見ると学習時間と自信力はほぼ対応している。自信をしているかどうかだが、理解度と関係してくるのではないかと感じている。学生の授業評価アンケートに任意に記述させる項目を設けることも意味があると思うが、ゆがみ。  
A20：従来まではマークシート1枚で実施しておりましたが、今年からは記述式の用紙も追加して実施しています。課題の把握と解決の方策を探るために、自由記述欄はあった方がよいと考えられています。

- Q21：JAIRE 変換の観点で言うと、シラバス通りに授業が行われているか聞かれているが、この授業アンケートにその項目がないように思われるが、ゆがみ。  
A21：アンケートの質問を決めた時期が JAIRE 受審再審のためのシラバス作成前であり、そのままだと正誤に正っています。今後項目の追加・変更について検討の予定です。
- Q22：ものづくりに興味をもって入学している学生が多いので、実験・実習に意欲的に取り組んでいるので、ゆがみ。意欲的ではない学生がいて、ゆがみ。客観的に良い評価が得られる学生を送り出さなければならぬということも日々努力しているところだ。  
A22：先生方は授業の中できめ細かく指摘してありますが、客観的に良い評価が得られる学生を送り出さなければならぬということも日々努力しているところだ。

- Q23：授業アンケートに関して評価基準の「普通」は一般的には「やや悪い」となる見方が多いが、ここでは「普通」をどのようにしているのか。  
A23：評価基準を「良」とし、「普通」については「物に取って意見はない」ことの意味表示の項目として設定してあります。このような立場の学生（あるいはその項目については疑問的な学生）も多く、客観的には捉えていませんが、「やや悪い」と「やや悪い」のどちらかを評価すると、かえって真意と違った回答になることがあると考えられています。

12. 専攻科の進捗状況等
- Q24：これまでの専攻科への入学生数は今期（第1期生）の終了まで本校本科以外から入学した学生はどのくらいいるか  
A24：1期生は本校以外から入学した学生が8名、2期生は6名、3期生は2名です。平成18年度専攻科入学者選抜（4期入学者予定者）も終了しており、合格者33名のうち他専攻から2名合格しております。

- Q25：就職先の説明でベンチャー企業を立ち上げている者がいるということであるが、もう少し詳しく説明を頂きたい。  
A25：本科でプログラムミングなどを立ち上げた学生です。プログラムミングの分野では企業もベンチャーを立ち上げた者もおり、そういった道も本科にいるから伸びているというだけで、卒業後は、なるべく空き時間のある大学を希望して編入したそうです。その後、本人とその友人である本校の卒業生も名が中心となって起業に成功し、内容は詳しくは学際関係の研究所のプログラムミング関係を行っているようで、現在進学先の大学院の中で活動しているようです。

- Q26：先ほど専攻科の卒業合格者は33名であり、昨年度までの減少傾向が増加に転じたように感じられるように感じているか。  
A26：本校の専攻科が本科の学生に理解され始めてきたようです。これまでの入学者は必ずしも成績上位者ではなかったのですが、来年度の入学予定者については成績上位者を十分確保することができました。

- Q27：高専の専攻科は大学4年生と同等である、高専5年卒業で専攻科は完了していると考えられているのか、専攻科2年間とそれまでの5年間ほどのような「連続と切り離し」になっ  
ていないのか。  
A27：あくまでも本科5年一貫教育が本校の基本方針です。現段階で専攻科が本科と教育方針が異なる教育目的を達成するために各専攻科ごとの教育目標と教育方針を策定し、教育課程・カリキュラム・シラバスを策定している。近隣の先進的中小企業や卒業生などから、高専力を強化すること以外には特に問題はなく、本科卒業生がより多く他企業企業に就職するように、教員の中企業研究、就職指導が望まれています。

- 本科は、工業系企業分野の機械分野、電気分野、電子分野、情報分野及び物質分野（材料情報と情報）の5年層からの技術者教育を担当しています。例えば、平成16年度本科卒業生に対して求人倍率が3.2倍という高い就職率を求めています。本科の教育課程が実務的な技術者養成教育として社会から認められているものと確信しています。  
専攻科は、複合・複合領域として、機械制御・情報分野、電気・電子分野、物質分野の技術者教育を担当しています。専攻科の入学定員は本科の1割であり、しかも本校の本科卒業生だけでなく、他高専も含めた高専卒業生（社会人を含め）を入学対象としており、本科卒業生のための学が選抜はせずに一般公募者と同じ学力が条件による選抜を行っています。学校側では意図的に「連続あるいは切り離し」の分類を採らず学生の志望に任せています。

完成教育という用語は、使おうとすれば教員が教育を行なう最終段階の大学院後期博士課程教育に使うべきと考えます。本科卒業は生涯継続教育の一つの通過と考えたいです。本校の本科の教育目標は、技術者生涯継続学習の観点から完成教育というは必ずしも妥当とは考えられません。

13. 進学進路事業等

Q28: インターシップについて本校と専攻科で学生を対象に実施しているようだが、地元企業との連携、例えは共同研究などももう少し推進しても良いのではなか。 A28: インターシップにつきましては本校前以て実施しておりまして、従来のカリキュラムでは単位的な卒業要件のみでしたが、現在のカリキュラムでは卒業要件とともに単位的な卒業要件も、理事會組織で運営されている。) に入られていており、毎年プログラムをお互いに調整しながら実施しています。それから本校の地産地消プロジェクトでは受託研修依頼のある八王子市の企業を中心に、現在41社との間で技術協議会を開催して、企業との協力を得ながらさらに地域との連携を進めて行きたいと考えています。

Q29: 各課協議について、外部への公開方法また企業からどのように依頼したらいいのかわかっていますか。

A29: 基本的に本校の教員にも直接依頼して頂ければ対応いたします。実際には本校と近隣企業の有志の集まりである技術協議会の会員になられておられる企業からの依頼がほとんどです。ですから技術協議会の会員企業でないと少し解り難いと思います。庶務課にご連絡頂ければ担当教員へ繋がるようにはなっておりますが、技術協議会の会員の企業から申し込まれるというご意見もありませんので、依頼方法については早急にご改善したいと考えておりますし、依頼についてもできる限り受けさせていただきます。

14. 同窓会

Q30: 高専創立40年たつて、OB、OGたちの母校に対する愛着や貢献はどうか、同窓会と母校のつながりは進んでいるか、卒業生にシニアボランティア活動などを依頼するなどの計画はあるのか。

A30: ほとんど創立40周年記念行事に団体で行ったために、当初から教育後援会を在学生の体業者が組織運営しており、現在に至っています。又、卒業生の多くは、大学に入学するため、母校の概念として最終学歴の大学を意識する卒業生も多いためです。同窓会と母校とのつながりは、卒業生の恩恵・先輩後輩とのつながりが中心で、学校としてのつながりは少なく、4年に1度開催される同窓会に在職教員が任意参加しているのが現状です。現在、創立60周年記念事業の構想を立てて教育後援会の運営・管理していることもあり、在職のOB教員が中心となつて教育後援会と同窓会の連携について具体的な取組を始めたところですが、シニア(注)ではあります。ボランティア活動が行われている奨励はあります。情報分野で在校生に起業協議を推進するために情報工学科の教員と卒業生が中心となつて創学館プロジェクト(FOB 輪)を立ち上げ活動中です。

導入教育・地元教育のためのTAとして専攻科学生の他近隣の大学等に導入した認定生などを採用することを予算措置を含めて検討したいと考えています。

現在は、進路指導ボランティアセンター、学科協議会の講師としてOB、OGを依頼しているのが現状です。

第1期が2010年には60才を超えても、現職経験等を活かした本格的なシニアボランティア活動に打ち込める年齢層が誕生すると考えております。

(注) 本校では非常勤講師に年齢制限を設けています。本校の定年の定年は68歳です。非常勤講師は年休無し、薪給が63歳までとなっています。又本校を退任した教員は非常勤講師に任用できません。シニアはこれとの関係で考えています。

15. 教員の教育研究活動の自己申告及び教員人事

Q31: 自己申告は企業でも実施しているが、活用するに当たって難しいのは自己申告タイプや独立したタイプなど一人一人の性格によって自己評価にバイアスがあり、その他の層や総合して自己申告の内容を調う必要があることをコメントしたい。

A31: 項目設定は高専職階で実施している教員研修を軸形にして、本校独自の教育研究活動に関する項目を追加した形になっております。ご指摘頂いたことについてはこれから検討課題として行きたいと思っております。

Q32: 現在、小、中、高等学校では自己申告教員評価の実施を進めており、校長は必ず教諭との面談を年に3回程度実施している。さらに授業観察も各学期1回程度実施している。こういったさまざまな観点を取り入れながら、慎重に進める必要があると考えます。

A32: 授業の教員相互評価を今後実施していきたいと思っております。現段階ではまだ制度的な評価が整っておりませんので、これから検討して行きたいと思っております。

Q33: 自己申告の対象は技術職員も含まれているか

A33: 対象にはなっておりませんが、技術職員は教員職ではありませんので、今回は対象から外しておりますが、今後は教育職員、事務職員、教育支援職員の3本の柱で学校運営していくなかで、技術職員に対する評価の方法についても考えて行く必要があると考えています。

Q34: 自己申告はあくまで自己申告なので、評価、昇格、給与に使う場合、それを評価する仕度も必要になるかと思う。感想としては、自分のグラフを見るのが平均よりも下の方に山があるように、疑問を見るのがかなり具体的な項目があつて、なおかつ項目が低いというのにはハーバードが低いのではないかと思う。もう少しハードルを下げないとなかなか教員は取れないのではないか。

A34: 今後の検討課題とさせていただきます。

Q35: 教員の人事はとてども重要課題であると言われます。選考委員会(名称は不明)の委員の構成はどうなっているのか、採用分科の専門の教員はどうか。このとき、人材の採用資格について学校独自の選定標準、共通資格、レベルのようなものはあるのか。

A35: 本校では、教員人事は人事委員会(校長、副校長、主事及び事務部長の計7名で構成)

II-2 参与からの発言・助言等

- 1: 資料11-4 (3) の中で「試験・実習」への意識について、意欲のある学生が70%といふことで改めてすごいと感じている。地域との連携から言うと、知識や学力は当然重要だが、それにもまともに現れていない企業を必要としている企業が多くなり、そういう意味でもこの部分に非常に力強く感じているし、是非意欲のある学生を伸ばして欲しい。
- 2: 専攻科の学生も八王子の企業に就職しているようだが、さらに多くの学生がそういっただけに進んでいくことを希望する。
- 3: 私ども八王子市と協力して実施した地域産業の連携についてお礼も含めて話させて頂く。この地域産業は今年初めて実施した集中開催であり、8月29～31日の間の5日間開催した。関係にあり、正副校長並びに授業担当の他野先生に大変なお力添えを頂き改めて御礼申し上げる。具体的には八王子市の企業の中から5社の社長に特別客員教授になって頂き、学生に講義した。学生が会社を志望調査するという内容であった。企業の方から「希望する企業にもかわらなかつたのかな」というコメントがあった。企業側についてもあまり知られていないということ、是非紹介したいという部分と東京高専の人事課の部分がうまく連携して、興味を持ってもらうという大変な仕事であり、学生がなかなか中小企業には来ないという部分を事業主の方からもよく聞いてほしい。そういう意味で企業を取り組みを理解して頂くために、地域との連携を来年も継続してさらに深めて行って頂きたいと思う。
- 4: 地域に開かれた学校への取り組みを進めていくことがよく解った。中学校教員のバリエーション研修を実施しているように、バリエーション研修を実施して頂ければと思う。
- 5: ある大学では学生の要望を聞いてできるものについては実行するというような学校運営を実施していて、その結果、学生も組織の一員であるという意識を高めることができるものではないかという点を感じた。
- 6: 前述の点に照らして、学校として実施しているということ、それを実施するためのシステムが存在しているということの2つが現在学校に求められていることと思う。大学側・学生側と連携などでも関係の深まりを深めていくところを。今後いろいろの意見や評価を受けて、学校として改善に向けて動くためのシステムの構築が必要になってくると思う。
- 7: 卒業後30年の同窓生(1975年電子工学科)として、本校が変わった点と変わらないう点について話させて頂く。先ず変わらないう点としては前期からの通学宿、木目も通ってきたが当時のことを懐かしく思い出した。電子工学科のガリキョウラムを見ると科目名の8割程度は変わっていないように、技術は変わってないが、根本の原理原則は変わらないう点があった。変わった点としては、今日学校を案内して頂いた中で、校内ゴミ箱がなくさんあったり、(女子) トイレのドアに鍵の張り紙があったりと学生の質は変わったように、学生方も大変変わったところがあると思う。
- 8: これまでの説明で、校民以下教職員の方々の目標に向かってやりきろうという姿勢が強く伝わってきた。須になった点は後進生への時間1日30分ということ、中学生

その下に置かれる教育運営委員会(校長、専攻科長、教務主任、当該分野の学科長あるいは教務担当教員、当該分野に所属する教員、英語科教員(主に英語会話力確保のため)を含む計6名程度で構成)が担当しています。教員運営委員会、教員補正申請のあった条件に従って設置しています。人事委員会別冊、教員運営委員会別冊、公募制のガイドライン、新卒採用のガイドライン、面談室のガイドライン、教員運営委員会報告書のガイドラインを規定しています。

公募を原則とし、高専設置基準に示される教員の資格要件を満たすこと、他、専門・専攻科の教員(0手を含む)は専任教員と見做していることなどを基本要件としています。

Q36: 教員採用の人事運営委員会のメンバーには専門分野の異なる教員や学外の社会人などが大委員やオブザーバーで入るケースが増えているように思う。貴校の場合はどのようであるか、少なくとも学外からの社会人を1名加えて、必要に応じて意見を求めるようなシステムにしてはいいですか。

A36: 教員運営委員会には、委員とは別に学外の学識経験者1名を選定し、依頼します。委員会には常時出席を義務づけますが、教員運営システムの継続的な質向上のために、議題を設定して意見を求める方向で、現在試行中です。

1.6. 第三者評価

Q37: 学校組織の中でPDCAサイクルがどのように入力されているかについて伺いたい。

A37: 企画課でプラン(P)を立て、学科等で実施(D)し、自己評価協議委員会(高専・評価(C))し、校務執行会議・運営会議で改善・見直し(A)を行うことを基本としています。企画課で実施している授業アンケートの活用、学科長や担任が直接学生や保護者から意見を聞く機会(学科協議会や学級協議会)を設けるなどさまざまな形の取り組みを行っています。

Q38: 資料中の「16. JABEE 審査目標の「おしり」について一般公開しているか、学生側にも公開しているかについて伺いたい。

A38: 2年ほど前からWEBで公開しております。学生側にはJABEE 対象外の学生も含めて、1年生から5年生までの学生会生が対象ですのでJABEE 課題について公開はしておりませんが、専攻科の副学長及びシラバスには記載しております。

Q39: 学生側には他の学識経験者などにも認識があるところが多いと思うし、学生への開示の意図でも認識した方がいいのではないか。

A39: 高専の場合はJABEEの工学教育プログラムの対象とならない本科の1年生から3年生までの学生もおりますので、工学教育プログラムの教育目標と学校全体の教育目標がすべて一致している大学などとは少し事情が違うのではないかと思います。JABEEプログラムと学校全体の教育目標についての整合性について現在検討しているところですので、手帳やマニュアルとして、「しおしり」を作成して、副学長、副学長学生に配布しています。

資料 1 1 - 2 - ① - 1

は1日2時間位なのでそういう1つの点の集いについて興味深いデータであったと思う。自分の学校に戻っても参考にできる部分が出た。感謝したい。

中：高等の様子を知りたいも良くてやっと思ってるし、日本のものづくりを支えているという意識を強く持った。授業の準備については難しい質問もあるようだが、やはり日本の技術者教育の中核を担っていると思う。

10：教務主事からくり入社などの話を伺い、副校長には実践などを案内して頂いた。これからの技術者が突出したスキルを持つことも求められると思うが、技術がブランクがクローズ化しているようなことをある程度知らないでやっでいかないう状況にもなっている。基本的なことを体で理解していかないと、先ほど校長からの話にもあったように言体験したものを思い出して、新しい何かに応用してそれをまた新たな道具や道具に繋げるためには、化学、電気、機械関係によっては生物などもどこかで体験しておくことは一番重要ではないかと思う。私が現在取り組んでいるものづくりにおいては、異分野のことをなるべく早く体験することが良いことかと思う。今日は非常に心強く感じた。それを感じる技術職員の方々はなかなか大変であるかと思う。ただやはり学生は何か自分でやって得たという体験をすることがたくさんある。学校で教えられる授業などはほんのわずかで、本1冊を半年かかって教えるだけだし、あとは学生が自分で何かを掘り求め行く中で、演習を自主学習に置き換えることができる。学生に活用させたいと思う。因習やリスニングルーティンなども随分準備されていて、学生に活用させるためには初めに少し基本的な指導が必要だが、あとは学生自身が学んで行くというところが技術者教育に求められていると思うし、今日は東京高専がそれを実践していると感じた。先生方、事務職員の方々も相当に苦労されていると思うが、日本の技術を支えるところとしてそろそろ高専が躍り出てくると思うし、今日この話を聞いて非常に意を強くした。

- 14 -

(出典 参与会報告書)

(2)

- ・高等技術教育フォーラム'98（平報集）、1998年
- ・高等技術教育フォーラム'98（総合報告）、1998年
- ・平成7年度文部省主催高等専門学校教員研究会（第1回）
- ・平成7年度文部省主催高等専門学校教員研究会（第3回）
- ・平成7年度関東信越地区国立高等専門学校教員研究会
- ・平成7年度中部地区国立高等専門学校教員研究会
- ・平成7年度四国地区国立高等専門学校教員研究会
- ・平成8年度東北地区国立高等専門学校教員研究会
- ・平成8年度関東信越地区国立高等専門学校教員研究会
- ・大学設置法改正（平成3年2月8日）
- ・21世紀に向けての化学系工学教育（平成34年度教育改善プロジェクト）
- ・高等専門学校の特長と今後の教育体制に関する調査・研究（平成5年3月）
- ・高専に未来はあるか？（群馬高専創立25周年記念シンポジウム）
- ・高専の教育理念と我が国の技術者養成「シンポジウム報告」（平成7年10月）
- ・旭清評論による教育改善「シンポジウム報告」（平成9年3月）
- ・高等専門学校の現状と改革の方向（平成9年3月）

1 高専を取り巻く社会状況

- 1 経済のグローバル化、巨大経済圏による世界市場分割の激化に伴い、あらゆる産業が激しい国際競争の時代に入らつつある。
- 2 日本の経済力の発展・維持には、製造業部門の活性化と基業が特に求められている。
- 3 国際競争力を強化するため、有用な高等教育機関に対する過大な投資とその効果の性急な期待。
- 4 有用でない高等教育機関に対するリストラの基盤。（高専の差別化の可能性。）
- 5 国立大学、高専の民営化論。
- 6 学歴型社会・終身雇用制の崩壊の始まり。
- 7 大企業の生産基盤の外国輸出と国内産業の空洞化、構造変化。
- 8 技術者の国際基盤。
- 9 教育機関の上昇志向と多様化（大学院設置の増加・重点化、短大の4大学化、工業高校の専攻科設置、中高一貫教育校の設置、各種職業高校の創設など）。
- 10 低迷する経済、長引く不況による大規模リストラ。

2 企業、社会が高専卒業生に求めている資質

- 1 現場に腰を落ち着けじっくりと物を見て仕事の出来る技術者。
- 2 物造りの楽しさ、喜びを知っている技術者。
- 3 必要に応じて高度な専門知識も独学で調べ得る能力を持った技術者。
- 4 すぐプロとして通用できる卒業生。
- 5 能動的・自発的エンジニア（能動的に自分の知識・技術・技能を高めるために行動を起こす人、自分で考え加筆を出し得る人、旺盛なチャレンジ精神を持っている人。

(1)

資料-a

「どの様な学生を育てるか」を検討するための資料

一産業界からの高専への要請と期待—

1998.9.

将来構想検討委員会

あらゆる産業は激しい国際競争の時代に入らつつあり、それに伴っての大幅な産業・経済構造の変化、終身雇用制の崩壊と大規模なリストラ、そして学歴社会の見直しと教育機関の多様化など、社会のあらゆる所で根本的、本質的な見直しが必要とされているとされる。

どの教育機関においても、従来の教育方針・理念の再検討が要請され「どの様な学生を育てるか」が重要な課題となり、文部省や多くの大学でそれぞれの改革が現在真剣に模索されている。

本資料採集構想検討委員会でも2年前からこの課題について、学外者への調査を含めた検討を行う方向で話し合ってきた。

その結果、高等専門学校は産業界からの要請に基づいて設置された教育機関であり、産業界からどのような要請があるかを先ず知る必要があると考えるに至った。

そこで、既に行われた高等技術フォーラム、教官研究会、その他の資料を分析し「高専はどの様な学生を育てるか」について、以下にまとめた。

要 約

まとめた資料の内容を要約すれば、次のようになると思われる。

- (1) 高専に求められているのは、いわゆる研究開発型の“研究者”ではなく、物を実際に前にして創意工夫のできるエンジニアであるということ。
- (2) 物づくり、実験・実習・工作等を主体とした教育は、大学では出来づらいうが高専では実現できる余地が十分であると期待されていること。
- (3) 従来のオーソドックスな教育方法の枠組みから脱却し、どの様に学生を育てるかを、高専側にも「創造的」に工夫して欲しいということ。
- (4) これからの激しい国際競争に我が国が生きていけるかどうかは偏に製造業部門の技術者の活躍にかかっている、という切実な要請が産業界にあるということ。

参考にした資料

- ・高等技術教育フォーラム'96（総合報告）、1996年
- ・高等技術教育フォーラム'97（総合報告）、1997年

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(3)</p> <p>職業家型の人、大きな目的意識・志を持った技術者</p> <p>6 グローバルな視点・視野を持った技術者。</p> <p>7 人・自然・社会とのつながりにも即心を強く持ち、美的センスを持ち、芸術、哲学を愛するよう広がる物を見る目を持った技術者。</p> <p>8 複雑な事柄を分析し、論理的に整理できる能力を持った技術者。</p> <p>9 プレゼンテーションの能力を持った技術者。</p> <p>10 現勢で指導経験の出来る能力を持った技術者。</p> <p>3 高専卒業生の人物像について</p> <p>1 高専卒業生は優秀な技術者になる人が多いが、30代に履歴にならなないかと言われたときに、どのような経歴をやらねば良いかと言き返して来る人が多い。そのうち人事管理をしなければならぬ段階で後ずさりを始め、自分の一番興味だった世界へと閉じこもり傾向があるようである。</p> <p>一代の間には何回か変身する必要があるが、そのようなときに職務でない学生に育てる必要があるであろう。</p> <p>2 これからの時代は、人間の個性性、むしろ個性的で多面的な能力が要求される時代。協働性とともに、研究遂行上での判断力や問題点を把握する力のあることが、非常に重用される。そのため、これからの教育は体系的に専門的知識を教授することだけでなく、人間としての個性、すなわち判断力や問題点を把握する能力を養うことが必要である。</p> <p>4 高専の教育方針に関するもの</p> <p>1 高専は産業界のために存在する機関であることと踏まえ、産業界からの要請を伺いながら技術教育を模索すべきである。</p> <p>2 高専は、早期教育であるが、短期教育ではない。</p> <p>3 実務経験による大学院入学資格などの制度化により、将来的にはより高度な教育や資格はいつまでも得られるようになるであろう。高専から大学院入学生は増えはいるが、将来も60%以上の学生が就職するであろう。従って、就職する学生が産業界で十分活躍できるような技術者教育をするのが高専教育の使命と考える。</p> <p>4 技術者の中で、萌芽的研究を行う基礎研究者、大型プロジェクトに従事する解析型技術者等には、主として専門に特化した大学院卒業生が当てられるであろう。しかし、一つの創造を実現するためには、それを取り巻く多くの関係が必要であり、産業界が革新的にも革新的にも最も必要とするのは、ノウハウの延長上で開発等に従事する実践的な総合型開発技術者、あるいは生産技術担当技術者等と思われる。</p> <p>5 優れた人材の育成は、今後とも高専ならびに大学学部が担当すると思われる。</p> <p>(1) 大学工学部とは感性の異なる実践的開発技術者を育てること<br/>(これまで産業界で高専卒業生が評価されてきたのはその様な資質。完成教育とは、ある教育目標に対して教育課程が完結していることで、高専は技術者の完成教育を目指すことが望まれる。)</p> | <p>(4)</p> <p>2) 教育・研究職を希望する優秀な人材を大学院に送り出すこと。<br/>(現在の大学院編入増加の状況から見て、高専の教育目標に新しく加えるべきことと考える。)</p> <p>3) 地域に密着した地域協力 (リフレクティブ教育、地域人材の育成など)。</p> <p>4) 海外協力<br/>( JICA 一文部省一関発途上国の技術者教育機関の設立への協力依頼一関専協の流れに沿った協力、留学生の受け入れ。 )</p> <p>6 卒業生の進路は非常に多様化し、社会の急激な変化に対応できる学生を育てて行くためにも、一つの方向だけで、一つのベクトルだけで教育を行うのは大いに問題がある。また、従来の体系的カリキュラムによる教育は、学生にとって受け身の姿勢で教育を受けているということである。卒業後自分で勉強しなければならぬ状況下におかれたい、そのような能力を育てることが必要である。つまり、非常によい教育機関が必ずしも (自主的に) 判断できる学生を育てているのではないといえる (意味で) 良い教育機関ではない。</p> <p>7 実践的技術者の育成をどのようにしたらよいか。<br/>現在アメリカでは大規模な工学教育改革が行われており、その目玉の一つが逆転教育。つまり、従来の、数学、物理学、化学等基礎教育の上に専門教育を積み上げるやり方では、学生にとって目的が不明確で、観念的な基礎教育の段階で工学への関心を失い、脱落する学生が多くなってきている。そこで、入学直後にグループテーマを渡し、創造性を養うと共に物に触れ、物を分解し、物を作る機会を増やす教育に転換しつつある。</p> <p>これは高専創設時に意図された教育である。しかし最近では実験・実習の時間が減っていく傾向があり、高専教育にとって危険な兆候と見なすべきと思われる。</p> <p>8 社会の要請とのミスマッチの可能性：<br/>米国では十数年前には若手不足で不足であった。4年生大学など看護師養成学校を輩出したが、現在では看護師が過剰に足り、失業者が増えている。<br/>科学技術分野においても、急激な進展により社会が必要としないことが生じ得る。教育されたものが社会的に必要としないという教育がなされる。このような流動的な社会では、一生を通じて絶えず再教育を行う必要がある。しかし、高専に成るほどの強さは困難になる。そこで、これからは従来のような企業内教育ではなく、高等教育機関が中心となり再教育を行うとともに、年令の不利益を克服する教育や訓練の手法の研究も大切になる。</p> <p>9 国際的に認められた基準による、資格の取得が要求されている。<br/>高専も教育方法を根本的に見直し、それに対応できるシステムと質の向上を図る必要がある。</p> <p>技術者の国際資格例<br/>米国：プロフェッショナルエンジニアリング、<br/>英国：チャーターエンジニア、<br/>ドイツ：デュロームインク、<br/>EC 全体共通資格：ユーロインク</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(出典 明日を拓く指標第2号)

(6)

- の機会も取り入れる。
- 23 グループワークの機会を作り、企画力、組織力の能力の養成を図る。
  - 24 研究発表の場を積極的に設け、プレゼンテーションの能力の養成を図る。(近隣地区の高等共同の発表会なども実施したかどうか)
  - 25 課外活動等により人間関係の醸成、協働性、指導性を養う。
  - 26 産学連携を主軸とし、企業からの実践的指導、また5年間一貫教育の利点を生かして学生の企業内長期研修などにより、実践的指導の技術者の養成を。
  - 27 物づくり(製造業)は工学部系とは異なり、技能と技術の蓄積およびその伝承が重要。(その伝承技能は大学では切り捨てられつつあるので。)1.高専1専門で、特産品の企業内長期研修などにより、実践的指導の技術者の養成を。
  - 28 学際社会、社会有用型社会が求められる現実をもちえ、高専は大学に追随するな。産業界の基礎を支える人材育成機関としての役割は大学に譲り、起業家の養成教育を積極的にに行い、高専を能動的エンジニア育成機関として位置づける。
  - 29 何か好きな専門あるいは取り附を、5年間の教育期間で備え付けるようにして欲しい。
  - 30 起業家を育成するカリキュラム。(経済=資金調達・運営、法律=特許法などを含む)の設置を。
  - 31 起業家を目指す卒業生(専業化)の実態を。(低学年生に対しては、勉学目標を明確化する波及効果も期待できる)
  - 32 教官自身が起業家の意識と情報と、市場性・経済性等を考察する総合力を持つて、卒業生と一緒に事業化を目指す方向で取り組んで欲しい。
  - 33 教育の成否の大半は、制度・施設・環境等よりも、教官の意識と志、情熱と意欲にかかっている。意欲的教官を育て、熱意をもって取り組める環境作りをして欲しい。
  - 34 複数校が協力し合い、専門分野・真分野の特別講師の招聘、先輩社会人の臨時講義等の企画。
  - 35 社会との共同研究の拡大を。
  - 36 英語の力が強い。技術の世界では英語は万国共通語でありコミュニケーションの手段として欠かせない。英会話で日常生活が出来る程度の教育を期待したい。英語は論理的思考するための因子にもなり得るので、重要視して欲しい。
  - 37 技術文献を英語で月1程度の割合で読ませる。英検2級以上、TOEIC 550点以上を目指すカリキュラムを設ける。
  - 38 (語学力は大切だが、しかし社会に出てから独学するツールは多くあるので、それほど深刻に考えなくてもいい、という意見もあった。)
  - 39 高専から大学への進学率の増加は問題がある。(高専はややむしろエンジニア養成教育機関であること、大学側もそのプログラムを控えたことを評価し他学生に良い刺激を与えることを期待しているから編入を行うのであり、そうでない高専卒者は不要である。)

以上

(6)

- 5 高専教育についての(産業界からの)提言・要求など
  - 1 (大学での) 研究開発とは異なる資質・心意気の養成をして欲しい。
  - 2 5年間一貫教育の利点を生かし、幅広い選択肢を提供し、個の能力を伸ばす工夫をして欲しい。
  - 3 教育目標は、実社会に出て必要となる実践的能力を念頭に置いて作ると良い。
  - 4 工業生産技術者(物づくり技術、現場作業者の指導・統率)の育成を目標にして欲しい。
  - 5 (正解を求めないのでなく、現実の工業のように) 試行錯誤や模索過程を重要視した授業ができいか工夫をして欲しい。
  - 6 理論偏重でなく、より実践的な教育を、特に実験の重視を。
  - 7 トラブルに対応できる能力(分析・判断力)の育成とそれを楽しめる資質の養成できる機会を設ける。(ログコン、実験等)
  - 8 現場技術、物造り技術を徹底指導する。
  - 9 学力すなわち点数という考え方を改める。
  - 10 入学試験の選抜方法を工夫し、強い目的意識を持った人、物造りに興味を持っていて人のみ入学させるようにする。
  - 11 入学後は個人の夢を潰さないように、個人の意思を調査しそれに合ったカリキュラムを設ける。
  - 12 入学後にも専門分野の選択・変更を可能にする。
  - 13 最小限の必修科目と最大限の選択科目の実施。選択科目の枠はめは種やかにする。
  - 14 広い専門知識でなく活用可能なレベルの専門知識が有用であるため、数学・物理を含めた専門基礎科目に重点を置き、一般的専門科目は概論的なものに加えるに留め、精神的余剰を与えることで能動的学習の実現を図る。
  - 15 適度な詰め込み教育や知識偏重教育により、柔軟で夢と情熱を持った技術者となる道を閉ざさないように。
  - 16 「朝登・工場」とは、(1)対象に興味を持ち、対象を良く知る(2)ニーズを肌で感じて、「何とかしなければいけない」と思うことから、自然に生まれる。これに沿った教育方法の実現を。特に高専生は「何とかしなければ」という自発性・積極性が欠けているので。
  - 17 教育者、指導者ができることは「考えることの出来る方法の伝授」しかない。(その後は学生の責任)。自発的行為を養うという事であり、その方法の工夫・研究を。高専卒業生の基礎学力は不十分。しかし幅広い知識が必要なのではなく、基本的事項を深く精身に身につけることが要請される。高専の持っている現在の詰め込み教育は(浅い知識で)社会では通用しない。
  - 19 復習等で調べれば済む事項は広く浅く済ませ、その使い方・調べ方を中心の授業に。
  - 20 自分で調べさせる習慣、考える習慣、主張する習慣をつけさせるよう授業等を工夫する。
  - 21 定期試験では、教科書・資料等の持ち込みを許すなどし、知識確認型ではなく調べさせることを重視するが良い。
  - 22 実験では目的と意義を明確化させ、実験方法も学生も自ら工夫させると良い。討論



観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

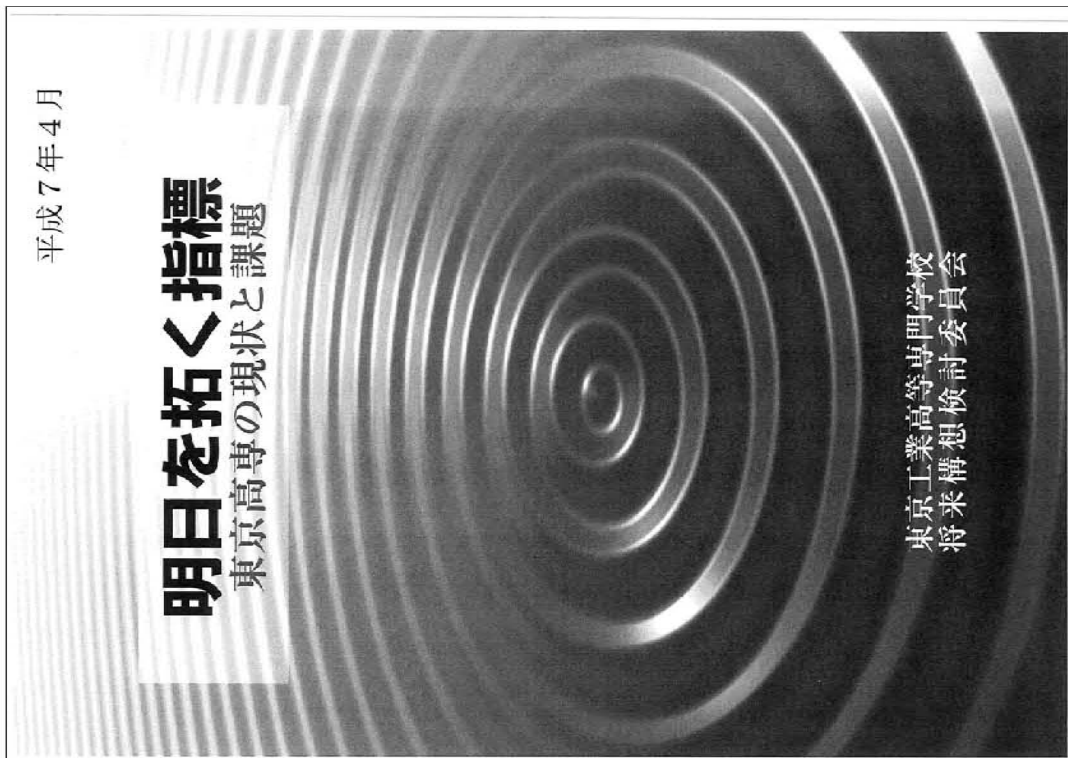
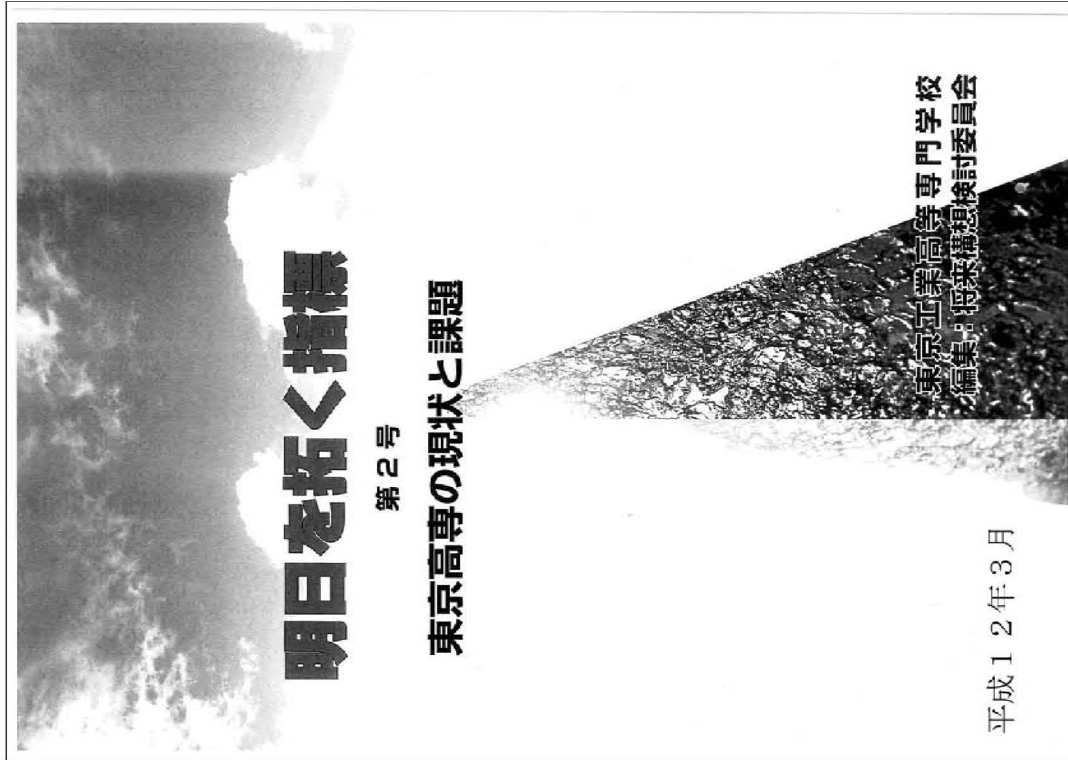
本校では、学校教育法第69条の3に定められた総合的な自己点検・評価を実施し、報告書として公表している。現在までに公表した報告書は、「明日を拓く指標 H7年4月」「明日を拓く指標第2号 H12年3月」「東京工業高等専門学校参与会報告書(第1回・第2回) H15年1月」「東京工業高等専門学校参与会報告書(第3回) H16年7月」「東京工業高等専門学校参与会報告書(第4回) H17年10月」の5冊である（資料11-3-①-1）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、自己点検・評価報告書として、「明日を拓く指標 H7年4月」「明日を拓く指標第2号 H12年3月」「東京工業高等専門学校参与会報告書(第1回・第2回) H15年1月」「東京工業高等専門学校参与会報告書(第3回) H16年7月」「東京工業高等専門学校参与会報告書(第4回) H17年10月」の5冊を発行し公表している。

以上により、自己点検・評価が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されている。

資料11-3-①-1



(出典 明日を拓く指標・参与会報告)

資料11-3-①-1

東京工業高等専門学校  
参与会報告書

[第3回]

平成16年7月9日(金)

東京工業高等専門学校

東京工業高等専門学校  
参与会報告書

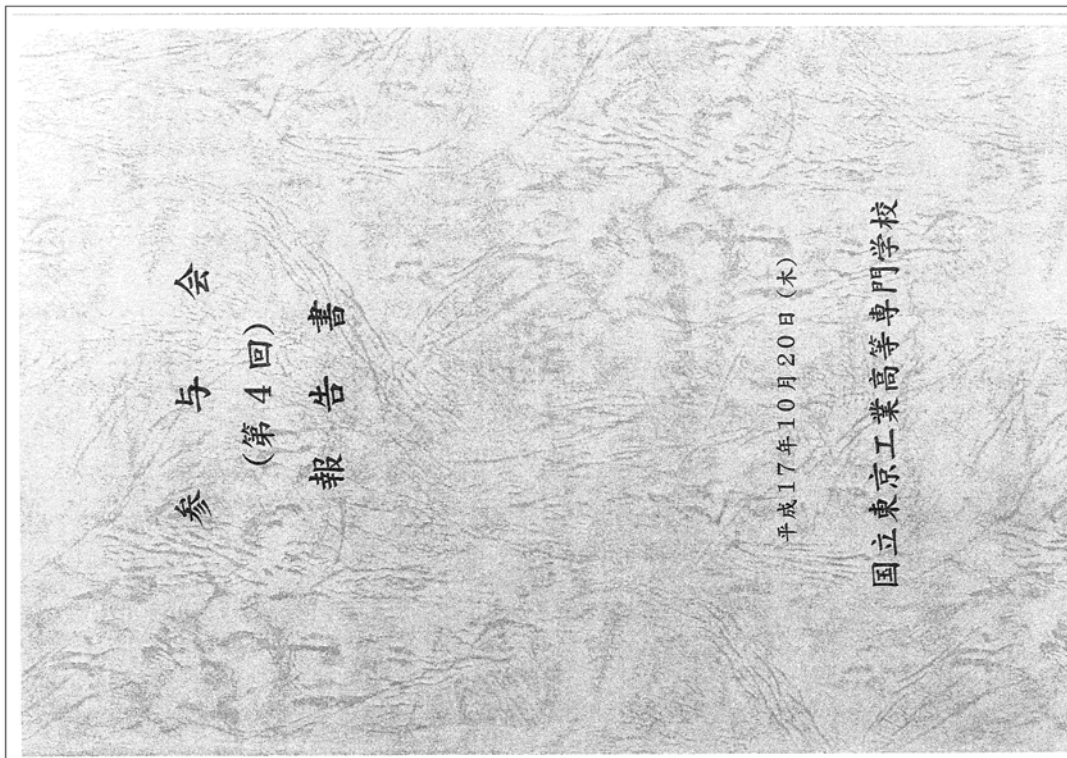
[第1回・第2回]

第1回 平成13年6月18日(月)  
第2回 平成14年6月18日(火)

東京工業高等専門学校

(出典 明日を拓く指標・参与会報告)

資料11-3-①-1



(出典 明日を拓く指標・参加会報告)

観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

本校では、評価結果は報告書としてまとめられ公表されると共に（前掲の資料11-3-①-1）、教育研究会で報告されることによりフィードバックされる。その結果は、議題に応じて各種の委員会で審議され、改善のための企画立案がなされるシステムになっている（前掲の資料11-1-①-2）。このシステムが機能した例として、「中学校卒業段階で専門学科を選ぶのは無理がある。」という参与会における中学校校長の提言・中学校訪問時の中学校教諭の意見を教育委員会にフィードバックし（資料11-3-②-1）、基礎教育委員会で「くくり相当入試の制度」を企画立案した例が挙げられる（資料11-3-②-2）。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、評価結果は報告書としてまとめられ公表されることにより、また、教育研究会で報告されることによりフィードバックされる。その結果は、議題に応じて各種の委員会で審議され、改善のための企画立案がなされるシステムになっている。このシステムが機能した例として、基礎教育委員会で「くくり相当入試の制度」を企画立案した例が挙げられる。

以上により、評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されている。

資料11-3-②-1

## — 第1回参加会(平成13年6月18日開催)報告書 抜粋 —

## 2. 参加からの助言・意見

- ・高専は大学同様、生き残りをかけた競争意識が重要。東京高専のアイデンティティ、他高等教育機関との棲み分けを明確にし、世の中への広報・宣伝が最重要。
- ・文部科学省の方針の様だが、専攻科の定員20名はいかにも少ない。
- ・大学進学率が高くなった現状で、中学校・中学生・保護者の早期技術教育に対する理解度は低い。優秀な中学生は、優れた4年制大学を狙っている。工業高校には工業系をやりたいから入る生徒は少ない。易しいから入るが本音。15才からの工業系の細分化された学科選択は難しい。町田工業高校では、学科別募集を廃止し、入学後学科志望を決められる様にしてから、評判が良くなった。
- ・高専の知名度や高専制度の理解度は低い。電気工学と電子工学の区別は理解の範囲を越えている。入学時に学科選択をする募集の仕方の問題がある。大学編入学等についてもっとPRする必要がある。
- ・工学系、技術系の卒業生は一般に視野が狭いといわれている。教養教育、全人格教育は重要であり、学校として十分に力を注ぐべきである。

## 3. 東京高専が検討すべき課題

- \*高等教育機関としての運営について
    - ・生き残りをかけた競争意識を持って学校運営に取り組み、教育・研究活動へ反映させる。
  - \*東京高専のアイデンティティの確立とPRについて
    - ・東京高専のアイデンティティと他高等教育機関との棲み分けを明確にし、世の中へ積極的にPRする。
    - ・中学校・中学生・中学生の保護者へ早期技術教育の意義・利点等に対する理解を深める努力をする。大学編入学等についてもっとPRする。
  - \*入試について
    - ・志願時に学科選択するのは中学生にとっては無理があり、募集の仕方、入試選抜方法及びクラス分けを工夫する。
  - \*教育理念・教養教育について
    - ・工学系、技術系の卒業生は一般に視野が狭いといわれており、特に成長期の学生を教育する高専では、教養教育、全人格教育に十分な力を注ぎ、グローバル化、国際化の社会における高専の在り方を意識して、教育方法を改善する。
- 註) 4年制学部では、専門にはいるための基礎教育として専門基礎教育を、大学院博士前期課程(修士課程)では、専門の基礎として基礎専門教育を、大学院博士後期課程で専門教育を行うのが一般的である。
- 従来、「高専5年間で大学卒と同等以上の実力を付ける」ことが高専の長所とされていたが、現実的な目標設定の見直しが必要。
- \*人材育成について
    - ・専攻科構想とも関係し、人材育成について、企業と綿密に打ち合わせることを心掛ける。

(出典 参加会報告書)

平成15年度第3回教育委員会記録

日時 平成15年7月24日(木) 16:40~18:35  
 場所 学生課会議室  
 出席者 三谷、瀧、荒木、木村、松井、大塚、鈴木(兼)、高橋(三)、教務主事、佐藤企画・評議室長、青木、学生課長、学務専門員

【配付資料】

1. 「振り入試」に関する一般科目合同案
2. ぐくり入試に関する開講一機組工学科一
3. 学生の学習意欲・基礎学力向上のためのプロジェクト設置に関連して(提案)  
 -電子工学科・物理科-
4. 平成15年度・新入生の相談室員学会の結果について
5. 教育理念・教育目標の提示
6. JABEE受審対応学年実行表
7. 企画・評議室で第2、3学年に実施した新入生募集方法に関するアンケート調査結果
8. ぐくり入試に関する意見-情報工学科-

議事に先立ち三谷委員長から今回は企画・評議室からも出席いただいた旨報告があった。

【議事】

1. 振り入試実施に向けて  
 1) 湖副委員長から、電子工学科と物置学教室による「専任教員の振り入試を視野に入れた新しい教育員の試行提案-1」についてパワーポイントによる説明が行われた。教育委員会としては、低学年教育を強化するための試行案として、16年度における集積を認めることとし、校務執行会議および運営会議に諮ることとした。  
 2) 佐藤室長から、配付資料に基づき実施したアンケート結果について説明が行われた。特に振り入試を検討する英機ともなった参予会から指摘された低年齢での専門学科の特定についてみると、高専入学者は明確な意志をもって学科を決めてきていることが伺われ、この傾向は他の高専においても同様で高専に入学者の特質な傾向が見られる。一方、20~25%が選学していく現状もあり、入学した学科に不満を持っている学生も少なからずいるので、このことにも対応していく必要がある。  
 3) G、M、J各学科から提出された「振り入試」に関する提案内容について配付資料に基づき説明が行われた。  
 4) 以上の報告・説明後、種々意見交換を行い、従来の3期の内容を学習せずに入学してくる学生の低学力を補完する教育システムを構築するためには組織的対応が必要であり、担任指導のあり方や混合学級・転科制提案を含め「振り入試」について次回の委員会で総合的に検討することとした。また、相当数の学生が入学時に学科を特定していることに配慮し、振り入試を行うにしても、コース毎の小さな振りによる選抜が望ましいとの意見が多数を占めた。

平成15年度第5回教育委員会記録

日時 平成15年9月29日(月) 14:30~16:25  
 場所 学生課会議室  
 出席者 三谷、瀧、荒木、木村、松井、大塚、鈴木(兼)、高橋(三)、教務主事、藤戸、松林、学生課長、学務専門員

【配付資料】

1. 入試方法及び低学年教育の変更についてのアンケート
2. 平成16年度電子工学科1年生・導入教育プロジェクトチーム(仮称)創設案
3. 低学年時教養教育のあり方に関するプロジェクトチーム設置規程(案)
4. 第1学年における履修単位数
5. JABEE審査員養成研修会のご案内
6. 振り入試、共通教育実施のためのタイムテーブル
7. 四草協 JABEE 受審対応研究プロジェクトプログラム

【議事】

三谷委員長から、校務執行会議からの依頼により実施した配付資料1のアンケート結果及び資料2・3についての説明が行われた後、資料2については電子工学科でのプロジェクトチームに一任し運営教育委員会へ報告願うこととした。資料3については今後教育委員会で検討していくこととした。

1. 振り入試実施に向けて

三谷委員長から、配布資料のとおり振り入試実施に向けてのタイムテーブルから提案すると遅くとも来月2月までには振り入試の骨格部分を決定する必要がある旨の説明があった。

2. 学科の名称について

入口である受験生と出口となる企業、双方にとって分りやすい学科名とする方向性で今後さらに検討いただくこととした。  
 (委員からの提案例) システムデザイン工学科、創造設計工学科、先進基礎工学科  
 また、現行の5学科に代わる名称として「専攻」を採用することが了承された。  
 なお、将来的には電気、電子の在り方について検討することが確認された。

3. 教育方法について

三谷委員長から、高専年になつた時の学力低下を避けるには、中学校における学力不足を補完できる体制づくりを構築する必要がある、そのためには電子工学科でのプロジェクトチームによる先行事例を参考としつつ低学年教育における複数担任制による教育を導入していきたい旨説明があった。  
 また、1年における修得単位数の3.5単位への変更とあわせ専門6単位、一般科目2.9単位の妥当性についても検討いただくこととした。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>平成15年度第6回教育委員会記録</p> <p>日時 平成15年12月3日(水)13:30~15:35</p> <p>場所 学生課会議室</p> <p>出席者 三谷、前、荒木、松井、大塚、鈴木(徳)、教務主事、船戸、学務専門員<br/>欠席:木村、高橋(三)、学生課長</p> <p>【配付資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『一括入試』及び『一大学科・コース制』導入について</li> <li>2. 高等専門学校設置基準上の教員の数</li> <li>3. 入学後の学習体験を通じ自己の能力・適性を見極めて学科を選択することについて</li> <li>4. 非常勤講師の授業時間数等(時間数の多い高専の順)</li> <li>5. 非常勤講師担当時間数一覧</li> <li>6. 教官別担当時間数一覧</li> <li>7. 東京高等専門学校英語教育システム</li> <li>8. 実質的な授業担当付加率の算定について</li> <li>9. 入試方法及び低学年教育の変更についてのアンケート結果</li> </ol> <p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一括入試フレームワークについて<br/>三谷委員長から、一括入試実施に向け文部科学省専門教育課・高専機構本部等への説明を予定している。ついては配付資料1のような説明資料を添えているので検討願いたい旨説明があった。また、一括入試実施に際し予想される問題点でもある資料2の教員数について及び高等教育局の見解として一括入試を現状で考慮できるのは資料3にある案の1である旨の補足説明があった。種々意見交換を行った結果、教育委員会としては、案の1、案の2の両案を視野に入れ検討を続けるが、当面は資料1の案の2(従来どおり学科での受験ではあるが、共通教育期間中は総合学級とし、共通教育後の転科を可能とする。)でスタートさせ機構本部等からの意見聴取や情報収集を行いながらより良いプランを策定していくこととした。<br/>①共通教育期間である1年生の時間数は共通専門科目(創造実験、情報行か等)を含めMax3.5時間とすることが確認された。<br/>②各専門科目においては、現1年生で実施している科目の見直しを行い、2~5年生のカリキュラムを勘定いただくこととした。また、今後の本校のカリキュラム設計においては、「工学基礎」の修得を本校の方針とした旨の提案があり、了承された。<br/>③「一括入試」の具体的な選抜方法(推薦、学力)については、今後検討することとした。<br/>④2年次での配属方法及び配属時期については、(案の1)、(案の2)の両方について検討することとした。<br/>なお、転科希望申請等の手続きについても併せて検討することとした。<br/>⑤共通教育期間(低学年)における専任教員配置については担任を1クラス2~3人とし、今後具体的に数を決めることとした。<br/>⑥低学年教育の充実のために種々な工夫が必要であるが、16年度から実施可能なことについては実施していくこととした。</li> </ol> | <p>平成15年度第8回教育委員会記録</p> <p>日時 平成16年1月29日(木)16:45~18:00</p> <p>場所 第1集会室</p> <p>出席者 三谷、前、荒木、松井、大塚、鈴木(徳)、高橋(三)、正木、船戸、岩崎、斎藤、青木、市村、学生課長(欠席:木村)</p> <p>【配付資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『一括入試』・『一大学科・コース制』導入についての現在までの確定事項</li> <li>2. 実質的な授業担当付加率の算定について 鈴木雅人委員提案 清委員提案</li> <li>3. 平成16年度非常勤講師任用予定者数</li> <li>4. 学科別非常勤講師数</li> </ol> <p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年生共通教育について<br/>三谷委員長から、配付資料1に基づき委員会での確定事項について説明・再確認が行われた。<br/>1) 中学校等への広報としては1年次の共通教育及び総合学級について説明を行うこと<br/>2) ため、募集要項についても発行時期を遅らせることとした。<br/>2) 基礎学力講習(4単位)については、科目名を「基礎工学I、II」(各2単位)とする。<br/>3) 数学、英語、英語、国語については、専門科目との融合をはかる観点から、それぞれ検討するWG(各科目教官+専門科目教官)をつくり基本的な案(モデル案)を策定いただくこととした。なお、入選については委員長に一任いただくこととし、教員ではシラバスが完成できるタイムスケジュールを進めていただきたい旨の依頼があった。また、「ものづくり事例」(物理:物理科、化学:物理工学科を含む)については各学科から相応しい実験を2テーマ程4月末までに提案いただくこととした。<br/>4) 1年担任の人数については、実務担当2名(担任、副担任)及び学科長を副担任とし、担任会開時は学科長も出席し3人で責任を分かち合うこととする。<br/>5) 授業中の指導(携帯電話、授業態度)については16年度から実施することが運営会議で決定された旨報告があった。</li> <li>2. 応用物理の取組について<br/>応用数学・応用物理については、応用数学(定員2)、応用物理(定員1)として機械工学科に定員がついているが、運用上一般科目に依頼していたことを確認した。<br/>3. 非常勤講師担当時間数の見直しについて<br/>配付資料3にあるとおり平成16年度の非常勤講師時間は6,000時間であり、これを全国平均4,700時間になるよう来年度以降も各学科で有意検討願うこととした。<br/>4. 一般科担当教員、専門科目担当教員の担当時間数について<br/>校長から企画室と共に検討依頼があった「専任教員が担当する時間数の妥当性について」配付資料2に基づき鈴木(徳)委員、副委員長から説明があった。</li> </ol> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(出典 教育委員会議事録)



## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

・長年にわたり自己点検・評価書(名称は、「明日を拓く指標」「参与会報告」など)が発行されており、外部有識者の提言や授業アンケートの分析が記載されている。

(改善を要する点)

## (3) 基準11の自己評価の概要

本校では、校長・主事・各種委員会の役割と責任が規則により明確に定められており、その役割は、学校教育法施行規則第72条に適合するものである。意思決定プロセスは、各種委員会で企画立案した事項について、運営会議の審議を経て校務執行会議で決定し、校長のリーダーシップにより意思決定が行われる体制である。

以上により、学校の目的を達成するために、校長・各主事・委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっている。

本校では、規則により、管理運営に関する委員会と事務組織の役割分担が定められている。基準1から基準10に示したように、委員会と事務組織の活動により、本校は目的を達成するために効果的に運営されている。

以上により、管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。

管理運営の諸規定は適切に定められており、規則集として整備されている。以上により、管理運営の諸規定が整備されている。

本校では、自己点検・評価報告書として、「明日を拓く指標 H7年4月」「明日を拓く指標第2号 H12年3月」「東京工業高等専門学校参与会報告書(第1回・第2回) H15年1月」「東京工業高等専門学校参与会報告書(第3回) H16年7月」「東京工業高等専門学校参与会報告書(第4回) H17年10月」の5冊を発行し公表している。

以上により、自己点検・評価が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されている。

本校では、評価結果は報告書としてまとめられ公表されることにより、また、教育研究会で報告されることによりフィードバックされる。その結果は、議題に応じて各種の委員会で審議され、改善のための企画立案がなされるシステムになっている。このシステムが機能した例として、基礎教育委員会で「くくり相当入試の制度」を企画立案した例が挙げられる。

以上により、評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されている。

